一般国道 313 号（倉吉関金道路）道路改良工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県倉吉市

石塚廃寺東遺跡
大鴨遺跡

第２分冊【本文編２】

２０２３

公益財団法人　鳥取県教育文化財団

目　　次

第２分冊【本文編２】

令和３年度調査・自然科学分析・総括編

第４章　大鴨遺跡の調査成果

第５節　４区の調査……（小口・八峠）383
第１項　概要と基本層序……（小口）383
第２項　第１遺構面の調査（中世以降の遺構と遺物）……（小口・八峠）391
（１）掘立柱建物……（八峠）391
（２）柱穴・ピット……（八峠）403
（３）土坑……（八峠）405
（４）溝……（小口・八峠）406
（５）耕作溝……（小口・八峠）415
（６）田……（八峠）428
（７）足跡群……（八峠）432
第３項　第１遺構面の調査（古代の遺構と遺物）……（小口・八峠）443
（１）竪穴建物……（小口・八峠）443
（２）掘立柱建物……（小口）449
（３）道路……（小口・八峠）464
（４）土坑……（小口）495
（５）溝……（小口）499
（６）柱穴・ピット……（小口）501
（７）流路……（小口）507
第４項　第２遺構面の調査（古墳時代以前の遺構と遺物）……（小口・八峠）514
（１）竪穴建物……（小口）514
（２）掘立柱建物……（小口）536
（３）溝……（小口）541
（４）柱穴……（小口）542
（５）落とし穴……（八峠）542
第５項　調査区内出土遺物……（八峠）544
第６節　鍛冶関連遺物……（西川）554
第１項　出土傾向と特徴……554
第２項　出土遺物の概要……556
第７節　遺構計測表・遺物観察表……557

第５章　自然科学分析

第１節　石塚廃寺東遺跡の自然科学分析……（(株)古環境研究所）607
第１項　石塚廃寺東遺跡Ｐ４～７区の放射性炭素年代測定……607
第２項　石塚廃寺東遺跡Ｐ１～７区の植物珪酸体分析……610
第３項　石塚廃寺東遺跡Ｐ４～７区の花粉分析……616
第２節　石塚廃寺東遺跡Ｐ２・３・５・６区出土漆製品の塗膜構造調査……
（(株)吉田生物研究所）623
第３節　大鴨遺跡１～３区の自然科学分析……（(株)古環境研究所）630
第１項　大鴨遺跡１～３区の放射性炭素年代測定……630
第２項　大鴨遺跡２・３区の植物珪酸体分析……634
第３項　大鴨遺跡３区の花粉分析……638
第４項　大鴨遺跡２区の珪藻分析……642
第４節　大鴨遺跡４区出土漆製品の塗膜構造調査……（(株)吉田生物研究所）645
第５節　大鴨遺跡３・４区の自然科学分析……（(株)古環境研究所）648
第１項　大鴨遺跡３・４区の放射性炭素年代測定……648
第２項　大鴨遺跡４区の植物珪酸体分析……651
第３項　大鴨遺跡４区の花粉分析……657
第４項　大鴨遺跡４区の珪藻分析……662
第６節　石塚廃寺東遺跡Ｐ２～４区の放射性炭素年代測定……（(株)加速器分析研究所）667

第６章　総括

第１節　大鴨遺跡出土の土製支脚について……（君嶋）671
第２節　石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡出土瓦について……（西川）679
第３節　木製祭祀具と寺院による水辺の祭祀……（八峠）687
第４節　大鴨遺跡の道路遺構について……（小口）697
第５節　中世集落と墓……（八峠）707
第６節　総括……（小口）717

報告書抄録

第１分冊【本文編１】

令和２年度調査編

巻頭図版
序、例言、凡例

第１章　調査の経緯と経過

第１節　調査に至る経緯……（小口）１
第２節　調査の経過……（小口）２
　第１項　令和２年度……２
　第２項　令和３年度……５
　第３項　令和４年度……５
第３節　調査体制……（小口）７
第４節　調査の方法……（小口）８
　第１項　調査地の地区割……８
　第２項　発掘調査と記録の対象……13
　第３項　出土遺物の整理……14

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の立地と地理的環境……（西川）15
第２節　歴史的環境……（西川）17

第３章　石塚廃寺東遺跡の調査成果

第１節　概要……（小口）23
第２節　Ｐ１区の調査……（西川）26
　第１項　概要と基本層序……26
　第２項　検出した遺構と遺物……30
第３節　Ｐ２区の調査……（西川）35
　第１項　概要と基本層序……35
　第２項　検出した遺構と遺物……39
第４節　Ｐ３区の調査……（西川）48
　第１項　概要と基本層序……48
　第２項　検出した遺構と遺物……53
第５節　Ｐ４区の調査……（小口）71
　第１項　概要と基本層序……71

第２項　検出した遺構と遺物…… 71
第６節　Ｐ５区の調査……（小口） 79
第１項　概要と基本層序…… 79
第２項　検出した遺構と遺物…… 79
第７節　Ｐ６区の調査……（小口） 87
第１項　概要と基本層序…… 87
第２項　検出した遺構と遺物…… 87
第８節　Ｐ７区の調査……（小口） 96
第１項　概要と基本層序…… 96
第２項　検出した遺構と遺物…… 96
第９節　Ｐ８区の調査……（小口）104
第１項　概要と基本層序……104
第２項　検出した遺構と遺物……104
第 10 節　鋳造関連遺物 ……（西川）110
第１項　出土傾向と特徴……110
第２項　出土遺物の概要……112
第 11 節　遺構計測表・遺物観察表 ……114

第４章　大鴨遺跡の調査成果

第１節　概要……（小口）124
第１項　調査区の概要……（小口）124
第２項　調査区と遺構の確認面……（八峠）124
第２節　１区の調査……（八峠）130
第１項　基本層序……130
第２項　第１遺構面の調査（中世の遺構と遺物）……134
第３項　第２遺構面の調査（古代・古墳時代以前の遺構と遺物）……174
第４項　調査区内出土遺物……190
第３節　２区の調査……（西川・八峠）193
第１項　概要と基本層序……（西川）193
第２項　第１遺構面の調査（古代以降の遺構と遺物）……（西川・八峠）200
第３項　第２遺構面の調査（古墳時代以前の遺構と遺物）……（西川）287
第４項　調査区内出土遺物……（西川）291
第４節　３区の調査……（小口）295
第１項　概要と基本層序……295
第２項　第１遺構面の調査（古代以降の遺構と遺物）……299
第３項　第２遺構面の調査（古墳時代以前の遺構と遺物）……368
第４項　調査区内出土遺物……377

挿図目次（第２分冊）

〈大鴨遺跡４区〉

第 311 図　北区東壁土層断面図（１）　384
第 312 図　北区東壁土層断面図（２）、土層断面位置図、土色注記（１）　385
第 313 図　南東区東壁土層断面図（１）　386
第 314 図　南東区東壁土層断面図（２）、土層断面位置図、土色注記（２）　387
第 315 図　南区西壁土層断面図　388
第 316 図　北区西壁土層断面図（１）、土層断面位置図、土色注記（３）　389
第 317 図　北区西壁土層断面図（２）、土層断面位置図、土色注記（４）　390
第 318 図　第１遺構面（中世以降）全体図　392
第 319 図　掘立柱建物 23、掘立柱建物 23　342・343・348・349 柱穴　393
第 320 図　掘立柱建物 24　395
第 321 図　掘立柱建物 24　373 ～ 377 柱穴　396
第 322 図　掘立柱建物 24　378 ～ 380 柱穴　397
第 323 図　掘立柱建物 25、掘立柱建物 25　382・385・386 柱穴　399
第 324 図　掘立柱建物 25　381・387・388 柱穴　400
第 325 図　掘立柱建物 26、掘立柱建物 26　401・402・525 ～ 528 柱穴　402
第 326 図　359 柱穴、352・353・398 ピット、352・398 ピット出土遺物　404
第 327 図　327・600・635 土坑　405
第 328 図　１溝（１）　407
第 329 図　１溝（２）、１溝出土遺物（１）　408
第 330 図　１溝出土遺物（２）　409
第 331 図　３・297 溝、３溝出土銭貨　410
第 332 図　344・345 溝、345 溝出土石器　411
第 333 図　134・332 溝　413
第 334 図　389・524 溝、397 田、389 溝出土土器　414
第 335 図　耕作溝（北区西側）全体図　417
第 336 図　耕作溝群１　418
第 337 図　耕作溝群２（１）　419
第 338 図　耕作溝群２（２）　420
第 339 図　耕作溝群２（３）　421
第 340 図　耕作溝群３（１）　421
第 341 図　耕作溝群３（２）　422
第 342 図　耕作溝群４　422
第 343 図　耕作溝群５　423
第 344 図　耕作溝群６　424
第 345 図　耕作溝群７　425
第 346 図　耕作溝（北区東側・南区）　426
第 347 図　耕作溝群・耕作溝出土土器　427
第 348 図　田（南区）全体図　430
第 349 図　田素掘り小溝群　431
第 350 図　田土層断面図　433
第 351 図　田出土遺物　434
第 352 図　足跡群（北区）全体図　435
第 353 図　４・５足跡群　436
第 354 図　４・５足跡群拡大図　437
第 355 図　198・199 足跡群　438
第 356 図　260 足跡群　439
第 357 図　715 足跡群　440
第 358 図　716 足跡群（１）　441
第 359 図　716 足跡群（２）、717 ～ 719 足跡群　442
第 360 図　第１遺構面（古代）全体図　444
第 361 図　竪穴建物５（１）　445
第 362 図　竪穴建物５（２）　446
第 363 図　竪穴建物５出土遺物　447
第 364 図　竪穴建物６、竪穴建物６出土土器　448
第 365 図　掘立柱建物 17、掘立柱建物 17　207 ～ 209 柱穴、209 柱穴出土瓦　451
第 366 図　掘立柱建物 17　210 ～ 215 柱穴、214 柱穴出土瓦　452
第 367 図　掘立柱建物 18、掘立柱建物 18　39 ～ 41 柱穴　454
第 368 図　掘立柱建物 19、掘立柱建物 19　300 柱穴、300 柱穴出土土器　455
第 369 図　掘立柱建物 19　314・326 柱穴、314 柱穴出土土器　456
第 370 図　掘立柱建物 20　458
第 371 図　掘立柱建物 20　276・277・287・290 柱穴、287 柱穴出土土器　459
第 372 図　掘立柱建物 21、掘立柱建物 21　185 ～ 187 柱穴、186 柱穴出土土器　460
第 373 図　掘立柱建物 22　462
第 374 図　掘立柱建物 22　172・173・336 柱穴、173 柱穴出土土器　463
第 375 図　掘立柱建物 22　304・313 柱穴　464
第 376 図　322 道路　466
第 377 図　711 道路　467
第 378 図　708 道路　468
第 379 図　306 道路（１）　469
第 380 図　306 道路（２）　470
第 381 図　278 道路（１）、278 道路出土土器　471
第 382 図　278 道路（２）　472
第 383 図　278 道路（３）、278 道路出土鉄器　473
第 384 図　278 道路（４）　474
第 385 図　278 道路（５）　475
第 386 図　278 道路土層断面図　476
第 387 図　278・306・708 道路遺構変遷図　477
第 388 図　365・678・685・686 道路全体図　479
第 389 図　365 道路（１）　480
第 390 図　365 道路（２）　481
第 391 図　365 道路（３）　482
第 392 図　365 道路（４）　483
第 393 図　365 道路（５）・678 道路（１）・686 道路　484
第 394 図　365 道路（６）・678 道路（２）　485

第 395 図　365 道路（７）・678 道路（３）・685 道路（１）　486
第 396 図　365 道路（８）・678 道路（４）　487
第 397 図　365 道路（９）・685 道路（２）　488
第 398 図　365 道路縦土層断面図　490
第 399 図　365 道路　ベルト１～８土層断面図　491
第 400 図　365・678・685 道路土層断面図　492
第 401 図　365 道路出土土器　492
第 402 図　358・687 道路（１）、358 道路出土土器　493
第 403 図　358・687 道路（２）、358・687 道路土層断面図　494
第 404 図　74・75・80・109・140 土坑、80 土坑出土土器　496
第 405 図　175・234・265・291 土坑、250 ピット、175・265 土坑出土土器　498
第 406 図　８・30・31・77・334 溝、77 溝出土土器　500
第 407 図　44・52・61・110・118・121・319 柱穴　502
第 408 図　118 柱穴出土鉄器　503
第 409 図　７・21・26・42 ピット、42 ピット出土鉄器　505
第 410 図　92 ～ 94 ピット　506
第 411 図　柱穴・ピット出土土器　506
第 412 図　２流路　508
第 413 図　２流路土層断面図　509
第 414 図　２流路土色注記、２流路木器等出土状況図、２流路出土木器　510
第 415 図　１溝、２流路断面図　511
第 416 図　２流路出土石器　511
第 417 図　２流路出土遺物（１）　512
第 418 図　２流路出土遺物（２）　513
第 419 図　第２遺構面（古墳時代以前）全体図　515
第 420 図　竪穴建物３（１）　516
第 421 図　竪穴建物３（２）　517
第 422 図　竪穴建物３（３）　518
第 423 図　竪穴建物３　84・85・89・90・91・102 柱穴　519
第 424 図　竪穴建物３　108 柱穴、58・88・106 ピット、101 中央ピット　520
第 425 図　竪穴建物３遺構変遷図　521
第 426 図　竪穴建物３出土土器（１）　521
第 427 図　竪穴建物３出土土器（２）・石器　522
第 428 図　竪穴建物４（１）　525
第 429 図　竪穴建物４（２）　526
第 430 図　竪穴建物４（３）　527
第 431 図　竪穴建物４（４）　528
第 432 図　竪穴建物４（５）　529
第 433 図　竪穴建物４（６）　530
第 434 図　竪穴建物４　160 ～ 163 柱穴・220 溝　531
第 435 図　竪穴建物４　164 中央ピット・224 ピット　532
第 436 図　竪穴建物４遺構変遷図　532
第 437 図　竪穴建物４出土土器（１）　533
第 438 図　竪穴建物４出土土器（２）　534
第 439 図　竪穴建物４出土遺物　535
第 440 図　掘立柱建物 15　537
第 441 図　掘立柱建物 15　16・24・253・406 柱穴　538
第 442 図　掘立柱建物 16　539
第 443 図　掘立柱建物 16　19・20・23・25 柱穴　540
第 444 図　323・489・492 溝　541
第 445 図　148 柱穴、148 柱穴出土土器　542
第 446 図　603・607 落とし穴　543
第 447 図　包含層遺物出土分布図（北区）　544
第 448 図　包含層遺物出土分布図（南区・南東区）　545
第 449 図　Ⅰａ層・Ⅰｂ層出土遺物　548
第 450 図　２流路直上土出土遺物、Ⅱｂ層出土土器（１）　549
第 451 図　Ⅱｂ層出土土器（２）　550
第 452 図　Ⅱｂ層・Ⅱｂ'層・Ⅱｃ層・Ⅲａ層出土遺物　551
第 453 図　調査区内出土遺物（１）　552
第 454 図　調査区内出土遺物（２）　553

〈大鴨遺跡鍛冶関連〉

第 455 図　２区出土鍛冶関連遺物　555
第 456 図　３・４区出土鍛冶関連遺物　556

〈自然科学分析：石塚廃寺東遺跡〉

第 457 図　暦年較正結果　609
第 458 図　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果　612
第 459 図　花粉ダイアグラム　620
第 460 図　Ｐ２区出土 漆器椀 (W12) 内面　625
第 461 図　Ｐ２区出土 漆器椀 (W12) 外面文様部　625
第 462 図　Ｐ３区出土 漆器椀 (W17) 内面　626
第 463 図　Ｐ３区出土 漆器椀 (W17) 外面文様部　626
第 464 図　Ｐ３区出土 漆器椀 (W18) 内面　627
第 465 図　Ｐ３区出土 漆器椀 (W18) 外面（赤文未採取）　627
第 466 図　Ｐ５区出土 漆器椀 (W21) 内面　628
第 467 図　Ｐ５区出土 漆器椀 (W21) 外面文様部　628
第 468 図　Ｐ６区出土 漆器椀 (W27) 内面文様部　629
第 469 図　Ｐ６区出土 漆器椀 (W27) 外面文様部　629

〈自然科学分析：大鴨遺跡〉

第 470 図　暦年較正結果（１）　633
第 471 図　暦年較正結果（２）　634
第 472 図　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果　637
第 473 図　花粉ダイアグラム　640
第 474 図　２区 ２流路における主要珪藻ダイアグラム　644
第 475 図　４区出土 漆器椀 (W137) 内面　647
第 476 図　４区出土 漆器椀 (W137) 外面　647
第 477 図　暦年較正結果　650
第 478 図　４区（北区南壁）における植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果　654
第 479 図　４区（南東区東壁）における植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果　655
第 480 図　４区（北区南壁）における花粉ダイアグラム　661
第 481 図　４区（北区南壁）２流路における主要珪藻ダイアグラム　665

〈自然科学分析：石塚廃寺東遺跡〉

第 482 図　暦年較正年代グラフ　670

〈総括〉

第 483 図　土製支脚の分類模式図　671
第 484 図　鳥取県における土製支脚出土遺跡分布図　672
第 485 図　土製支脚の類例　674
第 486 図　石塚廃寺伽藍想定図　679
第 487 図　倉吉市教育委員会所蔵軒丸瓦　681
第 488 図　軒平瓦Ⅰ類瓦当復元図　685
第 489 図　軒平瓦Ⅳ類瓦当復元図　685
第 490 図　倉吉市教育委員会所蔵軒平瓦　685
第 491 図　周辺の状況　688
第 492 図　171 木製祭祀具集中部の拡大図と復元図　689
第 493 図　木製祭祀具・土器・瓦（一部）　691
第 494 図　祭祀具以外の木製品（一部）　692
第 495 図　大御堂廃寺　693
第 496 図　弥勒寺西遺跡　694
第 497 図　道路遺構配置図　698
第 498 図　波板状凹凸面を有する道路　700
第 499 図　波板状凹凸面道路・石敷道路模式図　701
第 500 図　石敷道路　703
第 501 図　条里地割復元図　705
第 502 図　大鴨遺跡　708
第 503 図　小鴨道祖神遺跡・山ノ下遺跡（1）　709
第 504 図　山ノ下遺跡（2）　710
第 505 図　掘立柱建物の規模　711
第 506 図　倉吉市内の土葬墓と火葬墓　713
第 507 図　倉吉市内の盛土墓と区画墓　715

挿表目次（第２分冊）

〈大鴨遺跡１～４区〉

第 25 表　鍛冶関連遺物観察表　554
第 26 表　竪穴建物　遺構計測表　557
第 27 表　竪穴建物１～３　遺構計測表　557
第 28 表　竪穴建物４～６　遺構計測表　558
第 29 表　掘立柱建物　遺構計測表　558
第 30 表　掘立柱建物１～５　遺構計測表　559
第 31 表　掘立柱建物６～９　遺構計測表　560
第 32 表　掘立柱建物 10（1）　遺構計測表　560
第 33 表　掘立柱建物 10（2）・11・12　遺構計測表　561
第 34 表　掘立柱建物 13・14　遺構計測表　562
第 35 表　掘立柱建物 15 ～ 22　遺構計測表　562
第 36 表　掘立柱建物 23 ～ 26　遺構計測表　563
第 37 表　掘立柱建物１～４　柱穴間距離計測表　563
第 38 表　掘立柱建物５～ 23　柱穴間距離計測表　564
第 39 表　掘立柱建物 24 ～ 26　柱穴間距離計測表　565
第 40 表　柵列　遺構計測表　565
第 41 表　柵列１～４　遺構計測表　565
第 42 表　柵列１～４　柱穴間距離計測表　565

〈大鴨遺跡１区〉

第 43 表　火葬墓　遺構計測表　566
第 44 表　溝・流路　遺構計測表　566
第 45 表　土坑　遺構計測表　566
第 46 表　柱穴・ピット　遺構計測表（※掲載遺構のみ）　566
第 47 表　道路　遺構計測表　566

〈大鴨遺跡２区〉

第 48 表　土坑　遺構計測表　567
第 49 表　溝・流路・構造物等　遺構計測表　567
第 50 表　段状遺構　遺構計測表　568
第 51 表　田　遺構計測表　568
第 52 表　落とし穴　遺構計測表　568
第 53 表　道路　遺構計測表　568
第 54 表　柱穴・ピット　遺構計測表（※掲載遺構のみ）　569

〈大鴨遺跡３区〉

第 55 表　土坑　遺構計測表　569
第 56 表　溝　遺構計測表　569
第 57 表　土器集中部　遺構計測表　570
第 58 表　道路　遺構計測表　570
第 59 表　柱穴・ピット　遺構計測表（※掲載遺構のみ）　570

〈大鴨遺跡４区〉

第 60 表　耕作溝　遺構計測表（1）　571
第 61 表　耕作溝　遺構計測表（2）　572
第 62 表　田　遺構計測表　572
第 63 表　足跡群　遺構計測表　573
第 64 表　溝・流路　遺構計測表　573
第 65 表　土坑　遺構計測表　573
第 66 表　道路　遺構計測表　574
第 67 表　落とし穴　遺構計測表　575
第 68 表　柱穴・ピット　遺構計測表（※掲載遺構のみ）　575

〈大鴨遺跡１～４区〉

第 69 表　土器観察表（1）　576
第 70 表　土器観察表（2）　577
第 71 表　土器観察表（3）　578
第 72 表　土器観察表（4）　579
第 73 表　土器観察表（5）　580
第 74 表　土器観察表（6）　581
第 75 表　土器観察表（7）　582
第 76 表　土器観察表（8）　583
第 77 表　土器観察表（9）　584
第 78 表　土器観察表（10）　585
第 79 表　土器観察表（11）　586
第 80 表　土器観察表（12）　587
第 81 表　土器観察表（13）　588

第 82 表　土器観察表（14）　589
第 83 表　土器観察表（15）　590
第 84 表　土器観察表（16）　591
第 85 表　土器観察表（17）　592
第 86 表　土器観察表（18）　593
第 87 表　土器観察表（19）　594
第 88 表　土器観察表（20）　595
第 89 表　土器観察表（21）　596
第 90 表　土器観察表（22）　597
第 91 表　土器観察表（23）　598
第 92 表　土器観察表（24）　599
第 93 表　土器観察表（25）　600
第 94 表　土製品観察表（１）　600
第 95 表　土製品観察表（２）　601
第 96 表　土製品観察表（３）　602
第 97 表　土製品観察表（４）　603
第 98 表　石器・石製品観察表　603
第 99 表　金属関連遺物観察表　604
第 100 表　木器観察表（１）　604
第 101 表　木器観察表（２）　605
第 102 表　木器観察表（３）　606

〈自然科学分析：石塚廃寺東遺跡〉
第 103 表　測定試料及び処理　608
第 104 表　測定結果　608
第 105 表　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果（１）　613
第 106 表　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果（２）　613
第 107 表　花粉分析結果（１）　618
第 108 表　花粉分析結果（２）　619
第 109 表　調査資料　623
第 110 表　調査結果　624
第 111 表　分析結果　624

〈自然科学分析：大鴨遺跡〉
第 112 表　測定試料及び処理　631
第 113 表　測定結果　632
第 114 表　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果　637
第 115 表　花粉分析結果　640
第 116 表　珪藻分析結果（１）　643
第 117 表　珪藻分析結果（２）　643
第 118 表　調査資料　646
第 119 表　調査結果　646
第 120 表　分析結果　646
第 121 表　測定試料及び処理　648
第 122 表　測定結果　650
第 123 表　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果（１）　653
第 124 表　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果（２）　653
第 125 表　４区（北区南壁）における花粉分析結果（１）　659
第 126 表　４区（北区南壁）における花粉分析結果（２）　660
第 127 表　４区（北区南壁）２流路の珪藻分析結果（１）　664
第 128 表　４区（北区南壁）２流路の珪藻分析結果（２）　664

〈自然科学分析：石塚廃寺東遺跡〉
第 129 表　測定試料及び処理　668
第 130 表　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 補正値）　669
第 131 表　暦年較正年代グラフ（参考）　670

〈総括〉
第 132 表　鳥取県における土製支脚出土遺跡（１）　677
第 133 表　鳥取県における土製支脚出土遺跡（２）　678
第 134 表　木製祭祀具ほか一覧表　690
第 135 表　遺跡一覧表　695
第 136 表　大鴨遺跡における主な道路遺構　697

文中写真目次（第２分冊）

写真 11　大鴨 CP ７①　686
写真 12　大鴨 CP ７②　686
写真 13　石塚 CP19 ①　686
写真 14　石塚 CP19 ②　686
写真 15　石塚 CP ５　686
写真 16　石塚 CP70　686
写真 17　大鴨 CP34　686
写真 18　石塚 CP11　686

第５節　４区の調査

第１項　概要と基本層序

４区は天神野台地の崖下から約100m東に位置し、北と北東に向けて緩やかに下がる地形となっている。圃場整備により３区と４区を境に耕地段差を形成している。尚、便宜的に４区を北区・南区・南東区に細分し、以下その呼称を用いる。

基本層序は表土・造成土を除きⅠ～Ⅵ層まで付し、Ⅰａ・Ⅰｂ層は12～13世紀代、Ⅱａ・Ⅱｂ層は７世紀後半～８世紀代、Ⅱｃ層は弥生時代中期から古墳時代前期、Ⅲ-1層は弥生時代の遺物を包含する。以下、Ⅲ-2～Ⅵ層が無遺物層で、Ⅴ・Ⅵ層は火山灰層である。

調査では倉吉市教育委員会試掘トレンチに基づき、遺構検出面を２面確認した。表土・造成土を重機により除去し、Ⅰａ・Ⅰｂ・Ⅱａ・Ⅱｂ層は人力による掘削を行った。Ⅱｃ・Ⅲ層上面の第１遺構面では古代から中世の掘立柱建物５棟、竪穴建物２棟、柵列２基、道路遺構11条、柱穴41基、ピット120基、Ⅳ層上面の第２遺構面では弥生時代から古墳時代のピットなどを検出している。遺物は弥生土器、土師器、須恵器、国産陶器、貿易陶磁器、土製品、石器、木製品、鍛冶関連遺物などが出土している。

造成土以下の基本層序は以下の通りである（第311～317図）。

Ⅰ層
Ⅰａ層
Ⅰｂ層　調査区のほぼ全域に堆積し、黄橙色～浅黄橙色シルトブロック混じりの褐灰色シルトを母体とする。土器小片や炭化物、焼土ブロックを混入するしまりの強い堆積土である。11世紀後半から13世紀に帰属する遺構や遺物が一定量出土する。調査区南半の東側ではⅠｂ層とし、上層に中世後期までの包含層であるⅠａ層が堆積する。

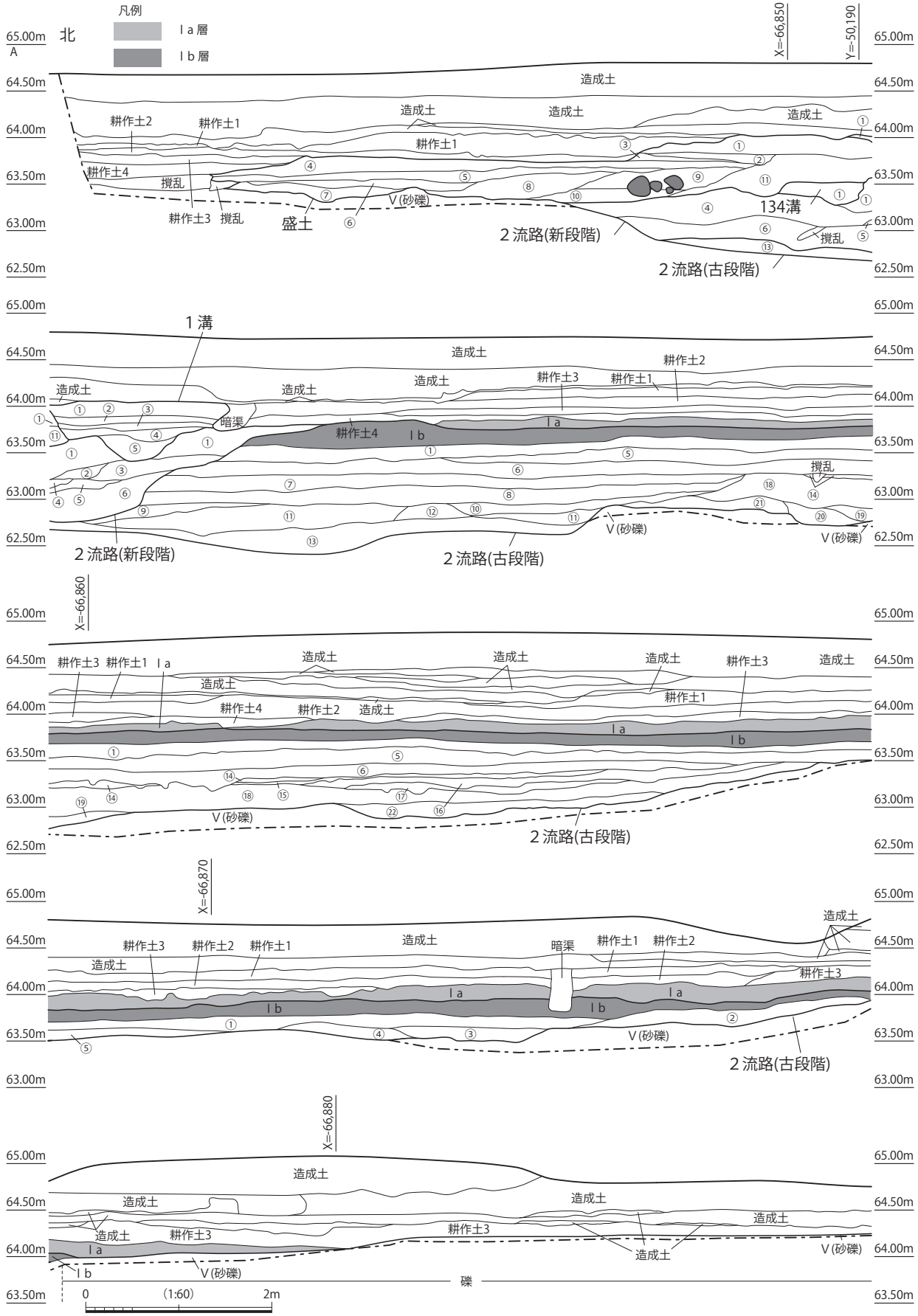
Ⅱａ層　調査区西側北寄りの一部の範囲に堆積する。黄橙色シルトブロック混じりの黒褐色砂混じりシルト層である。土器小片や炭化物ブロックを混入する締まりが強い堆積であり、人為的な堆積の可能性も想定される。

Ⅱｂ層　調査区のほぼ全域に堆積し、黄橙色～浅黄橙色シルトブロック混じりの黒褐色シルトを母体とする。土器小片を多く含み、炭化物や焼土ブロックを混入するしまりの強い堆積土である。７世紀後半から８世紀に帰属する遺構や遺物が出土する。

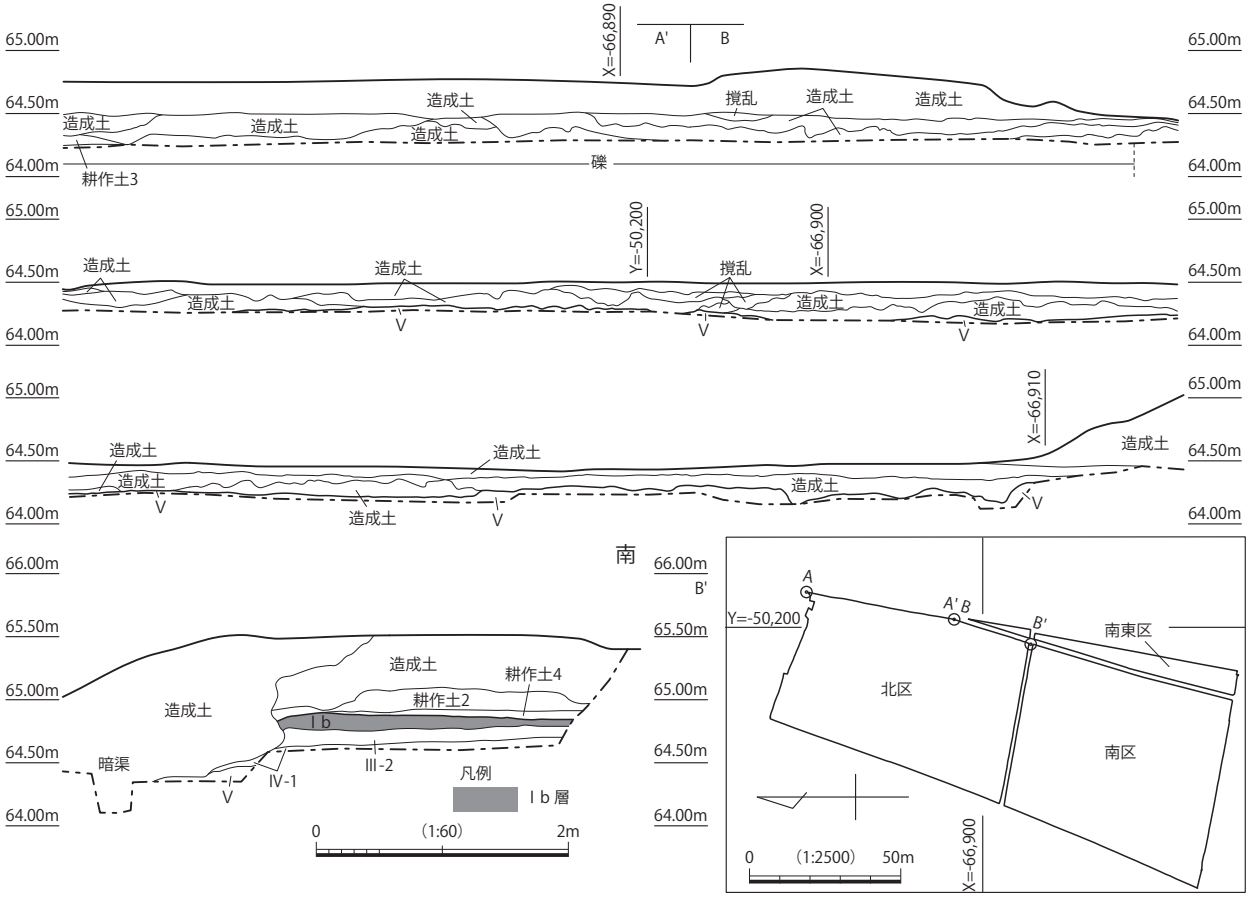
Ⅱｃ層　調査区の北半を中心に堆積し、浅黄橙色シルトブロック、褐灰色ブロック混じりの黒色シルトを母体とする。弥生時代から古墳時代の遺物を包含するが、調査区北半のうち南西寄りがより多く、その他は希薄である。調査区西側の北半については、本層上面を第１遺構面とする。

Ⅲ層
Ⅲ-1層
Ⅲ-2層　調査区西側の北半と調査区東側の南半に堆積する黒色シルト層である。所謂黒ボク層。色調はⅡｃ層に比べやや明るく、粘性が強い。調査区西側の北半では、Ⅲ層上面で古墳時代前期に帰属する遺構を検出し、本層上面を第１遺構面としている。調査区東側の南半では、Ⅲ-1層とⅢ-2層に分かれ、上層のⅢ-1層に弥生時代の遺物を含む。

Ⅳ層
Ⅳ-1層　調査区のほぼ全域に堆積する浅黄橙色シルト層で、遺物は含まない。上層のⅣ-1層と下層のⅣ-2層に分けられる。色調はⅣ-1層がⅣ-2層に比べやや黄色が強い。所



第 311 図　北区東壁土層断面図（１）



土層断面位置図

1溝
① 10YR7/1 灰白色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック混　φ～1cm礫混 炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
② 2.5Y7/2 灰黄色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック混　φ～2cm礫混 炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
③ 2.5Y6/1 黄灰色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック混　φ～1cm礫混 炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
④ 10YR6/1 褐灰色 砂質シルト (φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性やや弱 しまりやや弱
⑤ 10YR5/2 灰黄褐色 砂質シルト (φ～3cm鉄分ブロック混　φ～2cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまりやや弱

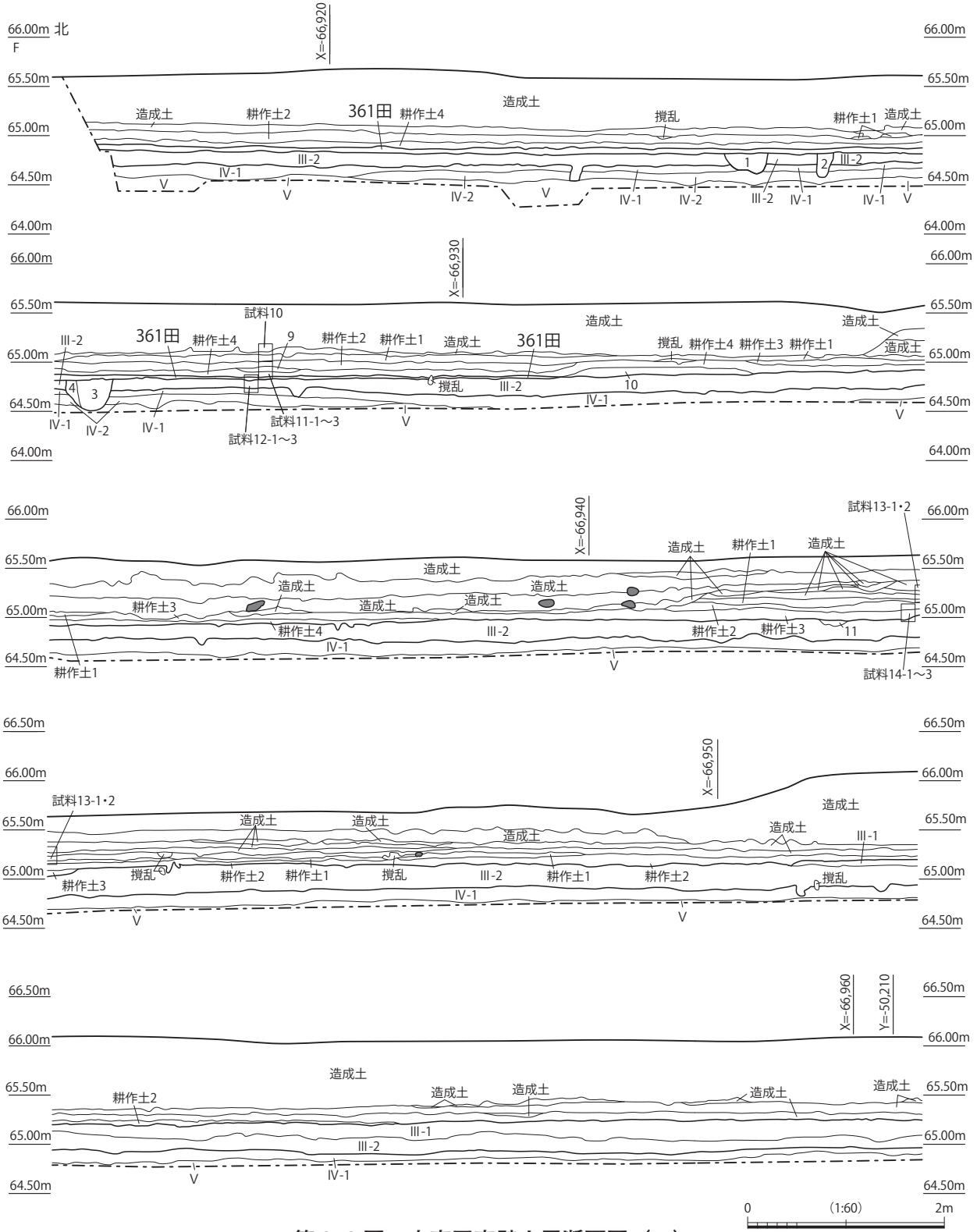
盛土
① 10YR6/2 灰黄褐色 シルト (φ～5cm鉄分ブロック混　φ～10cm粗粒砂ブロック混 φ～1cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
② 2.5Y5/1 黄灰色 砂質シルト (φ～10cm中粗粒砂ブロック混　φ～1cm礫少混) 粘性弱　しまり弱
③ 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～0.5cm礫混 炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
④ 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト (10YR6/2 灰黄褐色 砂質シルトブロック混 φ～2cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中
⑤ 10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～5cm鉄分ブロック混　φ～1cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
⑥ 10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～1cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
⑦ 10YR6/1 褐灰色 砂質シルト (10YR5/1 灰黄褐色 砂質シルトブロックφ～5cm混 φ～5cm鉄分ブロック混)　粘性弱　しまり弱
⑧ 10YR4/1 褐灰色 シルト (φ～5cm鉄分ブロック混　φ～5cm礫混 炭化物φ～1cm少混)　粘性中　しまり中
⑨ 10YR3/2 黒褐色 シルト (φ～5cm鉄分ブロック混　φ～30cm礫混 炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
⑩ 2.5Y5/1 黄灰色 砂質シルト (φ～20cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性弱 しまりやや弱
⑪ 10YR6/1 褐灰色 砂質シルト (10YR3/2 黒褐色 シルトブロックφ～20cm混 10YR7/1 灰白色 砂ブロックφ～15cm混)　粘性弱　しまり弱

2流路(新段階)
① 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト (φ～2cm鉄分ブロック多混　φ～3cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまりやや弱
② 10YR7/1 灰白色 砂 (10YR5/1 褐灰色 砂質シルトブロックφ～10cm混 φ～0.5cm礫多混)　粘性弱　しまり弱
③ 10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトブロックφ～10cm混 φ～2cm鉄分ブロック多混　φ～3cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱 しまりやや弱
④ 10YR8/1 灰白色 砂礫 (10YR3/2 黒褐色 シルトブロックφ～15cm混 φ～30cm礫多混)　粘性なし　しまりなし
⑤ 10YR4/1 褐灰色 砂質シルト (10YR7/1 灰白色 砂ブロックφ～10cm混 φ～2cm礫混)　粘性弱　しまり弱
⑥ 10YR2/1 黒色 シルト (φ～10cm礫混　植物遺体φ～5cm混　炭化物φ～1cm混) 粘性やや強　しまり中

2流路(古段階)
① 10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト (10YR6/1 褐灰色 砂質シルトブロックφ～2cm混 φ～3cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性やや弱　しまり中
② 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト (φ～3cm礫混　炭化物φ～1cm混) 粘性やや弱　しまり中
③ 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト (2.5Y6/2 黄灰色 砂質シルトブロックφ～5cm混　φ～2cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中
④ 10YR4/2 灰黄褐色 砂礫 (φ～10cm礫多混　炭化物φ～1cm混)　粘性弱 しまり弱
⑤ 10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～2cm礫混 炭化物φ～0.5cm混)　粘性やや弱　しまり中
⑥ 10YR3/2 黒褐色 砂質シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～2cm礫混 植物遺体φ～5cm混　炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中
⑦ 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト (φ～5cm礫混　植物遺体φ～3cm混 炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中
⑧ 10YR2/2 黒褐色 砂質シルト (φ～5cm粗砂ブロック混　φ～2cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中
⑨ 10YR2/3 黒褐色 砂質シルト (φ～10cm粗砂ブロック混　φ～5cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中
⑩ 10YR2/1 黒色 砂質シルト (ラミナ状の粗砂ブロック混　φ～20cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中 (2流路⑤層に類似)
⑪ 10YR2/1 黒色 砂質シルト (φ～5cm粗砂ブロック混　φ～30cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中
⑫ 10YR6/1 褐灰色 砂 (10YR2/3 黒褐色 砂質シルトラミナ状混)　粘性弱　しまり弱
⑬ 2.5Y5/1 黄灰色～2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト混じり砂礫 (10YR2/1 黒色 シルトラミナ状混　極粗粒砂～巨礫混)　粘性弱　しまり弱 (2流路最下層)
⑭ 10YR5/2 灰黄褐色 砂 (φ～2cm鉄分ブロック混　炭化物φ～1cm混)　粘性弱 しまり弱
⑮ 10YR7/2 にぶい黄橙色 砂 (φ～2cm鉄分ブロック混　炭化物φ～1cm混) 粘性弱　しまり弱
⑯ 10YR3/1 黒褐色 砂質シルト (φ～2cm鉄分ブロック混　φ～5cm粗砂ブロック混 φ～2cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中
⑰ 10YR6/3 にぶい黄橙色 粗砂 (φ～5cm鉄分ブロック混　φ～2cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性弱　しまり弱
⑱ 10YR2/1 黒色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～10cm粗砂ブロック混 (一部はラミナ状)　φ～5cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
⑲ 7.5YR3/1 黒褐色 砂質シルト (φ～2cm鉄分ブロック混　φ～20cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
⑳ 10YR2/1 黒色 シルト (φ～2cm鉄分ブロック混　φ～20cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
㉑ 7.5YR5/2 灰褐色 砂質シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～5cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中
㉒ 10YR2/1 黒色 砂質シルト (φ～10cm粗砂ブロック混　φ～20cm礫混 炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中

134溝
① 10YR7/1 灰白色 砂 (10YR5/1 褐灰色 砂ブロックφ～20cm混 φ～10cm鉄分ブロック混　φ～10cm礫混)　粘性弱　しまり弱

第 312 図　北区東壁土層断面図（2）、土層断面位置図、土色注記（1）

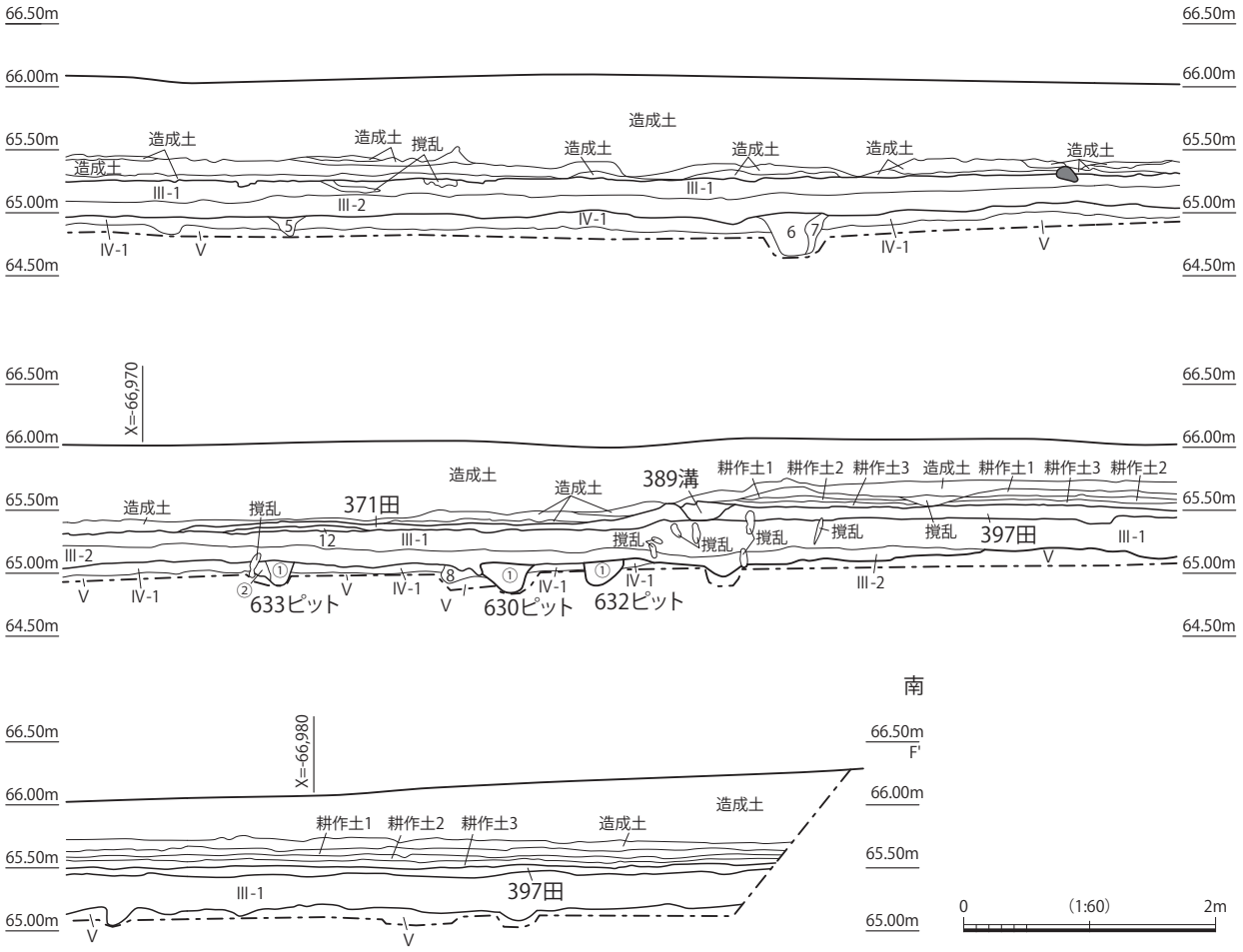


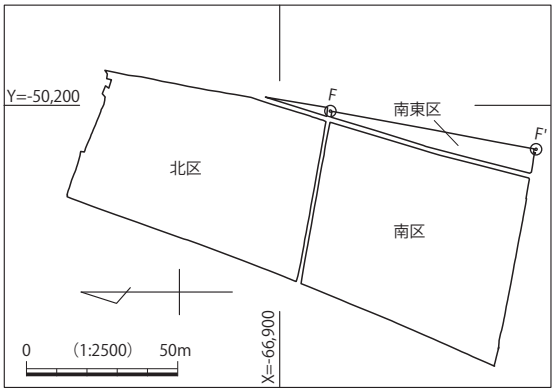
第 313 図　南東区東壁土層断面図（１）

Ⅳ -2 層　謂漸移層。本層上面を第２遺構面とする。

Ⅴ層　調査区の北半を中心に堆積する黄橙色シルト層で、遺物は含まない。粘性が強い。所謂ソフトローム。

Ⅵ層　調査区の南半を中心に堆積する浅黄橙色シルト層。粘性が弱くボソボソとして、ブロック状に堆積する。所謂ホーキ層。





土層断面位置図

ピット F-F'
1　10YR2/2 黒褐色 シルト (φ1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
2　10YR3/1 黒褐色 シルト (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
3　10YR3/1 黒褐色 シルト (φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
4　10YR2/1 黒色 シルト (φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
5　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (φ～3cm鉄分ブロック混　φ～0.5cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性やや弱　しまり中
6　10YR1.7/1 黒色 砂質シルト (φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性やや弱　しまり中
7　10YR2/1 黒色 砂質シルト (φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性やや弱　しまり中
8　10YR2/1 黒色 砂質シルト (φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性やや弱　しまり中
9　10YR6/2灰黄褐色 シルト (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
10　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (φ～3cm鉄分ブロック混　φ～2cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
11　10YR5/1 褐灰色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ～5cmブロック混　φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
12　10YR5/1 褐灰色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ～2cmブロック混　φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中

630ピット
①　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ～2cmブロック(ソフトローム)混　φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

632ピット
①　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ～1cmブロック(ソフトローム)少混　φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

633ピット
①　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ～3cmブロック(ソフトローム)混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
②　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ～1cmブロック(ソフトローム)混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

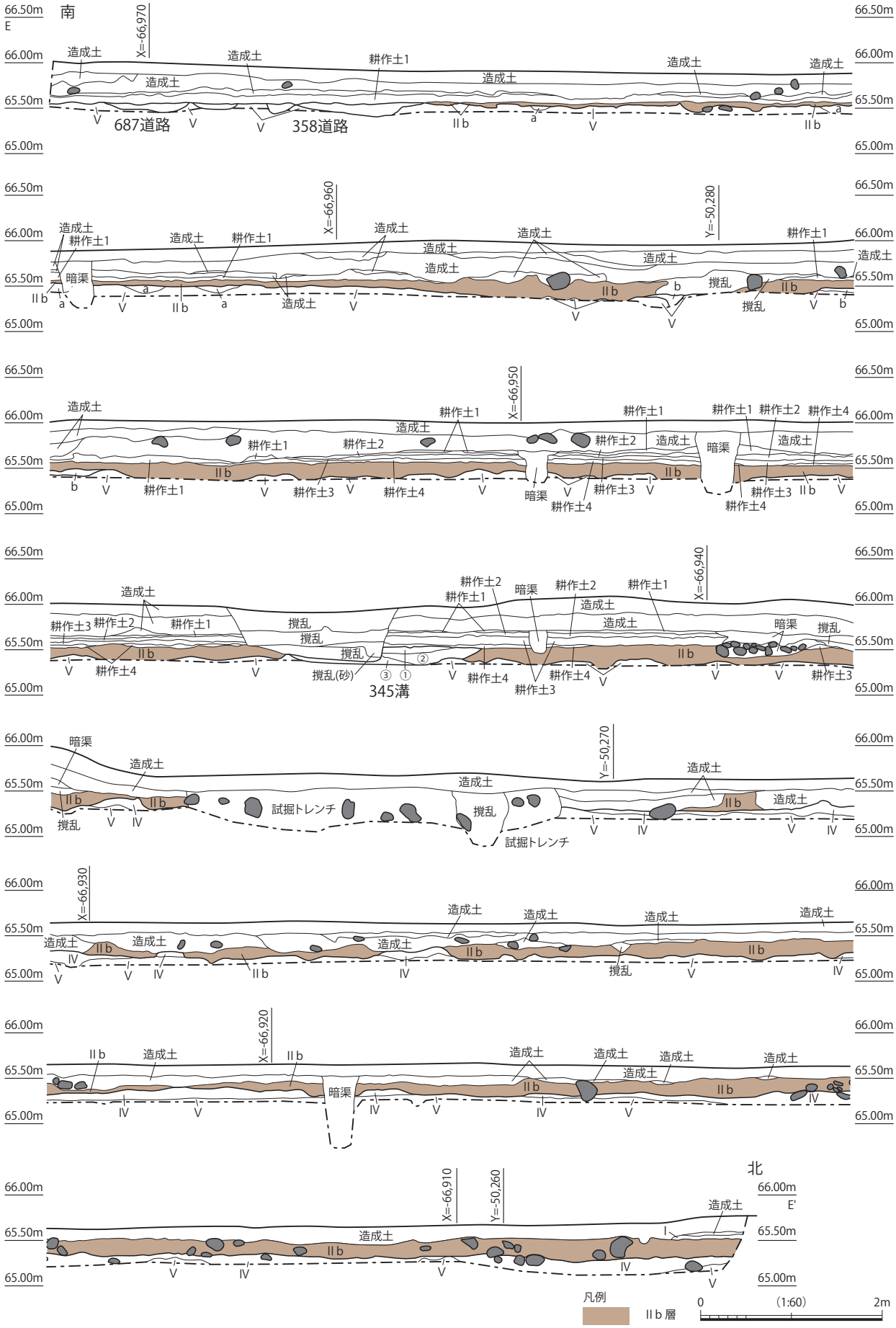
389溝
7.5YR4/1 褐灰色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ～1cmブロック混　φ～3cm鉄分ブロック混　φ～0.5cm礫少混)　粘性中　しまり中
(大鴨1区200溝と同一)

361田
10YR5/2 灰黄褐色 砂質シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～5cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中

371田
2.5Y5/1 黄灰色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック混　φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中

397田
10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～2cm鉄分ブロック混　φ～1cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

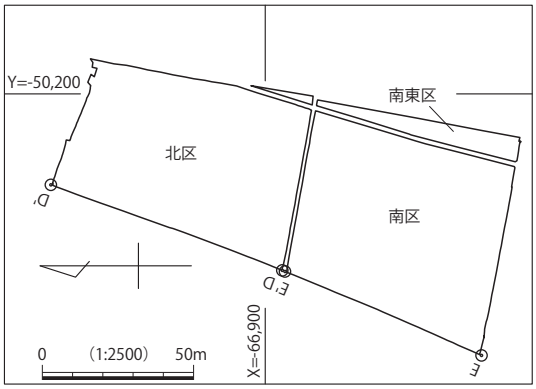
第 314 図　南東区東壁土層断面図（2）、土層断面位置図、土色注記（2）



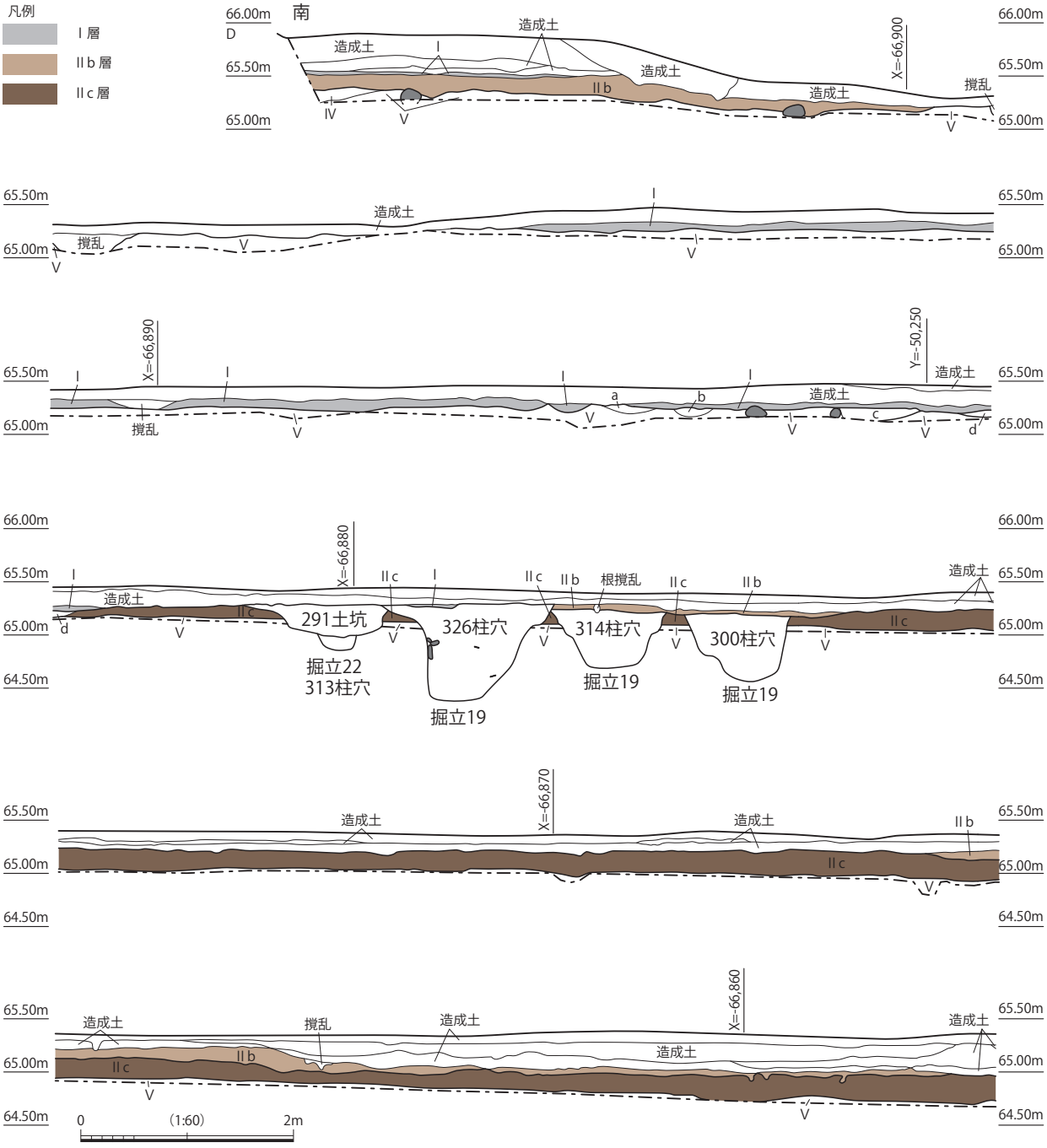
第 315 図　南区西壁土層断面図

ピット E-E'
a　7.5YR4/1 褐灰色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ～3cmブロック(ソフトローム)多混
　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
b　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ～5cmブロック(ソフトローム)混
　φ～2cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中

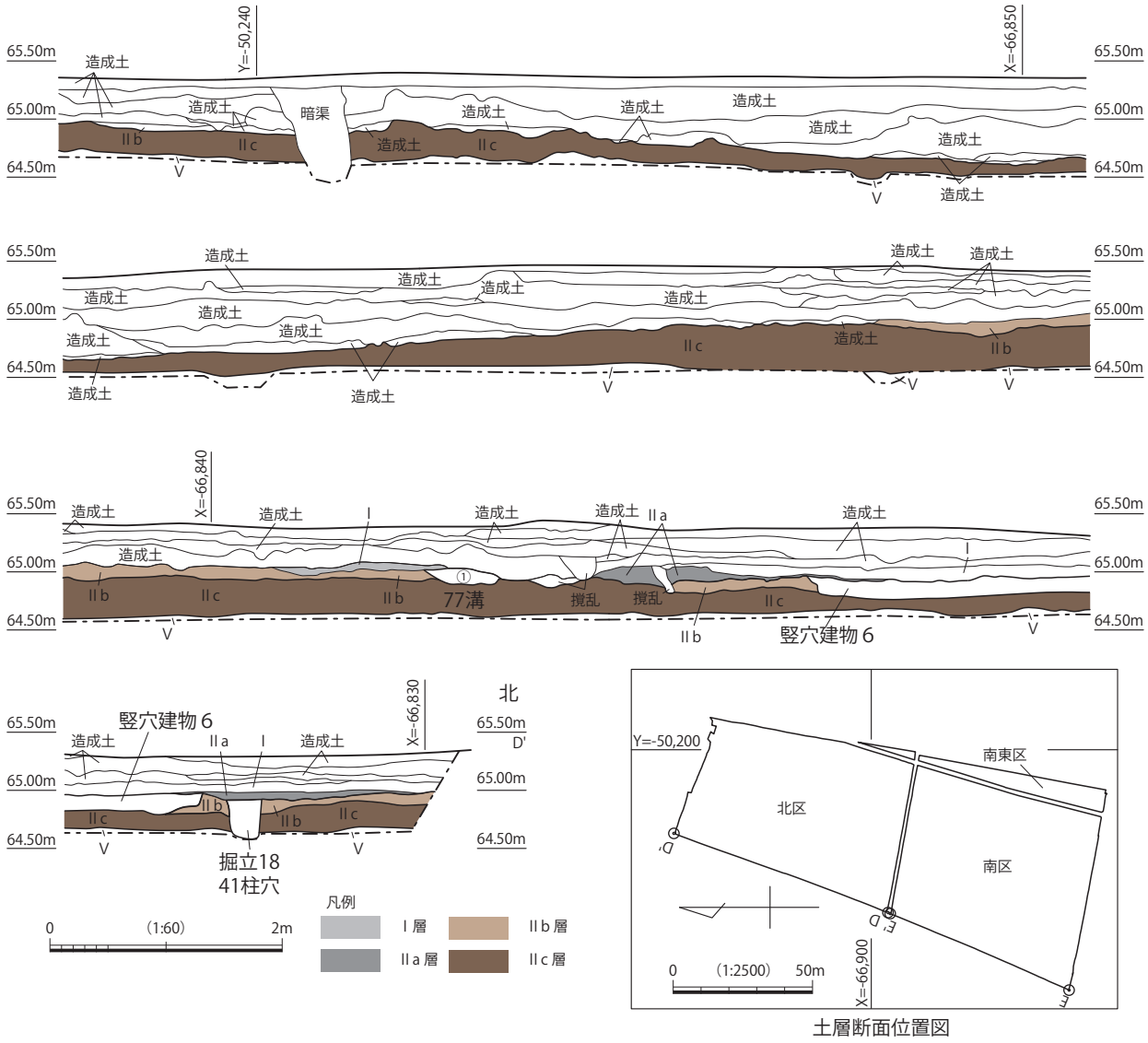
耕作土1　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～5cm礫混　φ～0.5cm礫多混
　炭化物φ～1cm少混)　粘性中　しまり中 (旧耕作土)
耕作土2　10YR7/4 にぶい黄橙色 シルト (φ～2cm鉄分ブロック多混　φ～0.5cm礫混
　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中 (耕作土床土)
耕作土3　10YR6/2 灰黄褐色 シルト (φ～2cm鉄分ブロック混　φ～1cm礫混
　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中 (耕作土)
耕作土4　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～2cm鉄分ブロック多混　φ～1cm礫混
　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中



土層断面位置図



第 316 図　北区西壁土層断面図（1）、土層断面位置図、土色注記（3）



土層断面位置図

基本層序

Ⅰ　10YR4/1 褐灰色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混　10YR8/4 浅黄橙色 シルトφ1cmブロック混　炭化物φ1cm混　焼土φ1cmブロック混 土器混)　粘性中　しまり強　(古代～中世包含層)

Ⅰa　10YR6/1 褐灰色 砂質シルト (7.5YR6/8橙色 鉄分φ～1cmブロック混 φ～2cm 炭化物混　φ～0.4cm礫混)　粘性中 しまり中 (中世後期～近世前期の包含層)

Ⅰb　2.5Y4/1 黄灰色 砂質シルト (7.5YR6/8 橙色 鉄分φ～0.5cmブロック混 φ～0.5 cm炭化物混　φ～0.4cm礫混)　粘性中 しまり中　(中世前期の包含層)

Ⅱb　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混　10YR8/4 浅黄橙色 シルトφ1cmブロック混　φ1cm炭化物混　焼土φ1cmブロック少混 土器多混)　粘性中　しまり強　(古代包含層)

Ⅱc　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/4 浅黄橙色 シルト(ホーキ層)φ2～3cmブロック混 10YR4/1 褐灰色 シルトφ2～5cmブロック少混)　粘性中　しまり中 (弥生～古墳時代包含層)

Ⅲ-1　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (10YR7/2 にぶい黄橙色 シルトφ～5cmブロック混 φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

Ⅲ-2　10YR1.7/1 黒色 砂質シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ～1cmブロック混 φ～0.5cm礫少混)　粘性やや弱　しまり中　(Ⅲ-1層より黒味が強い)

Ⅳ　10YR8/3 浅黄橙色 シルト　粘性中　しまり中　(無遺物層)

Ⅳ-1　2.5Y6/3 にぶい黄色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ～3cmブロック(ホーキ層)混 φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

Ⅳ-2　2.5Y6/2 灰黄色 シルト (φ～0.5cm礫少混)　粘性やや弱　しまり中

Ⅴ　10YR8/6 黄橙色 シルト　粘性強　しまり中　(ソフトローム　無遺物層)

D-D'

a　7.5YR2/1 黒色 シルト (φ～20cm礫混　炭化物φ～1cm少混)　粘性中 しまり中

b　7.5YR2/1 黒色 シルト (φ～3cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中 しまり中

c　7.5YR2/1 黒色 シルト (φ～20cm礫混　炭化物φ～1cm少混)　粘性中 しまり中

d　10YR2/1 黒色 シルト (φ～5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中 しまり中

77溝

①　10YR3/1 黒褐色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5cmブロック混　φ～1cm礫混)　粘性中　しまり中　(西壁面土層)

第 317 図　北区西壁土層断面図（２）、土層断面位置図、土色注記（４）

第２項　第１遺構面の調査（中世以降の遺構と遺物）

１　概要（第 318 図）

調査区は北区・南区・南東区に分かれ、中央を南北に２流路が蛇行しながら縦断する。北区では、２流路の西側では上層から古代の遺物包含層であるⅡｂ層、弥生時代の遺物包含層であるⅡｃ層、黒ボク土であるⅢ層、漸移層であるⅣ層、ローム層Ⅴ層が堆積する。これらの層に掘り込まれた灰褐色系の埋土をもつ遺構については、中世以降の遺物を含むことから、第１遺構面（中世以降）の遺構とした。２流路の東側ではローム層まで削平され、２流路が埋没した後は湿地化する。これを覆うⅠｂ層は中世前期までの遺物を含む包含層で、上面で灰褐色系の埋土をもつ耕作溝と砂が堆積した足跡群を検出した。南区では、２流路西側のⅡｃ層上面で、中世の掘立柱建物や土坑、溝、ピットを検出した。２流路上面ではⅠｂ層が堆積し、上面で田の畦畔や足跡群を検出した。２流路の東側から南東区にかけて、上層から中世後期の遺物包含層であるⅡａ層、Ⅱｂ層、Ⅲ層、Ⅳ層、Ⅴ層が堆積し、Ⅰｂ層の下面、Ⅲ層上面では掘立柱建物や土坑、ピットなど、中世前期の建物を検出した。なお、建物を構成しない単体の柱穴やピットについては、掲載遺物があるものについて記述している。

２　検出した遺構と遺物

（１）　掘立柱建物

掘立柱建物 23（第 318・319 図、第 29・36・38 表、図版 215）

南区西側中央 7a-10C-5h・6h グリッドにおいて、Ⅱｂ層上面で検出した。本遺構は、349・342・343・348 柱穴によって構成される。桁行１間（2.4m）、梁行１間（1.1m）の南北棟の側柱建物である。主軸は N-7° -E をとり、平面積は 2.6㎡を測る。柱間寸法は、桁筋が 2.4m、梁筋が 1.1m ～ 1.2m である。柱穴の平面形は概ね円形で、長軸の平均は 0.20m、短軸の平均は 0.18m である。柱穴の深さは深い柱穴が 0.34m、浅い柱穴は 0.18m、平均の深さは 0.25m である。

本遺構の帰属時期は、348 柱穴の北隣に位置する 359 柱穴と埋土が共通することから中世と考えられる。

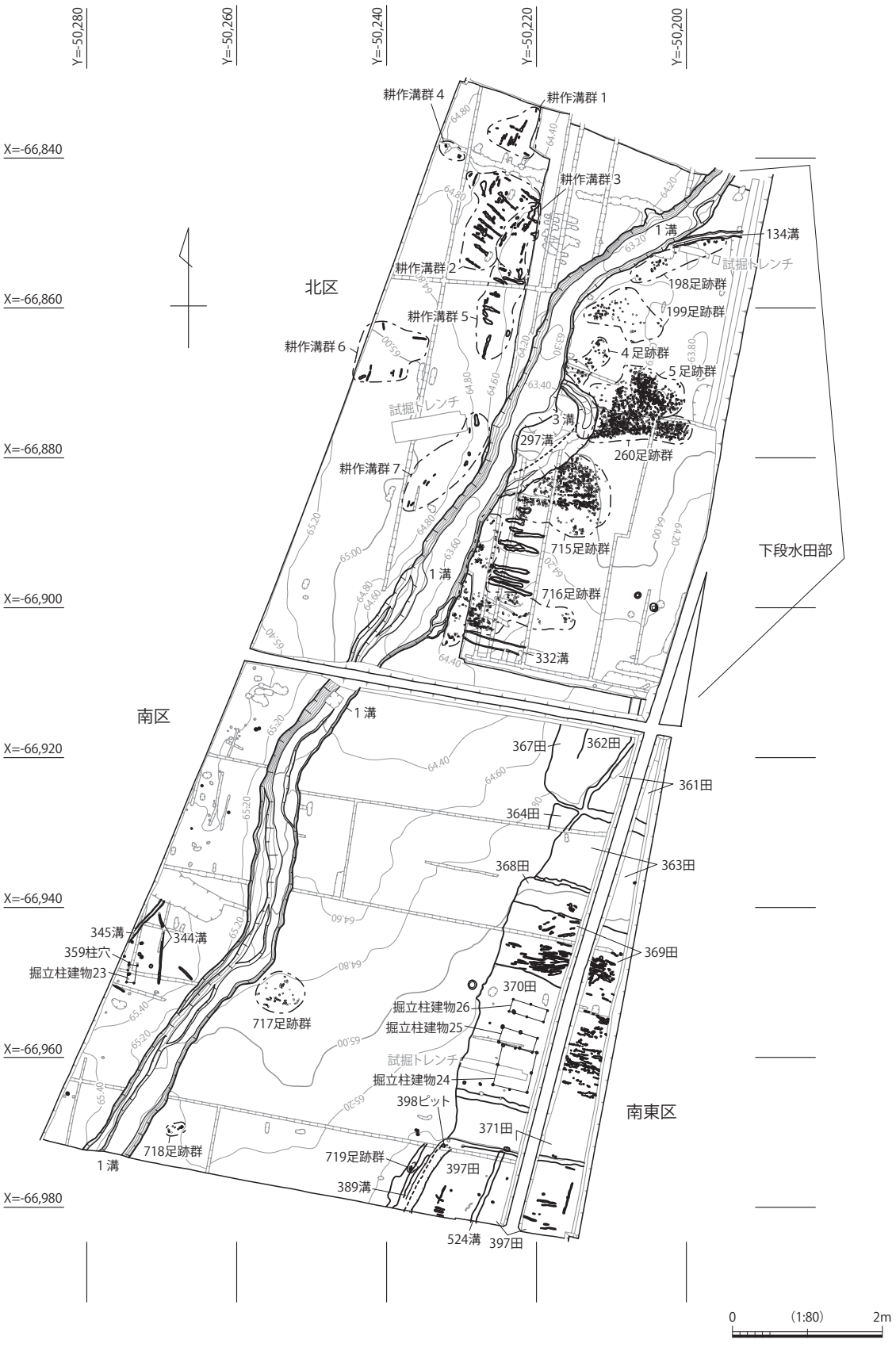
以下、各々の柱穴について記述する。

349 柱穴（第 319 図、第 36・38 表、図版 215）

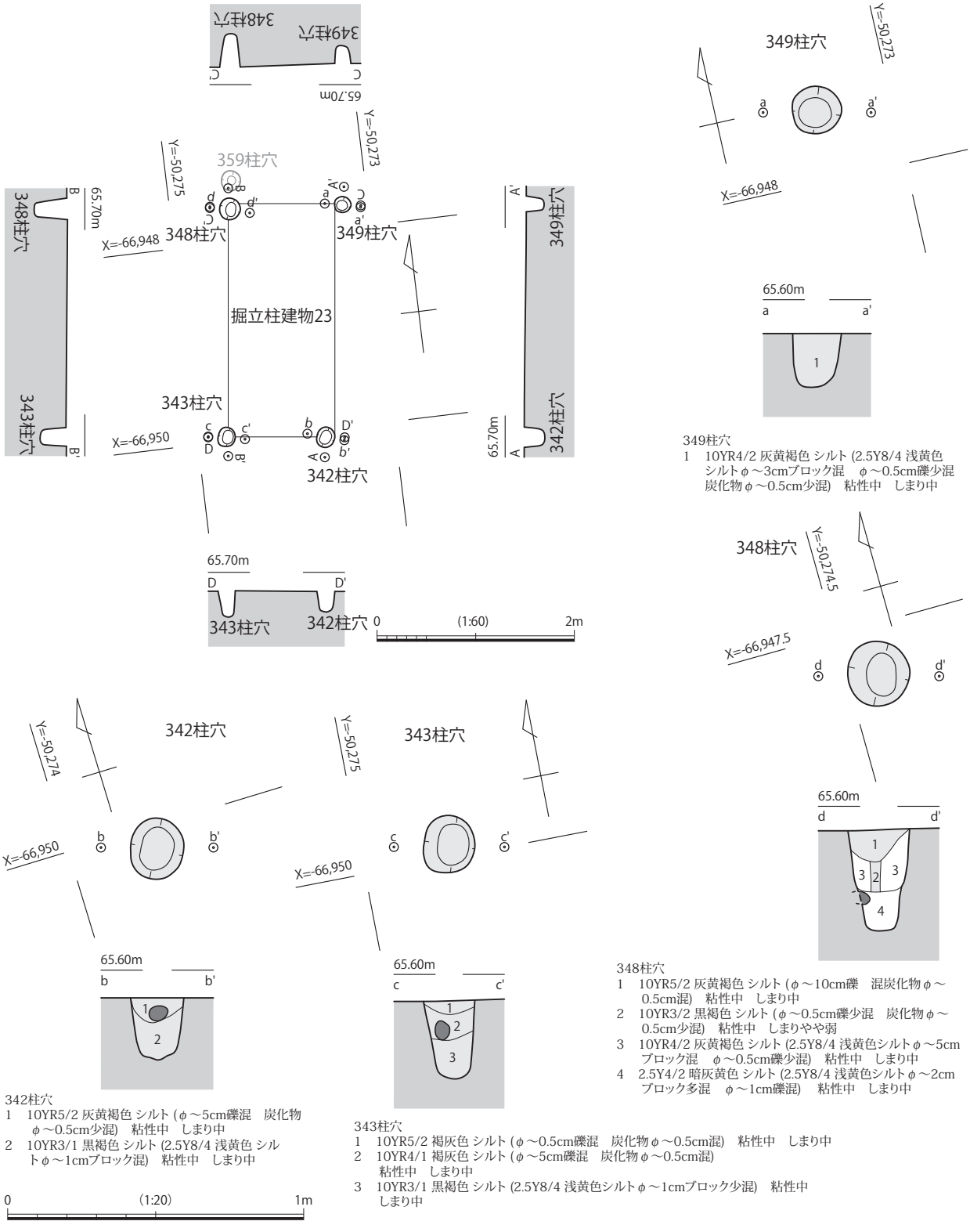
建物の北東隅にある。平面形は不整な円形、断面形はＵ字形である。規模は長軸 0.17m、短軸 0.16m、検出面からの深さ 0.18m を測る。埋土は単層で、Ⅴ層由来のブロックを含む。柱痕はなく、柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

342 柱穴（第 319 図、第 36・38 表、図版 215）

建物の南東隅にある。平面形は不整な円形、断面形はＵ字形である。規模は長軸 0.21m、短軸 0.18m、検出面からの深さ 0.21m を測る。埋土は２層に分けられる。１層から径６cm の円礫が１点出土した。２層にはⅤ層由来のブロックが含まれる。柱痕はなく、柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。



第 318 図　第 1 遺構面（中世以降）全体図



第 319 図　掘立柱建物 23、掘立柱建物 23　342・343・348・349 柱穴

343 柱穴（第 319 図、第 36・38 表、図版 216）

建物の南西隅にある。平面形は不整な円形、断面形はやや深いＵ字形である。規模は長軸 0.20m、短軸 0.17m、検出面からの深さ 0.26m を測る。埋土は３層に分けられる。２層から径６cmの円礫が１点出土した。３層にはＶ層由来のブロックを含む。水平方向の堆積で、柱の抜き取り後に埋め戻

したと考えられる。遺物は埋土から土師器片が出土したものの、小片のため図化していない。

348 柱穴（第 319 図、第 36・38 表、図版 216）

建物の北西隅にある。北側 0.2ｍに 359 柱穴がある。平面形はやや不整な円形、断面形は底の平らな深いＵ字形である。規模は長軸 0.22m、短軸 0.21m、検出面からの深さ 0.34ｍを測る。埋土は４層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できない。３・４層にはＶ層由来のブロックを含む。２層はしまりが弱い。柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は埋土から土師器片が出土したものの、小片のため図化していない。

掘立柱建物 24（南区）（第 318・320 ～ 322 図、第 29・36・39 表、図版 216）

南区東側中央 7a-10C-6b・6c・7c グリッドにおいて、Ⅲ層上面で検出した。建物の中央に試掘トレンチ 13 がある。この範囲で遺構は検出されていない（倉吉市教育委員会 2021）。本遺構は、373 ～ 380 柱穴によって構成される。桁行２間（5.6m）、梁行２間（4.7m）の南北棟の側柱建物である。主軸は N-13° -E をとり、平面積は 26.3㎡を測る。柱間寸法は、桁筋が 2.6 ～ 2.8m、梁筋が 2.2 ～ 2.4m である。柱穴の平面形は概ね円形で、長軸の平均は 0.28m、短軸の平均は 0.25ｍである。柱穴の深さは深い柱穴が 0.63m、浅い柱穴は 0.34m、平均の深さは 0.46ｍである。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から中世と考えられる。

以下、各々の柱穴について記述する。

373 柱穴（第 320・321 図、第 36・39 表、図版 217）

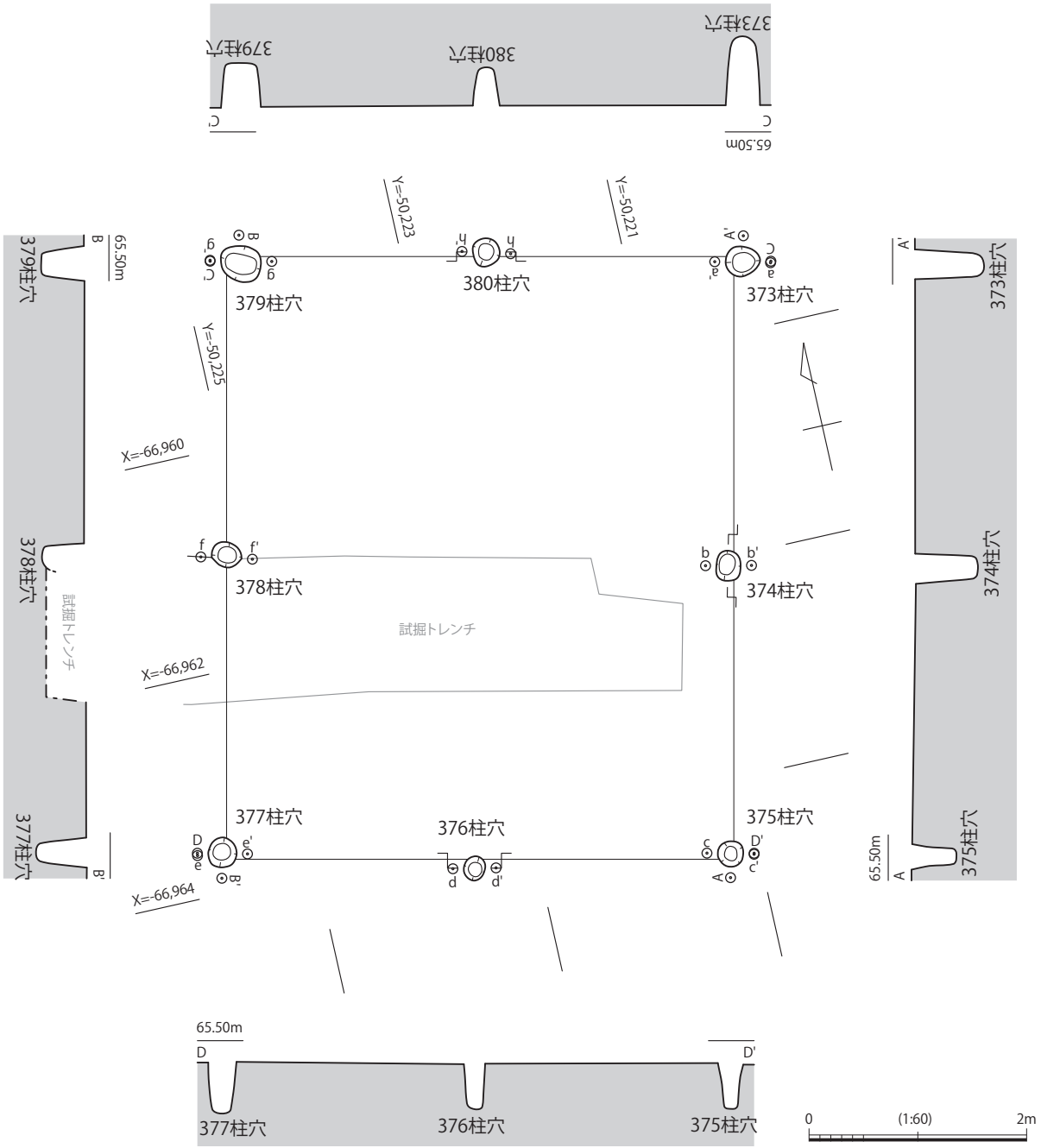
建物の北東隅にある。平面形は不整な円形、断面形は深いＵ字形である。規模は長軸 0.32m、短軸 0.28m、検出面からの深さ 0.63ｍを測る。埋土は６層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できない。１・３層は水平方向の堆積で、柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

374 柱穴（第 320・321 図、第 36・39 表、図版 217）

建物の東辺中央にある。平面形は不整な楕円形、断面形は底の平らな長方形である。規模は長軸 0.28m、短軸 0.22m、検出面からの深さ 0.58ｍを測る。埋土は４層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できない。水平方向の堆積であり、柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

375 柱穴（第 320・321 図、第 36・39 表、図版 219）

建物の南東隅にある。平面形は円形、断面形は底の平らな深い逆台形である。規模は長軸 0.23m、短軸 0.23m、検出面からの深さ 0.41ｍを測る。埋土は４層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できない。１・２層は水平方向の堆積であり、柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。



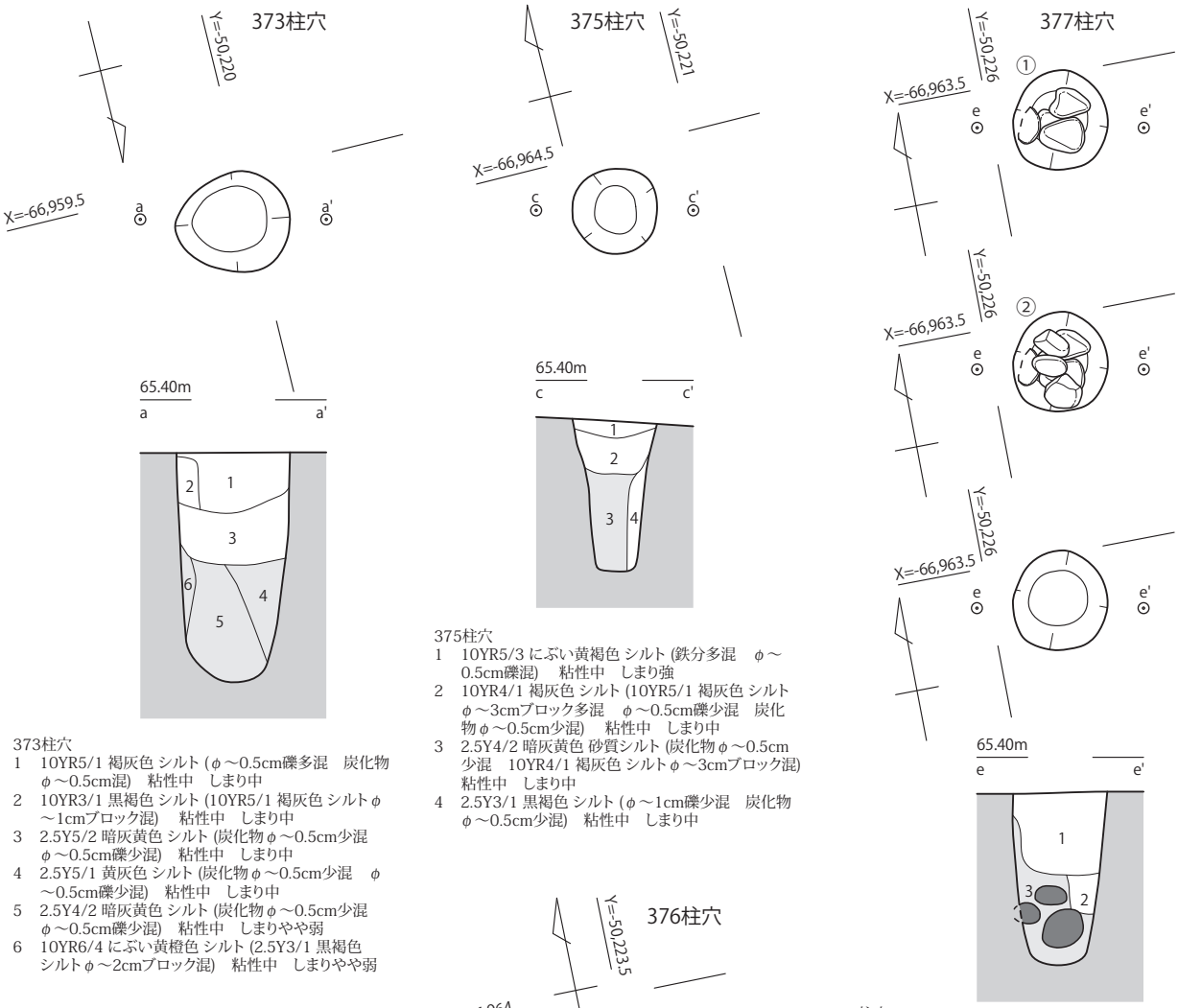
第 320 図　掘立柱建物 24

376 柱穴（第 320・321 図、第 36・39 表、図版 217）

建物の南辺中央にある。平面形は円形、断面形は底の広いＵ字形である。規模は長軸 0.22m、短軸 0.19m、検出面からの深さ 0.42m を測る。埋土は４層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できない。柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

377 柱穴（第 320・321 図、第 36・39 表、図版 218）

建物の南西隅にある。平面形は円形、断面形は深いＵ字形である。規模は長軸 0.28m、短軸 0.26m、検出面からの深さ 0.48m を測る。埋土は３層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できず、３層中から径９～ 15cm の円礫が５点出土した。周囲または柱の抜き取り後に戻された礫と考えられる。



373柱穴
1　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～0.5cm礫多混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR5/1 褐灰色 シルトφ～1cmブロック混)　粘性中　しまり中
3　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (炭化物φ～0.5cm少混　φ～0.5cm礫少混)　粘性中　しまり中
4　2.5Y5/1 黄灰色 シルト (炭化物φ～0.5cm少混　φ～0.5cm礫少混)　粘性中　しまり中
5　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (炭化物φ～0.5cm少混　φ～0.5cm礫少混)　粘性中　しまりやや弱
6　10YR6/4 にぶい黄橙色 シルト (2.5Y3/1 黒褐色 シルトφ～2cmブロック混)　粘性中　しまりやや弱

375柱穴
1　10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト (鉄分多混　φ～0.5cm礫混)　粘性中　しまり強
2　10YR4/1 褐灰色 シルト (10YR5/1 褐灰色 シルトφ～3cmブロック多混　φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
3　2.5Y4/2 暗灰黄色 砂質シルト (炭化物φ～0.5cm少混　10YR4/1 褐灰色 シルトφ～3cmブロック混)　粘性中　しまり中
4　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (φ～1cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

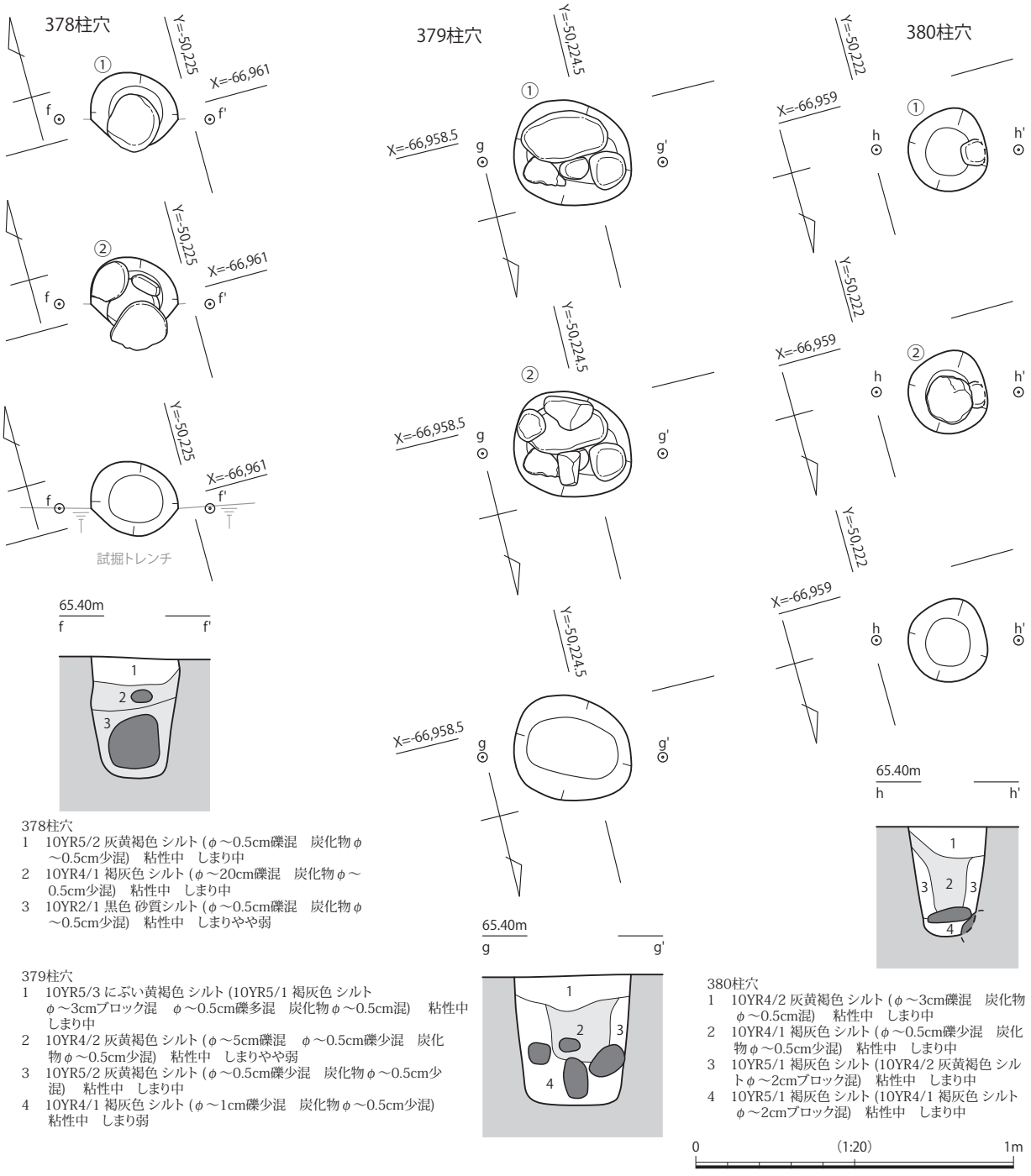
377柱穴
1　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～2cm鉄分ブロック混　φ～0.5cm礫混　炭化物φ～1cm少混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y4/1 黄灰色 シルト (2.5Y6/4 にぶい黄色 シルトφ～2cmブロック混)　粘性中　しまり中
3　10YR3/1 黒褐色 シルト (φ～10cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまりやや弱

376柱穴
1　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (鉄分ブロック混　φ～0.5cm礫多混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
2　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ～3cmブロック少混)　粘性中　しまり中
3　10YR5/1 褐灰色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ～5cmブロック混　φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
4　10YR4/1 褐灰色 シルト (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

374柱穴
1　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～2cm鉄分ブロック混　φ～2cm礫混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (10YR5/2 灰黄褐色 シルトφ～3cmブロック混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
3　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
4　2.5Y4/1 黄灰色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ～5cmブロック混　10YR3/1 黒褐色 シルトφ～3cmブロック混)　粘性中　しまり中

0　(1:20)　1m

第 321 図　掘立柱建物 24　373 ～ 377 柱穴



378柱穴
1　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
2　10YR4/1 褐灰色 シルト (φ～20cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
3　10YR2/1 黒色 砂質シルト (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまりやや弱

379柱穴
1　10YR5/3 にぶい黄褐色 シルト (10YR5/1 褐灰色 シルトφ～3cmブロック混　φ～0.5cm礫多混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (φ～5cm礫混　φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまりやや弱
3　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
4　10YR4/1 褐灰色 シルト (φ～1cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり弱

380柱穴
1　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (φ～3cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR4/1 褐灰色 シルト (φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
3　10YR5/1 褐灰色 シルト (10YR4/2 灰黄褐色 シルトφ～2cmブロック混)　粘性中　しまり中
4　10YR5/1 褐灰色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ～2cmブロック混)　粘性中　しまり中

第 322 図　掘立柱建物 24　378 ～ 380 柱穴

遺物は出土していない。

378 柱穴（第 320・322 図、第 36・39 表、図版 218）

建物の西辺中央にある。南側を試掘トレンチで掘削される。推定の平面形は円形、断面形は長方形である。規模は長軸 0.28m、短軸 0.23m、検出面からの深さ 0.38m を測る。埋土は３層に分けられる。柱痕や掘方埋め土はなく、水平方向の堆積である。掘り下げ中に径 10 ～ 18cm の円礫が４点出土した。周囲または柱の抜き取り後に戻された礫と考えられる。遺物は出土していない。

379 柱穴（第 320・322 図、第 36・39 表、図版 219）

建物の北西隅にある。平面形は不整な楕円形、断面形は長方形である。規模は長軸 0.38m、短軸 0.32m､検出面からの深さ 0.41ｍを測る。埋土は４層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できず、２・４層中から径 10 ～ 27cmの礫が６点出土した。周囲または柱の抜き取り後に戻された礫と考えられる。遺物は出土していない。

380 柱穴（第 320・322 図、第 36・39 表、図版 217・219）

建物の北辺中央にある。平面形は不整な円形、断面形はＵ字形である。規模は長軸 0.27m、短軸 0.26m、検出面からの深さ 0.34ｍを測る。埋土は４層に分けられる。柱痕は確認できないものの、底近くで礎盤石とみられる径 15cmの扁平な礫が１点出土した。西側を地山の礫に接して固定している。４層は掘方埋め土、礫直上の１～３層は柱の抜き取り後に埋め戻されたと考えられる。遺物は出土していない。

掘立柱建物 25（第 318・323・324 図、第 29・36・39 表、図版 216）

南区東側中央 7a-10C-6b・ 6c グリッドにおいて、Ⅲ層上面で検出した。本遺構は、386 ・ 382 ・ 381・387・388・385 柱穴によって構成される。桁行２間（4.8m）、梁行１間（2.1m）の東西棟の側柱建物である。主軸は N-73° -W をとり、平面積は 10.1㎡を測る。柱間寸法は、桁筋が 2.35m、梁筋が 2.0ｍである。柱穴の平面形は概ね楕円形で、長軸の平均は 0.27m、短軸の平均は 0.22ｍである。柱穴の深さは深い柱穴が 0.44m、浅い柱穴は 0.19m、平均の深さは 0.28ｍである。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から中世と考えられる。

以下、各々の柱穴について記述する。

388 柱穴（第 323・324 図、第 36・39 表、図版 220）

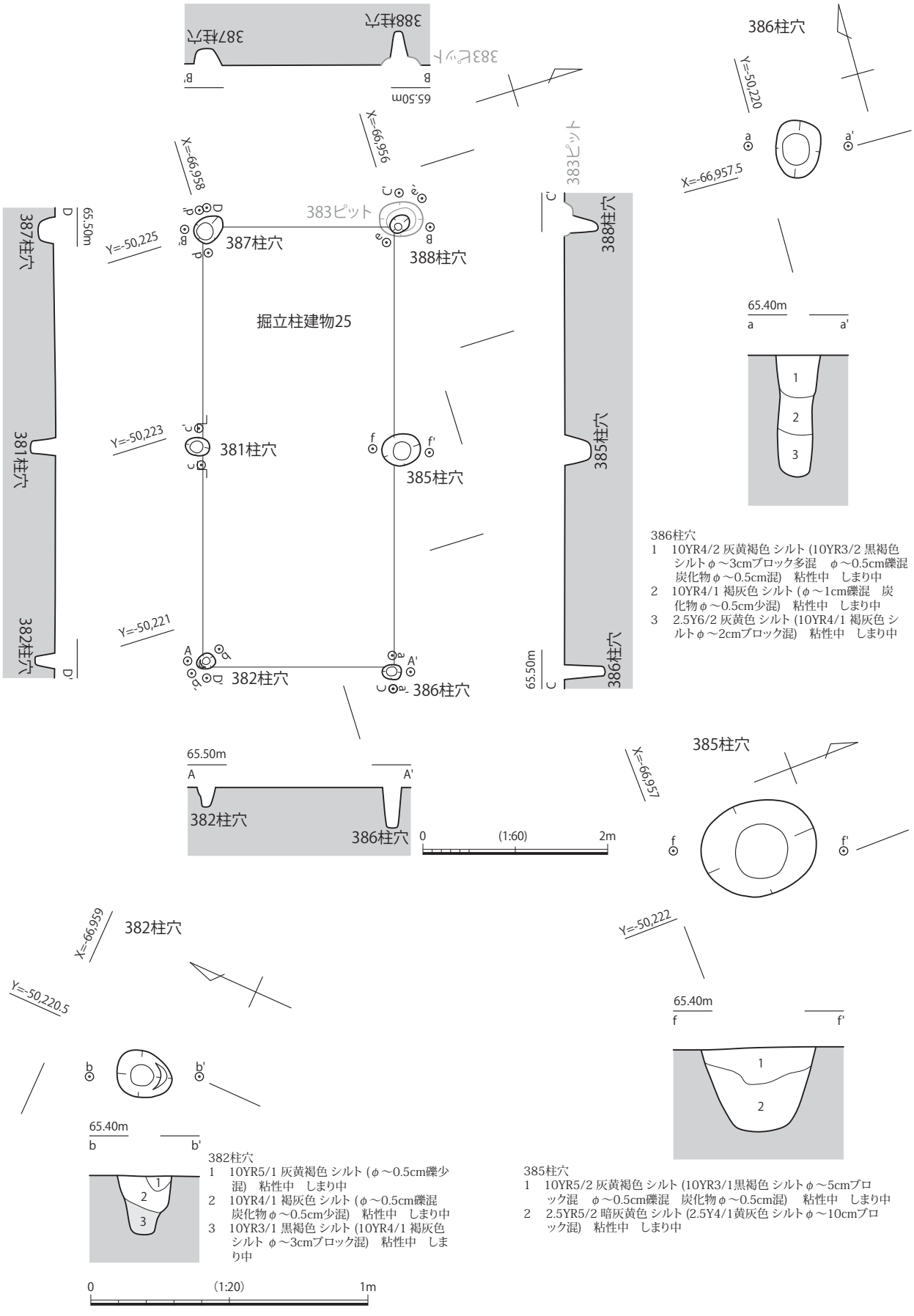
建物の北西隅に位置する 383 ピットを掘り下げた段階の底面上で検出した。平面形は楕円形、断面形はＵ字形である。規模は長軸 0.47m、短軸 0.37m、検出面からの深さ 0.29ｍを測る。埋土は単層で、柱痕や掘方埋め土は確認できない。掘り下げ中に長さ 17cm、幅９cmの板状の礫と、径 10cmの礫が出土した。礫の出土した状況から、柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

385 柱穴（第 323 図、第 36・39 表、図版 221）

370 田の耕作土の下面、Ⅲ層上面で検出した。建物の北辺中央にある。平面形は楕円形、断面形はＵ字形である。規模は長軸 0.42m、短軸 0.34m、検出面からの深さ 0.30ｍを測る。埋土は２層に分けられる。水平方向の堆積で、柱痕や掘方埋め土は確認できない。柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

386 柱穴（第 323 図、第 36・39 表、図版 221）

建物の北東隅にある。平面形は不整な楕円形、断面形は不整なＵ字形である。規模は長軸 0.21m、短軸 0.16m、検出面からの深さ 0.44ｍを測る。埋土は３層に分けられる。水平方向の堆積で、柱痕

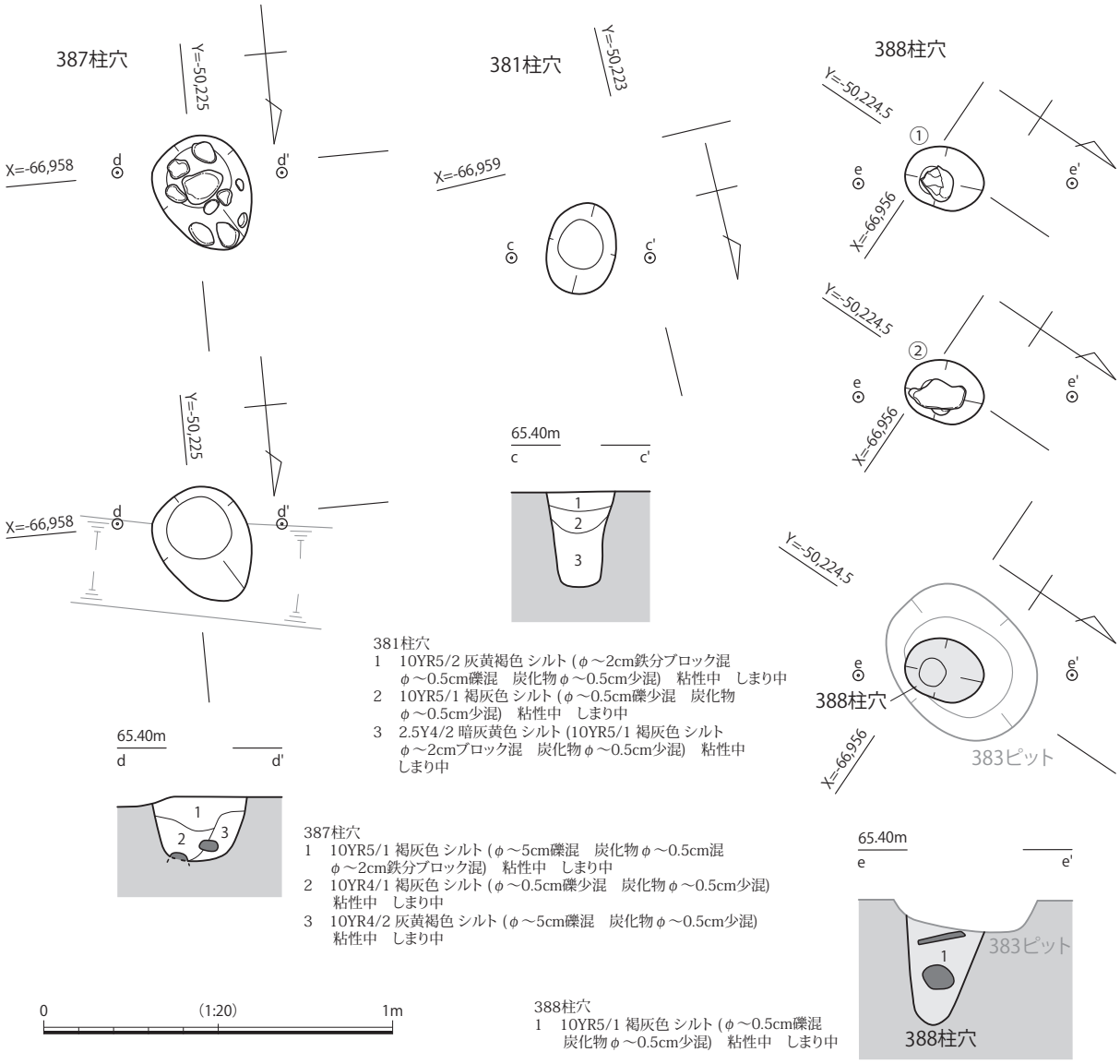


386柱穴
1　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (10YR3/2 黒褐色 シルトφ～3cmブロック多混　φ～0.5cm礫混 炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR4/1 褐灰色 シルト (φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
3　2.5Y6/2 灰黄色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ～2cmブロック混)　粘性中　しまり中

385柱穴
1　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (10YR3/1黒褐色 シルトφ～5cmブロック混　φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　2.5YR5/2 暗灰黄色 シルト (2.5Y4/1黄灰色 シルトφ～10cmブロック混)　粘性中　しまり中

382柱穴
1　10YR5/1 灰黄褐色 シルト (φ～0.5cm礫少混)　粘性中　しまり中
2　10YR4/1 褐灰色 シルト (φ～0.5cm礫混 炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
3　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルト φ～3cmブロック混)　粘性中　しまり中

第 323 図　掘立柱建物 25、掘立柱建物 25　382・385・386 柱穴



第 324 図　掘立柱建物 25　381・387・388 柱穴

や掘方埋め土は確認できない。柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

382 柱穴（第 323 図、第 36・39 表、図版 220）

建物の南東隅にある。平面形は楕円形、断面形は南側に段をもつ不整なU字形である。規模は長軸 0.20m、短軸 0.17m、検出面からの深さ 0.21m を測る。埋土は３層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できない。柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

381 柱穴（第 323・324 図、第 36・39 表、図版 219）

建物の南辺中央にある。平面形は楕円形､断面形は底面の平らな逆台形である。規模は長軸 0.26m、短軸 0.20m、検出面からの深さ 0.27m を測る。埋土は３層に分けられる。水平方向の堆積で、柱痕や掘方埋め土は確認できない。柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

387 柱穴（第 323・324 図、第 36・39 表、図版 220）

建物の南西隅にある。北側を暗渠で切られる。復元での平面形は楕円形、断面形は浅いＵ字形である。規模は長軸 0.34m、短軸 0.27m、検出面からの深さ 0.19m を測る。埋土は３層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できない。底面付近から径３～ 13cm の小円礫が多数出土した。周囲または柱の抜き取り後に戻された礫と考えられる。遺物は出土していない。

掘立柱建物 26（第 318・325 図、第 29・36・39 表、図版 221）

南区東側中央 7a-10C-6b・6c グリッドにおいて、Ⅲ層上面で検出した。本遺構は、528・527・402・525・526・401 柱穴によって構成される。桁行２間（4.8m）、梁行１間（1.7m）の東西棟の側柱建物である。主軸は N-73° -W をとり、平面積は 8.2㎡を測る。柱間寸法は、桁筋が 2.35 ～ 2.45m、梁筋が 1.3m である。柱穴の平面形は概ね円形で、長軸の平均は 0.19m、短軸の平均は 0.18m である。柱穴の深さは深い柱穴が 0.36m、浅い柱穴は 0.20m、平均の深さは 0.28m である。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から中世と考えられる。

以下、各々の柱穴について記述する。

526 柱穴（第 325 図、第 36・39 表、図版 222）

建物の北西隅にある。平面形は円形、断面形はＵ字形である。規模は長軸 0.19m、短軸 0.17m、検出面からの深さ 0.20m を測る。埋土は２層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できない。水平方向の堆積で、柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

401 柱穴（第 325 図、第 36・39 表、図版 222）

建物の北辺中央で、柱筋から 0.15m 北側にある。平面形は不整な円形、断面形はＵ字形である。規模は長軸 0.22m、短軸 0.20m、検出面からの深さ 0.26m を測る。埋土は２層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できない。水平方向の堆積で、柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

528 柱穴（第 325 図、第 36・39 表、図版 222）

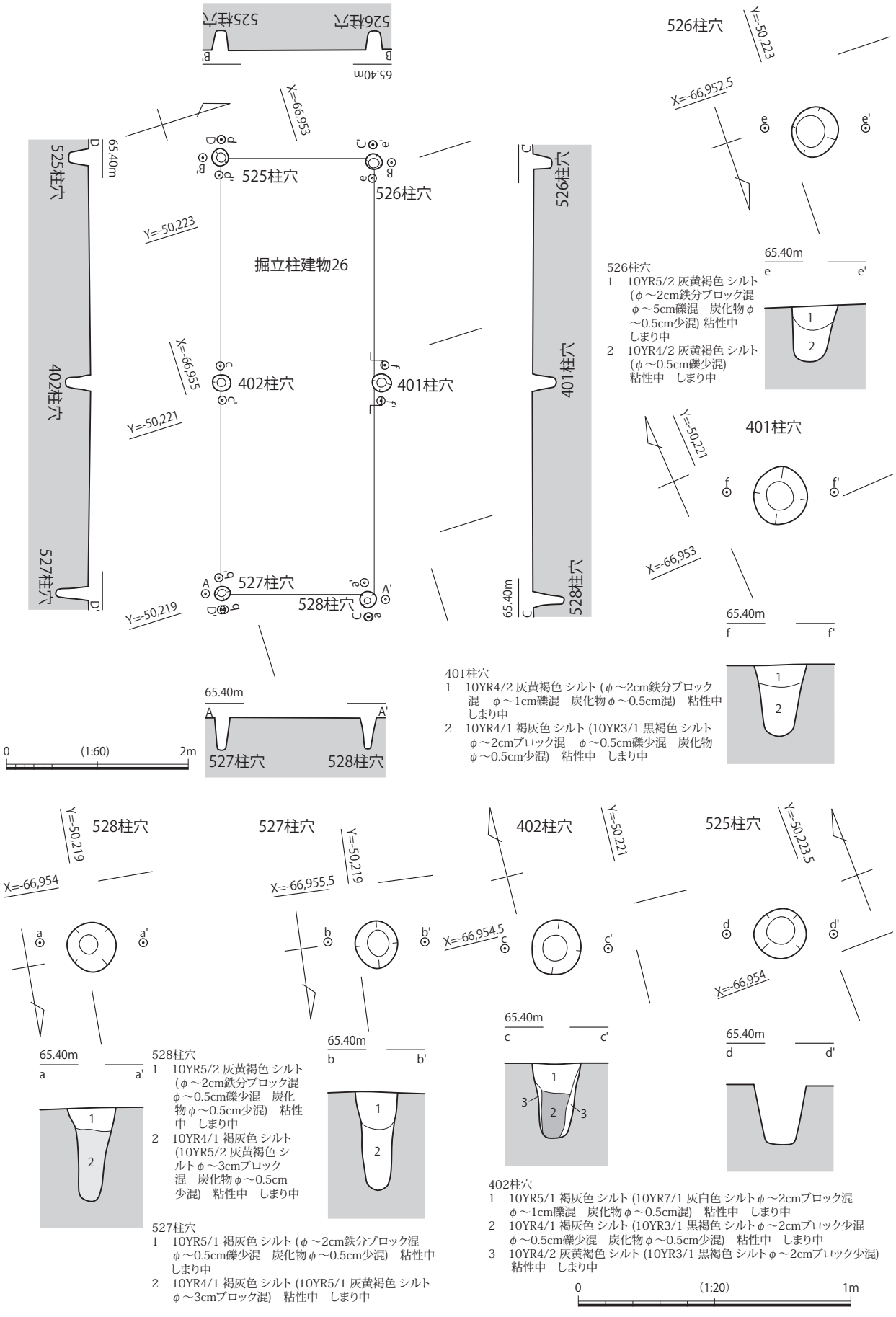
建物の北東隅にある。平面形は不整な円形､断面形は深いＵ字形で底面は狭い。規模は長軸 0.18m、短軸 0.18m、検出面からの深さ 0.34m を測る。埋土は２層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できない。水平方向の堆積で、柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

527 柱穴（第 325 図、第 36・39 表、図版 222）

建物の南東隅にある。平面形は不整な円形、断面形は深いＵ字形である。規模は長軸 0.18m、短軸 0.16m、検出面からの深さ 0.36m を測る。埋土は２層に分けられる。柱痕や掘方埋め土は確認できない。水平方向の堆積で、柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

402 柱穴（第 325 図、第 36・39 表、図版 222）

建物の南辺中央にある。平面形はやや不整な円形、断面形はＵ字形である。規模は長軸 0.20m、



第 325 図　掘立柱建物 26、掘立柱建物 26　401・402・525 ～ 528 柱穴

短軸 0.18m、検出面からの深さ 0.27ｍを測る。埋土は３層に分けられる。２層は柱痕、３層は掘方埋め土である。１層は柱の抜き取り後に埋め戻したと考えられる。遺物は出土していない。

525 柱穴（第 325 図、第 36・39 表、図版 222）

建物の南西隅にある。平面形は円形、断面形はＵ字形である。規模は長軸 0.19m、短軸 0.18m、検出面からの深さ 0.22ｍを測る。完掘後に柱穴として復元したため、埋土は不明である。遺物は出土していない。

【参考文献】

倉吉市教育委員会 2021「１　石塚・福山地区（石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡）」『倉吉市内遺跡分布調査報告書 21』倉吉市文化財調査報告書　第 156 集

（２）　柱穴・ピット

359 柱穴（第 318・326 図、第 68 表、図版 283）

南区西側 7a-10C-5h グリッドにおいて、Ⅴ層上面で検出した。0.2m 南に掘立柱建物 23 の北西隅にあたる 348 柱穴がある。建て替えや補助柱穴としては、建物の規模に比べて離れているため、単独の柱穴として報告する。平面形は円形、断面形はＵ字形である。規模は長軸 0.20m、短軸 0.19m、検出面からの深さ 0.28ｍを測る。遺物は埋土から土師器片が出土したものの、小片のため図化していない。そのため､埋土から出土した炭化物（試料 22）の放射性炭素年代測定を行い（第５章第５節）、calAD1156-1221（暦年較正２σの確率１位）の値が得られた。

本遺構の帰属時期は、埋土と年代測定の結果から中世前期と考えられる。

398 ピット（第 318・326 図、第 68・99 表、図版 286・302）

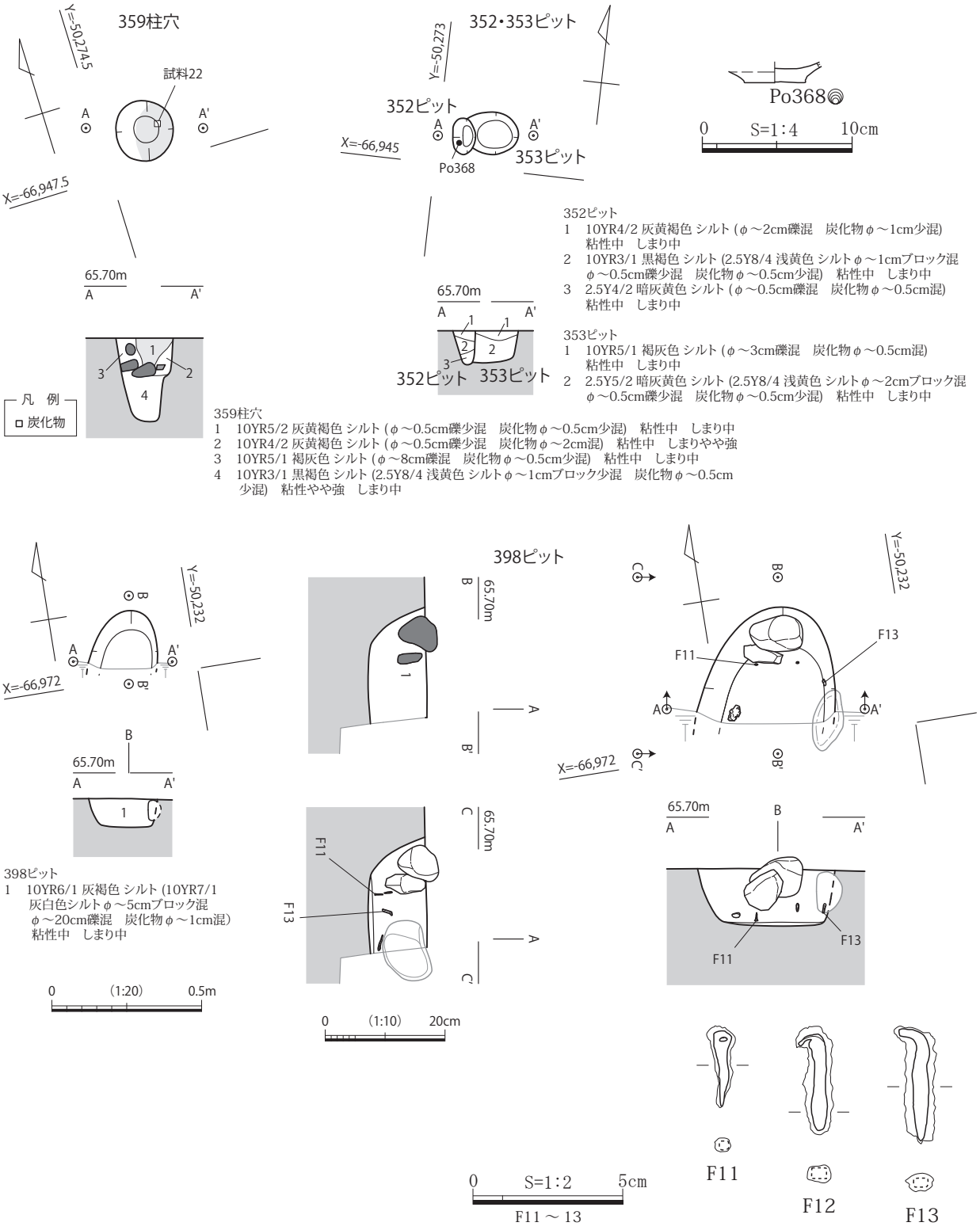
南区東南端 7a-10C-8d グリッドにおいて、Ⅲ層上面で検出した。南側を暗渠により切られる。南北に延びる 389 溝の延長上 2.0ｍにあり、東西方向からの耕作段差との交点付近に位置する。平面形は楕円形、断面形は逆台形である。残存する規模は、長軸 0.44m、短軸は 0.39m、検出面からの深さは 0.19ｍを測る。埋土は単層である。遺物は鉄釘 F11 ～ 13 の他、図化できないが漆膜が出土した。木質は遺存していない。鉄釘はピットの北西端から北東、東方向から浮いた状態で、漆膜は暗渠に切られた南側から出土した。もとは木箱状の容器に漆器が入れられていたものが、腐朽したと考えられる。

鉄釘が小型のため、中世後期以降の所産と考えられる。

352・353 ピット（第 326 図、第 68・79 表、図版 286・302）

［352 ピット］

南区西側中央 7a-10C-5h グリッドにおいて、Ⅲ層上面で検出した。東隣の 353 ピットを切る。平面形は南北方向に長い楕円形、断面形は細いＵ字形である。規模は長軸 0.24m、短軸 0.15m、検出面からの深さ 0.22ｍを測る。埋土は３層に分けられる。２層にはⅤ層由来のブロックを含む。遺物は土器 Po368 が出土した。底部を回転糸切りする土師器皿であり、中世前期の所産である。

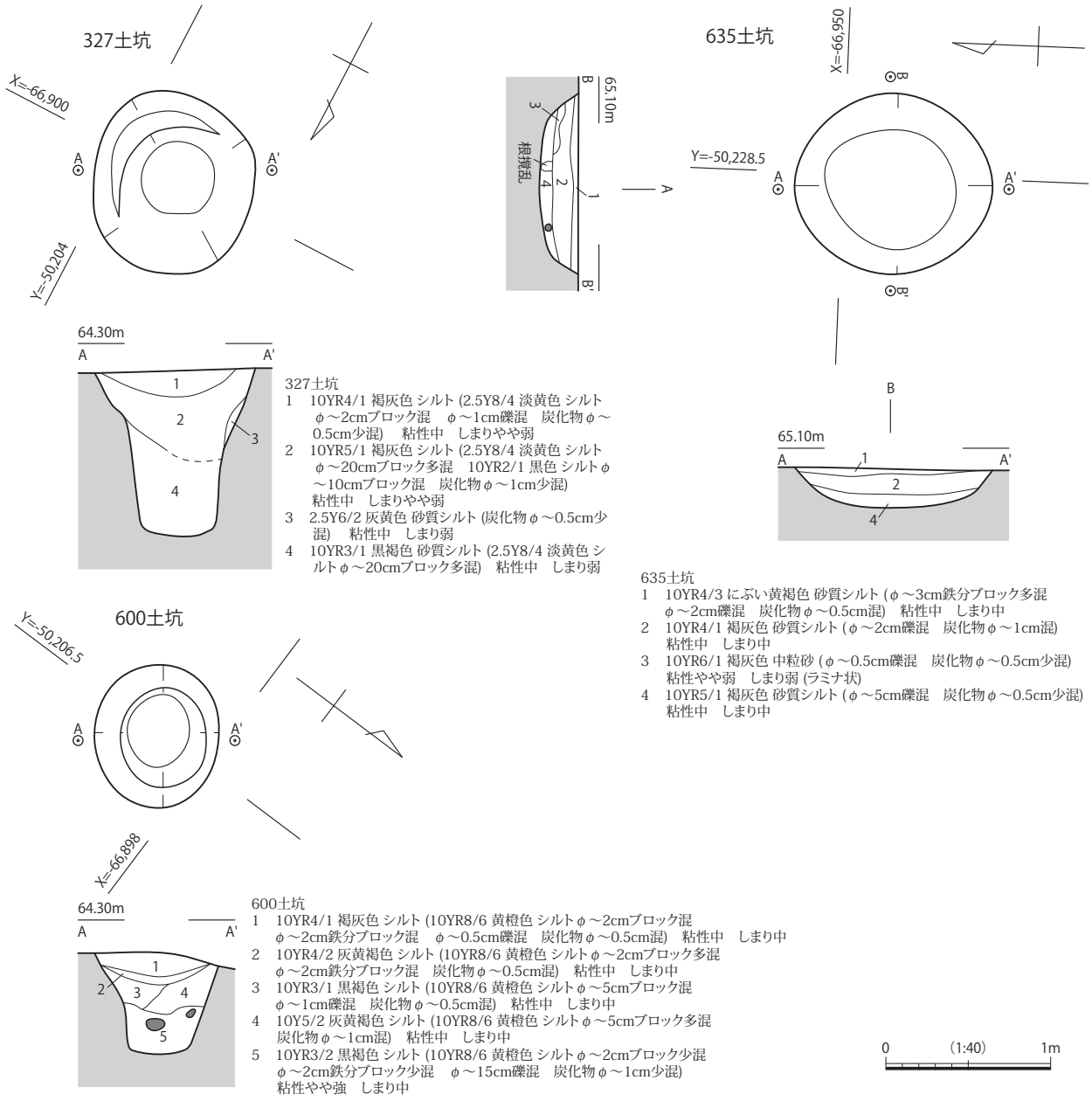


第 326 図　359 柱穴、352・353・398 ピット、352・398 ピット出土遺物

本遺構の帰属時期は、出土遺物から中世と考えられる。

［353 ピット］

南区西側中央 7a-10C-5h グリッドにおいて、Ⅲ層上面で検出した。西隣の 352 ピットに切られる。平面形は東西方向に長い楕円形、断面形は底が平らな逆台形である。残存規模は長軸 0.29m、短軸 0.28m、検出面からの深さ 0.21m を測る。埋土は２層に分けられる。２層にはⅤ層由来のブロック



327土坑
1　10YR4/1 褐灰色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ～2cmブロック混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまりやや弱
2　10YR5/1 褐灰色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ～20cmブロック多混　10YR2/1 黒色 シルトφ～10cmブロック混　炭化物φ～1cm少混)　粘性中　しまりやや弱
3　2.5Y6/2 灰黄色 砂質シルト (炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり弱
4　10YR3/1 黒褐色 砂質シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ～20cmブロック多混)　粘性中　しまり弱

635土坑
1　10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～2cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR4/1 褐灰色 砂質シルト (φ～2cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
3　10YR6/1 褐灰色 中粒砂 (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性やや弱　しまり弱 (ラミナ状)
4　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (φ～5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

600土坑
1　10YR4/1 褐灰色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ～2cmブロック混　φ～2cm鉄分ブロック混　φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ～2cmブロック多混　φ～2cm鉄分ブロック混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
3　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ～5cmブロック混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
4　10Y5/2 灰黄褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ～5cmブロック多混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
5　10YR3/2 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ～2cmブロック少混　φ～2cm鉄分ブロック少混　φ～15cm礫混　炭化物φ～1cm少混)　粘性やや強　しまり中

第 327 図　327・600・635 土坑

を含む。遺物は埋土から土師器片が出土したものの、小片のため図化していない。

本遺構の帰属時期は、352 ピットより古く、埋土の特徴から中世と考えられる。

（3）　土坑

327 土坑（第 327 図、第 65 表、図版 270）

北区東側南隅 7a-9C-10a、7a-10C-1a グリッドにおいて、造成土下面、Ⅴ層上面で検出した。北西方向２ｍの位置に 600 土坑がある。平面形は不整な円形、断面形は上部が椀形で、中位から底面にかけて長方形となる。規模は長軸 1.12m、短軸 1.04m、検出面からの深さ 1.01ｍを測る。埋土は４層に分けられる。いずれもしまりの弱い堆積である。遺物は出土していない。素掘りの井戸の可能性もあるが、性格は不明である。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から中世以降と考えられる。

600 土坑（第 327 図、第 65 表、図版 270）

北区東側南隅 7a-9C-10a グリッドにおいて、造成土下面、Ｖ層上面で検出した。南東方向２ｍの位置に、327 土坑がある。平面形は円形、断面形は不整なＵ字形で、中位から底に向けて細くなる。底面は平坦である。規模は長軸 0.87m、短軸 0.75m、検出面からの深さ 0.62ｍを測る。埋土は５層に分けられる。５層には礫が含まれる。遺物は出土していない。性格は不明である。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から中世と考えられる。

635 土坑（第 327 図、第 65 表、図版 270）

南区東側中央 7a-10C-5c・ 6c グリッドにおいて、Ⅲ層上面で検出した。平面形は円形、断面形は皿形である。規模は長軸 1.20m、短軸 1.10m、検出面からの深さ 0.24ｍを測る。埋土は４層に分けられ、砂質のシルト層が舟底状に堆積する。遺物は土師器が出土したものの、小片のため図化していない。性格は不明である。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から中世と考えられる。

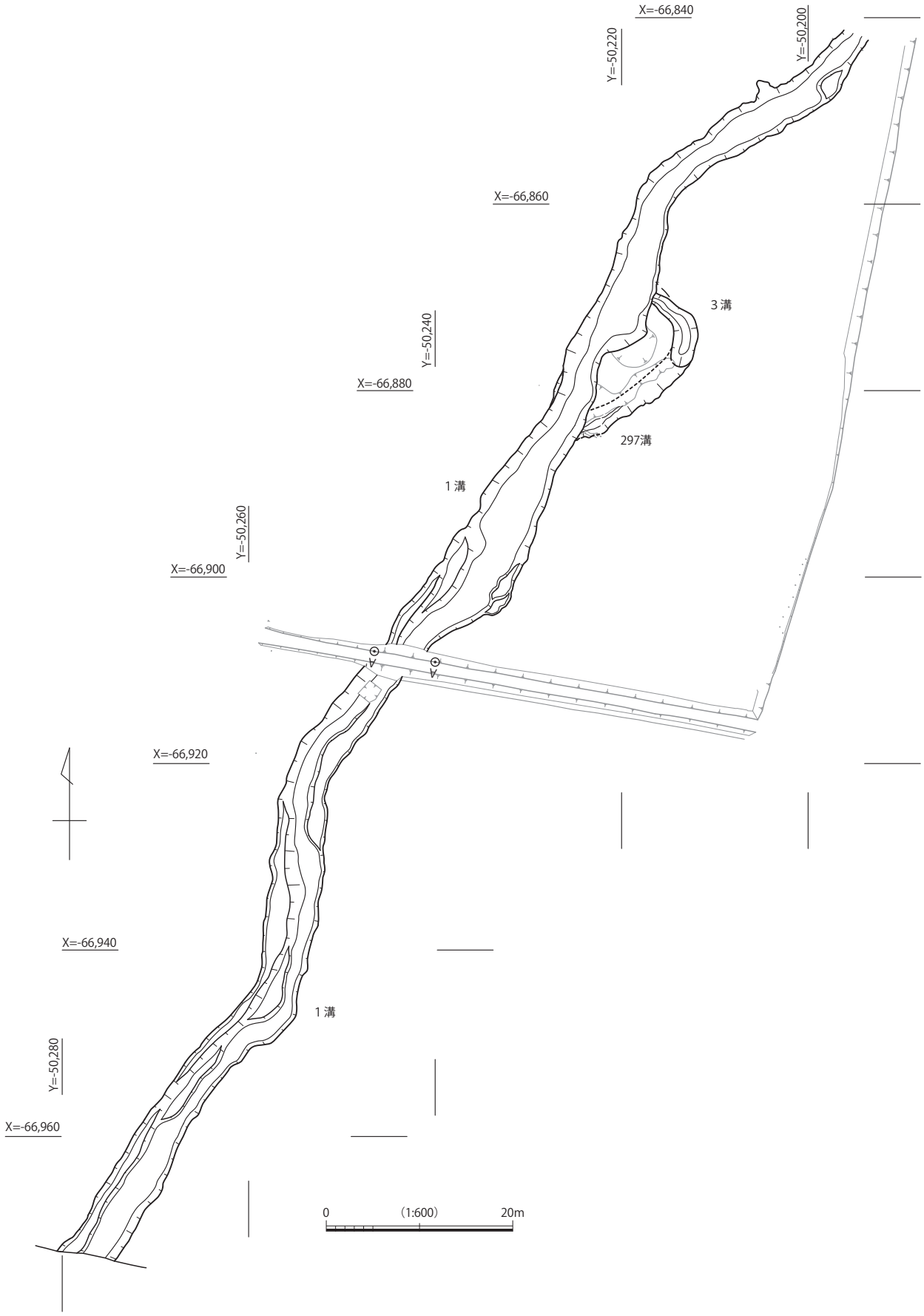
（4） 溝

1 溝（第 318・328 ～ 330 図、第 64・79・96・98 表、図版 300・301）

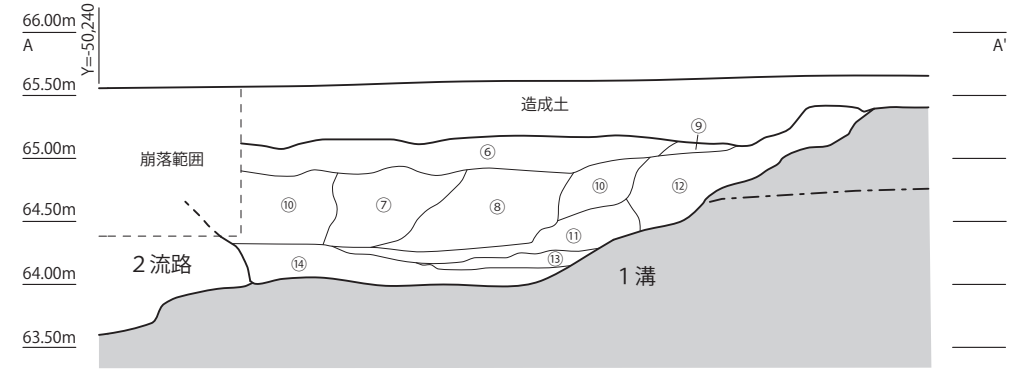
１区から４区北・南区まで、7a-9B-5j・ 6j、7a-9C-5a・ 6a・ 6b ～ 8b・ 7c ～ 10c・ 10d、9d・ 7a-10C-1d・ 1e・ 2e・ 2f ～ 6f・ 5g ～ 7g・ 6h ～ 8h・ 8i グリッドにおいて造成土中で検出した。南から北に向かい、蛇行しながら北流する。２流路を切る。掘削は重機で行った。４区の残存規模は、長さは約 154.0m、最大幅は 5.20m、検出面からの深さは 0.66ｍを測る。底面の標高は１区の南壁で 64.90m、２区の北壁が 62.15ｍで、北に向かい 2.75ｍ下がる。主軸は蛇行しているため一定しないが、おおよそ N-25° -E ～ N-36° -E をとる。埋土は砂礫を主体に、径１ｍを超える礫も複数含まれていた。遺物は中世までの土器や陶磁器、木器、石器等を含むものの、主体は近現代の陶磁器や廃棄物である。古代までの流路である２流路よりも新しい。時期は中世以降である。昭和 30 ～ 40 年代の圃場整備で埋められるまで水路として機能した。

Po369 は土師器の複合口縁甕である。Po371 ・ 372 は土師器甕であり、Po372 は短い口縁がわずかに外反する。Po388 ・ 389 は「く」字状に外折する口縁をもつ土師器甕である。Po389 は口縁外面は横ナデ、内面はハケ調整が施される。Po370 は土師器高坏の脚裾部であり、大きく裾部が広がる。Po373 ～ 387 は土師器坏と皿をまとめており、Po373 ～ 385 は赤色塗彩がなされている。Po373 ～ 382・387 は体部から口縁部が外方に直線状に立ち上がる土師器坏である。Po383・384 はほぼ同じ器形であるが高台を有する。Po385 は内面に螺旋状の暗文が描かれる土師器皿である。Po386 は底部に指頭圧痕をもつ小型の坏であり、器壁が厚い。

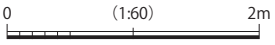
第 330 図 Po390 ～ 400 は須恵器をまとめている。Po390 ～ 392 は坏蓋である。Po390 ・ 392 は天井部から緩やかに口縁部に向かって下がり、口縁端部が屈曲する。Po390 は扁平なボタン状つまみ、Po391 は輪状つまみをもつ。Po393 は高坏、Po394 は鉢であり、体部から湾曲しながら立ち上がる。後者の器壁は薄く、重ね焼きの痕跡が観察される。初期備前焼の可能性を指摘しておきたい。Po395 は高台付皿であり、内面に擦痕がみられ平滑化しており転用硯の可能性がある。Po396 は壺の口縁肩部であり、外面は平行タタキ、内面は同心円状当て具痕がみられる。Po399 は平瓶で外面前面に

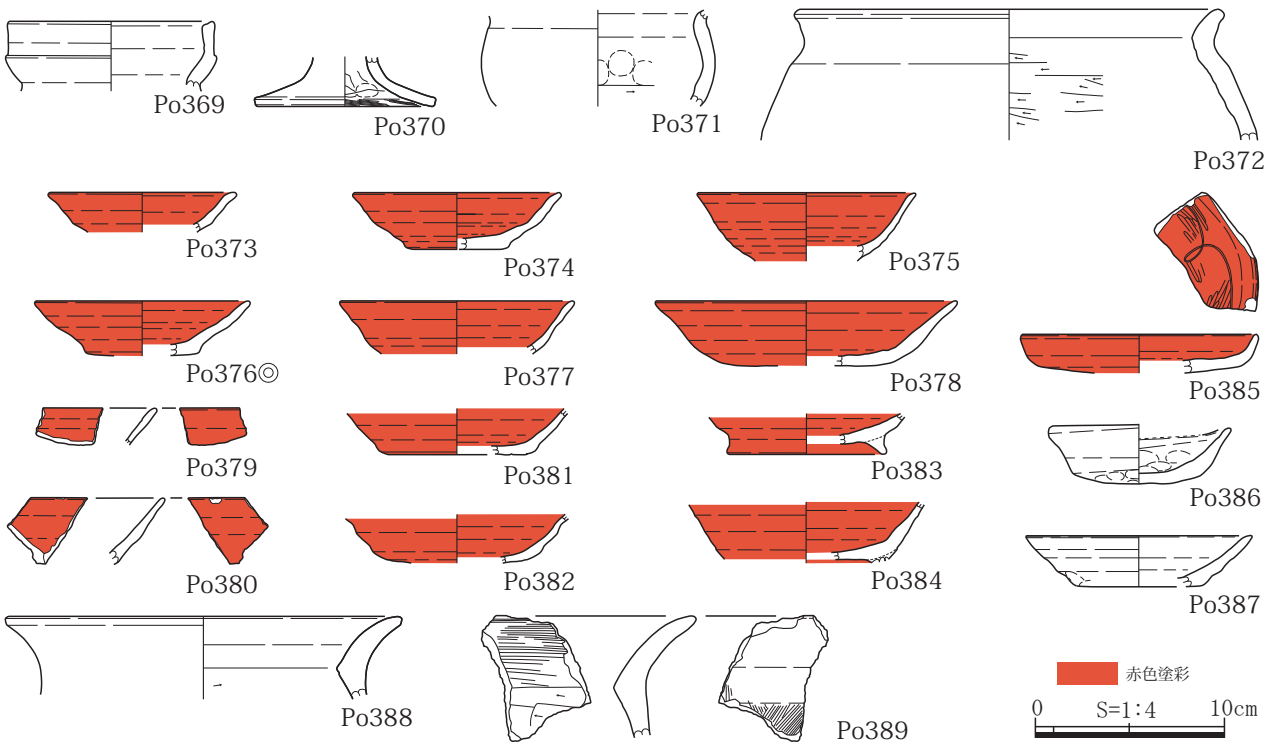

X=-66,840
Y=-50,220
Y=-50,200
X=-66,860
3溝
Y=-50,240
X=-66,880
297溝
1溝
Y=-50,260
X=-66,900
A
A'
X=-66,920
X=-66,940
1溝
Y=-50,280
X=-66,960
0
(1:600)
20m

第 328 図　1 溝（1）



1溝 A-A'
⑥ 10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (極粗粒砂～巨礫混)　粘性強　しまり強
⑦ 10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (10YR6/2 灰黄褐色 シルトφ5cmブロック混　極粗粒砂～巨礫混　生木混)　粘性やや強　しまり強
⑧ 10YR5/2 灰黄褐色 砂混じりシルト (10YR2/1 黒色 シルトφ3～5cmブロック混　極粗粒砂～巨礫混)　粘性強　しまり強
⑨ 10YR3/2 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ10～20cmブロック混)　粘性やや強　しまり強
⑩ 10YR5/2 灰黄褐色 砂混じりシルト (極粗粒砂混　φ5～10cm礫混)　粘性中　しまり中
⑪ 10YR3/2 黒褐色 砂混じりシルト (極粗粒砂混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ3cmブロック混
10YR2/1 黒色 シルトφ5cmブロック混　ゴミ混　生木混)　粘性やや強　しまり強
⑫ 10YR5/2 灰黄褐色 砂混じりシルト (10YR2/1 黒色 シルトφ10cmブロック混　φ5～10cm礫混)　粘性やや強　しまり強
⑬ 10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (極粗粒砂混)　粘性強　しまり中
⑭ 2.5Y5/3 黄褐色 砂礫 極粗粒砂～巨礫混)　粘性弱　しまり弱



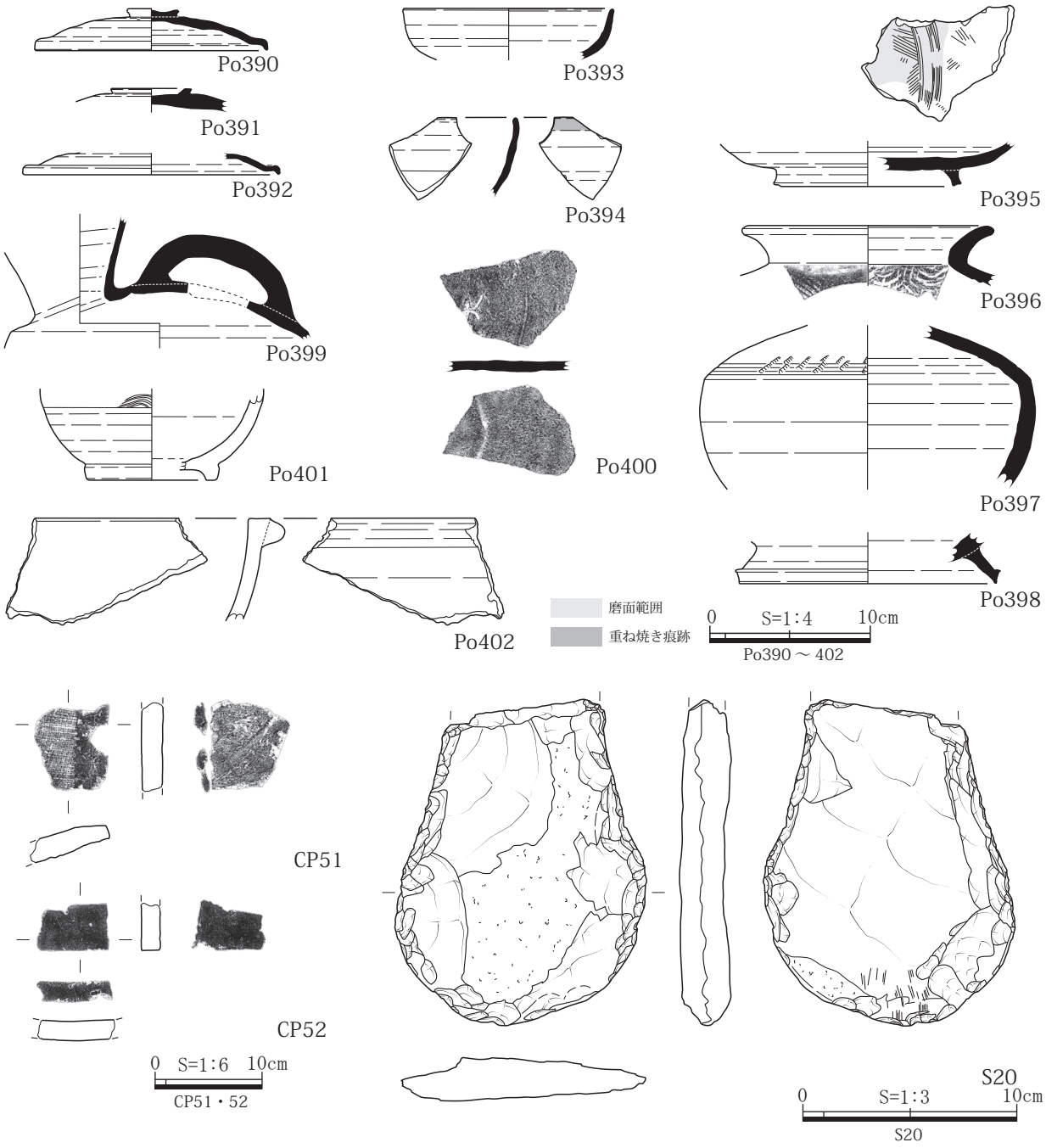


第 329 図　１溝（２）、１溝出土遺物（１）

自然釉が付着する。Po397 ・ 398 は壺で、前者は肩部から体部、後者は高台付底部である。Po400 は須恵器の平瓶の肩部である。篦描き文字「大」が確認できる。Po401 は陶器の壺、Po402 は口縁外方に突帯が巡る火鉢である。

CP51・52 は平瓦である。CP51 の凸面は工具によるナデ、凹面は布目がみられ側縁は面取りがなされる。CP52 は凸面はナデ、凹面は磨面となっており端縁は面取りがなされている。

S20 は板状安山岩製の石鍬である。基部は欠損しており、残存長 15.2cm、最大幅 11.8cm、最大厚 2.3cm を測る。

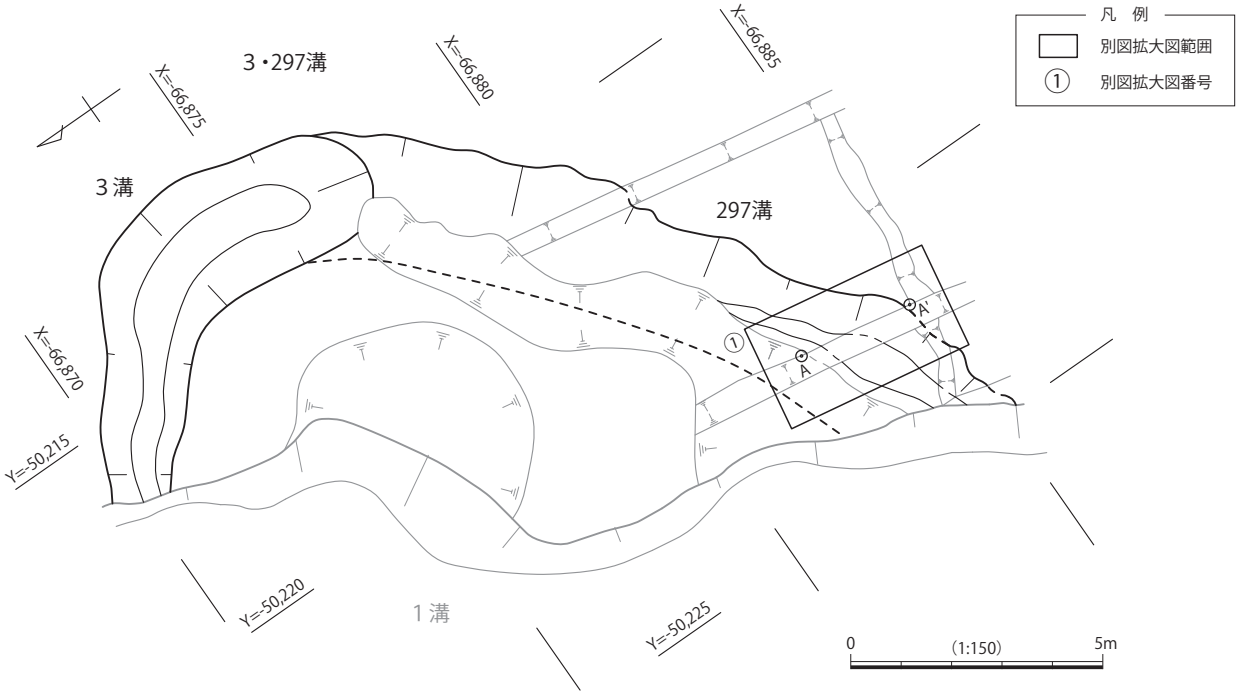


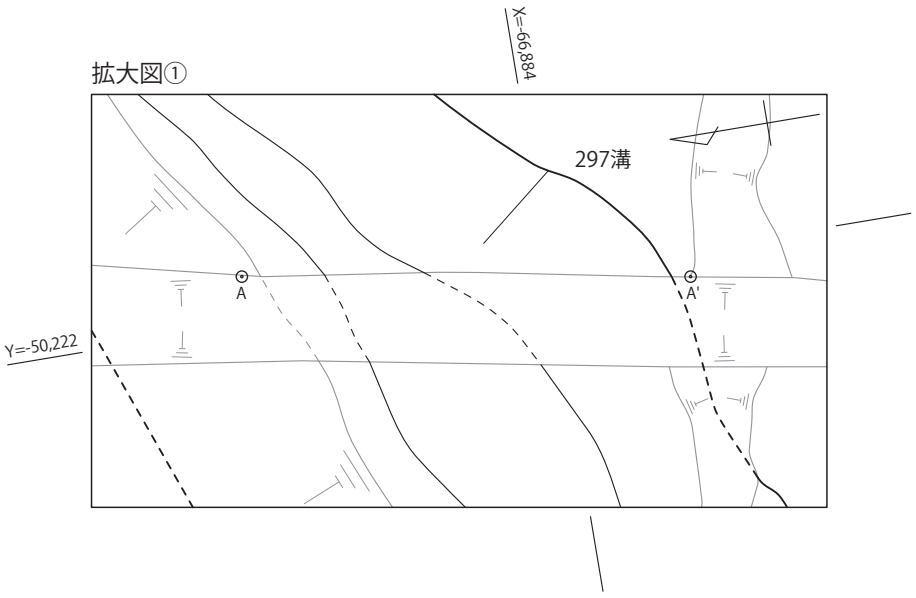
第 330 図　１溝出土遺物（２）

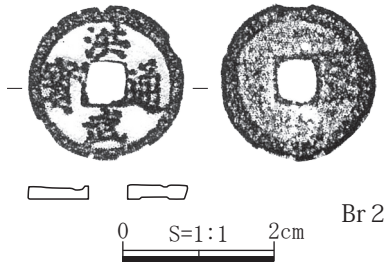
３・297 溝（第 318・331 図、第 64・99 表、図版 276・301）

［３溝］

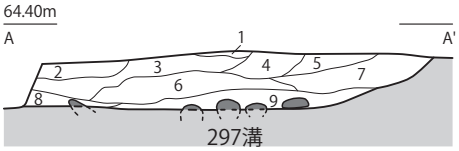
北区東側中央 7a-9C-7b・8b グリッドにおいて、Ⅰｂ層上面で検出した。底面の西側は礫層、東側は２流路の堆積土である。検出段階では撹乱と判断し、上層を掘削した。西側で１溝に切られる。南側で 297 溝と接続し、２流路の東側を弧状に張り出す。残存規模は長さ 8.96m、最大幅 2.52m、検出面からの深さ 0.40m を測る。底面の標高は南東側で 63.47m、北端が 63.38m で、東側に向かい 0.09m 下がる。主軸は 297 溝との結合箇所付近ではほぼ北方向、１溝に切られる箇所は N-59°-W で、湾状に曲がる。埋土は砂礫を主体とする。底面付近から明銭の洪武通宝 Br2 が出土した。初鋳年は 1368 年である。







Br 2



297溝
1　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (φ～0.5cm礫多混　φ～3cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性弱　しまりやや弱
2　10YR6/1 褐灰色 中粒砂 (φ～0.5cm礫少混)　粘性弱　しまり弱
3　10YR6/1 褐灰色 中粒砂 (10YR8/1 灰白色 中粒砂φ～15cmブロック混)　粘性弱　しまり弱
4　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性やや弱　しまり中
5　10YR6/2 灰黄褐色 砂質シルト (φ～0.5cm礫多混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性やや弱　しまり中
6　10YR5/1 褐灰色 中粒砂 (鉄分多混　炭化物φ～1cm混)　粘性弱　しまり弱
7　10YR6/2 灰黄褐色 砂質シルト (φ～0.5cm礫多混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性弱　しまり弱
8　10YR5/1 褐灰色 粗粒砂 (鉄分多混　φ～3cm礫混)　粘性弱　しまり弱
9　10YR5/1 褐灰色 中粒砂 (10YR2/1 黒色 中粒砂φ～10cmブロック混　鉄分多混)　粘性弱　しまり弱

0　(1:40)　1m

第 331 図　３・297 溝、３溝出土銭貨

本遺構の帰属時期は、出土遺物から中世後期以降と考えられる。

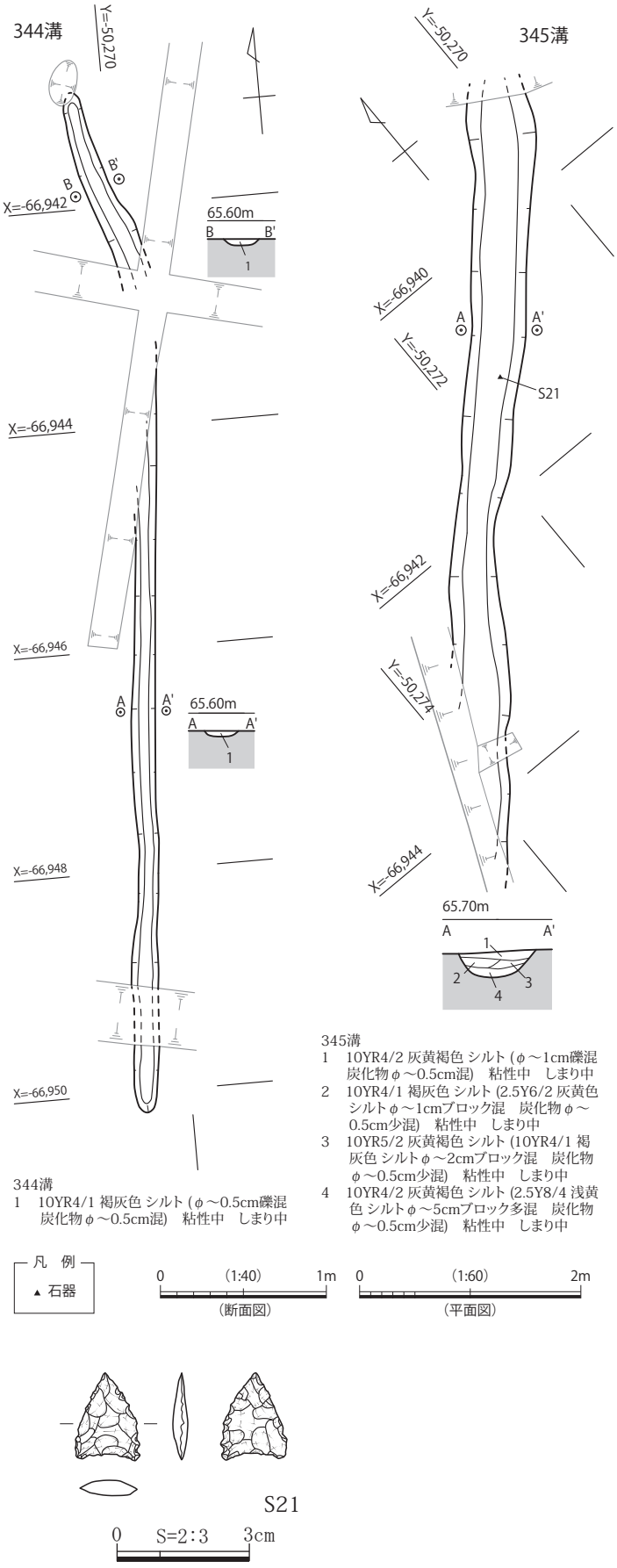
［297 溝］

北区東側中央 7a-9C-8b・9b・9c グリッドにおいて、Ⅰｂ層上面で検出した。北側で３溝と接続し、２流路の東側を弧状に張り出す。残存規模は長さ 11.70m、最大幅 2.12m、検出面からの深さ 0.32m を測る。底面の標高は南端で 64.02m、北側が 63.90m で、南側に向かい 0.12m 下がる。１溝に切られた箇所から３溝との結合付近までの主軸は、N-53° -E をとる。埋土は９層に分けられる。砂層を主体とすることから、１溝が東側に氾濫した痕跡と考えられる。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、３溝と接続することから中世後期以降と考えられる。

344 溝（第 318・332 図、第 64 表、図版 278）

南区東側南寄り 7a-10C-5g・5h・6h グリッドにおいて、Ⅲ -1 層上面で検出した。残存規模は長さ 9.17m、最大幅 0.19m、検出面からの深さ 0.04m を測る。ほぼ直線状に南から北方向に向かう。底面の標高は南端で 65.43m、中央付近が 65.44m、北端が 65.43m でほぼ平坦である。主軸は南側では N- 5° -E、北側にかけて N-17° -W に屈曲する。埋土は単層で水流に伴う砂礫を含まないことから、区画または耕作に伴う溝と考えられる。遺物は土師器片が出土したものの、小片のため図化していない。



第 332 図　344・345 溝、345 溝出土石器

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から中世以降と考えられる。

345 溝（第 318・332 図、第 64・98 表、図版 278・301）

南区東側南寄り 7a-10C-4g・ 4h・ 5h グリッドにおいて、Ⅲ -1 層上面で検出した。ほぼ直線状に南西から北東方向に向かう。残存規模は、長さ 5.64m、最大幅 0.45m、検出面からの深さ 0.16ｍを測る。底面の標高は南西端で 65.37m、北東側が 65.33ｍで、北東方向に 0.04ｍ下がる。主軸は N-42° -E をとる。埋土は４層に分けられる。底面上の４層にはⅤ層由来のブロックを含むものの、水流に伴う砂礫を含まないことから、区画または耕作に伴う溝と考えられる。遺物は掘り下げ中に土師器片が出土したものの、小片のため図化していない。他には、凹基無茎式の石鏃 S21 が出土した。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から中世以降と考えられる。

134 溝（第 318・333 図、第 64 表、図版 275）

北区東側中央 7a-9B-5j･6j、7a-9C-6a グリッドにおいて、近世以降の耕作土と盛土を除去した後、２流路の上面で検出した。ほぼ直線状に西から東方向に向かう。残存規模は長さ 9.07ｍ、最大幅 0.76m、検出面からの深さ 0.25ｍを測る。底面の標高は西端で 63.60m、東端が 63.53ｍで、東側に向かい 0.07ｍ下がる。主軸は N-82° -E をとる。埋土は５層に分けられる。いずれも砂礫層である。西側で１溝に接続することから、東側に向かう水路と考えられる。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から中世以降と考えられる。

332 溝（第 318・333 図、第 64 表、図版 275）

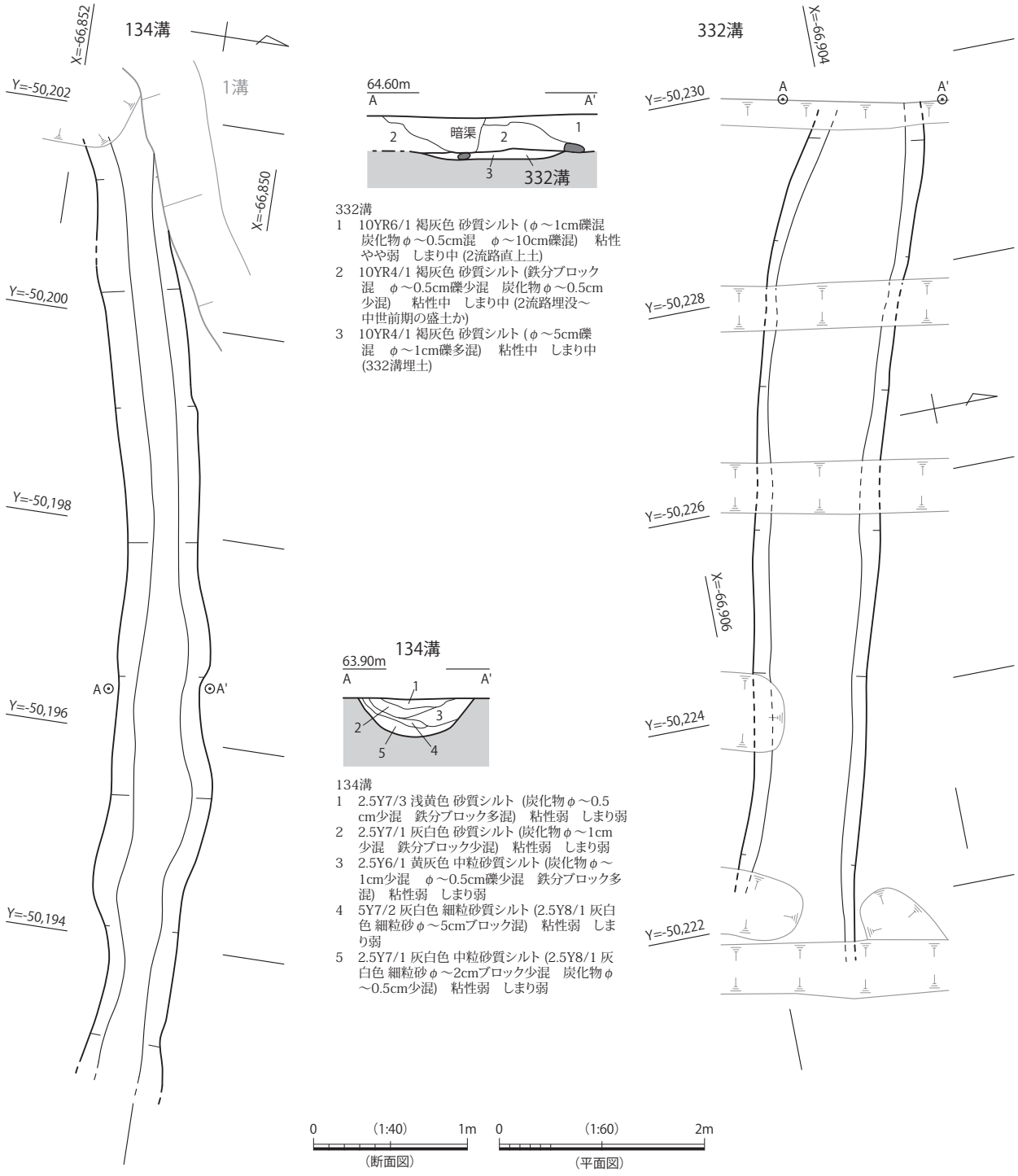
北区東側南寄り 7a-10C-1c グリッドにおいて、Ⅰｂ層上面で検出した。残存規模は長さ 7.97m、最大幅 1.24m、検出面からの深さ 0.07ｍを測る。ほぼ直線状に西から東方向に向かう。底面の標高は西端が 64.14m、東端も 64.14ｍで、底面に多少の凹凸はあるもののほぼ平坦である。主軸は N-75° -W をとる。埋土は単層である。１層は２流路の埋没後の耕作土で、２層は 332 溝を覆う盛土である。２流路の埋没後に盛土されたと考えられる。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から中世以降と考えられる。

389 溝（第 318・334 図、第 64・80 表、図版 277・294・301）

南区東側南寄り 7a-10C-8d・ 9d グリッドにおいて、Ⅲ -1 層上面で検出した。周辺は東から西に下がる浅い耕地段差の西端にあたる。東隣には併行して鉄分の堆積した幅 0.5ｍ～１ｍの畦畔がある。ほぼ直線状に南から北方向に向かう。底面の標高は南端で 65.44m、北側が 65.41ｍで、北に向かい 0.03ｍ下がる。南側で途切れるものの、１区の 200 溝に接続すると考えられる。残存規模は長さ 3.26m、最大幅 0.29m、検出面からの深さ 0.06ｍを測る。主軸は N-30° -E をとる。埋土は３層に分けられる。東側で４層、西側で５層を切るが、いずれも２流路堆積後の耕作土である。１区から連続すること、畦畔の西隣を併行し、水流に伴う砂礫を含まないことから区画を目的とした溝と考えられる。遺物は土師器片、瓦質土器片が出土した。このうち羽釜 Po403 を図化した。鍔部は欠損するものの、口縁端部は直立することから、14 ～ 15 世紀の所産である。

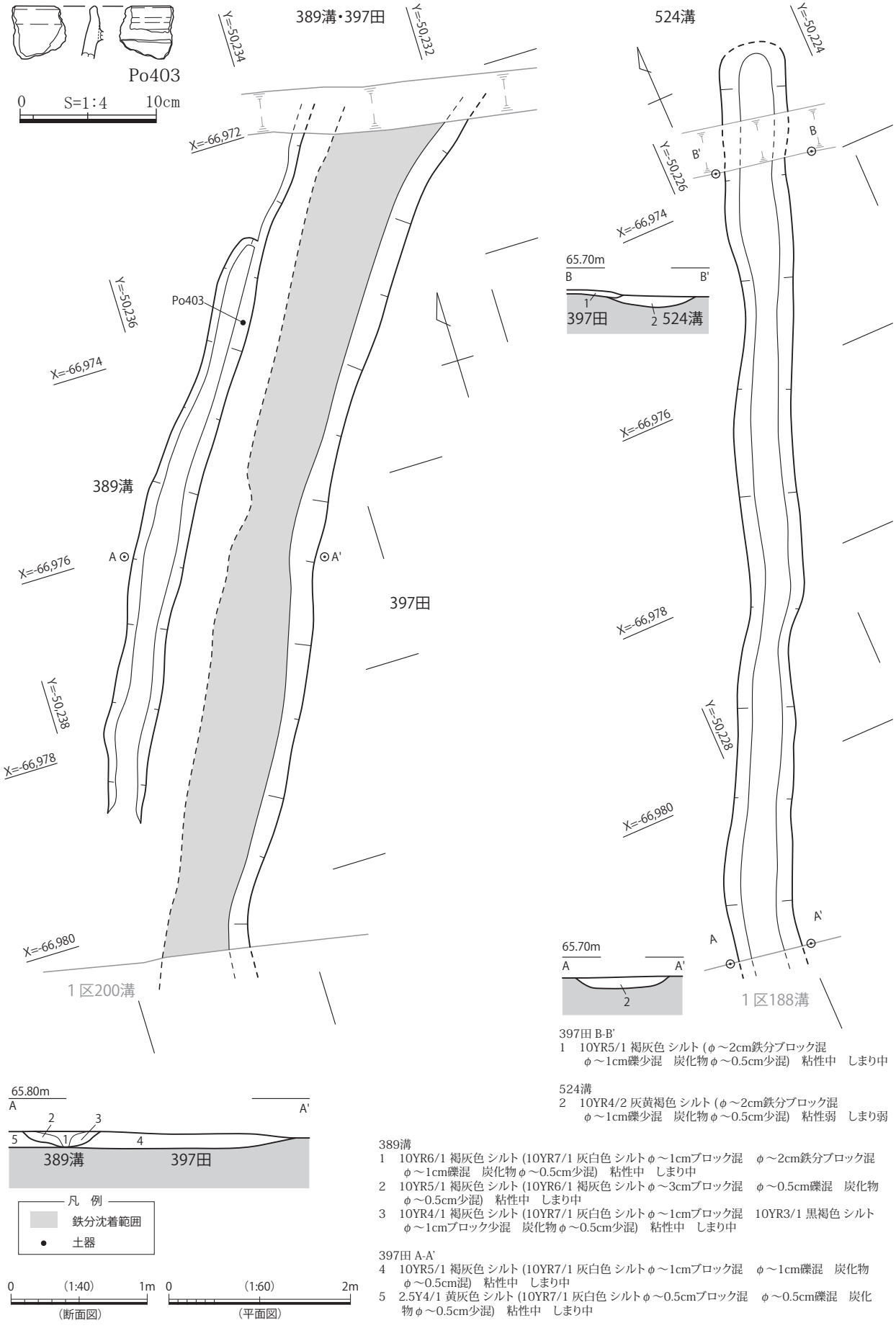
本遺構の帰属時期は、出土遺物から中世以降と考えられる。



第 333 図　134・332 溝

524 溝（第 318・334 図、第 64 表、図版 277）

南区東側南寄り 7a-10C-8c・9c グリッドにおいてⅢ -1 層の上面、397 田に鉄分の沈着した層の下面で検出した。ほぼ直線状に南西から北東方向に向かう。南側で１区の 188 溝に接続する。底面の標高は南端で 65.46m、北端が 65.37m で、北に向かい 0.09m 下がる。残存規模は長さ 10.03m、最大幅 0.60m、検出面からの深さ 0.09m を測る。１区の 188 溝は長さ 6.70m で、合計の長さは約 17m となる。主軸は N-22° -E をとる。埋土は単層で、水流に伴う砂礫を含まないことから、397 田より古い段階での区画または耕作に伴う溝と考えられる。遺物は土師器片が出土した。土師器皿の底



397田 B-B'
1　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～2cm鉄分ブロック混
　φ～1cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

524溝
2　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (φ～2cm鉄分ブロック混
　φ～1cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性弱　しまり弱

389溝
1　10YR6/1 褐灰色 シルト (10YR7/1 灰白色 シルトφ～1cmブロック混　φ～2cm鉄分ブロック混
　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
2　10YR5/1 褐灰色 シルト (10YR6/1 褐灰色 シルトφ～3cmブロック混　φ～0.5cm礫混　炭化物
　φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
3　10YR4/1 褐灰色 シルト (10YR7/1 灰白色 シルトφ～1cmブロック混　10YR3/1 黒褐色 シルト
　φ～1cmブロック少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

397田 A-A'
4　10YR5/1 褐灰色 シルト (10YR7/1 灰白色 シルトφ～1cmブロック混　φ～1cm礫混　炭化物
　φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
5　2.5Y4/1 黄灰色 シルト (10YR7/1 灰白色 シルトφ～0.5cmブロック混　φ～0.5cm礫混　炭化
　物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

第 334 図　389・524 溝、397 田、389 溝出土土器

部片もあるが、小片のため図化していない。出土遺物の時期は 397 田より新しい。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から中世後期以降と考えられる。

（５） 耕作溝

［北区］

北区西寄り 7a-9C-4b ～ 4d・5b ～ 5d・6c・7c ～ 7e・8c・8d・9c・9d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した溝群である。溝群は調査段階で任意にグルーピングしたものであり、同じ溝群のなかでも主軸方向が概ね南北軸と東西軸に分かれる。溝は遺存状態が悪く、途中で途切れている部分も認められる。埋土はⅠ・Ⅱ・Ⅴ層に由来する褐灰色シルトや黒褐色シルトを主体とする。各溝の位置関係と埋土の特徴から、本遺構は中世以降の畑等の耕作痕と考えられる。

耕作溝群１（第 318・335・336・347 図、第 60・80 表、図版 289・304）

北区北西 7a-9C-4b・4c グリッドにおいて検出した耕作溝群 1-1 ～ 21 である。南北約７m、東西約７mの範囲において、概ね N-19° ～ 34° -E（耕作溝群 1-3 ～ 16・19・20）と N-62° ～ 85° -W（耕作溝群 1-1・2・17・18・21）を主軸とする幅 0.04 ～ 0.18mの溝を筋状に検出している。溝は遺存状態が悪く途中で途切れているものが多く、長軸は 0.19 ～ 1.18mを測る。耕作溝群 1-10 から須恵器甕体部 Po407、耕作溝群 1-19 から同じく須恵器甕体部 Po408 が出土している。

耕作溝群２（第 318・335・337 ～ 339・347 図、第 60・80 表、図版 289・304）

北区北西 7a-9C-5b・5c・6c グリッドにおいて検出した耕作溝群 2-1 ～ 40 である。南北約 14m、東西約 10mの範囲において、概ね N-43° ～ 60° -W（耕作溝群 2-1 ～ 9・11 ～ 18・20・21・23 ～ 25・31・35 ～ 37・40）と N-5° ～ 49° -E（耕作溝群 2-10・19・22・26 ～ 30・32 ～ 34・38・39）を主軸とする幅 0.06 ～ 0.49mの溝を筋状に検出している。溝は遺存状態が悪く途中で途切れているものが多く、長軸は 0.16 ～ 3.68mを測る。耕作溝群 2-1 から須恵器甕体部 Po406、耕作溝群 2-9 から須恵器肩部 Po409 が出土している。

耕作溝群３（第 318・335・340・341 図、第 60・61 表、図版 289）

北区北西 7a-9C-5b・5c・6c グリッドにおいて検出した耕作溝群 3-1 ～ 16 である。南北約 10.5m、東西約５mの範囲において、概ね N-10° ～ 61° -E（耕作溝群 3-1 ～ 12・14・15）と N-63° ～ 83° -W（耕作溝群 3-13・16）を主軸とする幅 0.06 ～ 0.49mの溝を筋状に検出している。溝は遺存状態が悪く途中で途切れているものが多く、長軸は 0.22 ～ 2.45mを測る。

耕作溝群４（第 318・335・342・347 図、第 61・80 表、図版 289・290・304）

北区北西 7a-9C-4d グリッドにおいて検出した耕作溝群 4-1 ～ 3 である。南北約２m、東西約４mの範囲において、概ね N-64° ～ 69° -W（耕作溝群 4-1 ～ 3）を主軸とする幅 0.19 ～ 0.61mの溝を筋状に検出している。溝は遺存状態が悪く途中で途切れているものが多く、長軸は 0.29 ～ 0.40mを測る。耕作溝群 4-1 から須恵器高坏 Po405 が出土している。

耕作溝群５（第 318・335・343・347 図、第 61・80 表、図版 289・290・304）

北区中央 7a-9C-6c・ 7c グリッドにおいて検出した耕作溝群５-1 ～ 13 である。南北約 12m、東西約５ｍの範囲において、概ね N-57° ～ 73° -W（耕作溝群５-5・9 ～ 11・13）と N-7° ～ 18° -E（耕作溝群５-6・7・12）を主軸とする幅 0.09 ～ 0.49ｍの溝を筋状に検出している。溝は遺存状態が悪く途中で途切れているものが多く、長軸は 0.41 ～ 2.89ｍを測る。耕作溝群５-4 から須恵器坏蓋 Po404 が出土している。

耕作溝群６（第 318・335・344・347 図、第 61・80 表、図版 290・304）

北区中央 7a-9C-7d・ 7e グリッドにおいて検出した耕作溝群６-1 ・ 4 ～ 10 である。南北約８ｍ、東西約９ｍの範囲において、概ね N-8° ～ 83° -W（耕作溝群６-1 ・ 9）と N-7° ～ 21° -E（耕作溝群６-4 ～ 8・10）を主軸とする幅 0.08 ～ 0.27ｍの溝を筋状に検出している。溝は遺存状態が悪く途中で途切れているものが多く、長軸は 0.21 ～ 1.79ｍを測る。耕作溝群６-4 から須恵器甕体部 Po410 が出土している。

耕作溝群７（第 318・335・345・347 図、第 61・80 表、図版 290・304）

北区中央 7a-9C-8c・ 8d・ 9c・ 9d グリッドにおいて検出した耕作溝群７-9 である。南北約 13m、東西約 11ｍの範囲において、概ね N-2° ～ 6° -W（耕作溝群７-6 ～ 8）と N-17° ～ 47° -E（耕作溝群７-１～５・9）を主軸とする幅 0.07 ～ 0.46ｍの溝を筋状に検出している。溝は遺存状態が悪く途中で途切れているものが多く、長軸は 0.34 ～ 1.54ｍを測る。耕作溝群７-7 から須恵器甕体部 Po411 が出土している。

［北区東側・南区西側］

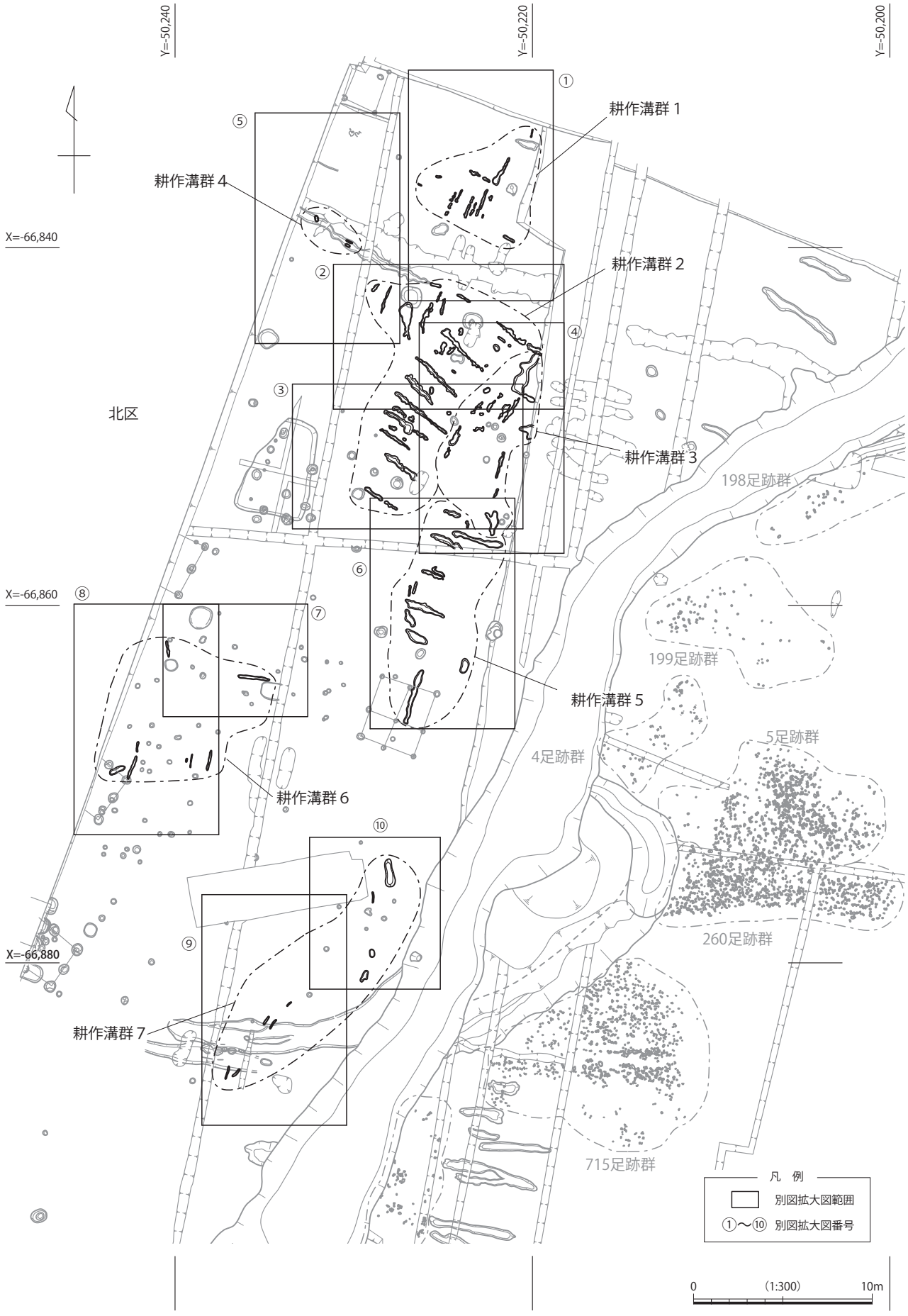
北区東側 7a-9C-10b・ 10c グリッドおよび南区西側 7a-10C-5g・ 6h グリッドにおいて検出した。いずれも東西軸をとる。北区東側の耕作溝は、上層が造成土で近世の陶磁器を含むことから、近世以前の耕作溝である。南区西側の耕作溝からは出土遺物はなく、時期は不明である。

298 耕作溝（第 346・347 図、第 61・80 表、図版 304）

北区東側中央 7a-9C-10b・ 10c グリッドにおいて、造成土の下、Ⅰｂ層上面で検出した。残存規模は長さ 5.44m、最大幅 0.59m、検出面からの深さ 0.05ｍを測る。東西方向を向き、西側では分岐する。主軸は N-76° -W をとる。埋土は単層で砂を含む。遺物は手づくねの土師器皿 Po412 が出土した。口縁部は一段ナデで、13 ～ 14 世紀の所産である。

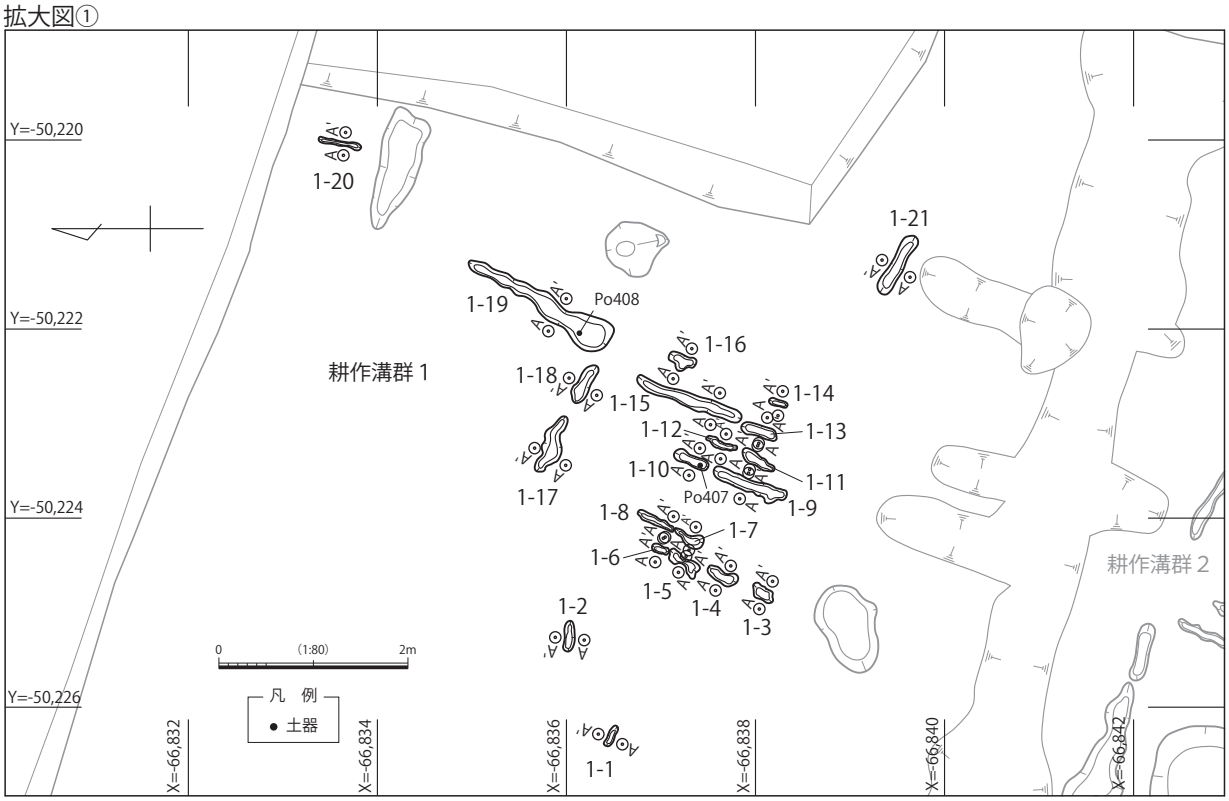
299 耕作溝（第 346 図、第 61 表）

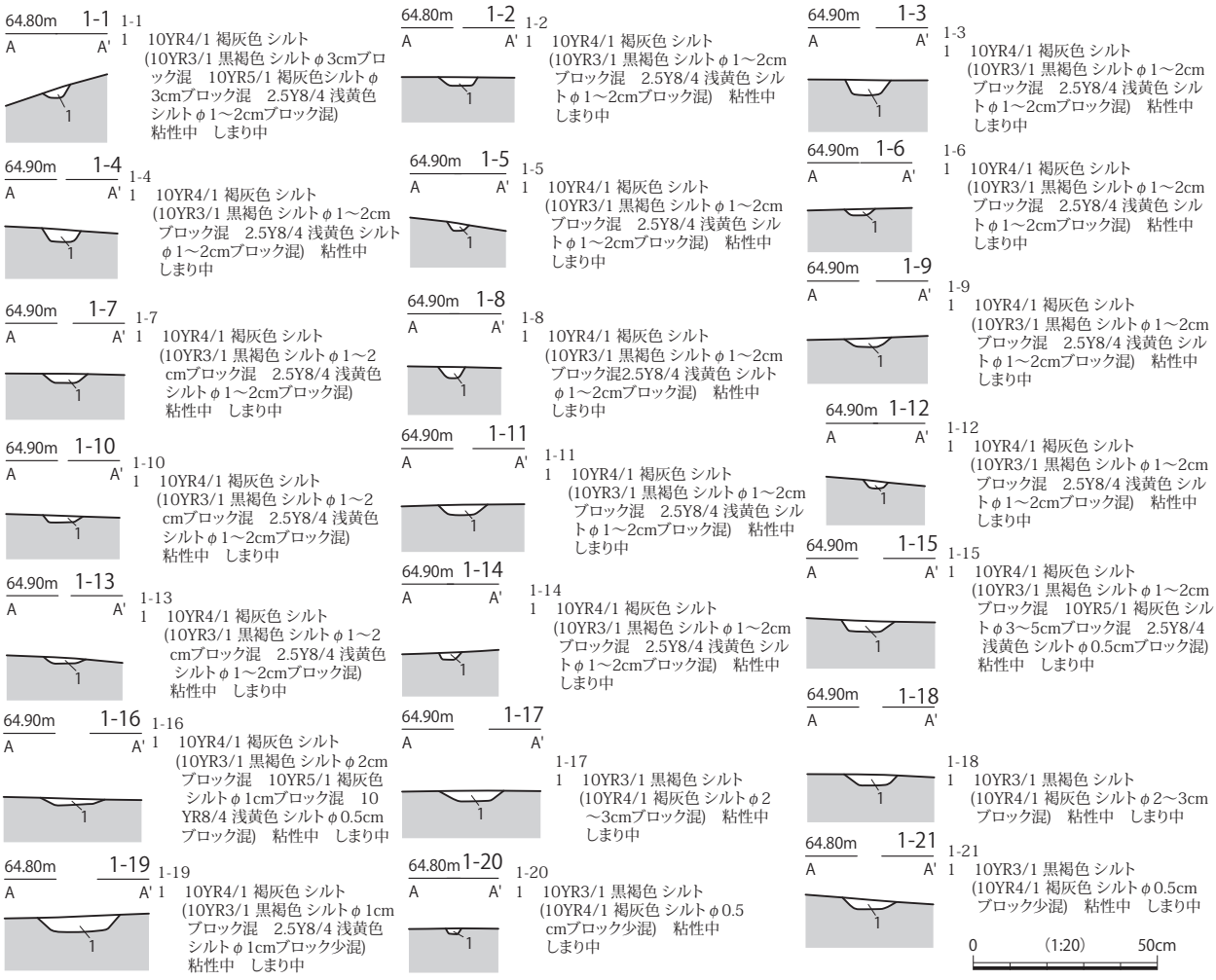
北区東側中央 7a-9C-10c グリッドにおいて、造成土の下、Ⅰｂ層上面で検出した。残存規模は長さ 4.92m、最大幅 0.41ｍ、検出面からの深さ 0.10ｍを測る。東西方向を向く。主軸は N-78° -W をとる。埋土は単層で砂を含む。遺物は出土していない。



第 335 図　耕作溝（北区西側）全体図

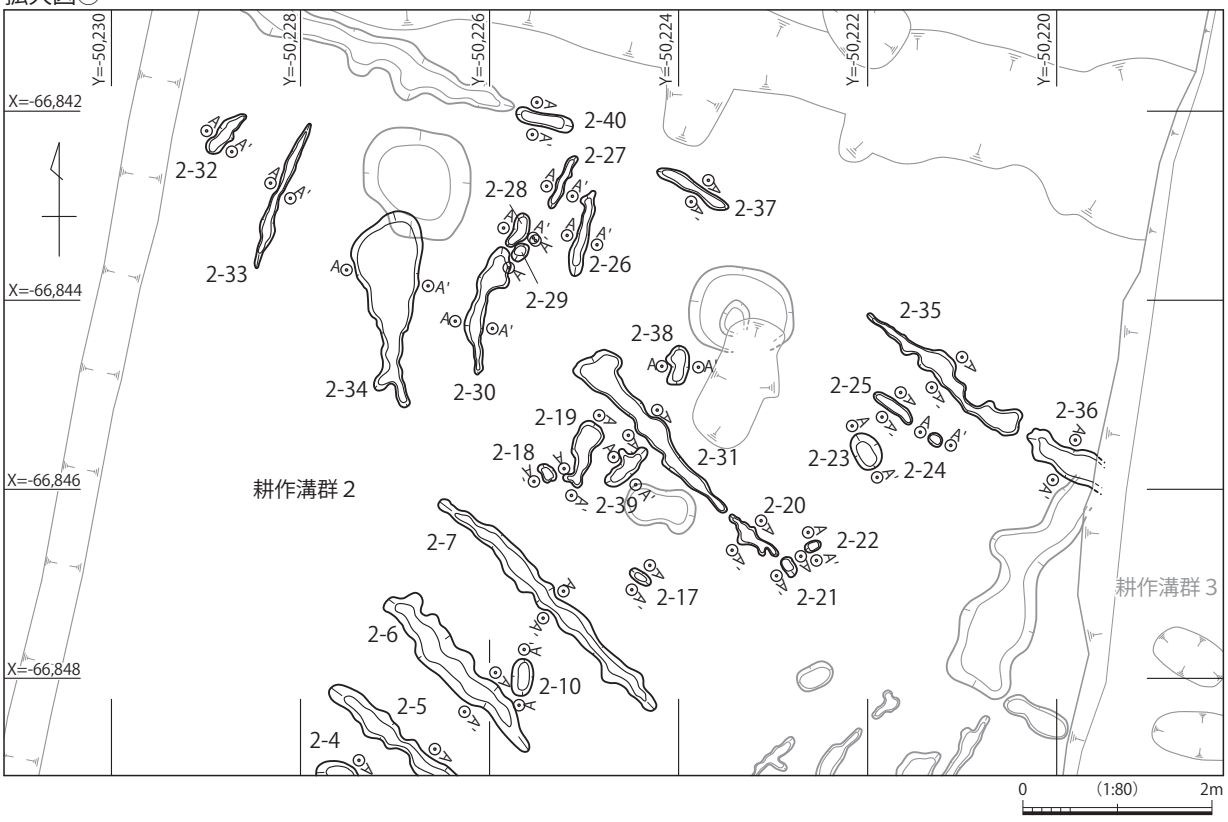
拡大図①





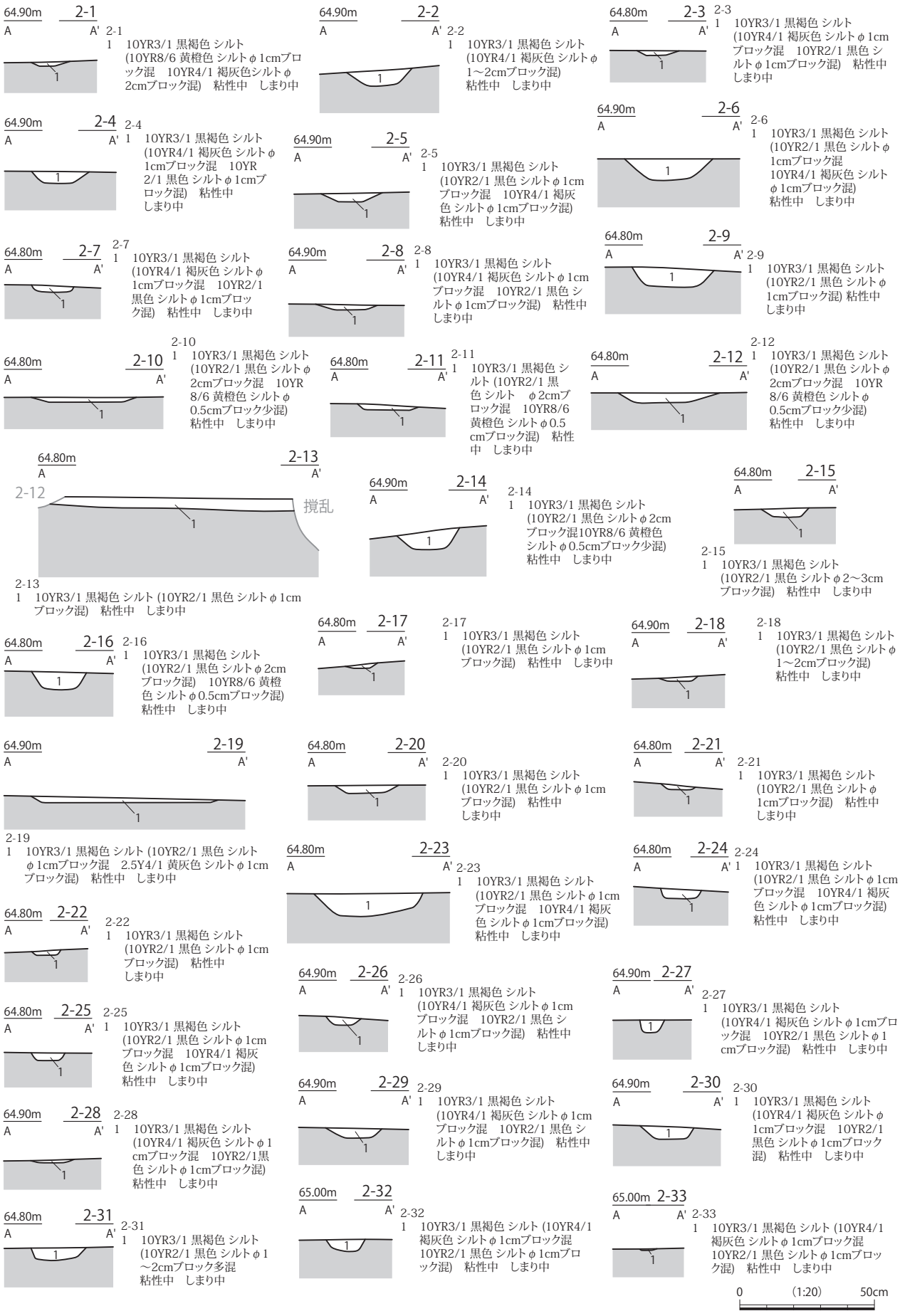
第 336 図　耕作溝群 1

拡大図②

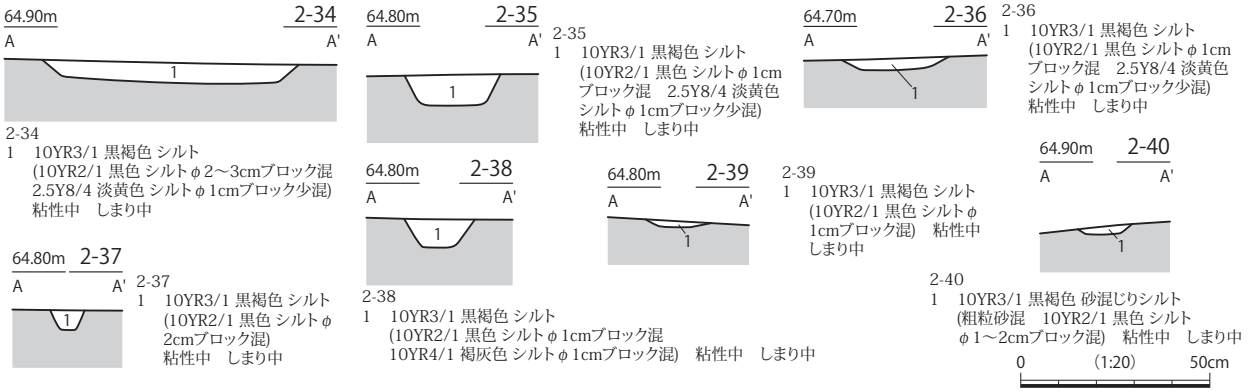


拡大図③

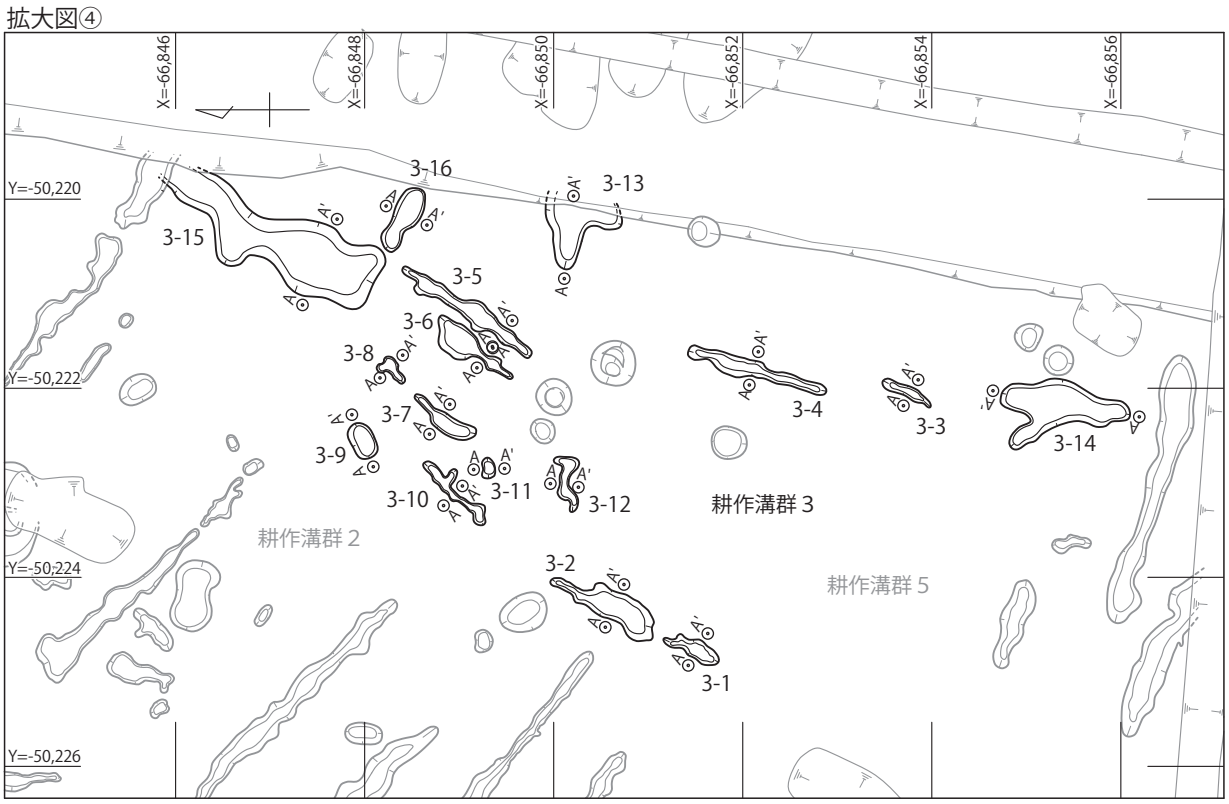
第 337 図　耕作溝群２（１）

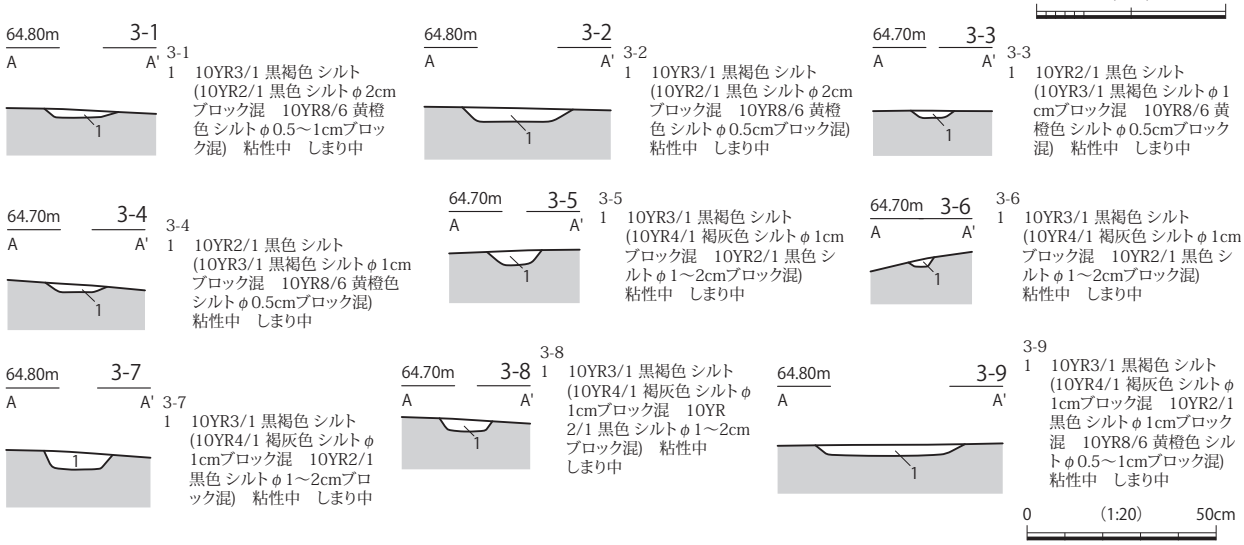


第 338 図　耕作溝群２（２）

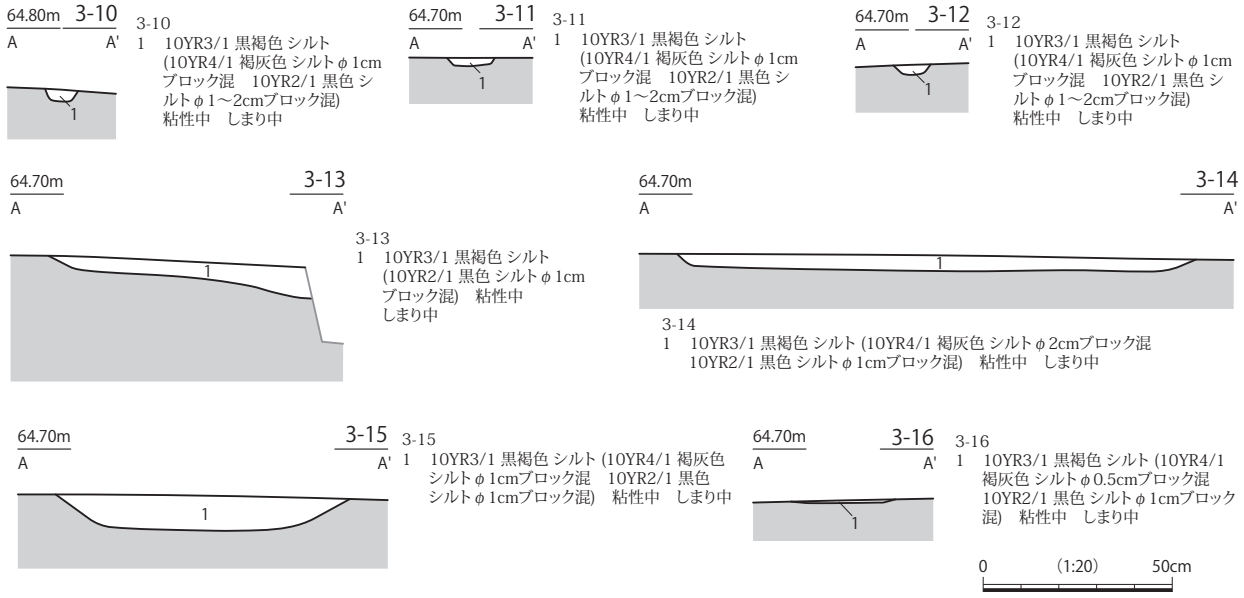


第 339 図　耕作溝群２（３）



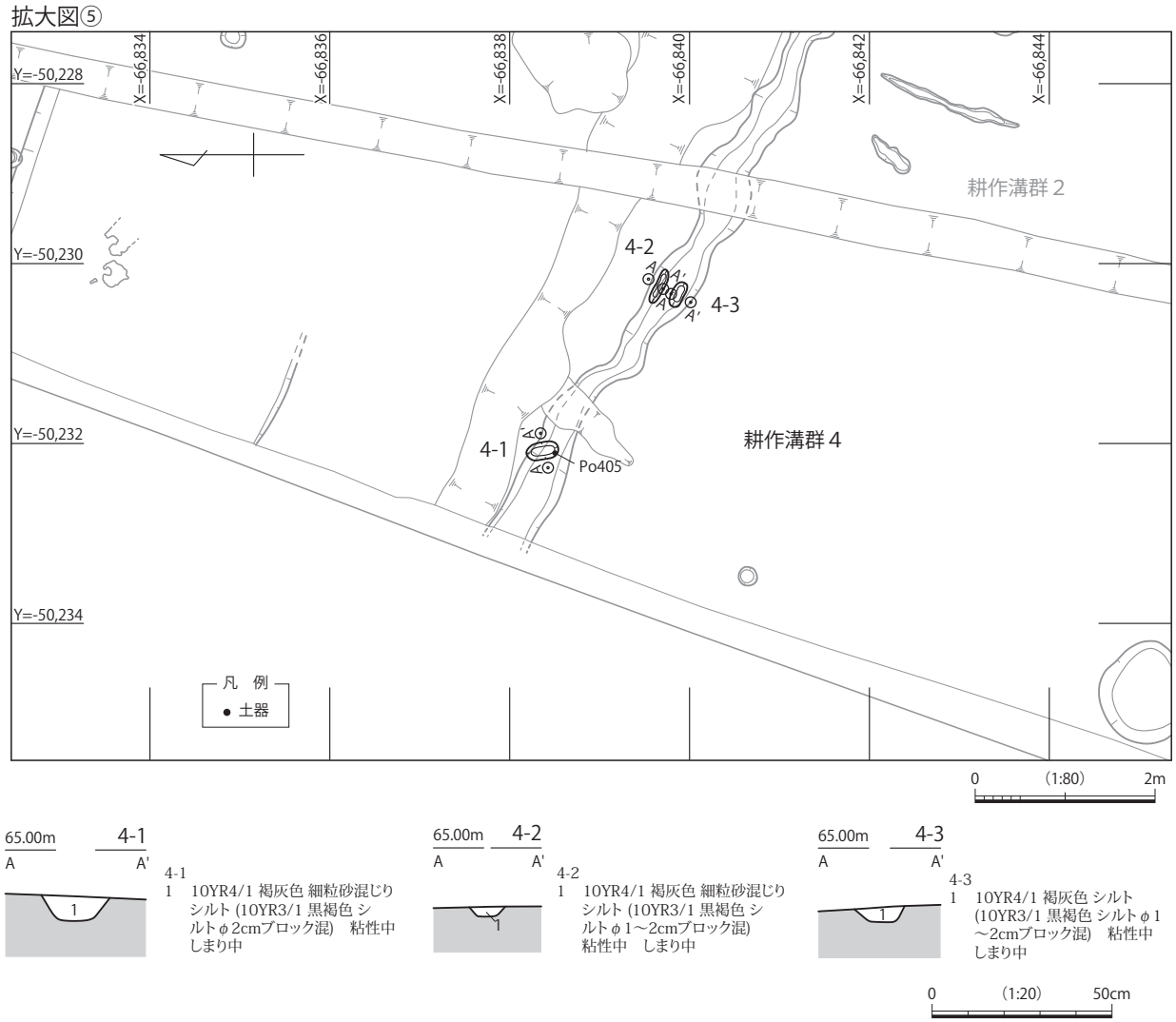


第 340 図　耕作溝群３（１）



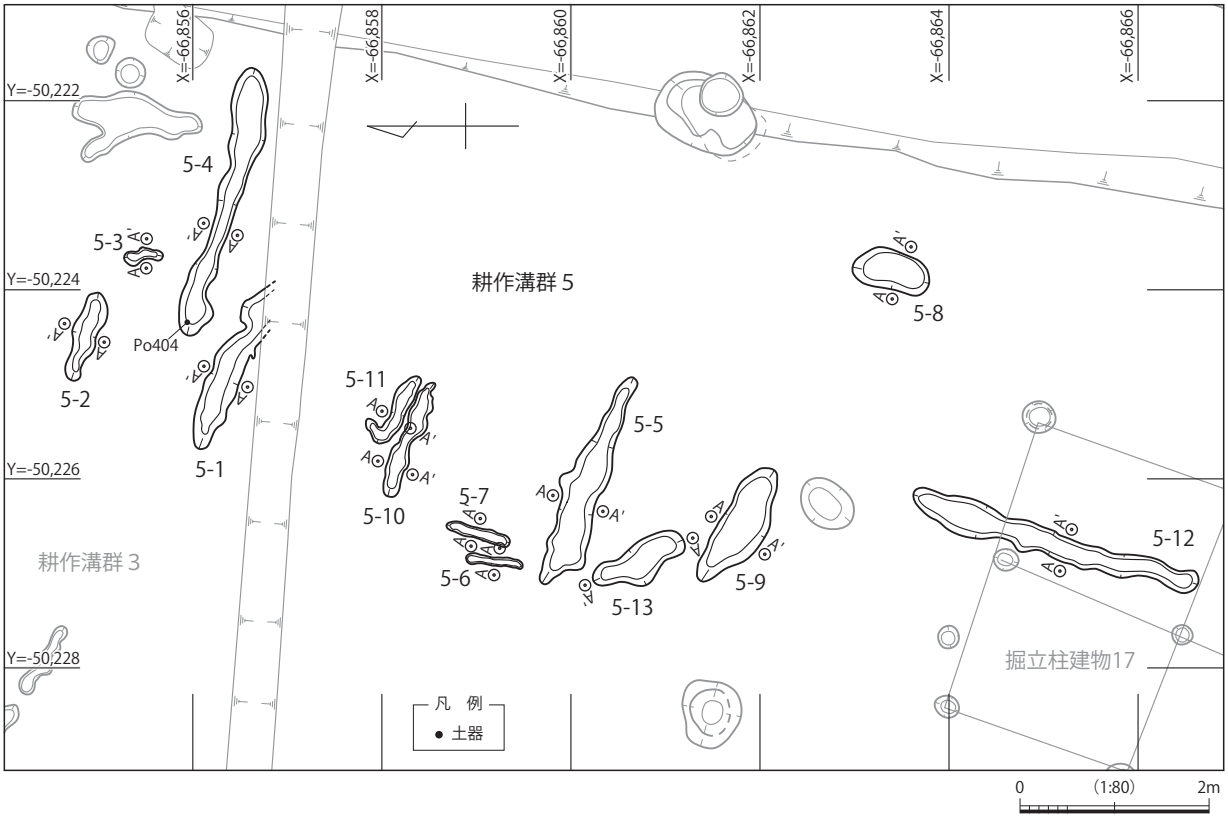
第 341 図　耕作溝群３（２）

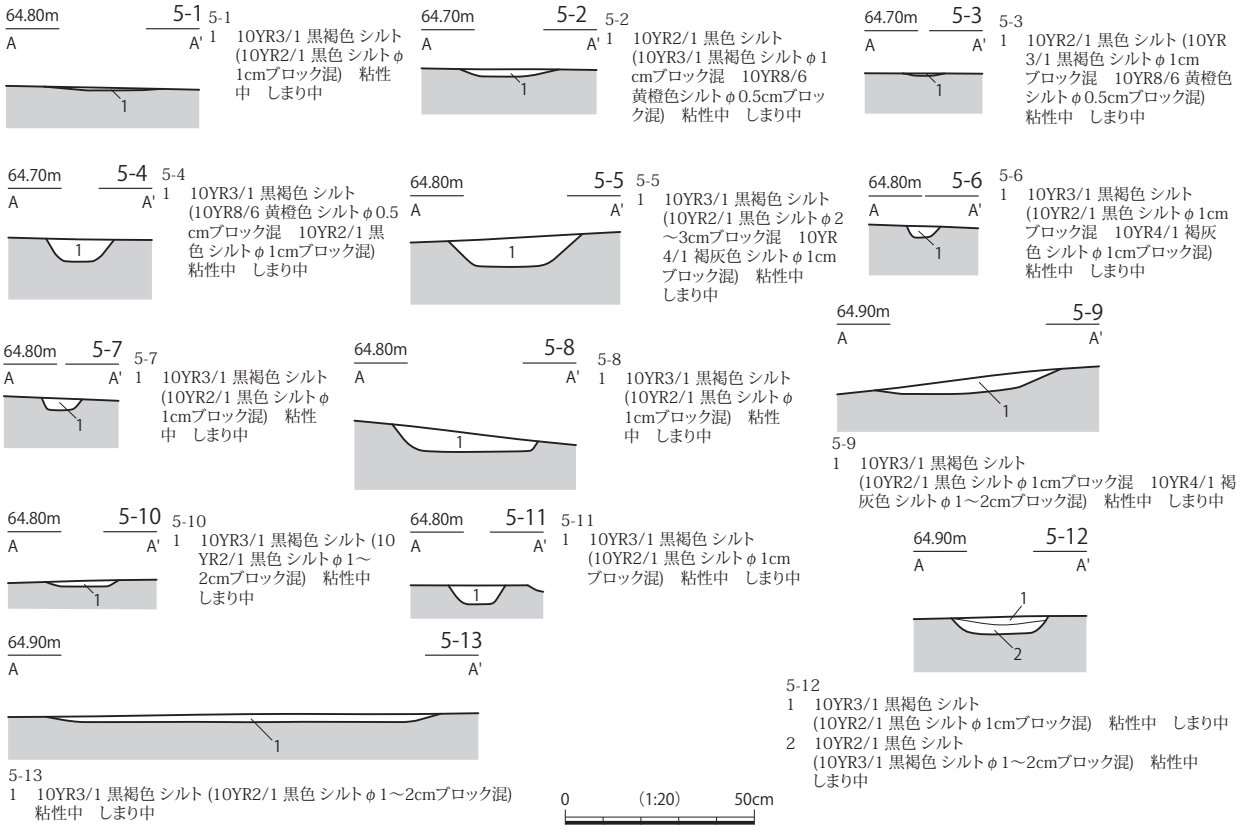
拡大図⑤



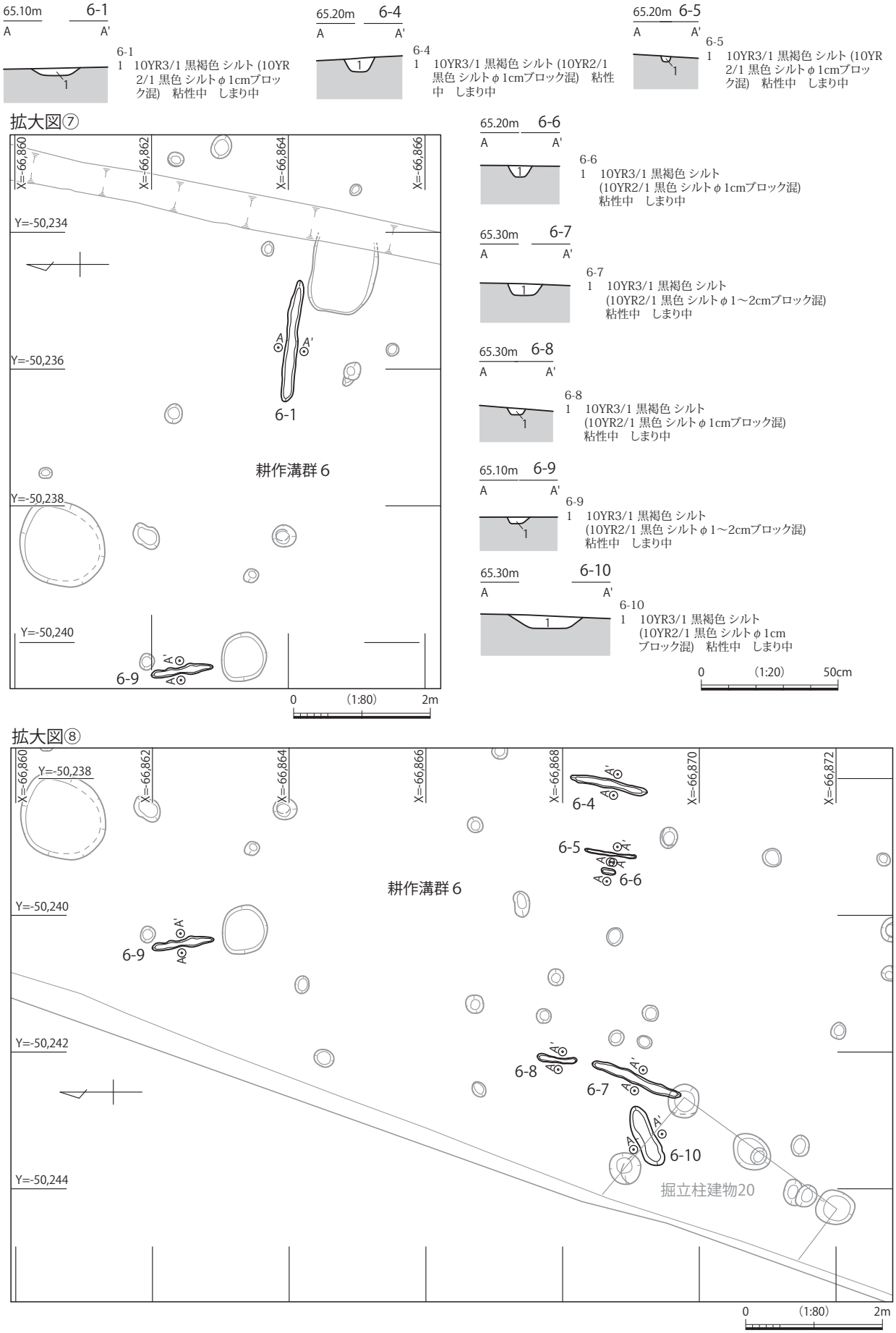
第 342 図　耕作溝群４

拡大図⑥



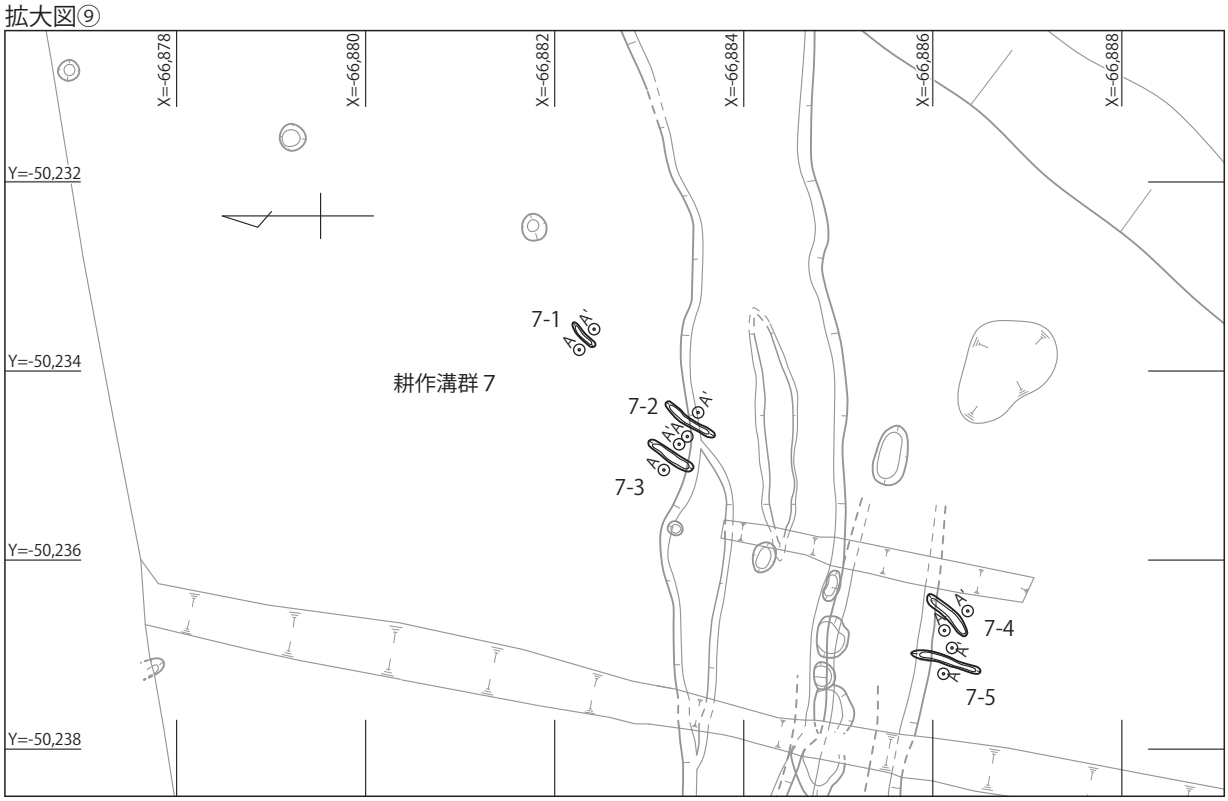


第 343 図　耕作溝群５

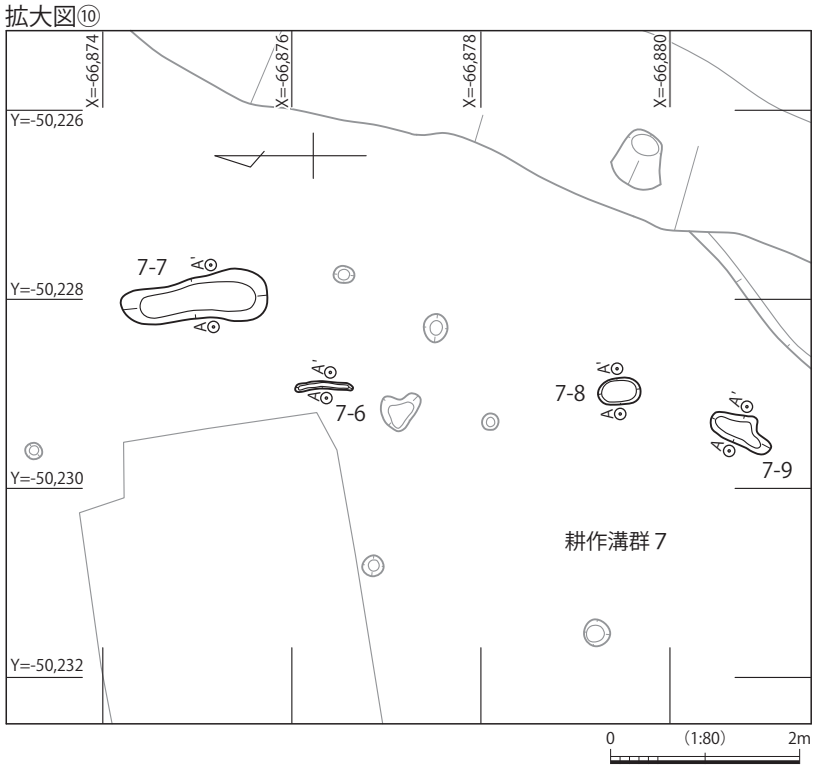

65.10m 6-1
A A'
6-1
1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR 2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混) 粘性中 しまり中
65.20m 6-4
A A'
6-4
1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混) 粘性中 しまり中
65.20m 6-5
A A'
6-5
1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR 2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混) 粘性中 しまり中
拡大図⑦
X=-66,860
X=-66,862
X=-66,864
X=-66,866
Y=-50,234
Y=-50,236
Y=-50,238
Y=-50,240
6-1
6-9
耕作溝群６
0 (1:80) 2m
65.20m 6-6
A A'
6-6
1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混) 粘性中 しまり中
65.30m 6-7
A A'
6-7
1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混) 粘性中 しまり中
65.30m 6-8
A A'
6-8
1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混) 粘性中 しまり中
65.10m 6-9
A A'
6-9
1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混) 粘性中 しまり中
65.30m 6-10
A A'
6-10
1 10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cm ブロック混) 粘性中 しまり中
0 (1:20) 50cm
拡大図⑧
X=-66,860
X=-66,862
X=-66,864
X=-66,866
X=-66,868
X=-66,870
X=-66,872
Y=-50,238
Y=-50,240
Y=-50,242
Y=-50,244
6-4
6-5
6-6
6-9
耕作溝群６
6-8
6-7
6-10
掘立柱建物20
0 (1:80) 2m

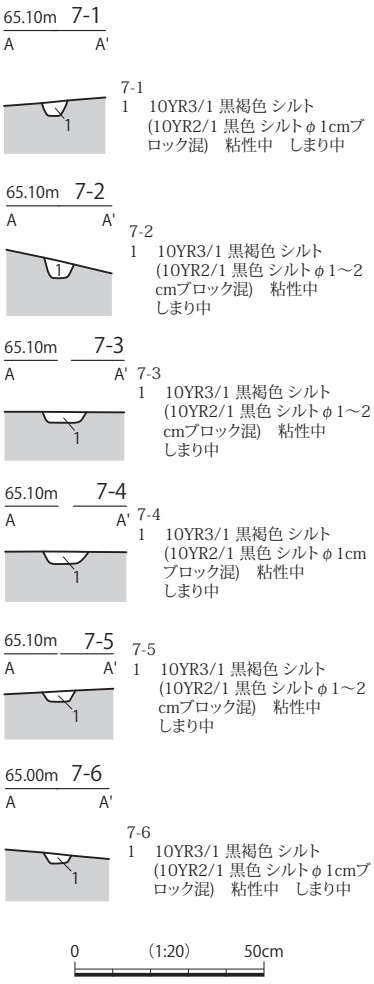
第 344 図　耕作溝群６

拡大図⑨



拡大図⑩





7-1
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中

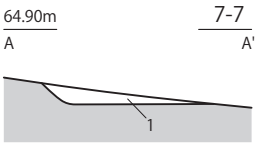
7-2
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性中 しまり中

7-3
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性中 しまり中

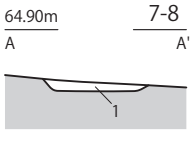
7-4
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中 しまり中

7-5
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性中 しまり中

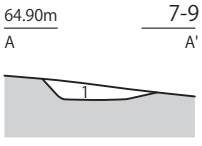
7-6
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中



7-7
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混　10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中 しまり中

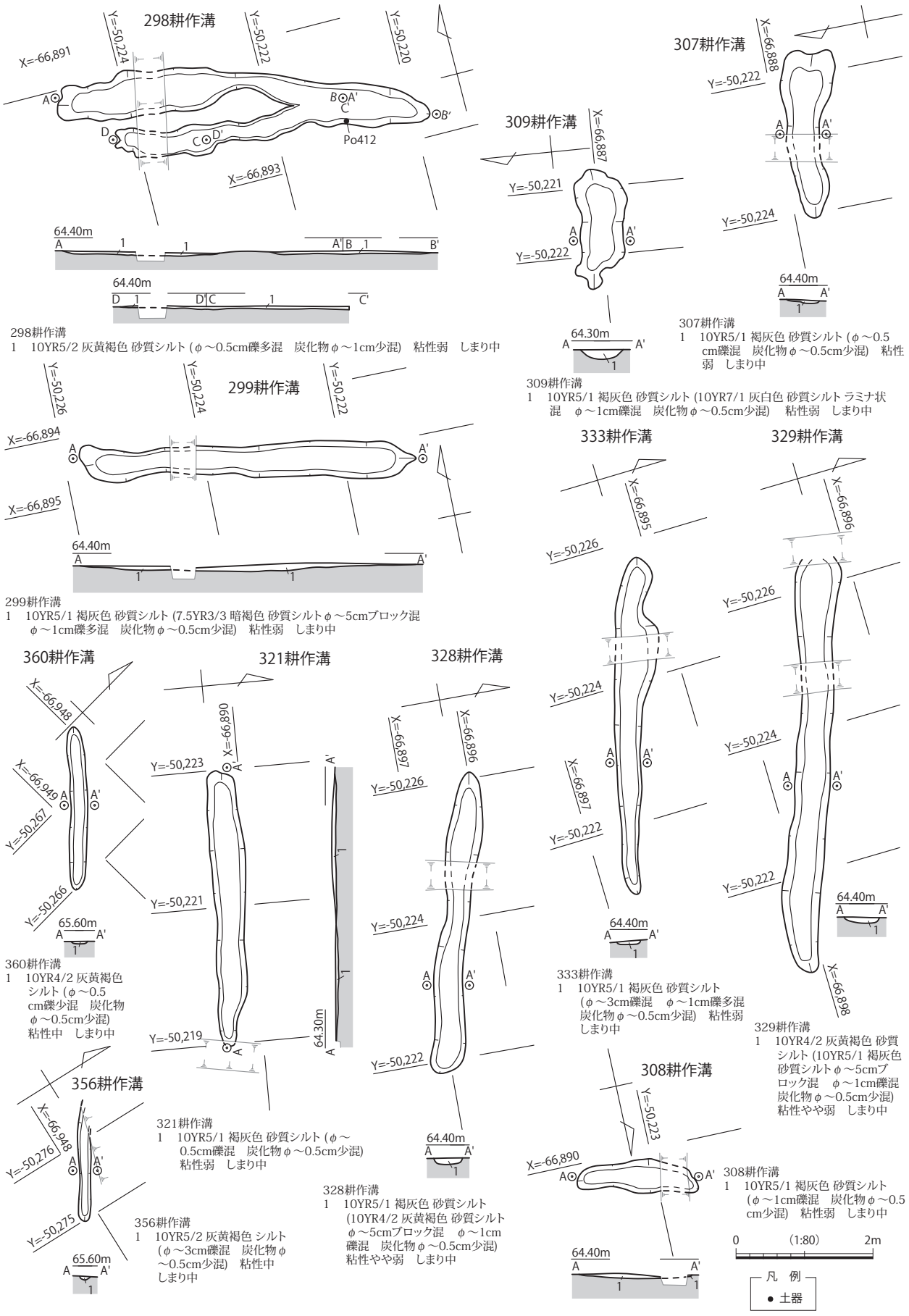


7-8
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混　10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中 しまり中



7-9
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混　10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中 しまり中

第 345 図　耕作溝群７



298耕作溝
1　10YR5/2 灰黄褐色 砂質シルト (φ～0.5cm礫多混　炭化物φ～1cm少混)　粘性弱　しまり中

307耕作溝
1　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性弱　しまり中

309耕作溝
1　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (10YR7/1 灰白色 砂質シルト ラミナ状混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性弱　しまり中

299耕作溝
1　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (7.5YR3/3 暗褐色 砂質シルトφ～5cmブロック混　φ～1cm礫多混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性弱　しまり中

333耕作溝
1　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (φ～3cm礫混　φ～1cm礫多混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性弱　しまり中

329耕作溝
1　10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルト (10YR5/1 褐灰色 砂質シルトφ～5cmブロック混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性やや弱　しまり中

360耕作溝
1　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

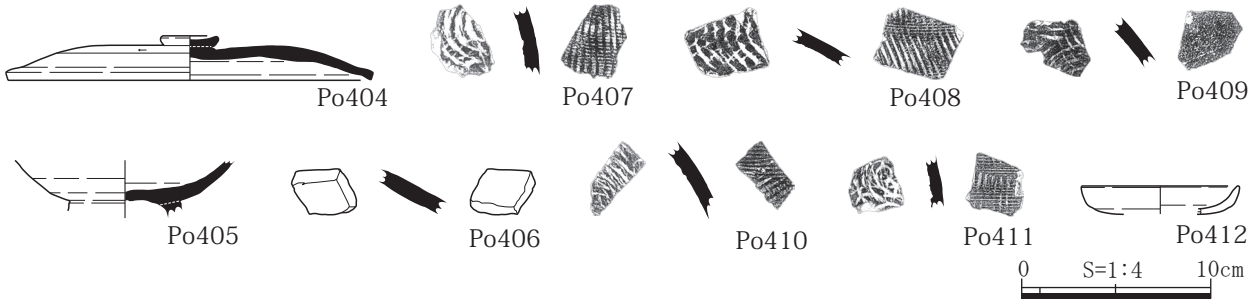
321耕作溝
1　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性弱　しまり中

328耕作溝
1　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (10YR4/2 灰黄褐色 砂質シルトφ～5cmブロック混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性やや弱　しまり中

356耕作溝
1　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～3cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

308耕作溝
1　10YR5/1 褐灰色 砂質シルト (φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性弱　しまり中

第 346 図　耕作溝（北区東側・南区）



第 347 図　耕作溝群・耕作溝出土土器

307 耕作溝（第 346 図、第 61 表）

北区東側中央 7a-9C-9c グリッドにおいて、造成土の下、Ⅰｂ層上面で検出した。東西方向を向く。残存規模は長さ 2.39m、最大幅 0.46m、検出面からの深さ 0.05ｍを測る。主軸は N-81° -W をとる。埋土は単層で砂を含む。遺物は出土していない。

308 耕作溝（第 346 図、第 61 表）

北区東側中央 7a-9C-9c グリッドにおいて、造成土の下、Ⅰｂ層上面で検出した。東西方向を向く。残存規模は長さ 1.77m、最大幅 0.50m、検出面からの深さ 0.07ｍを測る。主軸は N-74° -W をとる。埋土は単層で砂を含む。遺物は出土していない。

309 耕作溝（第 346 図、第 61 表）

北区東側中央 7a-9C-9c グリッドにおいて、造成土の下、Ⅰｂ層上面で検出した。東西方向を向く。残存規模は長さ 1.75m、最大幅 0.61m、検出面からの深さ 0.14ｍを測る。主軸は N-78° -W をとる。埋土は単層で砂を含む。遺物は出土していない。

321 耕作溝（第 346 図、第 61 表）

北区東側南寄り 7a-9C-10b・10c グリッドにおいて、造成土の下、Ⅰｂ層上面で検出した。残存規模は長さ 3.94m、最大幅 0.40m、検出面からの深さ 0.06ｍを測る。東西方向を向く。主軸は N-85° -W をとる。埋土は単層で砂を含む。遺物は土器が出土した。小片で図化していないが、内外面とも赤褐色の来待釉のかかる石見焼系の陶器で、19 世紀以降の所産である。

328 耕作溝（第 346 図、第 61 表）

北区東側南寄り 7a-9C-10c グリッドにおいて、造成土の下、Ⅰｂ層上面で検出した。残存規模は長さ 4.41m、最大幅 0.32m、検出面からの深さ 0.09ｍを測る。東西方向を向く。主軸は N-74° -W をとる。埋土は単層で砂を含む。遺物は出土していない。

329 耕作溝（第 346 図、第 61 表）

北区東側南寄り 7a-9C-10c グリッドにおいて、造成土の下、Ⅰｂ層上面で検出した。残存規模は長さ 5.96m、最大幅 0.45m、検出面からの深さ 0.09ｍを測る。東西方向を向く。主軸は N-72° -W をとる。埋土は単層で砂を含む。遺物は出土していない。

333 耕作溝（第 346 図、第 61 表）

北区東側南寄り 7a-9C-10c グリッドにおいて、造成土の下、Ⅰｂ層上面で検出した。残存規模は長さ 4.92m、最大幅 0.40m、検出面からの深さ 0.05ｍを測る。東西方向を向く。主軸は N-75° -W をとる。埋土は単層で砂を含む。遺物は混入とみられる鉄滓の小片１点が出土した。

356 耕作溝（第 346 図、第 61 表）

南区東側南寄り 7a-10C-6h グリッドにおいて、耕作土の下、Ⅱｂ層上面で検出した。残存規模は長さ 1.38m、最大幅 0.17m、検出面からの深さ 0.06ｍを測る。東西方向を向く。主軸は N-58° -W をとる。埋土は単層で若干の砂礫を含む。遺物は出土していない。

360 耕作溝（第 346 図、第 61 表）

南区東側南寄り 7a-10C-5g グリッドにおいて、耕作土の下、Ⅱｂ層上面で検出した。残存規模は長さ 2.38m、最大幅 0.24m、検出面からの深さ 0.04ｍを測る。北西から南東方向を向く。主軸は N-45° -W をとる。埋土は単層で少量の砂礫を含む。遺物は出土していない。

（６）　田

南区の東側と南東区の東側、Ⅰｂ層上面で田を検出した。遺存状況は良くないものの、周囲に畦畔を確認した。遺存状況は良くないため、水口など、畦畔の切れている箇所を特定することはできなかった。田と田の間に畦畔の一部を確認した。検出状況からＡ～Ｄ類に分類した。

畦畔Ａ類：畦畔が凸状に遺存する。削り出された畦畔の基礎部分。

畦畔Ｂ類：鉄分を含む帯状の範囲。盛土の下面部分。削り出された畦畔上に鉄分範囲のあるＢ①類、上側、下側とも削り出された段状の平坦面に鉄分範囲のあるＢ②類、平坦面に鉄分範囲のあるＢ③類がある。

畦畔Ｃ類：平坦面に鉄分を含まない帯状の範囲。畦畔Ａ類の基礎部分が周囲と同じ高さまで削平された類型であり、色調の違いとして検出した。

畦畔Ｄ類：区画を示す耕地段差の際で、畦畔そのものではない。

南東区の北東隅での植物珪酸体分析の結果（第５章第５節）では、耕作土１～４でイネの植物珪酸体があり、近世以降に稲作が行われている。２流路が堆積した直後のⅠｂ層にもイネの植物珪酸体があり、流路が埋没した直後の中世に、稲作が開始されたことが明らかとなった。

北区の南壁中央での植物酸体分析の結果（第５章第５節）では、全体的に植物珪酸体の密度は低く、稲作の行われた可能性は低いとの結果が示された。周囲には人や偶蹄目の足跡が検出されているものの、氾濫とみられる砂で埋められている。２流路埋没後に水田として利用されたものの、南側の耕地段差が示すように、南区ほど安定した環境ではないと考えられる。

時期は下面で中世前期の遺構を検出していること、上層には近世以降の耕作痕跡があること、出土した遺物の下限から、14 ～ 15 世紀から近世初頭までの田と考えられる。

361 田（第 318・348・350・351 図、第 62・80 表、図版 291・303）

南区東側北端及び南東区北端の 7a-10C-2a・3a・3b グリッドにおいて検出した。西隣の 362 田との

間に長さ15.15m、最大幅1.05m、高さ0.06mの畦畔A-1・A-2がある。南側には直交方向に、長さ7.82m、最大幅1.15mにわたる鉄分の沈着した畦畔B-1・B-2がある。どちらもB①類。南東区側にも長さ1.65m、最大幅1.76mの畦畔B-3を検出しているため、田の区画は東側にも広がると考えられる。B-3はB③類である。残存規模は南区と南東区を含め、最大長9.64m、最大幅7.82mである。遺物は土師器と白磁が出土した。Po426は白磁碗の底部である。

362・367田（第318・348・350・351図、第62・80・96・98表、図版291・292・303）

［362田］

南区東側北端7a-10C-2a・2b・3a・3bグリッドにおいて検出した。東隣の361田との間に畦畔A-1があり、高さは0.09mを測る。西隣の367田との間に畦畔D-1があり、南側は367田と接続する。南端は南隣の364田との間に畦畔B-1がある。残存する規模は最大長10.87m、最大幅4.50mである。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、不明陶器が出土した。Po415は回転台成形の土師器坏、Po416～418は手づくね成形の土師器皿、Po414は甕口縁部、Po422は瓦質土器の羽釜、CP53は平瓦である。時期が下るのはPo416～418の土師器皿とPo422の羽釜で、13～14世紀である。

［367田］

南区東側北端7a-10C-2bグリッドにおいて検出した。東隣の362田との間に畦畔D-1があり、比高差は0.21mを測る。南側で362田と接続する。残存規模は最大長9.32m、最大幅3.22mである。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器が出土したものの、小片で図化していない。赤彩された土師器の盤？のPo413、白磁の碗Po425、黒色の碁石S22を図化した。

363・364田（第318・348～351図、第62・80・92表、図版291・303）

［363田］

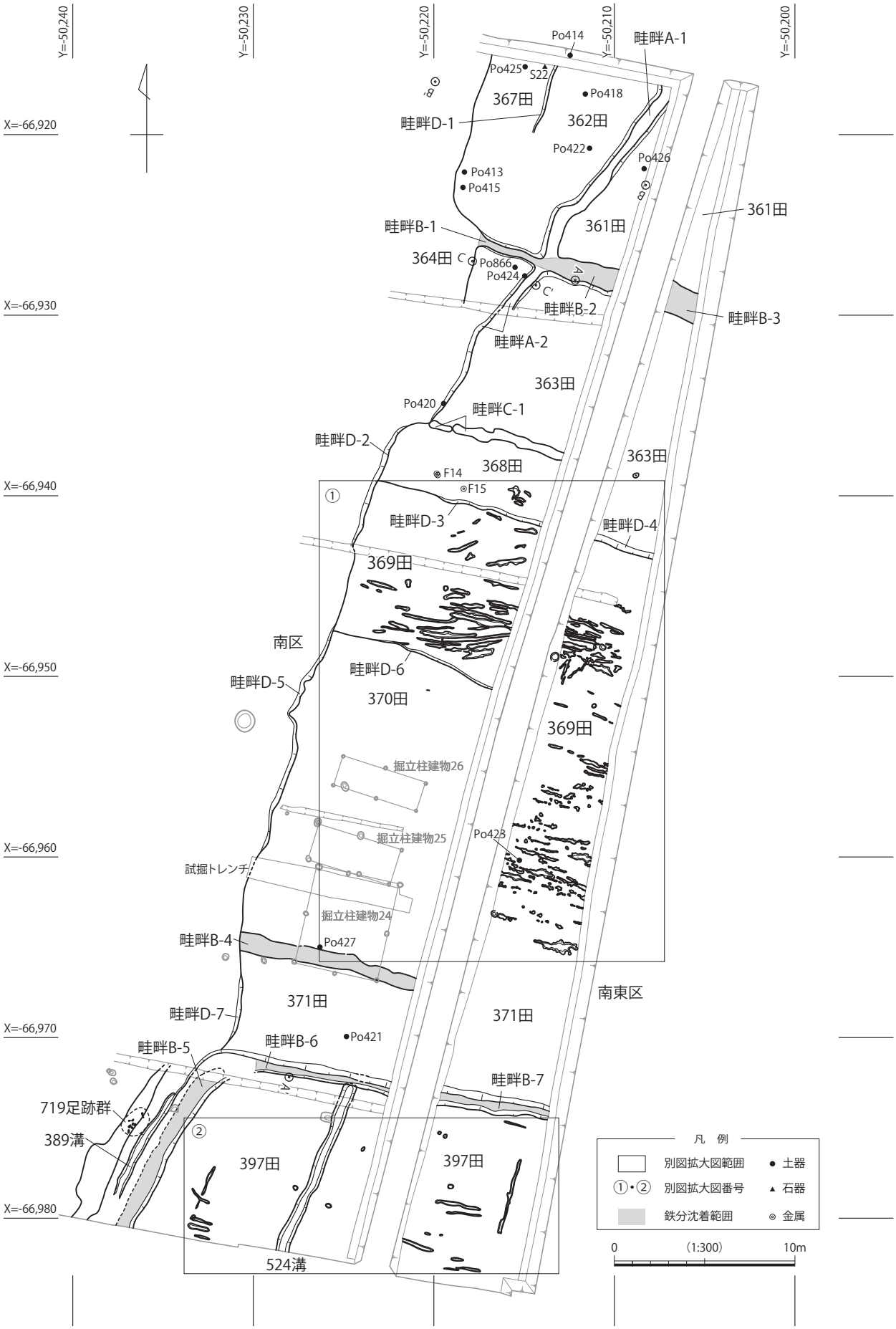
南区東側北端及び南東区北端7a-10C-3b・4bグリッドにおいて検出した。北西隣の364田との間に畦畔A-2がある。検出面からの高さ0.07mを測る。北隣の361田との間に畦畔B-2、南隣の368田との間に畦畔C-1がある。南東区にも広がる。北側に畦畔B-3、南側に畦畔D-4がある。南区と南東区を含めた残存規模は最大長12.85m、最大幅12.50mを測る。遺物は土師器、須恵器が出土した。写真のみではあるが、白磁碗Po865を掲載する。

［364田］

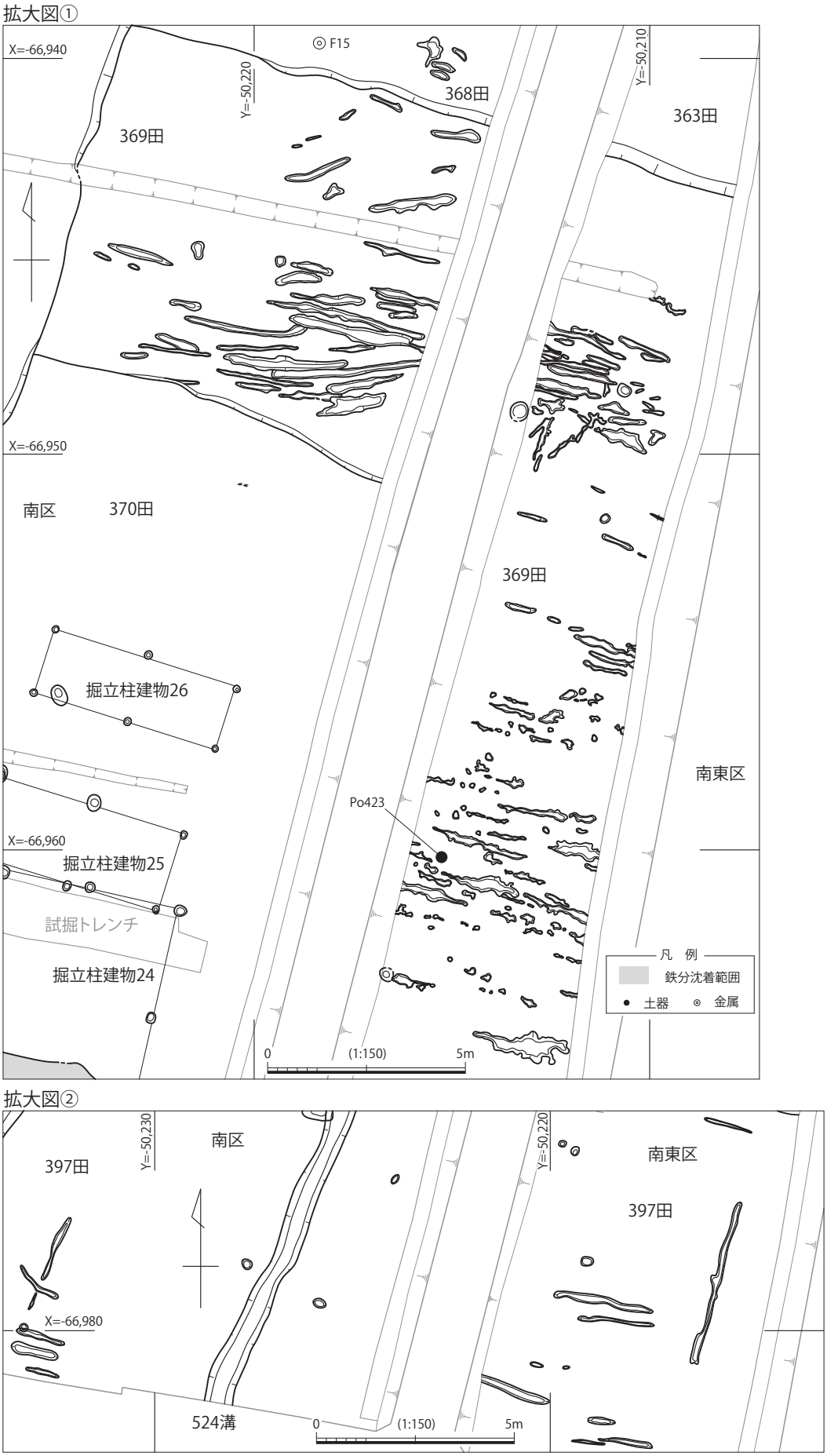
南区東側北端7a-10C-3b・4b・4cグリッドにおいて検出した。東隣の363田との間に畦畔A-2がある。高さは0.08mである。北東隣の362・367田との間に畦畔B-1がある。高さは0.12mである。残存規模は最大長2.96m、最大幅2.73mである。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器が出土した。瓦質土器の羽釜Po420、玉縁をもつ白磁碗Po424を図化した。白磁壺Po866は写真のみ掲載する。

368田（第318・348～351図、第62・80・92・99表、図版292・303）

南区東側中央7a-10C-4a・4b・5bグリッドにおいて検出した。北側に畦畔C-1がある。南側に畦畔D-3がある。比高差は0.07mを測る。残存規模は最大長15.50m、最大幅3.89mである。平面積は45.54㎡を測る。遺物は土師器片、須恵器片が出土し、青磁壺Po428、不明鉄器F14・15を図化した。写真掲載のPo867は蓮弁をもつ青磁碗である。



第 348 図　田（南区）全体図



第 349 図　田素掘り小溝群

369 ～ 371 田（第 318・348 ～ 351 図、第 62・80・92・99 表、図版 292 ～ 294・303）

［369 田］

南区東側中央及び南東区中央の 7a-10C-5b・5c・6b グリッドにおいて検出した。北側に畦畔 D-3 が、南側には畦畔 D-6 がある。比高差は 0.09ｍを測る。

東西方向の素掘り小溝群が集中する。南東区にも広がる。北側に畦畔 D-4、南側は不明瞭であるが、素掘り小溝群を検出した範囲が区画になると考えられる。南区と南東区を含めた残存規模は最大長約 23m、最大幅 16.60ｍを測る。遺物は土師器、須恵器、鉄器が出土した。このうち土師器皿 Po419、不明鉄器 F16 を図化した。

［370 田］

南区東側中央 7a-10C-5b・5c・6b・6c・7b ～ 7d グリッドにおいて検出した。下層で掘立柱建物 24 ～ 26 を検出した。北側に畦畔 D-6 がある。比高差は 0.01ｍを測る。南側にＢ③類の畦畔 B-4 がある。長さ 10.02m、最大幅 1.05ｍを測る。建物が廃絶した後に田として使用される。遺物は土師器、須恵器、瓦質土器、白磁が出土した。Po423 は瓦質土器の羽釜である。鍔部は短い。Po427 は青磁碗で、無文で口縁部が外傾することから 14 ～ 15 世紀の所産である。Po868 は白磁壺の体部で、写真のみ掲載した。

［371 田］

南区東側中央及び南東区中央の 7a-10C-7c・7d・8c・8d グリッドにおいて検出した。北側に畦畔 B-4、南側に畦畔 B-6 がある。畦畔 B-6 は畦畔Ｂ②類である。比高差は 0.11ｍである。南区と南東区を含めた残存規模は最大長 18.50m、最大幅 8.30ｍである。南東区は遺存状況がよくない。北側は不明、南側は畦畔 B-7 がある。畦畔Ｂ③群で、比高差は 0.07ｍである。遺物は土師器、瓦質土器が出土した。Po421 は瓦質土器の羽釜である。

397 田（第 318・334・348・349 図、第 62 表、図版 294）

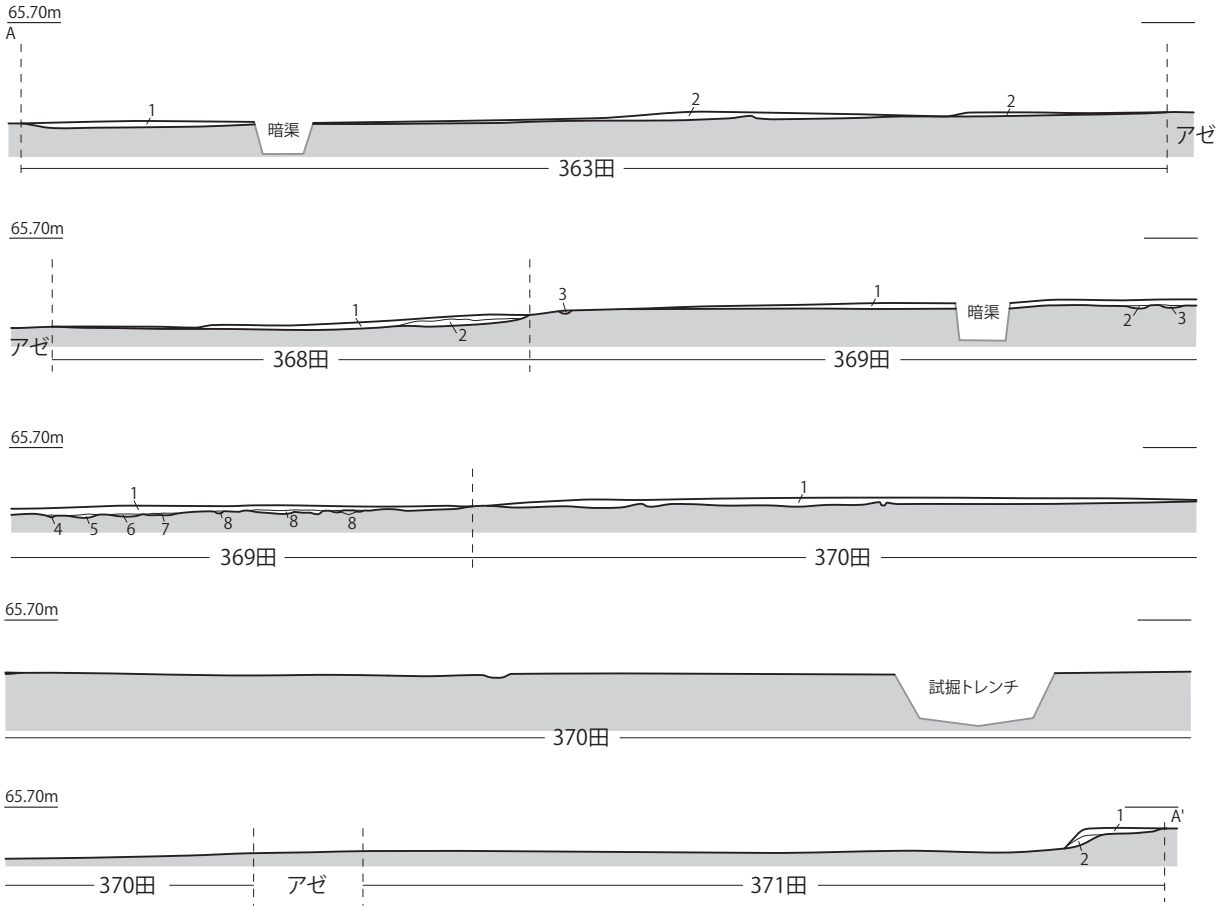
南区東側中央 7a-10C-8b ～ 8d・ 9b ～ 9d グリッドにおいて検出した。西側に畦畔 B-5、北側に畦畔 B-6、東側に 524 溝がある。表面に鉄分の沈着した層の下面で検出した。遺存状況はよくないものの、南北方向、東西方向に向かう素掘り小溝が散在する。残存規模は最大長 11.10m、最大幅 8.92m、比高差は 0.11ｍである。西側に 389 溝、719 足跡群がある。389 溝に切られる。埋土は２層に分かれる。遺物は出土していない。

（７）　足跡群

北区の東側で７箇所、南区の東側で３箇所の足跡群を検出した。埋土から出土した炭化物の分析結果から、中世末から近世の遺構と考えられる。人と偶蹄目の足跡が混在するため、掲載図については、人の足跡は青色、偶蹄目の足跡は赤色、不明な痕跡は白抜きで表現した。

４足跡群（第 318・352 ～ 354 図、第 63 表、図版 295）

北区東側中央 7a-9C-7b・ 8b グリッドにおいて、造成土の下面、Ｉｂ層上面で検出した。検出した範囲は北東方向 6.9m、南西方向 3.7ｍにかけてで、人と偶蹄目の足跡が散在する。埋土は粗砂を主体とする。遺物は出土していない。



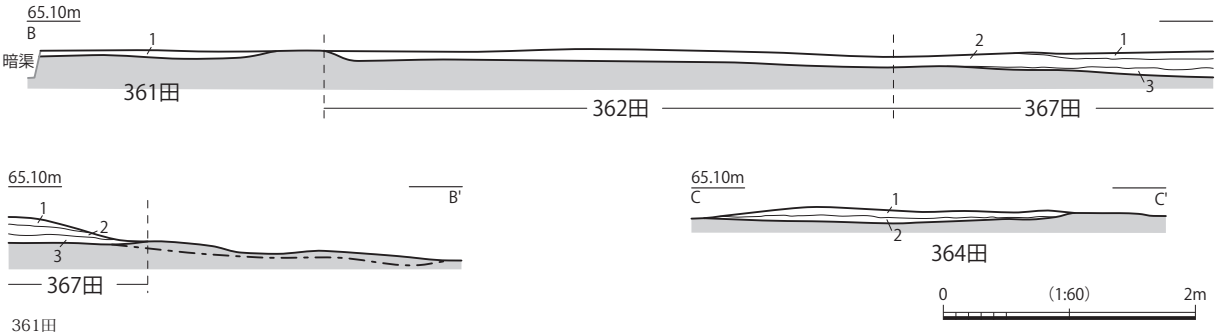
363田
1　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～2cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中

368田
1　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR4/1 褐灰色 シルト (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中

369田
1　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～5cm礫混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR6/1 褐灰色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ～3cmブロック混　φ～0.5cm礫混)　粘性中　しまりやや弱
3　10YR6/1 褐灰色 シルト (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまりやや弱
4　10YR6/1 褐灰色 シルト (φ～0.5cm礫少混)　粘性中　しまりやや弱
5　10YR6/1 褐灰色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ～2cmブロック混　φ～1cm礫混)　粘性中　しまりやや弱
6　10YR6/1 褐灰色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ～2cmブロック混　φ～0.5cm礫混)　粘性中　しまりやや弱
7　10YR6/1 褐灰色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ～2cmブロック多混　φ～0.5cm礫少混)　粘性中　しまりやや弱
8　10YR6/1 褐灰色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ～2cmブロック少混　φ～3cm礫混　φ～1cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまりやや弱

370田
1　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～3cm礫有　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中

371田
1　10YR4/1 褐灰色 シルト (10YR7/1 灰白色 砂φ～1cmブロック混　10YR3/1 黒褐色 シルトφ～5cmブロック混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR5/1 褐灰色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ～2cmブロック混　φ～0.5cm礫少混　φ～0.5cm礫少混)　粘性中　しまり中

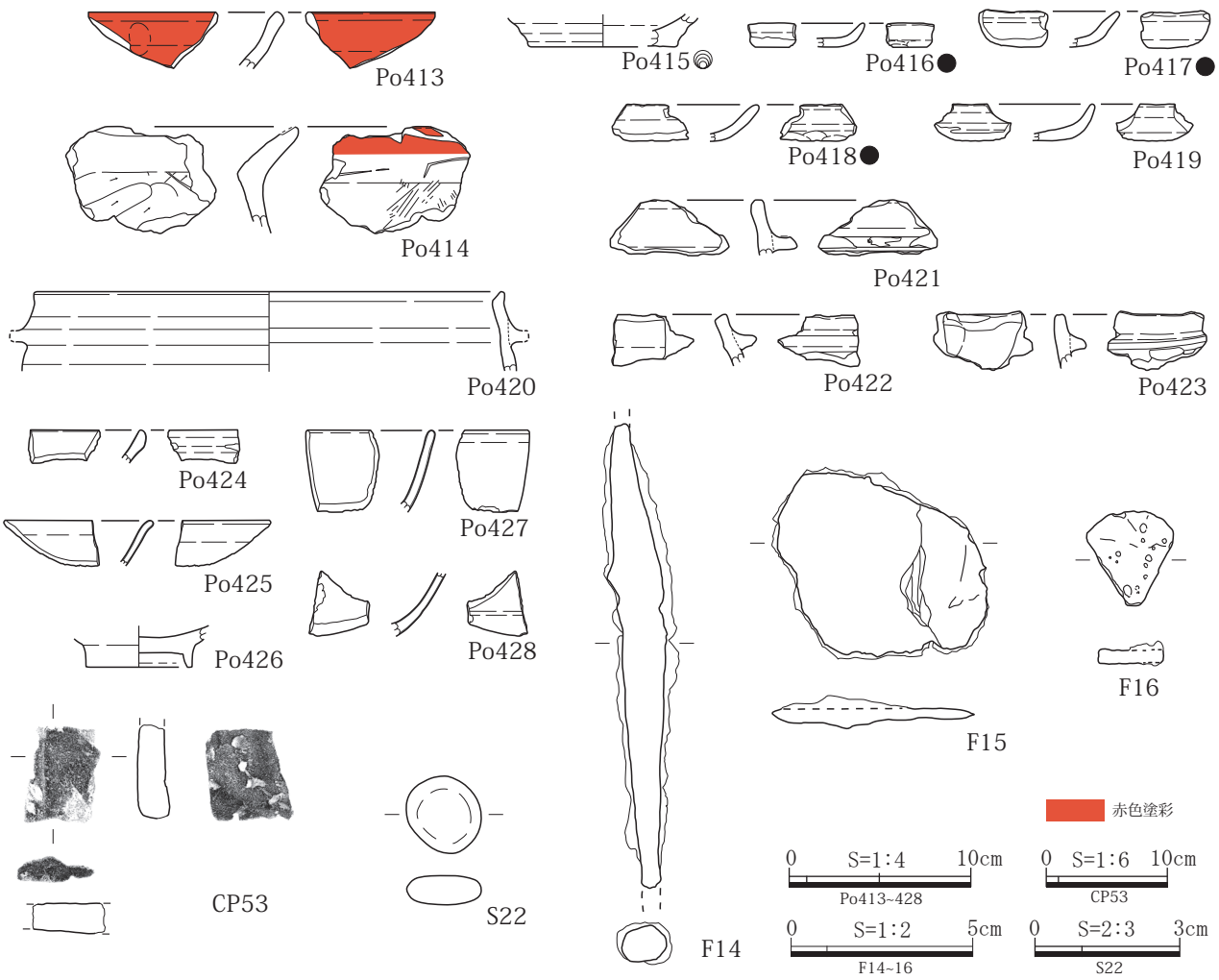


361田
1　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック少混　φ～1cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまりやや弱

362・367田
1　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック少混　φ～5cm礫混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまりやや弱
3　10YR4/1 褐灰色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～1cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中

364田
1　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック多混　φ～3cm礫混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中

第 350 図　田土層断面図



第 351 図　田出土遺物

第 354 図に 4-1 ～ 4-4 の断面図を掲載した。いずれも偶蹄目の足跡である。埋土中から炭化物が出土したため、２点の放射性炭素年代測定を行った（第５章第５節）。試料 15（4-2）は、calAD1540-1635（暦年較正２σの確率１位）、試料 16（4-1）は、calAD875-989（暦年較正２σの確率１位）の結果であった。試料 16（4-1）は混入と判断し、試料 15（4-2）の結果から、中世末から近世の遺構と考えられる。

５・260 足跡群（第 318・352 ～ 354・356 図、第 63 表、図版 295・296）

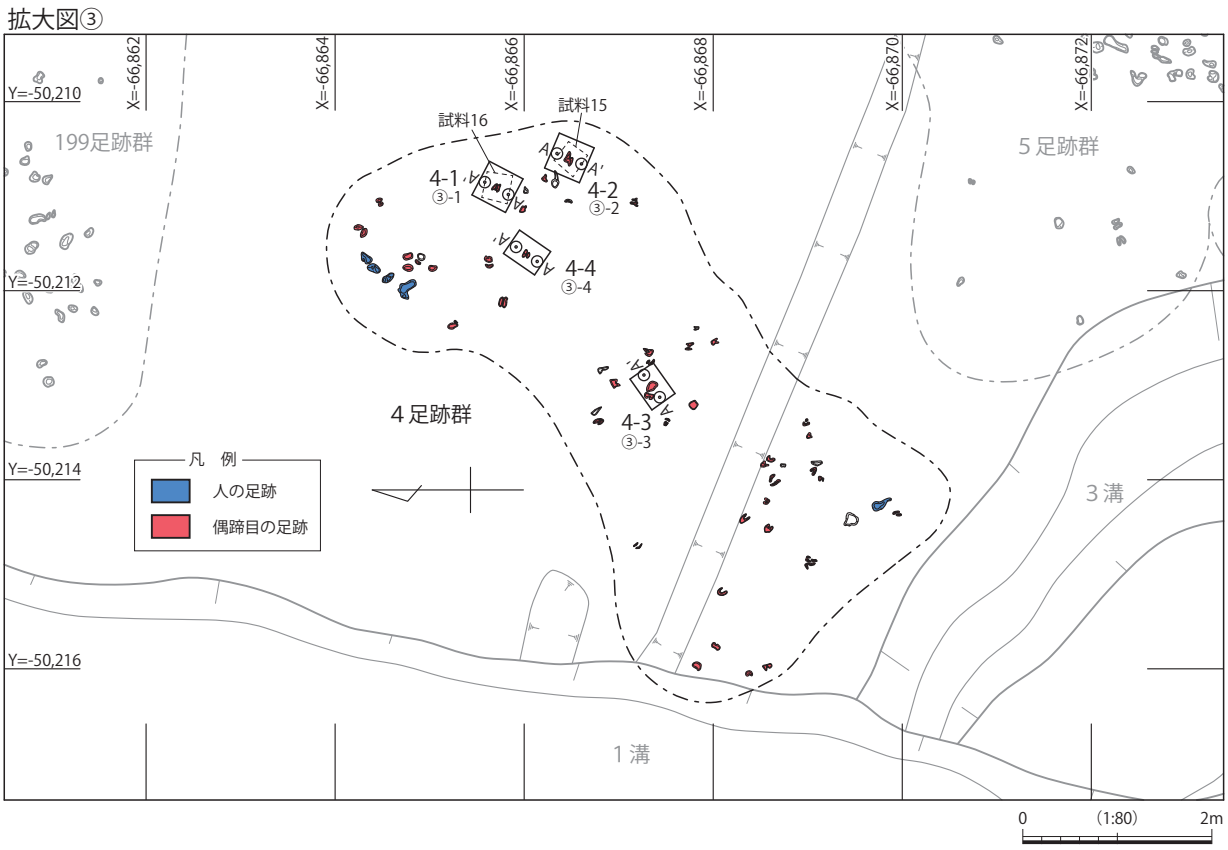
［５足跡群］

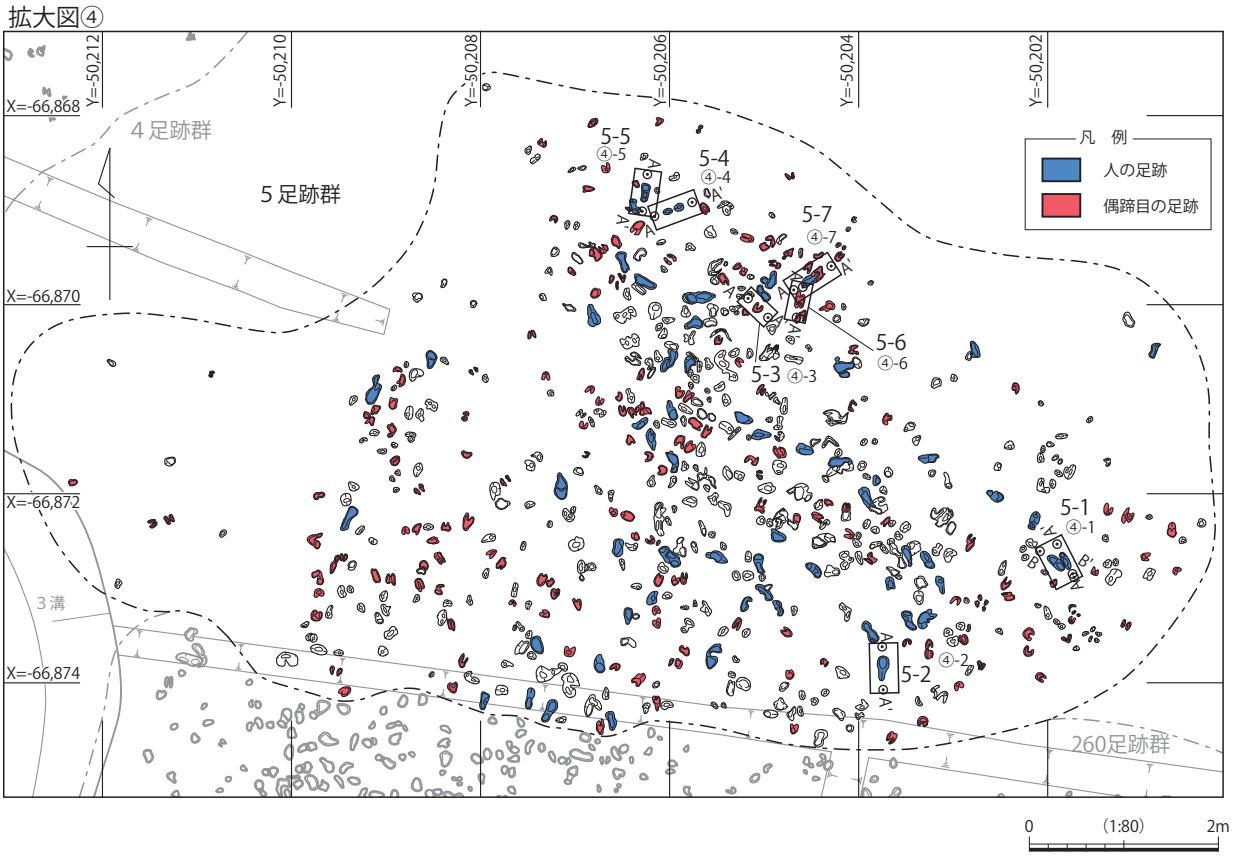
北区東側中央 7a-9C-7a・8a・8b グリッドにおいて、造成土の下面、Ⅰｂ層上面で検出した。260 足跡群と同じ範囲の北側である。検出した範囲は東西方向 12.6m、南北方向 6.8m にかけてで、人と偶蹄目の足跡が密集する。第 354 図に 5-1 ～ 5-7 の断面図を掲載した。5-1、5-2、5-5 は人、5-3、5-4、5-6 は偶蹄目の足跡で、5-7 は人と偶蹄目の足跡が重複する。埋土は粗砂で、人の足跡は踵側よりも爪先側が深い。他についても全てではないが、同様の傾向が認められた。人の足跡は南北方向または北西から南東方向に向かう列がある。

［260 足跡群］

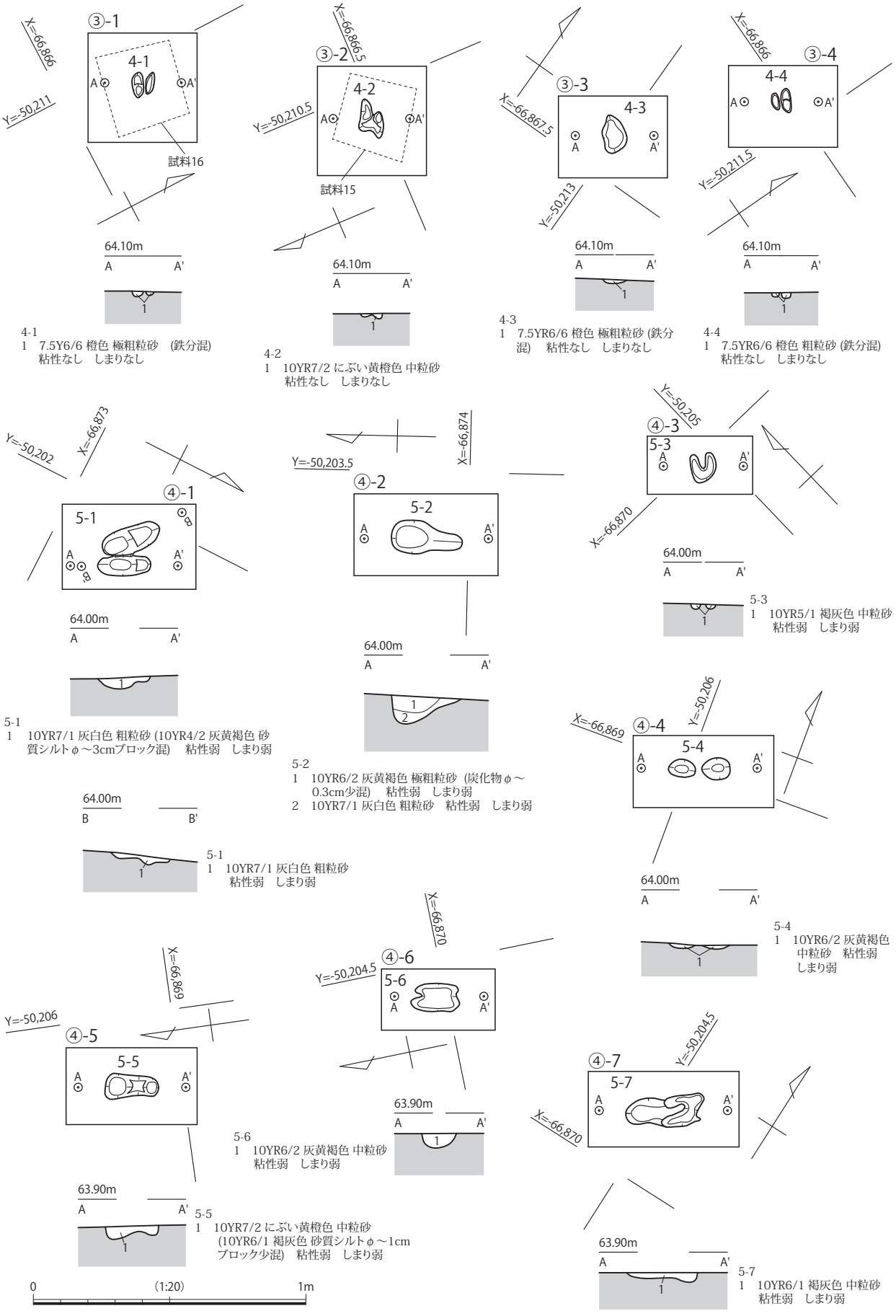
北区東側中央 7a-9C-7a・8a・8b グリッドにおいて、造成土の下面、Ⅰｂ層上面で検出した。５足

第 352 図　足跡群（北区）全体図

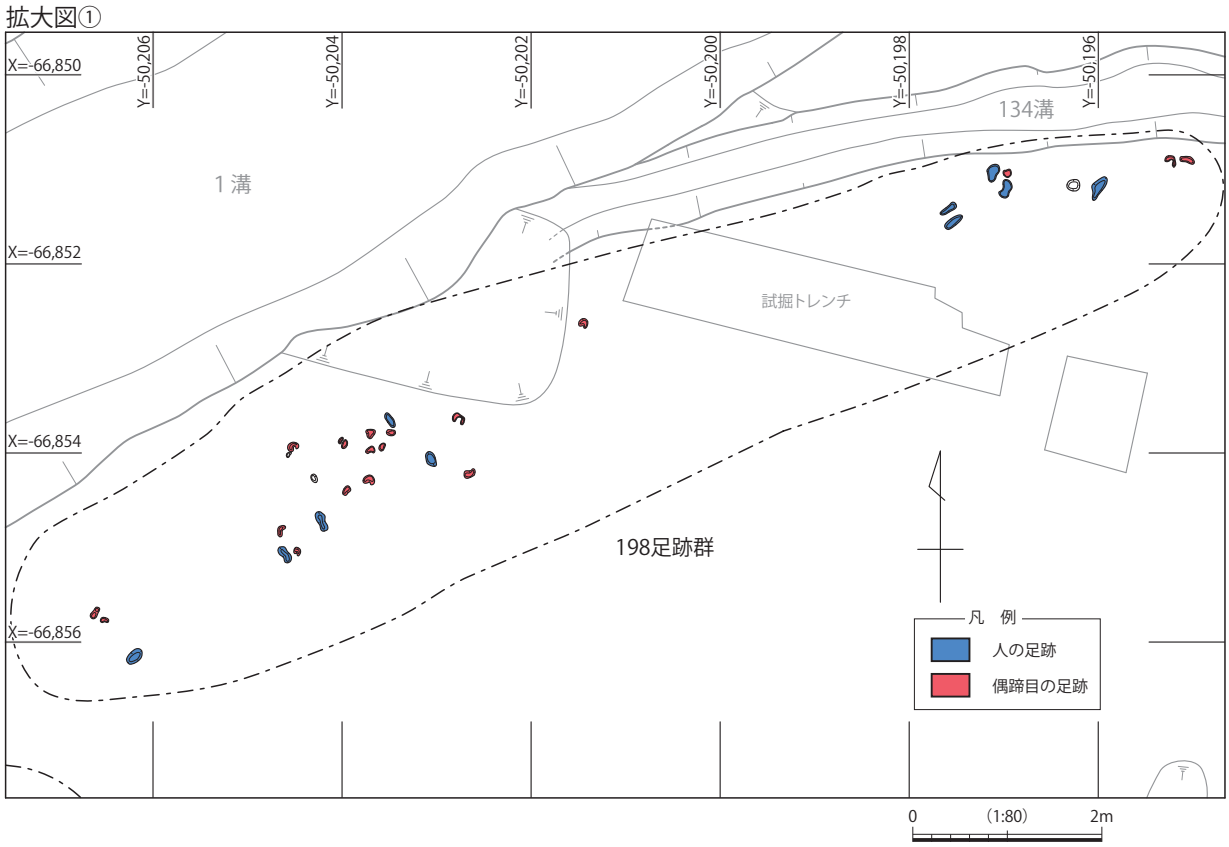

拡大図③
X=-66,862
X=-66,864
X=-66,866
X=-66,868
X=-66,870
X=-66,872
Y=-50,210
Y=-50,212
Y=-50,214
Y=-50,216
199足跡群
5足跡群
4足跡群
3溝
1溝
試料16
試料15
4-1
③-1
4-2
③-2
4-4
③-4
4-3
③-3
凡　例
人の足跡
偶蹄目の足跡
0
(1:80)
2m

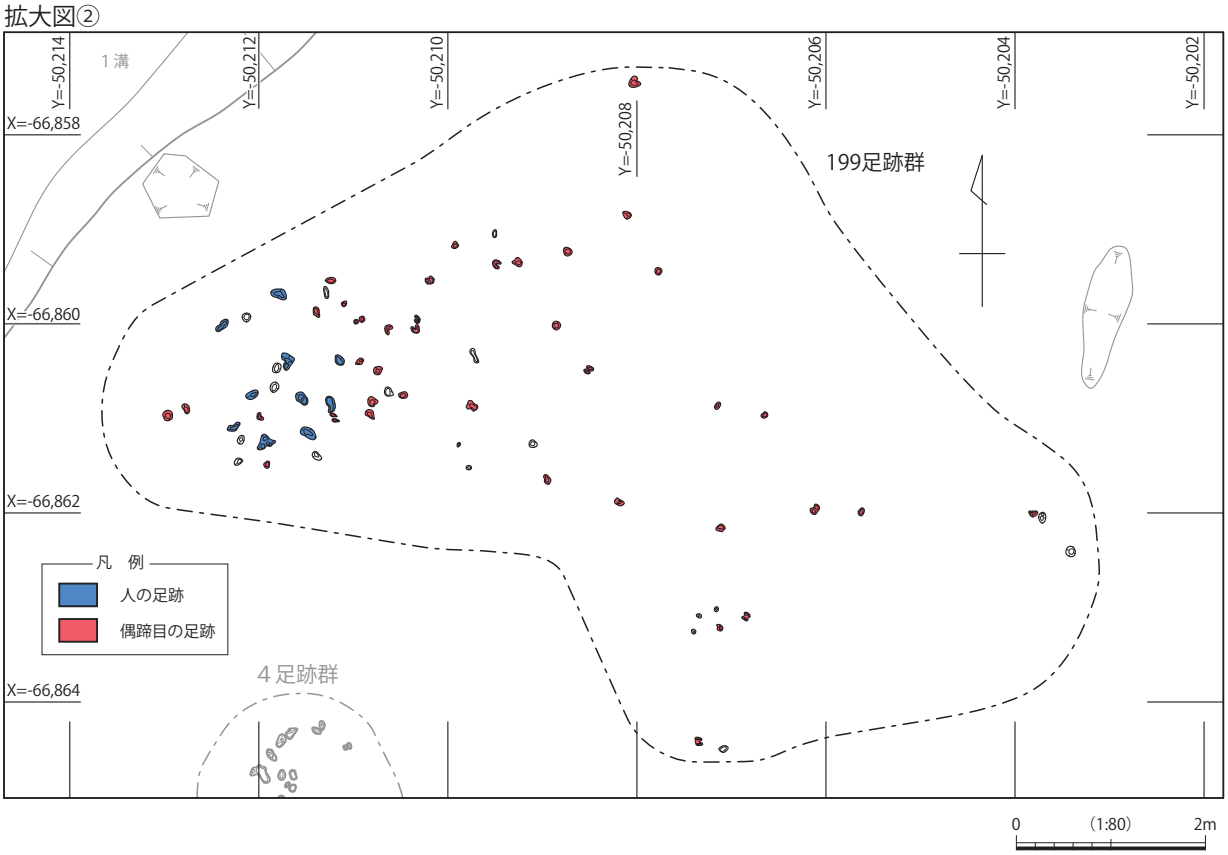

拡大図④
Y=-50,212
Y=-50,210
Y=-50,208
Y=-50,206
Y=-50,204
Y=-50,202
X=-66,868
X=-66,870
X=-66,872
X=-66,874
4足跡群
5足跡群
3溝
260足跡群
5-5
④-5
5-4
④-4
5-7
④-7
5-6
④-6
5-3
④-3
5-1
④-1
5-2
④-2
凡　例
人の足跡
偶蹄目の足跡
0
(1:80)
2m

第 353 図　４・５足跡群



第 354 図　４・５足跡群拡大図





第 355 図　198・199 足跡群

跡群と同じ範囲の南側である。検出した範囲は東西方向 15.4m、南北方向 4.7m にかけてで、人と偶蹄目の足跡が密集する。５足跡群よりも人の足跡は多く密集する。

198 足跡群（第 318・352・355 図、第 63 表）

北区東側中央 7a-9B-6j、7a-9C-6a グリッドにおいて、造成土の下面、Ⅰb 層上面で検出した。１溝の東岸に位置する。検出した範囲は東西 13.7m、南北 3.0m にかけてで、人と偶蹄目の足跡が３箇所に分かれて散在する。

199 足跡群（第 318・352・355 図、第 63 表）

北区東側 7a-9C-6a・6b・7a・7b グリッドにおいて、造成土の下面、Ⅰb 層上面で検出した。検出した範囲は１溝と 134 溝の間で、東西 10.7m、南北 7.2m にかけてで、密度の低い足跡群が２～３箇所に散在していた。足跡には人と偶蹄目がある。

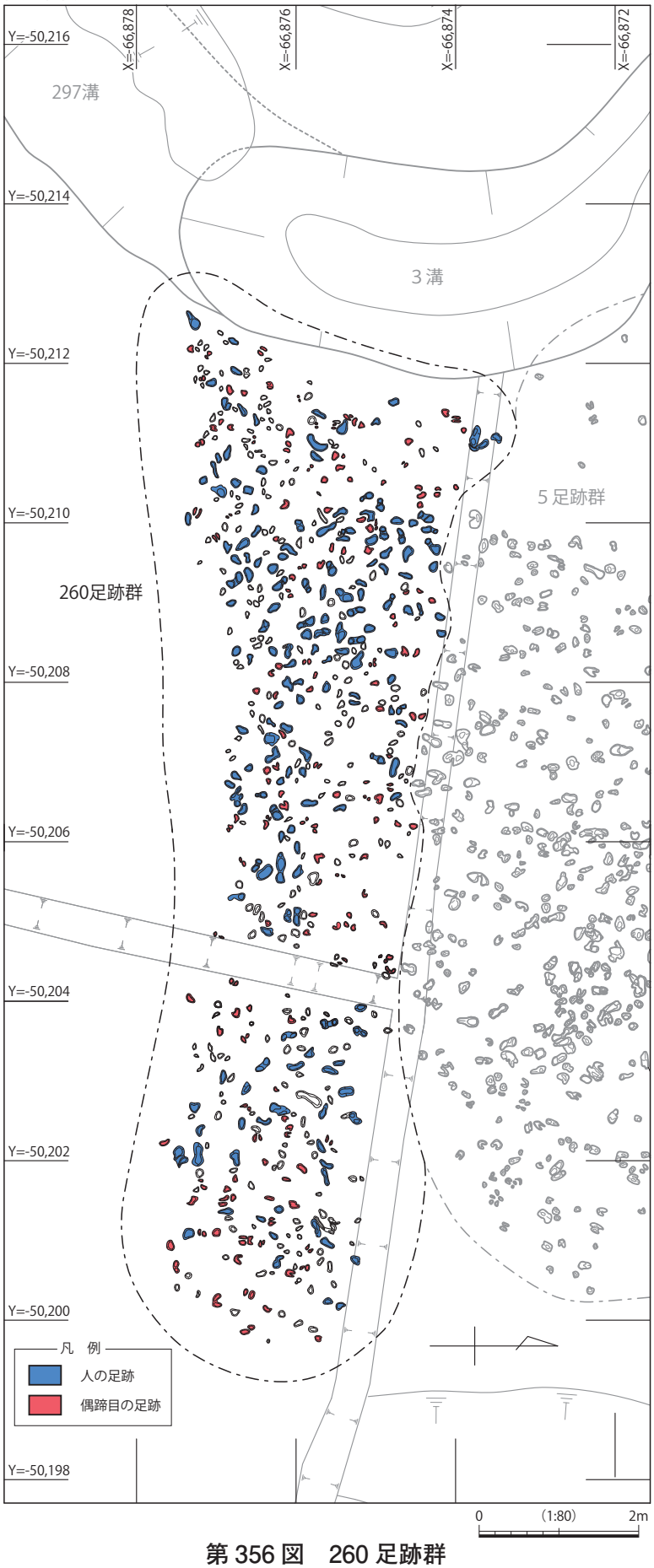
715 足跡群（第 318・352・357 図、第 63 表）

北区東側 7a-9C-8b・9b・9c・10b グリッドにおいて、造成土の下面、Ⅰb 層上面で検出した。検出した範囲は東西 12.3m、南北 10.7m にかけてで、人と偶蹄目の足跡が密集していた。人の足跡は東西と北西から南東方向に向かう列がある。

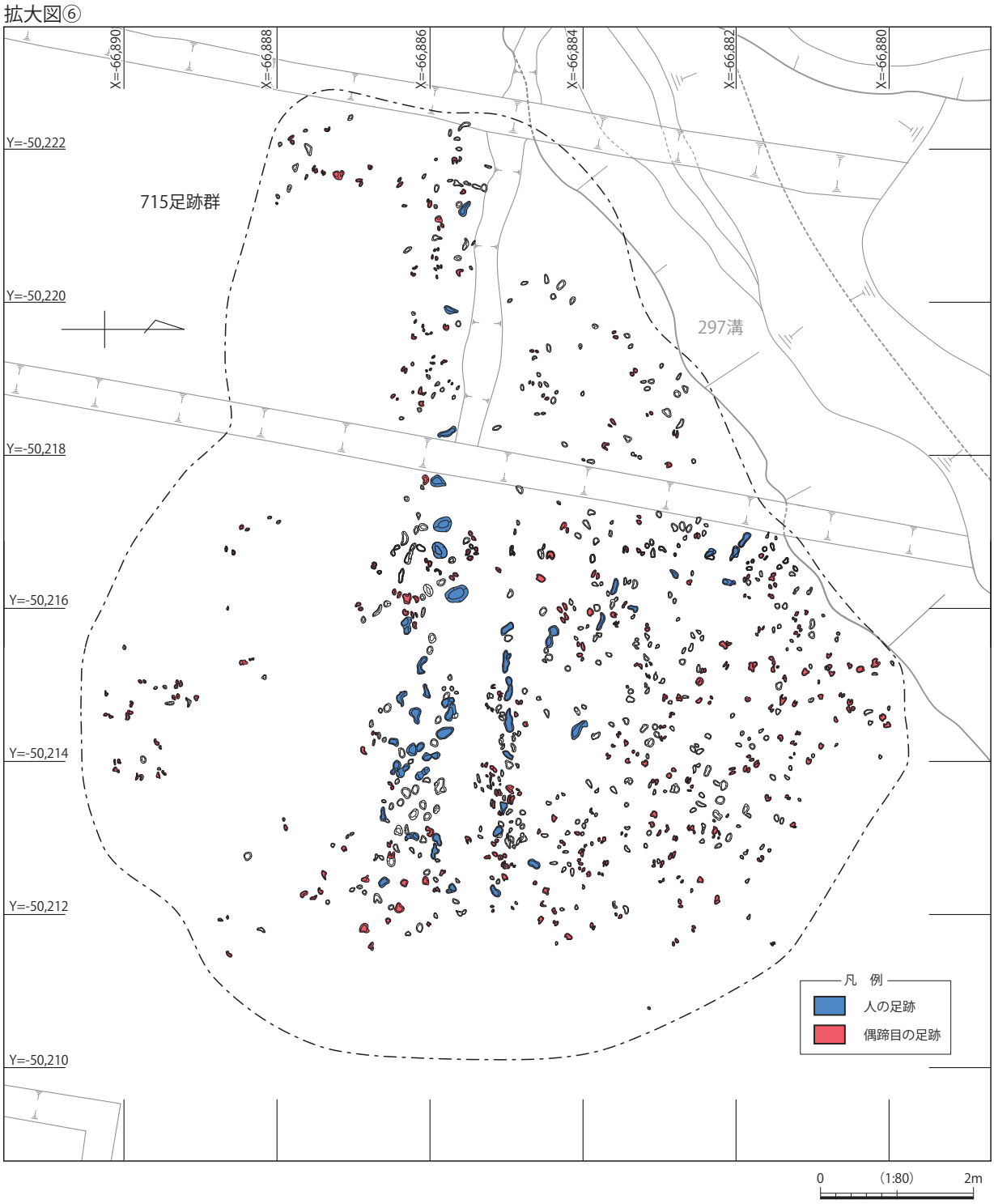
716 足跡群（第 318・352・358・359 図、第 63 表）

北区東側中央 7a-9C-7a・9c・10b ～ 10d、7a-10C-1b ～ 1d グリッドにおいて、造成土の下面、Ⅰb 層上面で検出した。検出した範囲は東

拡大図⑤



第 356 図　260 足跡群



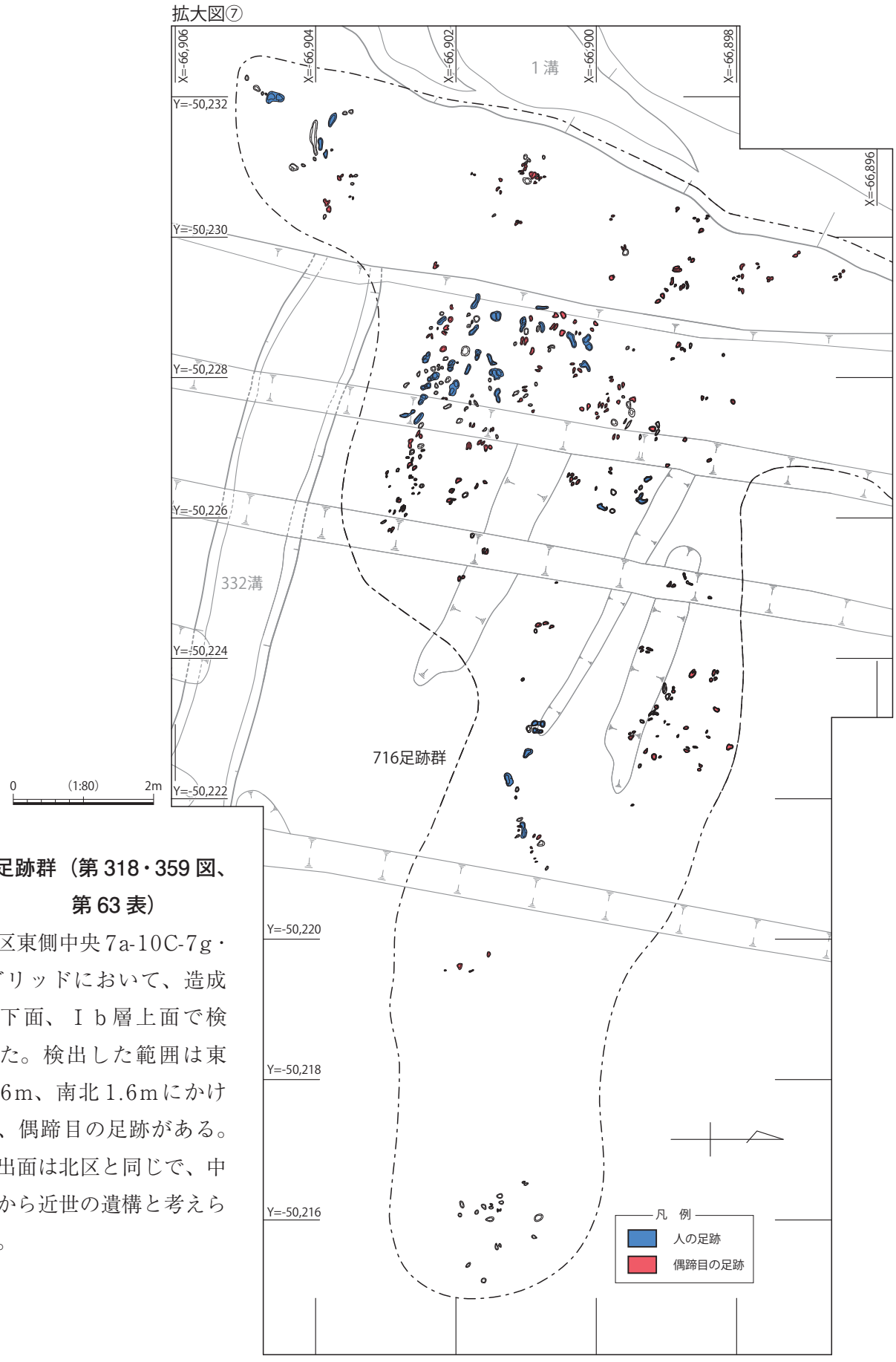
第 357 図　715 足跡群

西 16.8m、南北 16.4mにかけてで、人と偶蹄目の足跡が散在する。南西側に人の足跡の密集する箇所がある。

717 足跡群（第 318・359 図、第 63 表）

南区東側中央 7a-10C-5f・6f グリッドにおいて、耕作土の下面、Ⅰｂ層上面で検出した。検出した範囲は東西 6.5m、南北 5.5mにかけてで、人と偶蹄目の足跡が散在する。

検出面は北区と同じであるが、北区との間に耕地段差があるため、上面は近世以降の耕作土である。



718 足跡群（第 318・359 図、第 63 表）

南区東側中央 7a-10C-7g・8g グリッドにおいて、造成土の下面、Ⅰｂ層上面で検出した。検出した範囲は東西 2.6m、南北 1.6m にかけてで、偶蹄目の足跡がある。

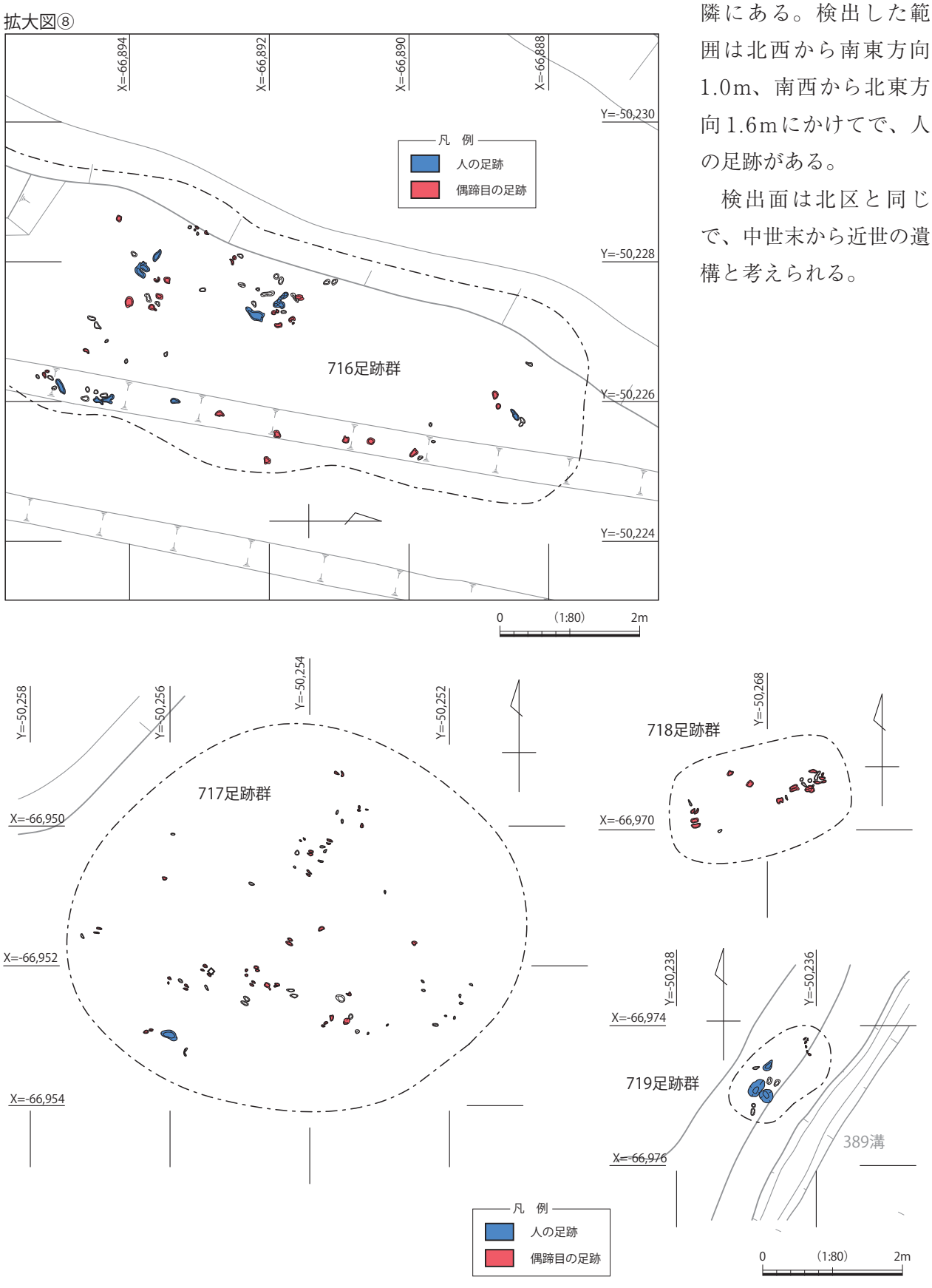
検出面は北区と同じで、中世末から近世の遺構と考えられる。

第 358 図　716 足跡群（１）

719 足跡群（第 318・359 図、第 63 表）

南区東側中央 7a-9C-8d グリッドにおいて、造成土の下面、Ⅰｂ層上面で検出した。389 溝の西隣にある。検出した範囲は北西から南東方向 1.0m、南西から北東方向 1.6m にかけてで、人の足跡がある。

検出面は北区と同じで、中世末から近世の遺構と考えられる。



第 359 図　716 足跡群（2）、717 ～ 719 足跡群

第３項　第１遺構面の調査（古代の遺構と遺物）

１　概要（第 360 図）

１溝、２流路の範囲を除き、黒ボク土であるⅢ層が厚薄は見られるが概ね全域に堆積する。その下層が漸移層であるⅣ層、以下ソフトローム層へと続く。１溝より西側では上層は古代の遺物包含層であるⅡｂ層が部分的な削平を受けながらモザイク状に、東側は中世から近世の耕作土が堆積している。２・３区で確認された古代から中世の遺物包含層であるⅡａ層は４区では見られない。これとは別に、南区の１溝沿いの限られた範囲で同じく中世の遺物包含層であるⅡｂ' 層が認められた。

２流路西側ではⅡｃ層及びⅢ層上面で検出した遺構、さらに圃場整備などによって削平を受け本層以下で検出した遺構についても、Ⅱｃ層上面で検出した遺構の埋土が黒褐色土系と類似する埋土の遺構については第１遺構面（古代）として扱うことにした。竪穴建物５・６、掘立柱建物 17 ～ 22 のほか、278・306・322・358・687・708・711 道路、30・31 溝などを検出している。

２流路東側では中世の耕作土下のⅣ層もしくはⅤ層上面で検出した遺構について、埋土が黒褐色土系と類似するものについては第１遺構面（古代）として扱うこととした。２流路とその右岸沿いに築かれる 365・678・685・686 道路などを検出している。

以上、飛鳥時代から平安時代の竪穴建物や掘立柱建物、道路遺構などから構成される集落の一端が明らかとなった。なお、建物を構成しない単体の柱穴やピットでも、掲載遺物が出土したものは取上げて記述している。

２　検出した遺構と遺物

（１）　竪穴建物

竪穴建物５（第 360 ～ 363 図、第 26・28・80・81・92・96 表、図版 192 ～ 196・297・298）

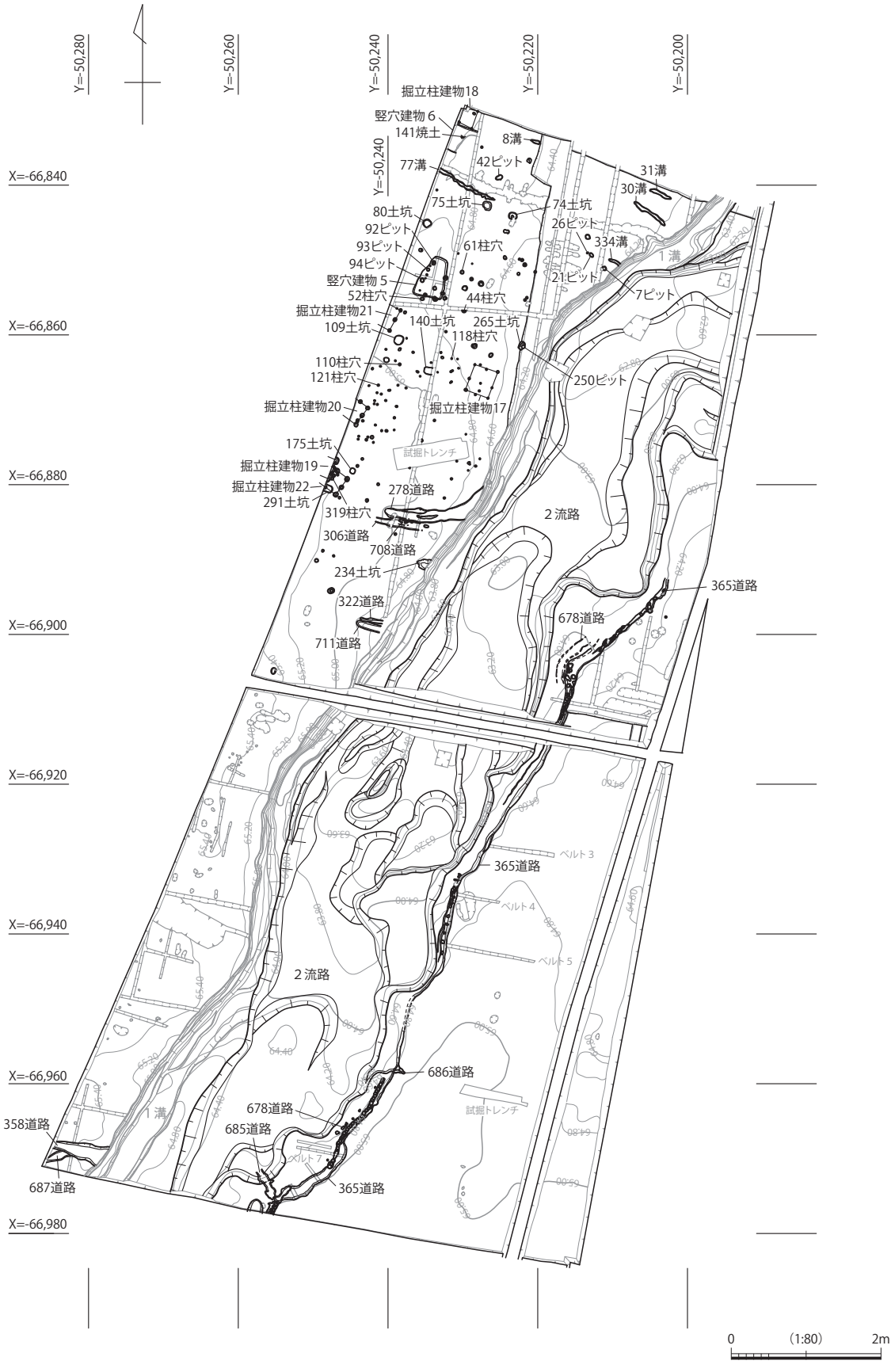
北区西側中央 7a-9C-5d・6d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した竪穴建物である。西側は撹乱で掘削され、南西隅付近のみ遺存していた。長軸 5.52m、短軸 3.95ｍを測る。

隅丸方形のプランで、N-13° -E を主軸とする。検出面からの深さは最大で 0.11m、残存している床面積は 17.2㎡である。壁溝及び柱穴、床面における硬化面や貼床も確認されていない。掘り込みは浅く、主たる柱穴も確認できない、床面に焼土の範囲が点在する等、約 15m 北側に位置する竪穴建物６と共通する点が多い。

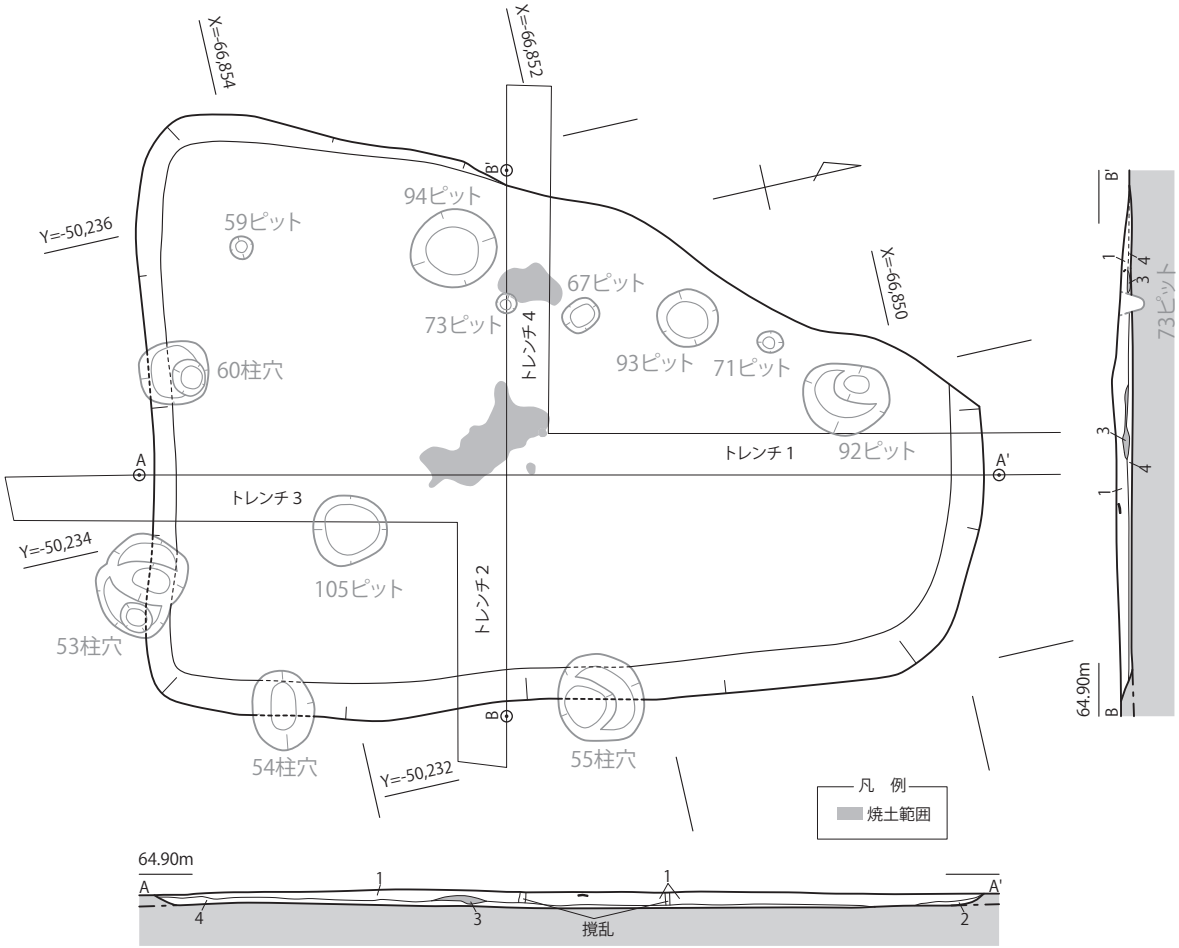
床面中央には不整形で、長軸 0.90m、短軸 0.40ｍと、南側に長軸 0.40m、短軸 0.20ｍの２箇所が被熱によって明黄褐色に変色し、周辺には炭化物が散在していた。被熱しているのは表面付近に限られるものの、炉跡と考えられる。焼土面が複数でやや広い範囲にあるのは、土製支脚や移動式竈を使用した範囲と考えられる。

埋土は４層に分けられ、いずれも黒褐色シルトを主体とする。床面と地山の間に貼床はなく、平面に使用痕跡とみられる汚濁した範囲のみ確認した。床面上で複数のピットを確認したものの、規模も堆積状況も柱穴ではなく、建物以前に存在したピットである。

遺物は建物の中央付近から出土した。床面が不明瞭のため、埋土下層からの出土である。Po429 ～ 436 は手捏ね成形のミニチュア土器である。掘り下げ中に確認できたのは、Po436 が中央付近、Po434・435 は建物の中央南側のみである。Po429・430 は小型品で、Po431 は口縁部、Po432 は



第 360 図　第 1 遺構面（古代）全体図



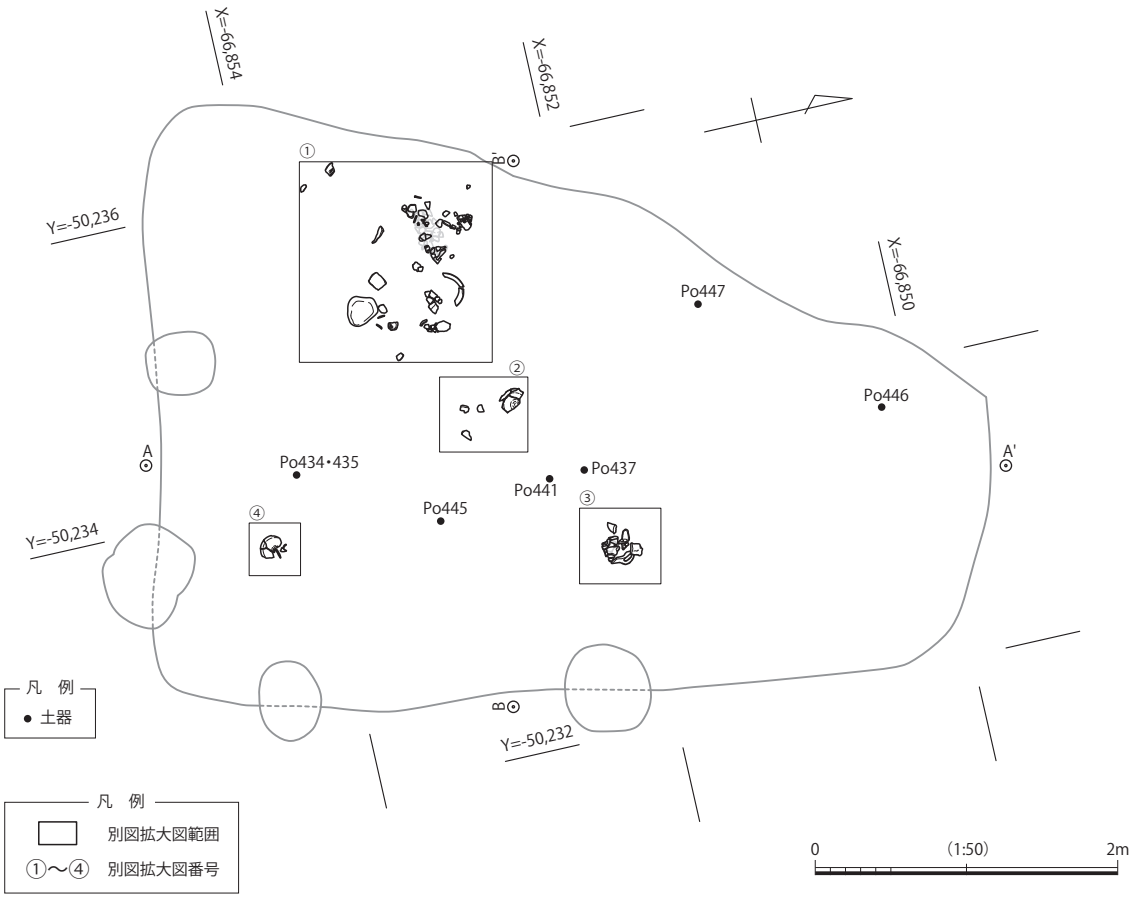
竪穴建物５
1　10YR2/2 黒褐色 シルト (10YR5/1 褐灰色 砂質シルトφ～5cmブロック混　φ～0.5cm礫混　炭化物φ～3cm混　土器片混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/2 黒褐色 シルト (φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～2cm混)　粘性中　しまり中
3　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR7/6 明黄褐色 焼土φ～5cmブロック多混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
4　10YR3/2 黒褐色 シルト (10YR5/1 褐灰色 砂質シルトφ～3cmブロック少混　φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中　(貼床か?)

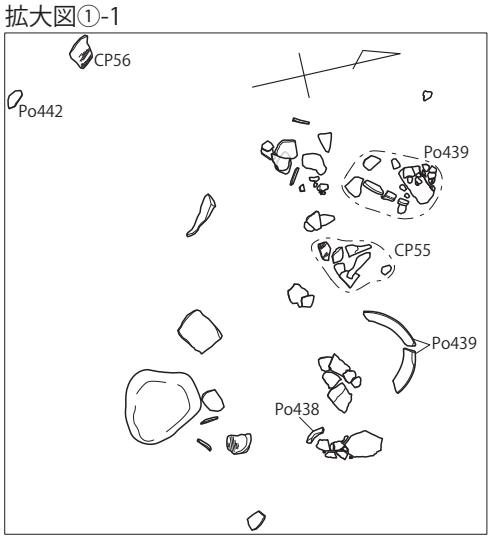
0　(1:50)　2m

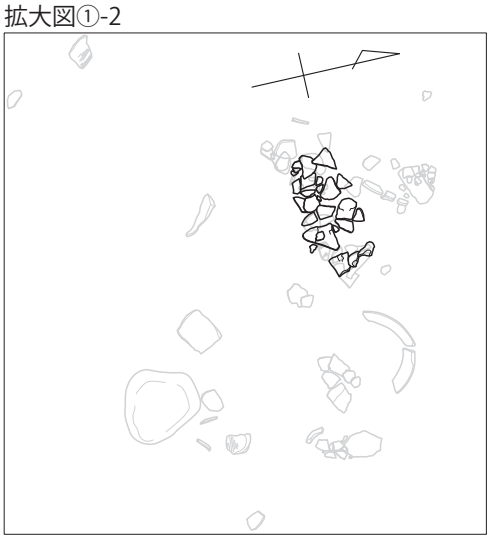
第 361 図　竪穴建物５（１）

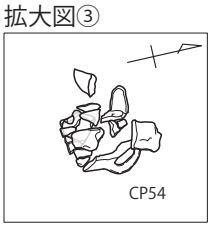
体部片、Po433 は口縁部～底部にかけての破片、Po434 ～ 436 はやや大型の底部片である。Po437 ～ 441 は土師器の甕である。Po437 ・ 441 は中央付近、焼土面の東側から出土した。Po864 は口縁部が欠損しているため、写真のみ掲載する。Po438・439 は建物の西側、焼土範囲の南側で、細片の広がりとして検出した。Po442 ～ 447 は須恵器である。Po442 は坏蓋で混入か。南東側から出土した。Po443 は高台付きの皿で、高台は立ち上がりかやや内側に貼り付ける。建物の中央付近からやや傾いた状態で、内面を上に向けて出土した。Po444 ～ 446 は高坏である。Po444 の脚部には３箇所の長方形の透かしがあり、透かしの間には１箇所、判読不明の墨書がある。南東側から坏部を下に向けた状態で出土した。Po446 は中央北側、Po445 は中央やや南東から出土した。Po447 は甕の体部片である。CP54 は把手をもつ土製支脚で、中央東側から出土した。CP55 ・ 56 は移動式竈の一部で、中央南西側から甕の細片とともに出土した。

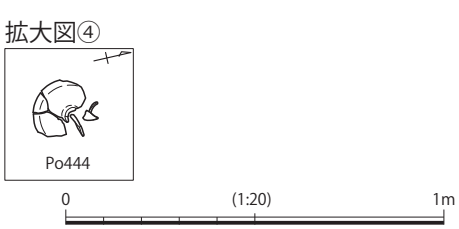
本遺構の帰属時期は遺物の年代から、８世紀前半～中葉と考えられる。



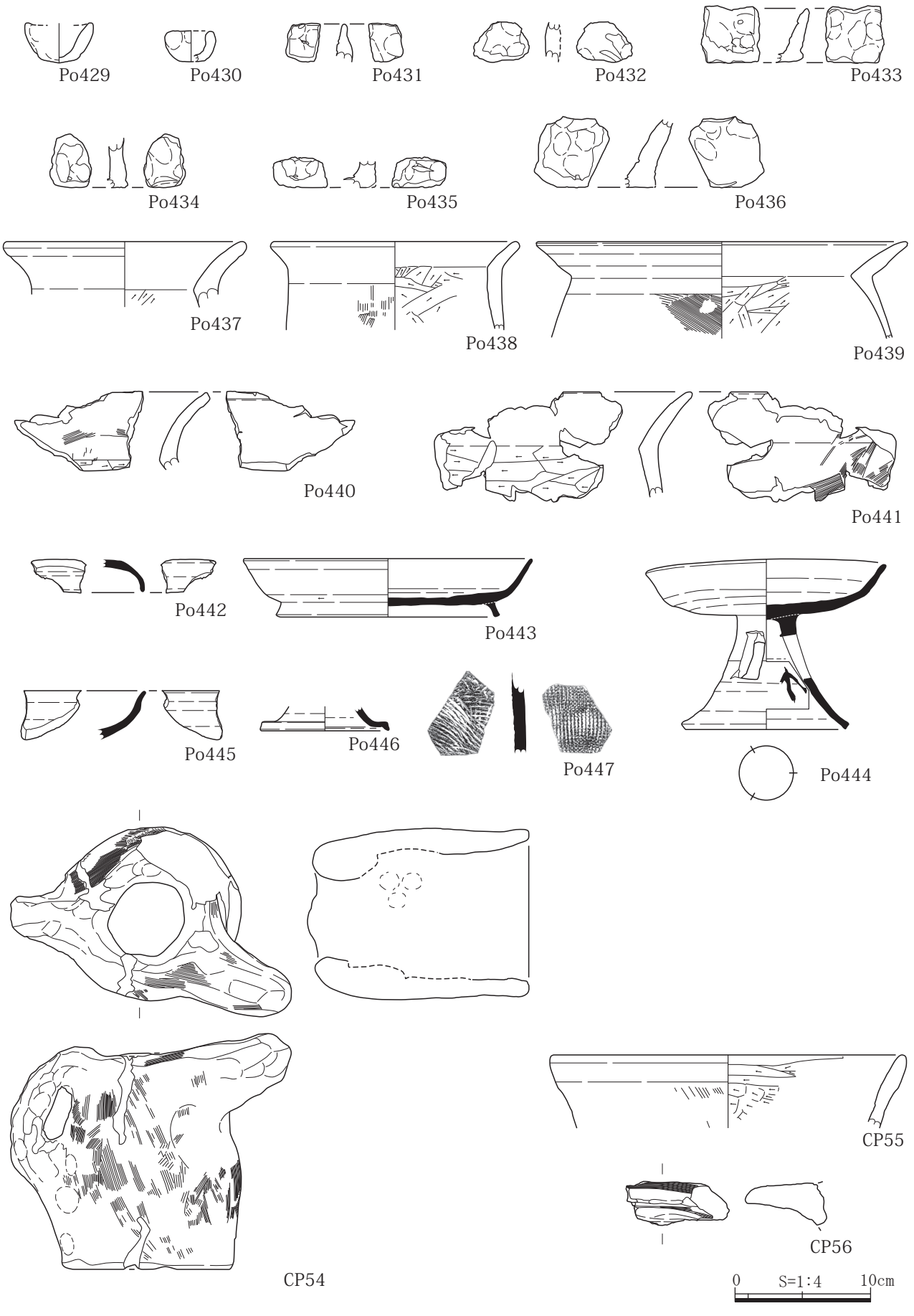




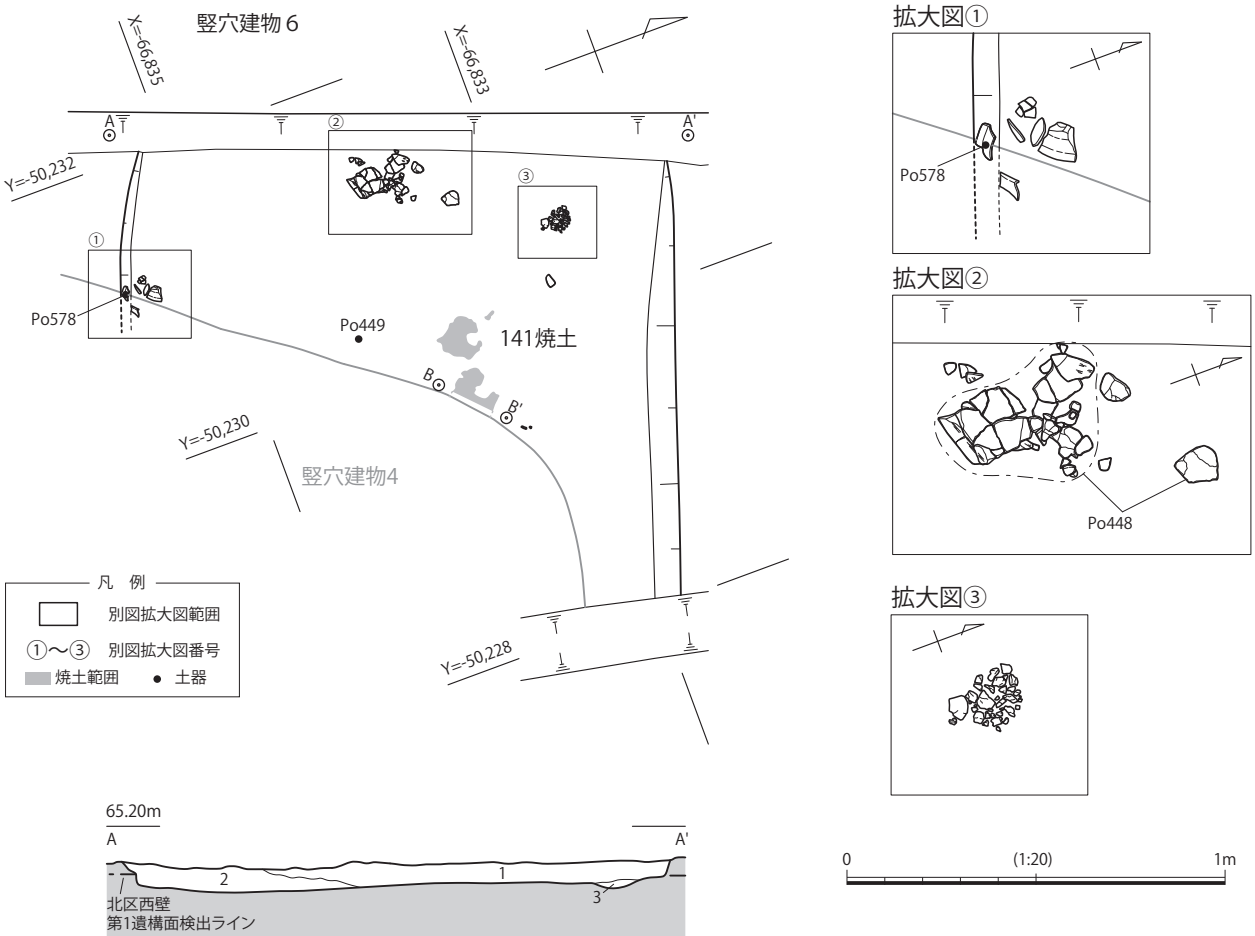




第 362 図　竪穴建物５（２）



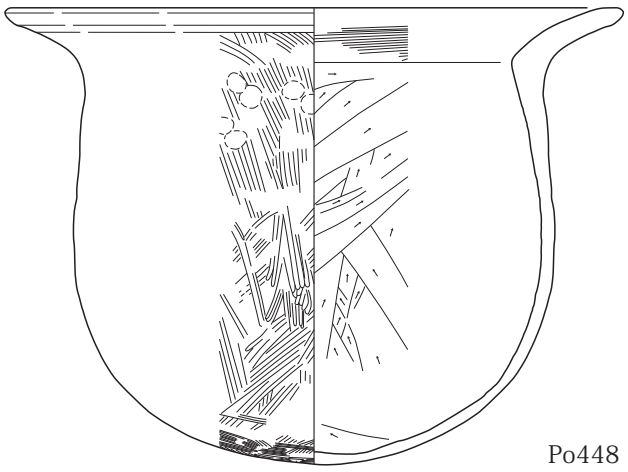
第 363 図　竪穴建物５出土遺物

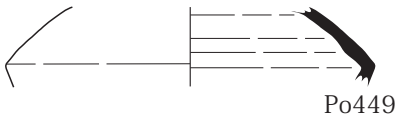


竪穴建物６
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ1～2cmブロック混　炭化物φ1cm多混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中
3　10YR2/2 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中

141焼土
1　7.5YR8/6 浅黄橙色 シルト (炭化物φ1cm混)　粘性やや強　しまりやや強

0　(1:50)　2m





0　S=1:4　10cm

第 364 図　竪穴建物６、竪穴建物６出土土器

竪穴建物６（第 360・364 図、第 26・28・81 表、図版 197・198・299）

北区北西 7a-9C-4c・4d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した竪穴建物である。西側は調査区外に延び、東側は幅 30cmの暗渠や圃場整備による削平によって全容は不明である。

竪穴建物６は、残存長 2.96m、短軸 3.66ｍを測る。隅丸方形のプランと推定され、N-22° -Eを主軸とする。検出面からの深さは最大で 0.17m、残存している床面積は 6.29㎡である。壁溝及び柱穴は検出しておらず、床面における硬化面や貼床も確認されていない。掘り込みは浅く、竪穴建物５に類似する。

床面中央には長軸 0.30m、短軸 0.28ｍの被熱によって浅黄橙色に変色している範囲が２箇所みられ、炉跡と考えられる。焼土面は固く焼き締まっており、炉跡の周囲には炭化物集中範囲が確認された。埋土は、Ⅰ・Ⅲ・Ⅵ層に由来するブロックを含む黒褐色シルト１・３層と黒色シルトの２層が堆積する。１層は炭化物を多く含む。

遺物は床面中央北寄りと北東部、さらに西壁付近から出土している。床面上から土師器甕 Po448 が潰れた状態で出土している。Po448 は土師器甕であり、球状の体部に大きく外反する口縁部が付く。Po449 はソロバン玉状の体部を有する須恵器壺である。

本遺構の帰属時期は床面直上の出土遺物から判断し、８世紀と考えられる。

（２） 掘立柱建物

掘立柱建物 17（第 360・365・366 図、第 29・35・38・96 表、図版 223・299）

北区中央 7a-9C-7c グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。本遺構は、207 ～ 215 柱穴によって構成される。桁行２間（3.7m）、梁行２間（3.2m）の南北棟の総柱建物である。主軸は N-21° -E をとり、平面積は 11.7㎡を測る。柱間寸法は桁筋が 1.5 ～ 2.2m、梁筋が 1.5 ～ 1.7ｍで概ね柱筋の通りは良い。

柱穴の平面形は不整円形を呈し、断面形は逆台形状である。柱穴の規模は長軸 0.22 ～ 0.42m、短軸 0.21 ～ 0.36m、底面の標高は 64.47 ～ 64.60ｍを測る。柱穴は全て柱抜き取り痕跡が確認され、掘方埋め土はⅡ層に由来するブロックを含む黒褐色シルトが含まれる。

本建物の帰属時期は、出土遺物から判断し９～ 10 世紀と考えられる。

207 柱穴（第 365 図、第 35・38 表、図版 224）

平面形は円形を呈し、規模は長軸 0.36m、短軸 0.34m、検出面からの深さ 0.22ｍを測る。底面標高は 64.47m。埋土はⅠ・Ⅲ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅱ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２層が堆積する。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

208 柱穴（第 365 図、第 35・38 表、図版 224）

平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.24m、短軸 0.21m、検出面からの深さ 0.18ｍを測る。底面標高は 64.51m。埋土はⅠ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅱ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２層が堆積する。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

209 柱穴（第 365 図、第 35・38・96 表、図版 224・225・299）

平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.27m、短軸 0.25m、検出面からの深さ 0.24ｍを測る。底面標高は 64.47m。埋土はⅢ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層が堆積する。１層からは平瓦CP57が縦位方向で出土している。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。CP57 は、凸面はナデ、凹面は側縁が面取りがなされ布目がみられる。

210 柱穴（第 366 図、第 35・38 表）

平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.27m、短軸 0.24m、検出面からの深さ 0.24ｍを測る。底面標高は 64.55m。埋土は柱抜き取り痕跡の１層と、Ⅱ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の２層が堆積する。埋土中に径約５cmの礫が含まれていた。遺物は出土していない。

211 柱穴（第 366 図、第 35・38 表）

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸 0.42m、短軸 0.36m、検出面からの深さ 0.27ｍを測る。底面標高は 64.56m。埋土はⅢ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅱ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の２層が堆積する。１層中には径５～ 13cmの礫が含まれていた。遺物は出土していない。

212 柱穴（第 366 図、第 35・38 表、図版 224）

平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.34m、短軸 0.28m、検出面からの深さ 0.29ｍを測る。底面標高は 64.52m。埋土はⅢ層に由来するブロックや炭化物を含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅱ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の２層が堆積する。遺物は出土していない。

213 柱穴（第 366 図、第 35・38 表、図版 225）

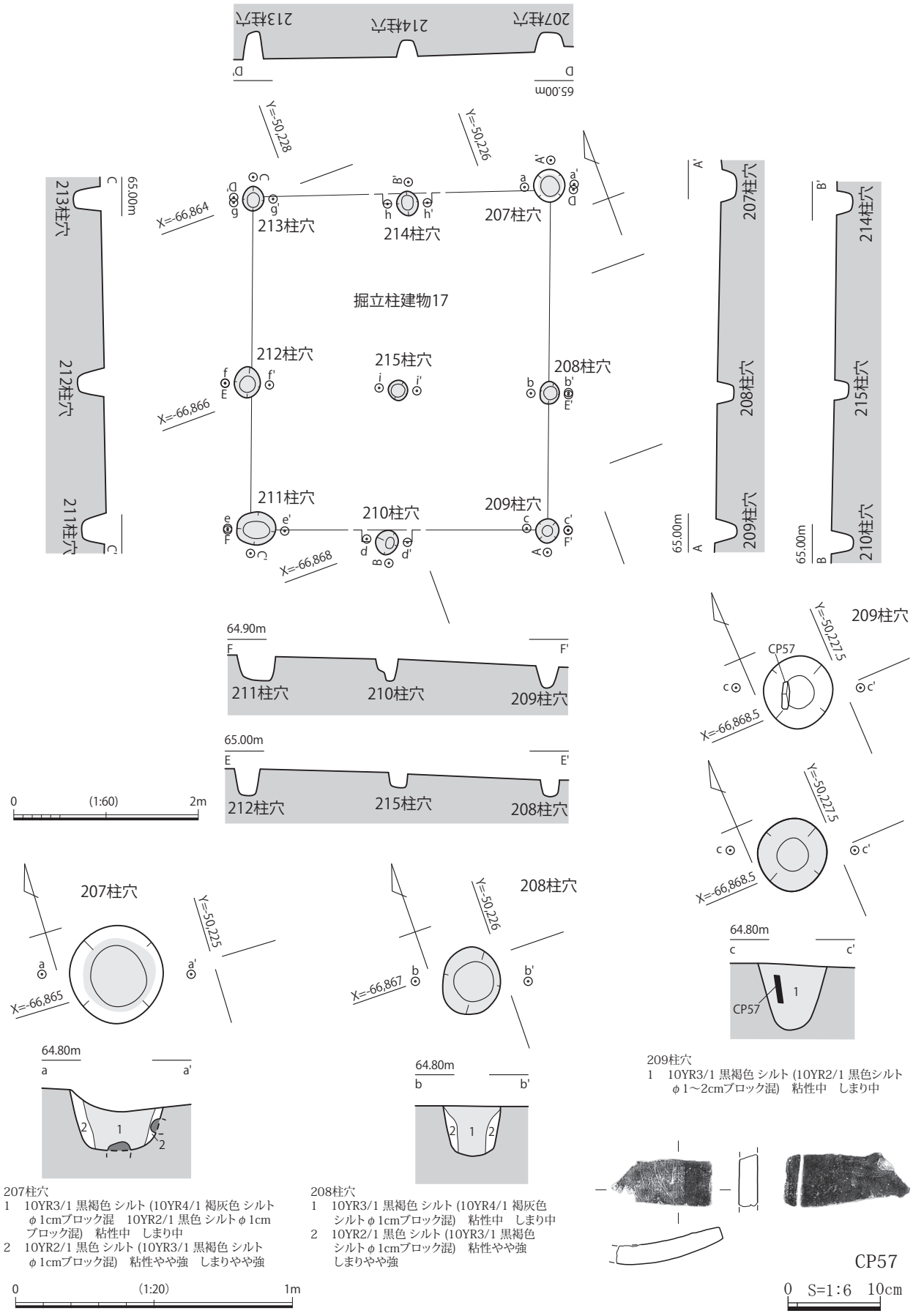
平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.27m、短軸 0.23m、検出面からの深さ 0.29ｍを測る。底面標高は 64.48m。埋土はⅠ層に由来するブロックや炭化物を含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅱ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の２層が堆積する。１層中には径７～ 11cmの礫が含まれていた。遺物は出土していない。

214 柱穴（第 366 図、第 35・38・96 表、図版 225・299）

平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.27m、短軸 0.23m、検出面からの深さ 0.18ｍを測る。底面標高は 64.56m。埋土はⅠ・Ⅲ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層が堆積する。１層からは平瓦 CP58 が縦位方向に径５～ 11cmの礫と共に出土している。平瓦 CP58 は、凸面はナデ、凹面は布目と布かがり痕が観察される。

215 柱穴（第 366 図、第 35・38 表、図版 226）

平面形は円形を呈し、規模は長軸 0.22m、短軸 0.21m、検出面からの深さ 0.16ｍを測る。底面標高は 64.60m。埋土はⅠ・Ⅲ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅱ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の２層が堆積する。遺物は出土していない。

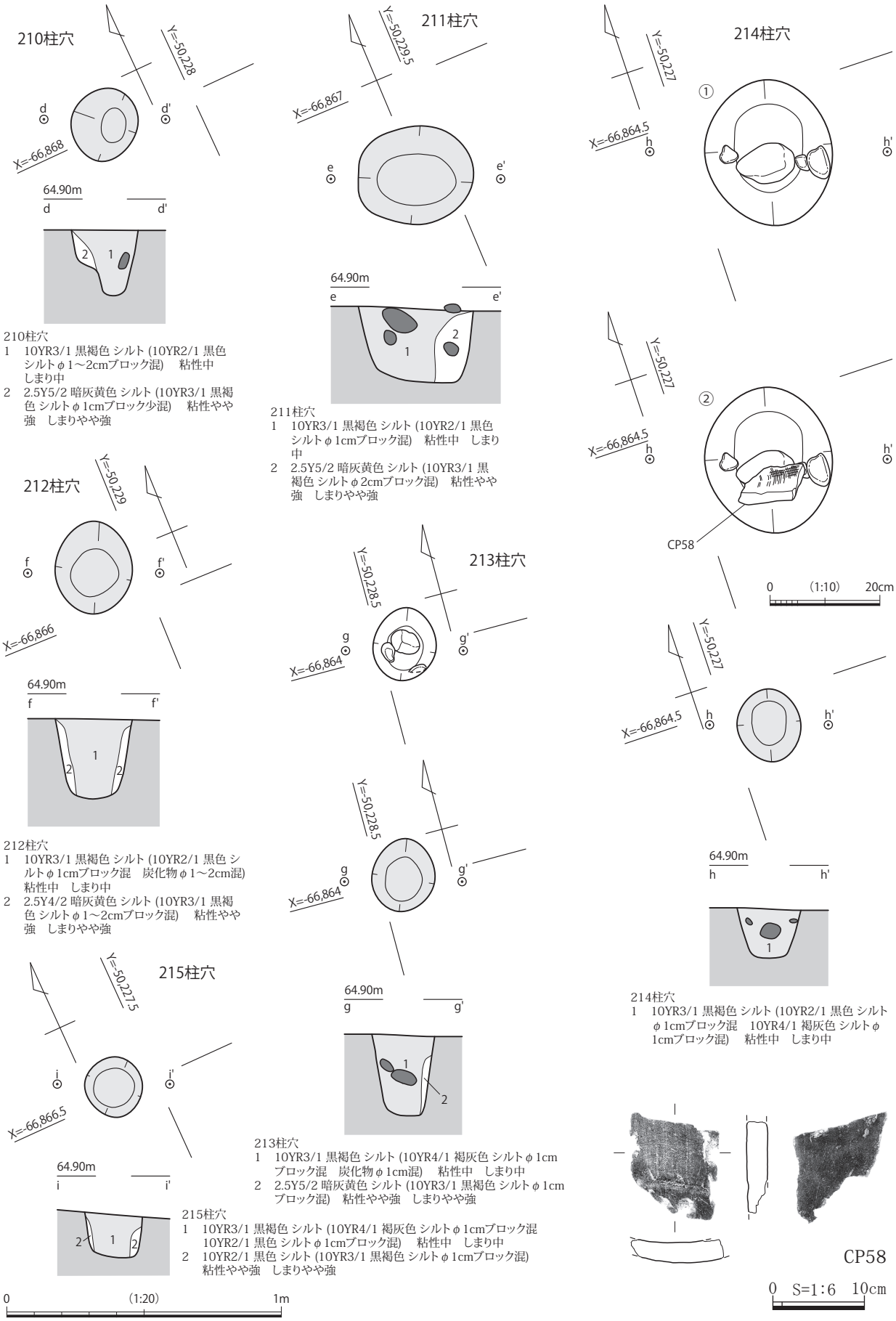


207柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルト φ1cmブロック混　10YR2/1 黒色 シルト φ1cm ブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルト φ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

208柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ1cmブロック混)　粘性やや強 しまりやや強

209柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色シルト φ1～2cmブロック混)　粘性中　しまり中

第 365 図　掘立柱建物 17、掘立柱建物 17　207 ～ 209 柱穴、209 柱穴出土瓦



210柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ1cmブロック少混)　粘性やや強　しまりやや強

211柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ2cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

212柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混　炭化物φ1～2cm混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

213柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混　炭化物φ1cm混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

214柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混　10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中

215柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混　10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

第 366 図　掘立柱建物 17　210 ～ 215 柱穴、214 柱穴出土瓦

掘立柱建物 18（第 360・367 図、第 29・35・38 表）

北区北西端 7a-9C-3c・4c・4d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。本遺構は、39 ～ 41 柱穴によって構成される。調査区際に位置するため、全体の規模は不明であるが、39 ・ 40 柱穴を桁筋と捉えれば、桁行１間（2.4m）、梁行１間（1.9m）の南北棟の側柱建物と推定できる。主軸は N-19° -E をとり、平面積は 4.6㎡を測る。柱間寸法は桁筋が 2.4m、梁筋が 1.9m と推定される。柱穴の平面形は不整円形または不整楕円形、断面形は逆台形状を呈する。柱穴の規模は長軸 0.22 ～ 0.31m、短軸 0.21 ～ 0.25m、底面の標高は 64.48 ～ 64.59m を測る。

本遺構の帰属時期は、柱穴埋土の特徴から古代と考えられる。

39 柱穴（第 367 図、第 35・38 表、図版 226）

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸 0.27m、短軸 0.22m、検出面からの深さ 0.34m を測る。底面標高は 64.48m。埋土は柱痕跡の１層と、Ⅱ・Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の２層が堆積する。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

40 柱穴（第 367 図、第 35・38 表、図版 226）

北側の一部が３区との調査区境で削平されている。平面形は不整円形を呈し、残存規模は長軸 0.22m、短軸 0.21m、検出面からの深さ 0.38m を測る。底面標高は 64.48m。埋土はⅠ層に由来するブロックを含む黒褐色シルトの１層と、Ⅱ・Ⅴ層に由来するブロックを含む灰黄褐色シルトの２層が堆積する。遺物は出土していない。

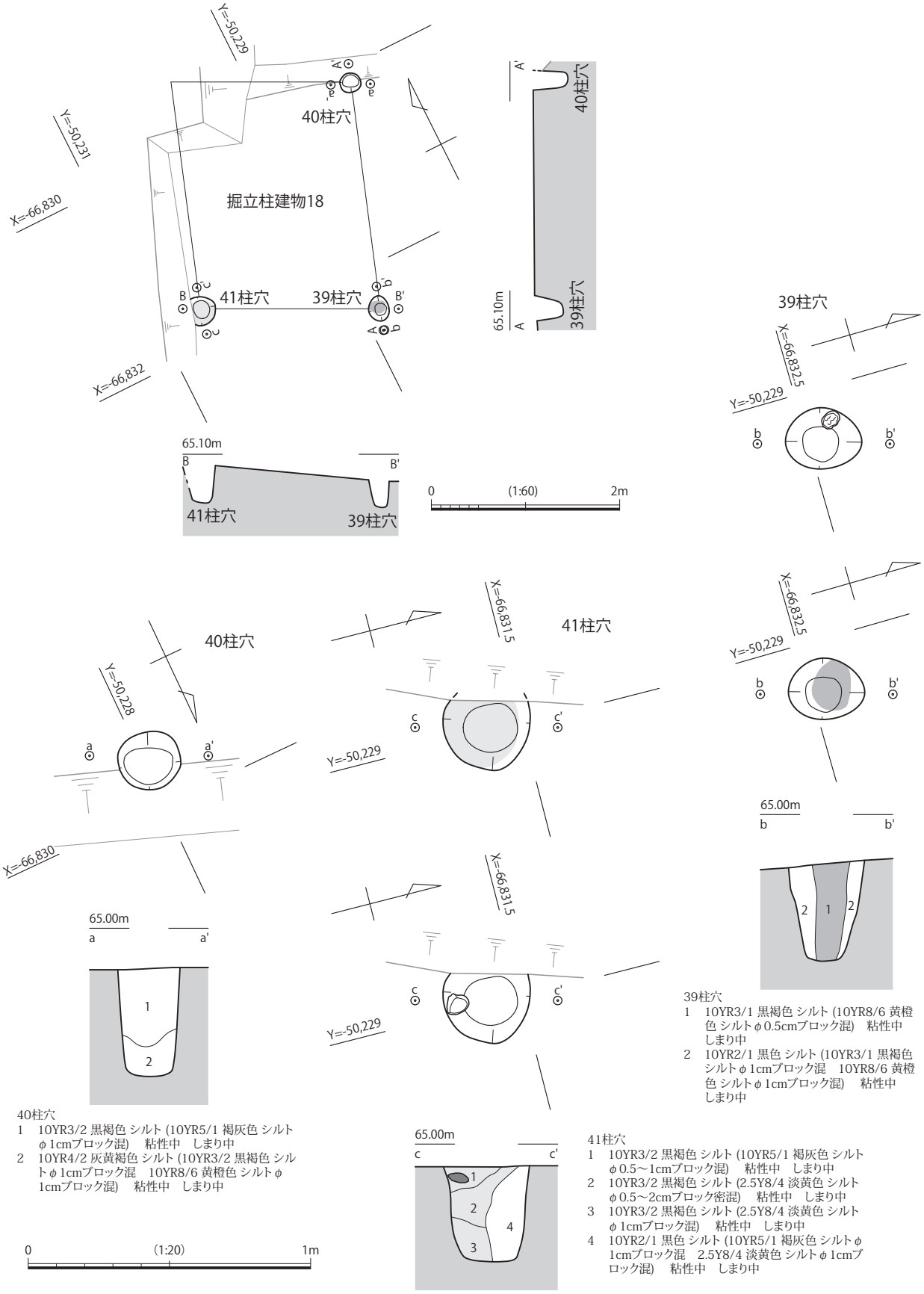
41 柱穴（第 367 図、第 35・38 表、図版 226）

西側の一部が調査区外に延び、全容は不明である。平面形は不整円形を呈し、残存規模は長軸 0.31m、短軸 0.25m、検出面からの深さ 0.34m を測る。底面標高は 64.59m。埋土はⅠ・Ⅵ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡の１～３層と、Ⅰ・Ⅵ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の４層が堆積する。遺物は出土していない。

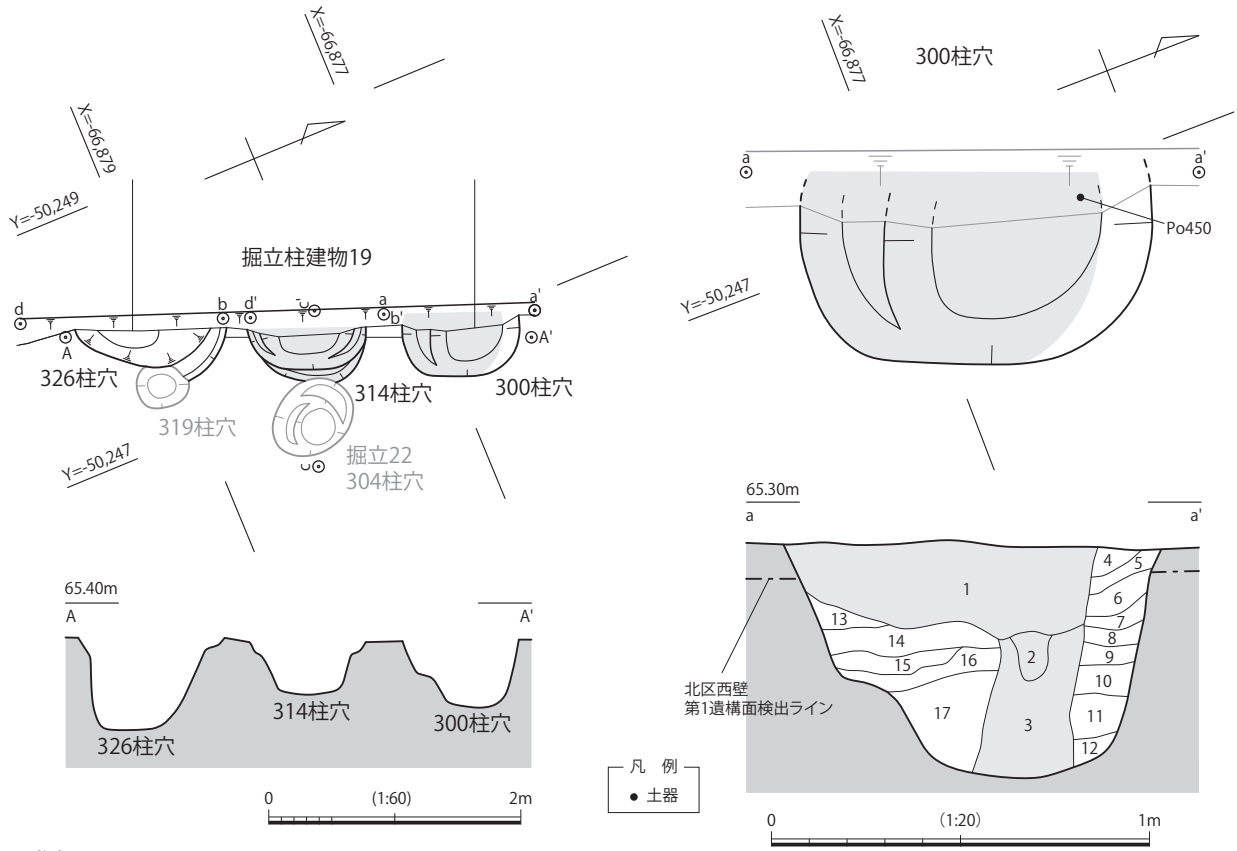
掘立柱建物 19（第 360・368・369 図、第 29・35・38・81 表、図版 227・299）

北区中央西端 7a-9C-8e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。掘立柱建物 22 と重複し、314 柱穴が切られていることから先出する。本遺構は、300 ・ 314 ・ 326 柱穴によって構成される。調査区際に位置するため、全体の規模は不明であるが、300・314・326 柱穴を梁筋と捉えれば、桁行不明、梁行２間（2.7m）の東西棟の側柱建物と判断できる。主軸は N-68° -W をとり、柱間寸法は梁筋が 1.4m で柱筋の通りは概ね良い。

３基の柱穴が調査区際にかかり、全体規模は不明であるが、本遺跡で検出された掘立柱建物の柱穴としては最大規模を誇る。平面形は隅丸方形と推定され、断面形は逆台形状を呈している。柱穴の残存規模は長軸 0.82 ～ 1.21m、短軸 0.37 ～ 0.41m、底面の標高は撹乱の影響を受けている 326 柱穴を除き、64.57 ～ 64.70m を測る。300 ・ 314 柱穴の柱は抜き取られており、土師器 Po450 と須恵器 Po451 が出土している。掘方埋め土はⅢ・Ⅴ層に由来するブロックを含む黒（褐）色シルトと淡黄色シルトを主体とし、丁寧に互層に搗き固めている。



第 367 図　掘立柱建物 18、掘立柱建物 18　39 ～ 41 柱穴



300柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混　10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強
3　10YR3/2 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性やや弱　しまりやや弱
4　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ2～3cmブロック密混　10YR2/1 黒色 シルトφ2cmブロック混)　粘性強　しまり強
5　10YR2/1 黒色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック少混)　粘性やや強　しまりやや強
6　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ2～3cmブロック密混　10YR2/1 黒色 シルトφ2cmブロック混)　粘性強　しまり強
7　10YR2/1 黒色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック少混)　粘性やや強　しまりやや強
8　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ2～3cmブロック密混　10YR2/1 黒色 シルトφ2cmブロック混)　粘性強　しまり強
9　10YR2/1 黒色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック少混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5～1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強
10　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック少混)　粘性強　しまり強
11　10YR2/1 黒色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強
12　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混　10YR 8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強
13　2.5Y8/4 淡黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ2cmブロック混)　粘性強　しまり強
14　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック混　10YR4/1褐灰色 シルトφ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強
15　2.5Y8/4 淡黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ2～3cmブロック多混　10YR 8/6 黄橙色 シルトφ2cmブロック混)　粘性強　しまり強
16　2.5Y8/4 淡黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ2cmブロック混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ3～5cmブロック密混)　粘性強　しまり強
17　10YR2/1 黒色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ5cmブロック密混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ3cmブロック多混　φ3～5cm礫少混)　粘性強　しまり強

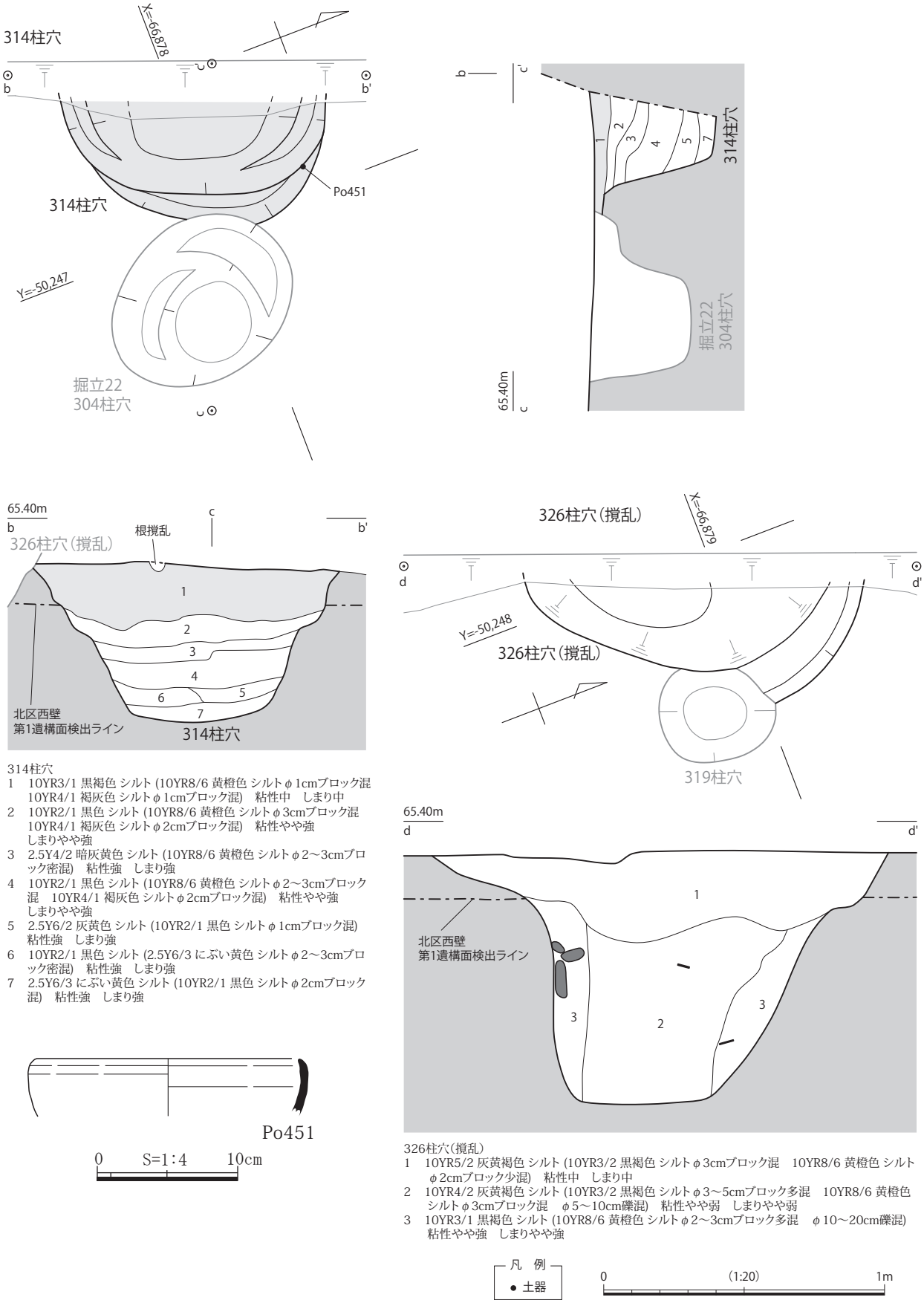
第 368 図　掘立柱建物 19、掘立柱建物 19　300 柱穴、300 柱穴出土土器

本建物の帰属時期は、出土遺物から判断し７世紀後半～８世紀前半と考えられる。

300 柱穴（第 368 図、第 35・38・81 表、図版 227・299）

西側は調査区外に延びる。平面形は隅丸方形を呈し、断面形は南側に三日月状のテラス面をもつ段掘りとなっている。残存規模は長軸 0.82m、短軸 0.37m、検出面からの深さ 0.61m を測る。底面標高は 64.57m。埋土はⅠ・Ⅴ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１～３層と、Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の４～ 17 層が堆積する。掘方埋め土は総じてしまりが強く、Ⅲ層由来のブロックを主体とする層とⅤ層由来のブロックを主体とする層が互層となって搗き固められている。

遺物は、柱抜き取り痕跡から土師器 Po450 が出土している。Po450 は土師器甕の口縁から体部の



314柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混 10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ3cmブロック混 10YR4/1 褐灰色 シルトφ2cmブロック混)　粘性やや強 しまりやや強
3　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ2～3cmブロック密混)　粘性強　しまり強
4　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ2～3cmブロック混　10YR4/1 褐灰色 シルトφ2cmブロック混)　粘性やや強 しまりやや強
5　2.5Y6/2 灰黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混)　粘性強　しまり強
6　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y6/3 にぶい黄色 シルトφ2～3cmブロック密混)　粘性強　しまり強
7　2.5Y6/3 にぶい黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ2cmブロック混)　粘性強　しまり強

326柱穴（撹乱）
1　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (10YR3/2 黒褐色 シルトφ3cmブロック混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ2cmブロック少混)　粘性中　しまり中
2　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (10YR3/2 黒褐色 シルトφ3～5cmブロック多混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ3cmブロック混　φ5～10cm礫混)　粘性やや弱　しまりやや弱
3　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ2～3cmブロック多混　φ10～20cm礫混)　粘性やや強　しまりやや強

第 369 図　掘立柱建物 19　314・326 柱穴、314 柱穴出土土器

破片である。口縁部が「く」字状に外反する。

314 柱穴（第 368・369 図、第 35・38・81 表、図版 227・299）

遺構の西側は調査区外に延び東側は掘立柱建物 22 の 304 柱穴に切られている。平面形は隅丸方形、断面形は逆台形状を呈している。残存規模は長軸 0.94m、短軸 0.37m、検出面からの深さ 0.56m を測る。底面標高は 64.70m。埋土はⅠ・Ⅴ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅰ・Ⅲ・Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の２～７層が堆積する。掘方埋め土は総じてしまりが強く、Ⅲ層由来のブロックを主体とする層とⅤ層由来のブロックを主体とする層が互層となって搗き固められている。

遺物は、埋土から須恵器 Po451 が出土している。Po451 は口縁部が緩やかに内湾する須恵器鉢である。

326 柱穴（第 368・369 図、第 35・38 表、図版 228）

遺構の西側は調査区外に延び、入れ子状に撹乱が及んでいるため、本来の形状をわずかに留めるのみである。平面形は不整楕円形、断面形は逆台形状を呈している。残存規模は長軸 1.21m、短軸 0.41m、検出面からの深さ 0.89m を測る。底面標高は 64.39m。埋土は灰黄褐色シルトの撹乱土が堆積し、径 10 ～ 20cm の礫も含まれる。遺物は出土していない。

掘立柱建物 20（第 360・370・371 図、第 29・35・38・81 表、図版 229・299）

北区中央西端 7a-9C-7e・8e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。本遺構は、276・277・287・290 柱穴によって構成される。調査区際に位置するため、全体の規模は不明であるが、277・287・290 柱穴を桁筋と捉えれば、桁行２間（2.8m）、梁行２間（1.8m）以上の南北棟の側柱建物と判断できる。主軸は N-37° -W をとり、検出された平面積は 3.8㎡を測る。柱間寸法は桁筋が 1.4m、梁筋が 1.3m で柱筋の通りは概ね良い。

検出された柱穴は、平面形は不整円形もしくは不整楕円形、断面形は逆台形状を呈している。柱穴の規模は長軸 0.47 ～ 0.61m、短軸 0.44 ～ 0.49m、底面の標高は、64.68 ～ 64.81m を測る。柱はいずれも抜き取られており、277 柱穴では柱のあたりが検出されている。

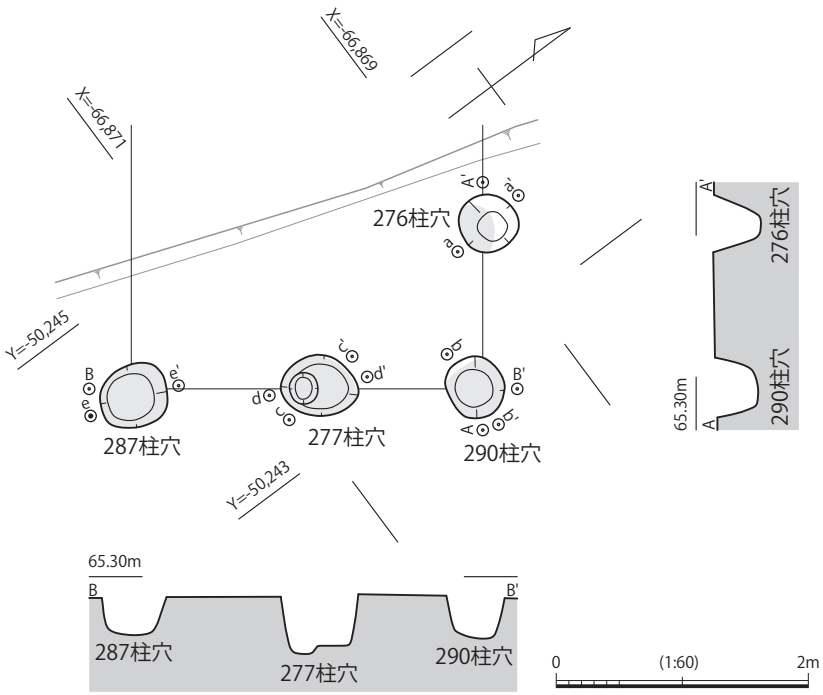
本建物の帰属時期は、出土遺物から判断し７世紀後半～８世紀と考えられる。

276 柱穴（第 370・371 図、第 35・38 表、図版 230）

平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.47m、短軸 0.46m、検出面からの深さ 0.39m を測る。底面標高は 64.78m。埋土はⅠ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、同じくⅠ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の２層が堆積する。土器は小片のため図化していない。

277 柱穴（第 370・371 図、第 35・38 表、図版 230）

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸 0.61m、短軸 0.49m、検出面からの深さ 0.42m を測る。底面標高は 64.68m。埋土はⅠ・Ⅴ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１～３層と、Ⅲ・Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土４・５層が堆積する。底面の南側に長軸 0.24m、短軸 0.22m



第 370 図　掘立柱建物 20

の柱のあたりが確認された。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

287 柱穴（第 370・371 図、第 35・38・81 表、 図版 230・299）

平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.55m、短軸 0.49m、検出面からの深さ 0.32m を測る。底面標高は 64.80m。埋土はⅤ層に由来するブロックを多く含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の２層が堆積する。１層から須恵器 Po452 が出土している。Po452 は須恵器甕の体部片である。外面は平行タタキ、内面は同心円状当て具痕が認められる。

290 柱穴（第 370・371 図、第 35・38 表、図版 230）

平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.50m、短軸 0.44m、検出面からの深さ 0.33m を測る。底面標高は 64.81m。埋土はⅠ・Ⅴ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡の１・２層と、Ⅱ・Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の３層が堆積する。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

掘立柱建物 21（第 360・372 図、第 29・35・38・81 表、図版 232・299）

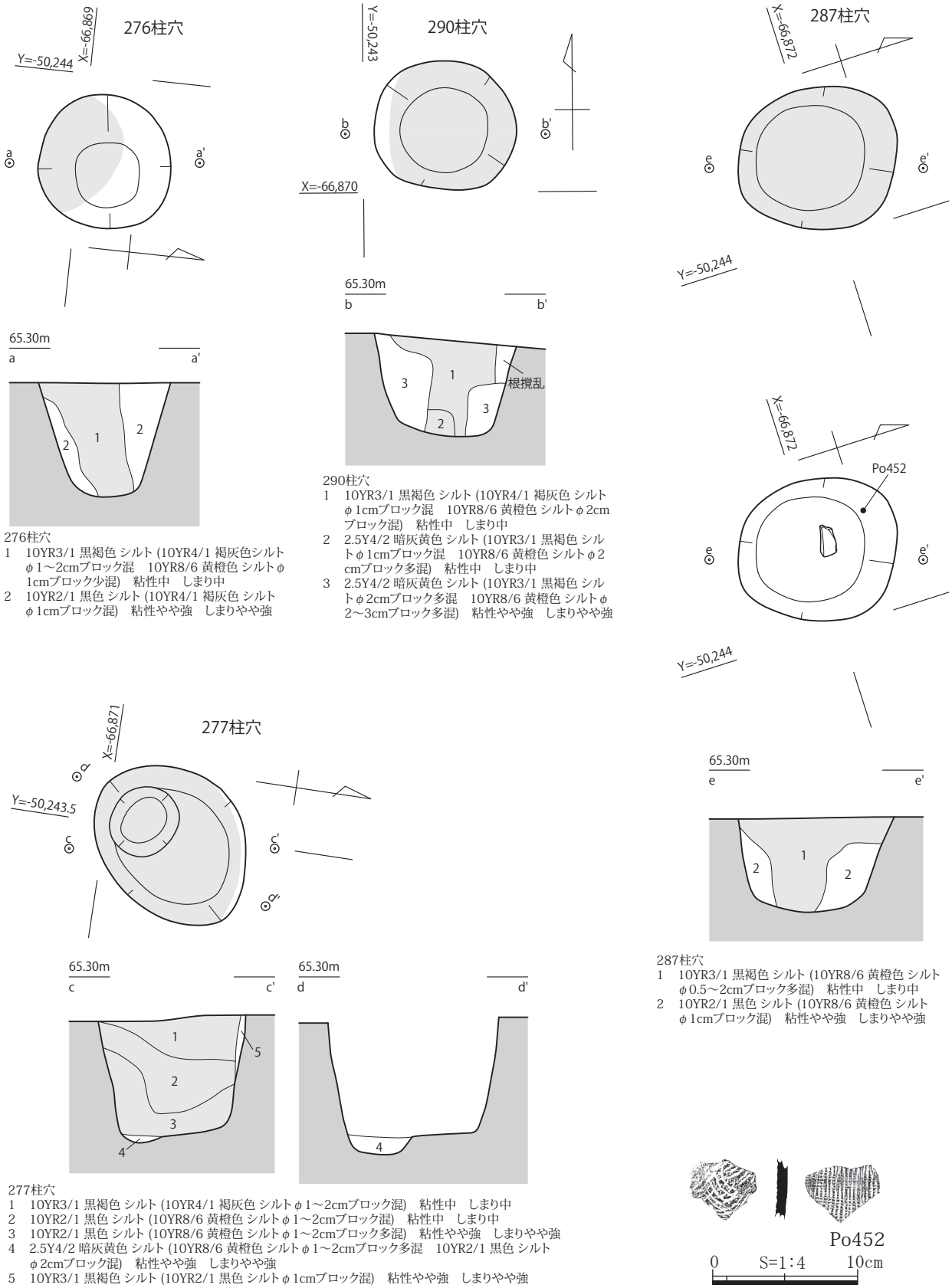
北区中央西端 7a-9C-6d・6e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。本遺構は、185 ～ 187 柱穴によって構成される。桁行２間（3.1m）、梁行不明の側柱建物である。主軸は N-29° -E をとり、検出された平面積は 3.1㎡を測る。柱間寸法は桁筋が 1.4 ～ 1.8m で柱筋の通りは良い。

柱穴の平面形は不整円形または不整楕円形、断面形は逆台形状を呈する。柱穴の規模は長軸 0.42 ～ 0.53m、短軸 0.36 ～ 0.43m、底面の標高は 64.45 ～ 64.56m を測る。柱はいずれも抜き取られている。

本建物の帰属時期は、出土遺物から判断し８世紀と考えられる。

185 柱穴（第 372 図、第 35・38 表、図版 231）

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸 0.42m、短軸 0.36m、検出面からの深さ 0.38m を測る。底面標高は 64.45m。埋土はⅤ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、同じくⅤ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２・３層が堆積する。埋土から土器が出土しているが、小片のため



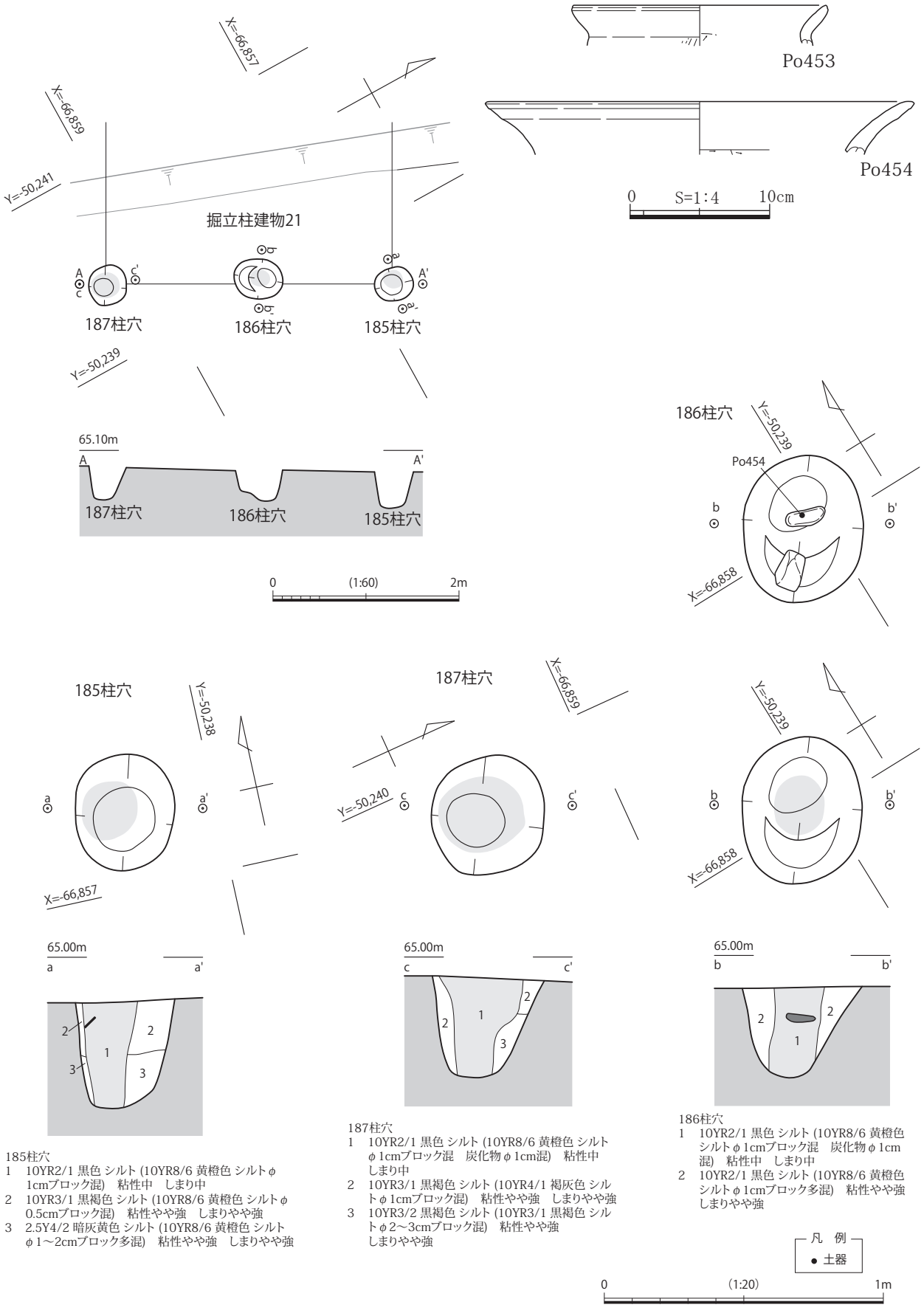
276柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色シルト φ1～2cmブロック混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック少混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルト φ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

290柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルト φ1cmブロック混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ2cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ1cmブロック混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ2cmブロック多混)　粘性中　しまり中
3　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ2cmブロック多混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ2～3cmブロック多混)　粘性やや強　しまりやや強

287柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルト φ0.5～2cmブロック多混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルト φ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

277柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性中　しまり中
3　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック多混)　粘性やや強　しまりやや強
4　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック多混　10YR2/1 黒色 シルトφ2cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強
5　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

第 371 図　掘立柱建物 20　276・277・287・290 柱穴、287 柱穴出土土器



185柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強
3　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック多混)　粘性やや強　しまりやや強

187柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混　炭化物φ1cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強
3　10YR3/2 黒褐色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ2～3cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

186柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混　炭化物φ1cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック多混)　粘性やや強　しまりやや強

第 372 図　掘立柱建物 21、 掘立柱建物 21　185 ～ 187 柱穴、186 柱穴出土土器

図化していない。

186 柱穴（第 372 図、第 35・38・81 表、図版 231・299）

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸 0.53m、短軸 0.43m、検出面からの深さ 0.32ｍを測る。底面標高は 64.53m。埋土はⅤ層に由来するブロックや炭化物を含む柱抜き取り痕跡１層と、同じくⅤ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２層が堆積する。１層から土師器 Po454、埋土から Po453 が出土している。Po453 ・ 454 は土師器甕の口縁部である。前者は口縁部が短く、後者は口縁部が「く」字状に大きく外反する。

187 柱穴（第 372 図、第 35・38 表、図版 231）

平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.45m、短軸 0.41m、検出面からの深さ 0.36ｍを測る。底面標高は 64.56m。埋土はⅤ層に由来するブロックや炭化物を含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅰ・Ⅱ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２・３層が堆積する。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

掘立柱建物 22（第 360・373 ～ 375 図、第 29・35・38・81 表、図版 227・299）

北区中央西端 7a-9C-8e・9e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。本遺構は、172 ・ 173 ・ 304 ・ 313 ・ 336 柱穴によって構成される。掘立柱建物 19 と重複し、柱穴を切っていることから後出する。調査区際に位置するため、全体の規模は不明であるが、172・173・336 柱穴を梁筋と捉えれば、桁行２間以上（△ 2.4m）、梁行２間（2.7m）の東西棟の側柱建物と想定できる。主軸は N-54° -W をとり、検出された平面積は 5.5㎡を測る。柱間寸法は桁筋が 1.6 ～ 1.7m、梁筋が 1.3 ～ 1.5m で柱筋の通りは概ね良い。

柱穴の平面形は不整円形または不整楕円形、断面形は逆台形状を呈する。柱穴の規模は一部調査区外にかかる 313 柱穴を除き、長軸 0.60 ～ 0.70m、短軸 0.51 ～ 0.60m、底面の標高は 64.71 ～ 64.76ｍを測る。柱はいずれも抜き取られている。336 柱穴の掘方埋め土は、Ⅵ層に由来するブロックを含む黒（褐）色シルトと暗灰黄色シルトを互層に搗き固めている。

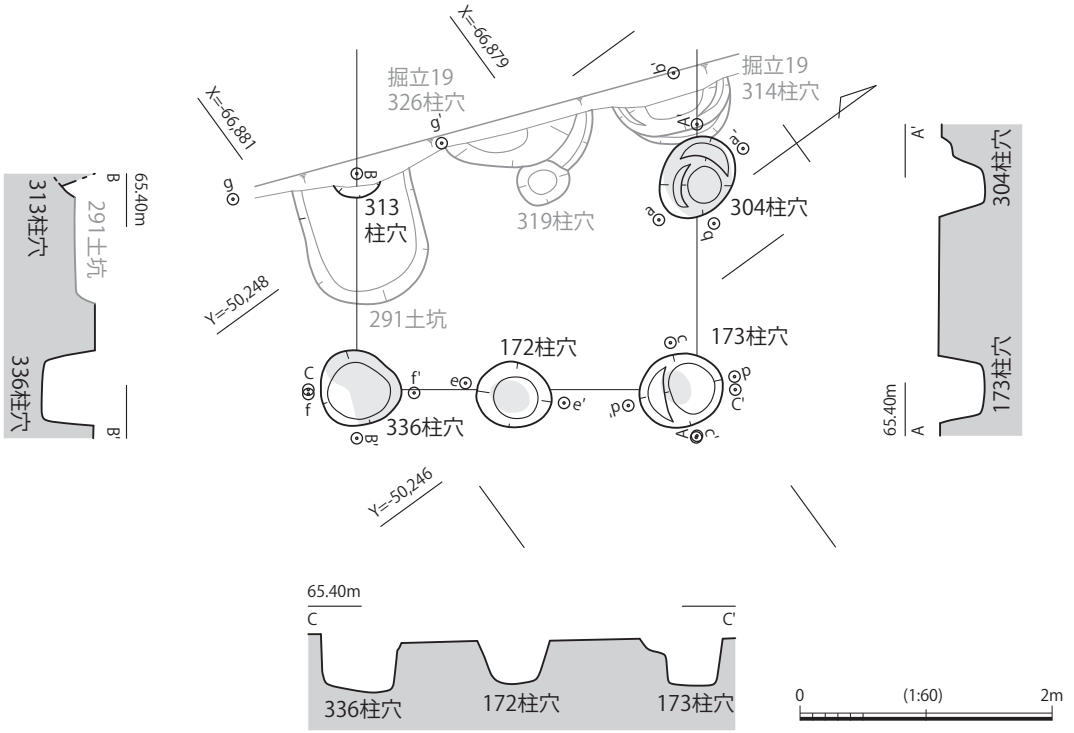
本建物の帰属時期は、出土遺物から判断し７世紀前半と考えられる。

172 柱穴（第 373・374 図、第 35・38 表、図版 228）

平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.60m、短軸 0.51m、検出面からの深さ 0.34ｍを測る。底面標高は 64.76m。埋土はⅠ・Ⅵ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡の１層と、Ⅰ～Ⅲ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２～４層が堆積する。１層中に径５～17cmの礫が含まれていた。遺物は出土していない。

173 柱穴（第 373・374 図、第 35・38・81 表、図版 228・299）

平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸 0.67m、短軸 0.58m、検出面からの深さ 0.36ｍを測る。底面標高は 64.71m。埋土はⅤ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡の１層と、Ⅳ・Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２層が堆積する。２層中に径 10 ～ 20cmの礫が含まれていた。２



第 373 図　掘立柱建物 22

層より須恵器 Po455 が出土している。Po455 は坏蓋である。天井部と口縁部の境に段を有する。

304 柱穴（第 373・375 図、第 35・38 表、図版 228・229）

掘立柱建物 19 の 314 柱穴を切っている。平面形は不整楕円形を呈し、規模は長軸 0.70m、短軸 0.55m、検出面からの深さ 0.35m を測る。底面標高は 64.76m。埋土はⅠ・Ⅴ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡の１層と、Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２層が堆積する。１層に径５～ 10cm の礫が含まれていた。１層から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

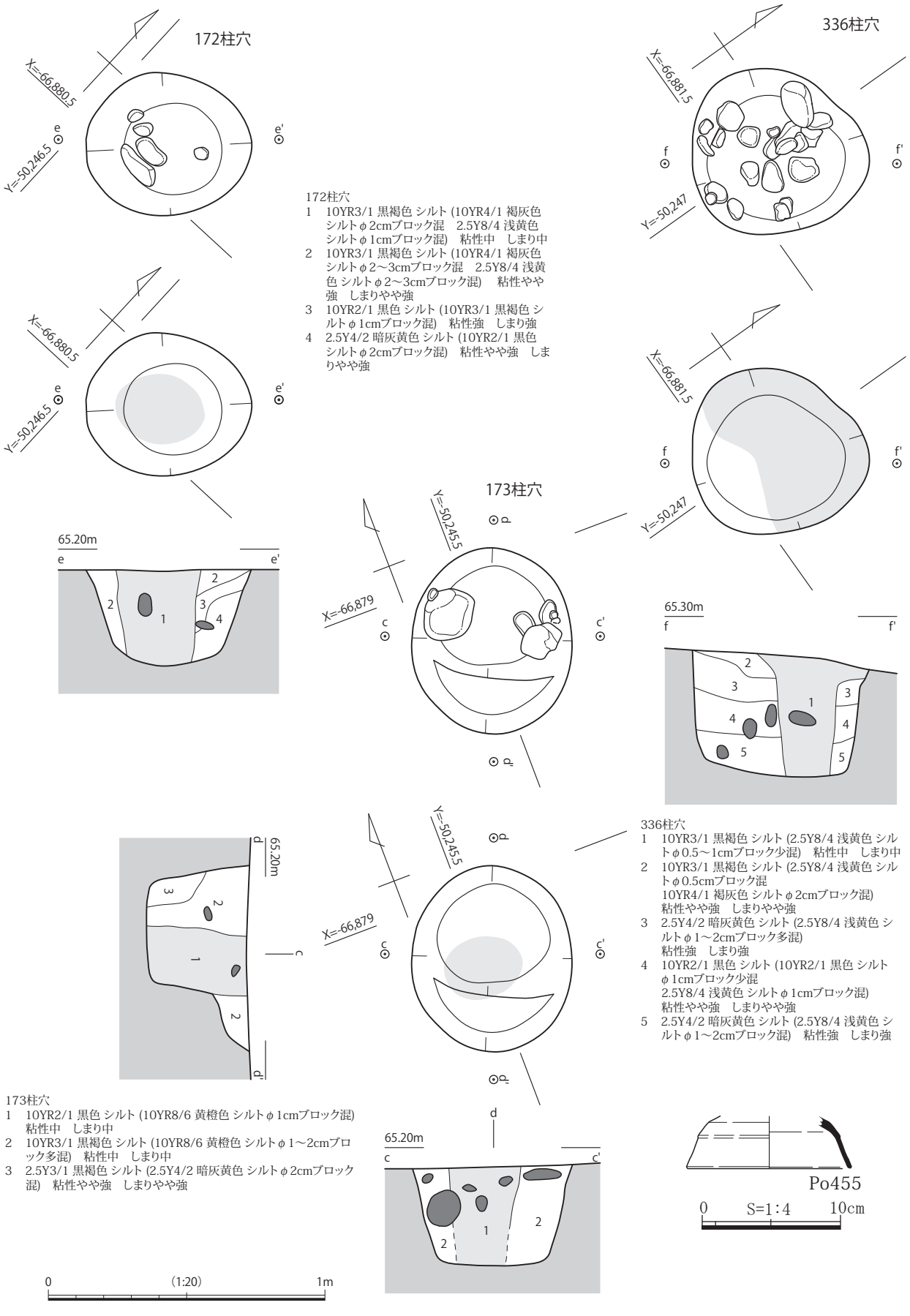
313 柱穴（第 373・375 図、第 35・38 表、図版 228）

291 土坑に削平され、西側は調査区外になるため全容は不明である。平面形は不整円形と推定され、残存規模は長軸 0.37m、短軸 0.09m、検出面からの深さ 0.13m を測る。底面標高は 64.86m。埋土はⅤ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡の１層と、Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の２層が堆積する。遺物は出土していない。

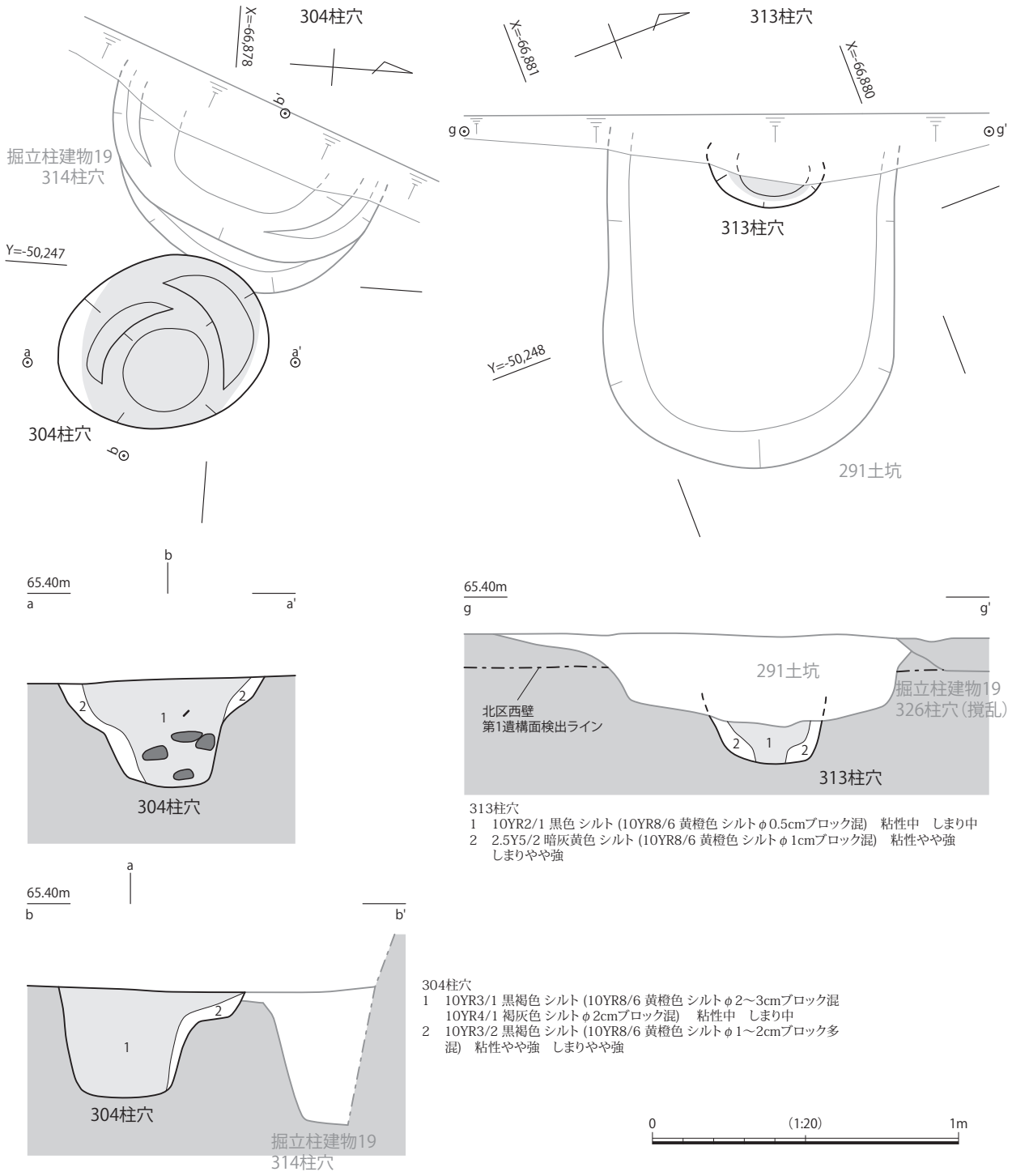
336 柱穴（第 373・374 図、第 35・38 表、図版 229）

平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.64m、短軸 0.60m、検出面からの深さ 0.43m を測る。底面標高は 64.72m。埋土はⅥ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡の１層と、Ⅲ・Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２～５層が堆積する。掘方埋め土は黒（褐）色シルトと暗灰黄色シルトを交互に搗き固めている。柱抜き取り痕跡と掘方埋め土に径４～ 18cm の礫が含まれていた。

埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。



第 374 図　掘立柱建物 22　172・173・336 柱穴、173 柱穴出土土器



313柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

304柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ2～3cmブロック混
　10YR4/1 褐灰色 シルトφ2cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR3/2 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック多
　混)　粘性やや強　しまりやや強

第 375 図　掘立柱建物 22　304・313 柱穴

（3） 道路

322 道路（第 360・376 図、第 66 表、図版 241）

北区 7a-9C-10e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で２流路に向かう緩い傾斜地で検出した石敷道路である。東側を１溝に切られ、南側で 711 道路を切っている。

断面形は皿状を呈し、残存規模は長さ 2.70m、最大幅 0.60m、検出面からの深さは最大 0.10m を測る。主軸は N-82° -W をとる。埋土はⅠ・Ⅴ層由来のブロック含む黒色シルトの１層と、Ⅴ層由来のブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。Ⅴ層を基盤とした地山面を浅く掘り込み、部分的に礫が

剥がれ落ちてしまった箇所が見られるが、径３～15cm 程度の礫を貼り付けている。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。

711 道路（第 360・377 図、第 66 表、図版 241・242）

北区 7a-9C-10e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で２流路に向かう緩い傾斜地で検出した石敷道路である。東側を１溝に切られ、北側は一部 322 道路に切られている。

断面形は皿状を呈し、残存規模は長さ 3.03m、最大幅 0.99m、検出面からの深さは最大 0.10ｍを測る。主軸は N-75° -W をとる。埋土はⅡ層に由来するブロックや粗粒砂を含む黒色シルト混じり砂礫が堆積する。その上部に径３～15cm 程度の礫を敷設して路面としている状況が確認された。東側は礫が流出しており、西側ほど良好に残存している。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、322 道路との切り合い関係及び埋土の特徴から古代と考えられる。

708 道路（第 360・378・387 図、第 66 表、図版 238・240・242）

北区 7a-9C-9d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。路面は 306 道路と 278 道路に削平され、わずかに路床の波板状凹凸面が残っている状況である。残存規模は長さ 2.46m、最大幅 0.88m、検出面からの深さは最大 0.06ｍを測る。主軸は N-86° -W をとる。本遺構からは 708-1 ～５の５基の底面土坑が検出されている。底面土坑の平面形は、不整円形もしくは不整楕円形を呈し、断面形は皿状を呈する。土坑の残存規模は、長軸 0.29 ～ 0.59m、短軸 0.15 ～ 0.46m、検出面からの深さは 0.05 ～ 0.09ｍを測る。

埋土は 708-5 付近では細粒砂～中粒砂とⅥ層由来のブロックを含む黒色砂混じりシルトの１～３層が堆積し、土坑下部がわずかに残る。708-1 ～４はⅥ層由来のブロックと粗粒砂～極粗粒砂を含む黒褐色砂混じりシルトが堆積する。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

本遺構の帰属時期は、278・306 道路との切り合い関係及び埋土の特徴から古代と考えられる。

306 道路（第 360・379・380・387 図、第 66 表、図版 237 ～ 240）

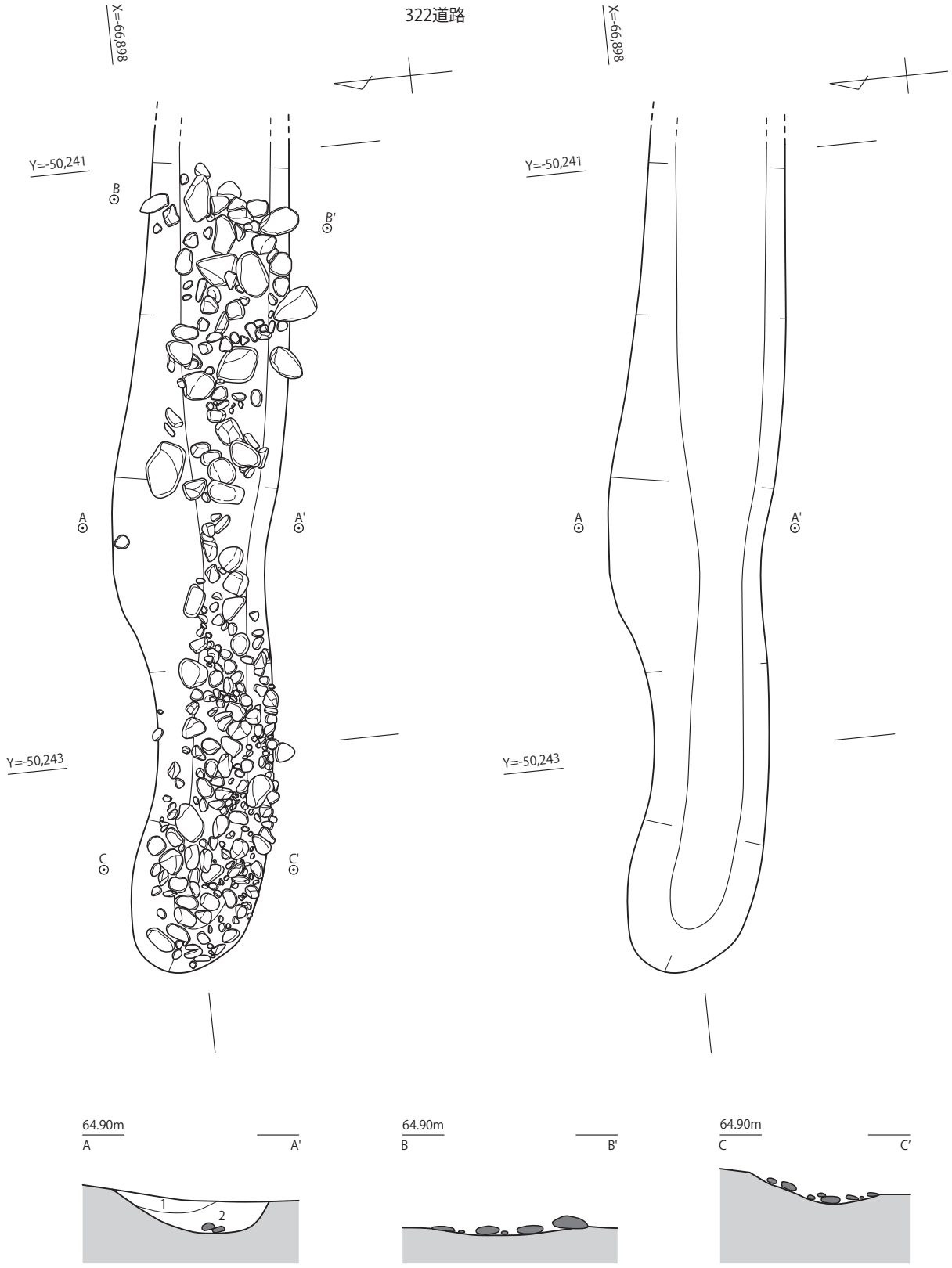
北区 7a-9C-9d・9e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で２流路に向かう緩い傾斜地で検出した石敷道路である。北側で 278 道路に切られ、708 道路を切っている。したがって 278 道路より先出し、708 道路より後出する。西端は圃場整備により、中心部は撹乱や暗渠によって削平され遺存状況は不良である。

残存規模は長さ 5.18m、最大幅 1.09m、検出面からの深さは最大 0.06ｍを測る。主軸は N-83° -W をとる。埋土は粗粒砂～極粗粒砂を含む黒褐色シルトが堆積する。Ⅴ層を基盤とした地山面を浅く掘り込み、径３～15cm 程度の礫を貼り付け路面としている。西側を除き、礫が剥がれ落ちてしまっている箇所が大部分である。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

本遺構の帰属時期は、278・708 道路との切り合い関係及び埋土の特徴から古代と考えられる。

278 道路（第 360・381 ～ 387 図、第 66・99 表、図版 234 ～ 238・299）

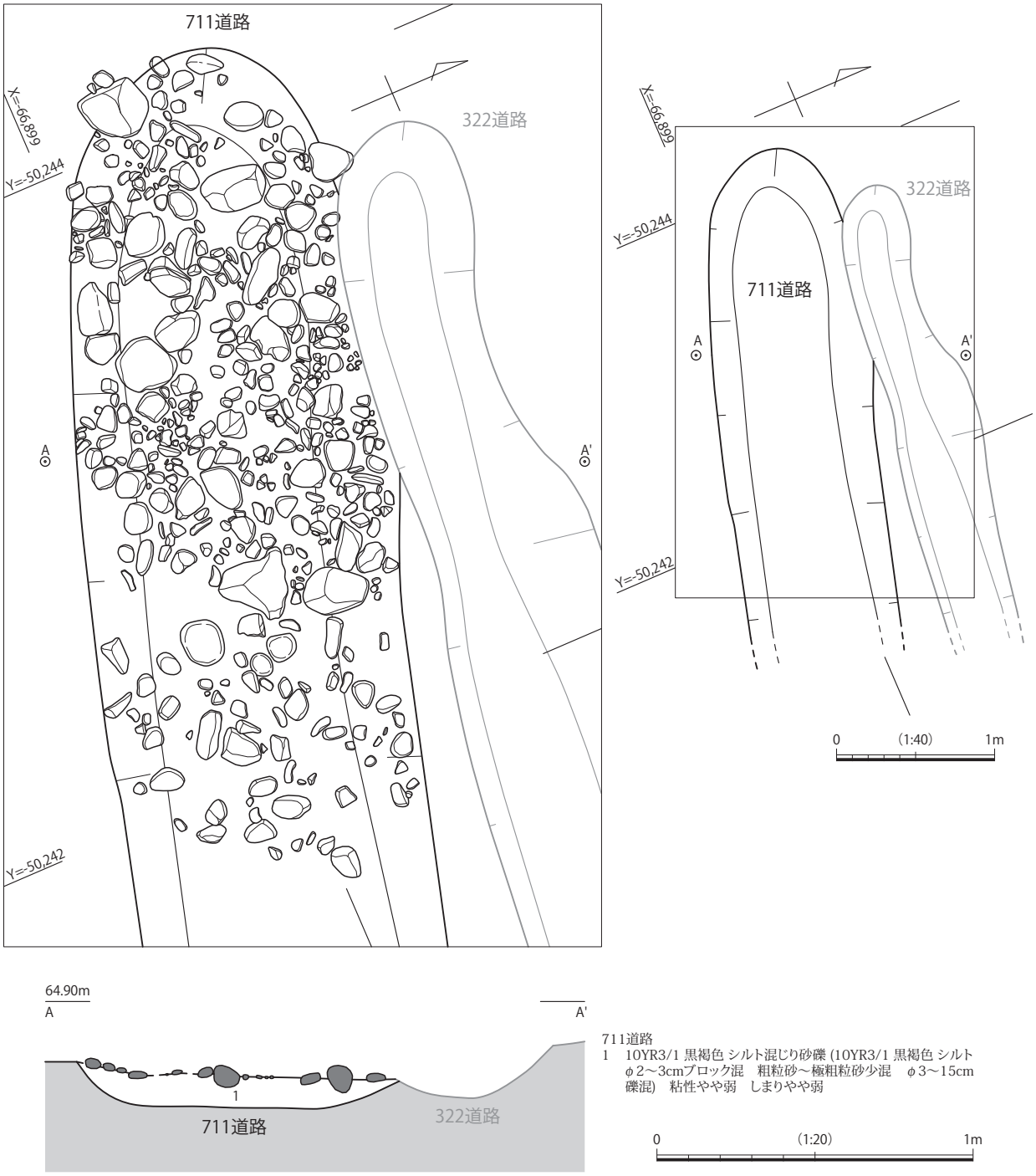
北区 7a-9C-9c ～ 9e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で２流路に向かう緩い傾斜地で検出した石敷道



322道路
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR4/1 褐灰色 シルトφ2cmブロック混　2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ1cmブロック少混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/2 黒褐色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ2～3cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

0　(1:20)　1m

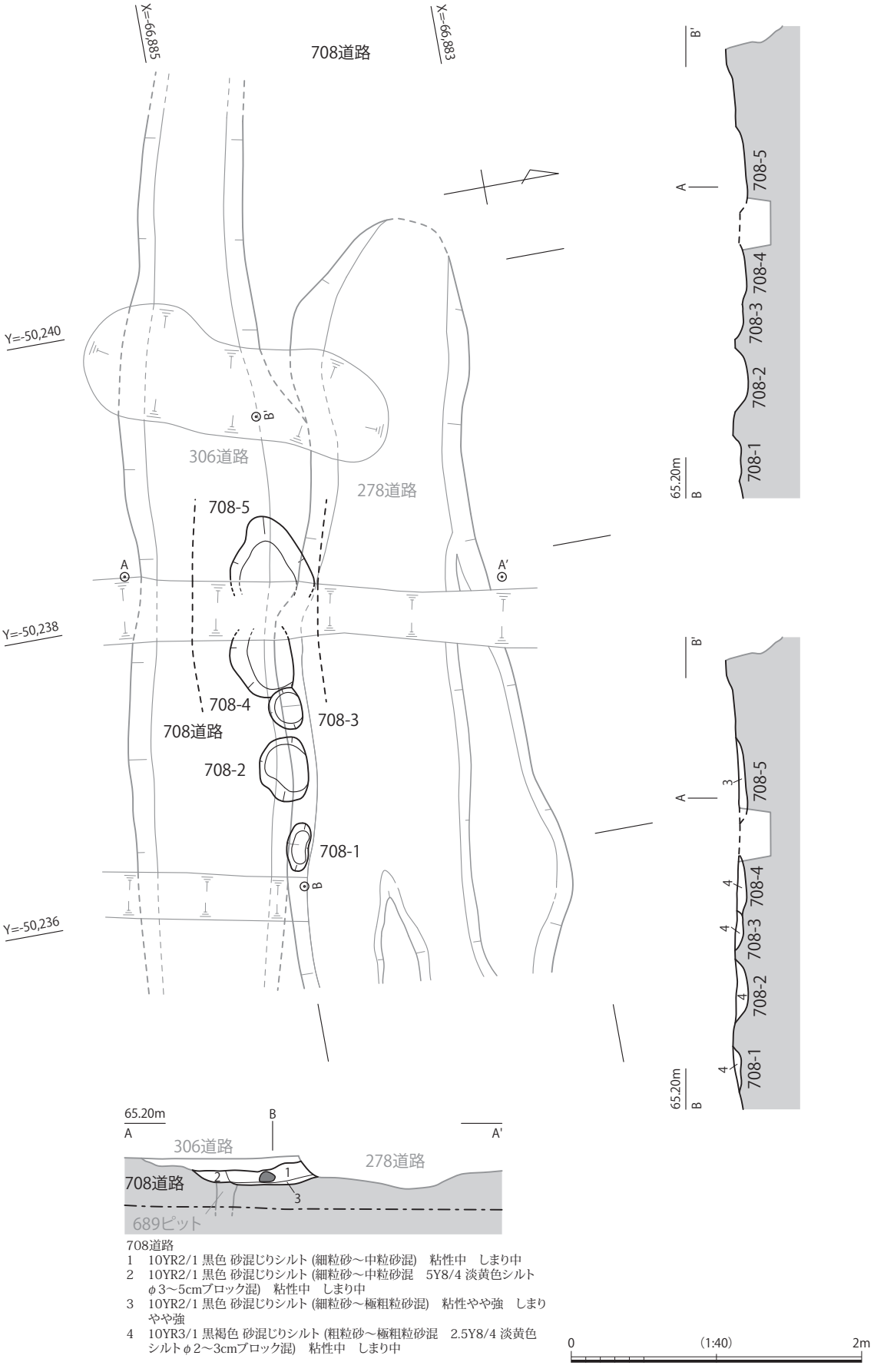
第 376 図　322 道路



第 377 図　711 道路

路である。東側を１溝に切られ、西側は圃場整備により削平されている。306・708 道路を切っており、両者より後出する。よって波板状底面をもつ 708 道路→石敷の 306 道路→石敷の 278 道路（１回改修）の変遷を辿る（第 387 図）。

平面形はやや弓なり状で緩やかに北東方向へ向かい湾曲する。断面形は浅い皿状を呈し、残存規模は長さ 13.45m、最大幅 1.27m、検出面からの深さは最大 0.17m を測る。主軸は N-70° -W をとる。埋土はⅠ・Ⅲ層由来のブロックや極粗粒砂などを含む黒（褐）色砂混じりシルト１～４層が堆積する。Ⅴ層を基盤とした地山面を浅く掘り込み、径３～ 10cm 程度の礫や砂を隙間無く敷設している（５層）。中心部に礫が敷設されていない高まりがあること、路面である５層が同じ路面である７層を切ってい

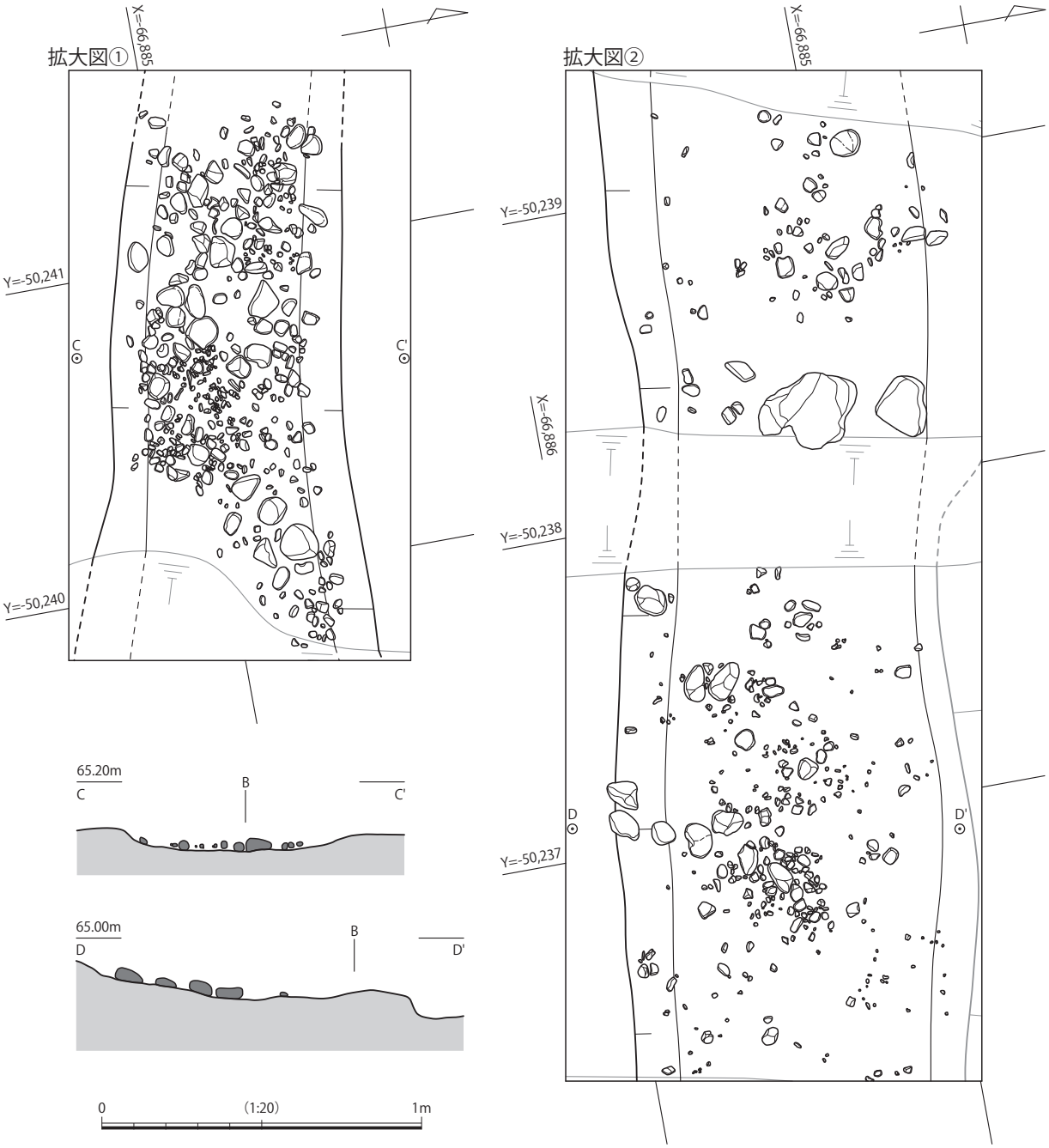


708道路
1　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (細粒砂～中粒砂混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (細粒砂～中粒砂混　5Y8/4 淡黄色シルト φ3～5cmブロック混)　粘性中　しまり中
3　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (細粒砂～極粗粒砂混)　粘性やや強　しまりやや強
4　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (粗粒砂～極粗粒砂混　2.5Y8/4 淡黄色シルトφ2～3cmブロック混)　粘性中　しまり中

第 378 図　708 道路

306道路
1　10YR3/2 黒褐色 砂混じりシルト (粗粒砂～極粗粒砂混)　粘性やや強　しまりやや強

第 379 図　306 道路（１）



第 380 図　306 道路（２）

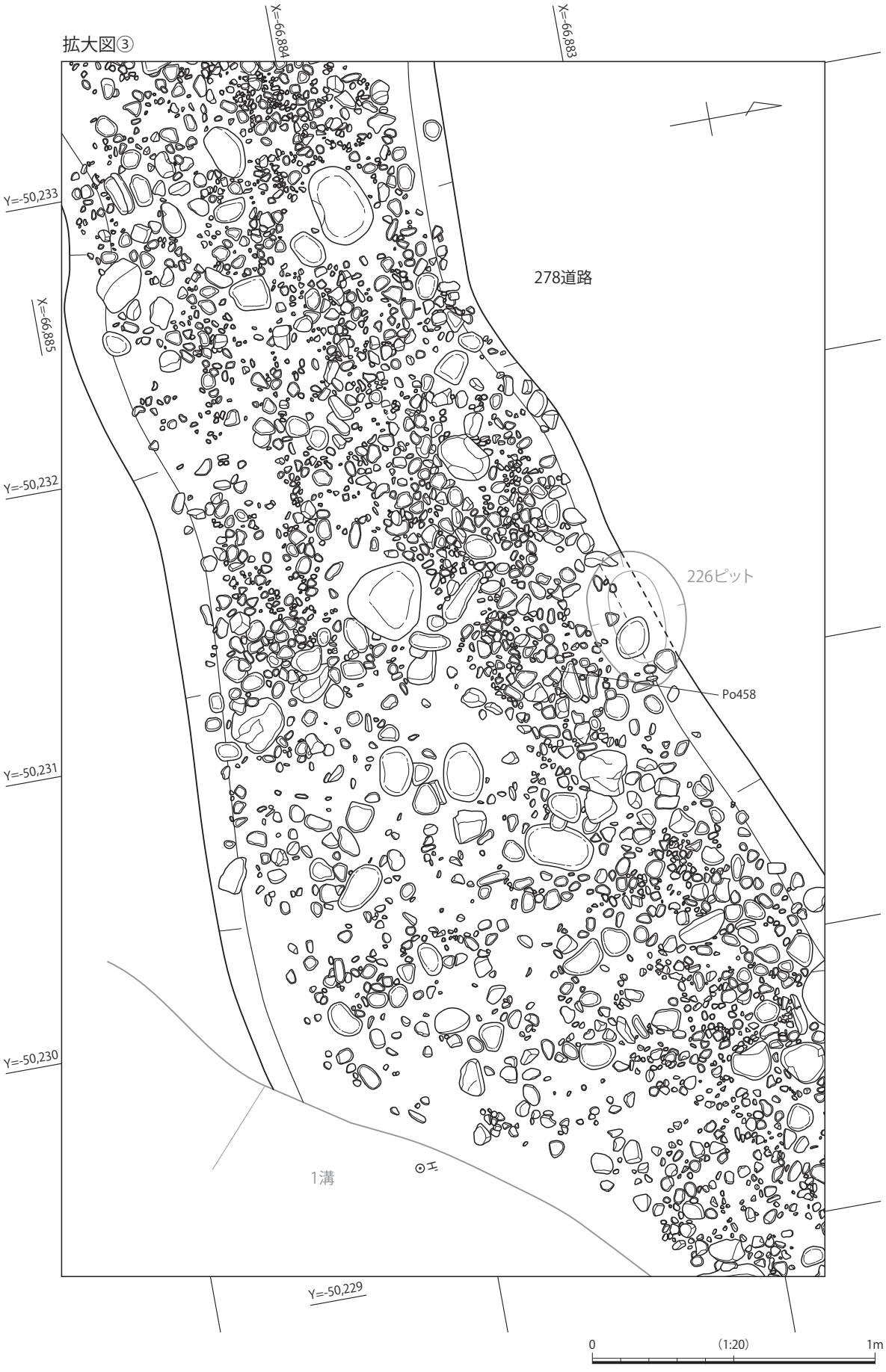
ることから､少なくとも１回改修がなされている可能性がある。その場合本来の道幅は 0.85 ～ 1.00m となる。遺物は須恵器 Po456 ～ 458、鉄器 F17 が出土しており、Po457・458 は礫敷直上出土である。Po456 は須恵器坏蓋天井部、Po457 は須恵器壺の肩部、Po458 は須恵器甕の体部片である。Po458 は外面に平行タタキ、内面は同心円状当て具痕が観察される。F17 は頭部が欠損した鉄釘であろうか。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から判断し８～９世紀と考えられる。

第 381 図　278 道路（１）、278 道路出土土器

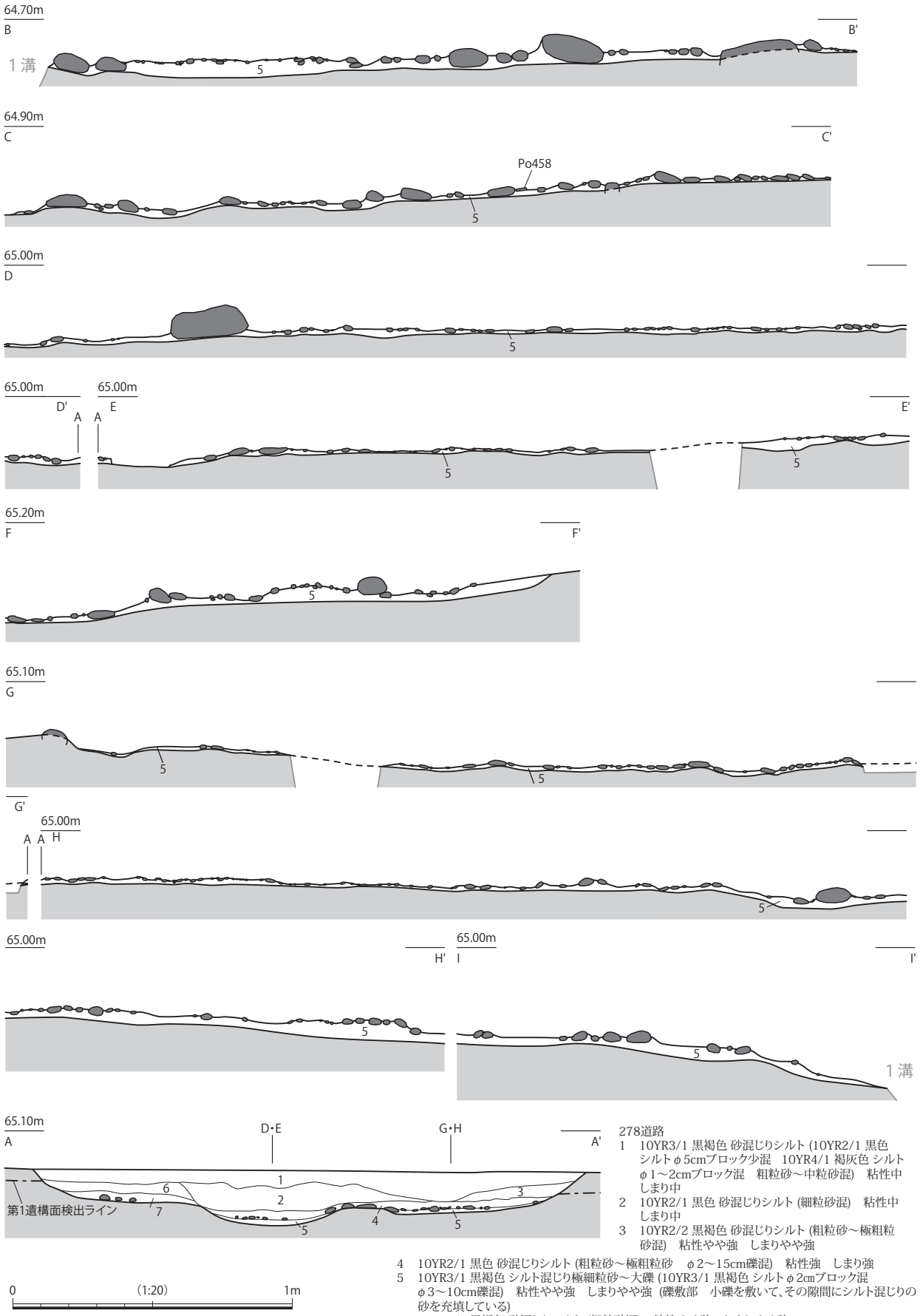
第 382 図　278 道路（２）

第 383 図　278 道路（３）、278 道路出土鉄器



第 384 図　278 道路（４）

第 385 図　278 道路（５）



278道路

1　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (10YR2/1 黒色シルトφ5cmブロック少混　10YR4/1 褐灰色 シルトφ1～2cmブロック混　粗粒砂～中粒砂混)　粘性中　しまり中

2　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (細粒砂混)　粘性中　しまり中

3　10YR2/2 黒褐色 砂混じりシルト (粗粒砂～極粗粒砂混)　粘性やや強　しまりやや強

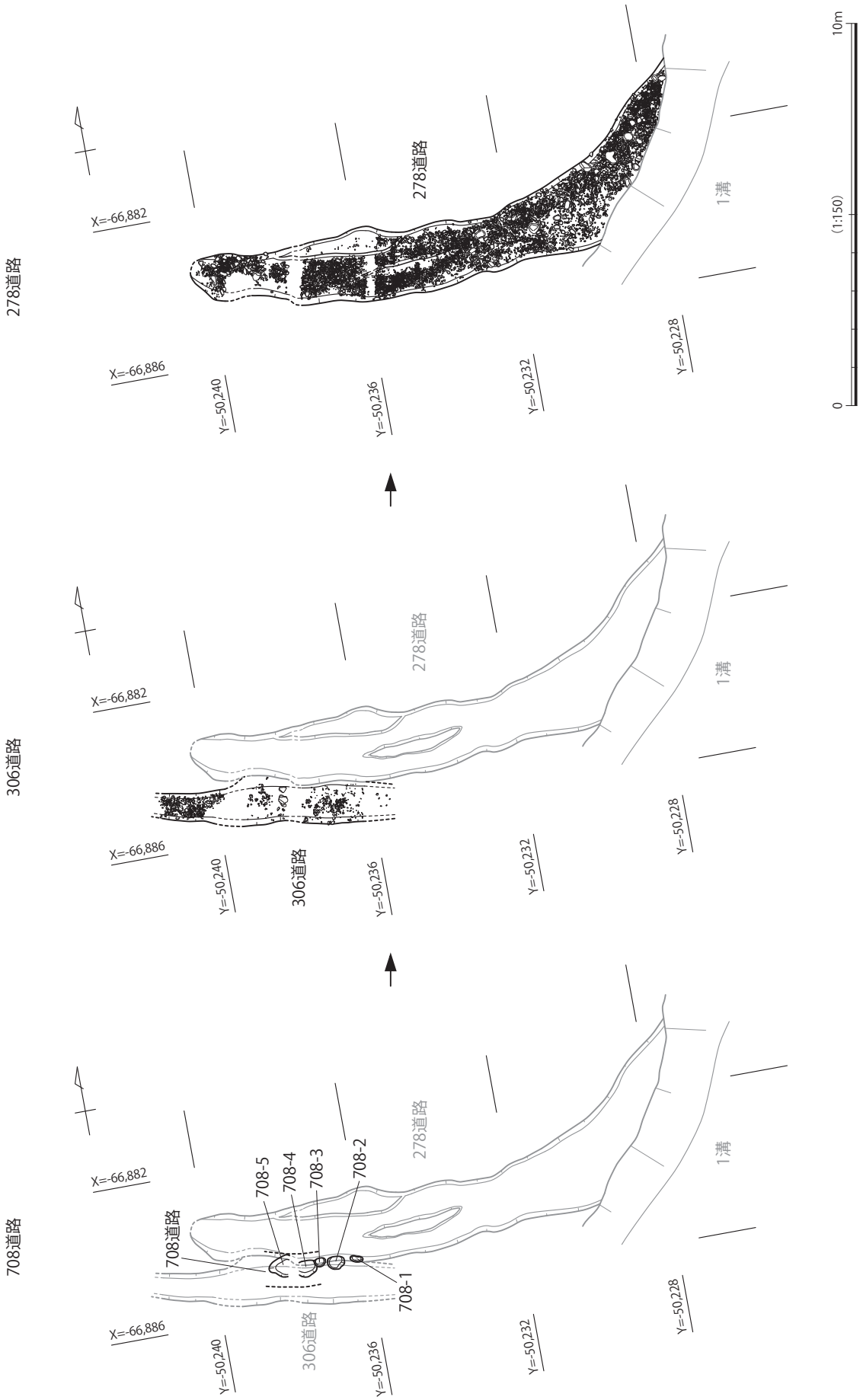
4　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (粗粒砂～極粗粒砂　φ2～15cm礫混)　粘性強　しまり強

5　10YR3/1 黒褐色 シルト混じり極細粒砂～大礫 (10YR3/1 黒褐色 シルトφ2cmブロック混　φ3～10cm礫混)　粘性やや強　しまりやや強 (礫敷部　小礫を敷いて、その隙間にシルト混じりの砂を充填している)

6　10YR2/2 黒褐色 砂混じりシルト (粗粒砂混)　粘性やや強　しまりやや強

7　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (粗粒砂～極細粒砂混　φ3～5cm程度礫少混)　粘性強　しまり強

第 386 図　278 道路土層断面図



第 387 図　278・306・708 道路遺構変遷図

678 道路（第 360・388・393 ～ 395・400 図、第 66 表、図版 244・258 ～ 261・263）

北区 7a-10C-1b・ 2b、南区 7a-10C-6e ～ 8e グリッドにおいて、Ⅰｂ層除去後にⅤ層上面で検出した。１区で検出された 303 道路に繋がる。大半は中世の耕作土であるⅠｂ層及び２流路により削平されて、北区の２流路沿いと南区の一部で路床部の痕跡を留めているに過ぎない。残存規模は推定長 118.6m、最大幅 1.1m、検出面からの深さは最大 0.03m を測る。主軸は N-33° -W をとり、２流路に沿って構築されている。南区では 678-1 ～８の８基の波板状凹凸面を形成する底面土坑が検出されている。底面土坑の平面形は、不整円形もしくは不整楕円形を呈し、断面形は皿状を呈する。土坑の規模は、長軸 0.22 ～ 0.53m、短軸 0.13 ～ 0.30m、検出面からの深さは 0.03 ～ 0.06m を測り、いずれも遺存状況が悪い。埋土はⅤ層に由来するブロックと粗粒砂～極粗粒砂と、径５～ 10cm 程度の礫を含む黒褐色砂混じりシルトが堆積する。埋土からは土器などが出土しているが、小片のため図化していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。

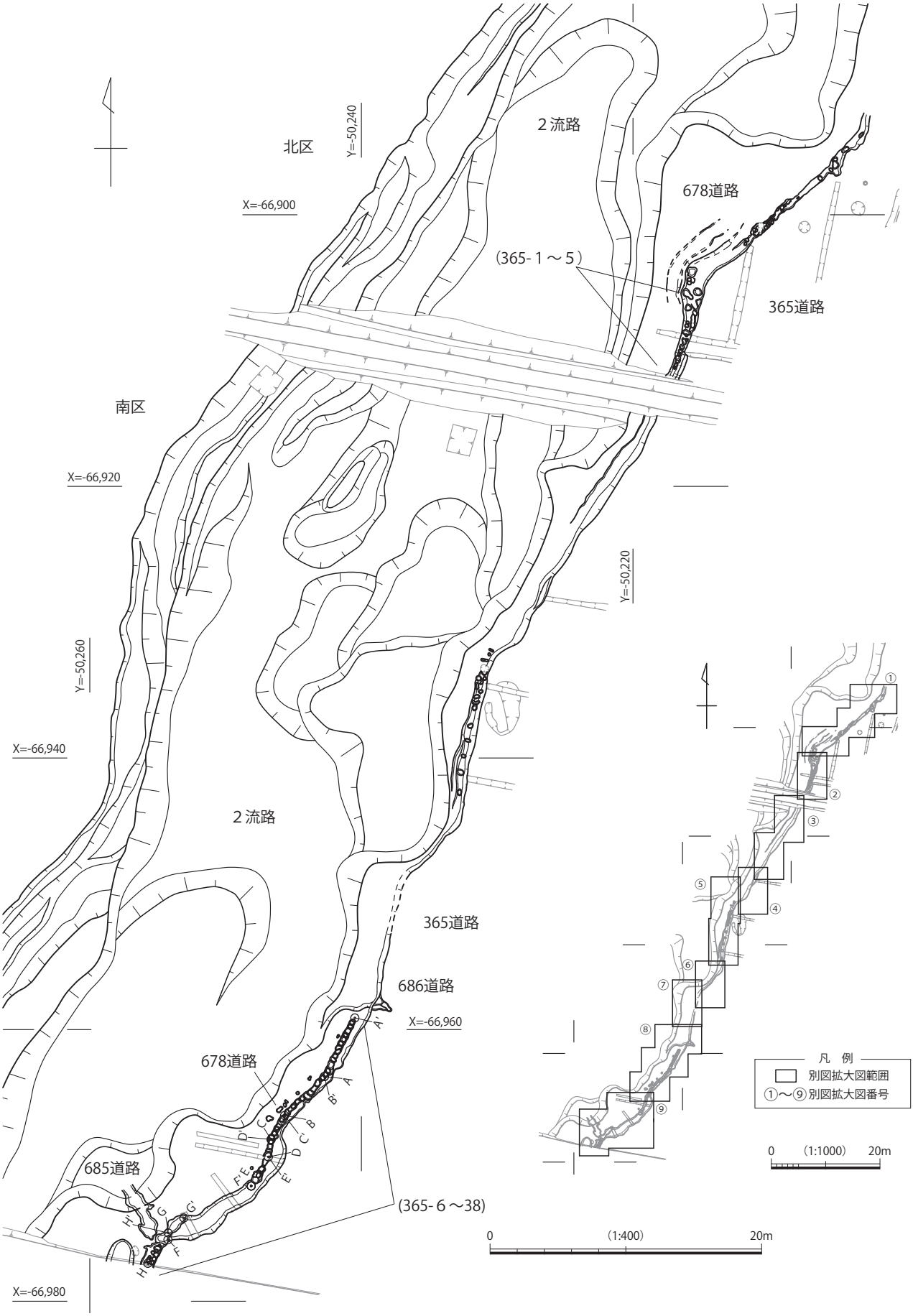
365 道路（第 360・388 ～ 401 図、第 66・81 表、図版 241・243 ～ 262・299）

北区から南区、7a-9C-10a、7a-10C-1a･1b･2b･2e ～ 4c・3d ～ 6d・5e ～ 8e・7f・8f グリッドにおいて、Ⅰｂ層除去後にⅤ層上面で検出した。１区で検出された 302 道路に繋がる。北区の南端及び南区の南西部を除き、多くが中世の耕作土であるⅠｂ層及び２流路により削平されている。残存規模は推定長 101.4m、最大幅 0.71m、検出面からの深さは最大 0.27m を測る。主軸は N-32° -E をとり、２流路に沿って構築されている。北区では 365-1a ～ 1g・２～５の 11 基、南区では 365-6 ～ 13・14a・14b・15 ～ 38 の 34 基、合計 45 基の波板状凹凸面を形成する底面土坑が検出されている。底面土坑の平面形は、365-36 土坑を除き不整円形もしくは不整楕円形を呈し、断面形は皿状もしくは椀状を呈する。土坑の規模は、長軸 0.24 ～ 0.72m、短軸 0.17 ～ 0.63m、検出面からの深さは 0.02 ～ 0.63m を測る。

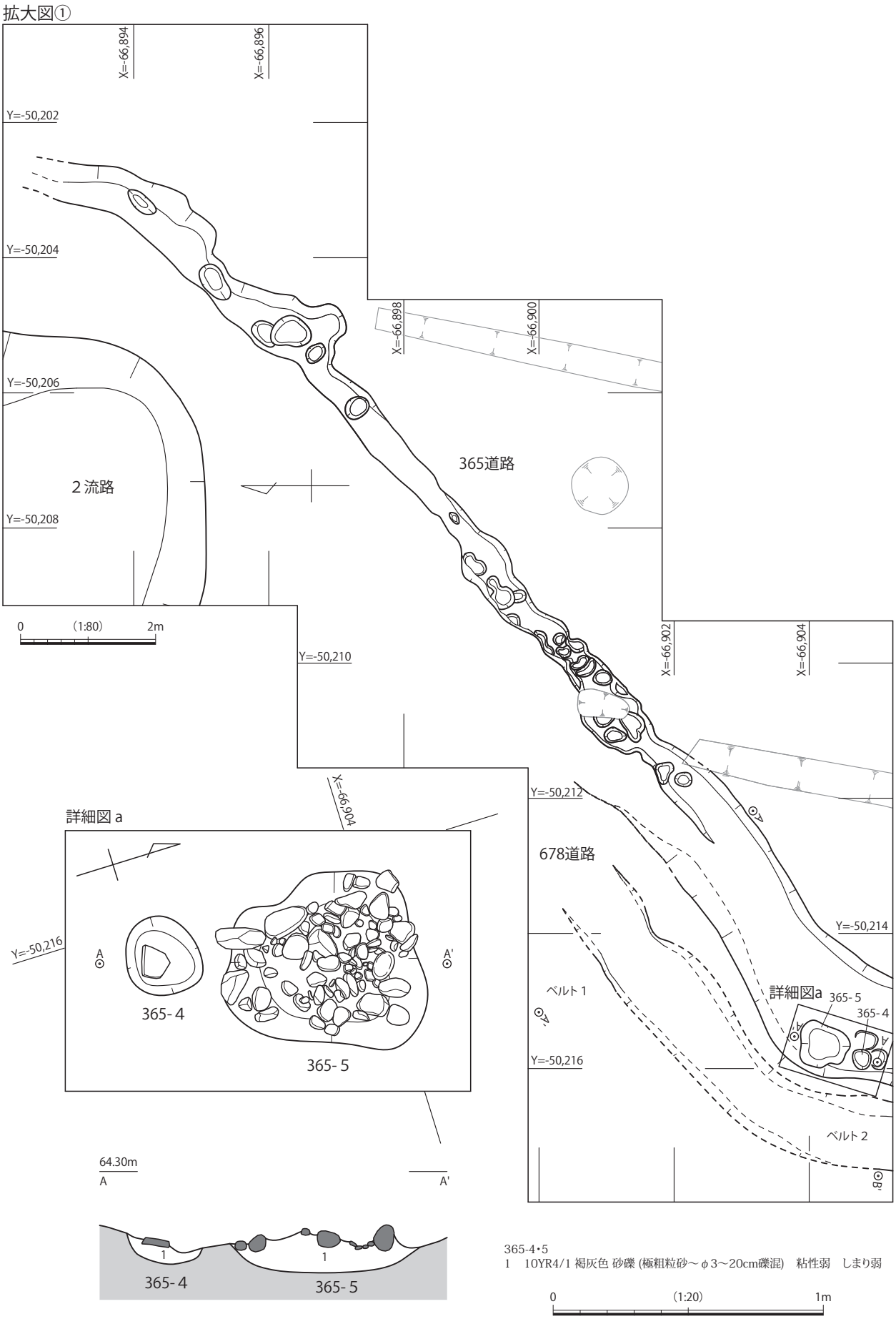
埋土は地点によって若干違いが見られるので、地点ごとに説明する。365 道路で最も残りの良い 365-1a ～ 1g・２は、幅 70cm 前後の溝の底面に不整円形状の土坑を連続的に穿っている。埋土は、Ⅰ層に由来するブロックを含む明黄褐色シルトの１層が厚さ約５cm で最上面に堆積する（第 390 図④、第 391 図 B-B’ ライン）。粘性としまりが強い。その下部には中粒砂～極粗粒砂や径３～ 25cm の礫を多く含む褐灰色砂混じりシルト・砂礫層の２・３層が堆積する（第 391 図 A-A’ ラインの１層は B-B’ ラインの３層に相当）。３区で検出された 52 道路の堆積状況と類似し、１層は路面、２・３層は路床部に該当するものと考えられる。

南区に位置するベルト３・４・５（第 390・392・399 図）では、西辺が２流路により削平されているものの、粘性やしまりが強いシルトと中粒砂～粗粒砂を含むシルトが互層をなして堆積している状況が見られる。これは前者が路面で後者が路床と推定され、数回の改修がなされた可能性がある。だたし、この地点では 365-1a ～ 1g・２に比較して路床部の礫の入り方は希薄である。

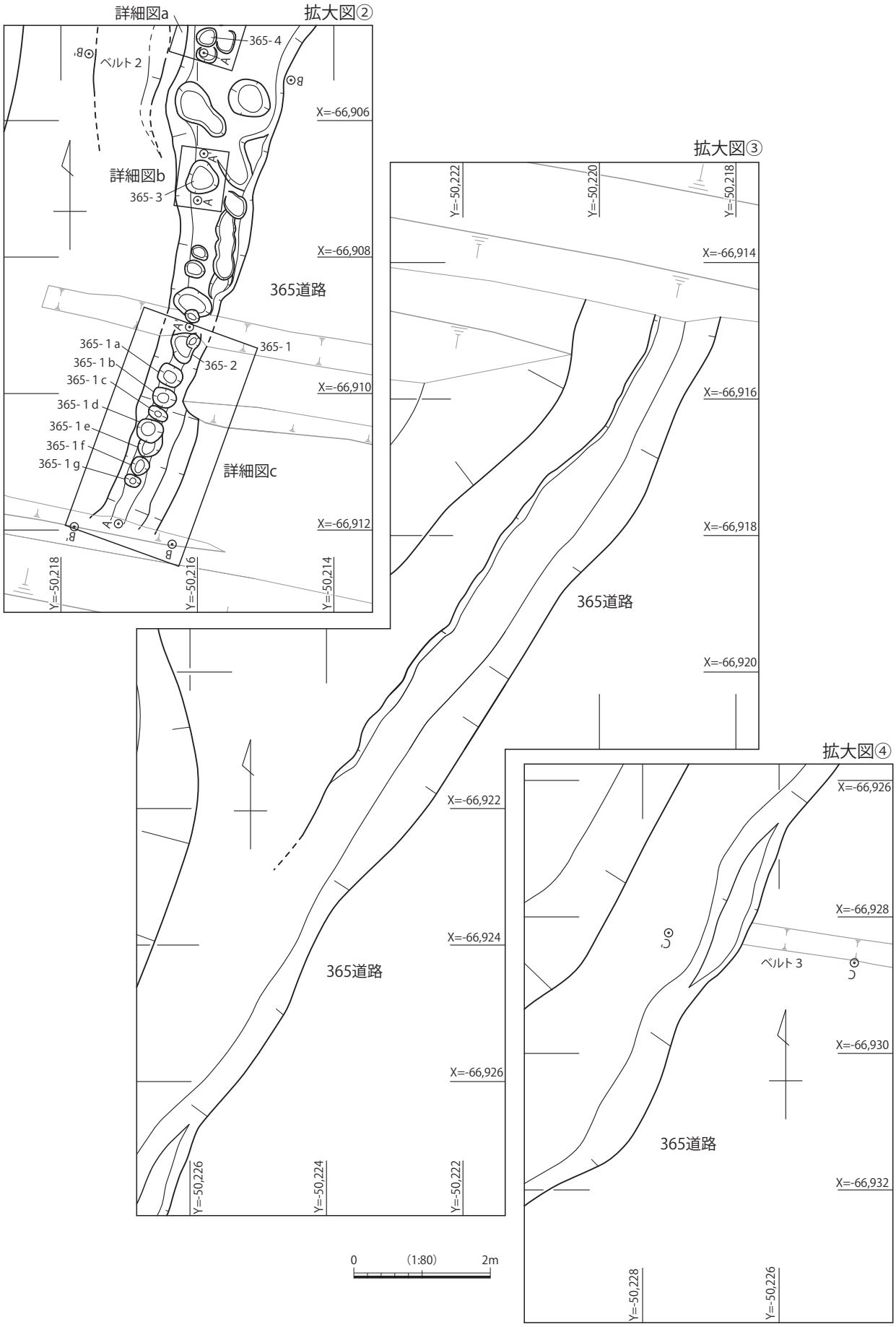
同じく南区に位置する 365-6 ～ 35 ・ 37 は道路本体の溝の掘り込みはほとんど削平されているが、底面の不整円形状に連続した土坑は比較的良好に残っていた（第 393 図）。上部には路面に相当するⅢ・Ⅴ層に由来するブロックを含む黒褐色砂混じりシルトが薄く堆積し、下部にはⅡ層に由来するブロックや径３～ 20cm の礫を密に含む褐灰色シルト混じり砂層が堆積する。土坑単位で礫や土器片を



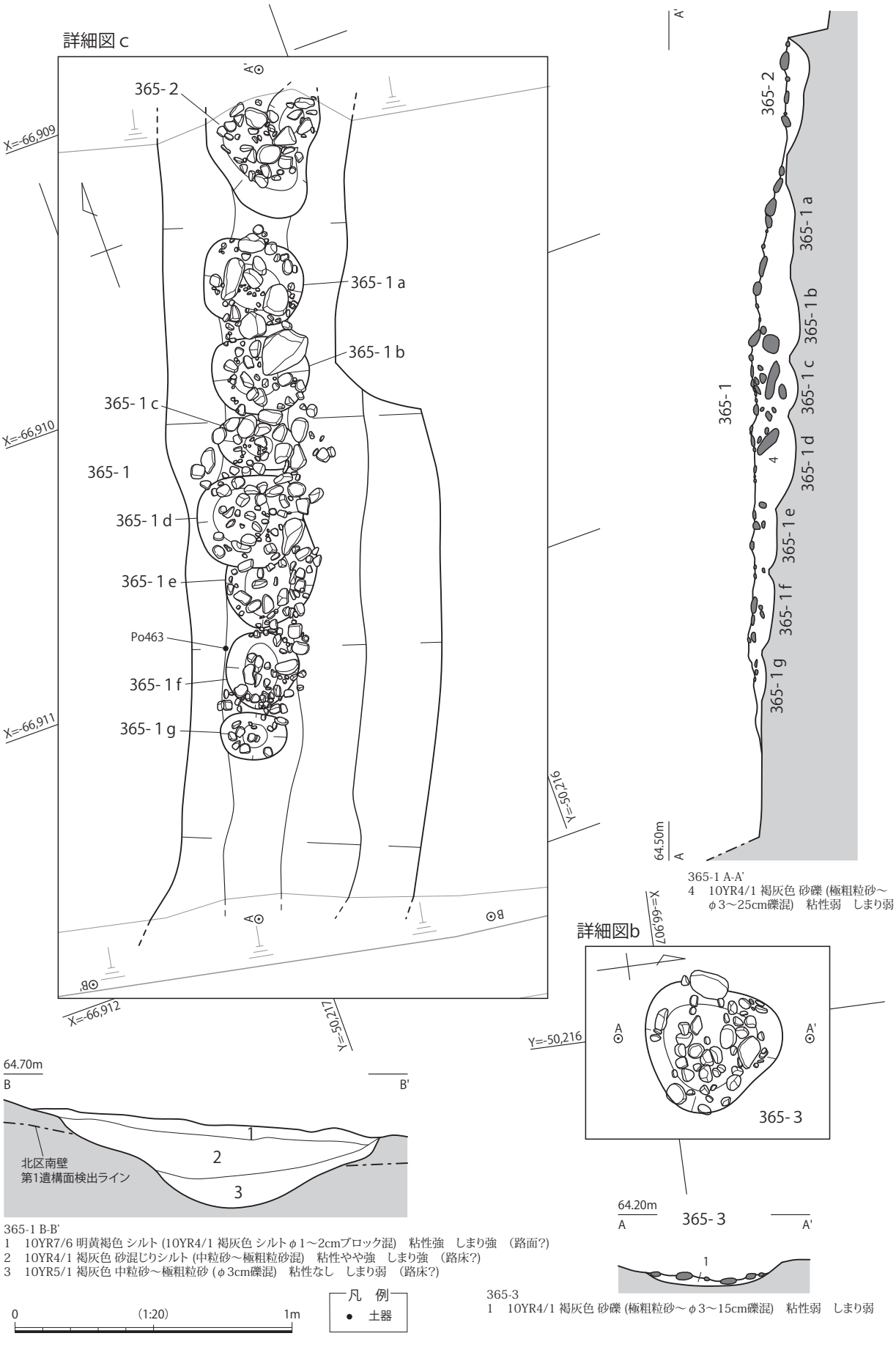
第 388 図　365・678・685 道路全体図



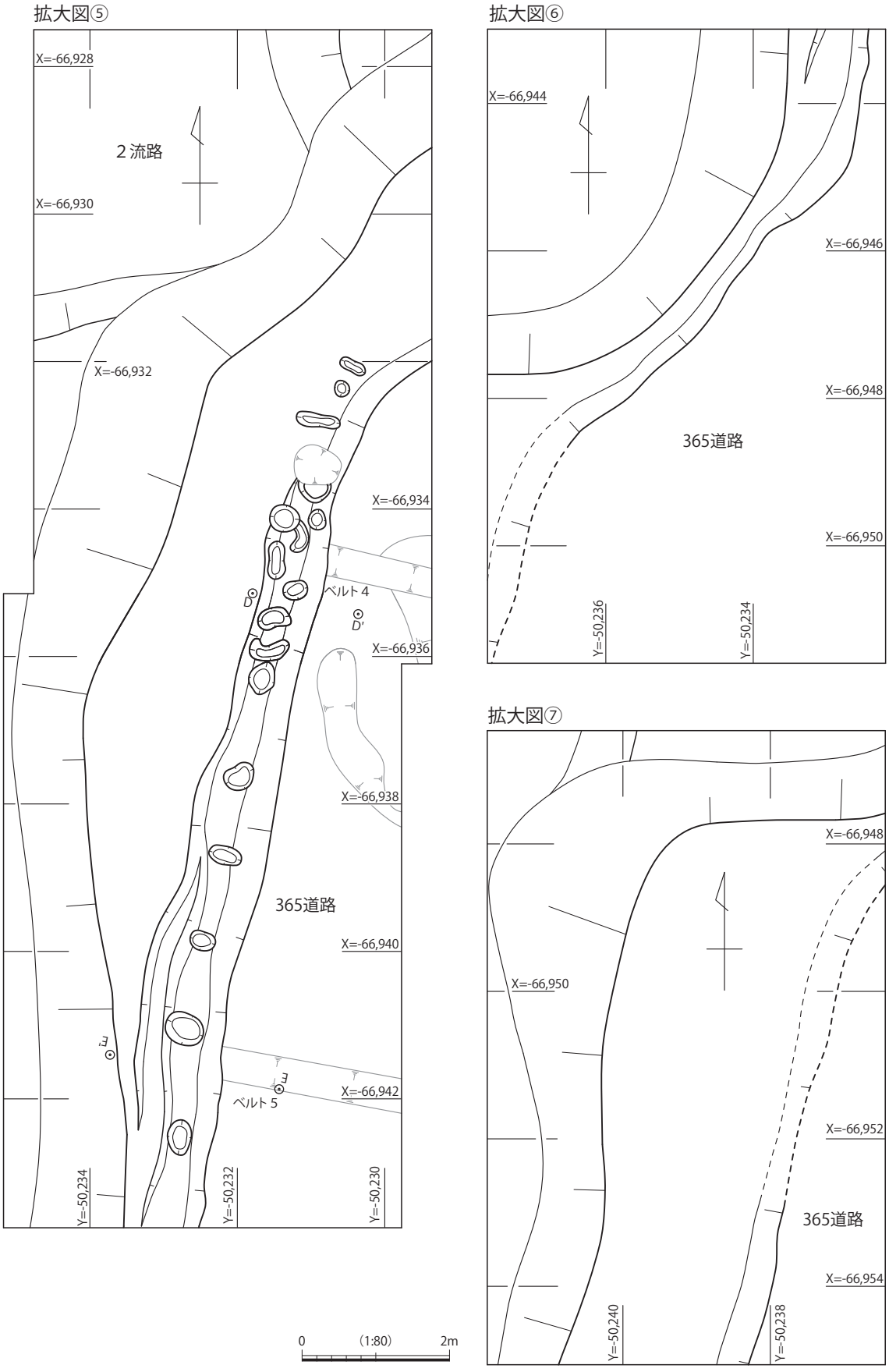
第 389 図　365 道路（１）



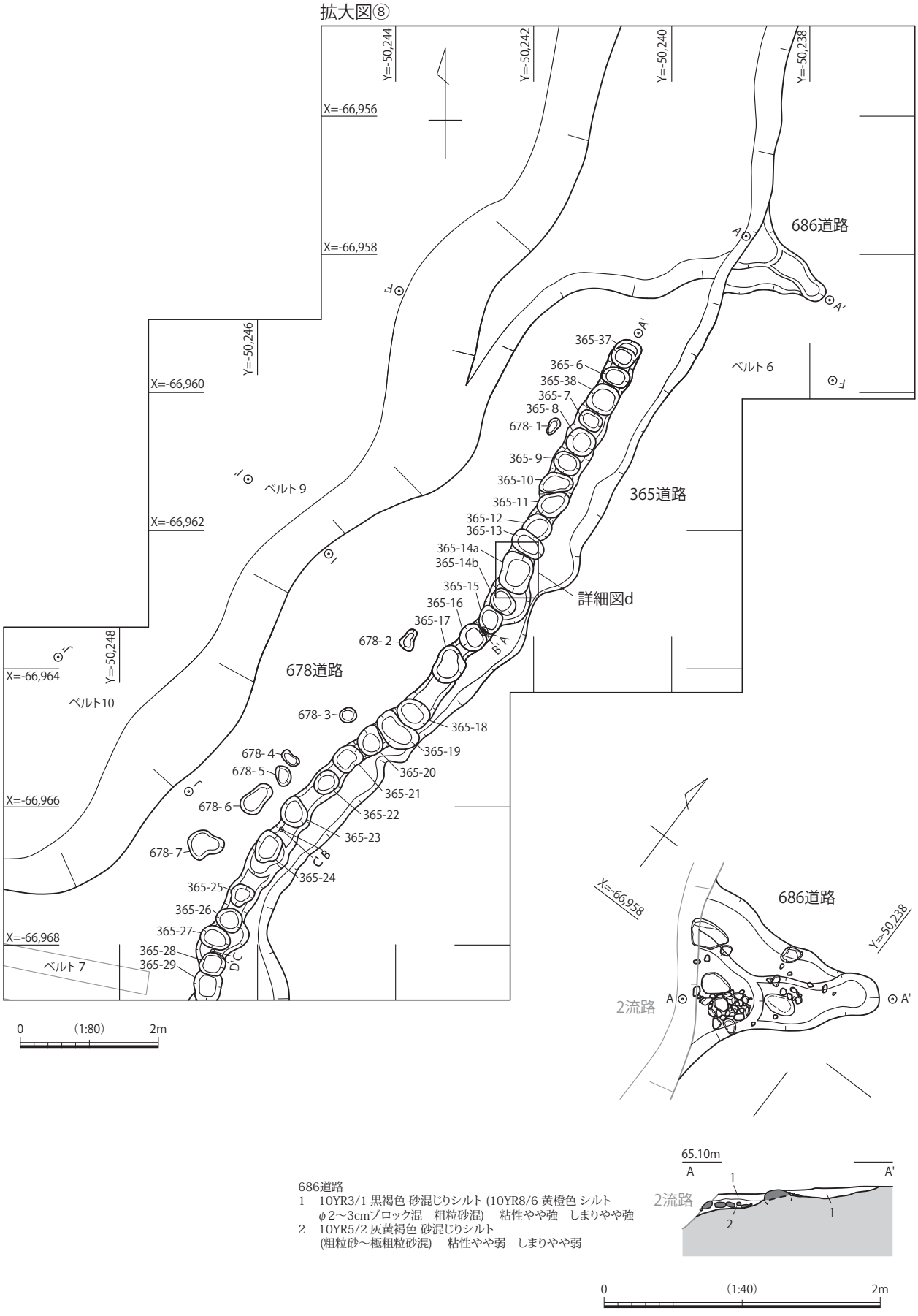
第 390 図　365 道路（２）



第 391 図　365 道路（３）

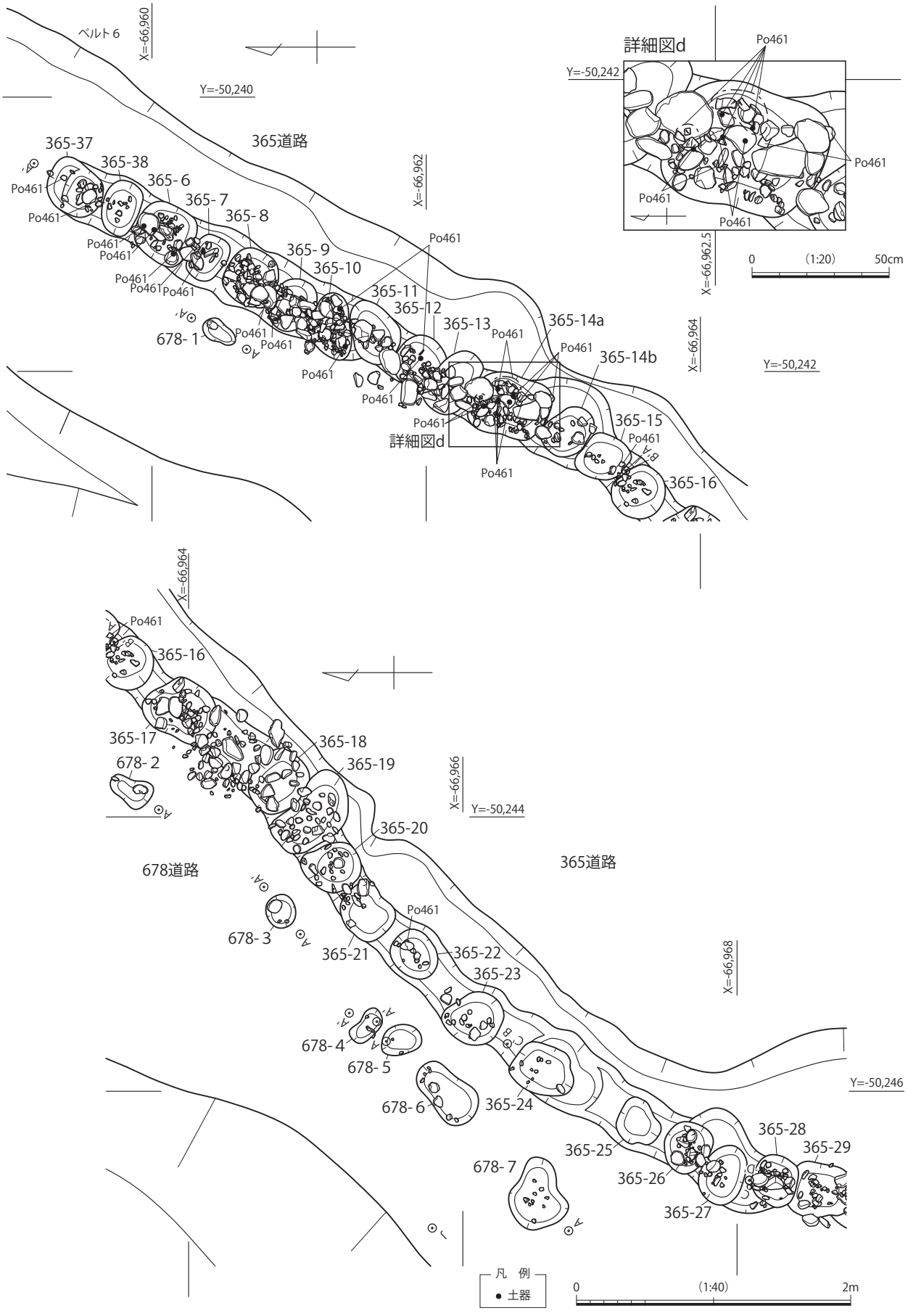


第 392 図　365 道路（４）

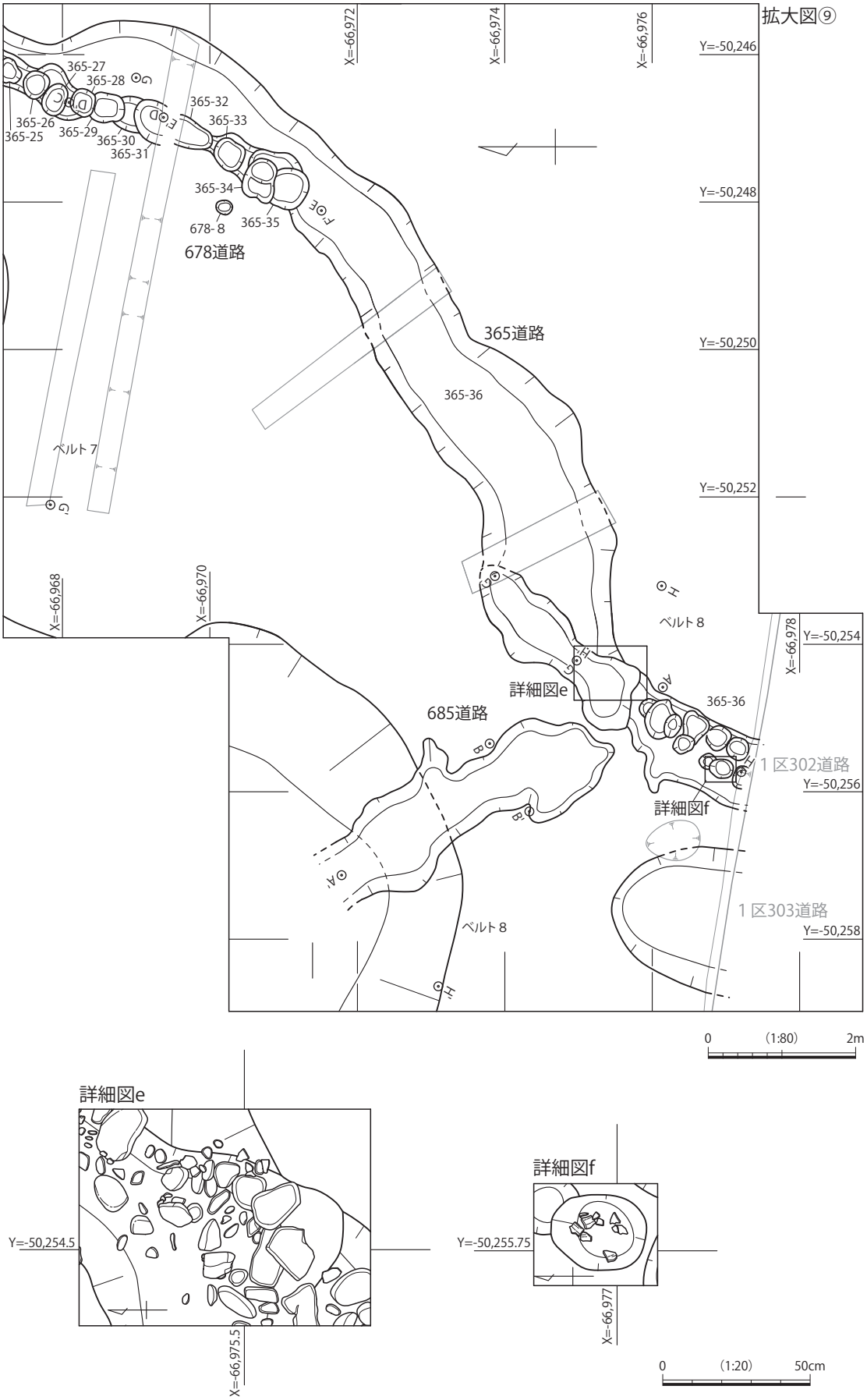


686道路
1　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (10YR8/6 黄橙色 シルト
　φ2～3cmブロック混　粗粒砂混)　粘性やや強　しまりやや強
2　10YR5/2 灰黄褐色 砂混じりシルト
　(粗粒砂～極粗粒砂混)　粘性やや弱　しまりやや弱

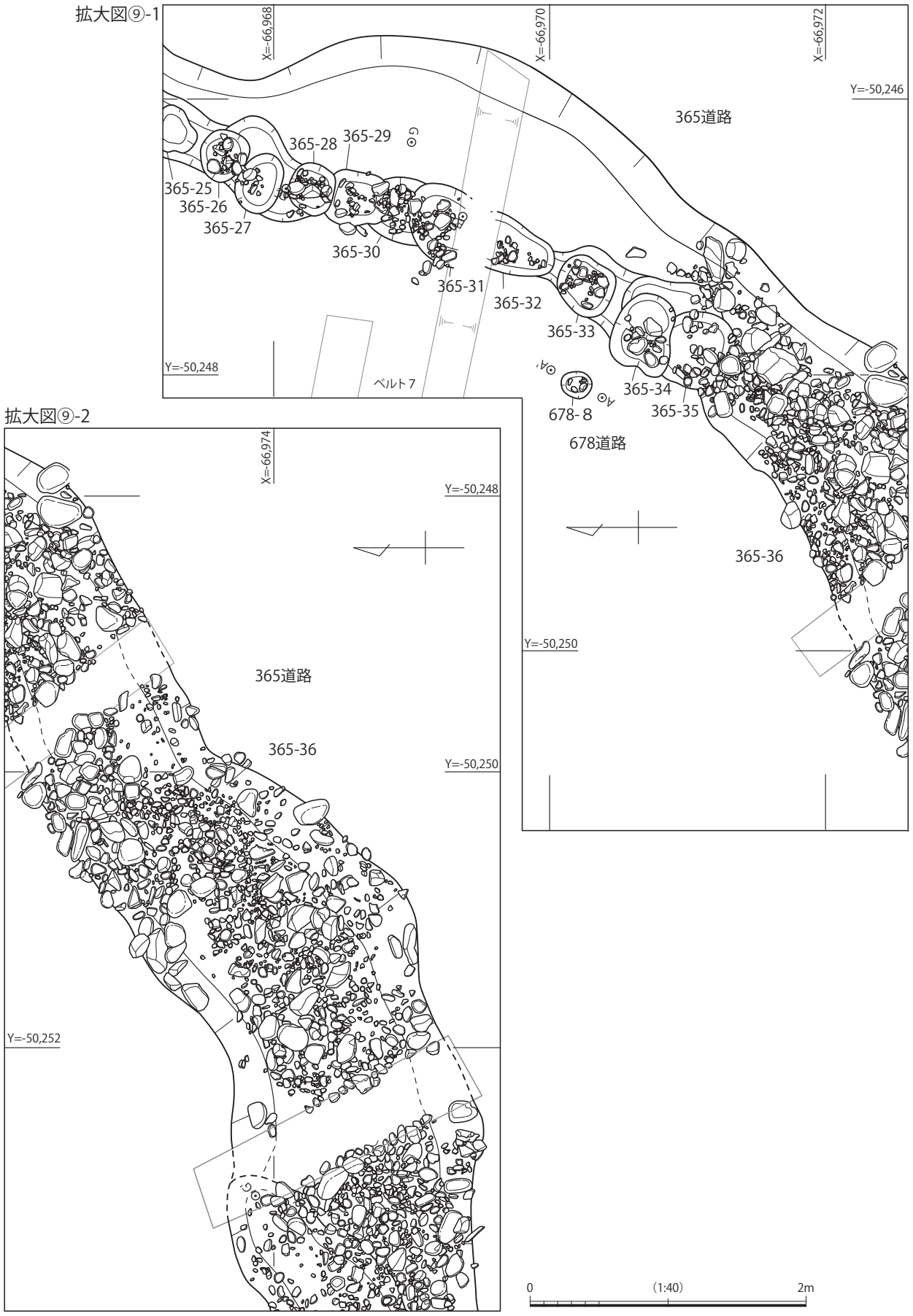
第 393 図　365 道路（５）・678 道路（１）・686 道路



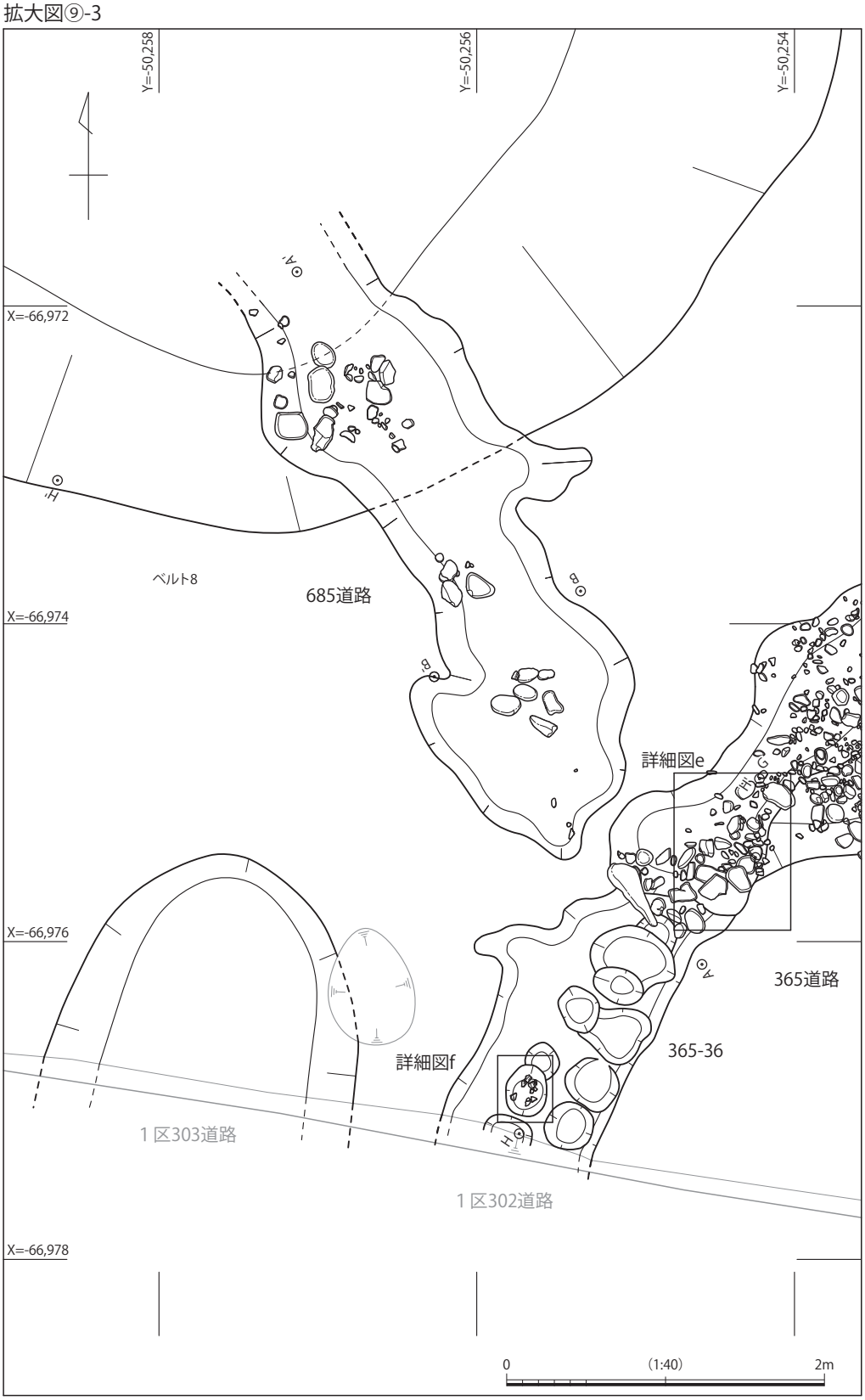
第 394 図　365 道路（6）・678 道路（2）



第 395 図　365 道路（7）・678 道路（3）・685 道路（1）



第 396 図　365 道路（8）・678 道路（4）



第 397 図　365 道路（9）・685 道路（2）

詰め込んだ状況が観察された。365-36 の北寄りには底面土坑は見られず、多量の礫と粗粒砂～極粗粒砂が詰め込まれている状況であった（第 396 図）。1 区 302 道路へ繋がる南端部では再び底面土坑が構築されるが、土坑の掘り込みも浅く、シルト混じり粗粒砂が堆積し礫も希薄となる（第 397 図）。

遺物は北区から南区にかけて散漫に出土している。Po459・460は土師器高台付坏である。前者は高台が外側に張り出し、後者はほぼ直立し内面が黒色を帯びる。Po462は須恵器坏蓋の口縁部、Po463は須恵器高台付坏の底部である。Po464は須恵器甕の体部片であり、外面は平行タタキ、内面は同心円状当て具痕が観察される。Po461は口縁部が直立し、体部が球形となる土師器甕である。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から８～10世紀と考えられる。

686道路（第360・388・393図、第66表、図版265・266）

南区7a-10C-6dグリッドにおいて、Ⅰｂ層除去後にⅤ層上面で検出した。365道路から一段高い南東方向に枝別れする。平面形は三角形、底面は波板状凹凸面を呈している。規模は長さ1.33m、最大幅0.68m、検出面からの深さは最大0.11ｍを測る。埋土はⅤ層に由来するブロックを含む黒褐色砂混じりシルトの１層と、粗粒砂～極粗粒砂を含む灰黄褐色シルトの２層が堆積する。２層中には径５～20cmの礫が多く含まれていた。これは凹面に砂や礫を充填し、その上にシルトが覆う365道路の構造と類似している。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。

685道路（第360・395・397・400図、第66表、図版261・262・264・265）

南区7a-10C-8fグリッドにおいて、Ⅰｂ層除去後にⅤ層上面で検出した。北西側は２流路により削平され、365道路とはわずかに離れるため新旧関係は不明である。365道路から北西方向に枝分れした道路の可能性が高い。残存規模は長さ3.77m、最大幅0.87m、検出面からの深さは最大0.07mを測る。主軸はN-30°-Wをとる。埋土は粗粒砂～極粗粒砂を含む黒褐色砂混じりシルトの１層と、Ⅱ・Ⅴ層に由来するブロックと粗粒砂を含む暗灰黄色砂混じりシルトの２層が堆積している。１層中には径10～20cm程度の礫が散漫に含まれ、粘性としまりが強い。地山を皿状に掘り込み、砂混じりの粘質土のシルトを充填して路面としている。埋土から土器などが出土しているが、小片のため図化していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。

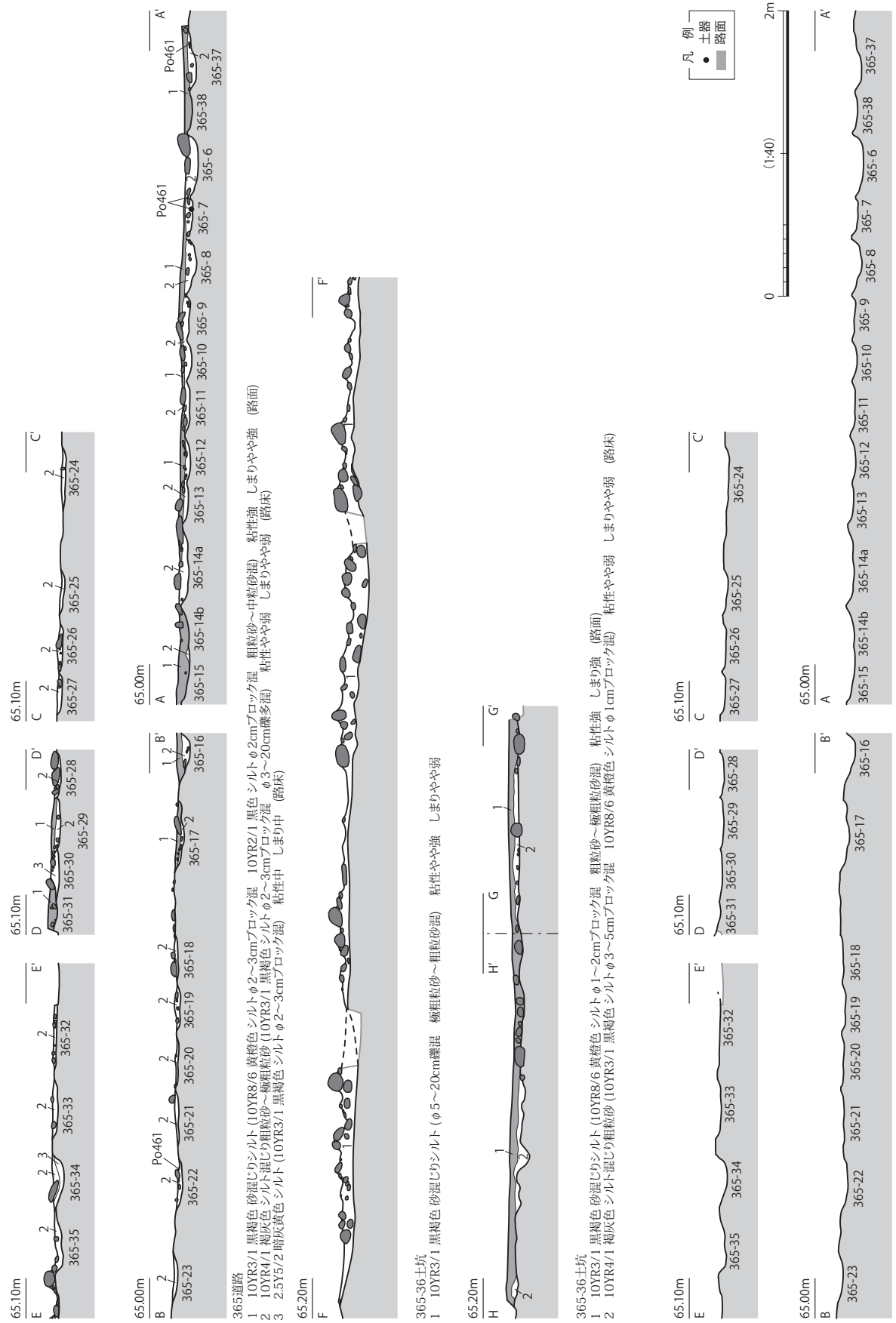
358・687道路（第360・402・403図、第66表、図版267～269）

［358道路］

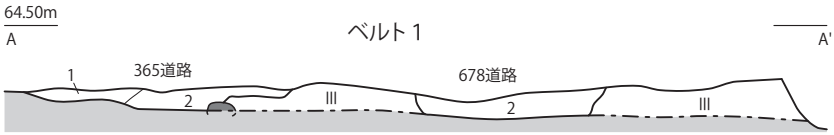
南区西側南端7a-10C-7h・7i・8h・8iグリッドにおいて、Ⅳ層上面で検出した礫敷道路である。東側を１溝に切られ、西側は調査区外に延びる。南側で687道路に分岐する。残存規模は、長さ6.64m、最大幅2.06m、検出面からの深さは最大0.15ｍを測る。主軸はＮ-76°-Wをとる。埋土は西壁で３層、中央のベルトで４層に分けられる。上層は黒色シルト、小礫を多量に含むのは９・10層の褐灰色シルト層である。

礫敷きの道路は、持ち込まれた礫と、地山面で検出した礫層が混在した状況で検出した。工程を推定復元すると、①地山の礫層上面まで掘り抜いて路床とし、②径２～５cmを主体に径15cmまでの亜角礫と、隙間を褐灰色シルトで埋める。径25cmを越える大型の礫も複数あるため、意図的に地山の礫を残したり移動させたりして、足がかりや小礫の流出を防ぐための構造と考えられる。

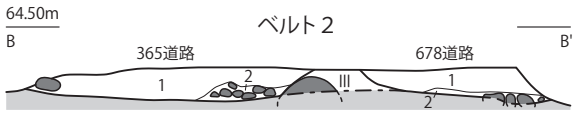
遺物は土師器のPo465～467、図化していないが瓦片が出土した。Po465・466は坏である。



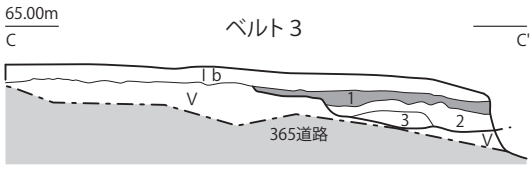
第 398 図　365 道路縦土層断面図



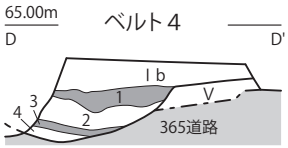
ベルト１・２
365道路
1　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混　極粗粒砂～中礫混)　粘性中　しまりやや強
2　10YR5/2 灰黄褐色 シルト混じり砂礫 (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック少混　10YR3/1 黒褐色 シルトφ3～5cmブロック混　φ3～10cm礫多混)　粘性やや弱　しまりやや弱　(路床?)



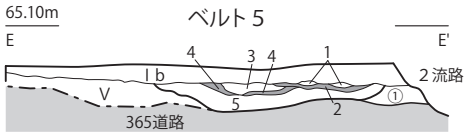
678道路
1　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混　極粗粒砂～中礫混)　粘性やや強　しまりやや強
2　10YR5/2 灰黄褐色 シルト混じり砂礫 (10YR3/1 黒褐色 シルトφ3～5cmブロック混　粗粒砂～中礫～φ3～10cm礫多混)　粘性やや弱　しまりやや弱　(路床?)
基本層序
Ⅲ　10YR3/2 黒褐色 砂混じりシルト (極粗粒砂～中礫混)　粘性中　しまり中　(黒ボクに近い地山?)



ベルト３
365道路
1　10YR3/1 黒褐色 シルト　粘性強　しまり強　(路面?)
2　10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中粒砂～極粗粒砂 (10YR3/1 黒褐色 シルトφ2～3cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強　(路床?)
3　10YR3/2 黒褐色 中粒砂～極粗粒砂 (φ3cm礫混)　粘性強　しまり強　(路床?)
基本層序
Ⅰb 10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ3～10cm礫混)　粘性中　しまり中
Ⅴ　10YR6/6 明黄褐色 砂礫 (細礫～中礫混　鉄分沈着)　粘性中　しまり強

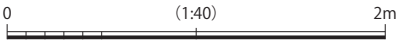


ベルト４
365道路
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (φ3cm礫混)　粘性やや強　しまりやや強　(新路面)
2　10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中粒砂～粗粒砂 (10YR3/1 黒褐色 シルトφ3～5cmブロック混)　粘性弱　しまりやや弱　(新路床)
3　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック少混)　粘性やや強　しまりやや強　(旧路面)
4　10YR4/1 褐灰色 シルト混じり中粒砂～粗粒砂 (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5～1cmブロック混)　粘性やや弱　しまりやや弱　(旧路床)
基本層序
Ⅰb 10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ3～10cm礫混)　粘性中　しまり中
Ⅴ　10YR6/6 明黄褐色 砂礫 (細礫～中礫混　鉄分沈着)　粘性中　しまり強

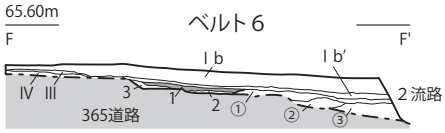


基本層序
Ⅰb 10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ3～10cm礫混)　粘性中　しまり中
Ⅴ　10YR6/6 明黄褐色 砂礫 (細礫～中礫　鉄分沈着)　粘性中　しまり強

ベルト５
365道路
1　10YR4/2 褐灰色 細粒砂～中粒砂　粘性弱　しまり弱
2　10YR3/1 黒褐色 シルト　粘性やや強　しまりやや強　(新路面)
3　10YR5/2 灰黄褐色 シルト混じり中粒砂～粗粒砂 (10YR3/1 黒褐色 シルトφ2～3cmブロック混)　粘性やや弱　しまりやや弱　(新路床)
4　10YR3/1 黒褐色 シルト　粘性やや強　しまり強　(旧路面)
5　10YR5/2 灰黄褐色 シルト混じり中粒砂～粗粒砂 (10YR3/1 黒褐色 シルトφ5cmブロック混　φ3～5cm礫混)　粘性やや弱　しまりやや弱　(旧路床)
2流路
①　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (中粒砂混　φ3～5cm礫混)　粘性やや強　しまりやや強　(365道路構築前の堆積土)

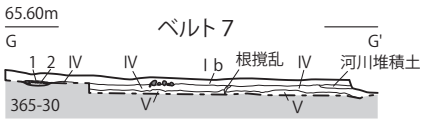


ベルト１～５

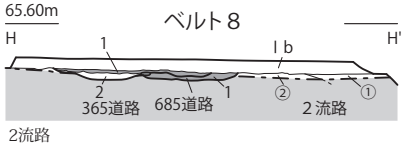


365道路
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック少混)　粘性強　しまり強　(路面)
2　10YR4/1 褐灰色 砂混じりシルト (φ2～3cm礫混　粗粒砂～極粗粒砂混)　粘性やや強　しまりやや強　(路床)
3　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混　中粒砂～極粗粒砂多混　φ2～3cm礫混)　粘性やや弱　しまりやや弱　(路床)

ベルト６
2流路
①　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (中粒砂混　φ3～5cm礫混)　粘性やや強　しまりやや強 (365構築前の流路の堆積土)
②　10YR4/1 褐灰色 シルト混じり極粗粒砂～大礫 (10YR3/1 黒褐色 シルトφ3～5cmブロック少混　φ3～5cm礫混)　粘性やや弱　しまりやや弱 (365構築前の流路の堆積土)
③　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (中粒砂～細粒砂混)　粘性やや強　しまり中 (365道路構築前の流路の堆積土)
基本層序
Ⅰb 10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ3～10cm礫混)　粘性中　しまり中
Ⅰb' 10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ3～10cm礫混　鉄分沈着)　粘性中　しまり強　(Ⅰb層より色調やや明るい)
Ⅲ　10YR2/1 黒色 シルト　粘性中　しまり中
Ⅳ　10YR6/2 灰黄褐色 シルト　粘性中　しまりやや強

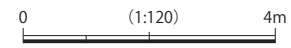


ベルト７
365-30土坑
1　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ2～3cmブロック混　10YR2/1 黒色 シルトφ2cmブロック混　粗粒砂～中粒砂混)　粘性強　しまりやや強　(路面)
2　10YR4/1 褐灰色 シルト混じり粗粒砂～極粗粒砂 (10YR3/1 黒褐色 シルトφ2～3cmブロック混　φ3～20cm礫多混)　粘性やや弱　しまりやや弱　(路床)
基本層序
Ⅰb 10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ3～10cm礫混)　粘性中　しまり中
Ⅳ　2.5Y7/4 淡黄色 シルト　粘性中　しまり中
Ⅴ　2.5Y8/6 黄色 シルト　粘性強　しまりやや強



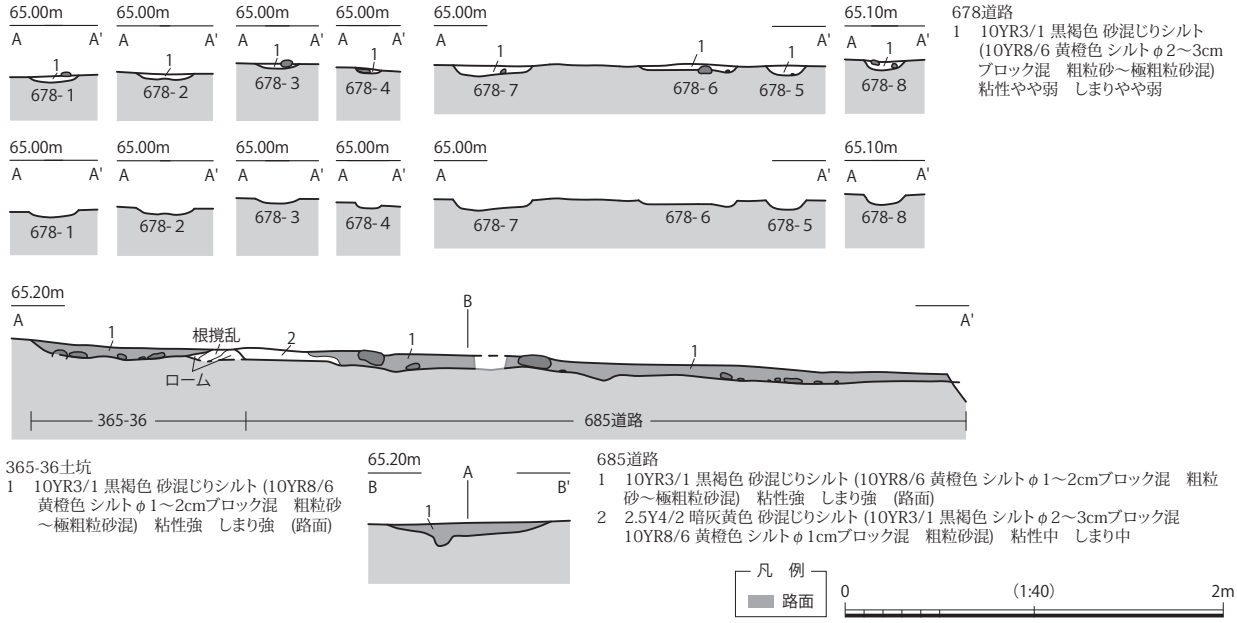
ベルト８
365道路
1　10YR4/1 褐灰色 シルト (10YR2/1 黒褐色 シルトφ2～3cmブロック混)　粘性強　しまり強　(路面)
2　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック混　粗粒砂～極粗粒砂混)　粘性強　しまり強　(路床)
685道路
1　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (粗粒砂～極粗粒砂混じり混)　粘性強　しまり強　(路面?)
2流路
①　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (粗粒砂～中礫混)　粘性やや強　しまり中
②　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック混　φ10～20cm極粗粒砂～礫混)　粘性やや強　しまり中
基本層序
Ⅰb 10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ3～10cm礫混)　粘性中　しまり中

凡例
路面

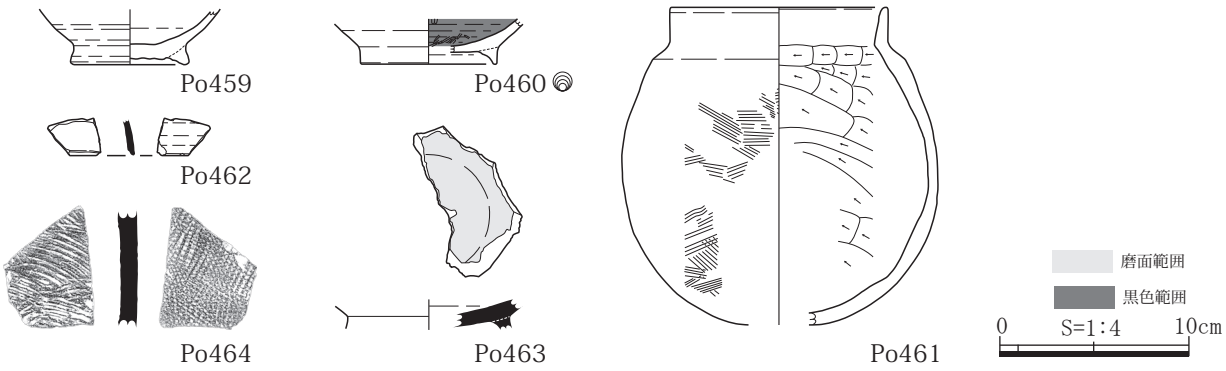


ベルト６～８

第 399 図　365 道路　ベルト１～８土層断面図



第 400 図　365・678・685 道路土層断面図

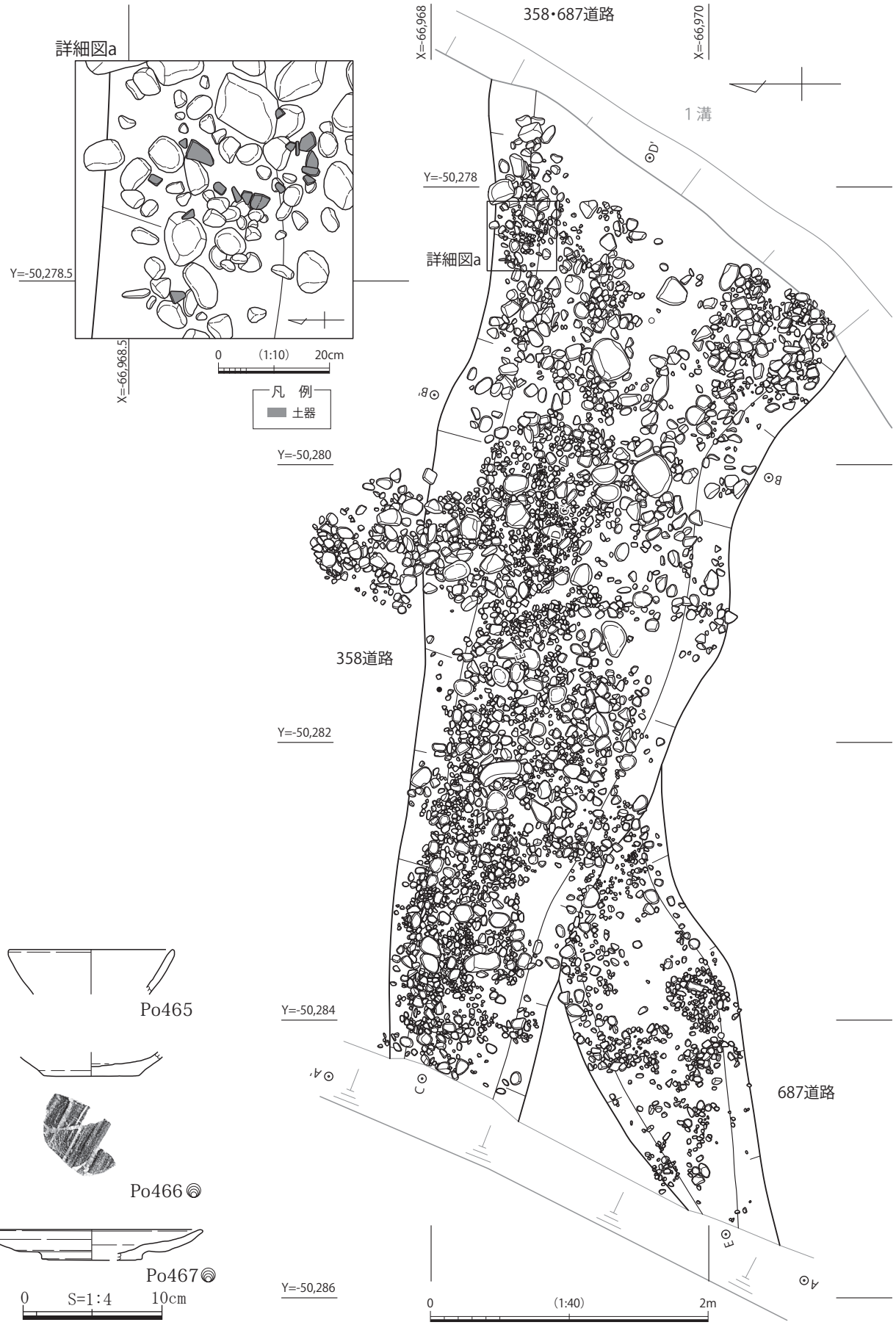


第 401 図　365 道路出土土器

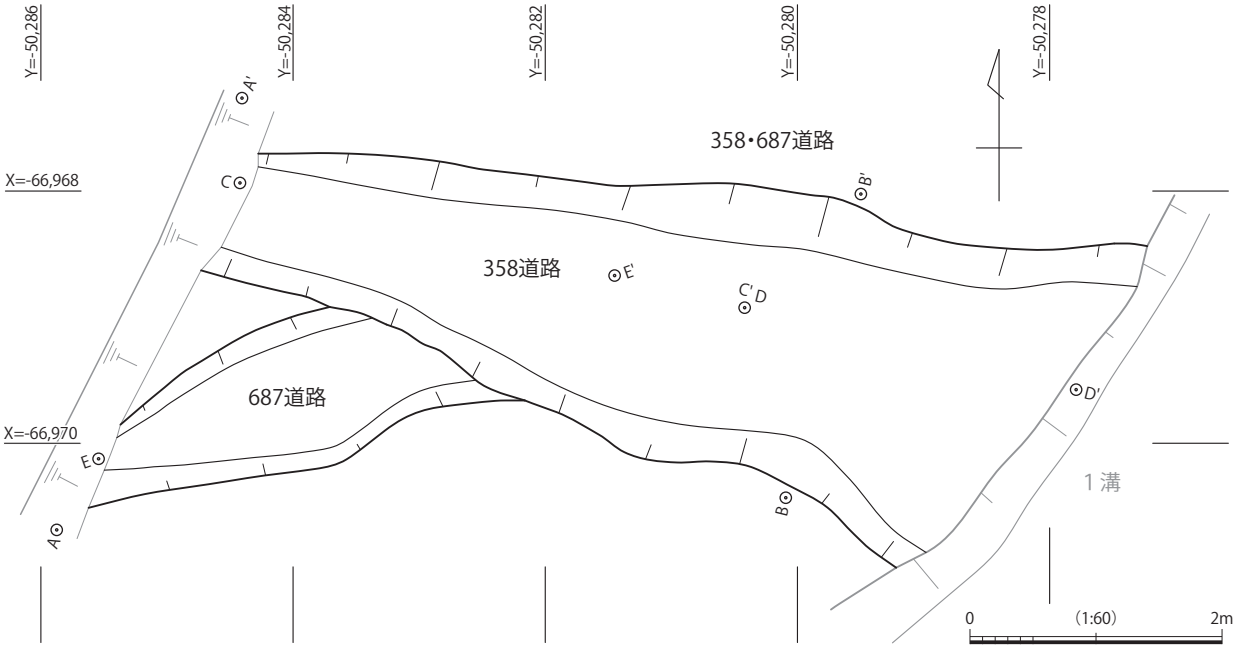
Po465 は掘り下げ中、Po466 は道路の北東隅から礫とともに細片で出土した。Po467 は皿である。道路の中央東端から出土した。Po466 は口縁部が欠損しているものの底面の切り離しは回転糸切りで、板に押し当てて底を平坦にしている。Po467 の皿は底面は糸切りで、口縁部が長い。底面が糸切りではあるが、坏は逆台形状、皿は底径に比べて口縁部が長く、径が大きい。いずれも 10 世紀の所産と考えられる。

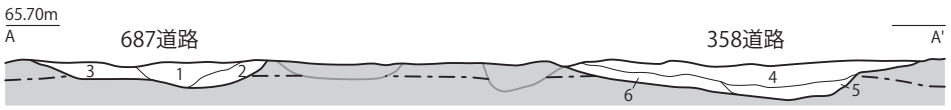
［687 道路］

南区西側南端 7a-10C-7i・ 8i グリッドにおいて、Ⅳ層上面で検出した礫敷道路である。北東側は 358 道路に接続し、南西側は調査区外に延びる。残存規模は、長さ 2.65m、最大幅 1.08m、検出面からの深さは最大 0.10m を測る。主軸は N-70° -E をとる。埋土は西壁で３層に分けられる。中央に黒褐色シルト、両側に褐灰色シルトが堆積する。358 道路で小礫を含む褐灰色シルトが覆土であることから、358 道路構築の段階で埋められた可能性が指摘できるものの接続部分の土層は浅く、確認できない。礫は径２～５cm を主体に径 15cm までの亜角礫があるが、遺存状況はよくない。遺物は出土していない。358 道路に接続するため、分岐するとみるなら同時期であるが、358 道路より遡る可能性も考えられる。



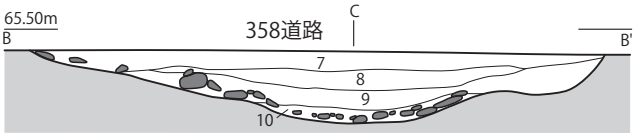
第 402 図　358・687 道路（1）、358 道路出土土器

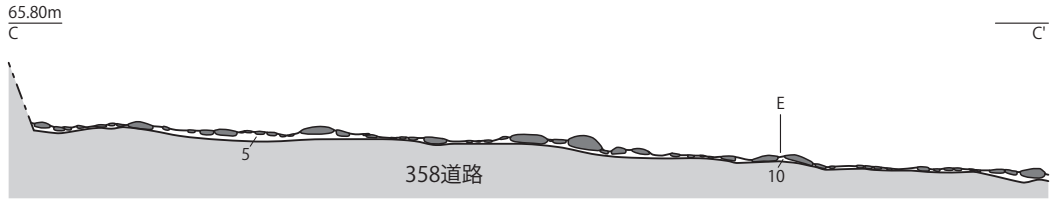


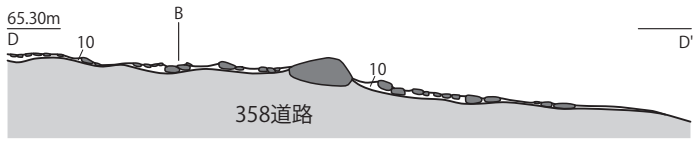


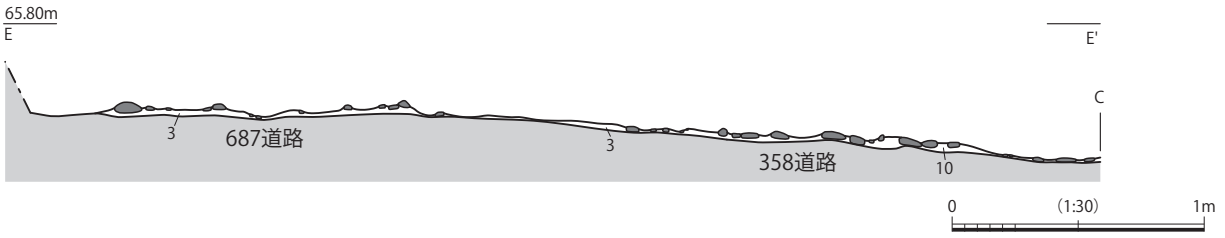
687道路
1　7.5YR3/2 黒褐色 シルト (φ～5cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　7.5YR4/1 褐灰色 シルト (φ～2cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
3　7.5YR4/1 褐灰色 シルト (φ～2cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

358道路
4　7.5YR3/2 黒褐色 シルト (φ～3cm礫混　φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中
5　7.5YR5/1 褐灰色 シルト (φ～5cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまり中　(路面か)
6　7.5YR4/1 褐灰色 シルト (φ～2cm礫混　炭化物φ～1cm少混)　粘性中　しまり中　(路面か)
7　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
8　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
9　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
10　10YR6/1 褐灰色 砂質シルト (φ～5cm礫混　φ～0.5cm礫少混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中　(路面か)









第 403 図　358・687 道路（2）、358・687 道路土層断面図

（４）　土坑

74 土坑（第 360・404 図、第 65 表）

北区北西 7a-9C-5c グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。南側の一部が撹乱によって掘り込まれている。平面形は不整楕円形、断面形は皿状を呈し、２段掘りとなっている。規模は長軸 1.1m、短軸 0.60m、検出面からの深さは最大 0.19ｍを測る。埋土は２層に分層でき、Ⅲ層由来のブロックを含む黒褐色シルト１層と、Ⅵ層由来のブロックを含む黒色シルトの２層が堆積する。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。

75 土坑（第 360・404 図、第 65 表）

北区北西 7a-9C-5c グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整円形、断面形は摺鉢状を呈している。規模は長軸 1.25m、短軸 1.07m、検出面からの深さは最大 0.26ｍを測る。埋土は２層に分層でき、Ⅲ・Ⅵ層由来のブロックを含む黒褐色シルト１層と、Ⅵ層由来のブロックを含む黒色シルトの２層が堆積する。埋土から鉄滓が出土しているが、図化していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。

80 土坑（第 360・404 図、第 65・81 表、図版 271・302）

北区北西 7a-9C-5d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整円形、断面形は逆台形状を呈している。規模は長軸 1.03m、短軸 1.01m、検出面からの深さは最大 0.16ｍを測る。埋土はⅢ層由来のブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。埋土中には拳大の礫が点在していた。

遺物は須恵器甕 Po468 が出土している。Po468 は須恵器甕の体部片であり、外面は平行タタキ、内面は同心円状当て具痕が観察される。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から７～８世紀と考えられる。

109 土坑（第 360・404 図、第 65 表、図版 271）

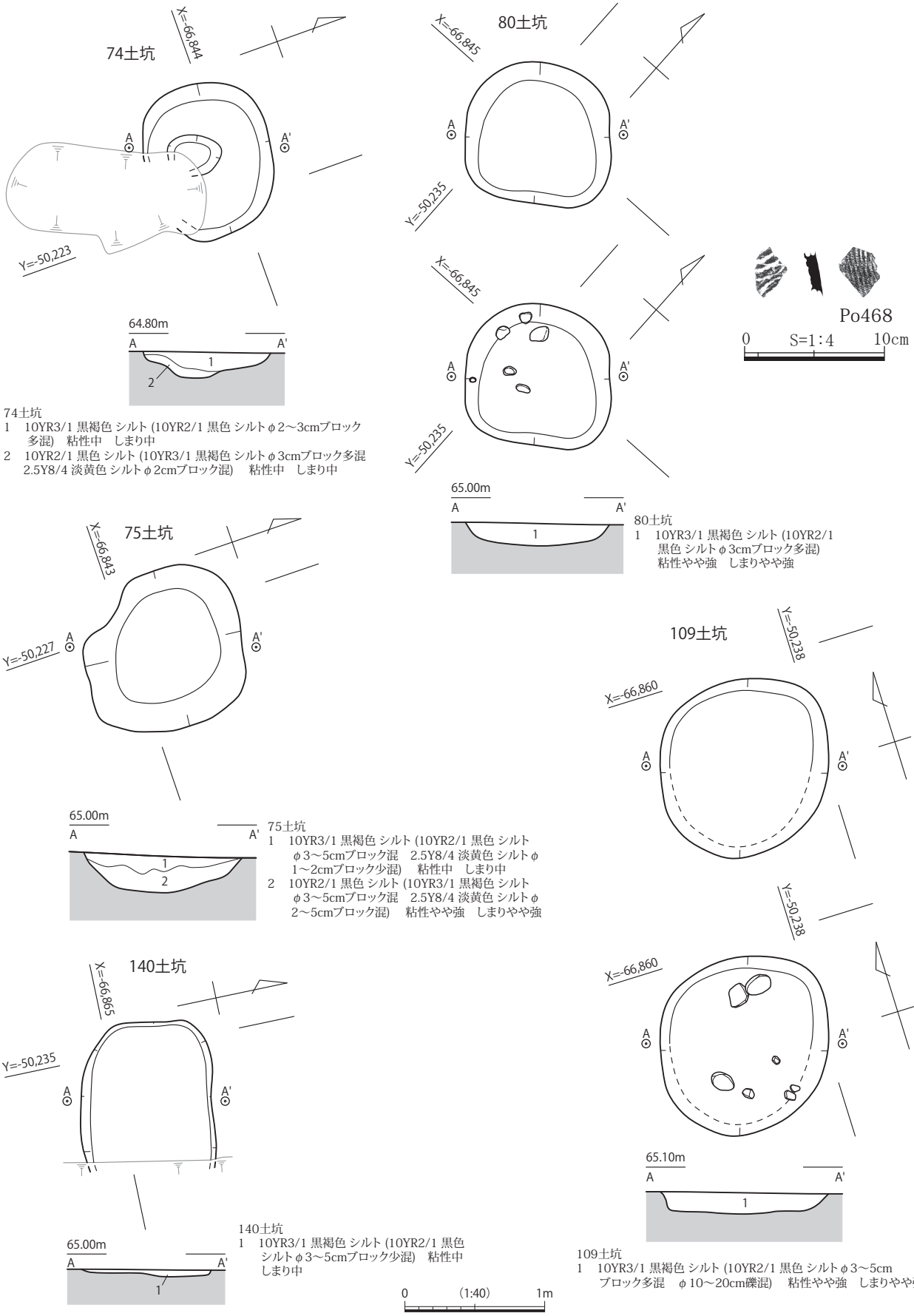
北区南西 7a-9C-7d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整円形、断面形は逆台形状を呈している。規模は長軸 1.29m、短軸 1.21m、検出面からの深さは最大 0.15ｍを測る。埋土はⅢ層由来のブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。埋土中には拳大の礫が点在し、土器が出土しているが、小片のため図化していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。

140 土坑（第 360・404 図、第 65 表、図版 270）

北区北西 7a-9C-7d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。東側の一部が暗渠により削平されている。平面形は隅丸長方形と推定され、断面形は浅い皿状を呈している。残存規模は長軸 1.00m、短軸 0.94m、検出面からの深さは最大 0.05ｍを測る。埋土はⅢ層由来のブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。



74土坑
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ2～3cmブロック多混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ3cmブロック多混 2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ2cmブロック混)　粘性中　しまり中

80土坑
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ3cmブロック多混)　粘性やや強　しまりやや強

75土坑
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ3～5cmブロック混　2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ1～2cmブロック少混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ3～5cmブロック混　2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ2～5cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

140土坑
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ3～5cmブロック少混)　粘性中　しまり中

109土坑
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ3～5cm ブロック多混　φ10～20cm礫混)　粘性やや強　しまりやや強

第 404 図　74・75・80・109・140 土坑、80 土坑出土土器

175 土坑（第 360・405 図、第 65・81 表、図版 272・302）

北区北西 7a-9C-8e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整円形、断面形は逆台形状を呈している。規模は長軸 0.75m、短軸 0.70m、検出面からの深さは最大 0.11ｍを測る。埋土は２層に分層でき、Ⅲ・Ⅴ層由来のブロックを含む黒褐色シルト１層と、Ⅴ層由来のブロック含む黒色シルトの２層が堆積する。１層より須恵器の小型壺 Po469 がほぼ完存して出土した。Po469 は口縁部が欠損し、最大径が体部下半となる須恵器壺である。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から８世紀と考えられる。

291 土坑（第 360・405 図、第 65 表、図版 272）

北区西端 7a-9C-8e・9e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。掘立柱建物 19 の 326 柱穴に切られ、掘立柱建物 22 の 313 柱穴を切っている。西側は調査区外へ延びているため、全容は不明である。平面形は楕円形、断面形は逆台形状を呈している。残存規模は長軸 0.97m、短軸 0.93m、検出面からの深さは最大 0.29ｍを測る。埋土はⅠ層由来のブロックを含む黒褐色シルトの１層、Ⅰ・Ⅴ層由来のブロックを含む黒褐色シルトの２層、Ⅴ層由来のブロックを多く含む黒褐色シルトの３層が堆積する。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。

234 土坑（第 360・405 図、第 65 表）

北区中央 7a-9C-9d･10d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。東側を１溝に切られている。平面形は不整楕円形、断面形は中央がやや深くなる浅い皿状を呈している。残存規模は長軸 1.52m、短軸 1.35m、検出面からの深さは最大 0.22ｍを測る。埋土はⅠ・Ⅲ層由来のブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。埋土から土器が出土しているが、小片のため図化していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。

250 ピット（第 360・405 図、第 68 表、図版 271）

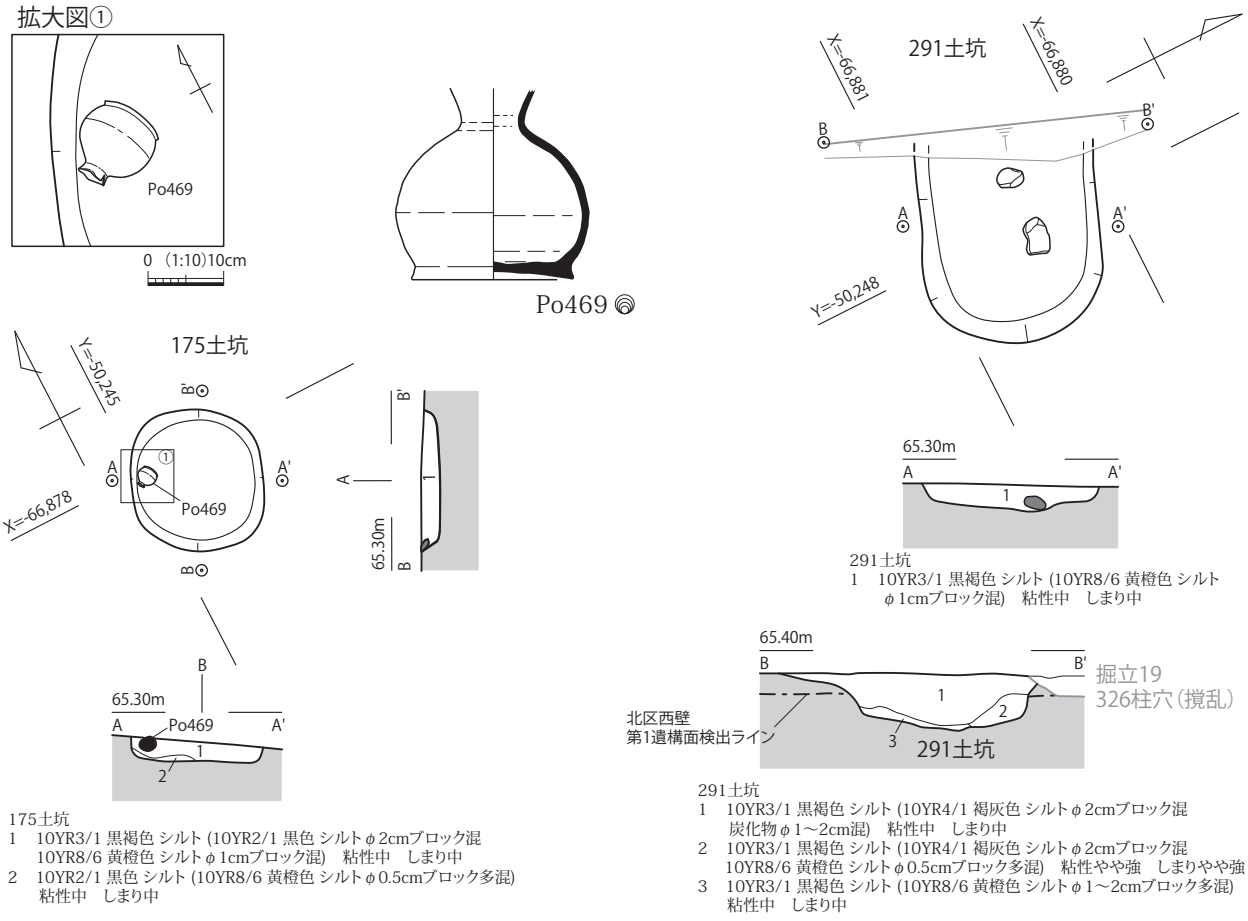
調査区南西 7a-9C-7c グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。265 土坑を入れ子状に切っている。平面形は不整円形、断面形は東側が削平されているが逆台形状を呈している。規模は長軸 0.46m、短軸 0.45m、検出面からの深さ 0.09ｍを測る。埋土はⅥ層に由来するブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。

265 土坑（第 360・405 図、第 65・81 表、図版 271・302）

調査区南西 7a-9C-7c グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。東側を 250 ピット、北東側を 240 ピットに切られている。平面形は不整楕円形、断面形は袋状を呈している。規模は長軸 1.09m、短軸 0.77m、検出面からの深さは最大 0.25ｍを測る。埋土は２層に分層でき、Ⅰ層由来のブロックを含む黒色シルト１層と、Ⅲ層由来のブロックを含む暗灰黄色シルトの２層が堆積する。遺物は、２層から土師器甕 Po470 が出土している。Po470 は口縁部が大きく外反する。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代以降と考えられる。



第 405 図　175・234・265・291 土坑、250 ピット、175・265 土坑出土土器

（５）　溝

８溝（第 360・406 図、第 64 表）

北区北端 7a-9C-4b・ 4c グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。主軸は N-72° -W をとる。検出規模は長さ 1.25m、最大幅 0.40m、検出面からの深さは最大 0.07m を測る。埋土はⅢ層由来のブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。ここでは耕作溝の可能性も指摘しておきたい。遺物は、図化していないが埋土中から土師器小片が出土している。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代以降と考えられる。

334 溝（第 360・406 図、第 64 表、図版 281）

北区北端中央 7a-9C-5a・ 5b・ 6a・ 6b グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。南東側は１溝に切られる。主軸は N-45° -W をとる。残存規模は長さ 1.60m、最大幅 0.35m、検出面からの深さは最大 0.06m を測る。埋土は径１cm 以下の礫や炭化物を含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は、図化していないが埋土中から土師器小片が出土している。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代以降と考えられる。

30 溝（第 360・406 図、第 64 表、図版 280）

北区北端 7a-9C-5a グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。主軸は N-53° -W をとる。検出規模は長さ 5.12m、最大幅 0.33m、検出面からの深さは最大 0.10m を測る。埋土はⅢ層由来のブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は､図化していないが埋土中から土師器小片が出土している。

本遺構の帰属時期は、出土遺物と埋土の特色から古代以降と考えられる。

31 溝（第 360・406 図、第 64 表、図版 281）

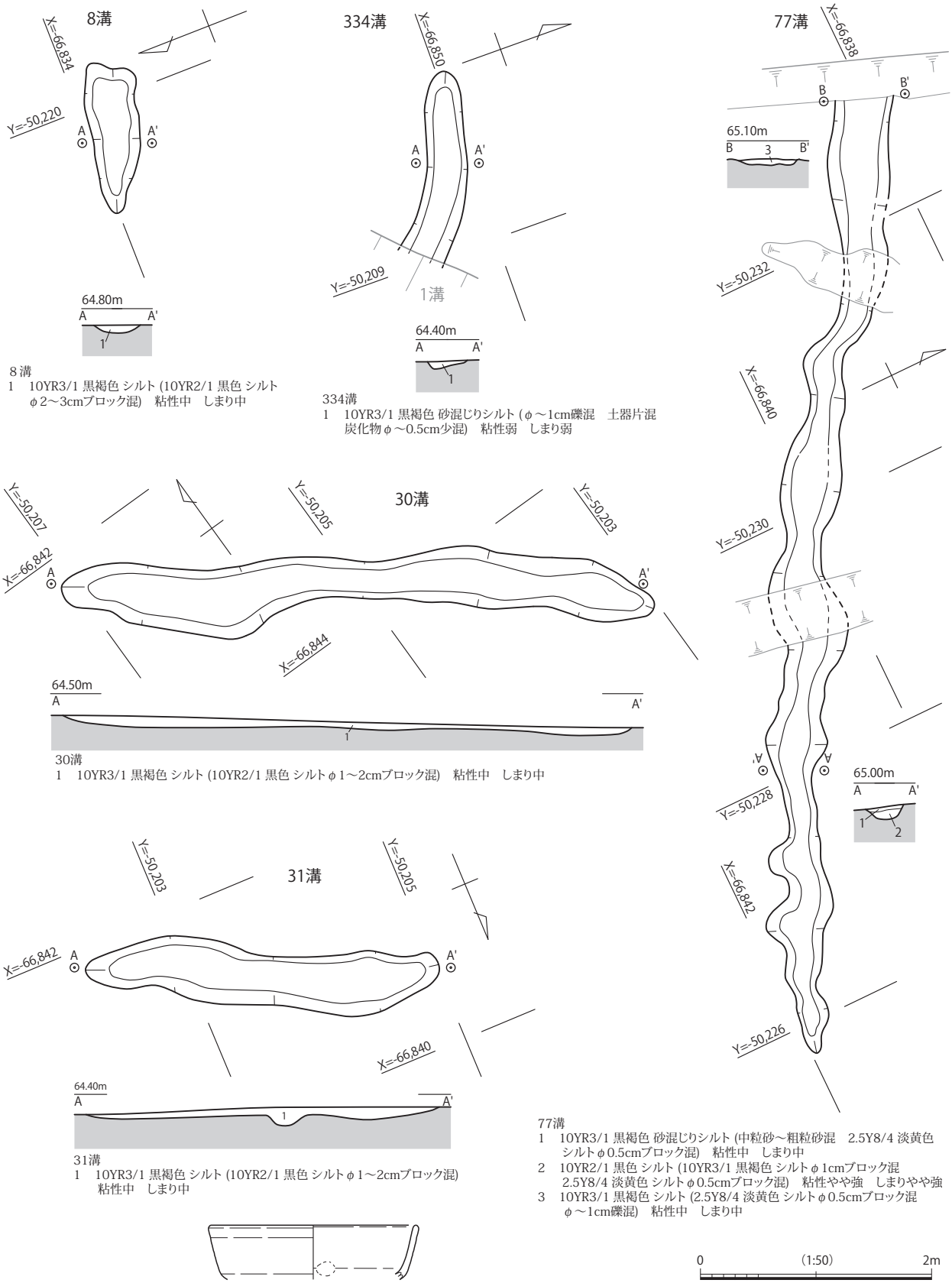
北区北端 7a-9C-5a グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。主軸は N-65° -W をとる。検出規模は長さ 3.06m、最大幅 0.42m、検出面からの深さは最大 0.16m を測る。埋土はⅢ層由来のブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は､図化していないが埋土中から土師器小片が出土している。

本遺構の帰属時期は、出土遺物と埋土の特色から古代以降と考えられる。

77 溝（第 360・406 図、第 64・81 表、図版 301）

北区北西 7a-9C-4c・ 4d・ 5c・ 5d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。西側は調査区外へ延びる。主軸は N-61° -W をとる。検出規模は長さ 8.26m､最大幅 0.36m､検出面からの深さは最大 0.11m を測る。埋土はⅥ層由来のブロックを含む黒褐色砂混じりシルト１層と、同じくⅥ層由来のブロックを含む黒色・黒褐色シルトの２・３層が堆積する。周囲には耕作溝群が存在し、このうち南北方向に主軸を持つ耕作溝群１と東西方向に主軸を持つ耕作溝群２を画するように位置している。畑を画する溝の可能性を指摘しておきたい。埋土から土師器坏 Po471 が出土している。Po471 は体部から口縁部にかけて開き気味に立ち上がる。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代と考えられる。



8溝
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルト φ2～3cmブロック混)　粘性中　しまり中

334溝
1　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (φ～1cm礫混　土器片混 炭化物φ～0.5cm少混)　粘性弱　しまり弱

30溝
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性中　しまり中

31溝
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性中　しまり中

77溝
1　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (中粒砂～粗粒砂混　2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ1cmブロック混 2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強
3　10YR3/1 黒褐色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5cmブロック混 φ～1cm礫混)　粘性中　しまり中

第 406 図　8・30・31・77・334 溝、77 溝出土土器

（６）　柱穴・ピット

44 柱穴（第 360・407・411 図、第 68 表・82、図版 283・302）

北区北西 7a-9C-6c・6d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。北側を暗渠によって削平されている。平面形は不整円形を呈し、残存規模は長軸 0.54m、短軸 0.32m、検出面からの深さ 0.49m を測る。埋土はⅤ層に由来するブロックや炭化物を含む柱抜き取り痕跡１・２層と、同じくⅤ層に由来するブロックを含む掘方埋め土３・４層が堆積する。遺物は柱抜き取り痕跡から土師器甕 Po479 が出土している。Po479 は口縁部が「く」字状に屈曲する。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代と考えられる。

52 柱穴（第 360・407・411 図、第 68・81・82 表、図版 283・302）

北区北西 7a-9C-6d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整円形を呈し、検出規模は長軸 0.49m、短軸 0.41m、検出面からの深さ 0.29m を測る。埋土はⅠ・Ⅲ・Ⅴ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅴ層に由来するブロックを密に含む掘方埋め土２層が堆積する。１層からはミニチュア土器 Po473、須恵器の鉢 Po484 と甕 Po485 が出土している。Po484 は須恵器鉢の口縁部片である。器壁が薄く、口縁外面の端部沿いに横ナデが施されている。Po485 は須恵器甕の体部片で、外面は平行タタキ、内面は同心円状当て具痕がみられる。Po473 は手づくね成形によるミニチュア土器でほぼ完形である。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代と考えられる。

61 柱穴（第 360・407・411 図、第 68・82 表、図版 285・302）

北区北西 7a-9C-6c・6d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整円形を呈し、検出規模は長軸 0.47m、短軸 0.46m、検出面からの深さ 0.36m を測る。埋土はⅢ・Ⅴ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１・２層と、Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土３層が堆積する。遺物は１層より土師器 Po478 が出土している。Po478 は口縁部が大きく「く」字状に外反する土師器甕である。口縁部は横ナデ、体部はハケ調整である。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代と考えられる。

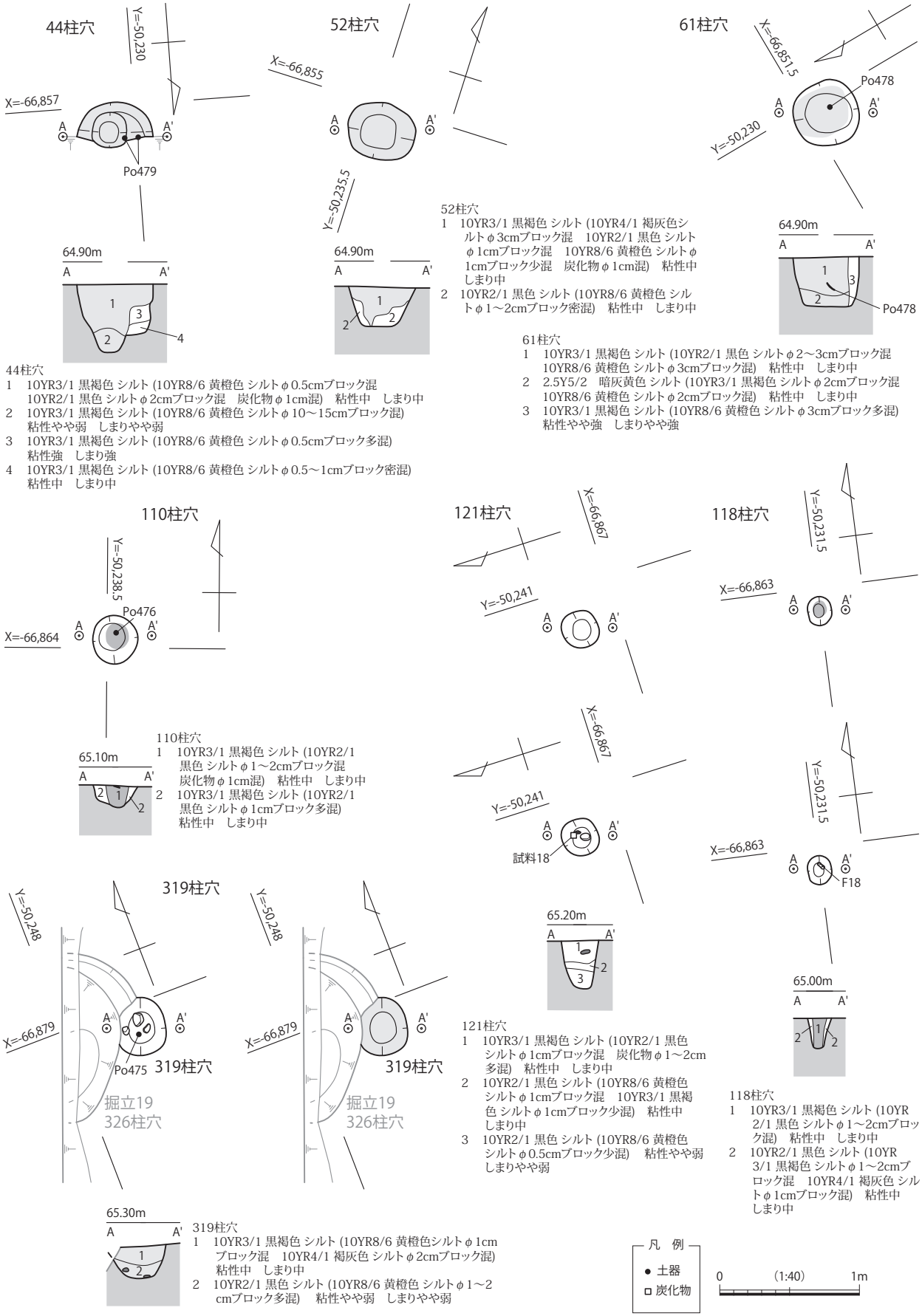
110 柱穴（第 360・407・411 図、第 68・82 表、図版 284・302）

北区北西 7a-9C-7d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整円形を呈し、検出規模は長軸 0.35m、短軸 0.32m、検出面からの深さ 0.16m を測る。埋土は柱痕跡の１層と、Ⅲ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２層が堆積する。柱痕跡の直径は 11 ～ 15cm を測り、底面には柱のあたりが確認された。遺物は１層から土師器 Po476 が出土している。Po476 は口縁部が小さく外反する土師器甕である。口縁部の内外面は横ナデである。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代と考えられる。

118 柱穴（第 360・407・408 図、第 68・99 表、図版 284・302）

北区北 7a-9C-7d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整円形を呈し、検出規模は長軸 0.21m、短軸 0.17m、検出面からの深さ 0.22m を測る。埋土は柱痕跡の１層と、Ⅰ・Ⅱ層に



52柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR4/1 褐灰色シルトφ3cmブロック混　10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック少混　炭化物φ1cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック密混)　粘性中　しまり中

61柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ2～3cmブロック混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ3cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2　暗灰黄色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ2cmブロック混　10YR8/6 黄橙色 シルトφ2cmブロック混)　粘性中　しまり中
3　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ3cmブロック多混)　粘性やや強　しまりやや強

44柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cmブロック混　10YR2/1 黒色 シルトφ2cmブロック混　炭化物φ1cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ10～15cmブロック混)　粘性やや弱　しまりやや弱
3　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cmブロック多混)　粘性強　しまり強
4　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5～1cmブロック密混)　粘性中　しまり中

110柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混　炭化物φ1cm混)　粘性中　しまり中
2　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック多混)　粘性中　しまり中

121柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混　炭化物φ1～2cm多混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混　10YR3/1 黒褐色 シルトφ1cmブロック少混)　粘性中　しまり中
3　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cmブロック少混)　粘性やや弱　しまりやや弱

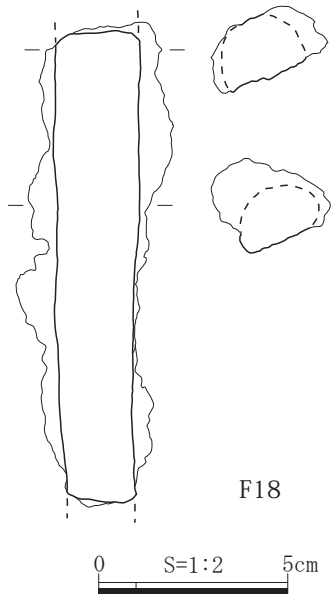
118柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR 2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR 3/1 黒褐色 シルトφ1～2cmブロック混　10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中

319柱穴
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色シルトφ1cmブロック混　10YR4/1 褐灰色 シルトφ2cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1～2cmブロック多混)　粘性やや弱　しまりやや弱

凡　例
● 土器
□ 炭化物

0　(1:40)　1m

第 407 図　44・52・61・110・118・121・319 柱穴



第 408 図　118 柱穴出土鉄器

由来するブロックを含む掘方埋め土２層が堆積する。柱痕跡の直径は 10cm 前後を測る。遺物は１層より棒状の鉄器 F18 が出土している。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古代と考えられる。

121 柱穴（第 360・407 図、第 68 表、図版 284）

北区北西 7a-9C-7e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整円形を呈し、検出規模は長軸 0.27m、短軸 0.26m、検出面からの深さ 0.25m を測る。埋土はⅢ～Ⅴ層に由来するブロックと炭化物を含む１～３層がほぼ水平に堆積する。遺物は、小片のため図化していないが、１層から土師器と鉄片、埋土から炭化物（試料 18）が出土している。

なお、この炭化物について放射性炭素年代測定を実施したところ、calAD891 － 993（暦年較正２σの確率１位）の値が得られており、出土した遺物の年代観と概ね調和している。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代と考えられる。

319 柱穴（第 360・407・411 図、第 68・82 表、図版 285・302）

北区西 7a-9C-8e グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。西側を掘立柱建物 19 の 326 柱穴に切られる。平面形は不整円形を呈し、残存規模は長軸 0.41m、短軸 0.32m、検出面からの深さ 0.23m を測る。埋土はⅠ・Ⅴ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１・２層が堆積する。２層中に拳大の礫が点在していた。遺物は、１層より土師器甕 Po475 が出土している。Po475 は「く」字状に口縁部が外反する土師器甕の肩部である。外面は指オサエ痕が観察される。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代と考えられる。

７ピット（第 360・409・411 図、第 68・82 表、図版 288・302）

北区北端 7a-9C-6b グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。西側を撹乱によって削平されている。平面形は不整円形、断面形は逆台形状を呈している。残存規模は長軸 0.57m、短軸 0.39m、検出面からの深さ 0.24m を測る。埋土はⅠ層に由来するブロックを含む褐灰色シルトが堆積する。遺物は Po477・486 が出土している。Po486 は須恵器甕の体部片である。外面は平行タタキ、内面は同心円状当て具痕がみられる。Po477 は口縁部が大きく外反する土師器甕の口縁から頸部である。口縁部外面は横ナデを施し頸部にかけて指オサエ痕が観察される。

本遺構の帰属時期は、出土遺物から古代以降と考えられる。

21 ピット（第 360・409・411 図、第 68・81 表、図版 286・303）

北区北端 7a-9C-5b グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。26 ピットが北西側に近接する。平面形は不整楕円形、断面形は逆台形状を呈している。検出規模は長軸 0.65m、短軸 0.42m、検出面からの深さ 0.19m を測る。埋土はⅥ層に由来するブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は、

埋土より弥生土器甕 Po472 が出土しており、混入の可能性がある。26 ピット出土 Po472 と接合する。Po472 は口縁部が外反し、胴上部が張る甕である。体部の外面は縦方向のミガキ、内面はヘラケズリが施される。

本遺構の帰属時期は、出土遺物より古代以降と考えられる。

26 ピット（第 360・409・411 図、第 68・81・82 表、図版 288・303）

北区北端 7a-9C-5b グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。21 ピットが南東側に近接する。平面形は不整円形を呈し、検出規模は長軸 0.26m、短軸 0.21m、検出面からの深さ 0.09m を測る。埋土は炭化物を多く含む黒色シルトが堆積する。埋土中には径３～ 12cm 程度の礫が点在している。また須恵器 Po483、弥生土器 Po472 が出土しており、Po472 は 21 ピット出土弥生土器甕 Po472 と接合するもので外面は縦方向のミガキが施されている。Po483 は須恵器坏の受け部から体部片である。

本遺構の帰属時期は、出土遺物より古代と考えられる。

42 ピット（第 360・409 図、第 68・99 表、図版 286・302）

北区北西 7a-9C-4c グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整楕円形、断面形は皿状を呈している。検出規模は長軸 0.96m、短軸 0.62m、検出面からの深さ 0.11m を測る。埋土はⅢ・Ⅵ層に由来するブロックを含む黒褐色シルトが堆積する。遺物は、埋土から鉄器 F19 が出土している。F19 は頭部が折れ曲がり、針部が方形であることから釘と考えられる。

本遺構の帰属時期は、出土遺物より古代以降と考えられる。

92 ピット（第 360・410・411 図、第 68・81・82 表、図版 287・302）

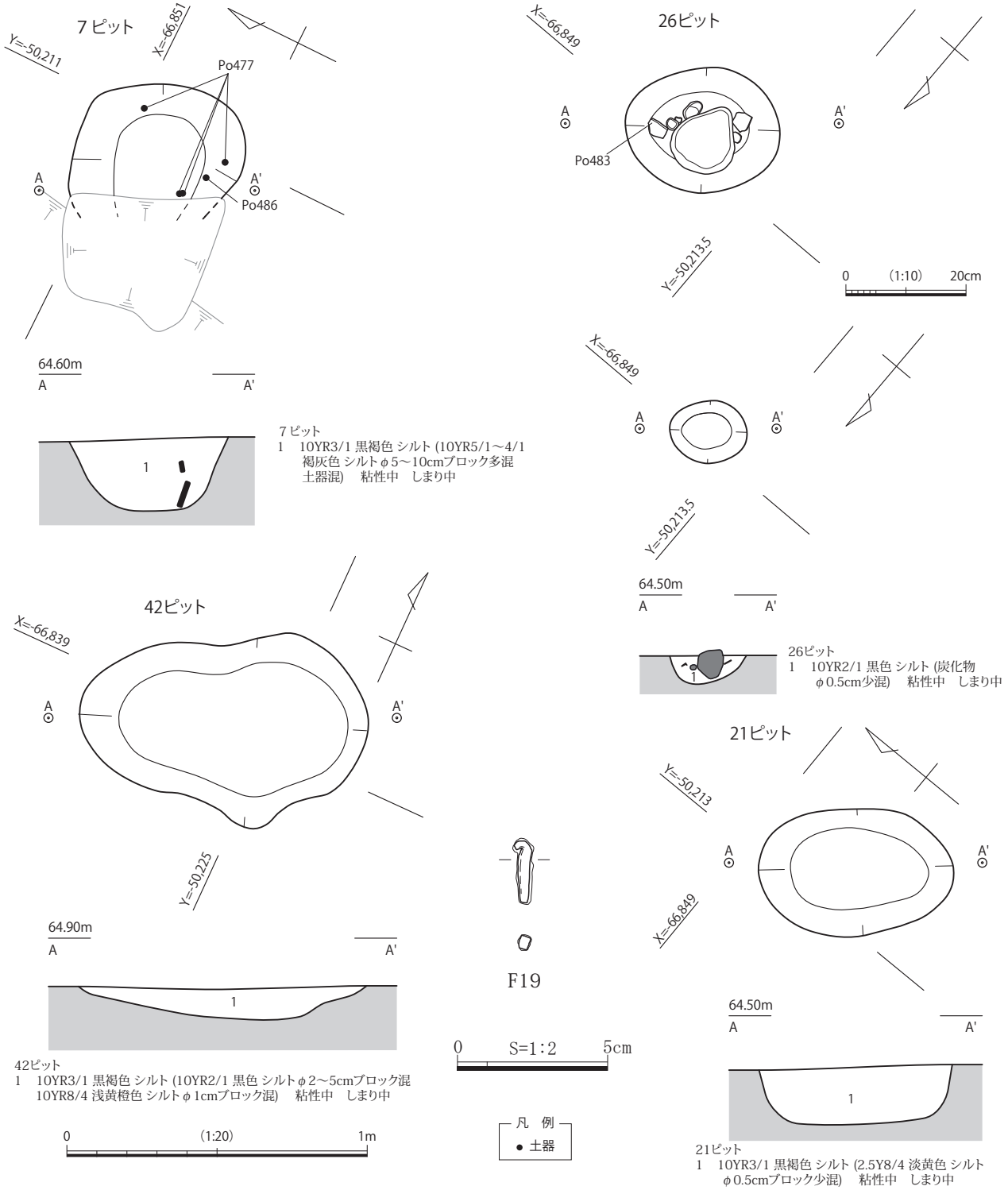
北区北西 7a-9C-6d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整円形を呈し、検出規模は長軸 0.58m、短軸 0.47m、検出面からの深さ 0.50m を測る。底面は東から南側にかけて段状のテラス面を有する。埋土は炭化物を多く含む黒褐色シルトの１・２層と、灰黄褐色シルトの３・４層、にぶい黄色シルトの５層が堆積する。１層より土師器 Po480、ミニチュア土器 Po474、須恵器 Po481 が出土している。Po481 は須恵器坏蓋で、天井部は丸味を帯び、端部はやや外側に張り出す。Po480 は土師器甕の口縁部で「く」字状に外反する。Po474 は手づくね成形によるミニチュア土器の口縁部片である。

本遺構の帰属時期は、出土遺物より古代と考えられる。

93 ピット（第 360・410・411 図、第 68 表、図版 287）

北区北西 7a-9C-6d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は円形を呈し、検出規模は長軸 0.41m、短軸 0.38m、検出面からの深さ 0.24m を測る。埋土は炭化物を含む褐灰色シルトの１層、灰黄褐色シルトの２・３層が堆積する。２層より須恵器 Po482 が出土している。Po482 は須恵器坏身の体部片であり、底部と口縁端部は欠損している。

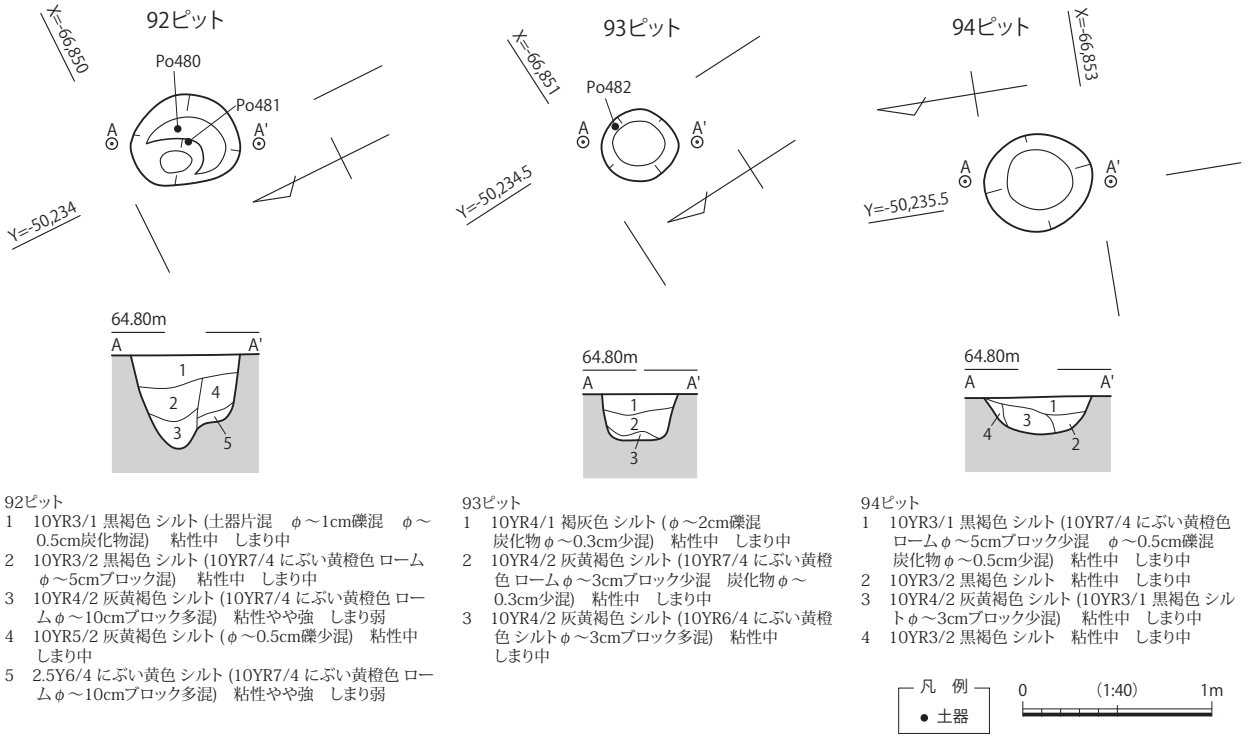
本遺構の帰属時期は、出土遺物より古代と考えられる。



第 409 図　7・21・26・42 ピット、42 ピット出土鉄器

94 ピット（第 360・410・411 図、第 68・82 表、図版 287・302）

北区北西 7a-9C-6d グリッドにおいて、Ⅱｃ層上面で検出した。平面形は不整円形を呈し、検出規模は長軸 0.57m、短軸 0.52m、検出面からの深さ 0.20ｍを測る。断面は皿状を呈している。埋土は黒褐色シルトの１・２・４層と、灰黄褐色シルトの３層が堆積する。埋土より須恵器 Po487 が出土している。Po487 は須恵器甕の体部片と考えられるものである。外面は平行タタキ、内面は同心円状当て具痕がみられる。

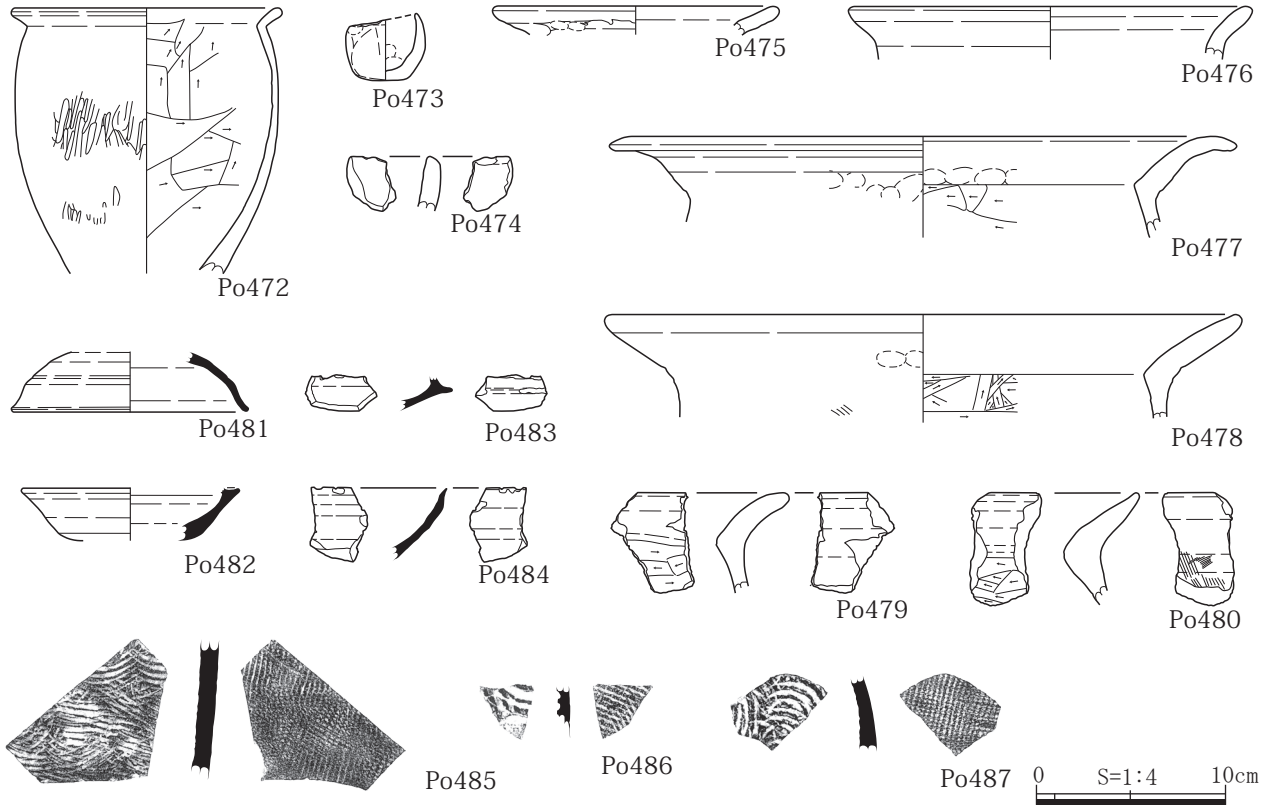


92ピット
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (土器片混　φ～1cm礫混　φ～0.5cm炭化物混)　粘性中　しまり中
2　10YR3/2 黒褐色 シルト (10YR7/4 にぶい黄橙色 ロームφ～5cmブロック混)　粘性中　しまり中
3　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (10YR7/4 にぶい黄橙色 ロームφ～10cmブロック多混)　粘性やや強　しまり弱
4　10YR5/2 灰黄褐色 シルト (φ～0.5cm礫少混)　粘性中　しまり中
5　2.5Y6/4 にぶい黄色 シルト (10YR7/4 にぶい黄橙色 ロームφ～10cmブロック多混)　粘性やや強　しまり弱

93ピット
1　10YR4/1 褐灰色 シルト (φ～2cm礫混　炭化物φ～0.3cm少混)　粘性中　しまり中
2　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (10YR7/4 にぶい黄橙色 ロームφ～3cmブロック少混　炭化物φ～0.3cm少混)　粘性中　しまり中
3　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (10YR6/4 にぶい黄橙色 シルトφ～3cmブロック多混)　粘性中　しまり中

94ピット
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR7/4 にぶい黄橙色 ロームφ～5cmブロック少混　φ～0.5cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
2　10YR3/2 黒褐色 シルト　粘性中　しまり中
3　10YR4/2 灰黄褐色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ～3cmブロック少混)　粘性中　しまり中
4　10YR3/2 黒褐色 シルト　粘性中　しまり中

第 410 図　92 ～ 94 ピット



第 411 図　柱穴・ピット出土土器

本遺構の帰属時期は、出土遺物より古代と考えられる。

（7）流路

2 流路（第 360・412 ～ 418 図、第 64・96・98・102 表、図版 279・280・322・323）

調査区全域において、Ⅰｂ層下面で検出した。1 溝に西岸を切られており、ほぼ併行する。長さ 147m、幅 26m、深さは検出面から最大で１ｍである。川筋は南西から北東方向へ向かい、小刻みに蛇行しながら、北東端で東に大きく屈曲する。主軸は N-23° -E である。底面状態から川筋が変化していった様子が見られ、西寄りの川筋に古代の遺物を多く包含していた。

第 413 図は 2 流路の土層断面図（北区南壁土層断面図）である。埋土は上部①～⑤層が黒褐色・灰黄褐色～黒色砂礫混じりシルトを基本として、下部⑥～⑰層は暗灰黄色シルト混じり砂礫や黒色砂（礫）混じりシルトを主体としてラミナ状に互層堆積する。

南壁では 2 流路の土壌サンプルの珪藻分析（第５章第５節）の結果、上部の①・②層では池状の深い止水域を主に水草が生育する浅い水域を伴う環境、③・⑤層では水草が生育するやや不安定な流水と止水の入り混じる環境、下部の⑥層では流水の影響のある水草の繁茂する浅い水域が推定されている。また、2 流路とその上位の耕作土の植物珪酸体分析及び花粉分析の結果、①層と 2 流路上部のⅠａ・Ⅰｂ層でも稲作が行われていた可能性が高く、周辺の比較的乾いたところにはススキなどが生育し、下部の⑥層などはヨシなどが生育する湿地あるいは湿った環境であったと推定されている。

遺物は、先述した通り 2 流路西寄りの⑮・⑯層から比較的多く出土しており、その他は散漫である（第 412 図）。須恵器・土師器の小片がみられ、摩耗を受けているものが目立つ。ここでは、木器 W128 について出土状況を報告する（第 414 図）。北区 7a-9C-10c グリッドにおいて 2 流路のやや西寄りで出土している。西側は 1 溝によって削平されており、２流路下部に相当する暗灰黄色シルト混じり中粒砂～極細粒砂中に長軸を北東 - 南西方向にとって径５～ 25cm の礫上部で出土した。北西隣には須恵器坏 Po517 が出土している。

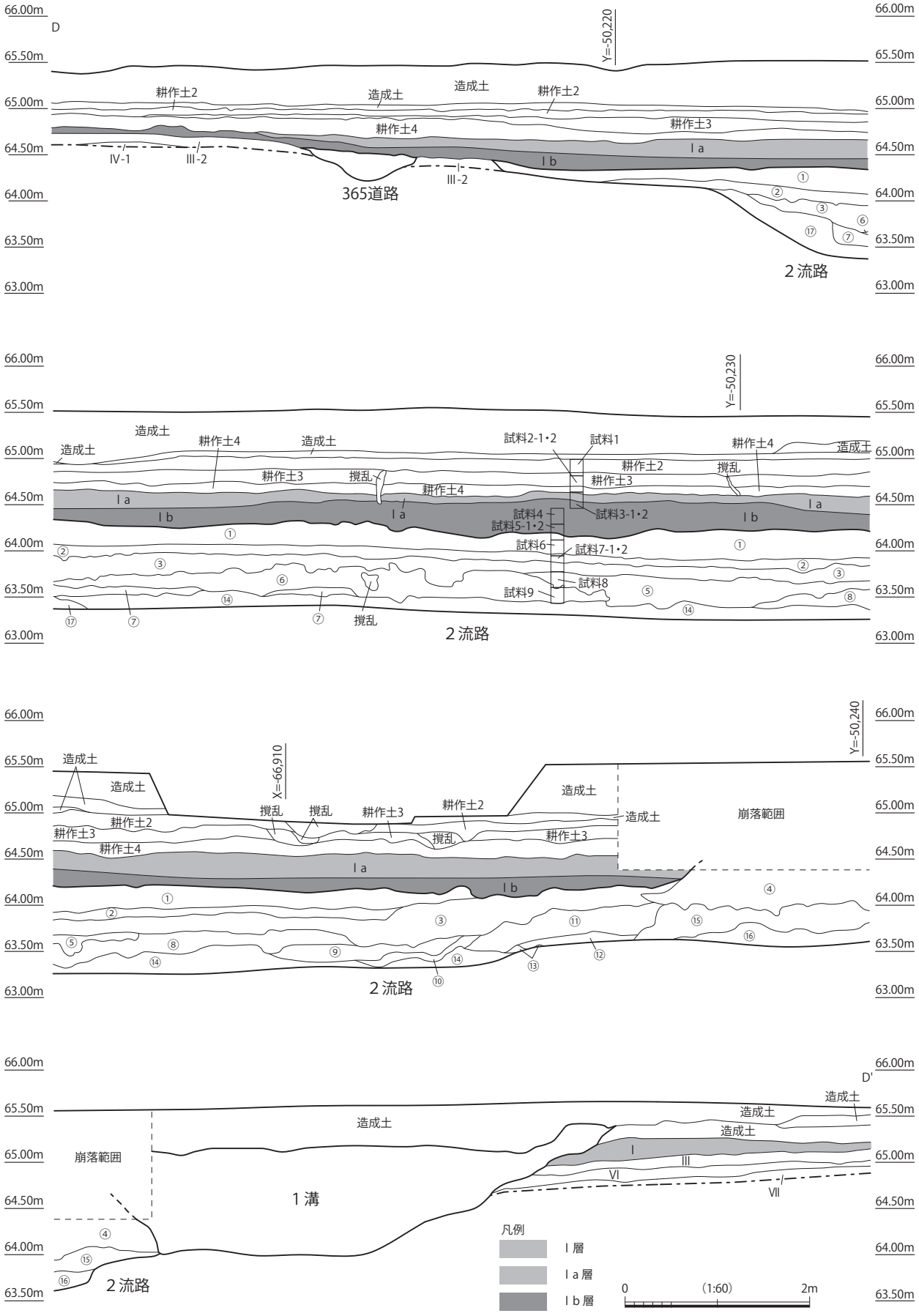
W128 は材の下部に方形の孔が２箇所穿たれ、内部が繋がる。上方背面にも同様の孔が穿たれている。種別の特定はできないが、ここでは建築部材の可能性を指摘しておきたい。Po488 は古墳時代前期の土師器甕である。器壁は薄く口縁部は丁寧な横ナデ、端部は面取りがなされている。Po489 は古墳時代中期の土師器甕である。器壁が厚く、口縁部がほぼ直立気味で頸部との境にわずかに凹線が巡る。Po490 ～ 492 は土師器甕である。Po490 は「く」字状に外傾した口縁部は短く、端部は丸味を帯びている。Po491 は口縁部が「く」字状に大きく外反し、端部が尖る。Po492 は口縁部が小さく外傾し、内面は端部に沿ってナデが施されている。Po495 は土師器高坏の脚部である。Po493・494 は口縁部が大きく外反しない土師器甕である。いずれも口径は狭い。

Po496 ～ 506 は赤彩土師器で Po496 ～ 501 は坏、Po504・505 は高台付坏、Po506 は皿である。Po496 ～ 498 の口縁部は外方に大きく開き、底部は広い。底部は水平なもの Po496・500 と丸みを帯びる Po497・498・501 がみられる。Po507 は体部から口縁部が外方に直線的に立ち上がる土師器坏であり、器壁が薄い。Po508 ～ 510 は高台付の土師器坏である。Po511・512 は手づくね成形の京都系土師器皿である。

Po513･514 は須恵器坏蓋で、前者は天井部から湾曲して口縁部に至り口縁部がほぼ垂直に下がる。後者は天井部に輪状つまみが付く。Po515 ～ 517 は須恵器坏である。Po515・516 は口縁部が外方

X=-66,840
X=-66,860
X=-66,880
X=-66,900
X=-66,920
X=-66,940
X=-66,960
Y=-50,280
Y=-50,260
Y=-50,240
Y=-50,220
Y=-50,200
A
A′
B
B′
C
C′
D
D′
北区
南区
2流路
1溝
拡大図①
Po517
W128
Po869
Po520
Po494
Po522
CP60
Po502
Po490
S24
Po526
Po497
Po530
Po508
凡　例
土器
瓦
木器
石器
0
(1:600)
20m

第 412 図　２流路



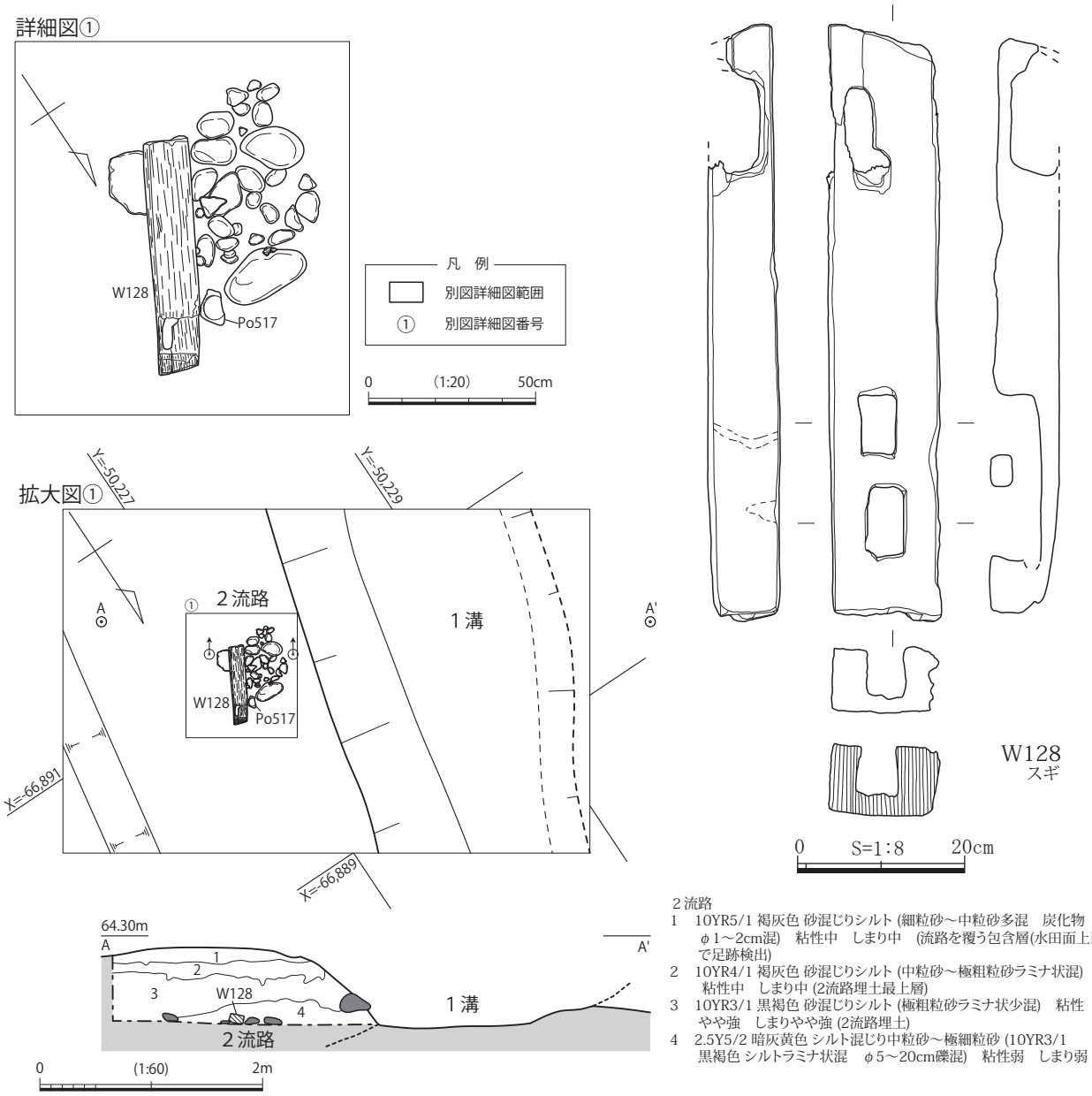
第 413 図　２流路土層断面図

２流路
① 10YR4/2 灰黄褐色 砂礫混じりシルト (中粒砂～中礫混)　粘性強　しまり強
② 10YR3/2 黒褐色 砂礫混じりシルト (粗粒砂～中礫混)　粘性強　しまり強
③ 10YR2/1 黒色 砂礫混じりシルト (細粒砂少混)　粘性やや強　しまり強
④ 10YR6/1 褐灰色～10YR6/2 灰黄褐色 砂礫 (粗粒砂～極粗粒砂ラミナ状混下部鉄分固着)　粘性なし　しまりやや弱
⑤ 10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (細粒砂～中粒砂混)　粘性強　しまり強
⑥ 10YR5/2 灰黄褐色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ5～10cmブロック混)　粘性強　しまり強
⑦ 10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (細粒砂混　10YR2/1 黒色 シルトφ5cmブロック混)　粘性強　しまり強
⑧ 2.5Y6/1 黄灰色 シルト混じり砂 (極細粒砂～細礫混　10YR2/1 黒色 シルトラミナ状混)　粘性やや弱　しまり中
⑨ 2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト混じり砂礫 (10YR2/1 黒色 シルトブロック状混)　粘性弱　しまり弱
⑩ 10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (極細粒砂～中粒砂ラミナ状混)　粘性強　しまり強
⑪ 10YR2/1 黒色 砂礫混じりシルト (中粒砂～中礫ラミナ状混)　粘性中　しまり中
⑫ 2.5Y6/2 灰黄色 砂礫 (極粗粒砂～中礫～大礫混　生木混)　粘性なし　しまり弱
⑬ 10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (細粒砂～中粒砂混)　粘性弱　しまり強
⑭ 2.5Y5/1 黄灰色～2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト混じり砂礫 (10YR2/1 黒色 シルトラミナ状混　極粗粒砂～巨礫混)　粘性弱　しまり弱
⑮ 10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (中粒砂～粗粒砂ラミナ状混)　粘性強　しまり強 (須恵器Po520出土層)
⑯ 10YR5/1 褐灰色～10YR7/6 明黄褐色 砂礫 (粗粒砂～極粗粒砂ラミナ状混鉄分部分的に固着)　粘性なし　しまりやや弱
⑰ 10YR2/2 黒褐色 礫混じりシルト (φ15～20cm礫混)　粘性中　しまり強

耕作土2　10YR6/2 灰黄褐色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック混　φ～2cm礫混炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまりやや弱
耕作土3　10YR7/1 灰白色 シルト (10YR6/2 灰黄褐色 シルトφ～5cmブロック混　φ～2cm礫混　炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまりやや弱
耕作土4　10YR5/1 褐灰色 シルト (φ～3cm鉄分ブロック混　φ～2cm礫混炭化物φ～1cm混)　粘性中　しまりやや弱

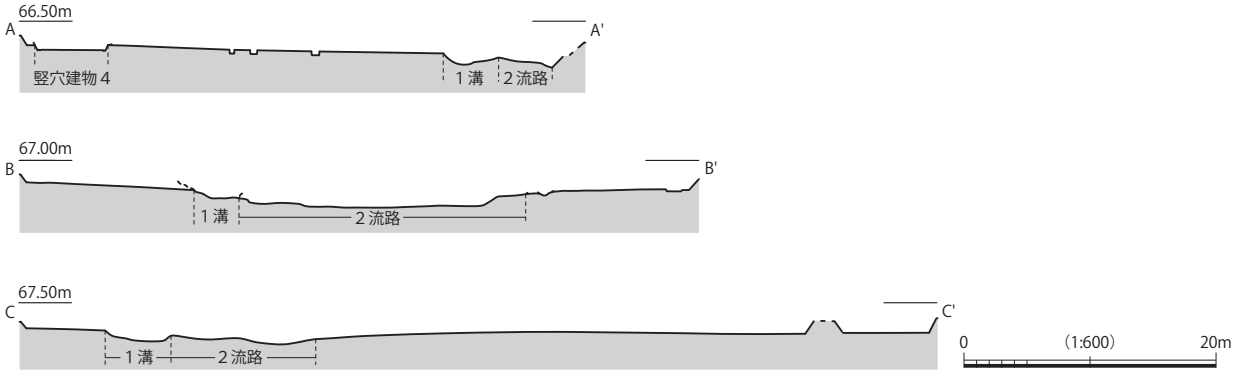
２流路西側
Ⅰ　10YR4/1 褐灰色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混10YR8/4 浅黄橙色 シルトφ1cmブロック混　炭化物φ1cm混　焼土φ1cmブロック混　土器混)　粘性中　しまり強 (古代～中世包含層)
Ⅲ　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混10YR8/4 浅黄橙色 シルトφ1cmブロック混　炭化物φ1cm混　焼土φ1cmブロック少混　土器多混)　粘性中　しまり強 (古代包含層)
Ⅵ　10YR8/3 浅黄橙色 シルト　粘性中　しまり中 (無遺物層)
Ⅶ　10YR8/6 黄橙色 シルト　粘性強　しまり中 (無遺物層)

２流路東側
Ⅰa　10YR6/1 褐灰色 シルト (φ～1cm鉄分ブロック混　φ～0.5cm礫混炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
Ⅰb　2.5Y4/1 黄灰色 シルト (φ～1cm鉄分ブロック混　φ～0.5cm礫混炭化物φ～0.5cm混)　粘性中　しまり中
Ⅲ-2　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (10YR7/2 にぶい黄橙色 シルトφ～5cmブロック混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中
Ⅳ-1　2.5Y6/3 にぶい黄色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ～3cmブロック混　φ～1cm礫混　炭化物φ～0.5cm少混)　粘性中　しまり中

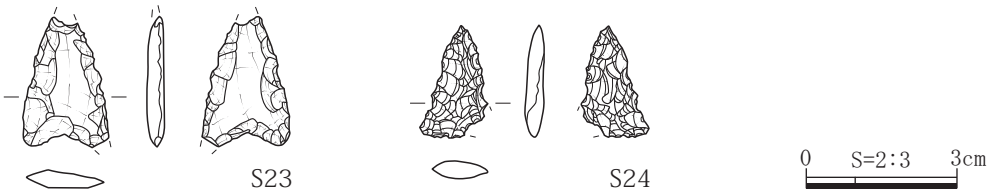


２流路
1　10YR5/1 褐灰色 砂混じりシルト (細粒砂～中粒砂多混　炭化物φ1～2cm混)　粘性中　しまり中　(流路を覆う包含層(水田面上面で足跡検出)
2　10YR4/1 褐灰色 砂混じりシルト (中粒砂～極粗粒砂ラミナ状混)　粘性中　しまり中 (2流路埋土最上層)
3　10YR3/1 黒褐色 砂混じりシルト (極粗粒砂ラミナ状少混)　粘性やや強　しまりやや強 (2流路埋土)
4　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト混じり中粒砂～極細粒砂 (10YR3/1黒褐色 シルトラミナ状混　φ5～20cm礫混)　粘性弱　しまり弱

第 414 図　２流路土色注記、２流路木器等出土状況図、２流路出土木器



第 415 図　１溝、２流路断面図



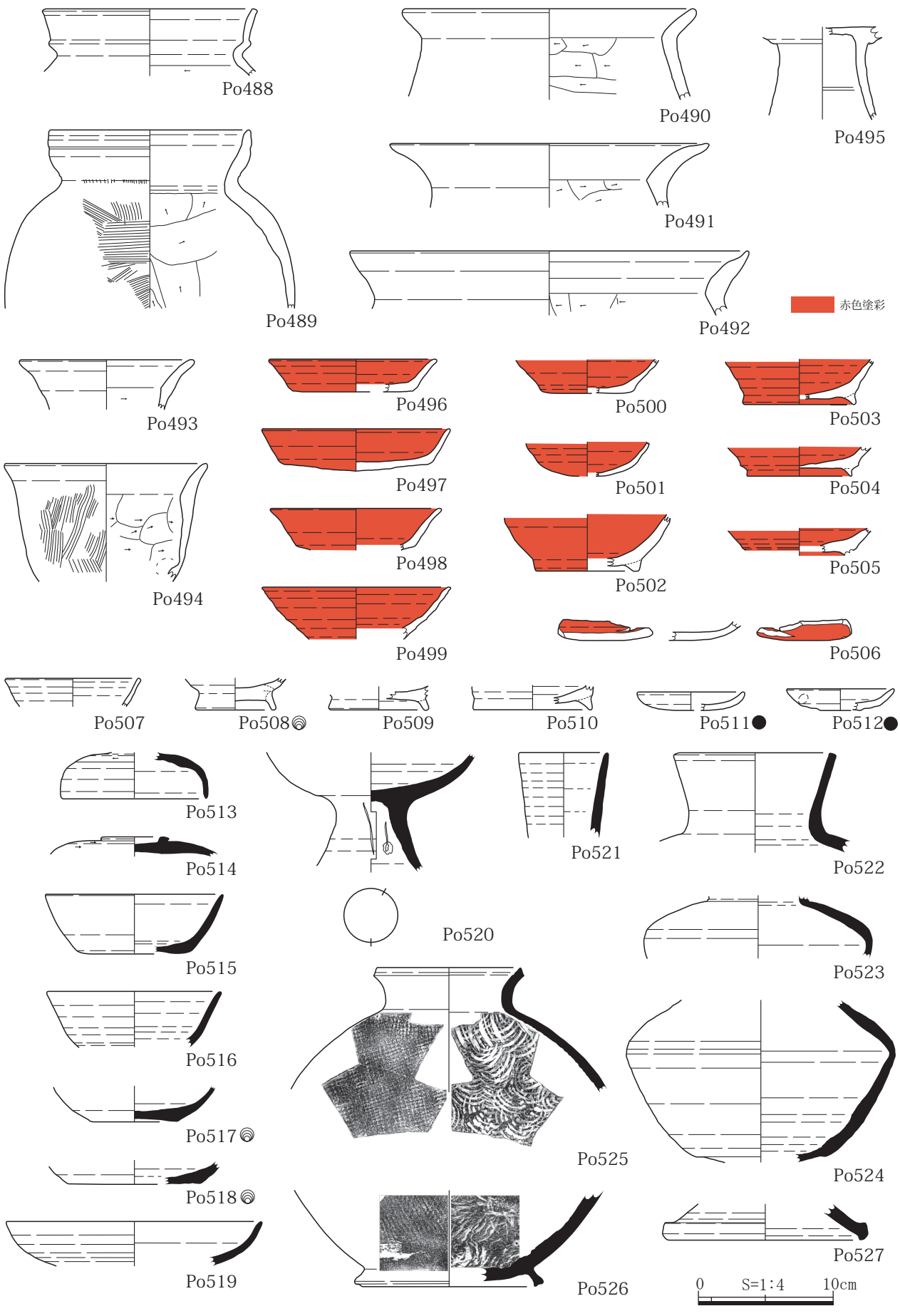
第 416 図　２流路出土石器

に直線的に立ち上がる。Po517 は底部で、少し上げ底状となっている。Po518 は底径が広く、須恵器皿の可能性がある。Po519 ・ 520 ・ 527 は須恵器高坏である。Po519 は坏部、Po527 は脚裾。Po520 は坏部から脚部で、脚部には透かし孔ではなく、直線の切込みがみられる。Po521 ～ 524 ・ 526 は須恵器壺である。Po521 は長頸壺、Po522 は直線的に外傾する口縁部をもち、Po523 ・ 524 は体部がソロバン玉状の器形をもつ。Po526 は球状の体部を有し、底部に高台が貼り付く。Po525 ・ 528 ～ 532 ・ 869 は須恵器甕である。Po529 を除き、外面は平行タタキ、内面は同心円状当て具痕が観察される。Po869 は写真のみ掲載する。Po529 は大型の須恵器甕の口縁部で、３段にわたり波状文が描かれている。Po870 は遺構検出中に出土した青磁碗で、上層の耕作中に落ち込んだとみられる。写真のみ掲載する。

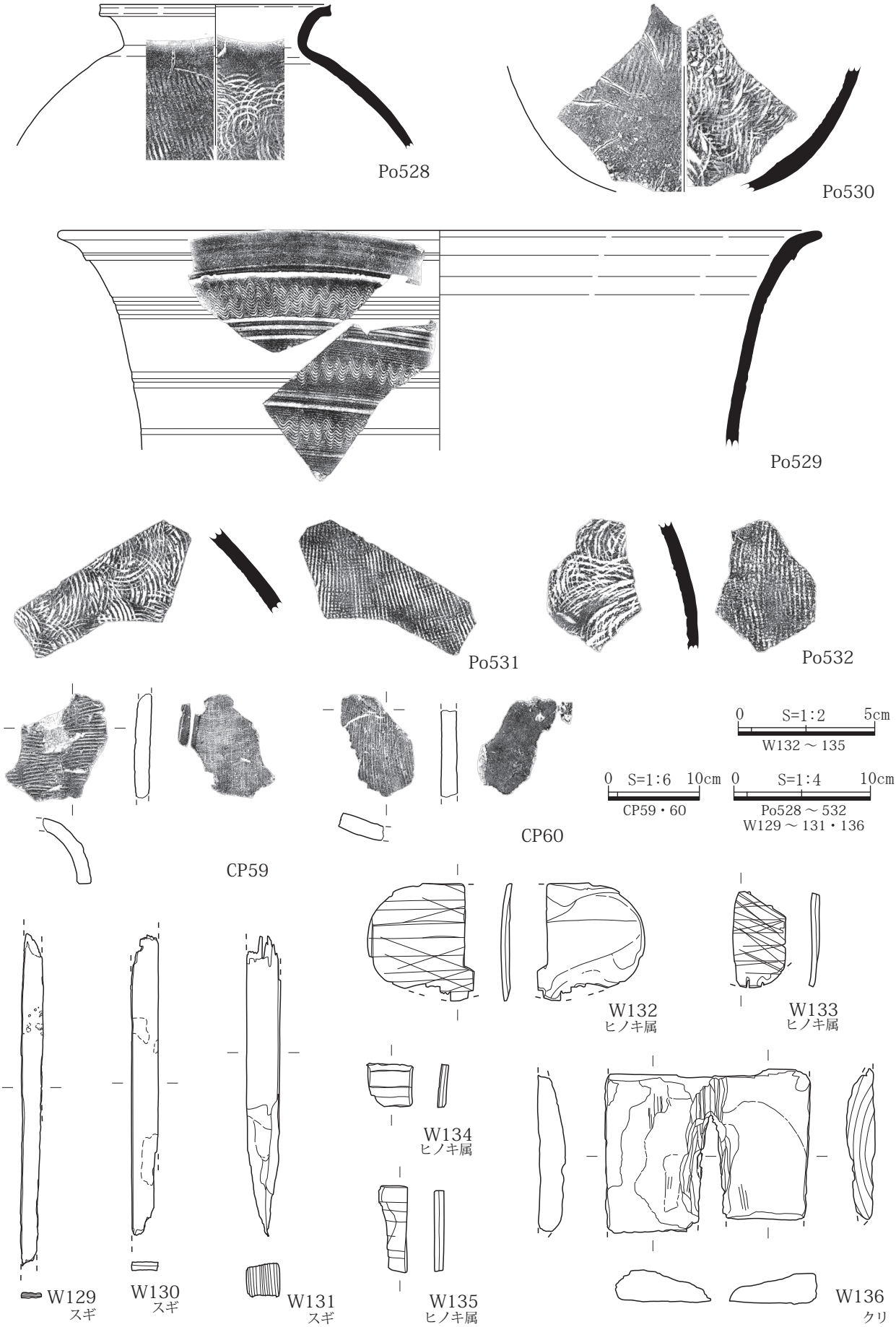
CP59 ・ 60 は丸瓦と平瓦である。CP59 は凸面に平行タタキ、凹面は布目がみられる。CP60 は凹面に糸切り後布目、凸面はナデが施されている。

W129 はスギ材の斎串と想定される板材で、最大長 24.4cm、最大幅 1.6cm、最大厚 0.4cm を測る。W130 はスギ材の板材であり、最大長 22.1cm、最大幅 2.0cm、最大厚 0.6cm を測る。W131 は残存長 22.0cm、最大幅 2.5cm、最大厚 2.4cm のスギ材の角杭である。W132 ～ 135 は残存長 1.6 ～ 4.3cm、最大幅 1.1 ～ 3.9cm、最大厚 0.3 ～ 0.4cm のヒノキ属の曲物側板と想定される。いずれも表面に一定間隔の刻みが認められる。W136 はクリ材の不明加工品である。中心部分に「Ｖ」字状の抉りがみられる。

S23 は無斑晶安山岩の凹基無茎式、S24 は黒曜石の平基無茎式の石鏃である。前者は表裏面に素材面を残している。



第 417 図　２流路出土遺物（１）



第 418 図　２流路出土遺物（２）

第４項　第２遺構面の調査（古墳時代以前の遺構と遺物）

１　概要（第 419 図）

Ⅳ層（漸移層）もしくはⅤ層（ソフトローム層）、Ⅵ層（ホーキ層）上面で検出した遺構について第２遺構面として扱うこととした。検出遺構は竪穴建物２棟、掘立柱建物２棟、溝３条、落とし穴２基、柱穴 93 基、ピット 279 基であり、その多くが古墳時代以前に帰属するものと想定される。本項では、遺構については建物を構成しない柱穴でも遺物を掲載したものは取り上げた。

２　検出した遺構と遺物

（１）　竪穴建物

竪穴建物３（第 419 ～ 427 図、第 26・27・83・84・92・98 表、図版 199 ～ 207・313・314）

北区北東 7a-9C-5b・ 6b グリッドにおいて、Ⅳ層上面で検出した竪穴建物である。南北方向に幅 30cmの暗渠が２条走行し、削平を受けている。また埋土上層も幅 30 ～ 50cmほどの筋状の撹乱が部分的に及んでいた。拡張を伴う建て替えが１回行われており、建て替え前の古段階を竪穴建物３a、建て替え後の新段階を竪穴建物３bとする。

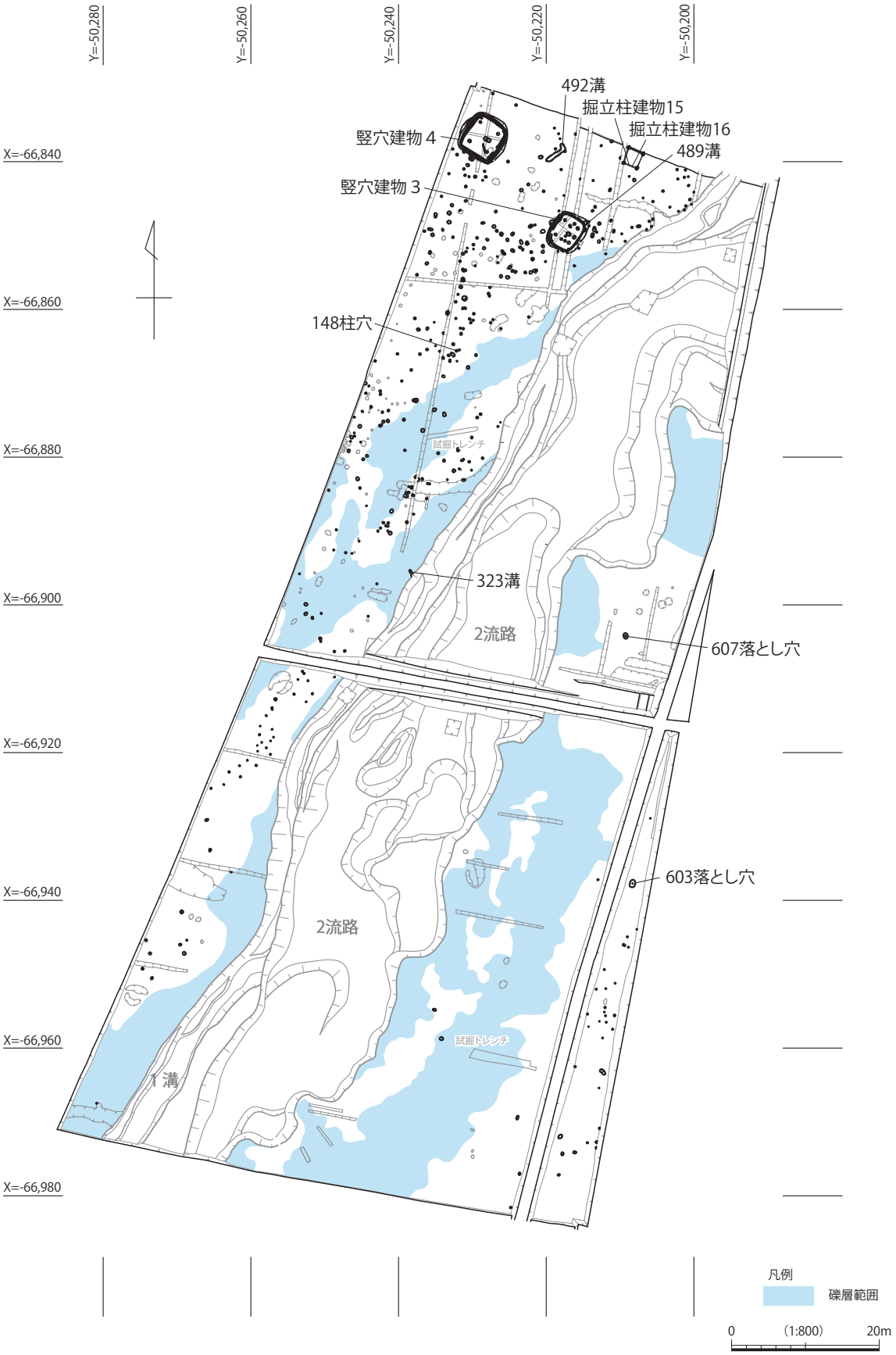
竪穴建物３aは、竪穴建物３b 貼床（６層）除去後に検出した。長軸 5.2m、短軸 4.2mを測る。隅丸方形のプランであり、N-35° -Eを主軸とする。検出面からの深さは最大で 0.52m、想定される床面積は 15.3㎡である。81 壁溝は南辺を除き、南西隅と西辺で確認された。北辺と東辺は新段階と共通している。81 壁溝の幅は最大で 27.6cm、床面からの深さは最大で４cmを測る。

床面やや南東寄りに 101 中央ピットを検出している。平面形は不整楕円形を呈し、断面形は東西に浅いテラスを形成し段掘りとなっている。長軸 0.66m、短軸 0.47m、床面からの深さは最大 0.33mを測る。埋土はⅤ層に由来するブロックを含む黒色シルトの１層と、同じくⅤ層のブロックを含む黒褐色砂混じりシルトの２層が堆積する。

新段階の貼床除去後、108 柱穴が検出された。これと対向する 89 柱穴が竪穴建物３a 段階の上屋を支える柱穴と判断した。89 柱穴の平面形は円形を呈し、長軸 0.35m、短軸 0.33m、床面からの深さは最大で 0.38mを測る。Ⅴ層に由来するブロックを含む黒色・暗灰黄色シルトが上下に堆積していた。埋土中には径３～５cmの礫が含まれ、人為的な埋め戻しの可能性が高い。108 柱穴の平面形は不整楕円形を呈し、長軸 0.46m、短軸 0.34m、床面からの深さは最大で 0.52mを測る。１層は貼床で、Ⅴ層に由来するブロックを含む柱痕の２層と、Ⅵ層由来のブロックを含む掘方埋め土である３層が堆積している。柱は途中から折り取られ、上面に粘土を貼ったものと想定される。

竪穴建物３bは、長軸 5.2m、短軸 4.6mを測る。隅丸方形のプランであり、N-35° -Eを主軸とする。検出面からの深さは最大で 0.52m、想定される床面積は 17.0㎡である。壁面下には 82 壁溝が全周している。82 壁溝の幅は最大で 16.0cm、床面からの深さは最大で約５cmを測る。南辺から西辺では古段階の壁溝外縁から新段階の壁下まで５～ 20cm 拡張しており、全周でなく部分的な建て替えと判断した。

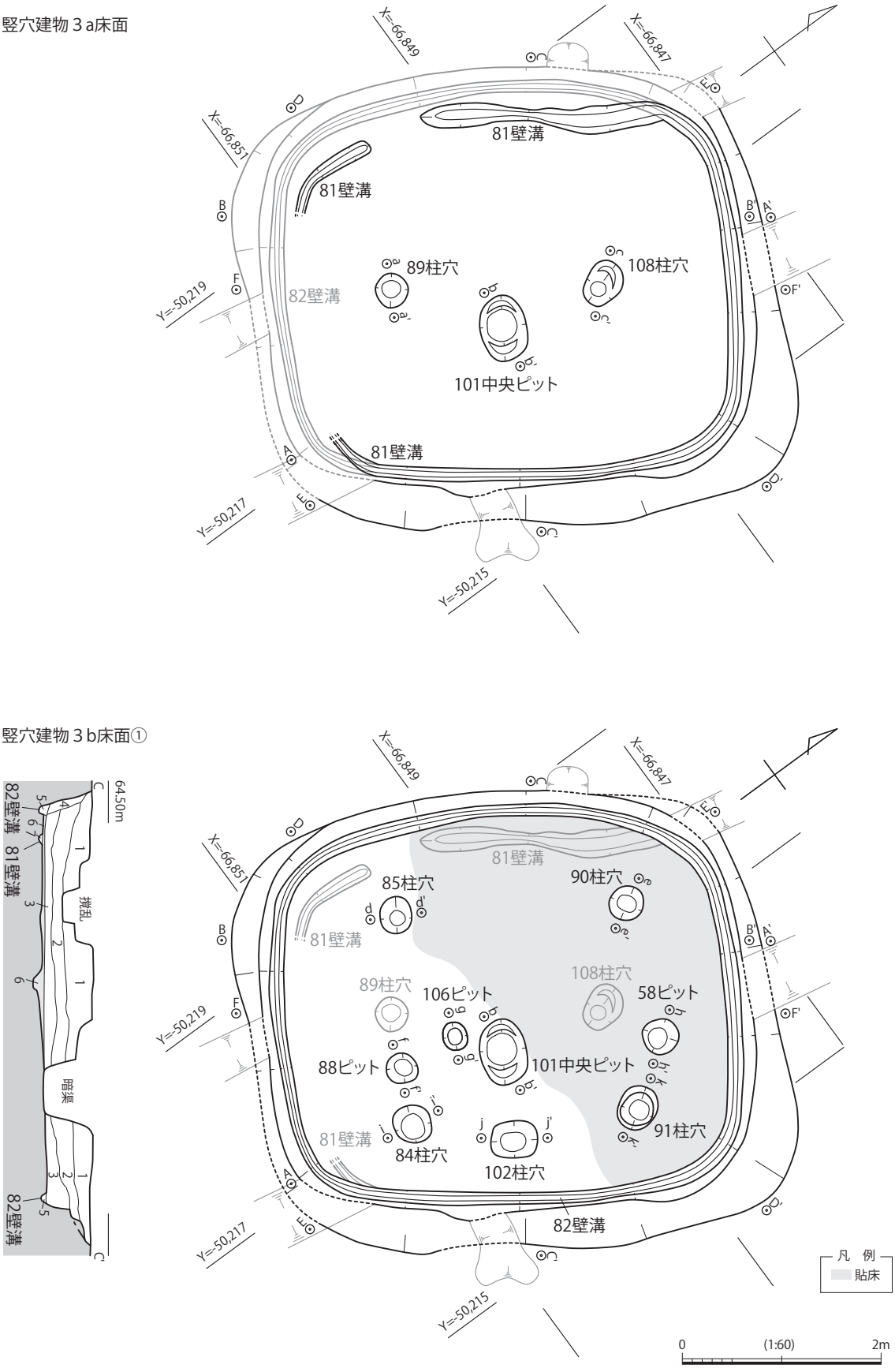
竪穴建物の埋土は大きく３層に分層でき、Ⅵ層とⅢ層由来のブロックと炭化物を多く含む黒褐色・暗灰黄色シルトが堆積する（A ～ C 断面１～３層）。そのほか４層の黄灰色シルトは壁面崩落土と考えられる。床面北半には貼床（A ～ C 断面６層）が施されており、床面上面は硬化している。



第 419 図　第２遺構面（古墳時代以前）全体図

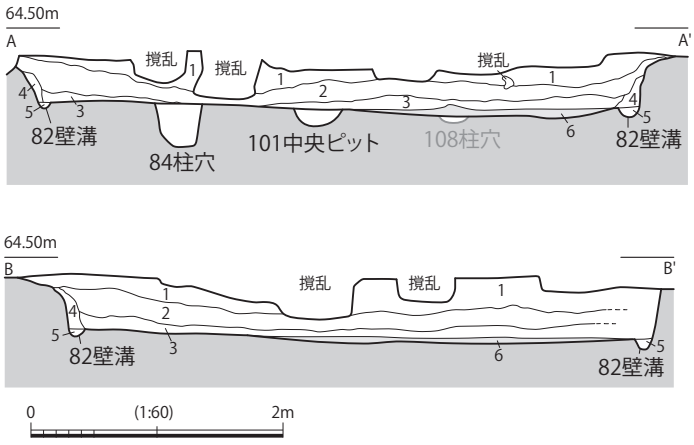
竪穴建物３a床面

竪穴建物３b床面①



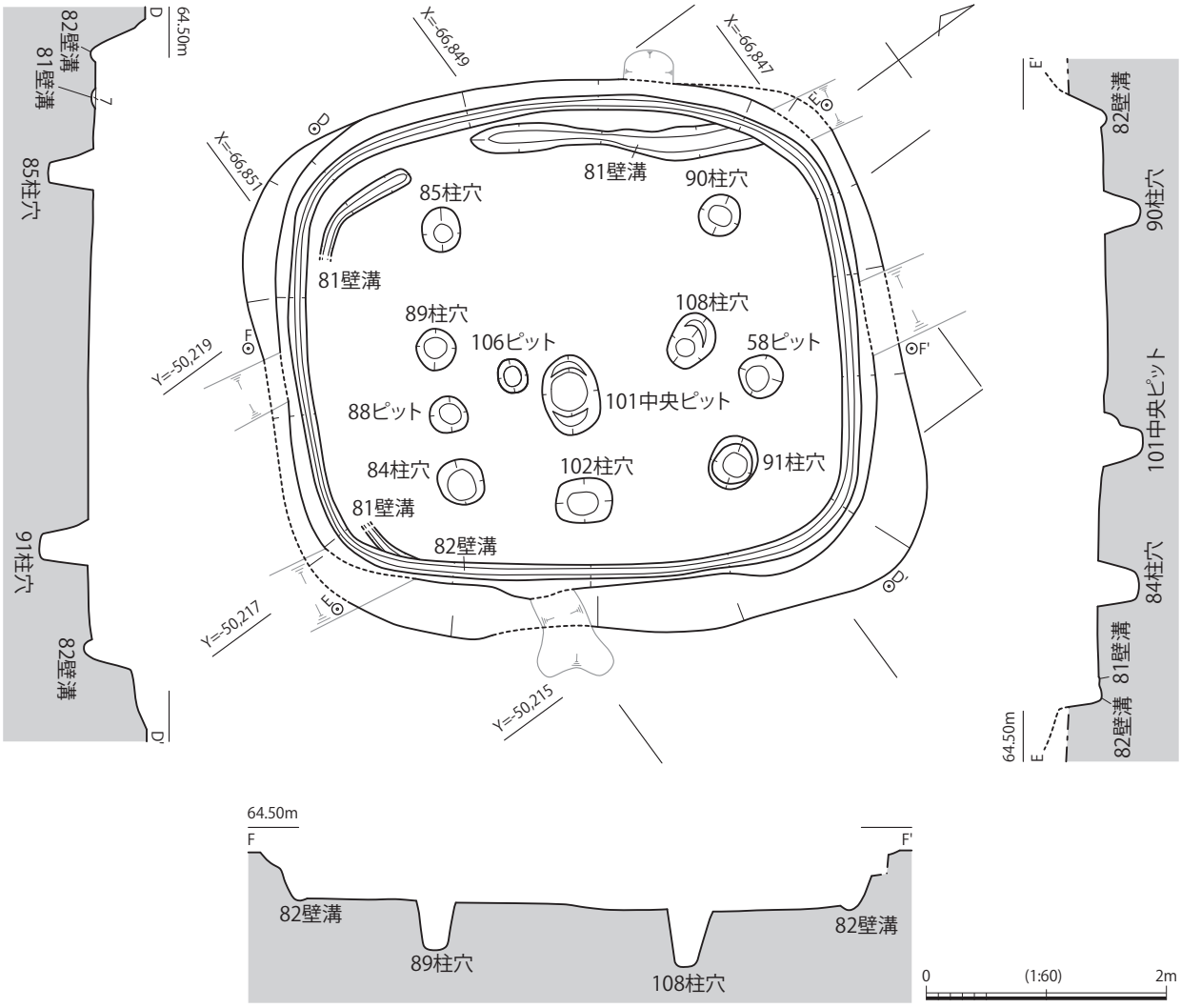
第 420 図　竪穴建物３（１）

竪穴建物３b床面②



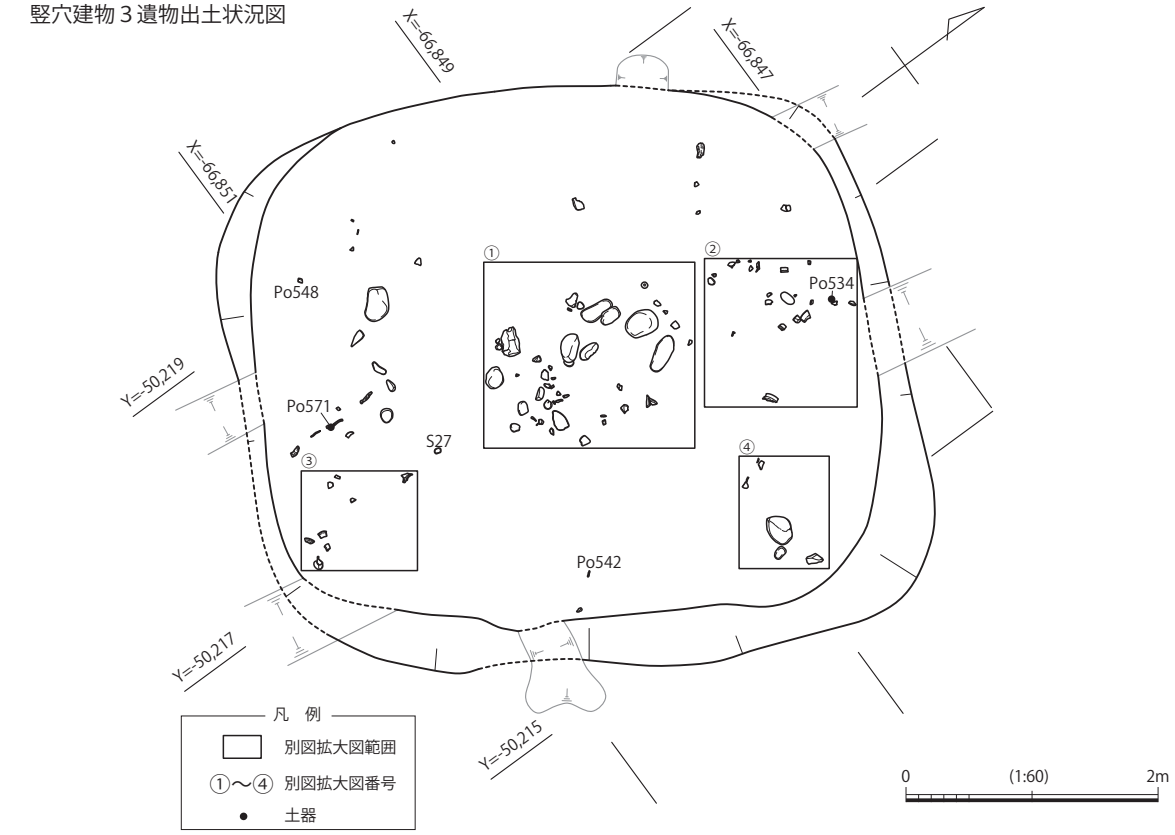
竪穴建物３
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/4 浅黄橙色 シルトφ0.5～1cmブロック混　炭化物φ1cm混)　粘性強　しまり強
2　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/4 浅黄橙色 シルトφ0.5～2cmブロック多混　炭化物φ1cm多混)　粘性中　しまり中
3　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ3～5cmブロック多混　10YR8/4 浅黄橙色 シルトφ1～2cmブロック多混)　粘性中　しまり中
4　2.5Y4/1 黄灰色 シルト (10YR3/1 黒褐色 シルトφ2～3cmブロック混　10YR8/4 浅黄橙色 シルトφ2cmブロック多混)　粘性中　しまり中
5　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cmブロック混)　粘性中　しまり中 (竪穴３b 82壁溝)
6　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ2～10cmブロック多混　10YR2/1 黒色 シルトφ2～3cm混)　粘性やや強　しまりやや強 (貼床)
7　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ1～3cmブロック混　細粒砂混　炭化物φ1cm混)　粘性中　しまり中 (竪穴３a　81壁溝)

竪穴建物３a・３b掘方

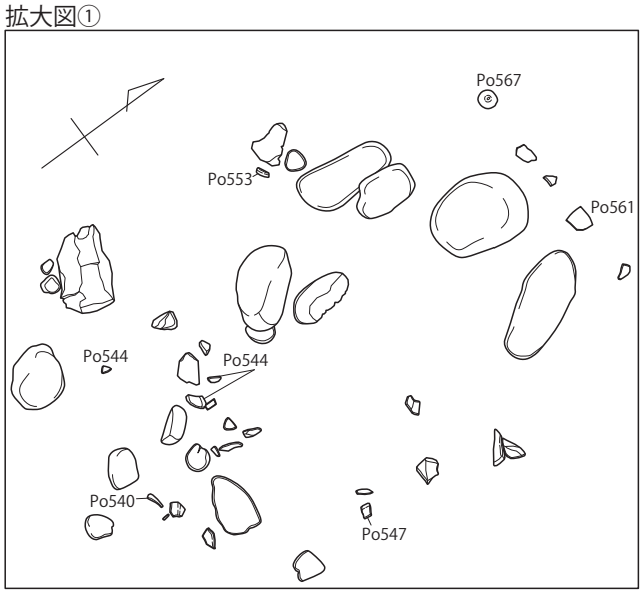


第 421 図　竪穴建物３（２）

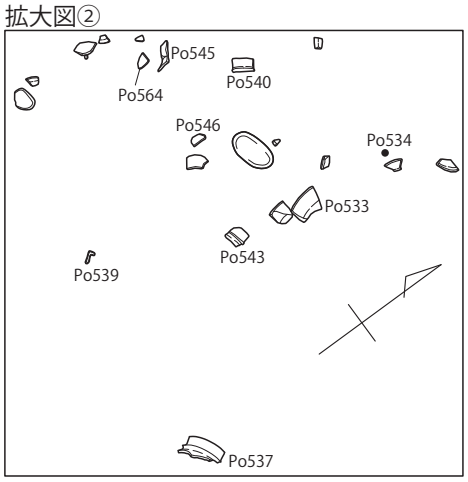
竪穴建物３遺物出土状況図



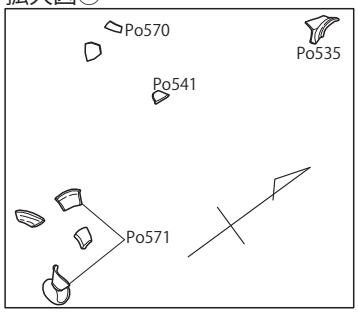
拡大図①



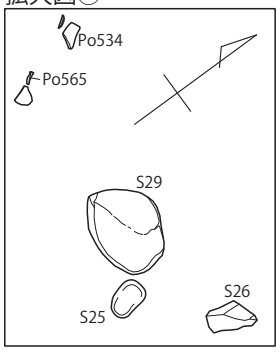
拡大図②

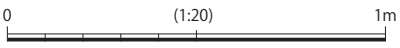


拡大図③

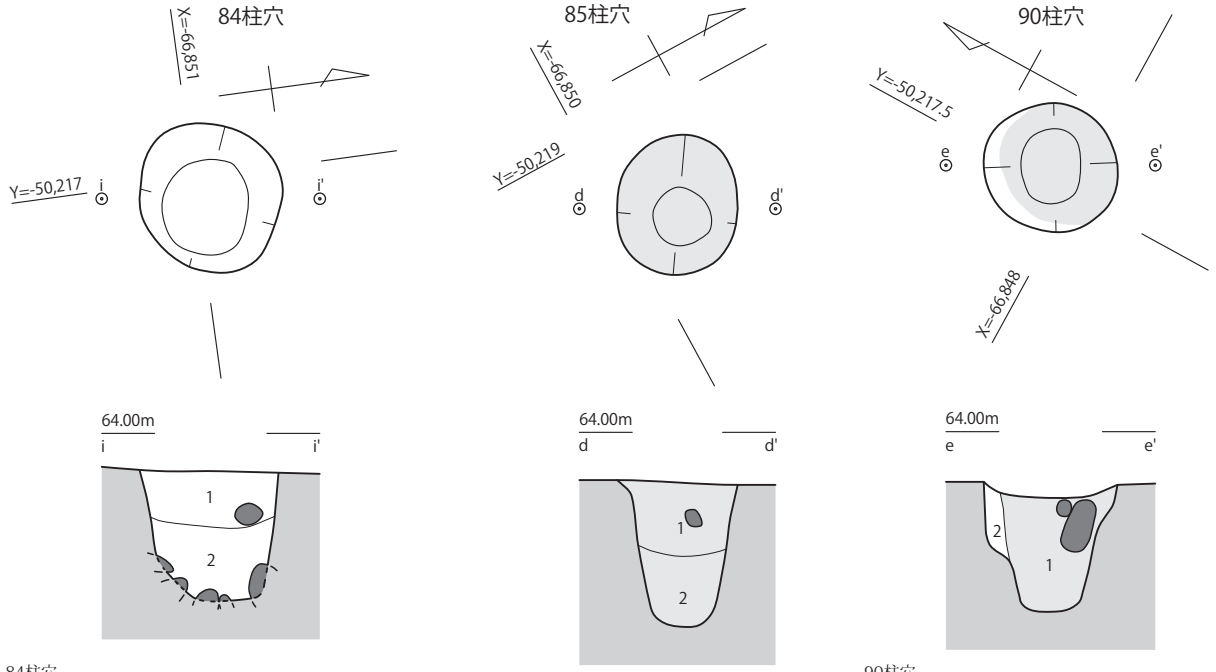


拡大図④





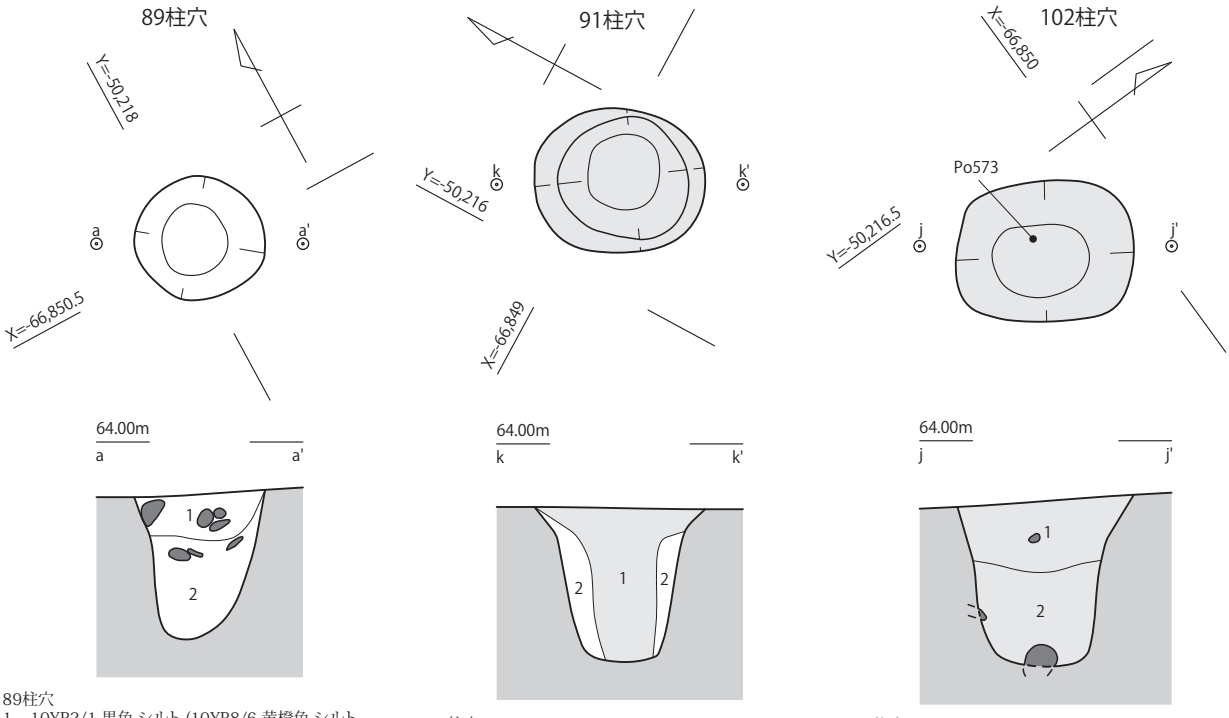
第 422 図　竪穴建物３（３）



84柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cm ブロック混　2.5Y4/1 黄灰色 シルトφ1cmブロック混 φ3～5cm礫混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1 ～2cmブロック混)　粘性中　しまり中

85柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ 0.5～1cmブロック混　φ3～5cm礫混) 粘性中 しまり中
2　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cmブロック混　φ3cm礫混)　粘性やや弱 しまりやや弱

90柱穴
1　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cmブロック混　φ3～10cm礫混) 粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ10cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強



89柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ1cmブロック混　φ3～5cm礫多混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5～1cmブロック混　φ3～5cm礫混) 粘性やや中　しまりやや中

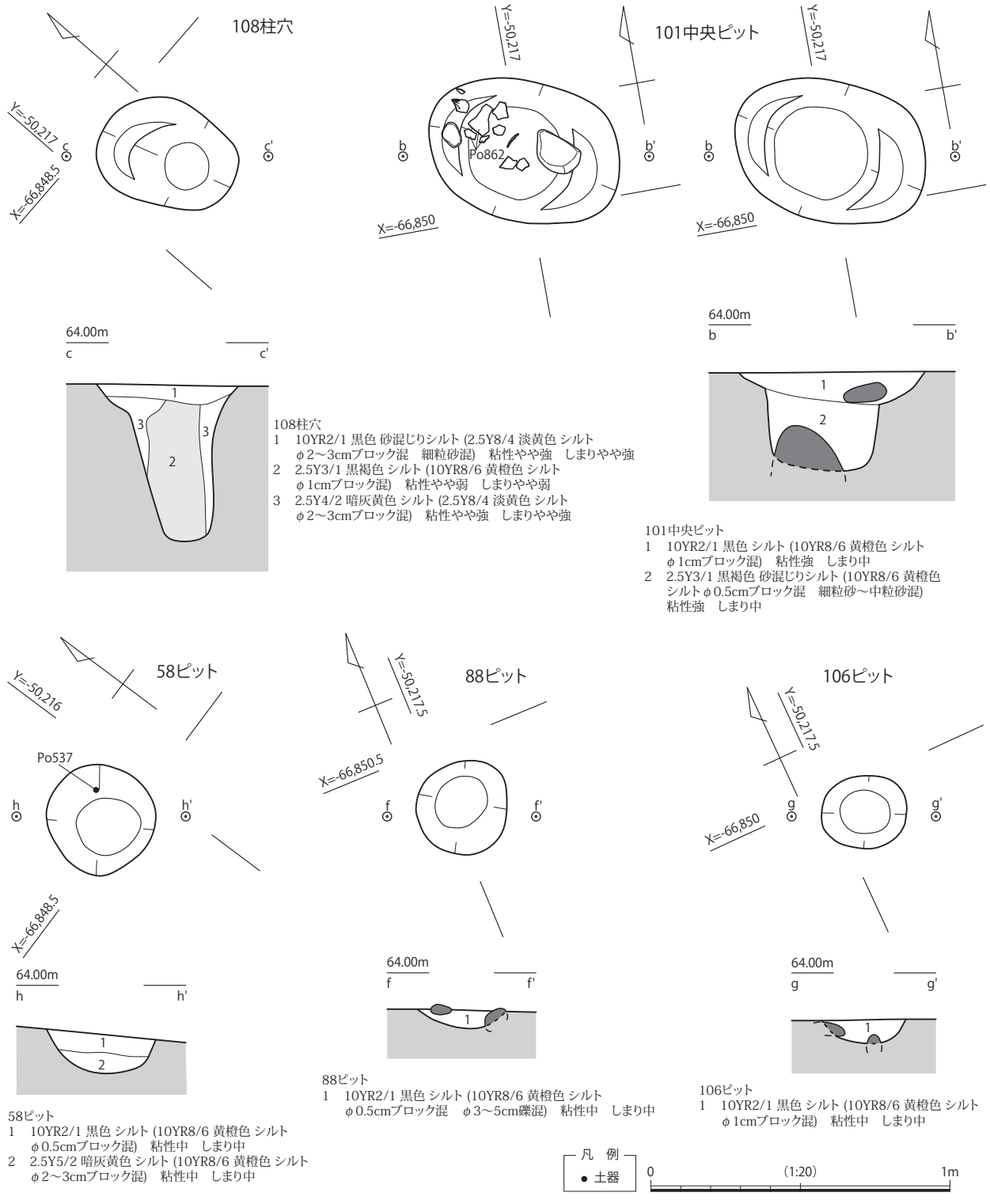
91柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5～1cmブロック多混)　粘性やや強 しまりやや強

102柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cmブロック混　φ3cm礫混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルトφ0.5cmブロック混　φ3cm礫混)　粘性強　しまり中

凡　例
● 土器

0　(1:20)　1m

第 423 図　竪穴建物３　84・85・89・90・91・102 柱穴



108柱穴
1　10YR2/1 黒色 砂混じりシルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ2～3cmブロック混　細粒砂混)　粘性やや強　しまりやや強
2　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルト φ1cmブロック混)　粘性やや弱　しまりやや弱
3　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ2～3cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

101中央ピット
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルト φ1cmブロック混)　粘性強　しまり中
2　2.5Y3/1 黒褐色 砂混じりシルト (10YR8/6 黄橙色 シルト φ0.5cmブロック混　細粒砂～中粒砂混)　粘性強　しまり中

58ピット
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルト φ0.5cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルト φ2～3cmブロック混)　粘性中　しまり中

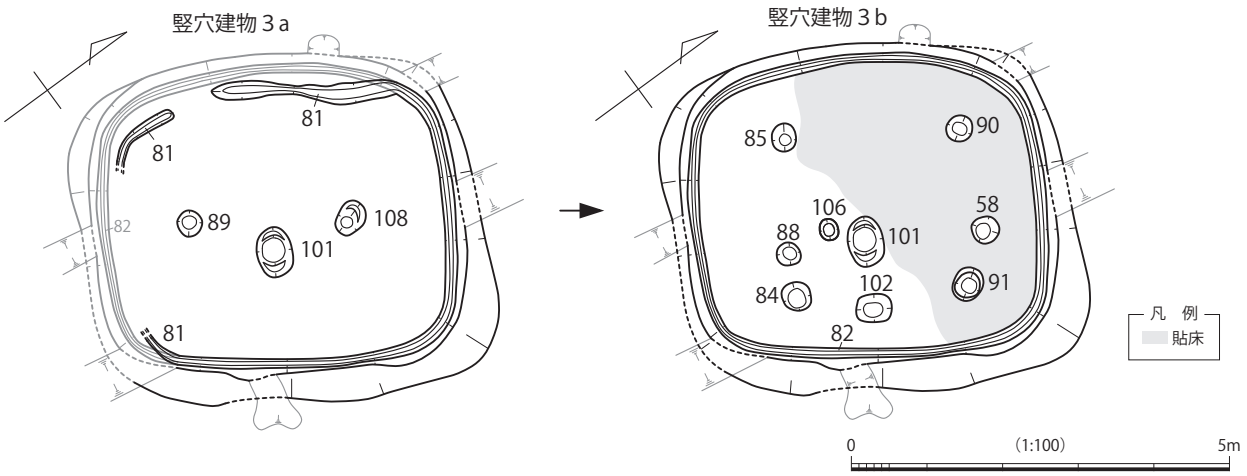
88ピット
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルト φ0.5cmブロック混　φ3～5cm礫混)　粘性中　しまり中

106ピット
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルト φ1cmブロック混)　粘性中　しまり中

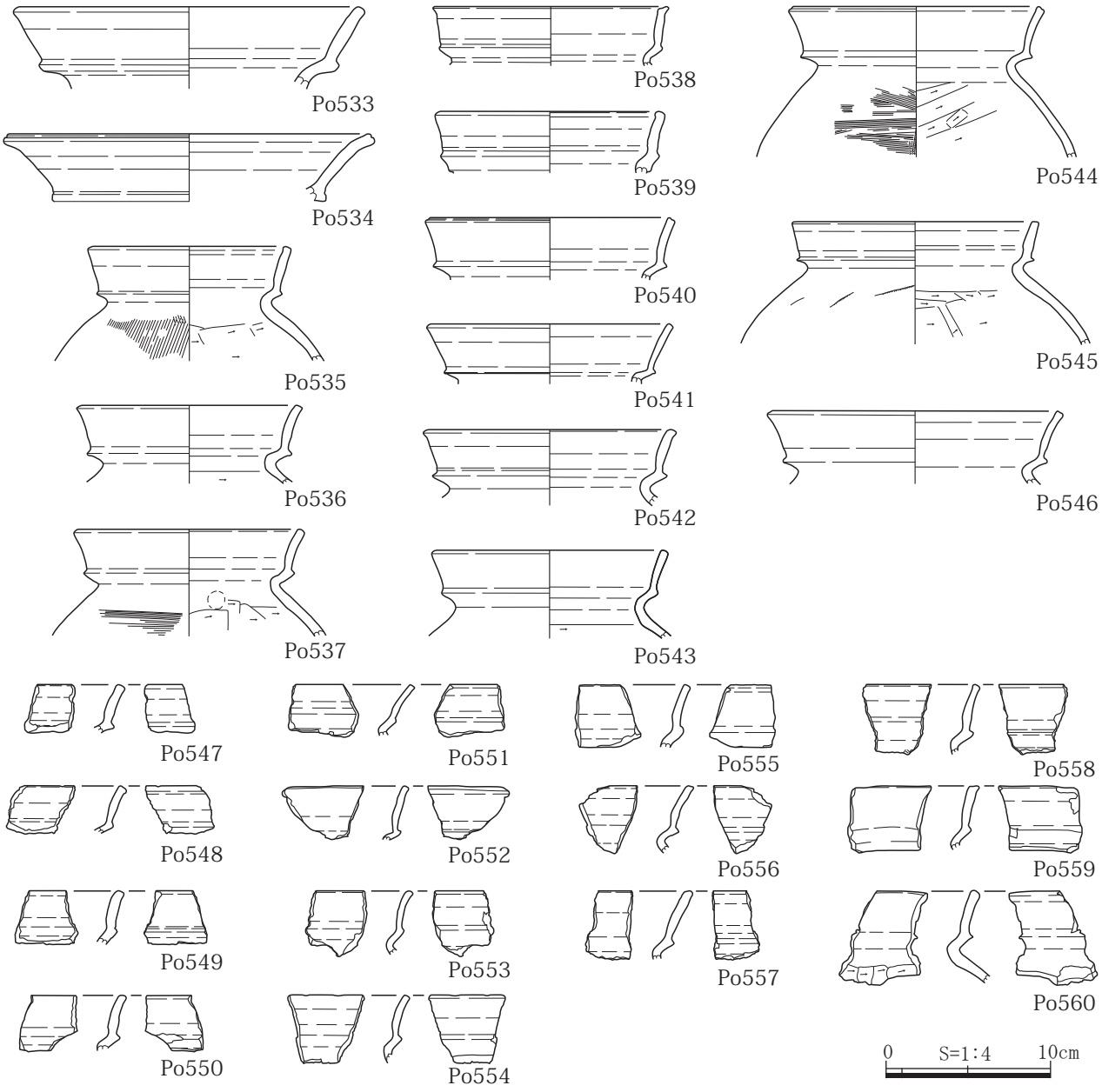
第 424 図　竪穴建物３　108 柱穴、58・88・106 ピット、101 中央ピット

床面やや南東寄りに 101 中央ピットを検出している。内容は先述したとおりだが、１層中から土師器甕の体部破片が大型礫とともに散在した状態で出土している。掘り返しの痕跡は確認できず、古段階の原形を留めているか不明である。

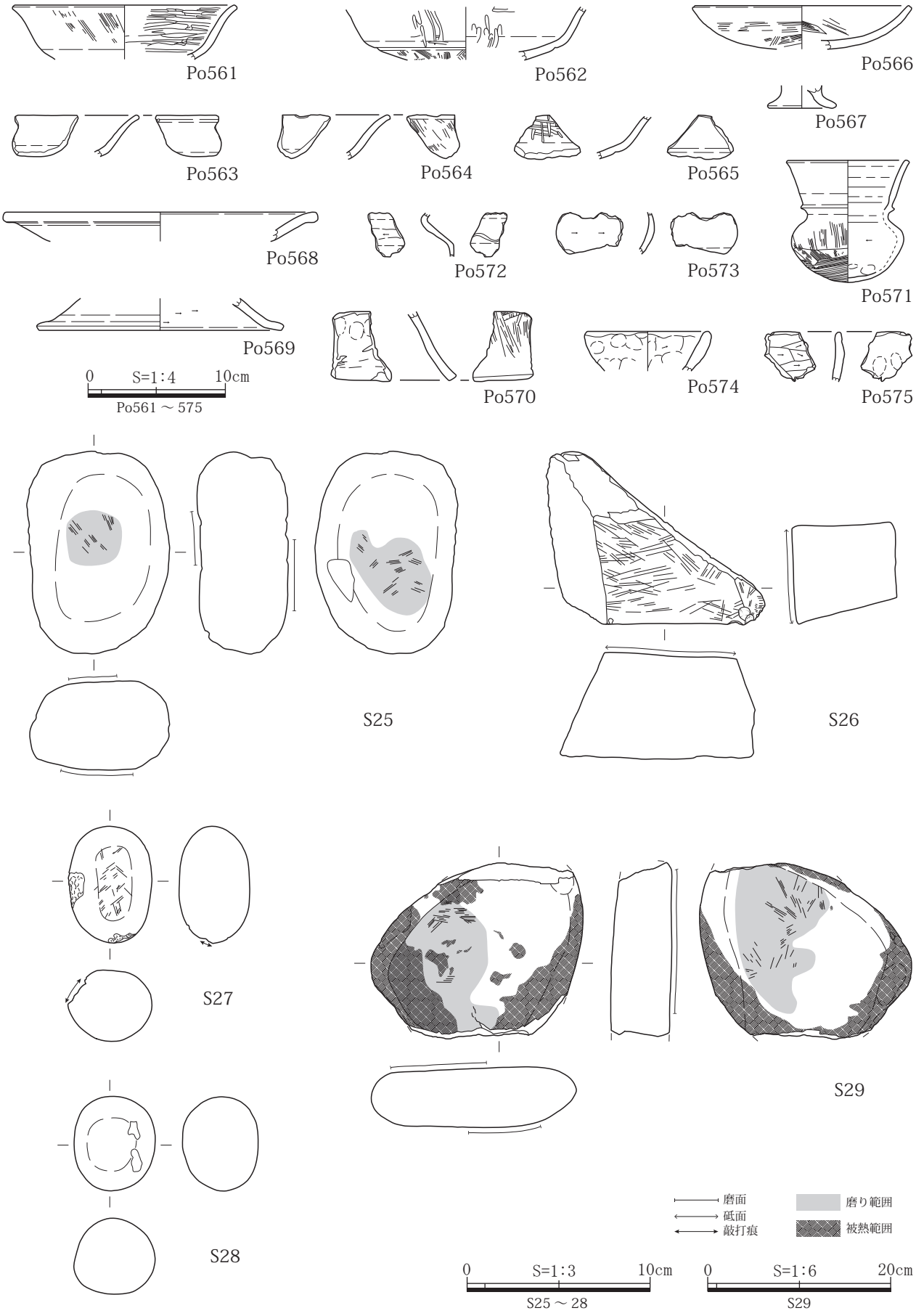
床面上には 84・85・90・91 柱穴の４基を検出している。84 柱穴は南東隅に位置し、平面形は不整円形を呈している。長軸 0.41m、短軸 0.37m、床面から深さは最大で 0.34m を測る。埋土は、Ⅴ層に由来するブロックを含む黒色シルトの１層と、同じくⅤ層に由来するブロックを含む暗灰黄色シ



第 425 図　竪穴建物３遺構変遷図



第 426 図　竪穴建物３出土土器（１）



第 427 図　竪穴建物３　出土土器（２）・石器

ルトの２層が堆積する。85 柱穴は南西隅に位置し、平面形は不整楕円形を呈している。長軸 0.37m、短軸 0.32m、床面からの深さは最大 0.38m を測る。埋土はⅤ層に由来するブロックや径３～５cm の礫を含む黒色シルト１層と、同じくⅤ層に由来するブロックや径３cm 程度の礫を含む暗灰黄色シルトの２層が堆積する。柱は抜き取られていることが確認されている。埋土中から図化していないが土器小片が出土している。90 柱穴は北西隅に位置し、平面形は円形を呈している。長軸 0.36m、短軸 0.34m、床面からの深さは最大 0.30m を測る。埋土はⅤ層に由来するブロックを含む黒褐色シルトの１層と、同じくⅤ層に由来するブロックを含む暗灰黄色シルトの２層が堆積する。１層中には径３～ 10cm の礫が複数含まれていた。柱は抜き取られていることが確認されている。91 柱穴は北東隅に位置し、平面形は不整楕円形を呈している。長軸 0.45m、短軸 0.38m、床面からの深さは最大 0.41m を測る。埋土はⅤ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡の１層と、同じくⅤ層に由来するブロックを多く含む掘方埋め土の２層が堆積する。

このほかに 102 柱穴、58・88・106 ピットを床面で検出している。102 柱穴は東壁寄り中央に位置する。平面形は隅丸方形を呈し、長軸 0.47m、短軸 0.37m、床面からの深さは最大 0.44m を測る。埋土はⅤ層由来のブロックや径３cm 程の礫を含む黒色・暗灰黄色シルトの１・２層が堆積する。図化していないが、埋土から土器小片が出土している。建物の上屋構造を支える補助的な柱穴になろうか。58 ピットは、北東壁寄り中央に位置する。平面形は円形を呈し、長軸 0.37m、短軸 0.36m、床面からの深さは最大 0.13m を測る。埋土はⅤ層に由来するブロックを含む黒色シルトの１層と、暗灰黄色シルトの２層が堆積する。埋土から土師器 Po537 が出土している。88 ピットは、84 柱穴の西隣に位置する。平面形は不整円形を呈し、長軸 0.33m、短軸 0.31m、床面からの深さは最大で 0.06m を測る。埋土はⅤ層に由来するブロックを含む黒色シルトが堆積する。106 ピットは 101 中央ピットの南西に隣接する。平面形は円形を呈し、長軸 0.28m、短軸 0.25m、床面からの深さは最大 0.08m を測る。埋土はⅤ層に由来するブロックを含む黒色シルトが堆積する。埋土から図化していないが土師器小片が出土している。

遺物は１・３層中から礫や土器小片、砥石などが出土している。中心部には径５～ 10cm の礫が集中的に散在し、北東側と南側に土器小片が数多く見られ、南東側及び西側では希薄であった。

Po535 ～ 560 は土師器甕をまとめている。いずれも口縁端部が明瞭な面をなし、端面が少し窪む Po538・540・544・546、わずかに外側につまみ出す Po538・542・548・559 がみられる。口縁部はヨコナデ。Po535・537・544 は肩部から体部にかけてハケ調整を施す。Po545 はハケ状工具の小口による斜め方向による刺突がなされている。Po533・534 は土師器壺の口縁部である。Po561 ～ 565 は土師器高坏であり、内外面ともヘラミガキを施している。Po566 ・ 567 は土師器低脚坏である。Po566 は内外面ハケ調整が施される。Po568 ・ 569 は土師器の鼓形器台である。Po568 は受け部、Po569 は脚部で、前者の端部は丸くおさめ、Po569 の端面は明瞭な面をなす。Po574 は手づくね成形のミニチュア土器。Po575 はミニチュア土器の可能性があり、外面は指頭圧痕、内面は横方向のヘラケズリが施されている。Po571 ～ 573 は小型丸底壺であり、Po571 は口縁部がヨコナデ、体部はハケ調整を施している。101 中央ピットから土師器甕の体部 Po862 が出土しているが、口縁部が欠損しているため写真のみ掲載する。

S25 は磨石、S27 ・ 28 は敲石で、いずれもデイサイト製である。S26 は流紋岩製の砥石で砥面は１面。S29 はデイサイト製の台石で、周縁に被熱がみられる。

竪穴建物４（第 419・428 ～ 439 図、第 26・28・84 ～ 86・92・98・99 表、図版 207 ～ 214・315 ～ 318）

北区北東 7a-9C-4c・ 4d・ 5c グリッドにおいて、Ⅳ層上面で検出した竪穴建物である。南北方向に幅 30cm の暗渠が１条走行し、削平を受けている。また、南東隅にも長軸 1.5m、短軸 0.8m の範囲で撹乱が床面と 162 柱穴まで及んでいた。建て替え（拡張）が３回行われており、建て替え前から建て替え後の順に竪穴建物 4a・ 4b・ 4c・ 4d とする。なお、164 中央ピット、160 ～ 163 柱穴は建て替えに伴う補修・付け替えなどは確認されていない。

竪穴建物 4a は、竪穴建物 4d 貼床（５層）除去後に 258 壁溝で確認した。258 壁溝は北東隅から南東隅のわずかな範囲しか残っていない。竪穴建物 4d の壁面とほぼ平行することから、隅丸方形のプランであり、N-33° -E を主軸とする。検出面からの深さは最大で 0.56m、想定される床面積は 20.2㎡である。258 壁溝の幅は最大で 8.7cm、床面からの深さは最大で１cm を測る。

竪穴建物 4b は、竪穴建物 4d 貼床（５層）除去後に 252 壁溝で確認した。南辺を除き、ほぼ残存している。竪穴建物 4d の壁面とほぼ平行することから、隅丸方形のプランであり、N-35° -E を主軸とする。検出面からの深さは最大で 0.56m、想定される床面積は 22.6㎡である。252 壁溝の幅は最大で 14.8cm、床面からの深さは最大で１cm を測る。

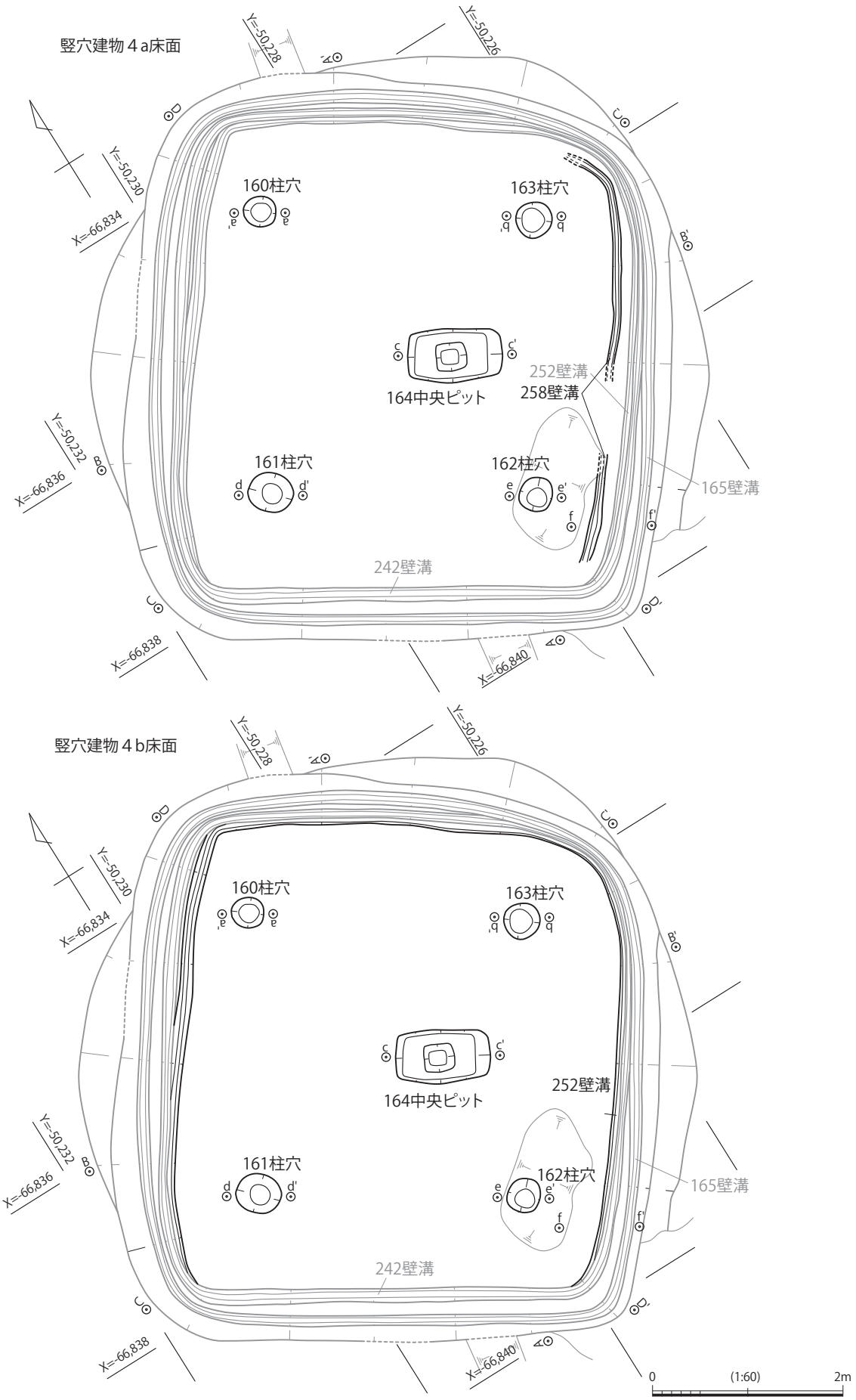
竪穴建物 4c は、竪穴建物 4d 貼床（５層）除去後に 242 壁溝で確認した。ほぼ全周して残っている。竪穴建物 4d の壁面とほぼ平行することから、隅丸方形のプランであり、N-33° -E を主軸とする。検出面からの深さは最大で 0.56m、想定される床面積は 24.2㎡である。242 壁溝の幅は最大で 16.7cm、床面からの深さは最大で 3.6cm を測る。

竪穴建物 4d は、長軸 6.5m、短軸 6.2m を測る。隅丸方形のプランであり、N-33° -E を主軸とする。検出面からの深さは最大で 0.56m、想定される床面積は 27.5㎡である。壁面下の 165 壁溝は全周している。165 壁溝の幅は最大で 14.1cm、床面からの深さは最大で約 2.7cm を測る。

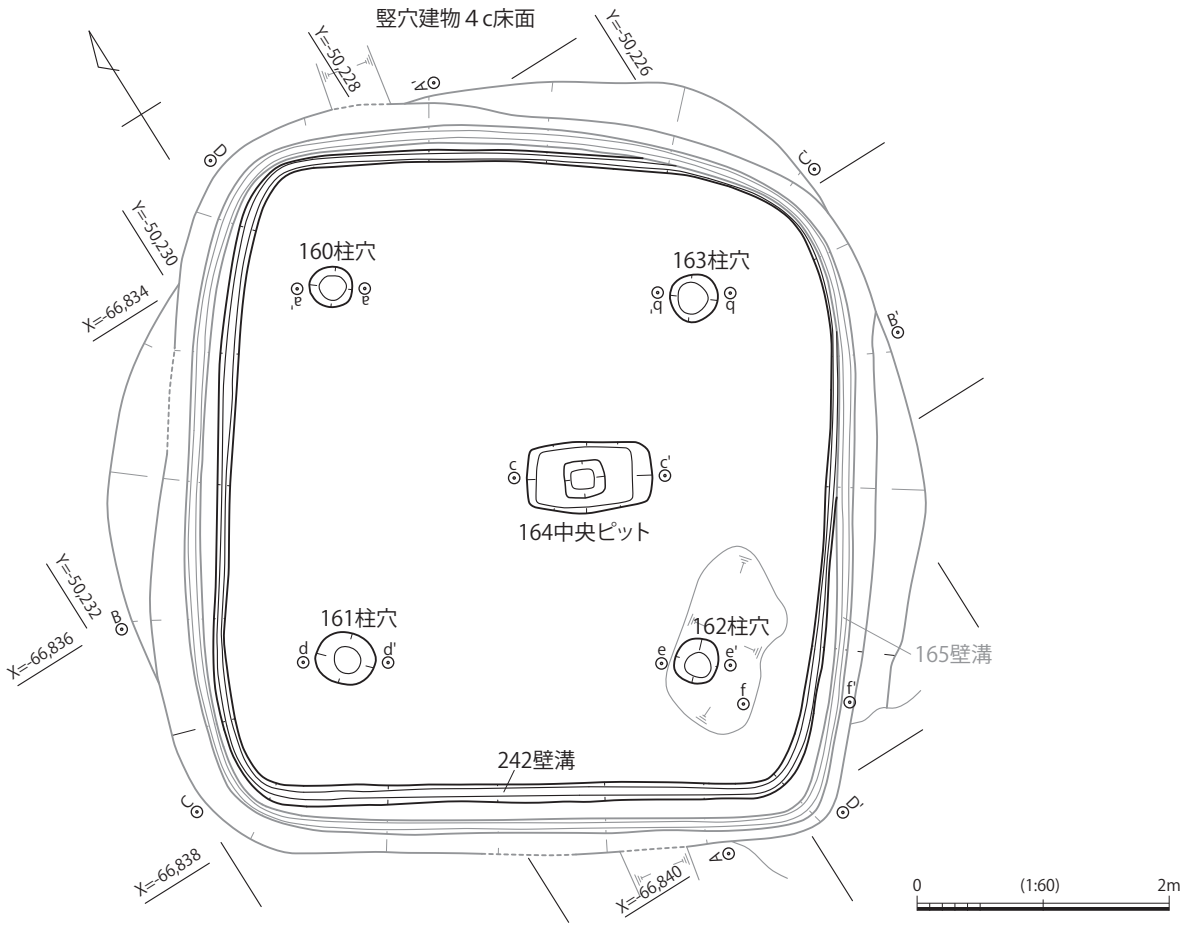
竪穴建物の埋土は大きく３層に分層でき、Ⅵ層由来のブロックを多く含む黒褐色・黒色シルトが堆積する（Ａ～Ｂ断面１～３層）。そのほか４層の暗灰黄色シルトは壁面崩落土と考えられる。床面中心部と南部の一部を除き貼床（Ａ～Ｂ断面５層）が施されており、床面上面は硬化している。

床面中央で 164 中央ピットを検出している。平面形は長方形を呈し、中心部に方形の掘り込みがあり、浅いテラスをもつ段掘りとなっている。上段は長軸 1.00m、短軸 0.57m、テラス面までの深さは最大 0.09m を測る。中心部の孔は長軸 0.33m、短軸 0.30m、テラス面からの深さは最大で 0.50m、床面からの深さは最大で 0.59m を測る。埋土はⅥ層に由来するブロックと炭化物を含む黒色シルトの１層と、同じくⅥ層に由来するブロックや白色粘土を含む２・３層が堆積する。４層は上段テラス壁面の崩落土である。掘り返しの痕跡は確認できず、竪穴建物 4a から使用されていたものと想定される。

柱穴は 160 ～ 163 柱穴が該当する。北隅に位置する 160 柱穴は、平面形は円形を呈している。長軸 0.34m、短軸 0.32m、床面からの深さは最大で 0.48m を測る。埋土はⅥ層に由来するブロックを多く含む柱抜き取り痕跡の１層と、同じくⅥ層に由来するブロックを多く含みしまりがやや強い掘方埋め土の２・３層が堆積する。遺物は、１層から弥生土器甕 Po579 と土師器甕 Po600 が出土している。西隅に位置する 161 柱穴は、平面形は不整円形を呈している。長軸 0.47m、短軸 0.41m、床面からの深さは最大で 0.43m を測る。埋土はⅥ層に由来するブロックと炭化物や径約３cm の礫を含む



第 428 図　竪穴建物４（１）



第 429 図　竪穴建物４（２）

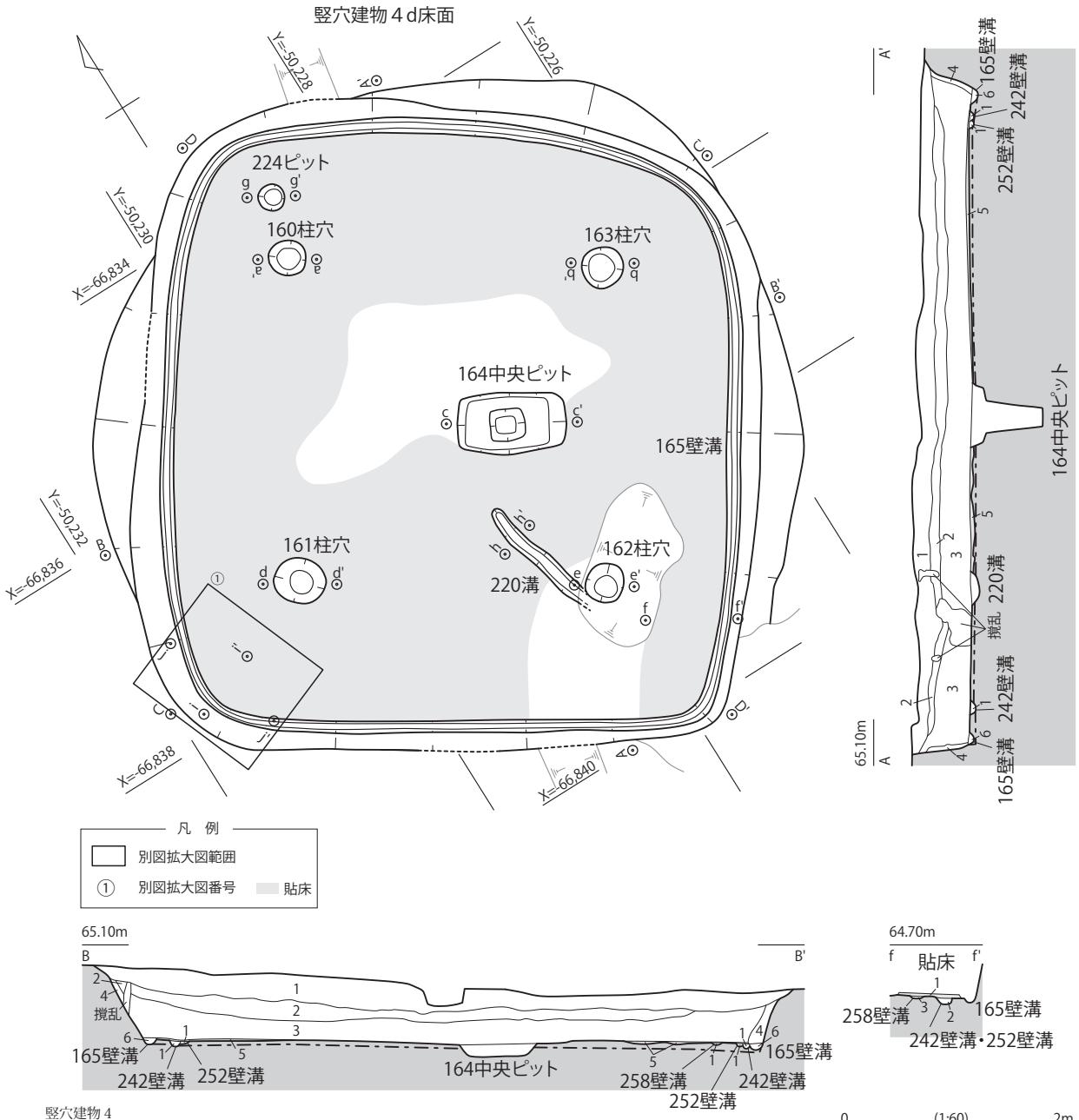
柱抜き取り痕跡の１層と、Ⅲ・Ⅵ層に由来するブロックを含む掘方埋め土の２層が堆積する。南隅に位置する 162 柱穴は、撹乱土が充填されていたが、削平はほとんど及んでいない。平面形は不整円形を呈し、長軸 0.37m、短軸 0.34m、床面からの深さは最大で 0.50m を測る。東隅に位置する 163 柱穴は、平面形が不整円形を呈する。長軸 0.38m、短軸 0.38m、床面からの深さは最大で 0.52m を測る。埋土はⅥ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡の１層と、Ⅲ・Ⅵ層に由来するブロックを含みしまりがやや強い掘方埋め土の２・３層が堆積する。

そのほか、北隅に 224 ピットが位置する。長軸 0.25m、短軸 0.24m、床面からの深さは 0.06m を測る。埋土はⅥ層に由来するブロックを含む黒色シルトが堆積する。

床面には中央ピットから南隅方向へ向かう 220 溝が検出されている。残存長 1.1m、短軸 13.6cm、床面からの深さは最大 3.7cm を測る。

遺物は１層（上層）・３層（下層）を中心に土器小片や礫などが出土している。上層では西辺から北辺方向にかけて遺物が密集している傾向にある。下層は南東方向を除き、小片が散在する状況である。西隅に長軸 93.3cm、短軸 45.8cm、床面からの最大の高さ 15.5cm の 225 粘土塊が出土している。242・252 壁溝を覆う貼床上で検出され、土圧でやや傾いているが竪穴建物 4d の 165 壁溝には被っていない。灰白色を呈し、粘性が強い。拳大の塊がいくつか積み重なった状態でまとまりをもって出土している。重さは 46.9kg を測る。貼床用のストックであろうか。

第 437 図 Po576 ～ 580・863 は弥生土器である。Po576 はほぼ口縁部が欠損しているが、わずかに下端が痕跡を残し櫛状工具による凹線がみられる。体部はハケ調整が施される。Po577 は口縁



竪穴建物４
1　10YR3/1 黒褐色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ1～3cmブロック多混　10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック少混
　10YR4/1 褐灰色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ1～3cmブロック少混)　粘性中　しまり中
3　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5～1cmブロック多混)　粘性やや弱　しまりやや弱
4　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ2～3cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強
5　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ2～3cmブロック多混　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性強　しまり強　(貼床)
6　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ1～2cmブロック混　10YR4/1 褐灰色 シルトφ1cmブロック混)　粘性中　しまり中　(165壁溝)

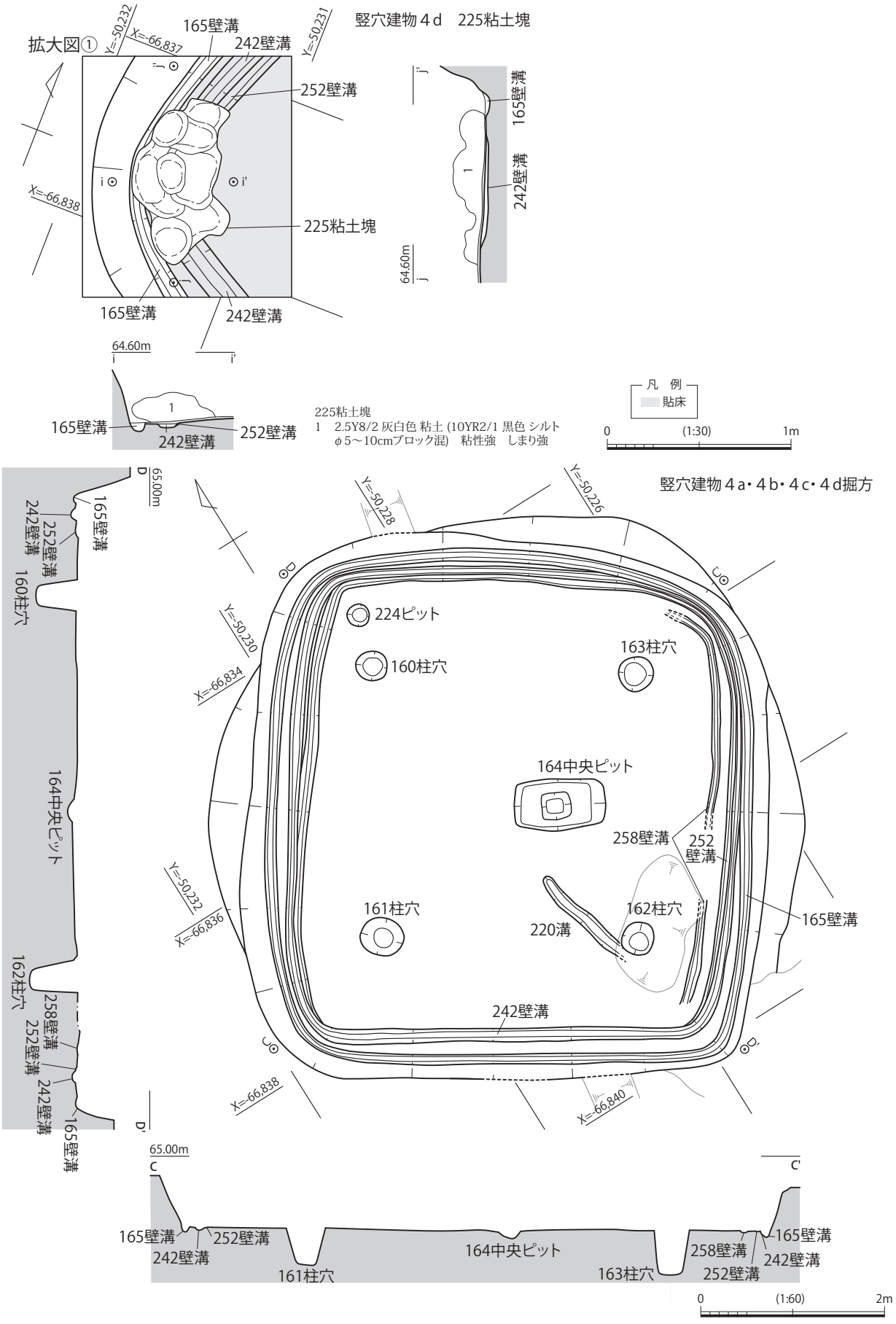
242壁溝
1　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5～1cmブロック多混　炭化物φ1cm混)　粘性強　しまり強　(242壁溝)

252壁溝
1　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5～1cmブロック混　炭化物φ0.5cm混)　粘性強　しまり強　(252壁溝)

258壁溝
1　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ1～2cmブロック多混　炭化物φ1cm混)　粘性強　しまり強　(258壁溝)

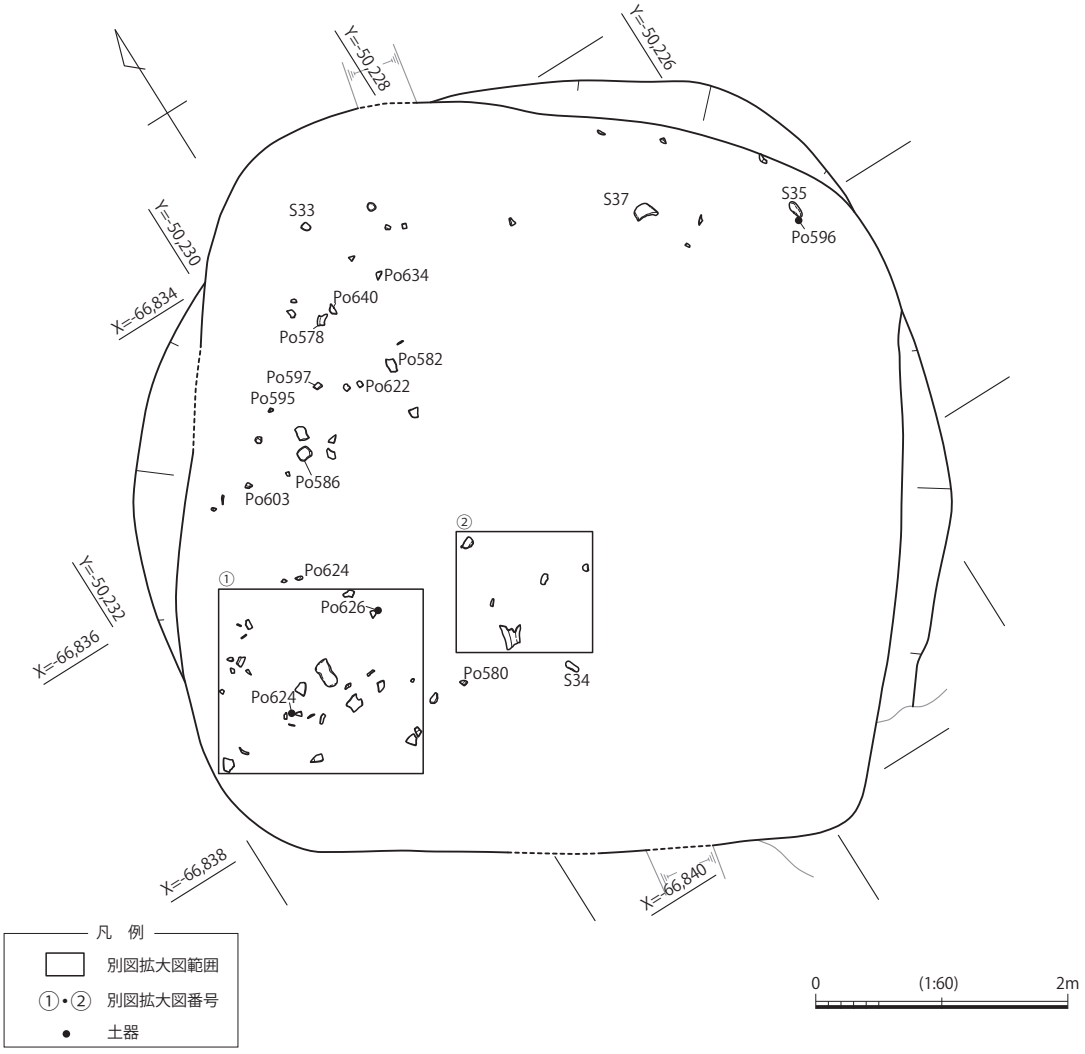
貼床
1　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ2～3cmブロック混　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性強　しまり強　(貼床)
2　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5～1cmブロック多混　炭化物φ1cm混)　粘性強　しまり強　(242・252 壁溝)
3　2.5Y3/1 黒褐色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5～1cmブロック混　炭化物φ0.5cm混)　粘性強　しまり強　(258 壁溝)

第 430 図　竪穴建物４（３）

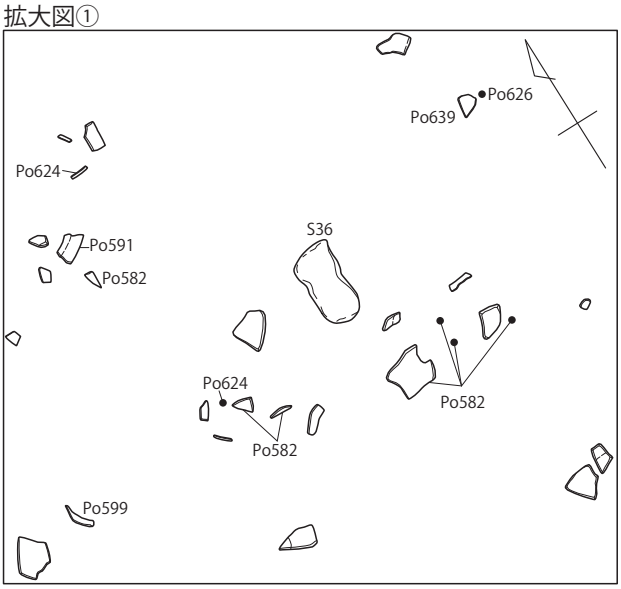


第 431 図　竪穴建物４（４）

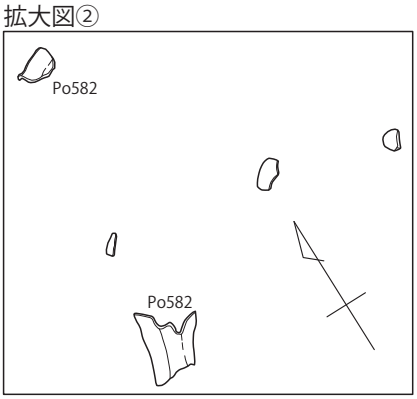
竪穴建物４　上層遺物



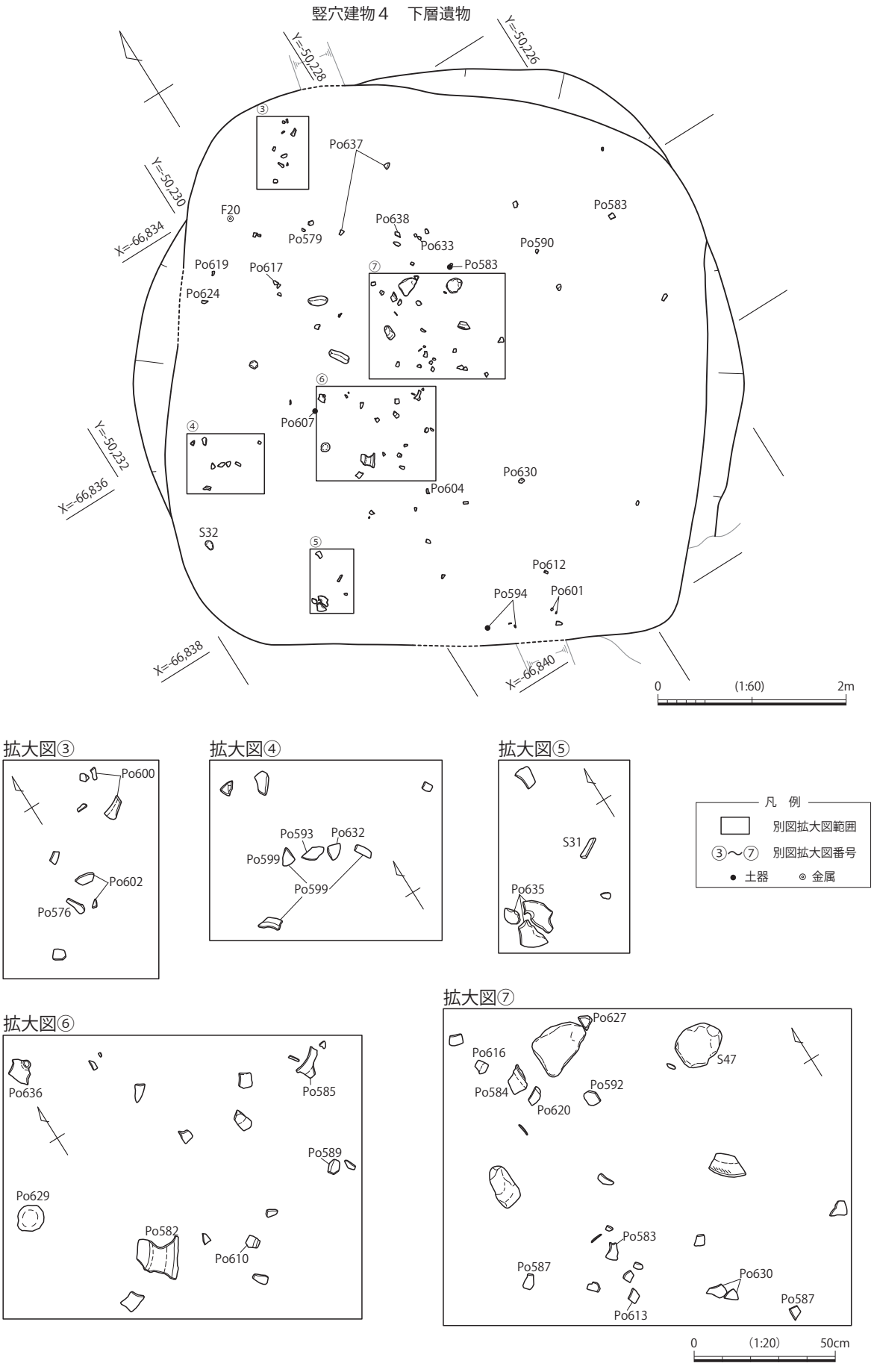
拡大図①



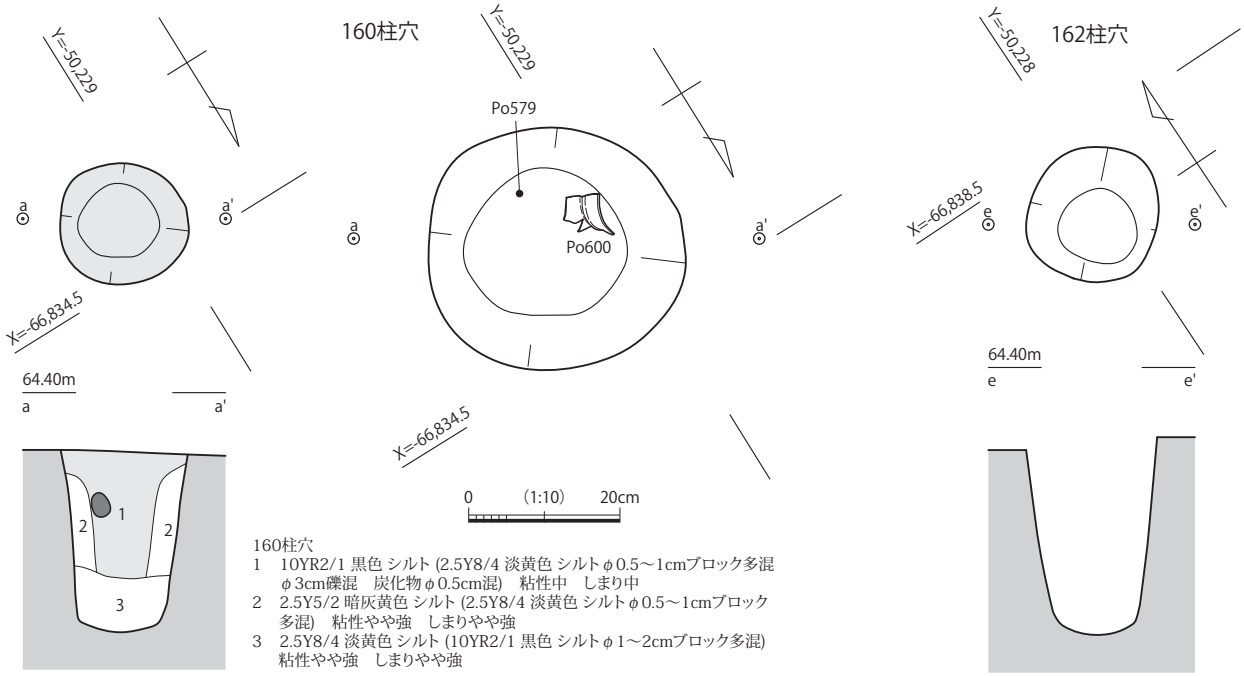
拡大図②



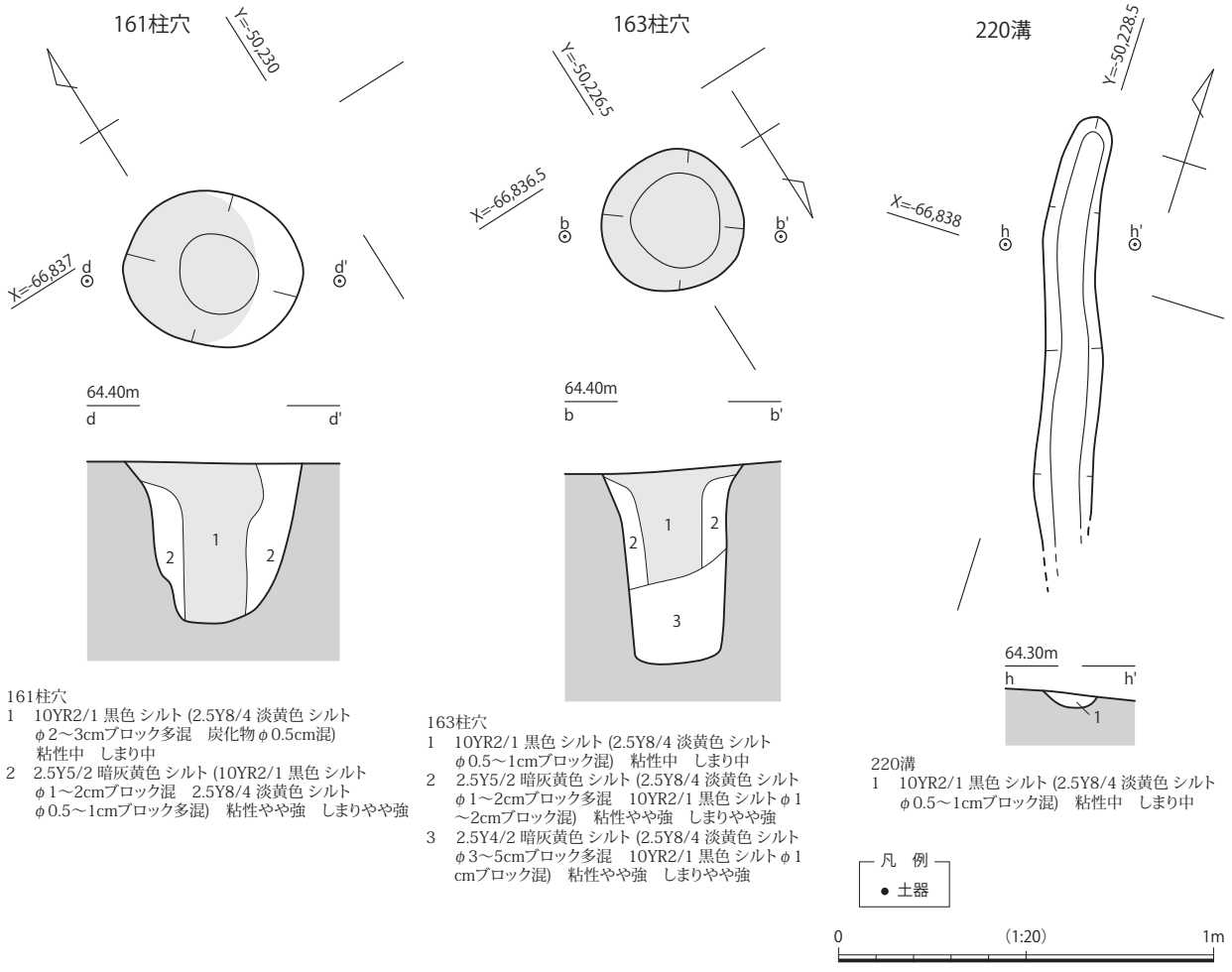
第 432 図　竪穴建物４（５）



第 433 図　竪穴建物４（６）



160柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5～1cmブロック多混　φ3cm礫混　炭化物φ0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5～1cmブロック多混)　粘性やや強　しまりやや強
3　2.5Y8/4 淡黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック多混)　粘性やや強　しまりやや強

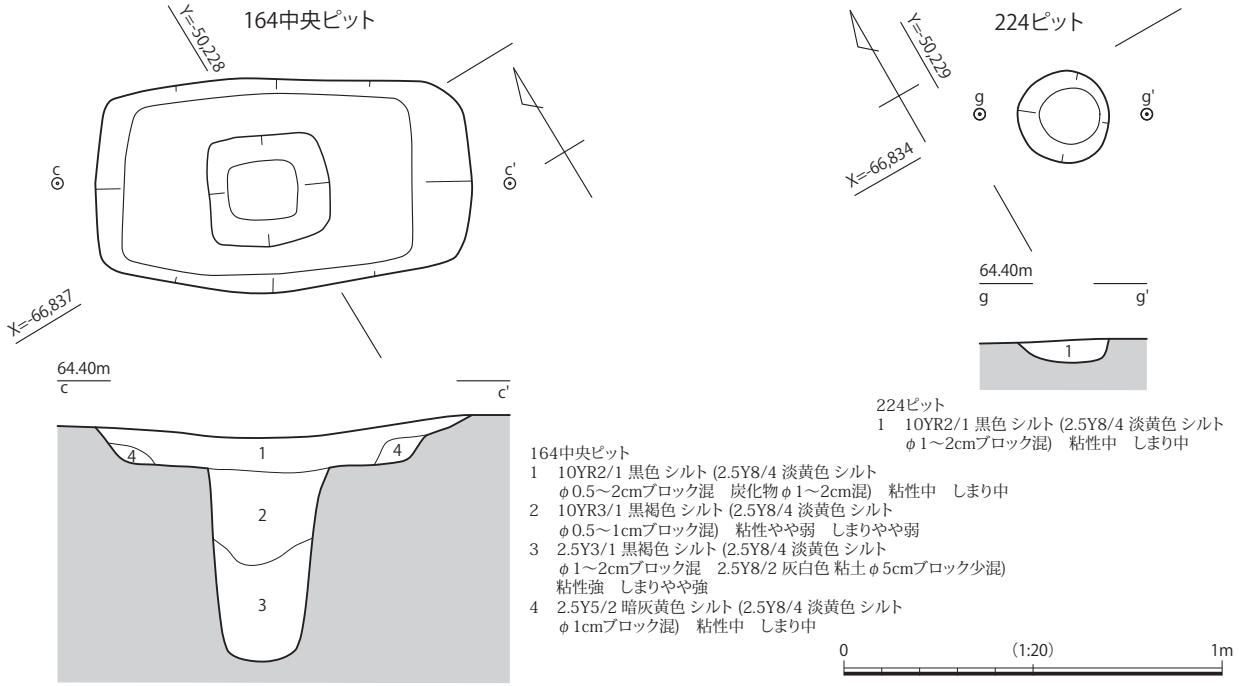


161柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ2～3cmブロック多混　炭化物φ0.5cm混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混　2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5～1cmブロック多混)　粘性やや強　しまりやや強

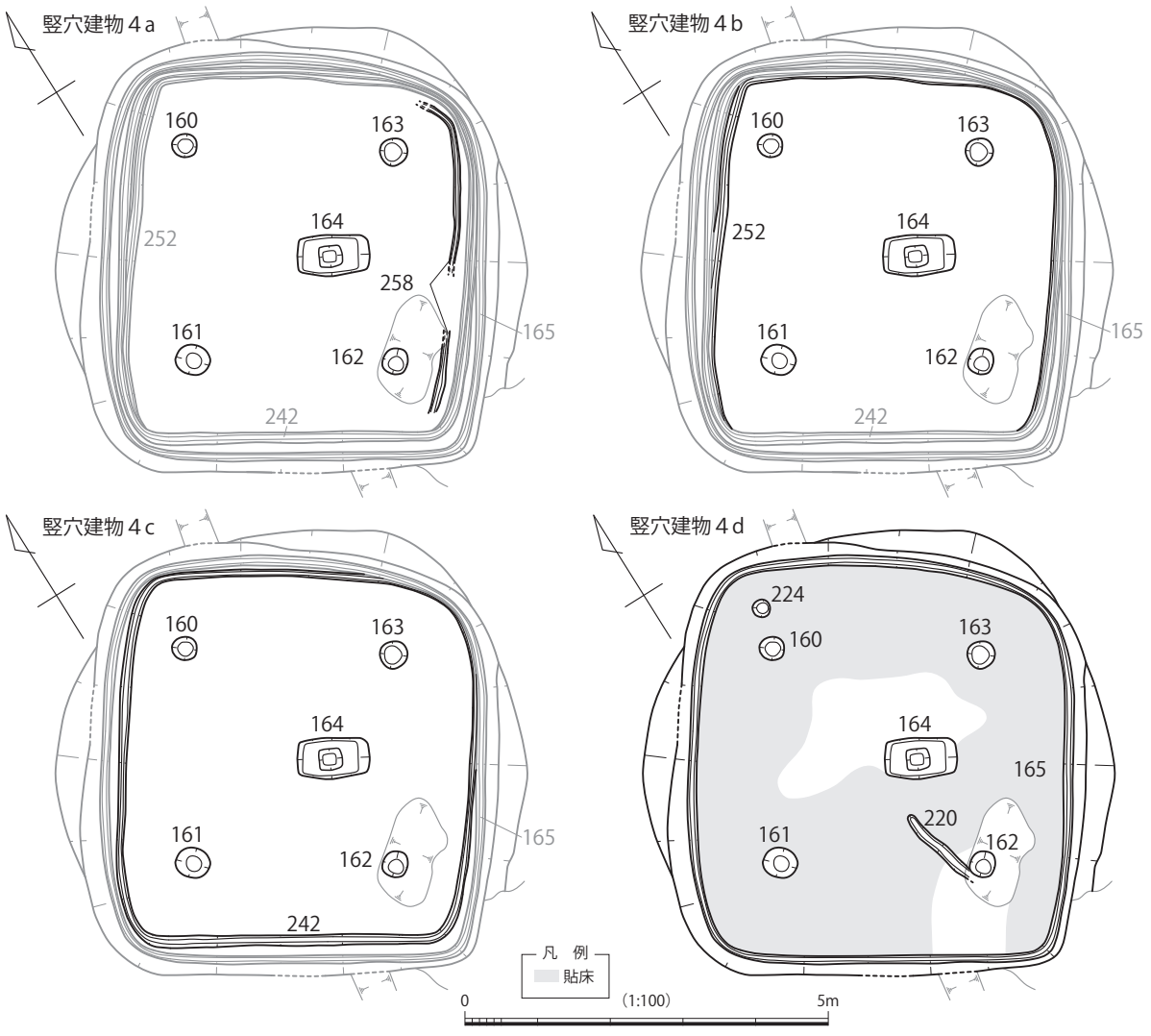
163柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5～1cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ1～2cmブロック多混　10YR2/1 黒色 シルトφ1～2cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強
3　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ3～5cmブロック多混　10YR2/1 黒色 シルトφ1cmブロック混)　粘性やや強　しまりやや強

220溝
1　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルトφ0.5～1cmブロック混)　粘性中　しまり中

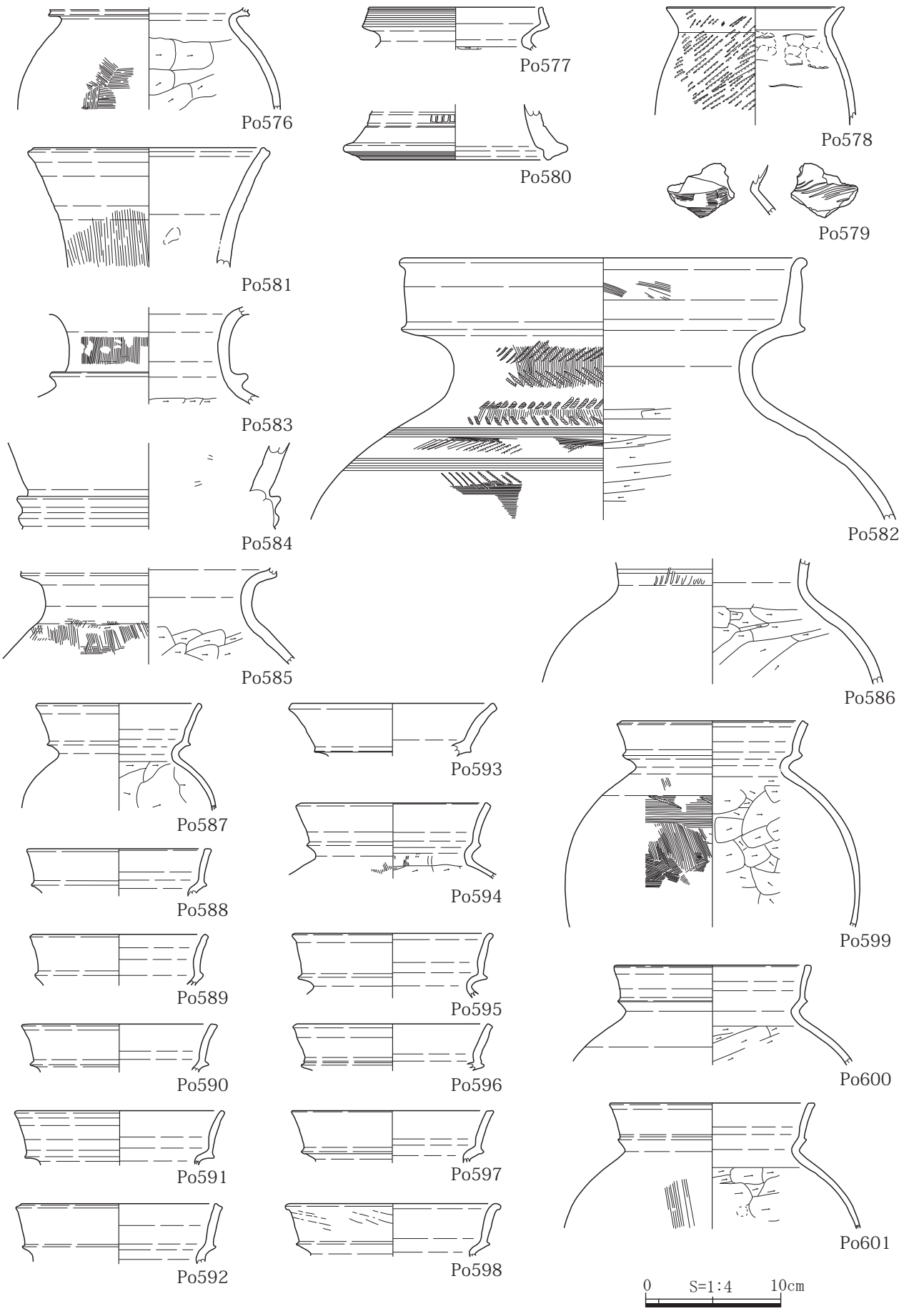
第 434 図　竪穴建物４　160 ～ 163 柱穴・220 溝



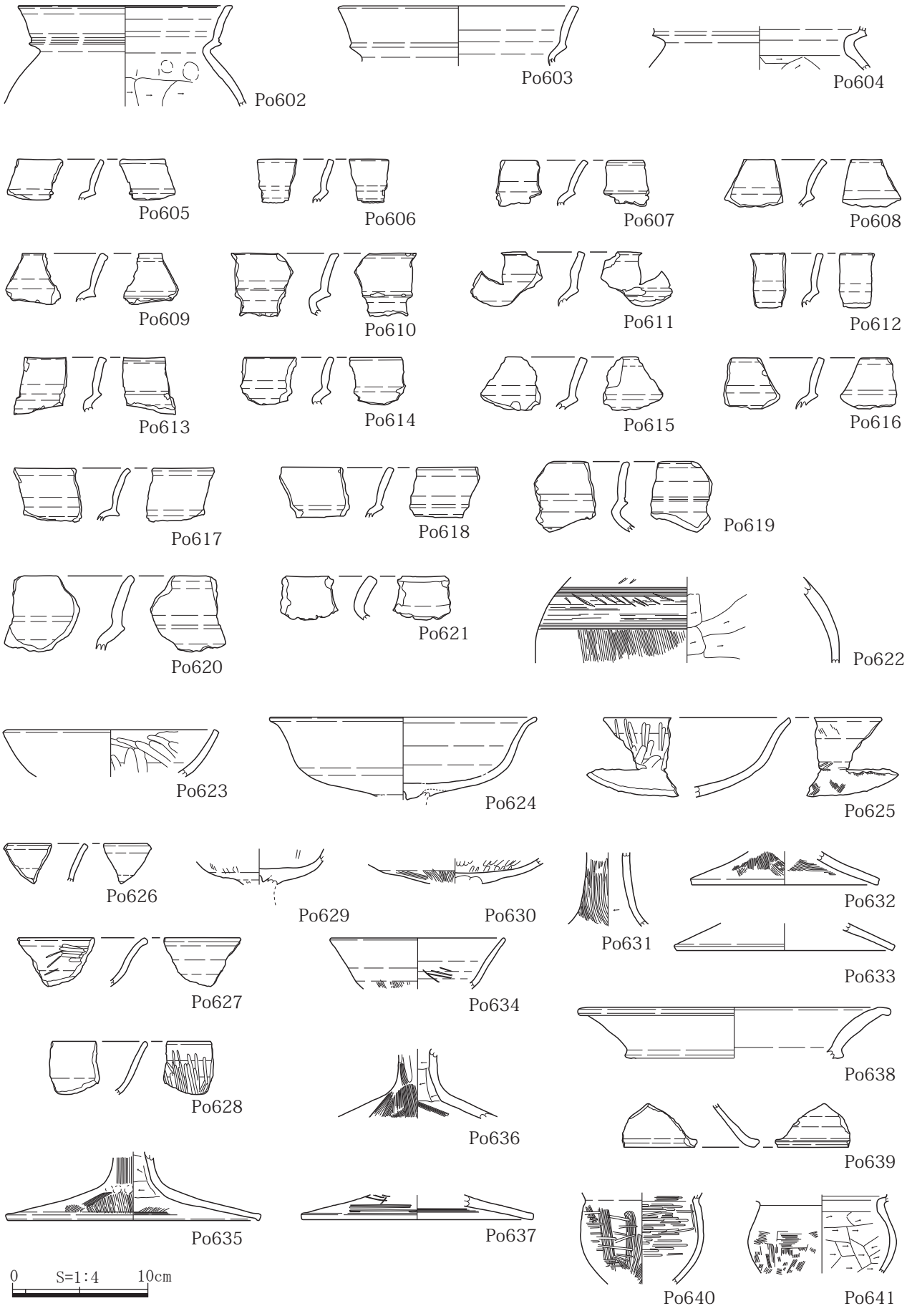
第 435 図　竪穴建物４　164 中央ピット・224 ピット



第 436 図　竪穴建物４遺構変遷図



第 437 図　竪穴建物４出土土器（１）



第 438 図　竪穴建物４出土土器（２）

第 439 図　竪穴建物４出土遺物

部が内傾し、櫛状工具による擬凹線が施される甕である。Po578はやや長胴で口縁が外反する。主に体部外面にタタキ調整が施され、内面は指頭圧痕による成形痕と輪積みの接合部が残っている。Po579は頸部破片であり、外面にタタキ調整がみられる。写真掲載のみであるが、Po853も外面にタタキ調整がみられる。Po580は脚部である。脚端部は上方へ拡張し、端面に浅い凹線を２条巡らせる。脚部は縦方向のハケ調整後に沈線が施される。

Po581～586は土師器壺である。Po581は単口縁の壺であり、口縁部はナデ、頸部はタテ方向のハケ調整を施している。Po582は受け口状口縁の壺である。口縁外面はヨコナデ、頸部から体部はハケ調整を施しハケ状工具の小口による綾杉状の刺突文を施す。肩部には擬凹線が２段めぐっている。Po583は二重口縁壺である。口縁部は欠損し、頸部にタテ方向のハケ調整、肩部に突帯を貼り付ける。Po584～586は頸部から肩部であり、Po584は口縁部が欠損しており、その下部に鍔状の突帯が貼り付けられる。Po585は頸部がナデ調整、肩部から体部は縦方向のハケ調整が施されている。Po586は頸部に沈線が巡り、縦方向のミガキ調整が施される。

Po587～622は土師器甕をまとめている。Po587・619・620は口縁端部を丸くおさめ、それ以外の多くは口縁端部が面をなし、端面が少し窪むPo589・592・608、わずかに外側につまみ出すPo590・596・598・601・602・607・609・610・613がみられる。口縁部はヨコナデ、Po594・599・601は肩部から体部にかけてハケ調整を施す。Po599はハケ状工具の小口による斜め方向による刺突がなされている。Po622は肩部に横方向のハケ調整後にハケ状工具の小口による綾杉状の刺突文を施す。

Po623～633は土師器高坏をまとめている。Po624・625・627は坏部の口縁端部は外側へ屈曲し、Po625・627は内面にミガキ調整が施されている。Po623・628は坏部の口縁が外傾しながら立ち上がる。Po630は坏部外面の下半にハケ調整が認められ、内面はPo623を含めミガキ調整が施されている。Po632・633は脚部であり、Po632の内外面にはハケ調整が観察される。

Po634～637は低脚坏である。Po634は坏部外面の下半にハケ調整が認められ、Po635～637は脚部であり、外面にはハケ調整が観察される。Po638・639は鼓形器台で前者は受け部、後者は脚裾である。前者の端部は外側に張り出し丸くおさめる。Po640・641は小型丸底壺である。Po640の体部外面はハケ調整後、縦方向のミガキ調整が部分的に施される。内面は横方向のミガキ調整である。Po641の体部外面はハケ調整、内面は横方向のヘラケズリ調整が施されている。

第439図は石器をまとめている。S30は無斑晶安山岩製の平基無茎式石鏃であり、表裏面に素材面を大きく残す。S31は小型の撥状を呈する流紋岩製の砥石であり、裏面が大きく剥離しており砥面は４面確認される。S32・33はデイサイトの亜円礫を素材とする磨石で、表面のみ磨面がみられる。S34・35はデイサイトの亜円礫を素材とする敲石で、前者は表面に磨面が観察されることから磨石も兼ねている。S36・37はデイサイトの台石であり、前者は中心部で割れており、後者は半分欠損している。いずれも表面に擦痕がみられる。F20・21は板状と棒状の鉄製品である。

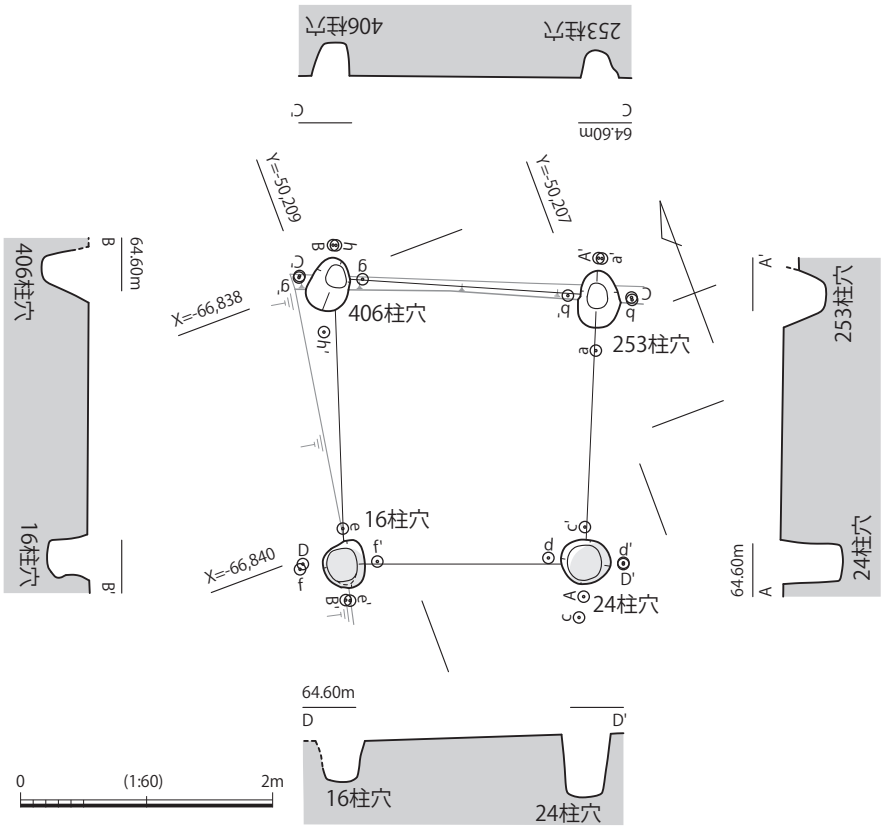
（２）　掘立柱建物

掘立柱建物15（第419・440・441図、第29・35・38表、図版232）

北区北端7a-9C-4a・5aグリッドにおいて、Ⅳ層上面で検出した。掘立柱建物16と重複し、その柱穴を切っていることから掘立柱建物16より後出する。本遺構は、16・24・253・406柱穴によって構成される。桁行１間（2.1m）、梁行１間（2.1m）の南北棟の側柱建物である。主軸はN-23°-E

をとり、平面積は4.4㎡を測る。柱間寸法は桁筋が2.1m、梁筋が2.1mで柱筋の通りは良い。柱穴の平面形は不整円形または不整楕円形、断面形は逆台形状を呈する。柱穴の規模は長軸0.38～0.45m、短軸0.31～0.35m、底面の標高は63.88～64.04mを測る。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古墳時代以前と考えられる。



第 440 図　掘立柱建物 15

16 柱穴（第 440・441 図、第 35・38 表、図版 233）

西側の一部が暗渠によって削平されている。また、掘立柱建物 16 の 23 柱穴を切っている。平面形は不整円形を呈し、残存規模は長軸0.38m、短軸0.33m、検出面からの深さ0.32mを測る。底面標高は64.01m。埋土はⅥ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅲ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２・３層が堆積する。遺物は出土していない。

24 柱穴（第 440・441 図、第 35・38 表、図版 233）

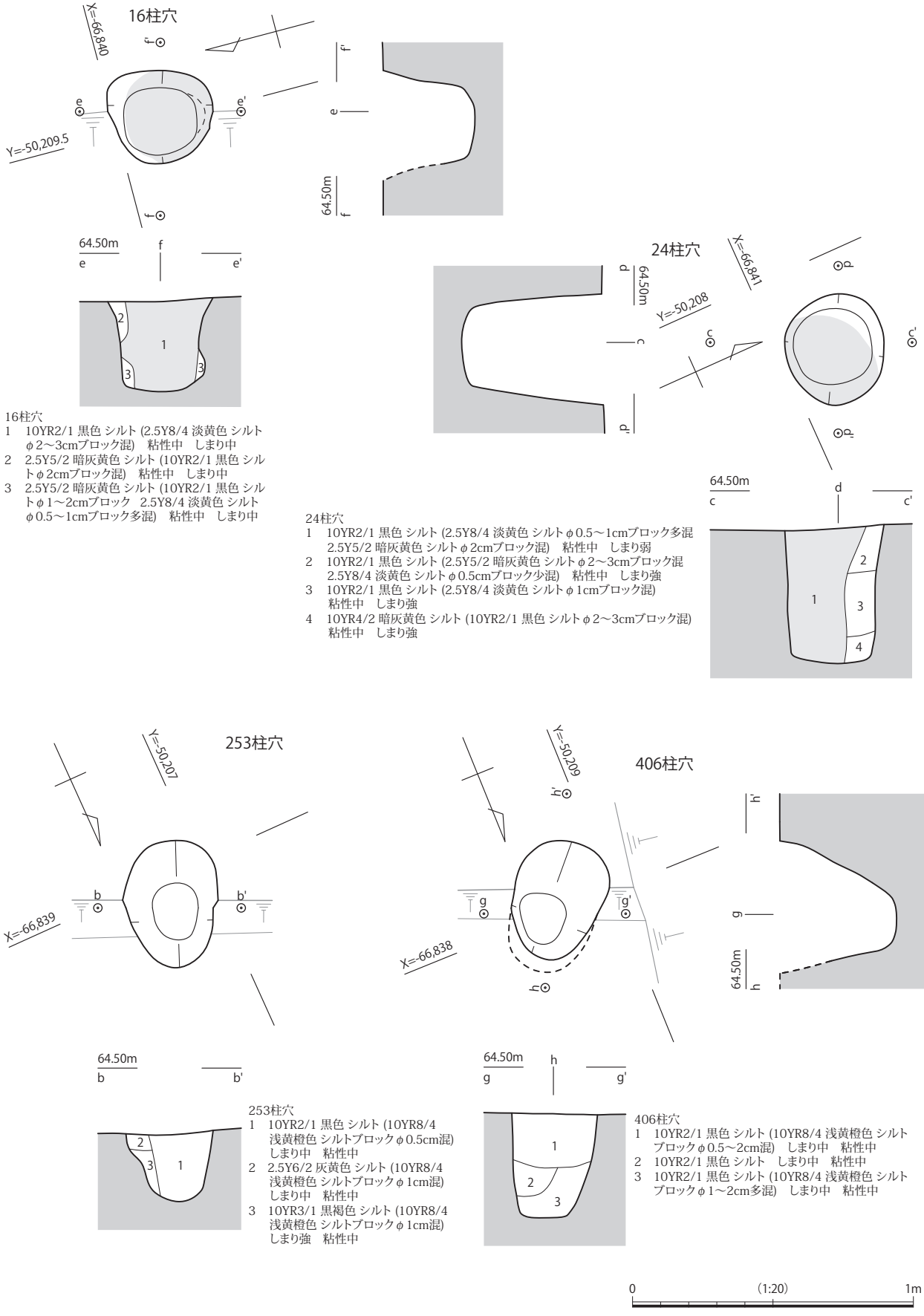
掘立柱建物 16 の 25 柱穴を切っている。平面形は不整円形を呈し、検出規模は長軸 0.40m、短軸 0.35m、検出面からの深さ 0.48mを測る。底面標高は 63.88m。埋土はⅣ・Ⅵ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅲ～Ⅵ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２～４層が堆積する。遺物は埋土から土師器片が出土したものの、小片のため図化していない。。

253 柱穴（第 440・441 図、第 35・38 表、図版 233）

北側は３区との境にあたり、一部削平されている。また、掘立柱建物 16 の 20 柱穴を切っている。平面形は不整楕円形を呈し、残存規模は長軸 0.45m、短軸 0.31m、検出面からの深さ 0.24mを測る。底面標高は 64.04m。埋土はⅥ層に由来するブロックを含む黒褐色シルトの１層と同じくⅥ層に由来するブロックを含む灰黄色・黒褐色シルトの２・３層が堆積する。遺物は出土していない。

406 柱穴（第 440・441 図、第 35・38 表、図版 233）

北側は３区との境にあたり、一部削平されている。また、掘立柱建物 16 の 19 柱穴を切っている。平面形は不整楕円形を呈し、残存規模は長軸 0.43m、短軸 0.32m、検出面からの深さ 0.37mを測る。



16柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ2～3cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルト φ2cmブロック混)　粘性中　しまり中
3　2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルト φ1～2cmブロック　2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ0.5～1cmブロック多混)　粘性中　しまり中

24柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ0.5～1cmブロック多混 2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト φ2cmブロック混)　粘性中　しまり弱
2　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y5/2 暗灰黄色 シルト φ2～3cmブロック混 2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ0.5cmブロック少混)　粘性中　しまり強
3　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ1cmブロック混)　粘性中　しまり強
4　10YR4/2 暗灰黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルト φ2～3cmブロック混)　粘性中　しまり強

253柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/4 浅黄橙色 シルトブロック φ0.5cm混)　しまり中　粘性中
2　2.5Y6/2 灰黄色 シルト (10YR8/4 浅黄橙色 シルトブロック φ1cm混)　しまり中　粘性中
3　10YR3/1 黒褐色 シルト (10YR8/4 浅黄橙色 シルトブロック φ1cm混)　しまり強　粘性中

406柱穴
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/4 浅黄橙色 シルトブロック φ0.5～2cm混)　しまり中　粘性中
2　10YR2/1 黒色 シルト　しまり中　粘性中
3　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/4 浅黄橙色 シルトブロック φ1～2cm多混)　しまり中　粘性中

第 441 図　掘立柱建物 15　16・24・253・406 柱穴

底面標高は 63.96m。埋土はⅥ層に由来するブロックを含む黒色シルトの１・２層と、同じく黒色シルトの２層が堆積する。遺物は出土していない。

掘立柱建物 16（第 419・442・443 図、第 29・35・38 表、図版 232）

北区北端 7a-9C-4a・5a グリッドにおいて、Ⅳ層上面で検出した。掘立柱建物 15 と重複し、その柱穴に切られていることから掘立柱建物 15 より先出する。本遺構は、19・20・23・25 柱穴によって構成される。桁行１間（2.2m）、梁行１間（2.1m）の南北棟の側柱建物である。主軸は N-24° -E をとり、平面積は 4.4㎡を測る。柱間寸法は桁筋が 2.2m、梁筋が 2.1m で柱筋の通りは良い。柱穴の平面形は不整円形または不整楕円形、断面形は逆台形状を呈する。柱穴の規模は長軸 0.29 ～ 0.35m、短軸 0.29 ～ 0.32m、底面の標高は 63.88 ～ 64.03m を測る。

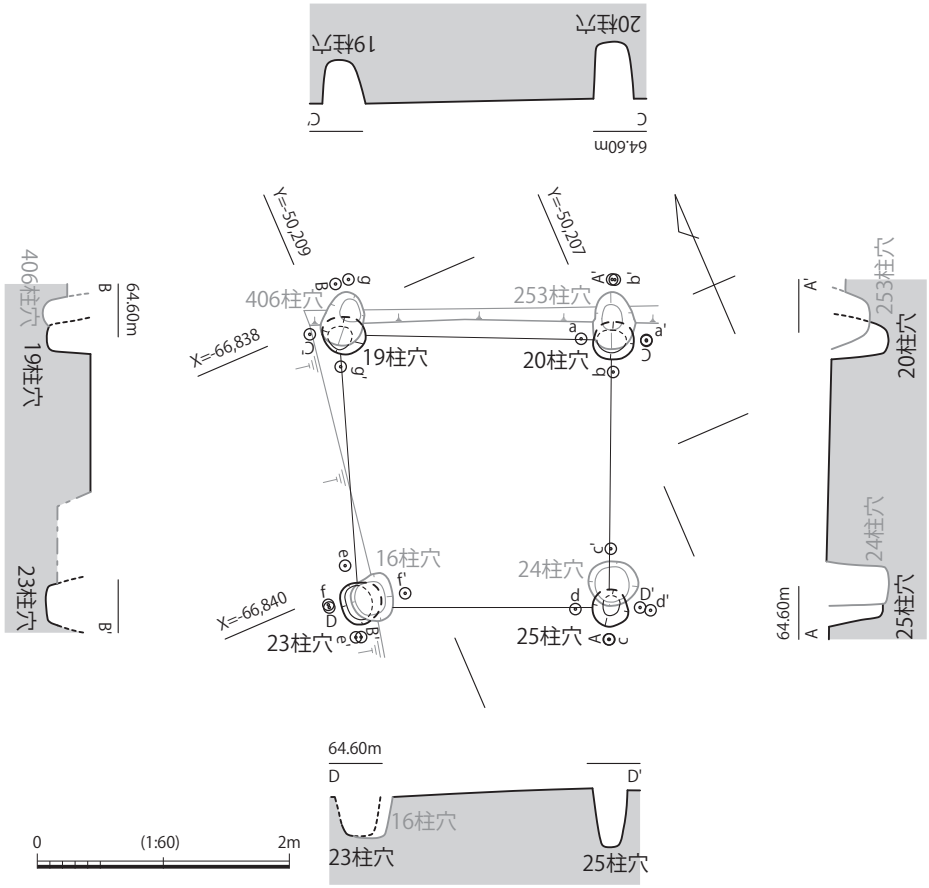
本遺構の帰属時期は、掘立柱建物 15 に先出することから古墳時代以前と考えられる。

19 柱穴（第 442・443 図、第 35・38 表、図版 233）

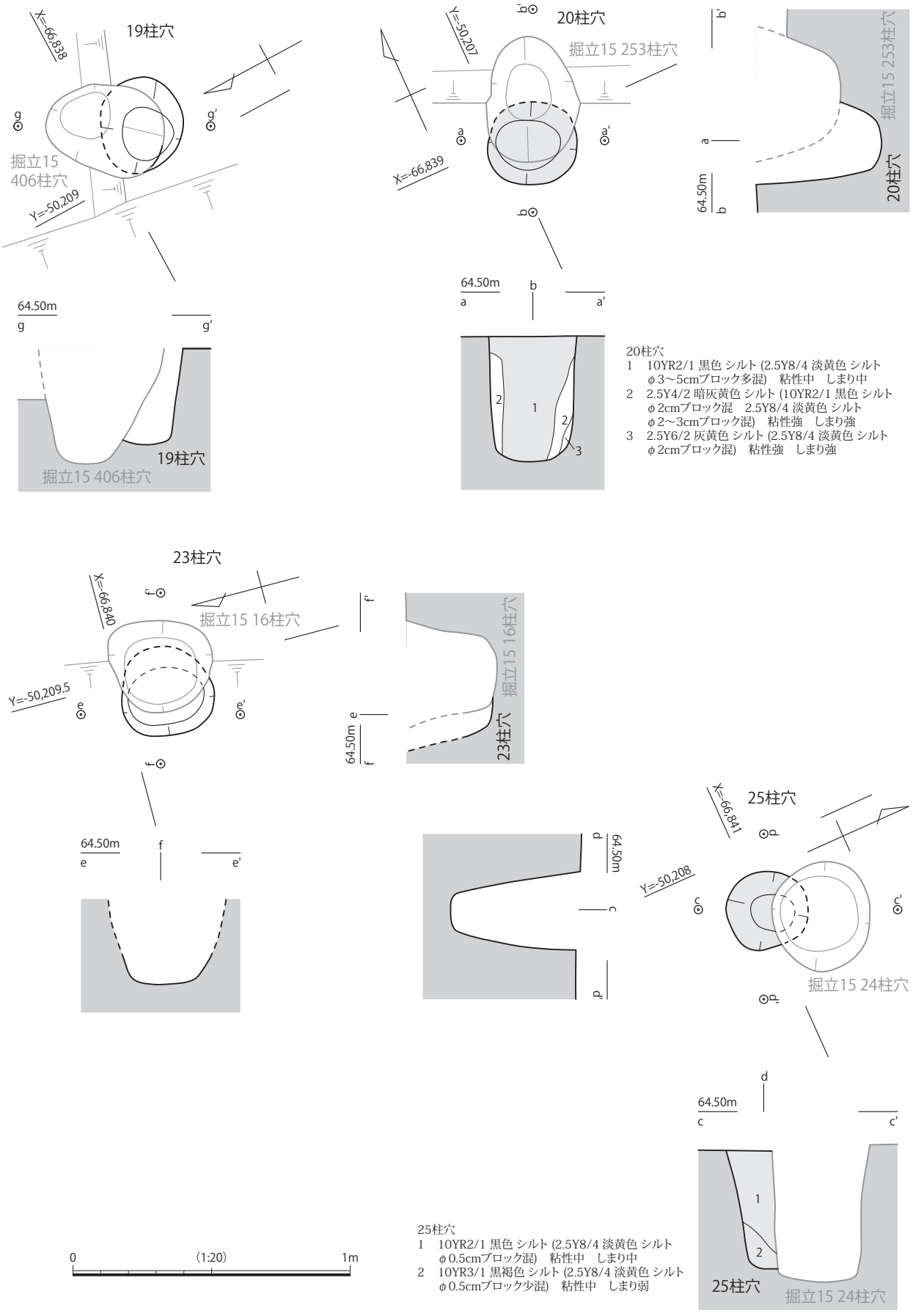
北側の一部が掘立柱建物 15 の 406 柱穴により削平されている。平面形は不整円形を呈し、残存規模は長軸 0.35m、短軸 0.30m、検出面からの深さ 0.35m を測る。底面標高は 64.03m。埋土は不明である。遺物は出土していない。

20 柱穴（第 442・443 図、第 35・38 表、図版 233）

北側の一部を掘立柱建物 15 の 253 柱穴により削平されている。平面形は不整円形を呈し、残存規



第 442 図　掘立柱建物 16



第 443 図　掘立柱建物 16　19・20・23・25 柱穴

模は長軸 0.32m、短軸 0.30m、検出面からの深さ 0.45m を測る。底面標高は 63.88m。埋土はⅥ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅲ・Ⅵ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２・３層が堆積する。遺物は出土していない。

23 柱穴（第 442・443 図、第 35・38 表、図版 233）

暗渠及び東側の多くを掘立柱建物 15 の 16 柱穴に削平されている。平面形は不整楕円形を呈し、残存規模は長軸 0.33m、短軸 0.32m、検出面からの深さ 0.31m を測る。底面標高は 64.02m。埋土は不明である。遺物は出土していない。

25 柱穴（第 442・443 図、第 35・38 表、図版 233）

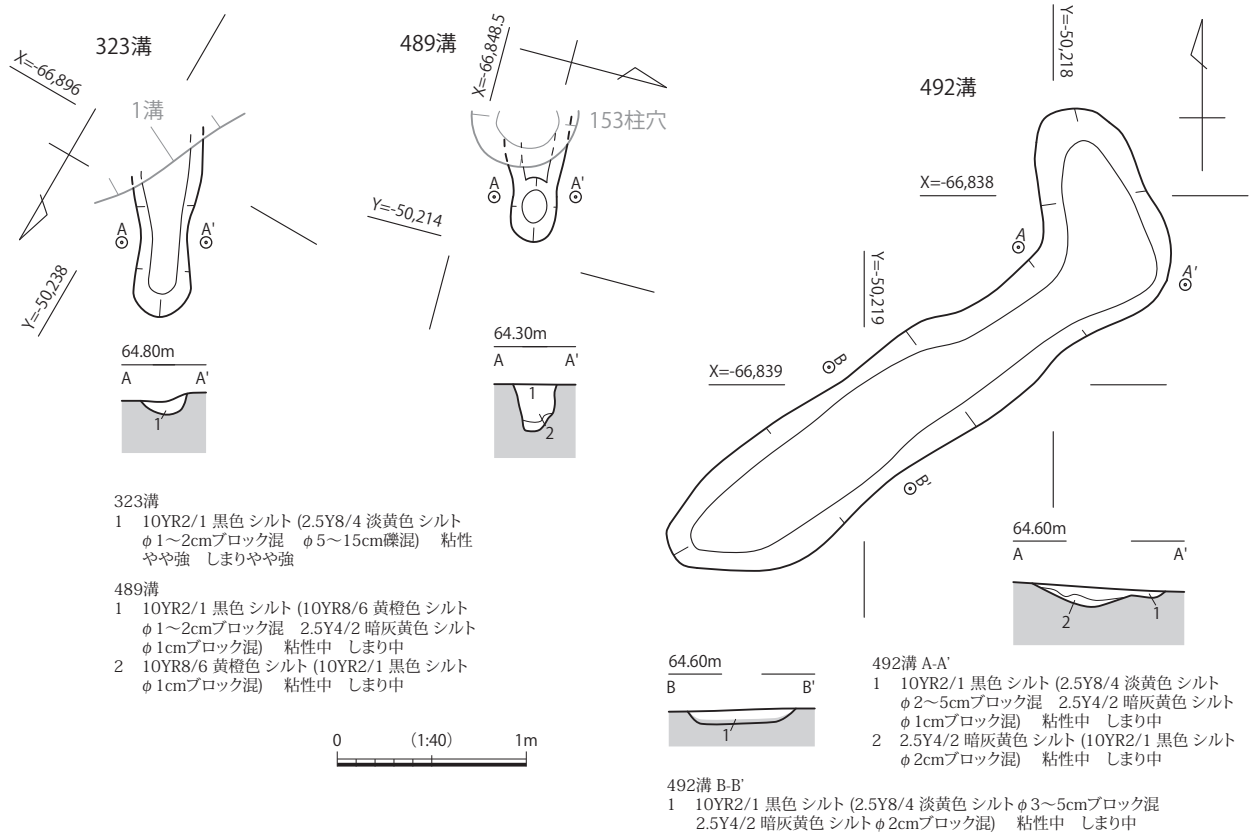
北側の一部を掘立柱建物 15 の 24 柱穴により削平されている。平面形は不整円形を呈し、残存規模は長軸 0.29m、短軸 0.29m、検出面からの深さ 0.43m を測る。底面標高は 63.93m。埋土はⅥ層に由来するブロックを含む柱抜き取り痕跡の１・２層が堆積する。遺物は出土していない。

（3） 溝

323 溝（第 419・444 図、第 64 表、図版 282）

北区南西 7a-9C-10d グリッドにおいて、Ⅳ層上面で検出した。東側を１溝に切られている。主軸は N-28° -W をとる。残存規模は長さ 0.79m、最大幅 0.25m、検出面からの深さは最大 0.07m を測る。埋土はⅥ層由来のブロックを含む黒色シルトが堆積する。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古墳時代以前と考えられる。



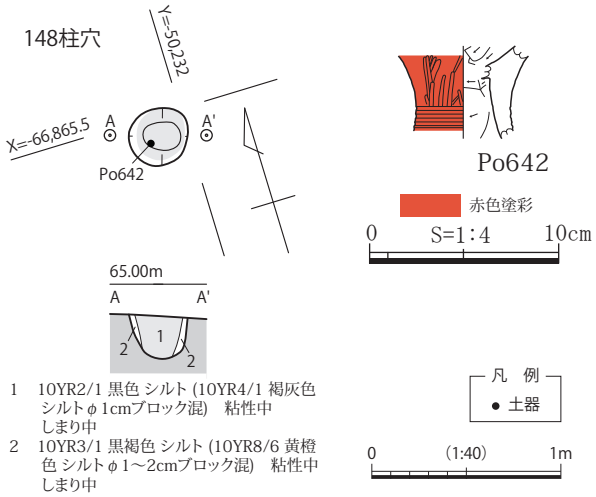
323溝
1　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ1～2cmブロック混　φ5～15cm礫混)　粘性やや強　しまりやや強

489溝
1　10YR2/1 黒色 シルト (10YR8/6 黄橙色 シルト φ1～2cmブロック混　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト φ1cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　10YR8/6 黄橙色 シルト (10YR2/1 黒色 シルト φ1cmブロック混)　粘性中　しまり中

492溝 A-A'
1　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ2～5cmブロック混　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト φ1cmブロック混)　粘性中　しまり中
2　2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト (10YR2/1 黒色 シルト φ2cmブロック混)　粘性中　しまり中

492溝 B-B'
1　10YR2/1 黒色 シルト (2.5Y8/4 淡黄色 シルト φ3～5cmブロック混 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト φ2cmブロック混)　粘性中　しまり中

第 444 図　323・489・492 溝



第 445 図　148 柱穴、148 柱穴出土土器

489 溝（第 419・444 図、第 64 表、図版 282）

北区北西 7a-9C-5b グリッドにおいて、Ⅳ層上面で検出した。西側を 153 柱穴に切られている。主軸は N-78° -E をとる。残存規模は長さ 0.41m、最大幅 0.23m、検出面からの深さは最大 0.25m を測る。埋土はⅤ層由来のブロックを含む黒色シルトの１層と、Ⅲ層由来のブロックを含む黄橙色シルトの２層が上下に堆積する。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古墳時代以前と考えられる。

492 溝（第 419・444 図、第 64 表、図版 282）

北区北西 7a-9C-4b・4c グリッドにおいて、Ⅳ層上面で検出した。主軸は N-55° -E をとり、北西側に鉤状に折れ曲がる。規模は長さ 3.61m、最大幅 0.48m、検出面からの深さは最大 0.10m を測る。埋土はⅥ層由来のブロックを含む黒色シルトの１層と、Ⅲ層由来のブロックを含む暗灰黄色シルトの２層が上下に堆積する。遺物は埋土から土師器片が出土したものの、小片のため図化していない。

本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から古墳時代以前と考えられる。

（4）　柱穴

148 柱穴（第 419・445 図、第 68・86 表、図版 285・303）

北区西 7a-9C-7d グリッドにおいて、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不整円形を呈し、規模は長軸 0.33m、短軸 0.30m、検出面からの深さ 0.22m を測る。埋土は褐灰色シルトブロックを含む柱抜き取り痕跡１層と、Ⅴ層に由来するブロックを含む掘方埋め土２層が堆積する。遺物は、埋土から弥生土器高坏 Po642 が出土している。Po642 は外面が赤色塗彩された高坏の脚柱部である。中心部に３条以上の沈線がめぐり、縦方向のミガキ調整が施されている。

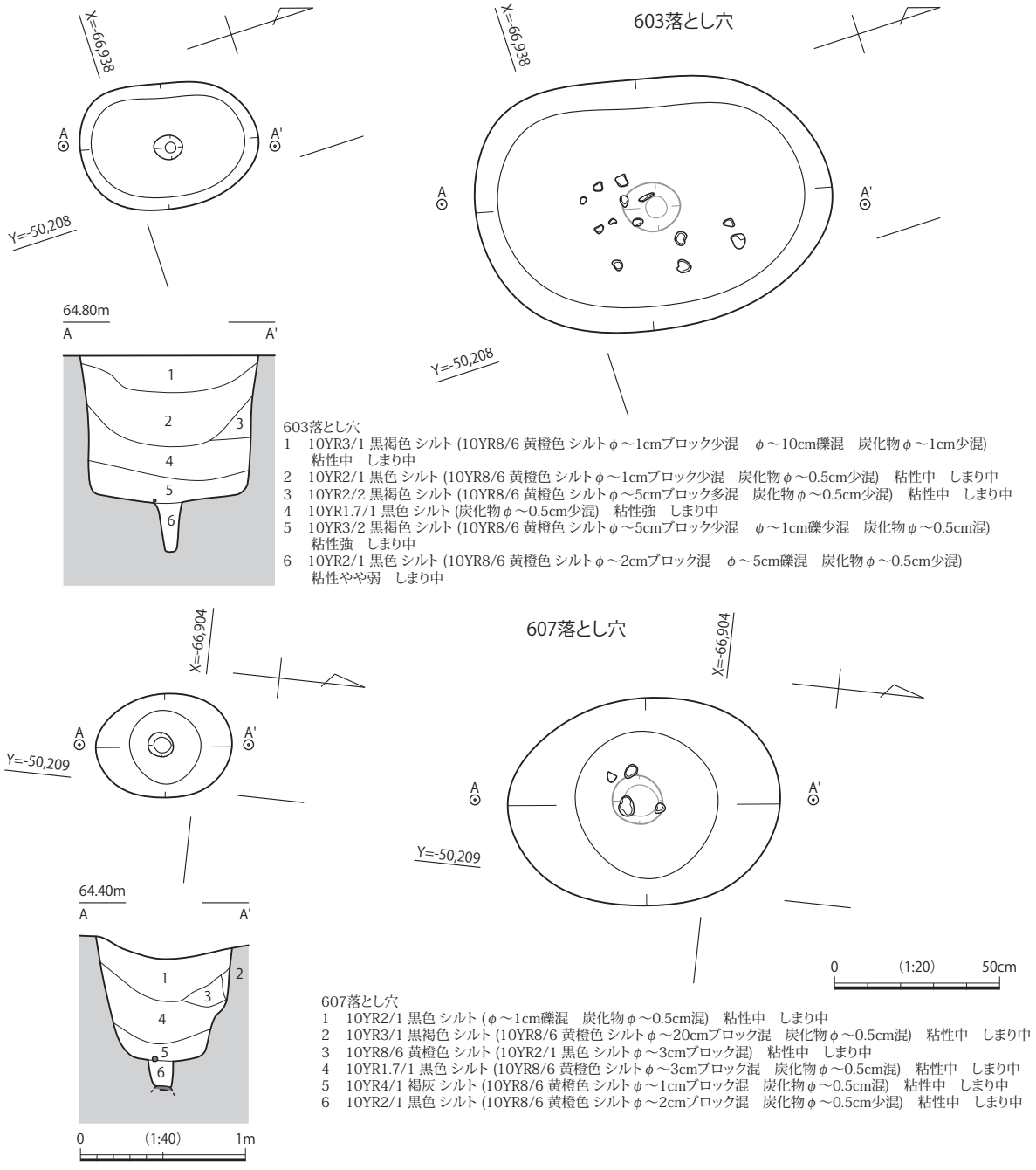
本遺構の帰属時期は、埋土の特徴から弥生時代中期と考えられる。

（5）　落とし穴

603 落とし穴（第 419・446 図、第 67 表、図版 273）

南東区北側 7a-10C-4a グリッドにおいて、Ⅳ層上面で検出した。規模は長軸 1.09m、短軸 0.76m、検出面からの深さ 1.19m を測る。平面形は楕円形、断面形は深い逆台形である。底面ほぼ中央に平面形は円形、径 0.15m、深さ 0.29m の底面ピットがある。ピットの下面には地山の礫がある。埋土は６層に分けられ、４～６層にはⅤ層由来のブロックを含む。底面ピットの周囲には、径４～８cm の亜角礫が 13 点散在していた。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、遺構の形状と埋土の特徴から縄文時代と考えられる。



第 446 図　603・607 落とし穴

607 落とし穴（第 419・446 図、第 67 表、図版 274）

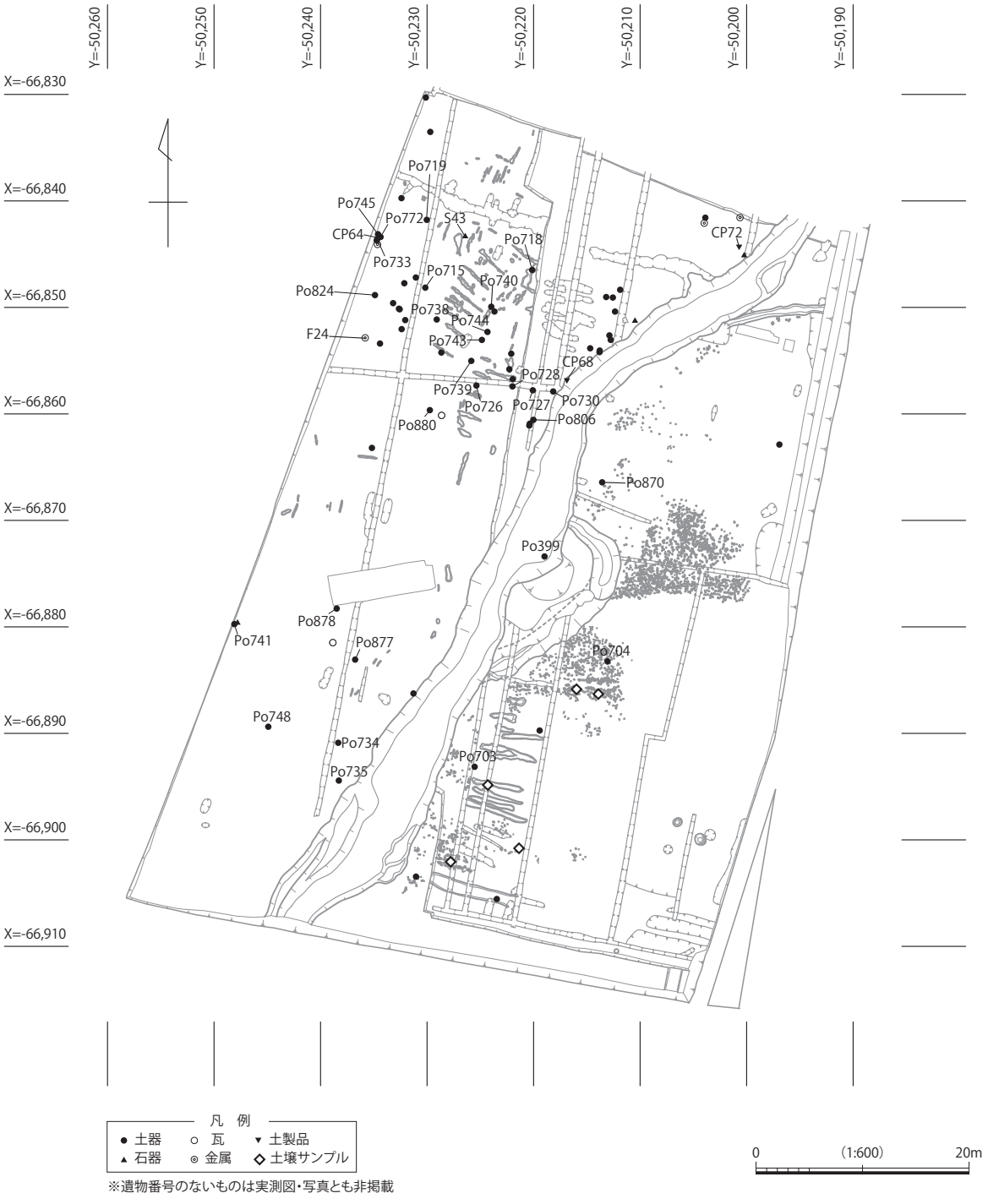
北区東側南端 7a-10C-1a グリッドにおいて、造成土下面、Ⅴ層上面で検出した。規模は長軸 0.83m、短軸 0.63m、検出面からの深さ 0.78m を測る。平面形はやや不整な楕円形、断面形は長方形である。底面ほぼ中央に、平面形は楕円形、長軸 0.18m、短軸 0.14m、深さ 0.16m の底面ピットがある。埋土は６層に分けられ、いずれもⅤ層由来のブロックを含む。底面ピットの周囲やや広い範囲には、径３～５cm の亜角礫が４点散在していた。遺物は出土していない。

本遺構の帰属時期は、遺構の形状と埋土の特徴から縄文時代と考えられる。

第５項　調査区内出土遺物

調査区内として扱うのは、包含層（Ⅰａ層・Ⅰｂ層・Ⅱａ層・Ⅱｂ層・Ⅱｂ'層・Ⅱｃ層・Ⅲａ層）、それ以外の造成土、トレンチ内、撹乱土、排土など層位不明の遺物である。Ⅰａ層・Ⅰｂ層・Ⅲａ層は主に２流路の東側、Ⅱａ層・Ⅱｂ層・Ⅱｂ'層・Ⅱｃ層は主に２流路の西側に堆積する。

遺物の概要は、弥生時代から近世までの土器や陶磁器、ミニチュア土器、土馬などの土製品、瓦、釘などの鉄器、石鏃、石庖丁、碁石などの石器、木器では漆器の椀が出土している。



※遺物番号のないものは実測図・写真とも非掲載

第 447 図　包含層遺物出土分布図（北区）

※遺物番号のないものは実測図・写真とも非掲載

第 448 図　包含層遺物出土分布図（南区・南東区）

弥生土器には壺や甕の底部がある。古墳時代前期から中期の土師器は複合口縁をもつ甕と布留系の甕、高坏、小型器台、小型丸底壺がある。古墳時代後期の須恵器には坏身がある。飛鳥時代から奈良時代の須恵器には蓋、高台付きの坏、高坏がある。蓋のつまみには円柱状と環状があり、端部付近にかえりが付く。高台の付く坏は、体部が内湾するものと底部から外傾するものがある。奈良時代から平安時代の土師器には赤彩した土師器の坏、高台付きの坏、「く」の字状の口縁部をもつ甕がある。須恵器には坏、高台付きの坏、刻書のある須恵器、壺または甕の体部片がある。

平安時代後半の 11 ～ 12 世紀は、回転台成形の土師器皿や坏、高台付きの坏、柱状高台、内外面をハケ調整した土師器の鍋、白磁を中心とした貿易陶磁器がある。鎌倉時代、13 ～ 14 世紀は手づくねの皿、受け口をもつ瓦質土器の鍋、羽釜、擂鉢、青磁を中心とした貿易陶磁器がある。手づくね

土師器の皿には大中小の三法量がある。いずれも器高は低く、口縁部を一回ナデる、一段ナデを基本とする。室町時代には青磁、天目、朝鮮陶器などの貿易陶磁器、国産の陶磁器には瀬戸美濃の天目碗、備前焼の壺や擂鉢がある。以下、出土層位ごとに述べる。

［Ⅰａ層］（第 449 図、第 86・87・96・98 表、図版 304 ～ 306・312）

中世後期から近世初頭を下限とする包含層で、４区南区中央付近に堆積する。

Po643・644 は手づくね成形の土師器皿、Po645 は回転糸切り痕をもつ土師器の坏である。Po646 は土師器の鍋で口縁部は内湾する。内面ハケ調整。Po647・648 は瓦質土器の鍋である。受け口ではあるが緩い。Po649 は瓦質土器の鉢の体部である。CP61 は平瓦片。凹面は布目、凸面はナデ後工具による施文か。S38 は黒曜石の剥片である。

［Ⅰｂ層］（第 449 図、第 87・92・98 表、図版 304 ～ 306・308 ～ 310・312）

中世前期までの包含層で、４区南区の２流路東側に堆積する。

Po650 ～ 652 は赤彩された土師器の坏である。内外面ともにミガキはない。Po651 はヘラ切り後に指で押圧する。Po653 ～ 657 は手づくね成形の土師器皿である。Po655 はやや深い器形ではあるが、口縁部は一段ナデである。Po656 の口縁部は外反する。Po658 ～ 660 は回転糸切りの土師器の皿、Po661 は回転糸切り後に高台を貼り付ける。Po662 は大型の柱状高台である。

Po663・664 は受け口になる前の「く」の字状の土師器鍋である。内外面ともハケ調整。Po665 ～ 668 は受け口をもつ瓦質土器の鍋である。受け口は屈曲し、端部の面取りも強い。Po669 は土師器の鉢で、口縁部は玉縁状である。播磨周辺の系譜とみられる。Po670・671 は瓦質土器の擂鉢で、単位をもつ擂目を入れる。須恵器は Po672 が坏、Po673 が坏底部、Po674 が壺の口縁部である。Po675 は白磁の皿の底部である。Po872 ～ 876 は写真掲載のみの貿易陶磁器である。Po872 は白磁碗、Po873・874 は白磁皿、Po875・876 は青磁碗である。S39・40 は碁石である。S39 は安山岩で黒色、S40 は石英で白色である。

［２流路直上土］（第 450 図、第 87・88・92・98 表、図版 305・307 ～ 310・312）

２流路が埋没した直後に形成された包含層で、４区北区と南区の２流路上面に堆積する。Ⅰｂ層と同様に、中世前期までの遺物を含む。

Po676 ～ 685 は手づくね土師器の皿である。大中小の三法量ある。回転台成形の土師器は、Po686 ～ 688 が皿、Po689 ～ 691 が坏、Po692 は高台付きの坏、Po693 は柱状高台である。Po694 はミニチュア土器で他のミニチュア土器と比較して器壁は薄く、器とするには疑問がある。

Po695 ～ 704 は土師器鍋である。古代の甕に比べると、体部は張り出さず、底部に向かいすぼまり、内外面ともにハケ調整を施す。外面のハケは消されるものもあるが、内面は口縁部までハケ調整がある。Po705・706 は瓦質土器の鍋である。須恵器は Po707 が壺、Po708 が甕体部片である。白磁は Po709 が輪花碗、Po710 は玉縁の口縁部をもつ白磁Ⅳ類碗、Po711 も白磁Ⅳ類碗の底部である。Po871 は白磁碗の体部で、写真掲載のみ。

S41 は表裏面に素材面を残す無斑晶安山岩の平基無茎式石鏃である。

［Ⅱｂ層］（第 450 ～ 452 図、第 88 ～ 90・92・93・96・98・99 表、図版 304・306 ～ 310・312）

Po712 は弥生土器の甕の口縁部である。Po713 ～ 717 は複合口縁をもつ土師器の壺または甕である。Po718 は口縁部が「く」の字状で体部の丸い布留系の甕である。Po719 は低脚坏、Po720 は小型丸底壺、Po721 ～ 725 はミニチュア土器である。

須恵器は Po726 ～ 734 が蓋である。Po726 は円柱状、Po727 は環状のつまみをもつ。Po728 ～ 732 の口縁端部付近にかえりが付く。Po735 ・ 738 ～ 740 は須恵器の高台付きの坏で、Po735 の体部は内湾する。Po736 ・ 737 は坏の口縁部、Po744 ・ 745 は壺、Po741 ～ 743 は高坏、Po746 ～ 753 は甕体部片である。

Po754 ～ 757 は赤彩された土師器である。Po754 の赤彩は僅かである。Po756 の内面は工具によるナデあり。Po757 は底部回転糸切りである。回転台成形の土師器は、Po758 ～ 760 が坏、Po761 が底部、Po762 ～ 764 は高台付きの坏、Po765 ～ 767 は柱状高台である。手づくね成形の土師器皿は、Po768 ～ 770 である。Po771 ～ 775 は土師器の甕である。Po776 は土師器の鍋ではあるが、口縁部の屈曲は小さい。Po777 は受け口をもつ瓦質土器の鍋、Po778 ・ 779 は鍔の退化した瓦質土器の羽釜である。Po780 は白磁の皿である。Po877 ～ 880 はⅡｂ層で取上げているものの、上層からの落ち込みとみられる陶磁器である。写真のみ掲載する。Po877・878 は古瀬戸の壺体部、Po879 は瀬戸美濃の碗、Po880 は白磁碗である。

CP62 は甑や鍋等の把手、CP63 ～ 65 は移動式竈の一部である。CP66・67 は瓦で、CP66 は軒丸瓦の一部か。CP67 は平瓦で、切断面に工具の痕跡がある。S42 は結晶片岩の石庖丁、S43 は黒曜石の凹基無茎式石鏃である。

鉄製品は３点図化した。F22 は頭部が大きく平坦で、鉄釘の可能性が考えられる。F23 は不明鉄器である。F24 も不明鉄器であるが、鏨もしくは鉄釘と想定される。

［Ⅱｂ' 層・Ⅱｃ層・Ⅲａ層］（第 452 図、第 90・96・98 表、図版 304・306・309・311・312）

４区内にある部分的な堆積層から出土した遺物を一括して掲載する。Po781 ～ 785 はⅡｂ' 層、Po786 ～ 788、CP68 はⅡｃ層、S44 はⅢａ層から出土した。

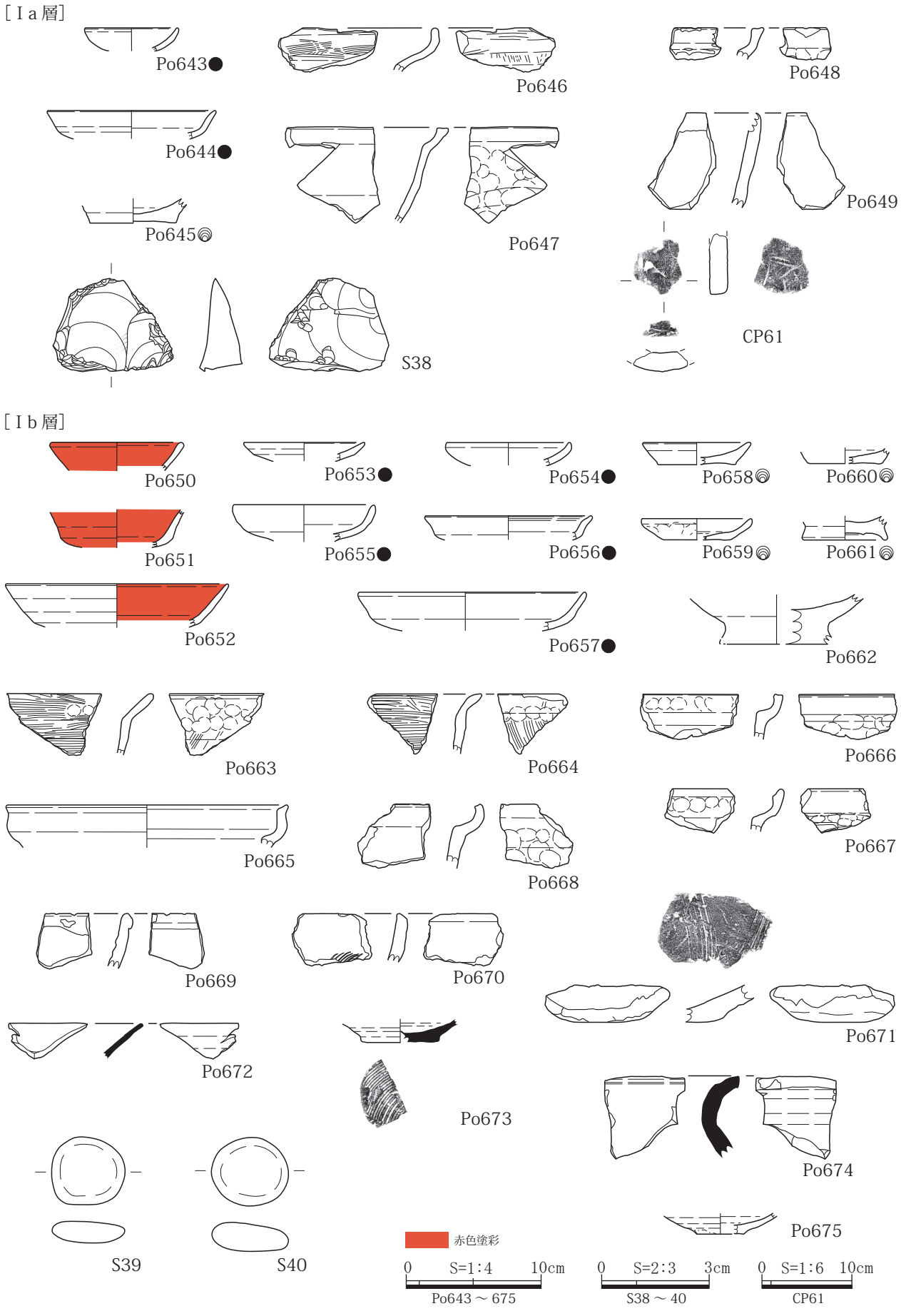
Po781 は弥生土器の底部。Po782 ～ 784 は回転台成形の坏または皿、Po785 は須恵器の甕体部片である。Po786 ・ 787 は土師器の複合口縁の甕、Po788 は小型器台の口縁部である。CP68 は鬣とみられる表現があることから、土馬の頸部付近とみられる。土師質焼成。S44 は南東区の東壁から出土した無斑晶安山岩の凹基無茎式石鏃である。

［調査区内］（第 453・454 図、第 90・91・93・96 ～ 98・102 表、図版 305・308 ～ 312・323）

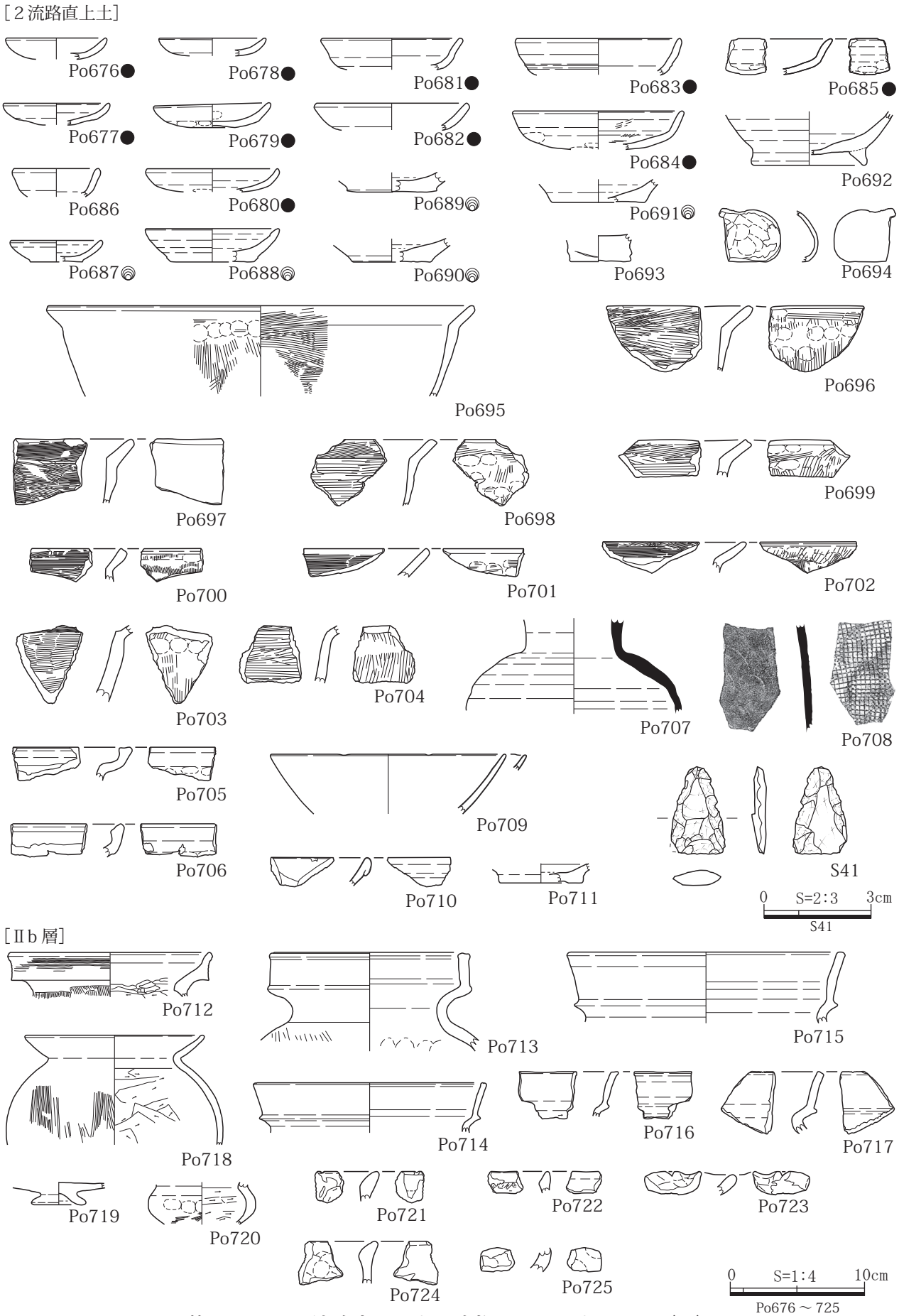
造成土、暗渠、撹乱土、清掃中、トレンチ内層位不明など層位を特定できない遺物を一括する。

Po789 は弥生土器の壺、Po790 ～ 792 は二重口縁をもつ土師器の甕である。須恵器は Po793 ・ 794 が坏身、Po795 ・ 796 が蓋、Po797 が坏、Po798 ～ 800 は高台付きの坏？、Po801 は高坏？、Po802 が壺、Po803 ～ 808 が甕体部片である。

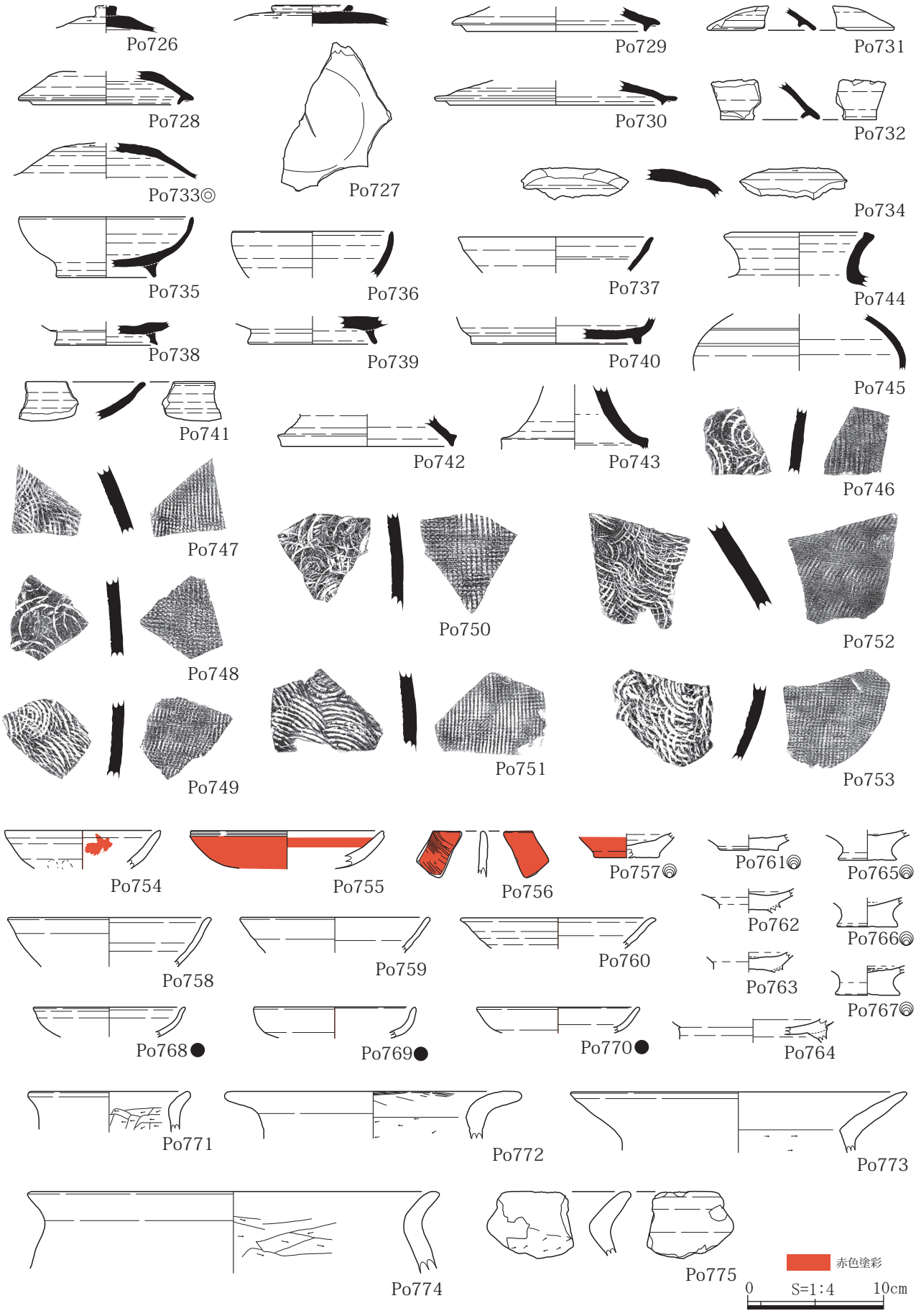
Po809 ～ 816 は手づくね成形の土師器皿である。Po817 ～ 819 は回転台成形の土師器皿、Po820 は土師器の坏、Po821 は瓦質土器の鍋である。陶磁器は Po822 が天目碗、Po823 が龍泉窯の青磁の盤？、Po824 が朝鮮陶器の碗で重ね焼きの胎土目跡がある。Po825 ・ 826 は備前焼の擂鉢、Po827



第 449 図　Ⅰａ層・Ⅰｂ層出土遺物

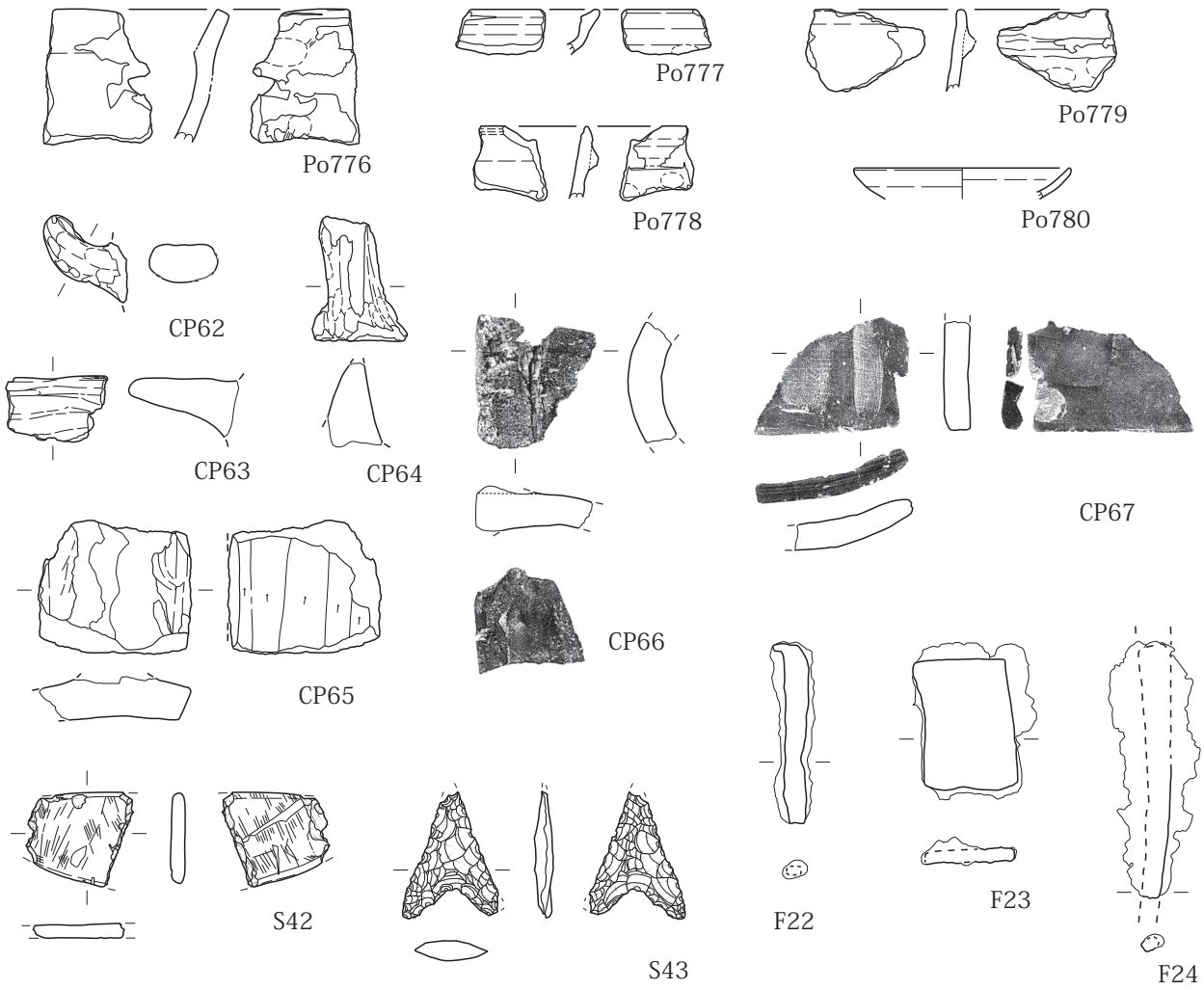


第 450 図　２流路直上土出土遺物、Ⅱｂ層出土土器（１）

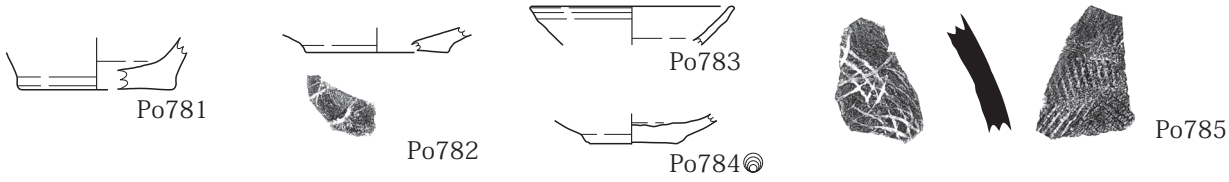


第 451 図　Ⅱ b 層出土土器（２）

［Ⅱb 層］

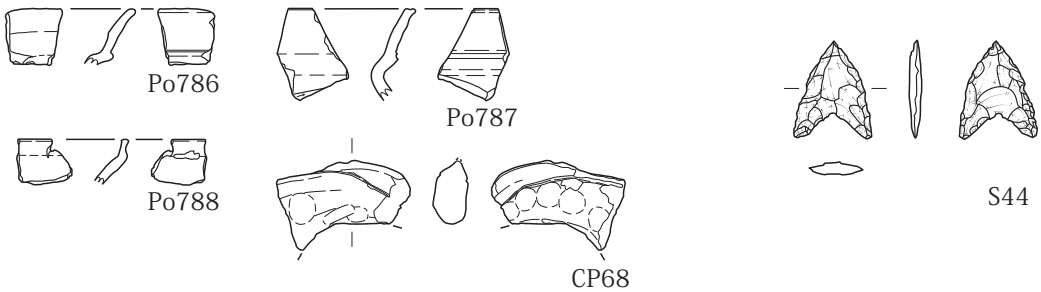


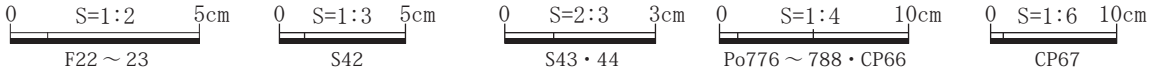
［Ⅱb' 層］



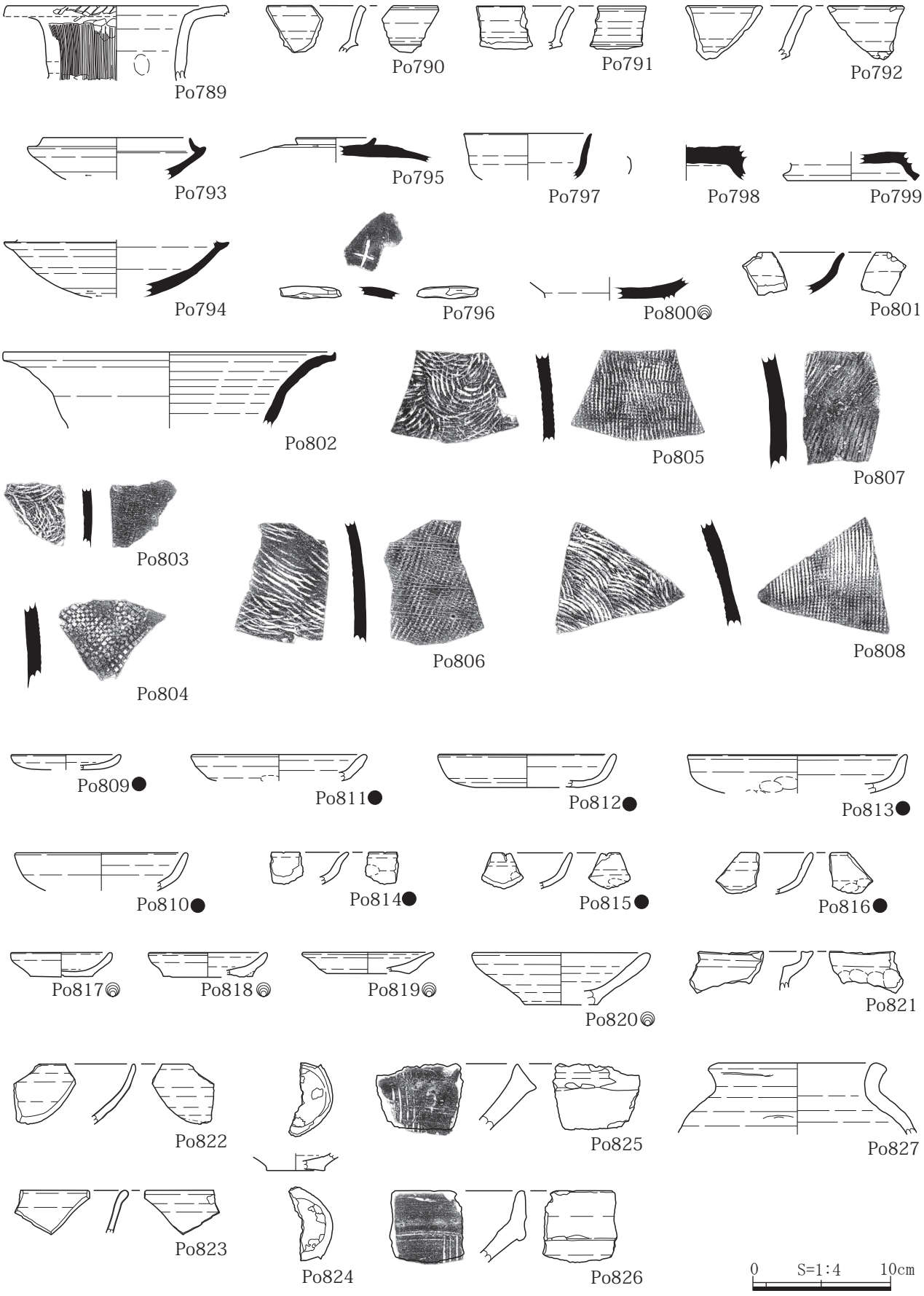
［Ⅱc 層］

［Ⅲa 層］

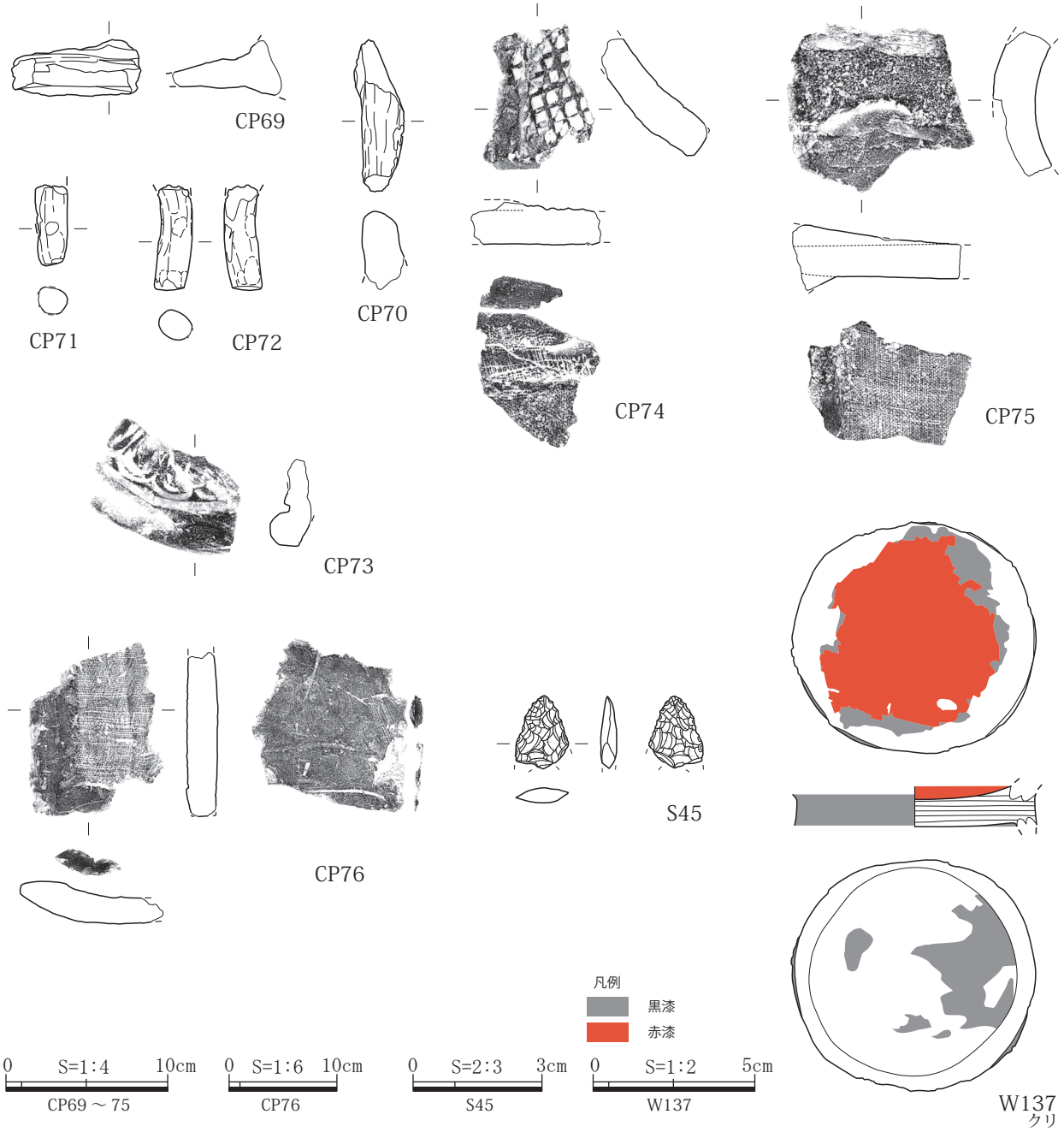




第 452 図　Ⅱ b 層・Ⅱ b' 層・Ⅱ c 層・Ⅲ a 層出土遺物



第 453 図　調査区内出土遺物（１）



第 454 図　調査区内出土遺物（２）

は備前焼の壺である。Po881 ～ 884 は写真掲載のみ。Po881 ・ 882 は白磁碗、Po883 は白磁皿、Po884 は青磁皿である。

土製品は、CP69 ・ 70 が移動式竈、CP69 は先端部が欠損している庇部、CP70 は掛口の一部か。CP71 ・ 72 は土師器焼成の土馬の脚部である。いすれも脚部のみ。CP73 ～ 76 は瓦。CP73 はわずかに蓮弁部分が残る瓦当部で軒丸瓦Ⅰ類。CP74 も瓦当面の可能性がある。剥離痕が認められる。CP75 は軒丸瓦で凹面は布目。CP76 は平瓦の一部、凹面に布末端の痕跡がある。

黒曜石の凹基無茎式石鏃 S45 の基部は欠損する。

W137 は口縁部と高台部が欠損したクリ材の漆器椀である。内面には黒色漆の上面に朱漆、外面には高台内の一部に黒色漆が残る。

第６節　鍛冶関連遺物

第１項　出土傾向と特徴

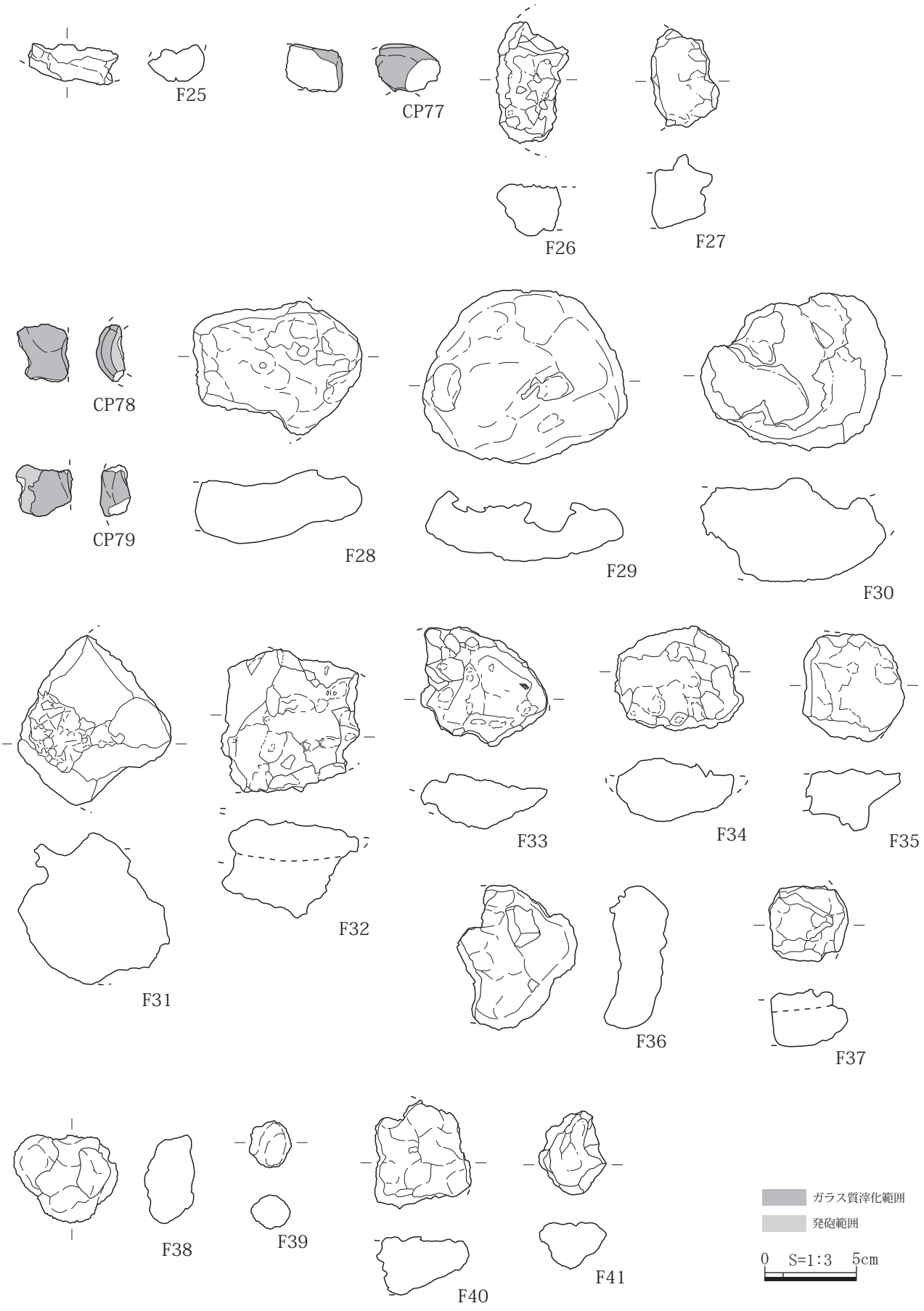
大鴨遺跡では、鍛冶関連遺物が788点（総重量19.018kg）出土している。北側に隣接する石塚廃寺東遺跡では鋳造関連遺物が数多く出土し、鍛冶関連遺物はほとんどみられないことから対照的な出土傾向を示す。調査区毎の出土量は、２区が606点（14.287kg）、３区が181点（4.560kg）、４区は１点（0.171kg）となり、２・３区に集中する。つまり、石塚廃寺に近い調査区ほど出土量が多くなる傾向にある。

鍛冶関連遺物は､古代の道路遺構や竪穴建物や掘立柱建物などの遺構から満遍なく出土しているが､最も出土が集中するのは51道路である。その大部分は波板状凹凸面内に礫や土器などとともに補強材として充填されている。次いで、出土量が多い竪穴建物１・２では炉跡が検出されたが、鍛造剥片や粒状滓などの微細遺物は回収されておらず、積極的に鍛冶工房と評価できない。ただし、２・３区に隣接した場所、とくに標高が高い北西側に鍛冶工房が展開している可能性が高く、操業時期は出土した遺構の年代から、７世紀後半から10世紀頃の範疇で捉えられる。出土量から、操業規模は小さ

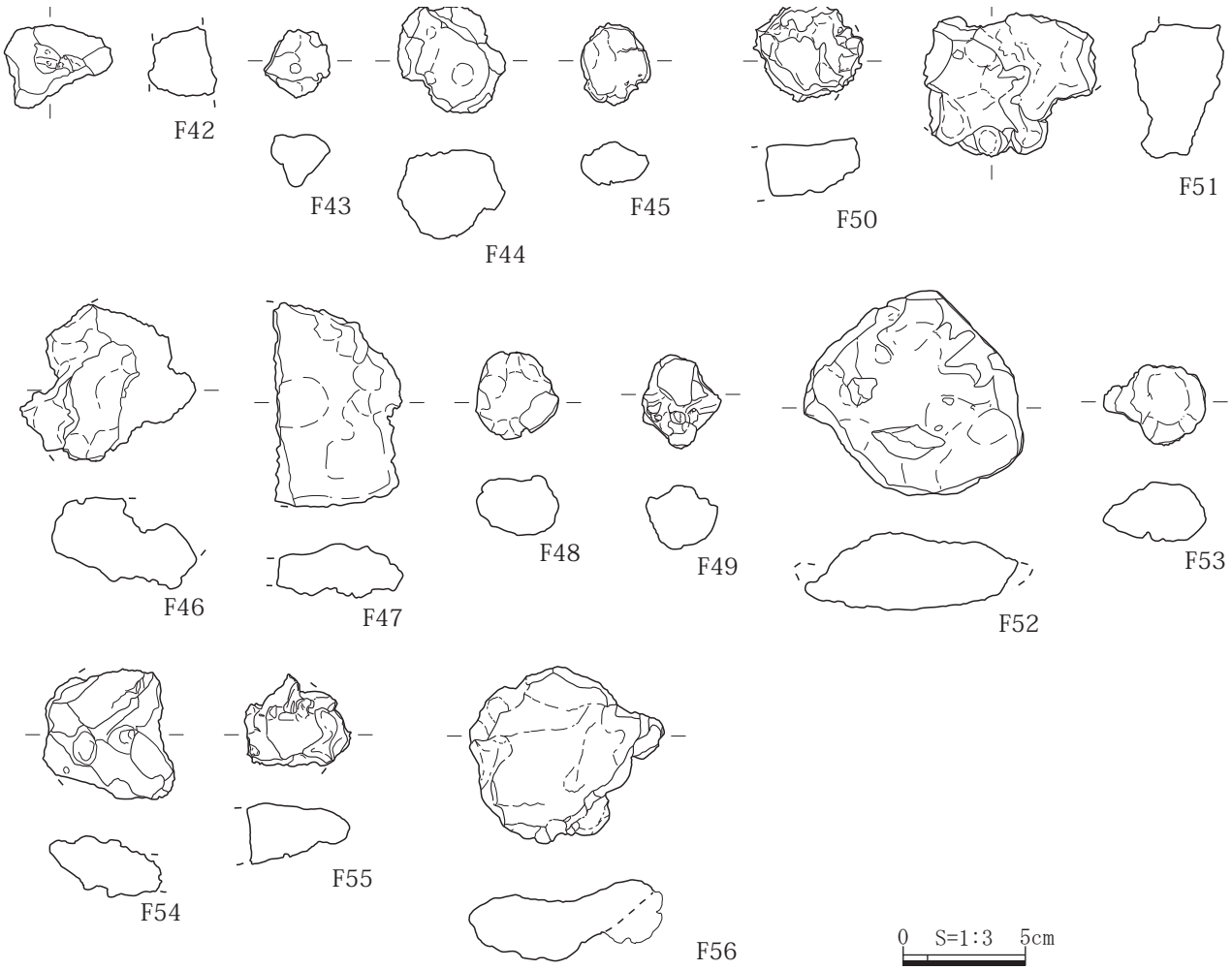
第25表　鍛冶関連遺物観察表

△：残存値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	地区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm・g)				備考
									最大長	最大幅	最大厚	重量	
F25	455	324	126	2区	7a-8C-8a	50溝	埋土	椀形鍛冶滓	△4.9	△2.2	2.0	43.5	
CP77	455	324	395	2区	7a-8B-9j	63土坑	埋土	羽口（先端部破片）	△3.1	△2.6	2.3	27.0	
F26	455	324	447	2区	7a-8B-9j	63土坑	埋土	椀形鍛冶滓	△4.0	△6.6	2.8	67.5	
F27	455	324	103	2区	7a-9C-1a	60柱穴	埋土	椀形鍛冶滓	△3.7	△5.3	4.0	77.0	
CP78	455	324	974	2区	7a-8C-8a	51道路	埋土	羽口（先端部破片）	△2.9	△3.2	△0.9	13.5	
CP79	455	324	1107	2区	7a-8C-8a	51道路	埋土	羽口（先端部破片）	△3.1	△2.8	△1.3	12.5	
F28	455	324	1200	2区	7a-8B-9j	51道路	埋土	椀形鍛冶滓	△9.2	△7.3	4.0	331.5	
F29	455	324	1322	2区	7a-8B-9j	51道路	埋土	椀形鍛冶滓	11.2	9.5	3.9	426.5	
F30	455	324	980	2区	7a-8C-8a	51道路	埋土	椀形鍛冶滓	△9.8	△8.6	5.6	582.0	
F31	455	324	1077	2区	7a-8C-8a	51道路	埋土	椀形鍛冶滓	△8.4	△9.2	8.3	404.0	
F32	455	324	1056	2区	7a-8C-8a	51道路	埋土	椀形鍛冶滓	△7.6	△7.8	5.4	397.0	
F33	455	324	1060	2区	7a-8C-8a	51道路	埋土	椀形鍛冶滓	△7.0	△6.5	3.0	153.5	
F34	455	324	1235	2区	7a-8C-8a	51道路	埋土	椀形鍛冶滓	△7.1	△5.7	3.4	162.5	
F35	455	324	1058	2区	7a-8C-8a	51道路	埋土	椀形鍛冶滓	△5.6	△5.9	3.4	123.0	
F36	455	324	1075	2区	7a-8C-8a	51道路	埋土	椀形鍛冶滓	△6.6	7.9	3.5	201.0	
F37	455	324	982	2区	7a-8C-8a	51道路	埋土	椀形鍛冶滓	△4.4	△4.1	3.1	94.0	
F38	455	324	59	2区	7a-8C-8a		Ⅱb・Ⅱc層	鉄塊系遺物（含鉄）	5.7	4.8	2.7	121.5	
F39	455	324	67	2区	7a-8B-8j		Ⅱb・Ⅱc層	鉄塊系遺物（含鉄）	2.3	2.5	1.8	13.0	
F40	455	324	17	2区	7a-8C-10a		Ⅲ層上面	椀形鍛冶滓	△5.3	△5.9	3.2	113.0	
F41	455	324	3	2区	7a-8B・8C・9B・9C		Ⅲ層上面	鉄塊系遺物（含鉄）	△3.7	△4.6	2.0	52.5	
F42	456	325	525	3区	7a-9C-3c	竪穴建物1	埋土下層	椀形鍛冶滓	△4.4	△3.4	2.8	39.0	
F43	456	325	629	3区	7a-9C-3c	竪穴建物1	貼床直上	鍛冶滓	2.7	2.8	2.1	15.0	
F44	456	325	507	3区	7a-9C-3c	竪穴建物1	貼床直上	椀形鍛冶滓	4.4	4.6	3.6	75.5	北西側
F45	456	325	636	3区	7a-9C-3c	竪穴建物1	埋土上層	鍛冶滓	2.8	3.4	1.7	22.0	
F46	456	325	834	3区	7a-9C-2a	竪穴建物2	埋土下層	椀形鍛冶滓	△7.2	△6.4	3.7	189.0	
F47	456	325	959	3区	7a-9C-2a	竪穴建物2 315ピット	埋土	椀形鍛冶滓	△5.3	8.4	2.2	148.5	
F48	456	325	829	3区	7a-9C-2a	竪穴建物2	埋土下層	鍛冶滓	3.4	3.6	2.4	28.0	
F49	456	325	837	3区	7a-9C-2a	竪穴建物2	埋土下層	鍛冶滓	3.3	3.9	2.6	19.0	
F50	456	325	258	3区	7a-9C-2b	掘立柱建物10 19柱穴	埋土	椀形鍛冶滓	△4.5	△4.0	△2.1	55.0	
F51	456	325	282	3区	7a-9C-3c	掘立柱建物11 115柱穴	1層	椀形鍛冶滓	△7.1	△5.8	3.2	181.0	
F52	456	325	781	3区	7a-9B-3j	52道路	路床	椀形鍛冶滓	△9.0	△8.8	3.2	264.0	
F53	456	325	280	3区	7a-9C-2b	42柱穴	1層	鍛冶滓	4.2	3.3	2.4	28.0	
F54	456	325	102	3区	7a-9B-3j		Ⅱb層	椀形鍛冶滓	△5.4	△5.3	2.5	84.5	
F55	456	325	13	3区	7a-9C-2a		Ⅱb層	椀形鍛冶滓	△4.4	△3.8	△2.4	45.0	
F56	456	325	218	4区南東	7a-10C-4a		西壁	椀形鍛冶滓	8.1	7.2	3.3	171.5	



第 455 図　２区出土鍛冶関連遺物



第 456 図　３・４区出土鍛冶関連遺物

いが、石塚廃寺の南門周辺で鍛冶工房が営まれていたと考えられ、古代寺院周辺の様相を解明するうえで興味深い成果といえる。

第２項　出土遺物の概要

鍛冶関連遺物（第 455・456 図、第 25 表、図版 324・325）

大鴨遺跡から出土した鍛冶関連遺物は、鞴羽口、椀形鍛冶滓、鍛冶滓、鉄塊系遺物、粘土質溶解物などで構成される。詳細な分類整理や金属学的分析は行っていないが、多くは鍛錬鍛冶に伴う資料と考えられる。本書では 35 点を図化した。

CP77 ～ 79 は鞴羽口の先端部破片である。CP77 は 63 土坑、CP78 ・ 79 は 51 道路の出土資料である。通風孔径や外径は復元しえないが、いずれも小型の羽口で、先端部が黒色ガラス質に滓化していることから、鍛錬鍛冶に伴う可能性が高い。

F26 は 63 土坑から出土した椀形鍛冶滓で、羽口先端部に由来する粘土質溶解物が主体となる。F28 ～ 37 は 51 道路から出土した椀形鍛冶滓である。F29 は周縁部に小破面が連続するが、ほぼ完形に近い中型の椀形鍛冶滓である。F30・31 は大型の椀形鍛冶滓の破片資料である。F32・37 は重層する椀形鍛冶滓である。F42 ～ 45 は竪穴建物１、F46 ～ 49 は竪穴建物２から出土した椀形鍛冶滓と鍛冶滓である。F38・39・41 は含鉄で、鉄塊系遺物の可能性を持つ資料である。

第７節　遺構計測表・遺物観察表

凡例　△：残存値

※　長さ 10m を超える場合は小数点以下第１位までとした

第１項　大鴨遺跡の竪穴建物・掘立柱建物・柵列の遺構計測表

第 26 表　竪穴建物　遺構計測表

集合遺構名	調査区	グリッド T52-	遺構面	主軸	規模（m・㎡）					調査時遺構名	備考
					長軸	短軸	深さ	平面積	床面積		
竪穴建物 1	3 区	7a-9C-3c	1 面	N-25° -W	△ 5.0	3.8	0.40	△ 19.0	19.0㎡	S56	一部調査区外
竪穴建物 2	3 区	7a-9C-2a	1 面	N-18° -W	△ 4.5	3.3	0.29	△ 14.0	14.0㎡	S181	
竪穴建物 3a	4 区北	7a-9C-5b・6b	2 面	N-35° -E	5.2	4.2	0.52	22.3	15.3㎡	S65	
竪穴建物 3b	4 区北	7a-9C-5b・6b	2 面	N-35° -E	5.2	4.6	0.52	22.3	17.0㎡	S65	
竪穴建物 4a	4 区北	7a-9C-4c・4d・5c	2 面	N-33° -E	6.5	6.2	0.56	33.3	20.2㎡	S66	
竪穴建物 4b	4 区北	7a-9C-4c・4d・5c	2 面	N-35° -E	6.5	6.2	0.56	33.3	22.6㎡	S66	
竪穴建物 4c	4 区北	7a-9C-4c・4d・5c	2 面	N-33° -E	6.5	6.2	0.56	33.3	24.2㎡	S66	
竪穴建物 4d	4 区北	7a-9C-4c・4d・5c	2 面	N-33° -E	6.5	6.2	0.56	33.3	27.5㎡	S66	
竪穴建物 5	4 区北	7a-9C-5d・6d	1 面	N-13° -E	5.5	3.9	0.11	△ 17.2	−	S45	
竪穴建物 6	4 区北	7a-9C-4c・4d	1 面	N-22° -E	3.7	△ 3.0	0.17	△ 6.3	−	S292	S141（焼土）、一部調査区外

第 27 表　竪穴建物１～３　遺構計測表

調査区	遺構名	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	規模 (m)			底面標高 (m)	主軸	備考（遺構重複　新＞旧）	掲載遺物
						長軸	短軸	深さ				
3 区	竪穴建物 1	56	−	7a-9C-3c	1 面	△ 5.04	3.81	0.40	−	N-25° -W	掘立 11・13、260 柱穴＞竪穴 1	Po211 ～ 217、CP37、F4 ～ 6・44・45、試料 37
3 区	竪穴建物 1	232	被熱面	7a-9C-3c	1 面	0.32	0.17	0.02	64.51	−	竪穴 1 床面で検出	
3 区	竪穴建物 2	181	−	7a-9C-2a	1 面	△ 4.45	3.26	0.29	−	N-18° -W		Po218 ～ 236、S11、F7・46・48・49
3 区	竪穴建物 2	417	柱穴	7a-9C-2a	1 面	0.34	0.30	0.49	63.41	−	主柱穴　柱痕跡	
3 区	竪穴建物 2	418	柱穴	7a-9C-2a	1 面	0.53	0.35	0.65	63.45	−	主柱穴　柱痕跡	
3 区	竪穴建物 2	306	ピット	7a-9C-2a	1 面	0.38	0.37	0.20	63.81	−	306 ピット＞ 420 ピット	
3 区	竪穴建物 2	315	ピット	7a-9C-2a	1 面	0.94	0.37	0.10	63.88	−		F47
3 区	竪穴建物 2	350	ピット	7a-9C-2a	1 面	0.46	0.37	0.20	63.81	−		
3 区	竪穴建物 2	403	ピット	7a-9C-2a	1 面	0.51	0.45	0.12	63.88	−		
3 区	竪穴建物 2	420	ピット	7a-9C-2a	1 面	0.48	△ 0.22	0.21	63.78	−		
3 区	竪穴建物 2	423	ピット	7a-9C-2a	1 面	0.17	0.16	0.06	63.83	−		
4 区北	竪穴建物 3	65	−	7a-9C-5b・6b	2 面	5.24	4.62	0.52	−	N-35° -E		Po533 ～ 536・538 ～ 572・574 ～ 575、S25 ～ 29
4 区北	竪穴建物 3	101	中央ピット	7a-9C-5b・6b	2 面	0.66	0.47	0.33	−	−		Po862
4 区北	竪穴建物 3	81	壁溝	7a-9C-5b・6b	2 面	−	0.28	0.04	−	−	竪穴 3a の壁溝	
4 区北	竪穴建物 3	82	壁溝	7a-9C-5b・6b	2 面	−	0.16	0.05	−	−	竪穴 3b の壁溝	
4 区北	竪穴建物 3	84	柱穴	7a-9C-6b	2 面	0.41	0.37	0.34	63.54	−	竪穴 3b の主柱穴	
4 区北	竪穴建物 3	85	柱穴	7a-9C-5b・6b	2 面	0.37	0.32	0.38	63.48	−	竪穴 3b の主柱穴	
4 区北	竪穴建物 3	89	柱穴	7a-9C-6b	2 面	0.35	0.33	0.38	63.48	−	竪穴 3a の主柱穴	
4 区北	竪穴建物 3	90	柱穴	7a-9C-5b	2 面	0.36	0.34	0.30	63.52	−	竪穴 3b の主柱穴	
4 区北	竪穴建物 3	91	柱穴	7a-9C-5b	2 面	0.45	0.38	0.41	63.42	−	竪穴 3b の主柱穴	
4 区北	竪穴建物 3	102	柱穴	7a-9C-5b・6b	2 面	0.47	0.37	0.44	−	−		Po573
4 区北	竪穴建物 3	108	柱穴	7a-9C-5b	2 面	0.46	0.34	0.52	63.34	−	竪穴 3a の主柱穴	
4 区北	竪穴建物 3	58	ピット	7a-9C-5b	2 面	0.37	0.36	0.13	−	−		Po537
4 区北	竪穴建物 3	106	ピット	7a-9C-5b・6b	2 面	0.28	0.25	0.08	−	−		
4 区北	竪穴建物 3	88	ピット	7a-9C-6b	2 面	0.33	0.31	0.06	−	−		

第 28 表　竪穴建物４～６　遺構計測表

調査区	遺構名	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	規模 (m)			底面標高 (m)	主軸	備考 (遺構重複　新＞旧)	掲載遺物
						長軸	短軸	深さ				
4 区北	竪穴建物 4	66	—	7a-9C-4c・4d・5c	2 面	6.48	6.15	0.56	−	N-33° -E ～ N-35° -E	竪穴建物 6 ＞竪穴建物 4	Po568・576 ～ 578・580 ～ 641・863、S30 ～ 37・47、F20・21
4 区北	竪穴建物 4	164	中央ピット	7a-9C-4c	2 面	1.00	0.57	0.59	63.56	N-61° -W		Po630
4 区北	竪穴建物 4	165	壁溝	7a-9C-4c・4d・5c	2 面	−	最大幅 0.14	0.03	−	−	竪穴 4d の壁溝	
4 区北	竪穴建物 4	242	壁溝	7a-9C-4c・4d・5c	2 面	−	最大幅 0.17	0.04	−	−	竪穴 4c の壁溝	
4 区北	竪穴建物 4	252	壁溝	7a-9C-4c・4d・5c	2 面	−	最大幅 0.15	0.01	−	−	竪穴 4b の壁溝	
4 区北	竪穴建物 4	258	壁溝	7a-9C-4c・4d・5c	2 面	−	最大幅 0.09	0.02	−	−	竪穴 4a の壁溝	
4 区北	竪穴建物 4	220	溝	7a-9C-4c	2 面	残存長 △ 1.10	0.14	0.04	−	N-16° -W		
4 区北	竪穴建物 4	225	粘土塊	7a-9C-4d	2 面	0.93	0.46	高さ 0.16	−	−		
4 区北	竪穴建物 4	160	柱穴	7a-9C-4c	2 面	0.34	0.32	0.48	63.77	−		Po579・600
4 区北	竪穴建物 4	161	柱穴	7a-9C-4d	2 面	0.47	0.41	0.43	63.82	−		
4 区北	竪穴建物 4	162	柱穴	7a-9C-4c	2 面	0.37	0.34	0.50	63.69	−		
4 区北	竪穴建物 4	163	柱穴	7a-9C-4c	2 面	0.38	0.38	0.52	63.70	−		
4 区北	竪穴建物 4	224	ピット	7a-9C-4c	2 面	0.25	0.24	0.06	64.19	−		
4 区北	竪穴建物 5	45	−	7a-9C-5d・6d	1 面	5.52	3.95	0.11	−	N-13° -E		Po429 ～ 447・864 CP54 ～ 56
4 区北	竪穴建物 6	292	−	7a-9C-4c・4d	1 面	残存長 △ 2.96	3.66	0.17	−	N-22° -E	竪穴建物 6 ＞竪穴建物 4	Po448・449
4 区北	竪穴建物 6	141	焼土	7a-9C-4c・4d	1 面	0.30	0.28	−	−	−		

第 29 表　掘立柱建物　遺構計測表

調査区	集合遺構名	グリッド T52-	遺構面	建物区分	規模（m）		平面積（㎡）	主軸	備　考
					桁行	梁行			
1 区	掘立柱建物 1	7a-10C-10c・10d	1 面	総柱	7.3	3.9	28.5	N-14° -E	桁行 3 間×梁行 2 間
1 区	掘立柱建物 2	8a-1C-1d・1e	1 面	総柱	8.0	5.6	44.8	N-68° -W	桁行 4 間×梁行 2 間
1 区	掘立柱建物 3	7a-10C-10d	1 面	総柱	5.9	4.7	27.7	N-18° -E	桁行 2 間×梁行 2 間
1 区	掘立柱建物 4	7a-10C-10d 8a-1C-1d・1e	1 面	総柱	5.4	3.7	20.0	N-15° -E	桁行 2 間×梁行 2 間
1 区	掘立柱建物 5	7a-10C-9d・10d	1 面	側柱	4.6	2.6	12.0	N-13° -E	桁行 2 間×梁行 1 間
2 区	掘立柱建物 6	7a-8B-8j・9j	1 面	側柱	2.8	2.7	7.6	N-12° -E	桁行 2 間×梁行 2 間
2 区 3 区	掘立柱建物 7	7a-9C-2a 7a-9B-1j・2j	1 面	側柱	4.0	3.2	13.1	N-33° -E	桁行 2 間×梁行 2 間
3 区	掘立柱建物 8	7a-9C-2b・3b・3a	1 面	側柱	5.1	3.8	19.6	N-23° -E	桁行 3 間×梁行 2 間
3 区	掘立柱建物 9	7a-9C-2a	1 面	側柱	4.5	3.3	14.0	N-23° -E	桁行 2 間×梁行 2 間
3 区	掘立柱建物 10	7a-9C-2b・3b・2c	1 面	側柱	5.6	3.6	20.0	N-19° -E	桁行 3 間×梁行 2 間 掘立柱建物 10 ＞掘立柱建物 12
3 区	掘立柱建物 11	7a-9C-3b・3c・4c	1 面	側柱	△ 3.7	2.8	△ 13.4	N-23° -E	桁行 2 間以上×梁行 2 間
3 区	掘立柱建物 12	7a-9C-2b・2c	1 面	側柱	3.0	3.0	9.0	N-28° -E	桁行 2 間×梁行 2 間 掘立柱建物 10 ＞掘立柱建物 12
3 区	掘立柱建物 13	7a-9C-3c	1 面	不明	−	3.1	△ 30.8	N-30° -E	桁行不明×梁行 2 間 掘立柱建物 13 ＞掘立柱建物 14
3 区	掘立柱建物 14	7a-9C-3c	1 面	側柱	−	3.0	△ 25.8	N-28° -E	桁行不明×梁行 2 間 掘立柱建物 13 ＞掘立柱建物 14
3 区 4 区北	掘立柱建物 15	7a-9C-4a・5a	2 面	側柱	2.1	2.1	4.4	N-23° -E	桁行 1 間×梁行 1 間 掘立柱建物 15 ＞掘立柱建物 16
3 区 4 区北	掘立柱建物 16	7a-9C-4a・5a	2 面	側柱	2.2	2.1	4.4	N-24° -E	桁行 1 間×梁行 1 間 掘立柱建物 15 ＞掘立柱建物 16
4 区北	掘立柱建物 17	7a-9C-7c	1 面	総柱	3.7	3.2	11.7	N-21° -E	桁行 2 間×梁行 2 間
4 区北	掘立柱建物 18	7a-9C-3c・4c・4d	1 面	側柱	2.4	1.9	4.6	N-19° -E	桁行 1 間×梁行 1 間
4 区北	掘立柱建物 19	7a-9C-8e	1 面	側柱	−	2.7	−	N-68° -W	桁行不明×梁行 2 間 掘立柱建物 22 ＞掘立柱建物 19
4 区北	掘立柱建物 20	7a-9C-7e・8e	1 面	側柱	2.8	△ 1.8	△ 3.8	N-37° -E	桁行 2 間×梁行 2 間以上
4 区北	掘立柱建物 21	7a-9C-6d・6e	1 面	側柱	3.1	−	△ 3.1	N-29° -E	桁行 2 間×梁行不明
4 区北	掘立柱建物 22	7a-9C-8e・9e	1 面	側柱	△ 2.4	2.7	△ 5.5	N-54° -W	桁行 2 間以上×梁行 2 間 掘立柱建物 22 ＞掘立柱建物 19
4 区南	掘立柱建物 23	7a-10C-5h・6h	1 面	側柱	2.4	1.1	2.6	N-7° -E	桁行 1 間×梁行 1 間
4 区南	掘立柱建物 24	7a-10C-6b・6c・7c	1 面	側柱	5.6	4.7	26.3	N-13° -E	桁行 2 間×梁行 2 間
4 区南	掘立柱建物 25	7a-10C-6b・6c	1 面	側柱	4.8	2.1	10.1	N-73° -W	桁行 2 間×梁行 1 間
4 区南	掘立柱建物 26	7a-10C-6b・6c	1 面	側柱	4.8	1.7	8.2	N-73° -W	桁行 2 間×梁行 1 間

第 30 表　掘立柱建物１～５　遺構計測表

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
1 区	掘立柱建物 1	63	7a-10C-10c	1 面	0.19	0.18	0.14	65.39				
1 区	掘立柱建物 1	64	7a-10C-10c	1 面	0.12	0.11	0.22	65.32				
1 区	掘立柱建物 1	65	7a-10C-10c	1 面	0.19	0.17	0.43	65.13			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 1	66	7a-10C-10c・10d	1 面	0.34	0.24	0.43	65.13				
1 区	掘立柱建物 1	67	7a-10C-10d	1 面	0.21	0.20	0.18	65.36				
1 区	掘立柱建物 1	68	7a-10C-10d	1 面	0.24	0.21	0.21	65.33				
1 区	掘立柱建物 1	69	7a-10C-10d	1 面	0.11	0.11	0.22	65.33				
1 区	掘立柱建物 1	70	7a-10C-10d	1 面	0.13	0.12	0.03	65.53				
1 区	掘立柱建物 1	71	7a-10C-10d	1 面	0.15	0.14	0.37	65.17			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 1	72	7a-10C-10c・10d	1 面	0.17	0.15	0.27	65.27				
1 区	掘立柱建物 1	73	7a-10C-10d	1 面	0.25	0.23	0.19	65.24				Po1
1 区	掘立柱建物 1	74	7a-10C-10d	1 面	0.24	0.22	0.29	65.27				

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
1 区	掘立柱建物 2	129	8a-1C-1d	1 面	0.49	0.42	0.66	64.89			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 2	130	8a-1C-1d・1e	1 面	0.47	0.42	0.56	65.00				
1 区	掘立柱建物 2	158	8a-1C-1e	1 面	0.44	0.36	0.53	65.03				
1 区	掘立柱建物 2	159	8a-1C-1d	1 面	0.44	0.43	0.70	64.86			柱痕跡	Po3
1 区	掘立柱建物 2	160	8a-1C-1e	1 面	0.38	0.34	0.52	65.02			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 2	161	8a-1C-1e	1 面	0.39	0.38	0.44	65.12				試料 28
1 区	掘立柱建物 2	162	8a-1C-1e	1 面	0.38	0.37	0.39	65.17				
1 区	掘立柱建物 2	163	8a-1C-1e	1 面	0.40	0.37	0.46	65.08				
1 区	掘立柱建物 2	164	8a-1C-1e	1 面	0.44	0.39	0.58	65.00				
1 区	掘立柱建物 2	165	8a-1C-1e	1 面	0.48	0.43	0.65	64.92			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 2	166	8a-1C-1e	1 面	0.37	△ 0.33	0.63	64.93			柱痕跡	Po2
1 区	掘立柱建物 2	167	8a-1C-1e	1 面	0.47	0.44	0.58	65.00				
1 区	掘立柱建物 2	168	8a-1C-1e	1 面	0.40	0.36	0.53	65.03				
1 区	掘立柱建物 2	169	8a-1C-1e	1 面	0.42	0.38	0.47	65.07				
1 区	掘立柱建物 2	170	8a-1C-1e	1 面	0.45	0.40	0.52	65.06				

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
1 区	掘立柱建物 3	78	7a-10C-10d	1 面	0.44	0.29	0.40	65.13			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 3	82	7a-10C-10d	1 面	0.31	0.23	0.25	65.30				
1 区	掘立柱建物 3	84	7a-10C-10d	1 面	0.31	0.26	0.22	65.33				Po4
1 区	掘立柱建物 3	91	7a-10C-10d	1 面	0.27	0.23	0.30	65.27			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 3	113	7a-10C-10d	1 面	0.25	0.24	0.58	64.97			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 3	114	7a-10C-10d	1 面	0.24	0.24	0.44	65.11				Po5
1 区	掘立柱建物 3	122	7a-10C-10d	1 面	0.30	0.27	0.43	65.12			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 3	125	7a-10C-10d	1 面	0.19	0.17	0.50	65.06		125 ＞ 126		
1 区	掘立柱建物 3	126	7a-10C-10d	1 面	0.32	0.28	0.38	64.96		125 ＞ 126	柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 3	135	7a-10C-10d	1 面	0.29	0.27	0.29	65.25			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 3	136	7a-10C-10d	1 面	0.27	0.25	0.56	65.00			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 3	176	7a-10C-10d	1 面	0.33	0.30	0.64	64.91			柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 3	181	7a-10C-10d	1 面	0.35	0.30	0.39	65.15		181 ＞ 182	柱痕跡	
1 区	掘立柱建物 3	182	7a-10C-10d	1 面	0.22	△ 0.13	0.35	65.19		181 ＞ 182		

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
1 区	掘立柱建物 4	88	7a-10C-10d	1 面	0.35	0.23	0.50	65.03		88 ＞ 209		
1 区	掘立柱建物 4	94	8a-1C-1d	1 面	0.26	0.19	0.34	65.22				
1 区	掘立柱建物 4	115	7a-10C-10d	1 面	0.33	0.31	0.56	64.99		115 ＞ 116		
1 区	掘立柱建物 4	116	7a-10C-10d	1 面	0.19	0.15	△ 0.38	65.18		115 ＞ 116		
1 区	掘立柱建物 4	118	8a-1C-1d	1 面	0.23	0.23	0.30	65.26				
1 区	掘立柱建物 4	128	7a-10C-10d 8a-1C-1d	1 面	0.31	0.30	0.29	65.28				
1 区	掘立柱建物 4	131	7a-10C-10d	1 面	0.44	0.34	0.46	65.10				
1 区	掘立柱建物 4	132	7a-10C-10d	1 面	0.34	0.31	0.41	65.13				
1 区	掘立柱建物 4	142	8a-1C-1d	1 面	0.32	0.30	0.55	65.01				
1 区	掘立柱建物 4	143	8a-1C-1e	1 面	0.23	0.21	0.50	65.06				
1 区	掘立柱建物 4	209	7a-10C-10d	1 面	△ 0.40	0.29	0.25	65.27		88 ＞ 209		

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
1 区	掘立柱建物 5	121	7a-10C-10d	1 面	0.21	0.20	0.19	65.36				
1 区	掘立柱建物 5	174	7a-10C-9d	1 面	0.23	0.22	0.40	65.15				Po6
1 区	掘立柱建物 5	175	7a-10C-9d	1 面	0.20	0.19	0.44	65.13				
1 区	掘立柱建物 5	178	7a-10C-10d	1 面	0.24	0.22	0.35	65.19				
1 区	掘立柱建物 5	184	7a-10C-10d	1 面	0.22	0.21	0.20	65.35				
1 区	掘立柱建物 5	185	7a-10C-10d	1 面	0.23	0.20	0.27	65.28				

第 31 表　掘立柱建物６～９　遺構計測表

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m)			底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ					
2 区	掘立柱建物 6	153	7a-8B-8j	1 面	0.37	0.34	0.15	63.21			柱痕跡	
2 区	掘立柱建物 6	154	7a-8B-8j	1 面	0.25	0.24	0.22	63.11			柱痕跡	
2 区	掘立柱建物 6	155	7a-8B-8j・9j	1 面	0.36	0.33	0.11	63.23			柱痕跡	
2 区	掘立柱建物 6	156	7a-8B-8j	1 面	0.38	0.35	0.16	63.12			柱痕跡	
2 区	掘立柱建物 6	157	7a-8B-9j	1 面	0.33	0.32	0.18	63.12			柱痕跡	
2 区	掘立柱建物 6	158	7a-8B-8j	1 面	0.38	0.31	0.14	63.10		167 ピット＞ 158 柱穴	柱痕跡	
2 区	掘立柱建物 6	159	7a-8B-9j	1 面	0.28	0.26	0.05	63.14			柱痕跡	
2 区	掘立柱建物 6	168	7a-8B-8j	1 面	0.37	0.32	0.01	63.17			柱痕跡	

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m)			底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ					
2 区	掘立柱建物 7	160	7a-9B-1j	1 面	0.38	0.35	0.27	63.41			柱痕跡	
2 区	掘立柱建物 7	161	7a-9B-1j	1 面	0.37	0.36	0.27	63.34			柱痕跡	
2 区	掘立柱建物 7	162	7a-9B-1j	1 面	0.42	0.4	0.26	63.58			柱抜き取り痕跡	
2 区	掘立柱建物 7	164	7a-9B-2j	1 面	0.40	△ 0.32	0.17	63.56		163 土坑＞ 164 柱穴	柱痕跡	
3 区	掘立柱建物 7	206	7a-9C-2a 7a-9B-2j	1 面	0.60	0.45	0.48	63.57			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 7	267	7a-9B-2j	1 面	0.38	0.30	0.26	63.50			柱痕跡	
3 区	掘立柱建物 7	271	7a-9B-2j	1 面	0.39	0.37	0.20	63.61			柱抜き取り痕跡	

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m)			底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ					
3 区	掘立柱建物 8	2	7a-9C-3a	1 面	0.73	0.63	0.36	63.80			柱抜き取り痕跡	Po237
3 区	掘立柱建物 8	3	7a-9C-3a	1 面	0.71	0.68	0.53	63.67			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 8	4	7a-9C-3a	1 面	0.67	0.59	0.46	63.73			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 8	5	7a-9C-3a	1 面	0.70	0.63	0.29	63.92			柱痕跡	Po238
3 区	掘立柱建物 8	6	7a-9C-3b	1 面	0.73	0.67	0.15	64.02			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 8	7	7a-9C-3b	1 面	0.62	0.55	0.30	63.84			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 8	8	7a-9C-3b	1 面	0.52	△ 0.50	0.20	63.99			柱痕跡	
3 区	掘立柱建物 8	9	7a-9C-3b	1 面	0.31	△ 0.10	0.17	64.00			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 8	10	7a-9C-2b・3b	1 面	0.60	0.57	0.56	63.59			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 8	11	7a-9C-3a	1 面	0.26	0.22	0.08	64.08				

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m)			底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ					
3 区	掘立柱建物 9	158	7a-9C-2a	1 面	0.56	0.45	0.50	63.48			柱抜き取り痕跡 上部にブロック土	
3 区	掘立柱建物 9	159	7a-9C-2a	1 面	0.55	0.55	0.49	63.76			柱抜き取り痕跡 下部にブロック土	
3 区	掘立柱建物 9	160	7a-9C-2a	1 面	0.68	0.58	0.55	63.73			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 9	161	7a-9C-2a	1 面	0.71	0.61	0.36	63.89			柱抜き取り痕跡 下部にブロック土	
3 区	掘立柱建物 9	162	7a-9C-2a	1 面	0.70	0.68	0.47	63.68			柱抜き取り痕跡 下部にブロック土	
3 区	掘立柱建物 9	164	7a-9C-2a	1 面	0.56	0.49	0.24	63.72			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 9	165	7a-9C-2a	1 面	0.44	△ 0.30	0.12	63.98			柱抜き取り痕跡	

第 32 表　掘立柱建物 10（１）　遺構計測表

調査区	集合遺構名	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	規模 (m)			底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
						長軸	短軸	深さ					
3 区	掘立柱建物 10	12	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.81	0.66	0.70	63.85			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 10	13	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.80	0.68	0.76	63.83	0.18	掘立 10 13 柱穴＞ 120 柱穴	柱抜き取り痕跡 下部にブロック土	Po239
3 区	掘立柱建物 10	14	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.62	△ 0.47	0.55	64.07		118 ピット＞ 14 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 10	15	柱穴	7a-9C-2b・3b	1 面	0.78	0.73	0.49	64.07		15 柱穴＞ 23 柱穴･81 ピット	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 10	16	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.54	△ 0.47	0.39	64.21		84 ピット＞ 16 柱穴＞ 57・85 ピット	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 10	18	柱穴	7a-9C-2b・2c	1 面	0.70	0.69	0.48	64.14		18 柱穴＞ 83 ピット＞ 40 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 10	19	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.90	0.55	0.48	64.14		19 柱穴＞掘立 12 105 柱穴、46 ピット	柱抜き取り痕跡	Po242、F50
3 区	掘立柱建物 10	20	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.80	0.63	0.66	63.82		20 柱穴＞ 89 ピット	柱抜き取り痕跡	Po241・243
3 区	掘立柱建物 10	21	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.64	0.61	0.52	64.04			柱抜き取り痕跡	Po240
3 区	掘立柱建物 10	80	柱穴	7a-9C-2c	1 面	0.90	0.56	0.57	64.12		17 柱穴・66 ピット＞ 80 柱穴＞ 122 ピット	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立 10 周辺	17	柱穴	7a-9C-2b・2c	1 面	0.52	0.44	0.62	64.04		17 柱穴＞掘立 10 80 柱穴	柱抜き取り痕跡	Po247
3 区	掘立 10 周辺	23	柱穴	7a-9C-2b	1 面	△ 0.97	0.66	0.47	64.21		掘立 10 15 柱穴＞ 23 柱穴＞ 81・152 ピット	柱抜き取り痕跡	Po244・245 試料 35・38

第 33 表　掘立柱建物 10（2）・11・12　遺構計測表

調査区	集合遺構名	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
3 区	掘立 10 周辺	40	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.68	△ 0.36	0.44	64.21		掘立 10 18 柱穴、83 ピット＞ 40 柱穴＞ 41 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立 10 周辺	41	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.55	△ 0.28	0.47	64.18		40 柱穴＞ 41 柱穴＞ 78 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立 10 周辺	44	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.72	0.70	0.50	64.15		44 柱穴＞ 57・84 ピット	柱抜き取り痕跡	試料 36
3 区	掘立 10 周辺	62	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.60	0.55	0.53	64.06		62 柱穴＞ 63・81 ピット	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立 10 周辺	78	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.58	△ 0.28	0.34	64.29		41 柱穴＞ 78 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立 10 周辺	82	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.53	△ 0.42	0.44	64.14		118 ピット＞ 82 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立 10 周辺	120	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.43	△ 0.22	0.26	64.36		掘立 10 13 柱穴＞ 120 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立 10 周辺	43	ピット	7a-9C-2b	1 面	0.92	0.69	0.44	64.19		43 ピット＞ 83・85 ピット		
3 区	掘立 10 周辺	46	ピット	7a-9C-2b	1 面	0.28	△ 0.26	0.45	64.24		掘立 10 19 柱穴・掘立 12 105 柱穴＞ 46 ピット		
3 区	掘立 10 周辺	57	ピット	7a-9C-2b	1 面	△ 0.31	△ 0.19	0.37	64.21		掘立 10 16 柱穴、44 柱穴、84 ピット＞ 57 ピット		
3 区	掘立 10 周辺	63	ピット	7a-9C-2b	1 面	0.63	△ 0.38	0.45	64.15		62 柱穴＞ 63 ピット		
3 区	掘立 10 周辺	66	ピット	7a-9C-2c	1 面	0.24	0.24	0.19	64.51		66 ピット＞掘立 10 80 柱穴		
3 区	掘立 10 周辺	81	ピット	7a-9C-2b	1 面	△ 0.51	△ 0.28	0.25	64.24		15・23・62 柱穴、152 ピット＞ 81 ピット		Po246
3 区	掘立 10 周辺	83	ピット	7a-9C-2b	1 面	0.68	△ 0.36	0.39	64.24		掘立 10 18 柱穴、43 ピット＞ 83 ピット＞ 40 柱穴		Po247
3 区	掘立 10 周辺	84	ピット	7a-9C-2b	1 面	0.71	0.49	0.40	64.23		44 柱穴＞ 84 ピット＞掘立 10 16 柱穴、57・85 ピット		
3 区	掘立 10 周辺	85	ピット	7a-9C-2b	1 面	0.93	△ 0.44	0.38	64.25		掘立 10 16 柱穴、43・84 ピット＞ 85 ピット		
3 区	掘立 10 周辺	89	ピット	7a-9C-2b	1 面	0.39	△ 0.35	0.42	64.27		掘立 10 20 柱穴＞ 89 ピット		
3 区	掘立 10 周辺	118	ピット	7a-9C-2b	1 面	0.61	0.49	0.62	63.99		118 ピット＞掘立 10 14 柱穴、82 柱穴		
3 区	掘立 10 周辺	152	ピット	7a-9C-2b	1 面	△ 0.37	△ 0.10	0.35	64.18		23 柱穴＞ 152 ピット＞ 81 ピット		

調査区	集合遺構名	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
3 区	掘立柱建物 11	71	柱穴	7a-9C-4c	1 面	0.32	0.27	0.27	64.36			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 11	111	柱穴	7a-9C-3c	1 面	0.84	0.80	0.50	64.24	0.24	108 ピット＞ 111 柱穴	柱抜き取り痕跡 下部にブロック土	Po248
3 区	掘立柱建物 11	112	柱穴	7a-9C-3c	1 面	0.78	0.74	0.58	64.17	0.28	112 柱穴＞竪穴 1	柱抜き取り痕跡	Po250
3 区	掘立柱建物 11	114	柱穴	7a-9C-3c	1 面	0.64	0.51	0.29	64.37			柱抜き取り痕跡	Po249
3 区	掘立柱建物 11	115	柱穴	7a-9C-3c	1 面	0.97	0.64	0.41	64.27		141 ピット＞ 115 柱穴＞ 182 土坑・173 ピット・竪穴 1	柱抜き取り痕跡	F51
3 区	掘立柱建物 11	131	柱穴	7a-9C-3b・3c	1 面	0.93	0.83	0.45	64.20		130 ピット＞ 131 柱穴＞ 157 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 11	145	柱穴	7a-9C-3c・4c	1 面	0.67	0.55	0.36	64.22		145 柱穴＞竪穴 1	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 11	155	柱穴	7a-9C-4c	1 面	0.43	0.40	0.55	64.11		155 柱穴＞ 139・156 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立 11 周辺	139	柱穴	7a-9C-4c	1 面	0.52	△ 0.34	0.54	64.15		155 柱穴＞ 139 柱穴	柱抜き取り痕跡 下部にブロック土	
3 区	掘立 11 周辺	156	柱穴	7a-9C-4c	1 面	0.52	△ 0.24	0.39	64.24		155 柱穴＞ 156 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立 11 周辺	157	柱穴	7a-9C-3c	1 面	0.46	△ 0.38	0.52	64.20		掘立 11 131 柱穴、104 ピット＞ 157 柱穴＞ 172 ピット	柱抜き取り痕跡	

調査区	集合遺構名	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
3 区	掘立柱建物 12	25	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.77	0.70	0.53	64.14			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 12	26	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.44	0.43	0.55	64.11			柱抜き取り痕跡	Po251・253
3 区	掘立柱建物 12	27	柱穴	7a-9C-2b・2c	1 面	0.41	0.33	0.44	64.21			柱痕跡	Po254・255
3 区	掘立柱建物 12	28	柱穴	7a-9C-2c	1 面	0.35	0.32	0.61	64.08			柱抜き取り痕跡	Po252
3 区	掘立柱建物 12	29	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.54	0.36	0.49	64.15			柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 12	30	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.46	0.43	0.55	64.11	0.10	30 柱穴＞ 113 柱穴	柱痕跡	
3 区	掘立柱建物 12	101	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.55	0.44	0.62	64.03	0.14		柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 12	105	柱穴	7a-9C-2b	1 面	△ 0.59	△ 0.18	0.47	64.14		掘立 10 19 柱穴＞ 105 柱穴＞ 46 ピット	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立 12 周辺	31	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.58	0.47	0.46	64.21		113 柱穴＞ 31 柱穴＞ 32 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立 12 周辺	32	柱穴	7a-9C-2b	1 面	0.42	△ 0.34	0.53	64.14		31 柱穴＞ 32 柱穴＞ 33 ピット	柱抜き取り痕跡	Po256、試料 39
3 区	掘立 12 周辺	113	柱穴	7a-9C-2b	1 面	△ 0.16	0.05	0.54	64.13		掘立 12 30 柱穴＞ 113 柱穴＞ 31 柱穴		
3 区	掘立 12 周辺	33	ピット	7a-9C-2b	1 面	1.03	0.92	0.41	64.24		32 柱穴＞ 33 ピット		

第 34 表　掘立柱建物 13・14　遺構計測表

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
3 区	掘立柱建物 13	129	7a-9C-3c	1 面	0.77	△ 0.63	0.86	63.92		129 柱穴＞竪穴 1	柱抜き取り痕跡	Po257
3 区	掘立柱建物 13	147	7a-9C-3c	1 面	△ 0.74	0.73	0.78	64.04		147 柱穴＞竪穴 1	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 13	154	7a-9C-3c	1 面	0.58	△ 0.55	0.69	64.14		154 柱穴＞掘立 14 148 柱穴	柱抜き取り痕跡	

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
3 区	掘立柱建物 14	148	7a-9C-3c	1 面	0.83	0.73	0.55	64.28		掘立 13 154 柱穴＞ 148 柱穴＞ 265 溝	柱抜き取り痕跡	Po258・259、CP38
3 区	掘立柱建物 14	203	7a-9C-3c	1 面	0.77	0.68	0.79	63.74		50 土坑＞ 203 柱穴	柱抜き取り痕跡	
3 区	掘立柱建物 14	204	7a-9C-3c	1 面	0.83	0.75	0.55	64.23		50 土坑＞ 204 柱穴	柱抜き取り痕跡	

第 35 表　掘立柱建物 15 ～ 22　遺構計測表

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区北	掘立柱建物 15	16	7a-9C-4a・5a	2 面	0.38	0.33	0.32	64.01		16 柱穴＞掘立 16 23 柱穴		
4 区北	掘立柱建物 15	24	7a-9C-5a	2 面	0.40	0.35	0.48	63.88		24 柱穴＞掘立 16 25 柱穴		
3 区・4 区北	掘立柱建物 15	253	7a-9C-4a	2 面	0.45	0.31	0.24	64.04		253 柱穴＞掘立 16 20 柱穴		
3 区・4 区北	掘立柱建物 15	406	7a-9C-4a	2 面	0.43	0.32	0.37	63.96		406 柱穴＞掘立 16 19 柱穴		

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区北	掘立柱建物 16	19	7a-9C-4a	2 面	0.35	0.30	0.35	64.03		掘立 15 406 柱穴＞ 19 柱穴		
4 区北	掘立柱建物 16	20	7a-9C-4a	2 面	0.32	0.30	0.45	63.88		掘立 15 253 柱穴＞ 20 柱穴		
4 区北	掘立柱建物 16	23	7a-9C-4a・5a	2 面	0.33	0.32	0.31	64.02		掘立 15 16 柱穴＞ 23 柱穴		
4 区北	掘立柱建物 16	25	7a-9C-5a	2 面	0.30	0.29	0.43	63.93		掘立 15 24 柱穴＞ 25 柱穴		

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区北	掘立柱建物 17	207	7a-9C-7c	1 面	0.36	0.34	0.22	64.47				
4 区北	掘立柱建物 17	208	7a-9C-7c	1 面	0.24	0.21	0.18	64.51				
4 区北	掘立柱建物 17	209	7a-9C-7c	1 面	0.27	0.25	0.24	64.47				CP57
4 区北	掘立柱建物 17	210	7a-9C-7c	1 面	0.27	0.24	0.24	64.55				
4 区北	掘立柱建物 17	211	7a-9C-7c	1 面	0.42	0.36	0.27	64.56				
4 区北	掘立柱建物 17	212	7a-9C-7c	1 面	0.34	0.28	0.29	64.52				
4 区北	掘立柱建物 17	213	7a-9C-7c	1 面	0.27	0.23	0.29	64.48				
4 区北	掘立柱建物 17	214	7a-9C-7c	1 面	0.27	0.23	0.18	64.56				CP58
4 区北	掘立柱建物 17	215	7a-9C-7c	1 面	0.22	0.21	0.16	64.60				

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区北	掘立柱建物 18	39	7a-9C-4c	1 面	0.27	0.22	0.34	64.48				
4 区北	掘立柱建物 18	40	7a-9C-4c	1 面	0.22	0.21	0.38	64.48				
4 区北	掘立柱建物 18	41	7a-9C-4d	1 面	0.31	△ 0.25	0.34	64.59				

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区北	掘立柱建物 19	300	7a-9C-8e	1 面	△ 0.82	△ 0.37	0.61	64.57				Po450
4 区北	掘立柱建物 19	314	7a-9C-8e	1 面	0.94	△ 0.37	0.56	64.70				Po451
4 区北	掘立柱建物 19	326	7a-9C-8e	1 面	1.21	△ 0.41	0.89	64.39				

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区北	掘立柱建物 20	276	7a-9C-7e	1 面	0.47	0.46	0.39	64.78				
4 区北	掘立柱建物 20	277	7a-9C-8e	1 面	0.61	0.49	0.42	64.68				
4 区北	掘立柱建物 20	287	7a-9C-8e	1 面	0.55	0.49	0.32	64.80				Po452
4 区北	掘立柱建物 20	290	7a-9C-7e	1 面	0.50	0.44	0.33	64.81				

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区北	掘立柱建物 21	185	7a-9C-6d	1 面	0.42	0.36	0.38	64.45				
4 区北	掘立柱建物 21	186	7a-9C-6d	1 面	0.53	0.43	0.32	64.53				Po453・454
4 区北	掘立柱建物 21	187	7a-9C-6d	1 面	0.45	0.41	0.36	64.56				

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	短軸	深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区北	掘立柱建物 22	172	7a-9C-9e	1 面	0.60	0.51	0.34	64.76				
4 区北	掘立柱建物 22	173	7a-9C-8e	1 面	0.67	0.58	0.36	64.71				Po455
4 区北	掘立柱建物 22	304	7a-9C-8e	1 面	0.70	0.55	0.35	64.76		304 柱穴＞掘立 19 314 柱穴		
4 区北	掘立柱建物 22	313	7a-9C-8e	1 面	△ 0.37	△ 0.09	0.13	64.86				
4 区北	掘立柱建物 22	336	7a-9C-9e	1 面	0.64	0.60	0.43	64.72				

第 36 表　掘立柱建物 23 ～ 26　遺構計測表

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	規模 (m) 短軸	規模 (m) 深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区南	掘立柱建物 23	342	7a-10C-5h・6h	1 面	0.21	0.18	0.21	65.30				
4 区南	掘立柱建物 23	343	7a-10C-5h・6h	1 面	0.20	0.17	0.26	65.25				
4 区南	掘立柱建物 23	348	7a-10C-5h	1 面	0.22	0.21	0.34	65.18				
4 区南	掘立柱建物 23	349	7a-10C-5h	1 面	0.17	0.16	0.18	65.30				

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	規模 (m) 短軸	規模 (m) 深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区南	掘立柱建物 24	373	7a-10C-6b・6c	1 面	0.32	0.28	0.63	64.62				
4 区南	掘立柱建物 24	374	7a-10C-7b・7c	1 面	0.28	0.22	0.58	64.68				
4 区南	掘立柱建物 24	375	7a-10C-7c	1 面	0.23	0.23	0.41	64.87				
4 区南	掘立柱建物 24	376	7a-10C-7c	1 面	0.22	0.19	0.42	64.86				
4 区南	掘立柱建物 24	377	7a-10C-7c	1 面	0.28	0.26	0.48	64.82				
4 区南	掘立柱建物 24	378	7a-10C-7c	1 面	0.28	0.23	0.38	64.89				
4 区南	掘立柱建物 24	379	7a-10C-6c	1 面	0.38	0.32	0.41	64.86				
4 区南	掘立柱建物 24	380	7a-10C-6c	1 面	0.27	0.26	0.34	64.91				

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	規模 (m) 短軸	規模 (m) 深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区南	掘立柱建物 25	381	7a-10C-6c	1 面	0.26	0.20	0.27	64.99				
4 区南	掘立柱建物 25	382	7a-10C-6c	1 面	0.20	0.17	0.21	65.04				
4 区南	掘立柱建物 25	385	7a-10C-6c	1 面	0.42	0.34	0.30	64.96				
4 区南	掘立柱建物 25	386	7a-10C-6b	1 面	0.21	0.16	0.44	64.82				
4 区南	掘立柱建物 25	387	7a-10C-6c	1 面	0.34	0.27	0.19	65.07				
4 区南	掘立柱建物 25	388	7a-10C-6c	1 面	0.47	0.37	0.29	64.90		383 柱穴＞388 柱穴		

調査区	集合遺構名	柱穴番号	グリッド T52-	遺構面	規模 (m) 長軸	規模 (m) 短軸	規模 (m) 深さ	底面標高 (m)	柱のあたり直径 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
4 区南	掘立柱建物 26	401	7a-10C-6c	1 面	0.22	0.20	0.26	64.99				
4 区南	掘立柱建物 26	402	7a-10C-6c	1 面	0.20	0.18	0.27	65.00				
4 区南	掘立柱建物 26	525	7a-10C-6c	1 面	0.19	0.18	0.22	65.03				
4 区南	掘立柱建物 26	526	7a-10C-6c	1 面	0.19	0.17	0.20	65.03				
4 区南	掘立柱建物 26	527	7a-10C-6b	1 面	0.18	0.16	0.36	64.89				
4 区南	掘立柱建物 26	528	7a-10C-6b	1 面	0.18	0.18	0.34	64.90				

第 37 表　掘立柱建物 1 ～ 4　柱穴間距離計測表

掘立柱建物 1

柱間寸法（桁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
63-66	7.30
72-67	7.00
71-68	7.30

柱間寸法（桁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
63-64	2.10
64-65	2.60
65-66	2.60
72-73	2.10
73-74	2.60
74-67	2.30
71-70	2.15
70-69	2.40
69-68	2.75

柱間寸法（梁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
63-71	3.90
64-70	3.75
65-69	3.90
66-68	3.90

柱間寸法（梁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
63-72	2.00
72-71	1.90
64-73	1.90
73-70	1.85
65-74	1.90
74-69	2.00
66-67	1.80
67-68	2.10

掘立柱建物 2

柱間寸法（桁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
166-129	8.00
165-159	8.00
164-160	8.00

柱間寸法（桁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
166-167	2.00
167-168	2.10
168-130	2.00
130-129	1.90
165-170	1.90
170-169	2.00
169-158	2.20
158-159	1.90
164-163	1.95
163-162	2.10
162-161	2.00
161-160	1.95

柱間寸法（梁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
166-164	5.60
167-163	5.60
168-162	5.60
130-161	5.60
129-160	5.60

柱間寸法（梁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
166-165	2.80
165-164	2.80
167-170	2.80
170-163	2.80
168-169	2.80
169-162	2.80
130-158	2.80
158-161	2.80
129-159	2.85
159-160	2.75

掘立柱建物 3

柱間寸法（桁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
78-91	6.00
176-136	5.90
181-135	5.90
182-135	5.90

柱間寸法（桁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
78-82	1.55
82-84	1.55
84-91	2.90
176-113	2.95
176-114	3.00
113-136	2.95
114-136	3.00
181-122	1.40
182-122	1.50
122-126	1.60
122-125	1.30
126-135	2.90
125-135	3.10

柱間寸法（梁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
78-181	4.70
78-182	4.90
82-122	4.80
84-126	4.70
84-125	4.85
91-135	4.70

柱間寸法（梁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
78-176	2.40
176-181	2.30
176-182	2.50
82-122	4.80
84-113	2.30
84-114	2.70
113-126	2.40
113-125	2.55
114-126	2.00
114-125	2.15
91-136	2.40
136-135	2.30

掘立柱建物 4

柱間寸法（桁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
88-118	5.50
209-118	5.50
115-142	5.35
116-142	5.40
132-143	5.40

柱間寸法（桁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
88-94	2.70
209-94	2.70
94-118	2.80
115-128	2.75
116-128	2.80
128-142	2.60
132-131	2.90
131-143	2.50

柱間寸法（梁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
88-132	3.70
209-132	3.45
94-131	4.00
118-143	3.90

柱間寸法（梁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
88-115	1.90
88-116	1.85
209-115	1.75
209-116	1.60
115-132	1.70
116-132	1.85
94-128	2.10
128-131	1.90
118-142	2.10
142-143	1.80

第 38 表　掘立柱建物 5 ～ 23　柱穴間距離計測表

掘立柱建物 5

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（桁行方向）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
174-121	4.60	174-178	2.55	174-175	2.90
175-185	4.60	178-121	2.05	178-184	2.60
		175-184	2.35	121-185	2.60
		184-185	2.25		

掘立柱建物 6

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（桁行方向）		柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
153-155	2.68	153-154	1.55	153-168	2.98	153-156	1.53
156-157	2.72	154-155	1.13	154-158	2.52	156-168	1.45
168-159	2.94	168-158	1.72	155-159	2.70	155-157	1.52
		158-159	1.22			157-159	1.18

掘立柱建物 7

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（桁行方向）		柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
160-206	4.02	160-162	1.97	160-161	3.43	206-271	1.60
161-267	4.09	162-206	2.05	162-164	3.35	271-267	1.65
		161-164	2.04	206-267	3.25		
		164-267	2.05				

掘立柱建物 8

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（桁行方向）		柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
2-5	5.30	2-3	1.85	2-10	3.85	2-11	1.92
11-6	5.76	3-4	1.65	3-9	3.80	11-10	1.93
10-7	5.25	4-5	1.80	4-8	3.82	5-6	1.95
		10-9	1.80	5-7	3.80	6-7	1.85
		9-8	1.80				
		8-7	1.65				

掘立柱建物 9

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（桁行方向）		柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
158-160	4.50	158-159	2.40	158-164	3.20	158-165	1.75
165-161	4.20	159-160	2.10	160-162	3.40	165-164	1.45
164-162	4.15					160-161	1.60
						161-162	1.80

掘立柱建物 10

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（桁行方向）		柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
12-15	5.62	12-13	1.95	12-20	3.82	12-21	2.00
21-16	5.43	13-14	2.02	13-19	3.57	21-20	1.82
20-80	5.38	14-15	1.65	14-18	3.64	15-16	2.05
		20-19	1.90	15-80	3.65	16-80	1.60
		19-18	1.73				
		18-80	1.75				

掘立柱建物 11

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（桁行方向）		柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
131-155	3.75	131-114	1.75	131-112	2.80	131-111	1.60
112-145	3.95	114-155	2.00	114-115	2.95	111-112	1.20
		112-115	1.85	155-145	2.60		
		115-145	2.10				

掘立柱建物 12

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（桁行方向）		柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
29-101	2.98	29-30	1.50	29-26	2.87	29-25	1.44
25-105	3.30	30-101	1.48	30-27	2.85	25-26	1.43
26-28	3.13	26-27	1.63	101-28	3.03	101-105	1.50
		27-28	1.50			105-28	1.53

掘立柱建物 13

柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
154-129	3.15	154-147	1.55
		147-129	1.60

掘立柱建物 14

柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
203-148	3.15	203-204	1.50
		204-148	1.65

掘立柱建物 15

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（梁行総長）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
253-24	2.15	253-406	2.09
406-16	2.28	24-16	1.91

掘立柱建物 16

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（梁行総長）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
20-25	2.13	20-19	2.16
19-23	2.18	25-23	1.98

掘立柱建物 17

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（桁行方向）		柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
207-209	3.70	207-208	2.21	207-213	3.23	207-214	1.55
214-210	3.68	208-209	1.49	208-212	3.28	214-213	1.68
213-211	3.62	214-215	2.04	209-211	3.22	208-215	1.64
		215-210	1.64			215-212	1.64
		213-212	2.04			209-210	1.71
		212-211	1.58			210-211	1.51

掘立柱建物 18

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（梁行総長）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
40-39	2.44	39-41	1.91

掘立柱建物 19

柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
300-326	2.72	300-314	1.31
		314-326	1.41

掘立柱建物 20

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（桁行方向）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
290-287	2.79	290-277	1.43	290-276	1.31
		277-287	1.36		

掘立柱建物 21

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（桁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
185-187	3.12	185-186	1.36
		186-187	1.76

掘立柱建物 22

柱間寸法（桁行方向）		柱間寸法（梁行総長）		柱間寸法（梁行方向）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
173-304	1.64	173-336	2.70	173-172	1.45
336-313	1.72			172-336	1.25

掘立柱建物 23

柱間寸法（桁行総長）		柱間寸法（梁行総長）	
No.	柱間寸法 (m)	No.	柱間寸法 (m)
349-342	2.35	349-348	1.16
348-343	2.32	342-343	1.00

第 39 表　掘立柱建物 24 ～ 26　柱穴間距離計測表

掘立柱建物 24

柱間寸法（桁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
373-375	5.45
380-376	5.67
379-377	5.46

柱間寸法（桁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
373-374	2.82
374-375	2.63
379-378	2.72
378-377	2.74

柱間寸法（梁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
373-379	4.65
374-378	4.60
375-377	4.69

柱間寸法（梁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
373-380	2.37
380-379	2.28
375-376	2.37
376-377	2.32

掘立柱建物 25

柱間寸法（桁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
388-386	4.81
387-382	4.69

柱間寸法（桁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
388-385	2.43
385-386	2.38
387-381	2.36
381-382	2.33

柱間寸法（梁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
388-387	2.08
385-381	2.15
386-382	2.02

掘立柱建物 26

柱間寸法（桁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
526-528	4.81
525-527	4.80

柱間寸法（桁行方向）

No.	柱間寸法 (m)
526-401	2.43
401-528	2.38
525-402	2.48
402-527	2.32

柱間寸法（梁行総長）

No.	柱間寸法 (m)
526-525	1.69
401-402	1.77
528-527	1.62

第 40 表　柵列　遺構計測表

調査区	集合遺構名	グリッド T52-	長さ（m）	主軸	備考
1 区	柵列 1	8a-1C-1d・1e	4.0	N-20° -E	2 間
1 区	柵列 2	7a-10C-10d	2.7	N-18° -E	2 間
3 区	柵列 3	7a-9C-3b・3c	6.7	N-20° -W	3 間
3 区	柵列 4	7a-9C-2b・3b	2.9	N-22° -E	2 間

第 41 表　柵列 1 ～ 4　遺構計測表

調査区	集合遺構名	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	規模 (m) 長軸	規模 (m) 短軸	規模 (m) 深さ	底面標高 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
1 区	柵列 1	95	柱穴	8a-1C-1d	0.24	0.19	0.36	65.20			
1 区	柵列 1	141	柱穴	8a-1C-1d	0.32	0.26	0.41	65.15		柱痕跡	
1 区	柵列 1	171	柱穴	8a-1C-1e	0.30	0.28	0.45	65.11		柱痕跡	Po7

調査区	集合遺構名	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	規模 (m) 長軸	規模 (m) 短軸	規模 (m) 深さ	底面標高 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
1 区	柵列 2	123	柱穴	7a-10C-10d	0.20	0.19	0.42	65.13		柱痕跡	
1 区	柵列 2	127	柱穴	7a-10C-10d	0.22	0.20	0.45	65.11		柱痕跡	
1 区	柵列 2	183	柱穴	7a-10C-10d	0.22	0.21	0.39	65.16			

調査区	集合遺構名	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	規模 (m) 長軸	規模 (m) 短軸	規模 (m) 深さ	底面標高 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
3 区	柵列 3	86	柱穴	7a-9C-3c	0.45	0.43	0.36	64.30		柱抜き取り痕跡	CP39
3 区	柵列 3	91	柱穴	7a-9C-3c	0.48	0.37	0.35	64.44		柱抜き取り痕跡	
3 区	柵列 3	95	柱穴	7a-9C-3c	0.32	0.29	0.39	64.33	95 柱穴＞ 50 土坑	柱抜き取り痕跡	
3 区	柵列 3	116	柱穴	7a-9C-3b	0.43	0.36	0.31	64.29	116 柱穴＞ 117 ピット	柱抜き取り痕跡	
3 区	柵列 3 周辺	117	ピット	7a-9C-3b	△ 0.61	0.53	0.21	64.45	116 柱穴＞ 117 ピット		

調査区	集合遺構名	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	規模 (m) 長軸	規模 (m) 短軸	規模 (m) 深さ	底面標高 (m)	遺構重複 (新＞旧)	備考	掲載遺物
3 区	柵列 4	195	柱穴	7a-9C-2b	0.28	0.25	0.26	63.96		柱抜き取り痕跡	
3 区	柵列 4	196	柱穴	7a-9C-3b	0.34	0.29	0.19	64.02		柱抜き取り痕跡	
3 区	柵列 4	197	柱穴	7a-9C-3b	0.26	0.24	0.16	64.08		柱痕跡	

第 42 表　柵列 1 ～ 4　柱穴間距離計測表

柵列 1

柱間寸法（総長）

No.	柱間寸法 (m)
95-171	4.00

柱間寸法

No.	柱間寸法 (m)
95-141	2.00
141-171	2.00

柵列 2

柱間寸法（総長）

No.	柱間寸法 (m)
183-127	2.70

柱間寸法

No.	柱間寸法 (m)
183-123	1.35
123-127	1.35

柵列 3

柱間寸法（総長）

No.	柱間寸法 (m)
116-91	6.72

柱間寸法

No.	柱間寸法 (m)
116-86	2.57
86-95	2.05
95-91	2.10

柵列 4

柱間寸法（総長）

No.	柱間寸法 (m)
195-197	2.98

柱間寸法

No.	柱間寸法 (m)
195-196	1.44
196-197	1.54

第 2 項　大鴨遺跡 1 区の遺構計測表

第 43 表　火葬墓　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ			
8	火葬墓	7a-10C-10b	1 面	中世	1.14	0.70	0.08	N-15° -E		Po8、試料 29
15	火葬墓	7a-10C-10c	1 面	中世	0.49	0.39	0.07	−		試料 30

第 44 表　溝・流路　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考 (遺構重複　新＞旧)	掲載遺物
					長さ	幅	深さ			
1	溝	7a-10C-8h・9h・8i ～ 10i 8a-1C-1i・1j	1 面	中世	△ 30.1	6.30	0.90	N-20° -E		Po9、S1
157	溝	7a-10C-9c・10c	1 面	中世	7.30	0.71	0.07	南側 N-69° -W 北側 N-12° -E		
188	溝	7a-10C-9c・9d	1 面	中世	△ 6.70	1.44	0.06	N-8° -E		
200	溝	7a-10C-9d・9e・10e 8a-1C-1e・1f	1 面	中世	△ 30.6	0.80	0.20	N-20° -E N-30° -E		
301	流路	7a-10C-8f ～ 8j・9f ～ 9j・10f ～ 10j 8a-1C-1f ～ 1j	2 面	古代	△ 34.0	1.08	0.70	−	1 溝＞ 301 流路＞ 303 道路	
441	流路	7a-10C-10i・10j 8a-1C-1i・1j	2 面	古代	13.0	7.20	0.45	−	1 溝＞ 441 流路	Po21
442	流路	7a-10C-9j・10j 8a-1C-1j	2 面	古墳時代以前	14.0	5.5	0.75	−		Po19・20、W1・2

第 45 表　土坑　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ			
16	土坑	7a-10C-10c	1 面	中世	1.18	0.73	0.82	−		
31	土坑	8a-1C-1c	1 面	中世	0.85	0.65	0.15	−		
197	土坑	7a-10C-10e	1 面	中世	1.08	0.72	0.24	−		Po10
198	土坑	7a-10C-9e	1 面	中世	△ 0.96	0.87	0.34	−		Po11
206	土坑	8a-1C-1e	1 面	中世	0.92	0.91	0.19	−		
215	土坑	8a-1C-1e	1 面	中世	0.75	0.57	0.18	−		
307	土坑	7a-10C-10d	2 面	古墳時代以前	0.84	0.65	0.22	−		
327	土坑	7a-10C-10e	2 面	古墳時代以前	0.76	0.55	0.11	−		
328	土坑	7a-10C-9e	2 面	古墳時代以前	0.75	0.66	0.04	−		
377	土坑	8a-1C-1e	2 面	古墳時代以前	1.73	1.31	0.37	−		
403	土坑	7a-10C-9e	2 面	古墳時代以前	0.80	0.73	0.12	−		
405	土坑	7a-10C-9e	2 面	古墳時代以前	0.88	0.63	0.06	−		

第 46 表　柱穴・ピット　遺構計測表（※ 掲載遺構のみ）

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			備考	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ		
86	柱穴	7a-10C-10d	1 面	中世	0.20	0.20	0.49		Po12
90	柱穴	7a-10C-10d	1 面	中世	0.21	0.20	0.48	柱痕跡	Po13
92	柱穴	7a-10C-10d	1 面	中世	0.16	0.15	0.30		Po14
119	柱穴	8a-1C-1d	1 面	中世	0.26	0.23	0.26		
156	柱穴	8a-1C-1d	1 面	中世	0.25	0.23	0.27		
193	柱穴	7a-10C-9d	1 面	中世	0.19	0.17	0.43	柱痕跡	Po15
440	ピット	7a-10C-10f	2 面	古墳時代以前	0.42	0.34	0.06		Po22

第 47 表　道路　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考 (遺構重複　新＞旧)	掲載遺物
					長さ	幅	深さ			
302	道路	7a-10C-8f ～ 10f・10e 8a-1C-1e・1f	2 面	古代	△ 31.4	0.5 ～ 1.7	0.28	南側 N-26° -E 北側 N-21° -W		Po16・17・18、S2、 試料 32
303	道路	7a-10C-9f・10f 8a-1C-1f	2 面	古代	△ 28.3	0.3 ～ 1.9	0.30	南端 N-33° -E 北側 N-21° -W	301 流路＞ 303 道路	試料 31

第３項　大鴨遺跡２区の遺構計測表

第 48 表　土坑　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考（遺構重複　新＞旧）	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ			
13	土坑	7a-8C-10a 7a-9C-1a	1 面	古代	11.71	△ 3.61	0.36	N-16° -E	59 段状遺構・61 ピット＞ 13 土坑	Po150 ～ 152
14	土坑	7a-8B-9j 7a-8C-9a	1 面	古代	0.75	0.65	0.06	N-57° -W		
15	土坑	7a-8C-10a	1 面	古代	0.72	0.32	0.22	N-42° -E		
26	土坑	7a-9C-1a	1 面	古代	0.60	0.60	0.36	−		
63	土坑	7a-8B-9j	1 面	古代	△ 2.34	2.20	0.21	N-55° -W	1 溝＞ 63 土坑	
64	土坑	7a-8B-9j	1 面	古代	2.41	△ 1.47	0.35	N-66° -W	64 土坑＞ 77 土坑 51 道路＞ 64 土坑	S8
77	土坑	7a-8B-9j	1 面	古代	0.86	△ 0.41	0.15	N-8° -E	64 土坑＞ 77 土坑	
78	土坑	7a-8B-9j	1 面	古代	0.64	△ 0.31	0.26	−	79 土坑＞ 78 土坑	
79	土坑	7a-8B-9j	1 面	古代	0.65	△ 0.36	0.24	−	79 土坑＞ 78 土坑	
100	土坑	7a-8C-10a 7a-9C-1a	2 面	古墳時代以前	0.95	0.9	0.3	−	100 土坑＞ 101 土坑	Po177
101	土坑	7a-9C-1a	2 面	弥生時代以前	0.46	△ 0.26	0.15	−		
107	土坑	7a-8C-10a・10b	2 面	古墳時代以前	1.1	0.7	0.12	N-74° -W		
126	土坑	7a-8C-10a	2 面	古墳時代以前	0.32	0.3	0.11	−		
130	土坑	7a-8C-9a	2 面	古墳時代以前	0.32	0.26	0.07	N-57° -E		
145	土坑	7a-8C-10a	2 面	古墳時代以前	0.37	0.34	0.08	−		
163	土坑	7a-9B-2j	1 面	古代	0.45	0.32	0.07	−	163 土坑＞掘立７ 164 柱穴	
165	土坑	7a-9C-1a	1 面	古代	0.41	0.40	0.08	−		

第 49 表　溝・流路・構造物等　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考（遺構重複　新＞旧）	掲載遺物
					長さ	幅	深さ			
1	溝	7a-8B-8i ～ 10i・9j・10j 7a-9B-1i・1j・2j	1 面	中世以降	△ 41.7	約 7.3	約 1.5	N-10° -E	近現代の水路、昭和後半に廃絶 1 溝＞ 63 土坑	Po58・59・177
2	流路	7a-8B-8h ～ 10h・8i ～ 10i 7a-9B-1i・2i・1j・2j	1 面	古代	△ 38.20	△ 10.26	−	−	古代の遺物を包含	Po60 ～ 114、130・134・138・142・842・843、CP1 ～ 6、W3 ～ 33、試料 18・19
3	溝	7a-8B-8j 7a-8C-8a	1 面	中世以降	△ 6.10	1.40	0.24	N-68° -W		Po143、CP8・9
4	溝	7a-8C-10a	1 面	中世以降	△ 5.85	1.73	0.17	N-75° -W		Po144 ～ 146、CP10
5	溝	7a-8B-8j 7a-8C-8a	1 面	中世以降	△ 6.98	0.45	0.36	N-72° -W		
32	溝	7a-8C-10a	1 面	古代	△ 1.70	0.60	0.07	N-80° -E		
44-1	溝	7a-9C-1a	1 面	中世以降	1.26	0.24	0.02	N-83° -W		
44-2	溝	7a-9C-1a	1 面	中世以降	1.23	0.18	0.04	N-86° -W		
45	溝	7a-9C-1a・1b	1 面	中世以降	5.33	0.34	0.05	N-85° -W		
46	溝	7a-9C-1a・1b	1 面	中世以降	5.19	0.41	0.06	N-85° -W	46 溝＞ 60 柱穴	
47	溝	7a-9C-1a・1b	1 面	中世以降	5.70	0.53	0.06	N-85° -W	47 溝＞ 58 溝	
48	溝	7a-9C-1b	1 面	中世以降	1.82	0.20	0.03	N-9° -E		
49	溝	7a-9C-1b	1 面	古代	△ 1.08	0.32	0.04	N-14° -E		
50	溝	7a-8B-8j 7a-8C-8a	1 面	古代	3.22	1.29	0.10	N-74° -E		
58	溝	7a-9C-1a・1b	1 面	古代	△ 0.59	0.36	0.04	N-19° -E	47 溝＞ 58 溝	
65	溝	7a-8B-9h	1 面	中世以降	△ 2.16	0.31	0.04	N-73° -W		
66	溝	7a-8B-9h・9i	1 面	中世以降	5.52	0.36	0.04	N-73° -W		
67	溝	7a-8B-9h・9i	1 面	中世以降	2.99	0.41	0.06	N-74° -W		
68	溝	7a-8B-9h・9i	1 面	中世以降	△ 6.24	0.41	0.02	N-75° -W		
69	溝	7a-8B-9i・10i	1 面	中世以降	△ 1.83	0.17	0.02	N-79° -W		
76	木製構造物	7a-8B-9i・10i	1 面	古代	9.5	3.5	−	N-35° -W		Po115 ～ 127、W34 ～ 57、試料 34
171	木製祭祀具集中部	7a-8B-9h・9i・10h・10i	1 面	古代	10.0	6.5	−	N-11° -W		Po128 ～ 142、CP7、W58 ～ 126、試料 33

第 50 表　段状遺構　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考（遺構重複　新＞旧）	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ			
59	段状遺構	7a-9C-1a	1 面	古代	4.4	2.3	0.37	N-26° -E	59 段状遺構＞ 13 土坑	Po147 ～ 149

第 51 表　田　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考	掲載遺物
					東西方向	南北方向	深さ			
70	田	7a-8B-8h・8i・9h・9i	1 面	中世以降	7.0	3.4	−	−		

第 52 表　落とし穴　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ			
80	落とし穴	7a-9C-1b	2 面	縄文時代	0.87	0.65	0.88	N-33° -W		
				底面ピット規模	0.18	0.18	0.42	−		

第 53 表　道路　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考（遺構重複　新＞旧）	掲載遺物
					長さ	幅	深さ			
51	道路	7a-8B-8j・9j 7a-8C-8a・9a	1 面	古代	△ 14.6	3.3	0.77	N-43° -W	6 ピット＞ 51 道路 51 道路＞ 64 土坑	Po154 ～ 159・161 ～ 164・ 166 ～ 173、CP11 ～ 19、S9
51-1	土坑	7a-8C-8a	1 面	古代	0.16	0.16	0.05	−		
51-2	土坑	7a-8C-8a	1 面	古代	0.47	0.27	0.06	N-50° -E	51-2 ＞ 51-3	CP21
51-3	土坑	7a-8C-8a	1 面	古代	0.21	0.21	0.11	−	51-2 ＞ 51-3	
51-4	土坑	7a-8C-8a	1 面	古代	0.12	0.11	0.04	−		
51-5	土坑	7a-8C-8a	1 面	古代	0.45	0.25	0.06	N-86° -E		
51-6	土坑	7a-8B-8j 7a-8C-8a	1 面	古代	△ 0.62	△ 0.44	△ 0.19	N-47° -E	51-35 ＞ 51-6	Po174
51-7	土坑	7a-9B-9j 7a-8C-9a	1 面	古代	0.92	0.49	0.19	N-48° -E	51-7 ＞ 51-33・34	Po174、CP27
51-8	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.25	0.23	0.05	−		Po160
51-9	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.41	0.26	0.03	N-62° -E		
51-10	土坑	7a-9B-9j 7a-8C-9a	1 面	古代	0.17	0.15	0.05	−		
51-11	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.28	0.20	0.04	N-84° -E		
51-12	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.39	0.36	0.03	−		
51-13	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.28	0.24	0.03	N-31° -W		
51-14	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.61	0.43	0.14	N-45° -E	51-31 ＞ 51-14	
51-15	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.46	0.37	0.08	N-48° -W		
51-16	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.39	0.36	0.07	N-40° -W		CP24
51-17	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.76	0.47	0.07	N-12° -E	51-32 ＞ 51-17	Po175、CP20
51-18	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.58	0.39	0.10	N-9° -E		
51-19	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.37	0.32	0.04	N-17° -E		CP22
51-20	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.74	0.48	0.06	N-40° -E		Po165
51-21	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.51	0.49	0.07	−		CP26
51-22	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	△ 0.45	0.21	0.01	N-66° -W		
51-23	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	△ 0.80	0.46	0.12	N-49° -W		
51-24	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.42	△ 0.36	0.08	N-47° -W		
51-25	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.41	△ 0.22	0.03	N-78° -W		
51-26	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	△ 0.63	0.40	0.16	N-84° -W		
51-27	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.49	0.47	0.10	−		CP25
51-28	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.69	△ 0.58	0.06	N-72° -W	51-29・30 ＞ 51-28	
51-29	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.15	0.14	0.04	−	51-29 ＞ 51-28・30	
51-30	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	△ 0.62	0.25	0.11	−	51-29 ＞ 51-30 ＞ 51-28	
51-31	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.46	0.28	0.12	N-50° -E	51-31 ＞ 51-14	CP23
51-32	土坑	7a-9B-9j	1 面	古代	0.35	0.32	0.03	N-53° -E	51-32 ＞ 51-17	Po175
51-33	土坑	7a-8C-9a	1 面	古代	0.28	0.26	0.04	−	51-7 ＞ 51-33	
51-34	土坑	7a-8B-8j 7a-9B-9j 7a-8C-8a・9a	1 面	古代	0.36	0.27	0.04	N-40° -E	51-7 ＞ 51-34	CP28
51-35	土坑	7a-8B-8j 7a-8C-8a	1 面	古代	△ 0.62	△ 0.56	△ 0.12	N-30° -W	51-35 ＞ 51-6	
53	道路	7a-8B-10j 7a-8C-10a 7a-9B-9j	1 面	古代	△ 7.1	2.6	0.40	N-71° -W		Po176・844、CP29 ～ 31
53-1	土坑	7a-8B-10j 7a-8C-10a	1 面	古代	0.42	0.35	0.05	N-28° -E		

第 54 表　柱穴・ピット　遺構計測表（※掲載遺構のみ）

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	柱痕跡直径 (m)	備考（遺構重複　新＞旧）	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ				
6	ピット	7a-8B-9j	1 面	古代以降	0.33	0.31	0.23	−		6 ピット＞ 51 道路	
7	ピット	7a-8C-9a	1 面	古代	0.41	0.31	0.38	−			
8	柱穴	7a-8C-9a	1 面	古代	0.29	0.27	0.21	−		柱痕跡	
9	柱穴	7a-8C-9a	1 面	古代	0.35	0.32	0.31	−		柱痕跡	
10	ピット	7a-8C-9a	1 面	古代	0.29	0.28	0.33	−			
11	柱穴	7a-8C-9a	1 面	古代	0.32	0.28	0.39	−		柱痕跡	Po153
12	柱穴	7a-8C-9a	1 面	古代	0.30	0.29	0.21	−		柱痕跡	
16	ピット	7a-8C-9a	1 面	古代	0.18	0.18	0.25	−			
17	ピット	7a-8C-9a	1 面	古代	0.25	0.22	0.31	−			
18	ピット	7a-8C-9a	1 面	古代	0.24	0.19	0.28	−			
23	柱穴	7a-8C-10a	1 面	古代	0.31	0.22	0.37	−		柱痕跡	
36	柱穴	7a-8C-9a	1 面	古代	0.24	0.20	0.32	−		36 柱穴＞ 37 柱穴	
37	柱穴	7a-8C-9a	1 面	古代	0.34	△ 0.29	0.22	−		36 柱穴＞ 37 柱穴 柱抜き取り痕跡	
38	柱穴	7a-8C-10b	1 面	古代	0.22	0.21	0.16	−		柱抜き取り痕跡	
55	柱穴	7a-8C-9a	1 面	古代	0.75	0.35	0.35	N-76° -W		柱抜き取り痕跡	
60	柱穴	7a-9C-1a	1 面	古代	0.22	0.20	0.26	−		柱痕跡 46 溝＞ 60 柱穴	
98	柱穴	7a-9C-1a	2 面	古墳時代以前	0.22	0.22	0.08	−		柱痕跡	
115	柱穴	7a-8C-10a	2 面	古墳時代以前	0.34	0.29	0.36	−		柱抜き取り痕跡	
119	柱穴	7a-8C-10a	2 面	古墳時代以前	0.26	0.19	0.21	−		柱抜き取り痕跡	
125	柱穴	7a-8C-10a	2 面	古墳時代以前	0.22	0.19	0.12	−		柱痕跡	
133	柱穴	7a-8C-10b	2 面	古墳時代以前	0.28	0.26	0.15	−		柱痕跡	
149	柱穴	7a-8B-9j	1 面	古代	0.22	0.21	0.24	−		柱抜き取り痕跡	
151	柱穴	7a-9B-1j	1 面	古代	0.23	0.22	0.17	−		柱痕跡	
152	柱穴	7a-9B-1j	1 面	古代	0.21	0.20	0.36	−			
166	柱穴	7a-9B-1j	1 面	古代	0.35	0.32	0.42	−			
169	柱穴	7a-8B-8j	1 面	古代	0.27	0.21	0.18	−		柱抜き取り痕跡	
170	柱穴	7a-8B-9j	1 面	古代	0.30	0.25	0.19	−		柱抜き取り痕跡	

第 4 項　大鴨遺跡 3 区の遺構計測表

第 55 表　土坑　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考（遺構重複　新＞旧）	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ			
50	土坑	7a-9C-3c	1 面	11 世紀後半～12 世紀中葉	方形部 3.45 張り出し部 3.0	方形部 2.4 張り出し部 2.5	方形部 0.35 張り出し部 0.12	N-23° -W	50 土坑＞ 178・248 ピット 50 土坑＞掘立 14 柵列 3 95 柱穴、202 柱穴＞ 50 土坑	Po262 ～ 281 S12 ～ 15・46 F8・9
174	土坑	7a-9B-4j	1 面	中世以降	△ 1.28	0.94	0.23	N-55° -E	174 土坑＞ 256 土坑	Po282
182	土坑	7a-9C-3c	1 面	古墳時代以降	2.51	1.01	0.30	N-64° -W	掘立 11 115 柱穴、119 柱穴＞ 182 土坑＞竪穴建物 1、225・226 ピット	
256	土坑	7a-9B-4j	2 面	古墳時代以前	△ 1.27	△ 0.40	0.20	N-59° -E	174 土坑＞ 256 土坑＞ 411 ピット	
257	土坑	7a-9B-4j	2 面	古墳時代以前	1.36	△ 1.13	0.14	N-55° -E		S16
258	土坑	7a-9B-4j	2 面	古墳時代以前	△ 0.94	0.75	0.16	N-74° -E		
269	土坑	7a-9B-4j	2 面	古墳時代以前	1.16	1.09	0.21	N-74° -E	268 ピット＞ 269 土坑＞ 270 土坑	
270	土坑	7a-9B-4j 7a-9C-4a	2 面	古墳時代以前	△ 0.84	△ 0.55	0.19	N-40° -E	268 ピット・269 土坑＞ 270 土坑	
305	土坑	7a-9C-2a	2 面	古墳時代以前	0.84	0.51	0.18	N-8° -E		S17

第 56 表　溝　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考（遺構重複　新＞旧）	掲載遺物
					長さ	幅	深さ			
1	溝	7a-9B-2i ～ 5i・2j ～ 5j	1 面	近現代	△ 29.91	△ 12.37	△ 1.15		現代水路	
103	溝	7a-9C-3b・3c・4b・4c	1 面	古代以降	1.96	0.49	0.08	N-27° -E	103 溝＞ 242 柱穴	
265	溝	7a-9C-3c	1 面	古代	△ 0.78	0.51	0.30	−	掘立 14 148 柱穴・241 ピット＞ 265 溝	

第 57 表　土器集中部　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			備考	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ		
244	土器集中部	7a-9C-3b	2 面	弥生	−	−	−	Ⅱ c 層検出時	Po301・302
458	土器集中部	7a-9C-3b	2 面	弥生	−	−	−	もとⅡ c 層	Po303

第 58 表　道路　遺構計測表

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考（遺構重複　新＞旧）	掲載遺物
					長さ	幅	深さ			
52	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	△ 6.31	1.69	0.30	N-24° -W	波板状凹凸面	Po260・261、CP40・41、F52
183	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	1.73	0.44	0.16	N-68° -E		
184	道路	7a-9B-2j・3j	1 面	古代	△ 0.71	0.37	0.09	N-65° -E	290 道路＞ 184 道路＞ 291 道路	
290	道路	7a-9B-2j・3j	1 面	古代	2.20	0.62	0.08	N-17° -E	407 道路の続きと想定される 290 道路＞ 184 道路＞ 291 道路	
291	道路	7a-9B-2j・3j	1 面	古代	△ 1.48	0.69	0.14	N-89° -E	290 道路＞ 184 道路＞ 291 道路	
292	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	1.83	0.47	0.07	N-80° -E		
293	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.93	0.42	0.13	N-98° -E		
294	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.93	△ 0.36	0.05	N-50° -E		
295	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	1.47	0.40	0.08	N-83° -E	295 道路＞ 294 道路	
296	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.32	0.16	0.06	−	295 道路＞ 294 道路	
297	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.32	0.29	0.04	−		
298	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.27	0.21	0.03	−		
299	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.49	0.26	0.06	−		
301	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.35	0.21	0.04	−		
307	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.33	0.18	0.03	−		
377	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.31	0.21	0.05	−		
407	道路	7a-9B-2j	1 面	古代	△ 0.57	0.33	0.06	N-17° -E	290 道路の続きと想定される	
408	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.25	0.25	0.09	N-30° -E	408 道路＞ 409 道路	
409	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.21	△ 0.21	0.07	−	408 道路＞ 409 道路	
460	道路	7a-9B-3j	1 面	古代	0.44	0.26	0.11	N-33° -W	道路遺構路床	

第 59 表　柱穴・ピット　遺構計測表（※ 掲載遺構のみ）

遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			備考（遺構重複　新＞旧）	掲載遺物
					長軸	短軸	深さ		
22	ピット	7a-9C-2b	1 面	古代	0.94	0.84	0.30	22 ピット＞ 42 柱穴	
42	柱穴	7a-9C-2b	1 面	古代	0.85	0.63	0.43	柱抜き取り痕跡 ,22 ピット＞ 42 柱穴	F53
60	ピット	7a-9C-3c	1 面	古代	0.30	0.20	0.41		Po288
93	ピット	7a-9C-3b・3c	1 面	古代	0.35	0.32	0.25		Po284
110	柱穴	7a-9C-3c	1 面	古代	0.67	0.55	0.48	柱抜き取り痕跡	Po293
138	ピット	7a-9C-3b	1 面	古代	0.24	0.23	0.33		Po290
142	ピット	7a-9C-3c	2 面	弥生時代中期	0.32	0.28	0.40		Po297
146	ピット	7a-9C-3c	1 面	古代	0.37	0.34	0.43	146 ピット＞竪穴 1 ・153 ピット	Po286
150	ピット	7a-9C-1b	1 面	古代	△ 0.61	0.60	0.41		Po285・292
172	ピット	7a-9C-3c	2 面	弥生時代中期	0.45	△ 0.38	0.33	157 柱穴・104 ピット＞ 172 ピット	Po297
178	ピット	7a-9C-3c	1 面	古代	0.64	0.40	0.33	50 土坑＞ 178 ピット	Po283
192	ピット	7a-9C-3c	1 面	古代	0.31	0.30	0.29	192 ピット＞竪穴 1	Po287・289
194	ピット	7a-9C-2c	1 面	古代	0.33	0.31	0.31		Po291
216	ピット	7a-9B-4j	2 面	古墳時代前期	0.32	0.29	0.20	216 ピット＞ 289 ピット	Po298・299
217	ピット	7a-9B-4j	2 面	古墳時代	0.32	0.30	0.30		Po300
238	ピット	7a-9C-3a	2 面	弥生時代後期	△ 0.25	0.21	0.09		Po295、CP42
255	ピット	7a-9C-3a	2 面	弥生時代中期	0.58	0.53	0.59	袋状	Po294
319	柱穴	7a-9C-3c	2 面	弥生	0.34	0.30	0.21	柱抜き取り痕跡	Po296

第５項　大鴨遺跡４区の遺構計測表

第 60 表　耕作溝　遺構計測表（１）

調査区	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考	掲載遺物
						長軸	短軸	深さ			
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-1	7a-9C-4c	1 面	中世	0.24	0.07	0.03	N-64° -W		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-2	7a-9C-4c	1 面	中世	0.32	0.11	0.02	N-85° -W		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-3	7a-9C-4c	1 面	中世	0.27	0.13	0.04	N-32° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-4	7a-9C-4c	1 面	中世	0.33	0.11	0.03	N-31° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-5	7a-9C-4c	1 面	中世	0.36	0.06	0.02	N-34° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-6	7a-9C-4c	1 面	中世	0.19	0.08	0.02	N-19° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-7	7a-9C-4c	1 面	中世	0.34	0.09	0.03	N-31° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-8	7a-9C-4c	1 面	中世	0.42	0.09	0.03	N-27° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-9	7a-9C-4c	1 面	中世	0.81	0.13	0.02	N-22° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-10	7a-9C-4c	1 面	中世	0.39	0.10	0.02	N-25° -E		Po407
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-11	7a-9C-4c	1 面	中世	0.39	0.10	0.03	N-33° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-12	7a-9C-4c	1 面	中世	0.34	0.08	0.02	N-21° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-13	7a-9C-4c	1 面	中世	0.39	0.11	0.02	N-19° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-14	7a-9C-4c	1 面	中世	0.20	0.06	0.02	N-16° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-15	7a-9C-4c	1 面	中世	1.18	0.11	0.03	N-21° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-16	7a-9C-4c	1 面	中世	0.30	0.18	0.02	N-28° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-17	7a-9C-4c	1 面	中世	0.65	0.18	0.03	N-62° -W		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-18	7a-9C-4c	1 面	中世	0.45	0.13	0.03	N-62° -W		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-19	7a-9C-4c	1 面	中世	1.70	0.18	0.04	N-30° -E		Po408
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-20	7a-9C-4b・4c	1 面	中世	0.46	0.04	0.03	N-11° -E		
4 区北	耕作溝群 1	耕作溝群 1-21	7a-9C-4c	1 面	中世	0.70	0.13	0.03	N-59° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-1	7a-9C-6c	1 面	中世	1.95	0.14	0.02	N-55° -W		Po406
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-2	7a-9C-5c・6c	1 面	中世	1.93	0.19	0.06	N-57° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-3	7a-9C-6c	1 面	中世	0.98	0.16	0.02	N-57° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-4	7a-9C-5c	1 面	中世	0.88	0.14	0.04	N-54° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-5	7a-9C-5c・6c	1 面	中世	3.68	0.22	0.03	N-52° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-6	7a-9C-5c	1 面	中世	2.18	0.30	0.08	N-43° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-7	7a-9C-5c	1 面	中世	3.16	0.16	0.02	N-46° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-8	7a-9C-5c・6c	1 面	中世	0.43	0.18	0.02	N-71° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-9	7a-9C-5c	1 面	中世	0.30	0.21	0.07	N-73° -W		Po409
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-10	7a-9C-5c	1 面	中世	0.39	0.23	0.02	N-5° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-11	7a-9C-5c	1 面	中世	0.23	0.18	0.02	N-80° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-12	7a-9C-6c	1 面	中世	1.34	0.28	0.04	N-52° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-13	7a-9C-6c	1 面	中世	△ 0.80	0.21	0.04	N-52° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-14	7a-9C-6c	1 面	中世	1.20	0.18	0.07	N-56° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-15	7a-9C-6c	1 面	中世	0.82	0.12	0.03	N-56° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-16	7a-9C-6c	1 面	中世	0.21	0.14	0.07	N-58° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-17	7a-9C-5c	1 面	中世	0.25	0.12	0.02	N-59° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-18	7a-9C-5c	1 面	中世	0.20	0.14	0.02	N-34° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-19	7a-9C-5c	1 面	中世	0.69	0.16	0.02	N-21° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-20	7a-9C-5c	1 面	中世	0.66	0.10	0.03	N-51° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-21	7a-9C-5c	1 面	中世	0.22	0.13	0.02	N-32° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-22	7a-9C-5c	1 面	中世	0.18	0.11	0.02	N-68° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-23	7a-9C-5c	1 面	中世	0.41	0.29	0.08	N-33° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-24	7a-9C-5c	1 面	中世	0.16	0.13	0.04	N-59° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-25	7a-9C-5c	1 面	中世	0.50	0.13	0.02	N-56° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-26	7a-9C-5c	1 面	中世	0.93	0.13	0.03	N-13° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-27	7a-9C-5c	1 面	中世	0.61	0.09	0.05	N-26° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-28	7a-9C-5c	1 面	中世	0.38	0.17	0.01	N-30° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-29	7a-9C-5c	1 面	中世	0.21	0.15	0.04	N-39° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-30	7a-9C-5c	1 面	中世	1.37	0.13	0.05	N-22° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-31	7a-9C-5c	1 面	中世	2.18	0.16	0.05	N-43° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-32	7a-9C-5c	1 面	中世	0.56	0.14	0.05	N-45° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-33	7a-9C-5c	1 面	中世	1.63	0.06	0.01	N-22° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-34	7a-9C-5c	1 面	中世	△ 1.83	0.49	0.05	N-4° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-35	7a-9C-5c	1 面	中世	2.02	0.15	0.08	N-53° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-36	7a-9C-5b・5c	1 面	中世	△ 0.81	0.23	0.03	N-65° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-37	7a-9C-5c	1 面	中世	0.85	0.09	0.05	N-60° -W		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-38	7a-9C-5c	1 面	中世	0.41	0.18	0.08	N-7° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-39	7a-9C-5c	1 面	中世	0.56	0.17	0.02	N-49° -E		
4 区北	耕作溝群 2	耕作溝群 2-40	7a-9C-5c	1 面	中世	0.62	0.14	0.02	N-77° -W		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-1	7a-9C-6c	1 面	中世	0.51	0.19	0.02	N-32° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-2	7a-9C-5c・6c	1 面	中世	1.19	0.30	0.04	N-29° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-3	7a-9C-6c	1 面	中世	0.57	0.11	0.02	N-25° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-4	7a-9C-6c	1 面	中世	1.52	0.16	0.02	N-17° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-5	7a-9C-5c	1 面	中世	1.64	0.14	0.04	N-34° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-6	7a-9C-5c	1 面	中世	1.01	0.07	0.02	N-38° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-7	7a-9C-5c	1 面	中世	0.74	0.19	0.05	N-41° -E		

第 61 表　耕作溝　遺構計測表（２）

調査区	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考	掲載遺物
						長軸	短軸	深さ			
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-8	7a-9C-5c	1 面	中世	0.32	0.13	0.03	N-45° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-9	7a-9C-5c	1 面	中世	0.40	0.25	0.03	N-61° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-10	7a-9C-5c	1 面	中世	0.89	0.09	0.03	N-44° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-11	7a-9C-5c	1 面	中世	0.22	0.13	0.02	N-87° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-12	7a-9C-6c	1 面	中世	0.59	0.09	0.03	N-90° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-13	7a-9C-5c・6c	1 面	中世	0.80	△ 0.66	0.08	N-83° -W		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-14	7a-9C-6c	1 面	中世	1.38	0.33	0.05	N-10° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-15	7a-9C-5b・5c	1 面	中世	△ 2.45	0.72	0.09	N-27° -E		
4 区北	耕作溝群 3	耕作溝群 3-16	7a-9C-5b・5c	1 面	中世	0.73	0.27	0.01	N-63° -W		
4 区北	耕作溝群 4	耕作溝群 4-1	7a-9C-4d	1 面	中世	0.36	0.19	0.07	N-10° -W		Po405
4 区北	耕作溝群 4	耕作溝群 4-2	7a-9C-4d	1 面	中世	0.40	0.10	0.03	N-64° -W		
4 区北	耕作溝群 4	耕作溝群 4-3	7a-9C-4d	1 面	中世	0.29	0.14	0.04	N-66° -W		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-1	7a-9C-6c	1 面	中世	△ 1.59	0.31	0.01	N-69° -W		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-2	7a-9C-6c	1 面	中世	0.97	0.26	0.02	N-72° -W		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-3	7a-9C-6c	1 面	中世	0.41	0.11	0.00	N-4° -W		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-4	7a-9C-6c	1 面	中世	2.89	0.18	0.06	N-73° -W		Po404
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-5	7a-9C-6c・7c	1 面	中世	2.38	0.35	0.08	N-69° -W		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-6	7a-9C-6c	1 面	中世	0.61	0.09	0.03	N-7° -E		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-7	7a-9C-6c	1 面	中世	0.69	0.11	0.03	N-18° -E		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-8	7a-9C-7c	1 面	中世	0.80	0.39	0.06	N-18° -E		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-9	7a-9C-7c	1 面	中世	1.41	0.49	0.04	N-57° -W		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-10	7a-9C-6c	1 面	中世	1.29	0.19	0.02	N-69° -W		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-11	7a-9C-6c	1 面	中世	0.82	0.15	0.05	N-63° -W		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-12	7a-9C-7c	1 面	中世	3.15	0.26	0.05	N-17° -E		
4 区北	耕作溝群 5	耕作溝群 5-13	7a-9C-7c	1 面	中世	1.04	0.30	0.02	N-27° -W		
4 区北	耕作溝群 6	耕作溝群 6-1	7a-9C-7d	1 面	中世	1.79	0.18	0.03	N-83° -W		
4 区北	耕作溝群 6	耕作溝群 6-4	7a-9C-7d	1 面	中世	1.13	0.11	0.05	N-12° -E		Po410
4 区北	耕作溝群 6	耕作溝群 6-5	7a-9C-7d	1 面	中世	0.76	0.04	0.02	N-9° -E		
4 区北	耕作溝群 6	耕作溝群 6-6	7a-9C-7d	1 面	中世	0.21	0.09	0.04	N11° -E		
4 区北	耕作溝群 6	耕作溝群 6-7	7a-9C-7e	1 面	中世	1.38	0.13	0.04	N-21° -E		
4 区北	耕作溝群 6	耕作溝群 6-8	7a-9C-7e	1 面	中世	0.58	0.07	0.02	N-7° -E		
4 区北	耕作溝群 6	耕作溝群 6-9	7a-9C-7e	1 面	中世	0.91	0.08	0.02	N-8° -W		
4 区北	耕作溝群 6	耕作溝群 6-10	7a-9C-7e	1 面	中世	0.93	0.27	0.05	N-66° -E		
4 区北	耕作溝群 7	耕作溝群 7-1	7a-9C-9d	1 面	中世	0.34	0.07	0.04	N-47° -E		
4 区北	耕作溝群 7	耕作溝群 7-2	7a-9C-9d	1 面	中世	0.63	0.08	0.05	N-35° -E		
4 区北	耕作溝群 7	耕作溝群 7-3	7a-9C-9d	1 面	中世	0.55	0.12	0.03	N-35° -E		
4 区北	耕作溝群 7	耕作溝群 7-4	7a-9C-9d	1 面	中世	0.59	0.12	0.03	N-46° -E		
4 区北	耕作溝群 7	耕作溝群 7-5	7a-9C-9d	1 面	中世	0.76	0.09	0.03	N-17° -E		
4 区北	耕作溝群 7	耕作溝群 7-6	7a-9C-8c	1 面	中世	0.61	0.08	0.03	N-2° -W		
4 区北	耕作溝群 7	耕作溝群 7-7	7a-9C-8c	1 面	中世	1.54	0.46	0.05	N-7° -W		Po411
4 区北	耕作溝群 7	耕作溝群 7-8	7a-9C-8c	1 面	中世	0.45	0.28	0.03	N-6° -W		
4 区北	耕作溝群 7	耕作溝群 7-9	7a-9C-9c	1 面	中世	0.71	0.30	0.05	N-32° -E		
4 区北	298	耕作溝	7a-9C-10b・10c	1 面	中世以降	△ 5.44	0.59	0.05	N-76° -W		Po412
4 区北	299	耕作溝	7a-9C-10c	1 面	中世以降	△ 4.92	0.41	0.10	N-78° -W		
4 区北	307	耕作溝	7a-9C-9c	1 面	中世以降	△ 2.39	0.46	0.05	N-81° -W		
4 区北	308	耕作溝	7a-9C-9c	1 面	中世以降	△ 1.77	0.50	0.07	N-74° -W		
4 区北	309	耕作溝	7a-9C-9c	1 面	中世以降	1.75	0.61	0.14	N-78° -W		
4 区北	321	耕作溝	7a-9C-10b・10c	1 面	中世以降	△ 3.94	0.40	0.06	N-85° -W		
4 区北	328	耕作溝	7a-9C-10c	1 面	中世以降	4.41	0.32	0.09	N-74° -W		
4 区北	329	耕作溝	7a-9C-10c	1 面	中世以降	△ 5.96	0.45	0.09	N-72° -W		
4 区北	333	耕作溝	7a-9C-10c	1 面	中世以降	4.92	0.40	0.05	N-75° -W		
4 区南	356	耕作溝	7a-10C-6h	1 面	中世以降	△ 1.38	0.17	0.06	N-58° -W		
4 区南	360	耕作溝	7a-10C-5g	1 面	中世以降	2.38	0.24	0.04	N-45° -W		

第 62 表　田　遺構計測表

調査区	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			備考	掲載遺物
						長さ	幅	高さ		
4 区南・南東	361	田	7a-10C-2a・3a・3b	1 面	中世	△ 9.64	△ 7.82	0.06		Po426、試料 12-1
4 区南	362	田	7a-10C-2a・2b・3a・3b	1 面	中世	△ 10.87	4.50	0.09		Po414 ～ 418・422、CP53
4 区南・南東	363	田	7a-10C-3b・4b	1 面	中世	△ 11.81	9.32	0.07		Po865
4 区南	364	田	7a-10C-3b・4b・4c	1 面	中世	△ 2.96	2.73	0.12		Po420・424・866
4 区南	367	田	7a-10C-2b	1 面	中世	△ 9.32	3.22	0.21		Po413・425、S22
4 区南	368	田	7a-10C-4a・4b・5b	1 面	中世	△ 15.50	3.89	0.07		Po428・867、F14・15
4 区南・南東	369	田	7a-10C-5b・5c・6b	1 面	中世	△ 0.91	4.79	0.09		Po419、F16
4 区南	370	田	7a-10C-5b ～ 7b・5c ～ 7c・7d	1 面	中世	−	−	−		Po423・427・868
4 区南・南東	371	田	7a-10C-7c・7d・8c・8d	1 面	中世	△ 9.12	5.40	−		Po421
4 区南	397	田	7a-10C-8b ～ 8d・9b ～ 9d	1 面	中世	△ 11.10	△ 8.92	0.11		

第 63 表　足跡群　遺構計測表

調査区	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			備考	掲載遺物
						長軸	短軸	深さ		
4 区北	4	足跡群	7a-9C-7b・8b	1 面	中世	−	−	−		試料 15・16
4 区北	5	足跡群	7a-9C-7a・8a・8b	1 面	中世	−	−	−		
4 区北	198	足跡群	7a-9B-6j 7a-9C-6a	1 面	中世	−	−	−		
4 区北	199	足跡群	7a-9C-6a・6b・7a・7b	1 面	中世	−	−	−		
4 区北	260	足跡群	7a-9C-7a・8a・8b	1 面	中世	−	−	−		
4 区北	715	足跡群	7a-9C-8b・9b・9c・10b	1 面	中世	−	−	−		
4 区北	716	足跡群	7a-9C-9c・10b 〜 10d 7a-10C-1b 〜 1d	1 面	中世	−	−	−		
4 区南	717	足跡群	7a-10C-5f・6f	1 面	中世	−	−	−		
4 区南	718	足跡群	7a-10c-7g・8g	1 面	中世	−	−	−		
4 区南	719	足跡群	7a-10c-8d	1 面	中世	−	−	−		

第 64 表　溝・流路　遺構計測表

調査区	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考	掲載遺物
						長さ	最大幅	深さ			
4 区北・南	1	溝	7a-9B-5j･6j 7a-9C-5a･6a・6b 〜 8b・7c・10c・9d・10d 7a-10C-1d･1e･2e･2f 〜 6f・5g 〜 7g・6h 〜 8h・8i	1 面	中世以降	△ 154.00	5.20	0.66	N-25° -E 〜 N-36° -E	近現代の水路	Po369 〜 402・495・497・524・529・530・869、CP51・52、S20
4 区北・南	2	流路	7a-9B-5j･6j 7a-9C-5a 〜 10a・6b 〜 10b・8c 〜 10c・10d 7a-10C-1b・2b・1c 〜 4c・1d 〜 6d・1e 〜 8e・2f 〜 8f・6g 〜 8g	1 面	古代	△ 146.80	25.80	約 1.0	N-23° -E	古代の自然流路	Po488 〜 532・869・870、CP59・60、S23・24、W128 〜 136、試料 5-1･6･7-1・7-2・8・9
4 区北	3	溝	7a-9C-7b・8b	1 面	中世以降	△ 8.96	2.52	0.40	N-59° -W		Br2
4 区北	8	溝	7a-9C-4b・4c	1 面	古代以降	1.25	0.40	0.07	N-72° -W		
4 区北	30	溝	7a-9C-5a	1 面	古代以降	5.12	0.33	0.10	N-53° -W		
4 区北	31	溝	7a-9C-5a	1 面	古代以降	3.06	0.42	0.16	N-65° -W		
4 区北	77	溝	7a-9C-4c・4d・5c・5d	1 面	古代	△ 8.26	0.36	0.11	N-61° -W		Po471
4 区北	134	溝	7a-9B-5j・6j 7a-9C-6a	1 面	中世以降	△ 9.07	0.76	0.25	N-82° -E		
4 区北	297	溝	7a-9C-8b・9b・9c	1 面	中世以降	△ 11.70	2.12	0.32	N-53° -E		
4 区北	323	溝	7a-9C-10d	2 面	古墳時代以前	△ 0.79	0.25	0.07	N-28° -W		
4 区北	332	溝	7a-10C-1c	1 面	中世	△ 7.97	1.24	0.07	N-75° -W		
4 区北	334	溝	7a-9C-5a・5b・6a・6b	1 面	中世以降	△ 1.60	0.35	0.06	N-45° -W		
4 区南	344	溝	7a-10C-5g・5h・6h	1 面	中世	△ 9.17	0.19	0.04	N-17° -W		
4 区南	345	溝	7a-10C-4g・4h・5h	1 面	中世	△ 5.64	0.45	0.16	N-42° -E		S21
4 区南	389	溝	7a-10C-8d・9d	1 面	中世	△ 3.26	0.29	0.06	N-30° -E	1 区 S200	Po403
4 区北	489	溝	7a-9C-5b	2 面	古墳時代以前	△ 0.41	0.23	0.25	N-78° -E		
4 区北	492	溝	7a-9C-4b・4c	2 面	古墳時代以前	3.61	0.48	0.10	N-55° -E		
4 区南	524	溝	7a-10C-8c・9c	1 面	中世	△ 10.03	0.60	0.09	N-22° -E		

第 65 表　土坑　遺構計測表

調査区	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			備考	掲載遺物
						長軸	短軸	深さ		
4 区北	74	土坑	7a-9C-5c	1 面	古代	1.10	△ 0.60	0.19		
4 区北	75	土坑	7a-9C-5c	1 面	古代	1.25	1.07	0.26		
4 区北	80	土坑	7a-9C-5d	1 面	古代	1.03	1.01	0.16		Po468
4 区北	109	土坑	7a-9C-7d	1 面	古代	1.29	1.21	0.15		
4 区北	140	土坑	7a-9C-7d	1 面	古代	△ 1.00	0.94	0.05		
4 区北	175	土坑	7a-9C-8e	1 面	古代	0.75	0.70	0.11		Po469
4 区北	234	土坑	7a-9C-9d・10d	1 面	古代	△ 1.52	1.35	0.22		
4 区北	265	土坑	7a-9C-7c	1 面	古代	1.09	0.77	0.25		Po470
4 区北	291	土坑	7a-9C-8e・9e	1 面	古代	△ 0.97	0.93	0.29		
4 区北	327	土坑	7a-9C-10a 7a-10C-1a	1 面	中世	1.12	1.04	1.01		
4 区北	600	土坑	7a-9C-10a	1 面	中世	0.87	0.75	0.62		
4 区南	635	土坑	7a-10C-5c・6c	1 面	中世	1.20	1.10	0.24		

第 66 表　道路　遺構計測表

調査区	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			主軸	備考	掲載遺物
						長さ	最大幅	深さ			
4 区北	278	道路	7a-9C-9c ～ 9e	1 面	古代	△ 13.45	1.27	0.17	N-70° -W		Po456 ～ 458、F17
4 区北	306	道路	7a-9C-9d･9e	1 面	古代	△ 5.18	1.09	0.06	N-83° -W		
4 区北	322	道路	7a-9C-10e	1 面	古代	2.68	0.60	0.10	N-82° -W		
4 区南	358	道路	7a-10C-7h･7i･8h･8i	1 面	古代	△ 6.64	2.06	0.15	N-76° -W		Po465 ～ 467
4 区北	365	道路	7a-9C-10a 7a-10C-1a・1b・2b・2c ～ 4c・3d ～ 6d・5e ～ 8e・7f・8f	1 面	古代	△ 101.39	0.71	0.27	N-32° -E	1 区 302 道路	Po459 ～ 464
4 区北	365-1a	土坑	7a-10C-1b	1 面	古代	0.36	0.30	0.10	−		
4 区北	365-1b	土坑	7a-10C-1b･2b	1 面	古代	0.35	0.28	0.15	−		
4 区北	365-1c	土坑	7a-10C-2b	1 面	古代	0.30	0.18	0.16	−		
4 区南	365-1d	土坑	7a-10C-2b	1 面	古代	0.38	0.33	0.15	−		
4 区南	365-1e	土坑	7a-10C-2b	1 面	古代	0.33	△ 0.22	0.09	−		
4 区南	365-1f	土坑	7a-10C-2b	1 面	古代	0.28	0.26	0.08	−		
4 区南	365-1g	土坑	7a-10C-2b	1 面	古代	0.24	0.17	0.04	−		
4 区南	365-2	土坑	7a-10C-1b	1 面	古代	△ 0.45	0.40	0.09	−		
4 区南	365-3	土坑	7a-10C-1b	1 面	古代	0.49	0.46	0.04	−		
4 区南	365-4	土坑	7a-10C-1b	1 面	古代	0.30	0.28	0.07	−		
4 区南	365-5	土坑	7a-10C-1b	1 面	古代	0.72	0.63	0.14	−		
4 区南	365-6	土坑	7a-10C-6e	1 面	古代	0.43	0.42	0.09	−		Po461
4 区南	365-7	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.35	0.25	0.06	−		Po461
4 区南	365-8	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.40	0.38	0.11	−		
4 区南	365-9	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.40	0.30	0.08	−		Po461
4 区南	365-10	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.47	0.28	0.07	−		Po461
4 区南	365-11	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.44	0.36	0.06	−		
4 区南	365-12	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.38	△ 0.31	0.07	−		Po461
4 区南	365-13	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.50	0.30	0.06	−		
4 区南	365-14a	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.57	0.44	0.07	−		Po461
4 区南	365-14b	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.40	0.30	0.06	−		
4 区南	365-15	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.33	0.34	0.08	−		Po461
4 区南	365-16	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.39	0.36	0.09	−		
4 区南	365-17	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.51	0.42	0.05	−		
4 区南	365-18	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.47	0.40	0.03	−		
4 区南	365-19	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.65	0.36	0.04	−		
4 区南	365-20	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.39	0.35	0.02	−		
4 区南	365-21	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.40	0.34	0.03	−		
4 区南	365-22	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.37	0.31	0.04	−		Po461
4 区南	365-23	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.41	0.36	0.03	−		
4 区南	365-24	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.47	0.37	0.03	−		
4 区南	365-25	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.33	0.32	0.02	−		
4 区北	365-26	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.38	0.33	0.04	−		
4 区南	365-27	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.44	0.31	0.04	−		
4 区南	365-28	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.36	0.33	0.05	−		
4 区南	365-29	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	△ 0.42	0.40	0.06	−		
4 区南	365-30	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.47	△ 0.14	0.06	−		
4 区北	365-31	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.55	△ 0.37	0.07	−		
4 区北	365-32	土坑	7a-10C-7e･8e	1 面	古代	△ 0.45	0.41	0.02	−		
4 区南	365-33	土坑	7a-10C-8e	1 面	古代	0.42	0.38	0.04	−		
4 区南	365-34	土坑	7a-10C-8e	1 面	古代	0.53	0.42	0.08	−		
4 区南	365-35	土坑	7a-10C-8e	1 面	古代	0.56	△ 0.46	0.05	−		
4 区南	365-36	土坑	7a-10C-7e･8e･8f	1 面	古代	△ 11.61	1.63	0.14	−		
4 区南	365-37	土坑	7a-10C-6e	1 面	古代	0.42	0.36	0.09	−		Po461
4 区北	365-38	土坑	7a-10C-6e・7e	1 面	古代	0.40	0.27	0.05	−		
4 区北 4 区南	678	道路	7a-10C-6e･7e･8e 7a-10C-1b	1 面	古代	△ 11.86	0.16	0.03	N-33° -E	1 区 303 道路	
4 区南	678-1	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.26	0.13	0.03	−		
4 区南	678-2	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.31	0.15	0.03	−		
4 区南	678-3	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.24	0.22	0.03	−		
4 区南	678-4	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.28	0.14	0.03	−		
4 区南	678-5	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.29	0.22	0.05	−		
4 区南	678-6	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.52	0.26	0.05	−		
4 区南	678-7	土坑	7a-10C-7e	1 面	古代	0.53	0.30	0.06	−		
4 区北	678-8	土坑	7a-10C-8e	1 面	古代	0.22	0.19	0.04	−		
4 区南	685	道路	7a-10C-8f	1 面	古代	△ 3.77	0.87	0.07	N-30° -W		
4 区南	687	道路	7a-10C-7i･8i	1 面	古代	△ 2.65	1.08	0.10	N-70° -E		
4 区南	686	道路	7a-10C-6d	1 面	古代	△ 1.33	0.68	0.11	N-53° -W		
4 区北	708	道路	7a-9C-9d	1 面	古代	△ 2.46	△ 0.88	0.06	N-86° -W		
4 区北	708-1	土坑	7a-9C-9d	1 面	古代	0.33	0.15	0.05	−		
4 区北	708-2	土坑	7a-9C-9d	1 面	古代	0.45	0.33	0.09	−		
4 区北	708-3	土坑	7a-9C-9d	1 面	古代	0.29	0.22	0.05	−		
4 区北	708-4	土坑	7a-9C-9d	1 面	古代	0.42	△ 0.40	0.07	−		
4 区北	708-5	土坑	7a-9C-9d	1 面	古代	0.58	△ 0.46	0.06	−		
4 区北	711	道路	7a-9C-10e	1 面	古代	△ 3.03	0.99	0.10	N-75° -W		

第 67 表　落とし穴　遺構計測表

調査区	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			備考	掲載遺物
						長軸	短軸	深さ		
4 区南東	603	落とし穴	7a-10C-4a	2 面	古墳時代以前	1.09	0.76	1.19		
4 区北	607	落とし穴	7a-10C-1a	2 面	古墳時代以前	0.83	0.63	0.78		

第 68 表　柱穴・ピット　遺構計測表（※ 掲載遺構のみ）

調査区	遺構番号	遺構種別	グリッド T52-	遺構面	時期	規模 (m)			備考 (遺構重複　新＞旧)	掲載遺物
						長軸	短軸	深さ		
4 区北	7	ピット	7a-9C-6b	1 面	古代以降	0.57	△ 0.39	0.24		Po477・486
4 区北	21	ピット	7a-9C-5b	1 面	古代	0.65	0.42	0.19		Po472
4 区北	26	ピット	7a-9C-5b	1 面	古代	0.26	0.21	0.09		Po472・483
4 区北	42	ピット	7a-9C-4c	1 面	古代以降	0.96	0.62	0.11		F19
4 区北	44	柱穴	7a-9C-6c・6d	1 面	古代	0.54	△ 0.32	0.49		Po479
4 区北	52	柱穴	7a-9C-6d	1 面	古代	0.49	0.41	0.29		Po473・484・485
4 区北	61	柱穴	7a-9C-6c・6d	1 面	古代	0.47	0.46	0.36		Po478
4 区北	92	ピット	7a-9C-6d	1 面	古代	0.58	0.47	0.50		Po474・480・481
4 区北	93	ピット	7a-9C-6d	1 面	古代	0.41	0.38	0.24		Po482
4 区北	94	ピット	7a-9C-6d	1 面	古代	0.57	0.52	0.20		Po487
4 区北	110	柱穴	7a-9C-7d	1 面	古代	0.35	0.32	0.16		Po476
4 区北	118	柱穴	7a-9C-7d	1 面	古代	0.21	0.17	0.22		F18
4 区北	121	柱穴	7a-9C-7e	1 面	古代	0.27	0.26	0.25		試料 18
4 区北	148	柱穴	7a-9C-7d	2 面	古墳時代以前	0.33	0.30	0.22		Po642
4 区北	250	ピット	7a-9C-7c	1 面	古代以降	0.46	0.45	0.09	250 ピット＞ 265 土坑	
4 区北	319	柱穴	7a-9C-8e	1 面	古代	0.41	△ 0.32	0.23		Po475
4 区南	352	ピット	7a-10C-5h	1 面	中世	0.24	0.15	0.22	352 ピット＞ 353 ピット	Po368
4 区南	353	ピット	7a-10C-5h	1 面	中世	△ 0.29	0.28	0.21		
4 区南	359	柱穴	7a-10C-5h	1 面	中世	0.20	0.19	0.28		試料 22
4 区南	398	ピット	7a-10C-8d	1 面	中世	0.44	△ 0.39	0.19		F11 ～ 13

第６項　大鴨遺跡　遺物計測表

第 69 表　土器観察表（１）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po 1	100	142	139	1 区	7a-10C-10d	掘立柱建物 1 73 柱穴	埋土	土師器 坏	△ 1.3	—	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	内外面とも褐色	
Po 2	102	142	203	1 区	8a-1C-1e	掘立柱建物 2 166 柱穴	埋土	土師器 皿	△ 2.1	—	—	内外面とも口縁部横方向のナデ、底部付近ナデ・指オサエ	密 良好	外面：にぶい橙色・にぶい褐色 内面：にぶい橙色	
Po 3	103	142	174	1 区	8a-1C-1d	掘立柱建物 2 159 柱穴	埋土	瓦質土器 鍋	△ 2.8	—	—	内外面とも横方向のナデ、一部指オサエ	密 良好	外面：灰黄色 内面：浅黄橙色	
Po 4	108	142	153	1 区	7a-10C-10d	掘立柱建物 3 84 柱穴	埋土	須恵器 坏	△ 2.5	—	—	内外面とも回転ナデ	密 やや不良	外面：にぶい黄橙色・灰色 内面：灰黄色	
Po 5	110	142	156 92	1 区	7a-10C-10d 7a-10C-9e	掘立柱建物 3 114 柱穴	埋土 Ⅰa 層	土師器 鉢	△ 10.8	※ 27.4	—	外面：口縁端部横方向のナデ、体部ナデ・指オサエ 内面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色・浅黄橙色 内面：にぶい橙色・灰色	
Po 6	116	142	133	1 区	7a-10C-9d	掘立柱建物 5 174 柱穴	埋土	土師器 鍋	△ 3.1	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、一部ハケ 内面：口縁部ハケ、頸部ケズリ	密 良好	外面：黒色 内面：にぶい黄橙色・灰黄褐色	外面煤・錆？付着
Po 7	117	142	190	1 区	8a-1C-1e	柵列 1 171 柱穴	埋土	土師器 高台付皿	2.3	7.6	6.1	外面：口縁から高台部横方向のナデ、高台内底面ナデ・指オサエ 内面：口縁部横方向のナデ、底面ナデ・指オサエ	密 良好	内外面とも灰白色・褐灰色	ほぼ完形
Po 8	119	142	194 224 64	1 区	7a-10C-10b	8 火葬墓 8 火葬墓	埋土 埋土 Ⅰa 層	土師器 皿	3	※ 11.9	※ 5.8	外面：口縁部回転ナデ、底面回転糸切り 内面：口縁部から底面まで回転ナデ	密 良好	外面：橙色・にぶい黄橙色・褐灰色 内面：橙色・浅黄橙色・褐灰色	
Po 9	120	142	228	1 区	7a-10C-9i	1 溝	埋土	土師器 甕	△ 8.1	※ 13.4	—	外面：口縁から頸部横ナデ、頸から肩部タタキ後ハケ 内面：口縁から頸部横ナデ、肩部ケズリ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po10	124	142	177	1 区	7a-10C-10e	197 土坑	埋土	土師器 皿	△ 1.1	—	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po11	124	142	96	1 区	7a-10C-9e	198 土坑	埋土	瓦質土器 羽釜	△ 4.3	—	—	内外面とも口縁部横方向のナデ、体部ナデ・指オサエ	密 良好	外面：灰色 内面：灰色・灰白色	外面煤付着
Po12	125	142	141	1 区	7a-10C-10d	86 柱穴	埋土	土師器 坏	△ 1.8	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po13	125	142	172	1 区	7a-10C-10d	90 柱穴	埋土	須恵器 甕	△ 9.3	—	—	外面：平行タタキ後ハケ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po14	125	142	175	1 区	7a-10C-10d	92 柱穴	埋土	土師器 皿	△ 1.9	※ 8.0	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po15	126	142	134	1 区	7a-10C-9d	193 柱穴	埋土	土師器 皿	△ 1.2	—	※ 5.3	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：浅黄橙色 内面：にぶい橙色	
Po16	128	143	242	1 区	8a-1C-1e	302 道路	埋土	弥生土器 高坏	△ 6.8	—	—	外面：坏部ハケ後ミガキ、脚部ミガキ 内面：坏部ミガキ、脚部ケズリ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po17	128	143	253	1 区	7a-10C-9f	302 道路	埋土	弥生土器 甕	△ 2.9	—	※ 10.8	外面：底部ミガキ、底面ナデ 内面：底面ナデ	密 良好	外面：暗灰色、にぶい黄橙色 内面：灰色	
Po18	128	143	316 243 255 318	1 区	7a-10C-10e 7a-10C-10e 8a-1C-1e 7a-10C-10e	302 道路	埋土	土師器 甕	△ 12.7	※ 17.0	—	外面：口縁から頸部横ナデ、肩部７条の波状文、胴部ハケメ 内面：口縁から頸部横ナデ、肩から胴部ケズリ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	体部表面の摩滅著しい
Po19	138	143	282	1 区	7a-10C-9j	442 流路	埋土	土師器 壺	△ 7.8	※ 14.3	—	外面：口縁から頸部横ナデ、頸から肩部ハケメ 内面：口縁から頸部横ナデ、頸から肩部ケズリ	密 良好	外面：灰白色・にぶい黄橙色 内面：灰白色	
Po20	138	143	281	1 区	8a-1C-1j	442 流路	埋土	土師器 甕	△ 11.8	※ 16.4	—	外面：口縁から頸部横ナデ、肩から胴部ハケメ 内面：口縁から頸部横ナデ、肩から胴部ケズリ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色	
Po21	138	143	268	1 区	7a-10C-9j	441 流路	埋土	須恵器 壺？	△ 2.4	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po22	140	143	248	1 区	7a-10C-10e	440 ピット	埋土	須恵器 蓋	△ 1.1	—	—	外面：天井部回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po23	141	143	330 322 326	1 区	7a-10C-10f		Ⅰa 層	土師器 塊	△ 6.2	※ 10.8	—	外面：口縁部横ナデ、体部から底部指オサエ・ナデ 内面：口縁端部横ナデ、体部から底部ケズリ後ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色	
Po24	141	143	328-1	1 区	7a-10C-10f		Ⅰa 層	土師器 坏	△ 3.5	—	—	外面：口縁端部ナデ、ミガキ、ナデ 内面：ミガキ、一部暗文	密 良好	内外面とも橙色	赤彩
Po25	141	143	328-2	1 区	7a-10C-10f		Ⅰa 層	土師器 坏	△ 2.6	—	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	外面：橙色 内面：にぶい橙色	外面煤付着 外面のみ赤彩
Po26	141	143	66	1 区	7a-10C-10h		Ⅰa 層	製塩土器	△ 3.0	—	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	外面：にぶい橙色・浅黄橙色 内面：浅黄橙色	
Po27	141	146	30	1 区	7a-10C-8f		Ⅰa 層	土師器 皿	△ 1.6	※ 8.4	—	内外面とも横方向のナデ、底部指オサエ	密 良好	外面：にぶい橙色・灰色 内面：にぶい橙色	
Po28	141	143	178	1 区	7a-10C-9h		Ⅰa 層	土師器 皿	△ 1.3	※ 8.7	—	外面：横方向のナデ、底部ナデ・指オサエ 内面：横方向のナデ、底部ナデ	密 良好	外面：褐灰色・灰白色 内面：灰白色・黄灰色	
Po29	141	146	31	1 区	7a-10C-8e		Ⅰa 層	土師器 皿	△ 1.4	※ 7.8	—	外面：横方向のナデ、底部指オサエ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：浅黄橙色 内面：にぶい橙色	
Po30	141	143	87-2	1 区	7a-10C-9e		Ⅰa 層	土師器 鍋	△ 3.5	—	—	外面：横方向のナデ、一部指オサエ 内面：口縁部横方向のナデ	密 良好	外面：褐灰色 内面：褐灰色・灰褐色	
Po31	141	144	7	1 区	8a-1C-1f		Ⅰa 層	瓦質土器 鍋	△ 4.0	—	—	内外面とも口縁部横方向のナデ、体部指オサエ	密 良好	内外面とも灰色	
Po32	141	144	84	1 区	7a-10C-10e		Ⅰa 層	瓦質土器 羽釜	△ 6.3	—	—	内外面とも口縁部横方向のナデ、体部ナデ・指オサエ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・黄褐色 内面：にぶい黄橙色	
Po33	141	144	100	1 区	7a-10C-10f		Ⅰa 層	瓦質土器 羽釜	△ 5.4	—	—	内外面とも口縁部横方向のナデ、体部指オサエ	密 良好	外面：灰白色 内面：黄灰色	外面煤付着

第 70 表　土器観察表（２）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po34	141	144	87-1	1区	7a-10C-9e		Ⅰａ層	瓦質土器 鉢	△ 8.0	※ 32.1	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ・指オサエ 内面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po35	141	146	297 275	1区	7a-10C-8i 7a-1C-9i		Ⅲ層直上 Ⅰａ層	須恵器 蓋	△ 3.5	基部径 14.6	—	外面：つまみ部ナデ、天井部回転ヘラケズリ、口縁部回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	つまみ部径 3.8cm
Po36	141	143	328-3	1区	7a-10C-10f		Ⅰａ層	須恵器 坏	△ 2.8	※ 11.6	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po37	141	143	92-1	1区	7a-10C-9e		Ⅰａ層	須恵器 坏	△ 1.7	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色・灰白色	
Po38	141	143	336	1区	7a-10C-10f		Ⅰａ層	須恵器 坏	△ 2.7	—	※ 7.7	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	重ね焼きの痕跡あり
Po39	141	143	327	1区	7a-10C-10f		Ⅰａ層	須恵器 坏	△ 1.3	—	※ 5.4	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po40	141	146	344	1区	—		排土	須恵器 高台付坏	△ 1.7	—	※ 9.8	外面：回転ナデ、高台裏底部工具によるナデ 内面：回転ナデ、底部磨面	密 良好	内外面とも褐灰色	転用硯？
Po41	141	144	92-2	1区	7a-10C-9e		Ⅰａ層	須恵器 甕	△ 6.7	—	—	外面：格子目叩き (細) 内面：ハケ後ナデ	密 良好	外面：黒褐色 内面：にぶい黄橙色	
Po42	141	145	75	1区	7a-10C-10d		Ⅰａ層	白磁 碗	△ 1.7	—	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部：灰白色	内面の施釉は大部分がはがれている
Po43	141	145	8	1区	7a-10C- 8a-1C-		Ⅰａ層	白磁 碗	△ 2.2	—	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部：灰白色	
Po44	141	145	3	1区	7a-10C- 8a-1C-		Ⅰａ層	白磁 皿	△ 1.4	—	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部：灰白色	
Po45	141	145	57	1区	8a-1C-1c		Ⅰａ層	白磁 鉢	△ 2.9	—	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部：灰白色	
Po46	141	145	1-1	1区	7a-10C- 8a-1C-		Ⅰａ層	青磁 碗	△ 1.8	—	—	外面：施釉、蓮弁？ 内面：施釉	密 良好	施釉部：灰オリーブ色	
Po47	141	145	71	1区	8a-1C-2d		Ⅰａ層	青磁 碗	△ 1.9	—	※ 5.0	外面：施釉、畳付き・高台裏底部露胎 内面：施釉、針痕あり	密 良好	施釉部：オリーブ灰色 露胎部：灰色	
Po48	141	146	45	1区	7a-10C-9e		撹乱	唐津焼 埦	△ 2.7	—	—	外面：施釉、一部露胎 内面：施釉	密 良好	施釉部：にぶい黄橙色 露胎部：橙色	
Po49	141	146	4	1区	7a-10C-10h		撹乱	唐津焼 皿	△ 1.5	—	※ 5.0	外面：露胎、体部回転ナデ、高台脇から高台裏回転ヘラケズリ 内面：施釉	密 良好	外面：橙色・浅黄橙色 内面：浅黄色	
Po50	141	144	61	1区	7a-10C-10c		Ⅰａ層	唐津焼 皿	△ 1.6	—	※ 4.9	外面：ロクロによるケズリ、高台部ロクロによるケズリ出し 内面：施釉	密 良好	施釉部：明褐灰色 露胎部：にぶい橙色	
Po51	141	144	87-3	1区	7a-10C-9e		Ⅰａ層	瀬戸焼 皿	△ 2.1	—	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部：淡黄色・浅黄色	
Po52	141	144	1-2	1区	7a-10C- 8a-1C-		Ⅰａ層	瀬戸焼 皿	△ 1.2	—	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部外面：灰白色 施釉部内面：オリーブ黄色	
Po53	141	144	25	1区	7a-10C-8e		Ⅰａ層	備前焼 壺	△ 6.4	※ 13.8	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	外面：にぶい赤褐色・灰褐色 内面：にぶい赤褐色	
Po54	141	144	53	1区	8a-1C-1g		Ⅰａ層	備前焼 大甕	△ 6.4	—	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	外面：黄灰色・暗灰黄色 内面：暗灰黄色	
Po55	141	144	233	1区	7a・8a-		Ⅰａ層	備前焼 擂鉢	△ 6.9	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、９条の卸目	密 良好	外面：黒褐色～褐色 内面：褐灰色～黒褐色	
Po56	141	144	54	1区	8a-1C-1c		Ⅰａ層	備前焼 擂鉢	△ 5.3	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、卸目	密 良好	内外面とも灰褐色・褐灰色	
Po57	141	144	73	1区	7a-10C-9d		Ⅰａ層	越前焼 甕底	△ 4.8	—	16.8	外面：横方向のナデ、底部未調整 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：灰褐色 内面：褐色	内面一部に自然釉が残る
Po58	154	149	141	2区	7a-8B-10i	1溝	埋土	須恵器 高台付坏	△ 2.6	—	※ 9.4	外面：体部回転ナデ、底部静止糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po59	154	149	11	2区	7a-8B-9i	1溝	埋土	土師器 皿	△ 2.0	※ 10.6	※ 8.6	外面：口縁部回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po60	157	151	464	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	弥生土器 甕	△ 5.0	※ 13.8	—	外面：11 条の凝凹線文、頭部横ナデ 内面：横ナデ、頭部ケズリ	ふつう やや良好	外面：橙色 内面：にぶい黄橙色	
Po61	157	151	463	2区	7a-8B-10j	2流路	埋土	弥生土器 甕	△ 6.0	※ 14.2	—	外面:口縁端部ナデ、2 条の凝凹線、ナデ、5 条の凝凹線、頭部横ナデ 内面：横ナデ、肩部ケズリ	やや粗 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po62	157	151	268-1	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	弥生土器 甕	△ 4.5	—	—	外面：波状文、頭部横ナデ 内面：横ナデ、頭部ケズリ	やや密 良好	外面：にぶい橙色 内面：橙色	
Po63	157	151	775	2区	7a-9B-2j	2流路	埋土	弥生土器 高坏	△ 3.2	—	—	外面：口縁端部５条の沈線文、横ナデ、屈曲部以下ケズリ 内面：横ナデ	やや密 良好	内外面とも明赤褐色	
Po64	157	151	873	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土 (最下層)	土師器 甕	△ 3.8	※ 12.8	—	内外面とも横ナデ	密 ふつう	内外面ともにぶい黄橙色	
Po65	157	151	454	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	土師器 甕	△ 5.6	※ 14.7	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ、肩部ケズリ	密 やや良好	内外面とも灰白色	
Po66	157	151	250	2区	7a-8B-9h	2流路	埋土	土師器 甕	△ 9.8	※ 11.2	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頭部ナデ、体部指オサエ、ケズリ	やや密 やや不良	内外面とも灰白色	
Po67	157	151	358	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	土師器 甕	△ 3.8	※ 21.8	—	外面：横ナデ 内面：肩部ケズリ	密 良好	内外面とも橙色～にぶい橙色	
Po68	157	151	219-1	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	土師器 甕	△ 5.6	※ 21.8	—	外面：口縁部横ナデ、頭部ハケ 内面：口縁端部ナデ、口縁部ハケ、肩部ケズリ	密 良好	外面：にぶい黄褐色～黒色 内面：浅黄橙色・褐灰色	
Po69	157	151	195-1	2区	7a-8B-9h	2流路	埋土	土師器 甕	△ 7.7	※ 22.8	—	外面：口縁部横ナデ、頭部～肩部ハケ 内面：口縁部横ナデ、頭部ハケ目、肩部ケズリ	密 良好	外面：黒～褐灰色 内面：にぶい赤褐色～灰黄褐色	
Po70	157	151	195-2	2区	7a-8B-9h	2流路	埋土	土師器 甕	△ 4.3	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：黒色 内面：にぶい橙色	
Po71	157	151	186-1	2区	7a-8B-9h・9i	2流路	埋土	土師器 坏	△ 3.2	—	—	外面：横方向のナデ 内面：横方向のナデ、底部ナデ	密 良好	内外面とも赤色	内外面赤彩
Po72	157	151	360 271	2区	7a-8B-9i	2流路 2流路	埋土 埋土	土師器 皿	4.0	19.7	13.6	外面：口縁端部ナデ、体部～底部ミガキ 内面：体部ミガキ	密 良好	外面：明赤褐色～暗赤褐色 内面：明赤褐色	内外面赤彩

第 71 表　土器観察表（３）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po73	157	152	268-2	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	土師器 甕	△ 8.9	—	※ 12.0	外面：工具によるナデ・一部指オサエ、底部ナデ 内面：ナデ、ケズリ・一部指オサエ	密 良好	外面：橙色～褐灰色 内面：にぶい橙色	粘土充填が不十分で剥落が目立つ
Po74	157	152	169	2区	7a-9B-1i	2流路	埋土	土師器 甕	14.6	16.2	16.1	外面：口縁部横ナデ、体部縦方向のナデ、指による調整、底部ナデ・板目痕あり 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ、底部指オサエ・粗いナデ	密 良好	外面：灰白色・橙色・暗灰色 内面：灰黄褐色・灰白色・にぶい黄橙色・暗灰色	外面底部・内面口縁部黒斑あり
Po75	157	151	866	2区	7a-9B-1i	2流路	埋土	土師器 高坏	△ 6.2	—	—	外面：坏部ハケ目 内面：坏部ナデ、脚部シボリ	密 やや不良	内外面とも浅黄橙色	
Po76	157	151	1343	2区	7a-8B-8i	2流路	5層	土師器 高坏	△ 9.0	—	—	外面：八角柱状に面取り 内面：坏底部ナデ、脚部中央部穿孔	密 良好	内外面とも灰白色	
Po77	157	153	870-1	2区	7a-8B-9h	2流路	埋土（最下層）	須恵器 坏蓋	△ 3.1	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：黄灰色・黒色 内面：灰白色	
Po78	157	153	186-3	2区	7a-8B-9h・9i	2流路	埋土	須恵器 坏蓋	3.9	11.7	—	外面：回転ナデ、天井部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ、天井部ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po79	157	153	945	2区	7a-9B-1i	2流路	埋土（最下層）	須恵器 坏蓋	△ 2.6	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも黄灰色	
Po80	157	153	21	2区	7a-9B-1i	2流路	上層	須恵器 坏蓋	△ 2.2	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：暗灰黄色 内面：黄灰色	
Po81	157	153	466-1	2区	7a-9B-1i	2流路	埋土	須恵器 坏蓋	△ 2.4	—	—	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ、つまみ部ナデ 内面：回転ナデ、天井部ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：褐灰色	外面焼成時の灰付着のため調整不明瞭
Po82	157	153	443	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	須恵器 蓋	△ 1.6	—	—	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ、つまみ部ナデ 内面：ナデ	密 良好	外面：灰褐色 内面：褐灰色～灰褐色	
Po83	157	153	193	2区	7a-8B-9h	2流路	埋土	須恵器 蓋	△ 1.4	—	—	外面：回転ヘラケズリ、つまみ部ナデ 内面：ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po84	157	153	186-4	2区	7a-8B-9h・9i	2流路	埋土	須恵器 蓋	△ 2.4	※ 14.6	—	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、ナデ	密 良好	外面：灰色・黒色 内面：灰色	
Po85	157	153	317-1	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	須恵器 坏身	△ 2.9	※ 11.4	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：灰オリーブ色 内面：灰色	
Po86	157	153	179-2	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	須恵器 坏身	△ 3.8	※ 10.9	—	外面：口縁部回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ 内面：口縁部回転ナデ、体部ナデ	密 良好	外面：褐灰色・灰白色 内面：褐灰色	外面焼成時の灰付着のため調整不明瞭
Po87	157	153	268-3	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	須恵器 坏身	△ 2.9	※ 10.5	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po88	157	154	711-2	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	須恵器 坏	△ 1.8	—	※ 7.4	外面：粗いナデ、一部ハケ状工具痕 内面：ナデ	密 良好	内外面とも灰オリーブ色	
Po89	157	154	268-4	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	須恵器 高台付坏	△ 1.8	—	※ 8.2	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	ふつう ふつう	内外面とも灰色	
Po90	157	153	466-3	2区	7a-9B-1i	2流路	埋土	須恵器 高台付坏	△ 2.5	—	8.2	外面：回転ナデ、高台～底部ナデ 内面：回転ナデ	ふつう やや良好	内外面とも褐灰色	
Po91	157	154	215-2	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	須恵器 高台付坏	△ 1.6	—	※ 10.0	内外面とも回転ナデ	密 やや良好	外面：黄灰色 内面：灰白色	
Po92	157	153	194	2区	7a-8B-8i	2流路	埋土	須恵器 高台付坏	△ 3.6	—	8.4	外面：回転ナデ、一部ハケ目状の工具痕あり、底部ナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po93	157	153	170-1	2区	7a-9B-1i	2流路	埋土	須恵器 高台付坏	△ 2.9	—	※ 8.1	外面：回転ナデ、高台部～底部ナデ、板目痕あり 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面とも暗青灰色	
Po94	157	154	870-2	2区	7a-8B-9h	2流路	埋土（最下層）	須恵器 高坏	△ 7.5	—	—	外面：回転ナデ、2 条の沈線文 内面：回転ナデ	やや密 良好	内外面とも灰色	
Po95	157	154	14	2区	7a-8B-10j	2流路	埋土	須恵器 高坏	△ 7.4	—	—	外面：回転ナデ、1 条の沈線文 内面：坏底部ナデ、脚部上半ナデ、脚部下半回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po96	157	154	179-3	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	須恵器 高坏？	△ 3.0	—	—	外面：回転ナデ、刻書文字 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも黄灰色	外面刻書文字あり
Po97	158	154	273-1	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	須恵器 壺？	△ 4.2	※ 9.8	—	内外面とも回転ナデ	やや密 良好	内外面とも灰色	
Po98	158	154	215-1	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	須恵器 壺	△ 4.8	※ 17.4	—	外面：口縁端部ナデ、回転ナデ 内面：回転ナデ、頸部ケズリ	密 良好	内外面とも灰色	
Po99	158	154	466-2 870	2区	7a-9B-1i 7a-8B-9h	2流路	埋土 埋土（最下層）	須恵器 横瓶	△ 4.7	※ 13.2	—	外面：口縁から頸部回転ナデ、体部平行タタキ 内面：口縁から頸部ナデ、体部同心円状当て具痕	密 良好	外面：黄灰色 内面：灰白色～黄灰色	
Po100	158	154	177-1	2区	7a-8B-9h	2流路	埋土	須恵器 甕	△ 3.5	※ 21.4	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po101	158	154	170-2	2区	7a-9B-1i	2流路	埋土	須恵器 壺？	△ 6.0	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po102	158	154	186-2	2区	7a-8B-9h・9i	2流路	埋土	須恵器 壺	△ 16.4	※ 15.5	—	外面：口縁から体部上半回転ナデ、口縁に一条の波状文、体部下半平行タタキ、下部カキメ 内面：回転ナデ、体部下同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰色～灰白色 内面：灰色	
Po103	158	—	12	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	須恵器 壺	△ 4.3	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：暗灰黄色 内面：黄灰色	外面焼成時の灰薄く付着 内面頸部別部材接着
Po104	158	—	186-5	2区	7a-8B-9h・9i	2流路	埋土	須恵器 壺	△ 7.8	—	—	外面：回転ナデ、平行タタキ 内面：回転ナデ、同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰色～灰白色 内面：灰色	
Po105	158	—	946-1	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土（最下層）	須恵器 壺？	△ 7.3	—	※ 7.8	外面：回転ナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po106	158	154	22	2区	7a-9B-1i	2流路	埋土（中層）	須恵器 高台付壺？	△ 5.1	—	—	外面：回転ナデ、高台～底部ナデ 内面：回転ナデ、ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po107	158	154	365	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	須恵器 横瓶	△ 16.5	—	—	外面：頸部ナデ、体部平行タタキ後縦方向のカキメ 内面：頸部ナデ、底部同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰色～褐灰色 内面：褐灰色	
Po108	158	—	206-1	2区	7a-8B-9h	2流路	埋土	須恵器 壺？	△ 9.5	—	—	外面：平行タタキ・ナデ 内面：回転ナデ、同心円状当て具痕	密 やや不良	内外面とも灰色	

第 72 表　土器観察表（４）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po109	158	154	466-6	2区	7a-9B-1i	2流路	埋土	須恵器 甕	△ 6.9	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：暗灰黄色・淡黄色 内面：灰色	
Po110	158	154	466-5	2区	7a-9B-1i	2流路	埋土	須恵器 甕	△ 18.6	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	
Po111	158	154	364	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	須恵器 甕	△ 14.3	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰色～オリーブ黒色 内面：黄灰色	
Po112	159	154	943	2区	7a-9B-1i	2流路	埋土	須恵器 甕	△ 13.2	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po113	159	154	219-3	2区	7a-8B-10i	2流路	埋土	須恵器 壺？	△ 13.7	—	—	外面：タタキ・粗いカキメ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも灰白色	
Po114	159	154	363 215	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	須恵器 甕？	△ 28.4	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po115	168	155	1324-2	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	土師器 甕	△ 4.1	※ 12.4	—	外面：口縁端部ナデ、横ナデ 内面：横ナデ、頸部ケズリ	ふつう 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po116	168	155	1324-1	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	土師器 甕	△ 4.2	※ 19.0	—	内外面とも横ナデ	やや密 良好	外面：浅黄橙色 内面：明黄褐色	
Po117	168	155	867	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	土師器 甕	△ 10.8	※ 29.4	—	外面：ハケ後横ナデ 内面：粗いハケ後ナデ、体部ケズリ	やや密 やや良好	外面：黒褐色～明褐灰色 内面：灰黄褐色～にぶい黄橙色	
Po118	168	155	770	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	土師器 甕	△ 4.3	—	—	外面：口縁端部ナデ、横ナデ 内面：ナデ、ヘラケズリ	ふつう 良好	内外面ともにぶい黄褐色	
Po119	168	155	1327	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	須恵器 坏蓋	△ 1.8	※ 15.0	—	外面：口縁部回転ナデ、ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po120	168	155	865	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	須恵器 高坏	△ 1.8	—	—	外面：回転ナデ、透かし 内面：ナデ	やや密 良好	内外面とも暗青灰色	
Po121	168	155	705	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	須恵器 鼈	△ 6.1	—	—	外面：刺突文、1 条の沈線、回転ナデ、回転ヘラケズリ、底部ヘラ切り未調整 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	外面肩部と内面底部に焼成時の灰付着
Po122	168	155	772	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	須恵器 壺	△ 5.4	※ 14.2	—	内外面とも回転ナデ	やや密 やや不良	内外面とも灰白色	
Po123	168	155	383 36	2区 4区	7a-8B-10i 7a-9B-8j	76 木製構造物	盛土 造成土	須恵器 甕	△ 8.2	—	—	外面：回転ナデ、12 本の波状文、2 条の沈線、12 本の波状文 内面：回転ナデ	密 良好	外面：紫黒色 内面：灰色	
Po124	168	155	1025	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	須恵器 甕	△ 6.5	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕、当て具後一部ナデ	密 良好	内外面とも黄灰色	
Po125	168	155	1105	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	須恵器 甕	△ 6.5	—	—	外面：回転ナデ、波状文、沈線 内面：回転ナデ	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	
Po126	168	154	374 457	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物 76 木製構造物	盛土	須恵器 甕	△ 23.7	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po127	168	154	455	2区	7a-8B-9i	76 木製構造物	盛土	須恵器 甕	△ 17.0	—	—	外面：平行タタキ後一部横方向のカキメ 内面：同心円状当て具後縦方向のナデ	密 良好	外面：オリーブ黒色～暗オリーブ色 内面：灰色～灰オリーブ色	
Po128	175	156	376	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	不明	土師器 甕	△ 6.8	※ 13.0	—	外面：口縁～肩部横ナデ、体部ハケ 内面：ナデ、ケズリ	ふつう ふつう	内外面ともにぶい橙色	
Po129	175	156	518	2区	7a-8B-9h	171 木製祭祀具集中部	盛土	土師器 甕	△ 5.5	※ 18.6	—	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	やや密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po130	175	156	243 359	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部 2流路	不明 埋土	土師器 甕	△ 9.0	※ 27.0	—	外面：口縁端部ナデ、口縁部横ナデ、頸部ハケ 内面：横ナデ、ケズリ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po131	175	156	367	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	土師器 甕	△ 6.5	※ 29.8	—	外面：横ナデ、粗いハケ後ナデ消し 内面：横ナデ、ケズリ	密 良好	外面：にぶい橙色～黒色 内面：褐灰色～灰黄褐色	
Po132	175	156	701 697 700	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	土師器 甕	△ 15.5	※ 34.0	—	外面：口縁部横ナデ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部粗いケズリ	密 良好	外面：褐灰色～にぶい橙色 内面：にぶい橙色～明褐灰色	内面剝離激しい
Po133	175	156	698 868 702	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	土師器 甕	△ 6.7	※ 31.4	—	外面：口縁端部横ナデ、頸部工具によるナデ、ハケ 内面：横ナデ、ハケ	密 良好	外面：黒色～灰黄褐色～明赤褐色 内面：にぶい橙色～褐灰色～浅黄橙色	
Po134	175	156	192 199	2区	7a-8B-9h	171 木製祭祀具集中部 2流路	堆積土 不明	土師器 甕	△ 25.4	41.0	—	外面：口縁部横ナデ、体部ハケ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：褐灰色・にぶい黄橙色 内面：褐灰色・灰黄褐色	外面黒斑あり
Po135	176	156	380	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	不明	須恵器 壺	△ 5.6	※ 12.6	—	外面：口縁部回転ナデ、頸部横ナデ 内面：口縁部回転ナデ、肩部ナデ	密 良好	内外面とも灰色	外面焼成時の灰付着
Po136	176	156	696	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	須恵器 甕？	△ 4.3	※ 12.2	—	外面：回転ナデ、肩部カキメ 内面：回転ナデ、頸部粗いカキメ、肩部横方向のナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po137	176	156	378	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	須恵器 壺	△ 16.1	—	10.9	外面：回転ナデ、肩部刺突文、胴部沈線、底部脇回転ヘラケズリ、底部工具による粗いナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	外面：灰白色 内面：灰白色・浅黄色	
Po138	176	156	377 389	2区	7a-8B-9i 7a-8B-10i	171 木製祭祀具集中部 2流路	盛土 埋土	須恵器 横瓶	△ 14.4	—	—	外面：平行タタキ後カキメ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	内外面とも灰色～灰白色	
Po139	176	156	379	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	須恵器 横瓶？	△ 8.4	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰白色～黒色 内面：灰白色～黄灰色	
Po140	176	156	703	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	須恵器 甕	△ 8.8	—	—	外面：平行タタキ後ハケ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰白色 内面：灰色	
Po141	176	156	370	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	須恵器 甕	△ 12.8	—	—	外面：平行タタキ後一部ナデ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰白色～灰色 内面：灰色	
Po142	176	156	375 466-4	2区	7a-8B-9i 7a-9B-1i	171 木製祭祀具集中部 2流路	不明 埋土	須恵器 甕	△ 8.5	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰白色～灰色 内面：灰色	
Po143	183	149	48 72 1341	2区	7a-8C-8a 7a-8B-8j 7a-8C-8a 7a-8C-8a	3溝	埋土 Ⅱb・Ⅱc層撹乱	須恵器 高台付坏	△ 3.3	—	※ 8.6	外面：回転ナデ、高台部横ナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	外面：暗灰色～灰色 内面：灰色	
Po144	183	150	49-2	2区	7a-8C-10a	4溝	埋土	須恵器 坏身	△ 1.7	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも黄灰色	
Po145	183	150	49-1	2区	7a-8C-10a	4溝	埋土	土師器 坏	△ 2.4	—	※ 6.0	外面：回転ナデ、ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	

第 73 表　土器観察表（5）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po146	183	150	157	2区	7a-8B-10j	4溝	埋土	青磁 碗	△ 1.5	—	—	外面：施釉、蓮弁文 内面：施釉	密 良好	外面：明オリーブ灰色～オリーブ灰色 内面：明緑灰色～灰白色	
Po147	189	150	82 1297	2区 3区	7a-9C-1a —	59 段状遺構	埋土 排土	須恵器 坏	3.3	※ 12.5	9.2	外面：回転ナデ、切り離し後ナデ 内面：回転ナデ	密 やや良好	内外面とも灰白色	外面底部焼成時の灰付着
Po148	189	150	133	2区	7a-9C-1a	59 段状遺構	埋土	須恵器 甕	△ 13.7	—	—	外面：平行タタキ後工具によるナデ 内面：同心円状当て具痕後一部ナデ	密 良好	外面：褐灰色 内面：明褐灰色	
Po149	189	150	92-1	2区	7a-9C-1a	59 段状遺構	埋土	土師器 甕	△ 5.2	※ 20.8	—	外面：横ナデ 内面：口縁端部横ナデ、ハケ目、肩部ケズリ	やや密 やや良好	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄橙色	外面炭化物付着
Po150	190	150	71 92-2	2区	7a-9C-1a	13 土坑 59 段状遺構	埋土 埋土	土師器 高台付坏	△ 2.7	—	8.4	外面：回転ナデ、底部静止糸切り 内面：回転ナデ、底部ナデ、ヘラ記号	ふつう ふつう	内外面とも灰白色	内面底部ヘラ記号
Po151	190	150	71 65 34	2区	7a-9C-1a	13 土坑 13 土坑	埋土 埋土 Ⅲ層上面	土師器 甕	△ 7.0	※ 33.0	—	外面：横ナデ、頸部ハケ 内面：口縁端部ナデ、ハケ、頸部ケズリ	やや粗 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po152	190	150	77	2区	7a-8C-10a	13 土坑	埋土	土師器 甕	△ 4.4	—	—	外面：口縁端部横ナデ 内面：横ナデ、体部ケズリ	ふつう ふつう	内外面とも浅黄橙色	
Po153	197	150	98	2区	7a-8C-9a	11 柱穴	埋土	土師器 坏	△ 5.0	※ 14.2	※ 7.0	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、回転に伴う沈線状の工具痕あり	密 やや良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po154	216	147	151 158	2区	7a-8B-9j	51 道路 51 道路	埋土 埋土	土師器 坏	△ 3.2	※ 10.8	※ 7.2	外面：回転ナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ後ナデ、底部ナデ	やや密 やや良好	外面：浅黄橙色 内面：橙色	
Po155	216	147	158	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	土師器 Ⅲ？	△ 2.5	—	—	外面：回転ナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：灰褐色 内面：にぶい橙色	
Po156	216	147	128-1	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	須恵器 Ⅲ	△ 1.8	—	※ 10.9	外面：底部回転ヘラ切り 内面：回転ナデ	ふつう やや不良	外面：灰白色 内面：暗灰色	
Po157	216	147	974	2区	7a-8C-8a	51 道路	埋土	須恵器 蓋	△ 1.4	—	—	内外面ともナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po158	216	147	127-2	2区	7a-8C-8a	51 道路	埋土	須恵器 蓋	△ 2.2	—	—	外面：口縁端部ナデ、回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも黄灰色	
Po159	216	147	152	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	須恵器 蓋	△ 1.3	—	—	外面：回転ナデ 内面：口縁端部ナデ、回転ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	外面焼成時の灰付着 (自然釉)
Po160	216	148	1229	2区	7a-8B-9j	51 道路 - 8 土坑	埋土	須恵器 坏	△ 1.8	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：灰色 内面：にぶい黄橙色～灰色	
Po161	216	147	127-1	2区	7a-8C-8a	51 道路	埋土	須恵器 坏	△ 3.8	—	—	外面：口縁端部ナデ、回転ナデ、ヘラケズリ 内面：回転ナデ	やや密 やや良好	内外面とも灰色	
Po162	216	147	148	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	須恵器 高台付坏	△ 2.1	—	—	外面：回転ナデ、高台部ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po163	216	147	127-3	2区	7a-8C-8a	51 道路	埋土	須恵器 高台付坏	△ 1.3	—	※ 10.8	外面：回転ナデ 内面：ナデ	密 良好	内外面とも黄灰色	
Po164	216	147	1238	2区	7a-8C-8a	51 道路	埋土	須恵器 高台付坏	△ 3.3	—	※ 9.2	外面：回転ナデ、一部カキ目、高台部ナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	やや密 良好	内外面とも黄灰色	
Po165	216	148	1256	2区	7a-8B-9j	51 道路 -20 土坑	埋土	須恵器 高坏	△ 4.3	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：灰白色 内面：灰色	内面底部焼成時の灰付着
Po166	216	147	1338	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	須恵器 甕	△ 4.3	—	—	外面：口縁部回転ナデ、7 条の波状文 内面：回転ナデ	密 良好	外面：オリーブ黒色～暗オリーブ色 内面：灰黄色	自然釉
Po167	216	147	970 971	2区	7a-8C-8a	51 道路	埋土	須恵器 甕	△ 8.3	—	—	外面：波状文、二本の沈線、回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po168	216	147	1336	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	須恵器 甕	△ 6.0	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：褐灰色	
Po169	216	147	128-2	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	須恵器 甕	△ 4.2	—	—	外面：タタキ・カキメ 内面：当て具痕	密 良好	外面：黄灰色 内面：灰色	
Po170	216	147	128-3	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	須恵器 甕	△ 3.6	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po171	216	147	128-4	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	須恵器 甕	△ 4.5	—	—	外面：タタキ・カキメ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po172	216	147	1233	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	須恵器 甕	△ 4.7	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：褐灰色 内面：灰黄褐色	
Po173	216	147	972 977	2区	7a-8C-8a	51 道路	埋土	須恵器 甕	△ 4.7	—	—	外面：タタキ・カキメ 内面：当て具痕	密 良好	外面：褐灰色 内面：灰黄褐色	
Po174	216	148	1196 1119	2区	7a-8B-9j 7a-8C-8a	51 道路 - 7 土坑 51 道路 - 6 土坑	埋土 埋土	須恵器 甕	△ 11.2	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：黄灰色	
Po175	216	148	1251 1252 1469	2区	7a-8B-9j	51 道路 -17 土坑 51 道路 -32 土坑 51 道路	埋土 埋土 埋土	須恵器 甕	△ 9.5	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	
Po176	221	149	79	2区	7a-8C-10a	53 道路	埋土	須恵器 高台付皿？	△ 1.1	—	—	外面：回転ナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	
Po177	224	158	224 249 42 52 41	2区	7a-9C-1a 7a-9B-1j 7a-9C-1a 7a-8C-10a 7a-9C-1a	100 土坑 1 溝	埋土 埋土 Ⅱb・Ⅱc 層 Ⅱb・Ⅱc 層 造成土	弥生土器 甕？	△ 12.8	—	—	外面：頸部横ナデ・指オサエ、体部ハケ後ナデ消し 内面：頸部横ナデ、頸～肩部指オサエ、体部ハケ後ナデ消し	密 良好	外面：橙色・にぶい赤褐色・にぶい黄橙色 内面：橙色・にぶい黄橙色・灰黄褐色	
Po178	226	159	56-1	2区	7a-8C-9a		Ⅱb・Ⅱc 層	弥生土器 無頸壺	△ 4.2	※ 9.4	—	外面：ヘラミガキ 内面：横ナデ	密 良好	内外面とも赤色	内外面赤彩
Po179	226	159	54-4	2区	7a-9C-1b		Ⅱb・Ⅱc 層	弥生土器 甕	△ 4.1	※ 12.8	—	外面：17 条の擬凹線文、頸部横ナデ 内面：口縁端部ミガキ、口縁部丁寧なナデ	密 良好	外面：暗褐色～橙色 内面：橙色～にぶい赤褐色	
Po180	226	159	44	2区	7a-9C-1b		Ⅱb・Ⅱc 層	弥生土器 甕	△ 4.8	—	※ 6.8	外面：ヘラミガキ、底部付近横ナデ、底部ナデ、穿孔 内面：ナデ	密 良好	外面：褐灰色～にぶい赤褐色～にぶい橙色 内面：褐灰色	
Po181	226	159	42	2区	7a-9C-1a		Ⅱb・Ⅱc 層	弥生土器 甕	△ 4.0	—	※ 5.4	外面：ヘラミガキ、底部横ナデ、穿孔 内面：体部ナデ、底部ナデ後指オサエ	密 良好	外面：浅黄橙色～橙色～褐灰色 内面：褐灰色～黒色	内面炭化物付着
Po182	226	159	54-2	2区	7a-9C-1b		Ⅱb・Ⅱc 層	弥生土器 甕	△ 3.2	—	※ 6.0	外面：粗いナデ 内面：ナデ	密 やや良好	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色～灰白色	
Po183	226	159	139	2区	7a-8B-10j		Ⅱb・Ⅱc 層	土師器 坏？	△ 2.3	※ 8.8	—	外面：口縁端部ナデ、体部回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	

第 74 表　土器観察表（6）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po184	226	159	59-1	2区	7a-8C-8a		Ⅱb・Ⅱc層	土師器 坏	△3.8	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい褐色	内面口縁部重ね焼きの痕跡？
Po185	226	159	72-1	2区	7a-8C-8a		Ⅱb・Ⅱc層	土師器 坏	△1.1	—	※5.2	外面：体部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po186	226	159	60-1	2区	7a-8C-9a		Ⅱb・Ⅱc層	土師器 高台付坏	△2.3	—	※5.4	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po187	226	159	67	2区	7a-8B-8j		Ⅱb・Ⅱc層	土師器 高台付坏	△1.8	—	※6.8	外面：体部回転ナデ、高台部ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：ナデ	やや密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po188	226	159	60-2	2区	7a-8C-9a		Ⅱb・Ⅱc層	土師器 高台付坏	△2.6	—	※8.0	外面：坏部回転ナデ、高台～底部ナデ 内面：ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po189	226	158	110	2区	7a-9C-1a		Ⅱb・Ⅱc層	ミニチュア 土器	△3.5	※4.6	—	内外面ともナデ・指オサエ	ふつう 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po190	226	—	53-1	2区	7a-9C-1a		Ⅱb・Ⅱc層	土師器 甕	△8.9	※18.0	—	外面：口縁部横ナデ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：橙色～褐灰色 内面：にぶい橙色～黒褐色～橙色	
Po191	226	159	62	2区	7a-9C-1a		Ⅱb・Ⅱc層	土師器 甕	△3.9	※15.4	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：にぶい褐色～黒色 内面：橙色	外面炭化物付着
Po192	226	159	59-2	2区	7a-8C-8a		Ⅱb・Ⅱc層	土師器 甕	△4.8	—	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ後指オサエ、体部ケズリ	密 良好	外面：黒褐色～黒色 内面：橙色～灰褐色～褐灰色	
Po193	226	159	54-1	2区	7a-9C-1b		Ⅱb・Ⅱc層	土師器 甕	△6.5	—	—	外面：ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：にぶい橙色～灰褐色 内面：灰褐色～にぶい橙色	
Po194	226	159	96	2区	7a-8B-9j		Ⅱb・Ⅱc層	土師器 鍋	△3.7	—	—	内外面とも口縁部横ナデ、体部ハケ	密 良好	外面：黄褐色 内面：にぶい黄橙色	
Po195	226	159	54-5	2区	7a-9C-1b		Ⅱb・Ⅱc層	須恵器 蓋	△1.6	—	—	外面：口縁部回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、回転ナデ後ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po196	226	159	53-4	2区	7a-9C-1a		Ⅱb・Ⅱc層	須恵器 高台付坏	△2.6	—	※8.7	外面：体部回転ナデ、高台～底部ナデ 内面：ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po197	226	159	53-3 290-4	2区 3区	7a-9C-1a 7a-9C-2a		Ⅱb・Ⅱc層 Ⅱb層	須恵器 高台付坏	△3.4	—	※8.0	外面：体部回転ナデ、体～高台部ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ、ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po198	226	159	54-3	2区	7a-9C-1b		Ⅱb・Ⅱc層	須恵器 高台付坏	△3.0	—	※11.4	外面：体部回転ナデ、高台～底部ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも青灰色	
Po199	226	159	53-2 58	2区	7a-9C-1a		Ⅱb・Ⅱc層	須恵器 甕	△6.8	—	—	外面：回転ナデ、波状文 内面：ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：灰白色	
Po200	226	159	59-3	2区	7a-8C-8a		Ⅱb・Ⅱc層	須恵器 甕	△7.3	—	—	外面：平行タタキ後カキメ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po201	226	159	72-2	2区	7a-8C-8a		Ⅱb・Ⅱc層	須恵器 甕	△8.1	—	—	外面：平行タタキ 内面：上半回転ナデ、下半当て具痕	密 良好	外面：暗灰色 内面：灰色	
Po202	227	159	189	2区	7a-8C-10a		Ⅲ層上面	弥生土器 甕	△5.0	※18.6	—	外面：口縁部擬凹線文、頸部横ナデ後右方向に連続する指オサエ 内面：口縁部横ナデ、頸部ヘラミガキ、体部ヘラケズリ	密 良好	外面：浅黄橙色～にぶい橙色～褐灰色 内面：浅黄橙色～灰白色	
Po203	227	159	29-2	2区	7a-8C-10a		Ⅲ層上面	弥生土器 甕	△2.8	—	※6.8	外面：ハケ、底部丁寧なナデ 内面：ケズリ	密 良好	外面：黒色 内面：灰白色	外面黒斑あり
Po204	227	158	29-3	2区	7a-8C-10a		Ⅲ層上面	ミニチュア 土器	△2.1	※2.3	※0.9	外面：胴部木目状の圧痕あり、底部ナデ 内面：指オサエ、胴部ヘラ状工具痕あり	密 良好	内外面とも明赤褐色	
Po205	227	159	16-4	2区	7a-8C-9a		Ⅲ層上面	ミニチュア 土器	△3.2	※7.4	—	内外面ともナデ後指オサエ	密 良好	外面：褐灰色～橙色 内面：橙色～にぶい橙色	
Po206	227	159	34-1	2区	7a-9C-1a		Ⅲ層上面	土師器 坏	3.0	※8.8	※5.2	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	やや密 やや良好	外面：黒褐色 内面：にぶい橙色	外面炭化物付着
Po207	227	159	29-1	2区	7a-8C-10a		Ⅲ層上面	土師器 坏	△1.5	—	※6.2	外面：回転ナデ、ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	密 良好	外面：橙色 内面：にぶい橙色	
Po208	227	159	34-2	2区	7a-9C-1a		Ⅲ層上面	須恵器 高台付坏？	△1.5	—	※12.4	外面：回転ナデ 内面：ナデ	密 良好	内外面とも黄灰色	
Po209	227	159	16-1 17 55	2区	7a-8C-9a 7a-8C-10a 7a-8C-8a		Ⅲ層上面 Ⅲ層上面 Ⅱb・Ⅱc層	土師器 鍋	△9.0	※24.4	—	内外面とも口縁部横方向のナデ、頸～体部ハケ	ふつう ふつう	外面：暗褐色 内面：にぶい褐色	外面炭化物付着
Po210	228	158	20	2区	7a-9B-1i		耕作土	青磁 Ⅲ	△2.1	※10.7	—	内外面とも施釉	密 良好	内外面とも明オリーブ灰色	
Po211	239	168	505 993 647	3区	7a-9C-3c	竪穴建物 1	貼床直上 床面直上 埋土上層	土師器 高坏	△3.3	※21.8	—	外面：ヘラミガキ 内面：ナデ、暗文	密 良好	内外面とも明赤褐色	
Po212	239	168	309-1	3区	7a-9C-3c	竪穴建物 1	埋土	須恵器 蓋	△1.7	—	—	外面：回転ナデ後一部にナデ 内面：ナデ、回転ナデ	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	
Po213	239	168	310	3区	7a-9C-3c	竪穴建物 1	埋土	須恵器 高台付坏	△2.3	—	※9.8	外面：回転ナデ、高台裏底部ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも黄灰色	
Po214	239	168	309-2	3区	7a-9C-3c	竪穴建物 1	埋土	須恵器 高坏	△3.9	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：灰色 内面：黄灰色	外面に焼成時の灰付着
Po215	239	168	506	3区	7a-9C-3c	竪穴建物 1	貼床直上	須恵器 甕	△5.2	—	—	外面：タタキ一部ナデ 内面：当て具痕	やや密 やや不良	内外面とも灰白色	
Po216	239	168	466	3区	7a-9C-3c	竪穴建物 1	埋土	土師器 甕	△5.6	—	—	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	やや粗 良好	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色～褐色	
Po217	239	168	284	3区	7a-9C-3c	竪穴建物 1	埋土上層	土師器 甕	△6.9	—	—	外面：口縁部横ナデ一部指オサエ、頸部から体部ハケ・工具によるナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	やや密 やや良好	外面：黒褐色 内面：にぶい褐色	
Po218	246	169	802	3区	7a-9C-2a	竪穴建物 2	床面直上	ミニチュア 土器	3.6	4.1	1.8	外面：口縁端部ナデ、体部ナデ後指オサエ、底部横方向のナデ 内面：ナデ後指オサエ	密 良好	外面：にぶい黄橙色～橙色～褐灰色 内面：橙色	完形
Po219	246	169	488	3区	7a-9C-2a	竪穴建物 2	埋土	ミニチュア 土器	3.6	※4.9	※1.9	外面：口縁端部ナデ、体部ナデ後指オサエ、底部横方向のナデ 内面：ナデ後指オサエ	密 良好	外面：灰褐色～黒褐色 内面：にぶい橙色～灰褐色	

第 75 表　土器観察表（7）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po220	246	169	807 812 816	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土下層	ミニチュア 土器	4.3	※ 6.0	※ 3.0	内外面ともナデ・指オサエ	密 良好	外面：橙色～褐灰色～黒色 内面：黒褐色～褐灰色	
Po221	246	169	899	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土下層	ミニチュア 土器	4.9	6.6	2.5	外面：ナデ・指オサエ、底部ナデ・板目痕 内面：ナデ・指オサエ	密 良好	外面：褐灰色～橙色 内面：黒褐色～灰褐色	完形
Po222	246	169	912	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土下層	ミニチュア 土器	4.6	6.5	4.1	内外面ともナデ・指オサエ、底部ナデ	やや密 やや良好	外面：にぶい橙色～褐灰色 内面：褐灰色～橙色	完形
Po223	246	169	914	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土下層	ミニチュア 土器	4.7	6.5	4.1	外面：口縁端部ナデ、体部ナデ後指オサエ、底部ナデ 内面：ナデ後指オサエ	密 良好	内外面とも褐灰色	完形
Po224	246	169	741	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土上層	ミニチュア 土器	△ 3.3	※ 6.4	—	内外面ともナデ・指オサエ	密 良好	外面：にぶい橙色～褐灰色 内面：褐灰色～橙色	
Po225	246	169	489	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土	ミニチュア 土器	△ 3.7	—	—	内外面ともナデ・指オサエ	密 良好	外面：橙色～にぶい橙色～黒色 内面：にぶい橙色～褐灰色	
Po226	246	169	822 他 907 他 547 639	3区	7a-9C-2a 7a-9C-2a 7a-9C-2a 7a-9C-2c	竪穴建物２ 竪穴建物２ 竪穴建物２	床面直上 埋土下層 埋土 Ⅱｂ層	土師器 甕	△ 9.7	※ 11.2	—	外面：口縁部横ナデ、体部ハケ、風化の為一部剥離 内面：口縁部ナデ、ヘラケズリ後工具によるナデ	普通 普通	外面：にぶい橙色 内面：灰褐色	
Po227	246	168	808 813 814 815 817 927	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土下層	土師器 甕	△ 5.4	※ 15.6	—	外面：口縁部上半横ナデ、口縁部下半から体部ナデ一部ハケ 内面：口縁部上半横ナデ、口縁部下半ハケ後ナデ消し、体部ヘラケズリ	普通 普通	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色	
Po228	246	168	711 547	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土上層 埋土	土師器 甕	△ 2.7	※ 18.6	—	外面:口縁部横ナデ、頸部ミガキ？ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	やや密 やや良好	外面：黒色 内面：にぶい褐色	
Po229	246	168	864 895 896 700	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土下層	土師器 甕	△ 9.3	※ 25.0	—	外面：口縁部横ナデ、体部ハケ 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	普通 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po230	246	168	489	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土	土師器 甕	△ 3.5	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	やや密 良好	内外面とも灰黄褐色	外面煤付着
Po231	246	168	866 490	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土上層 埋土	土師器 甕	△ 3.6	—	—	外面：上半横ナデ、下半ナデ 内面：横ナデ	やや密 やや良好	内外面とも橙色	
Po232	246	168	867 869 490	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土上層 埋土上層 埋土	土師器 甕	△ 3.7	—	—	外面：口縁部横ナデ、頸部ナデ・ハケ 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	普通 良好	内外面にぶい橙色	
Po233	246	168	911	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土下層	土師器 甕	△ 5.4	—	—	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ 内面：口縁端部横ナデ、口縁部ハケ、体部ヘラケズリ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po234	246	169	980	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	床面 -a	須恵器 坏蓋	△ 1.8	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po235	246	169	831	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	埋土下層	須恵器 高台付坏	△ 1.9	—	※ 9.0	外面：ナデ 内面：ナデ、回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po236	246	169	845	3区	7a-9C-2a	竪穴建物２	床面直上	須恵器 高坏？	△ 2.0	—	※ 5.0	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：褐灰色 内面：灰色	
Po237	251	169	62	3区	7a-9C-3a	掘立柱建物８ 2 柱穴	埋土	土師器 坏	△ 1.7	—	—	内外面ともナデ	密 良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい褐色	
Po238	251	169	140	3区	7a-9C-3a	掘立柱建物８ 5 柱穴	埋土	須恵器 甕	△ 9.3	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰色～灰白色 内面：灰色	
Po239	258	169	104	3区	7a-9C-2b	掘立柱建物 10 13 柱穴	埋土	土師器 坏	△ 2.0	—	—	外面：口縁端部ナデ、口縁部上半回転ナデ、下半ナデ 内面：ナデ・ハケ	密 良好	内外面とも明赤褐色	内外面赤彩
Po240	258	169	243	3区	7a-9C-2b	掘立柱建物 10 21 柱穴	1層	土師器 坏？	△ 2.9	—	—	外面：上半ナデ、下半ヘラ切り後ナデ 内面：ハケ後横ナデ	やや密 良好	外面：橙色 内面：明赤褐色	内外面赤彩
Po241	258	169	295	3区	7a-9C-2b	掘立柱建物 10 20 柱穴	埋土	ミニチュア 土器	△ 2.5	—	—	内外面ともナデ・指オサエ	密 良好	外面：明褐色～褐灰色 内面：にぶい褐色	
Po242	258	169	237	3区	7a-9C-2b	掘立柱建物 10 19 柱穴	1層	須恵器 蓋	△ 2.4	※ 15.2	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po243	258	169	359	3区	7a-9C-2b	掘立柱建物 10 20 柱穴	2層	須恵器 甕	△ 8.5	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po244	261	172	114	3区	7a-9C-2b	23 柱穴	埋土	土師器 Ⅲ？	△ 3.0	—	—	内外面とも回転ナデ	密 やや良好	内外面とも明赤褐色	掘立 10 周辺遺構 内外面赤彩
Po245	261	172	242	3区	7a-9C-2b	23 柱穴	埋土	土師器 Ⅲ？	△ 2.5	—	—	外面：ナデ 内面：口縁端部ナデ、回転ナデ後ミガキ	密 良好	外面：赤色 内面：明赤褐色～浅黄橙色	掘立 10 周辺遺構 内外面赤彩
Po246	261	173	331	3区	7a-9C-2b	81 ピット	1層	土師器 甕	△ 5.2	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：橙色～浅黄橙色 内面：浅黄橙色	掘立 10 周辺遺構
Po247	261	172	176 344	3区	7a-9C-2c 7a-9C-2b	17 柱穴 83 ピット	埋土 埋土	須恵器 壺？	△ 2.1	—	—	内外面ともナデ	密 良好	外面：黄灰色～暗灰黄色 内面：灰白色～暗灰黄色	掘立 10 周辺遺構
Po248	263	169	320	3区	7a-9C-3c	掘立柱建物 11 111 柱穴	埋土	須恵器 蓋	△ 1.0	—	—	外面：回転ナデ 内面：ナデ、回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po249	263	169	349	3区	7a-9C-3c	掘立柱建物 11 114 柱穴	埋土 (柱痕)	須恵器 坏	△ 2.6	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：赤灰色 内面：灰色	
Po250	263	169	384	3区	7a-9C-3c	掘立柱建物 11 112 柱穴	埋土	土師器 甕	△ 3.6	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 やや良好	外面：褐灰色～灰白色～浅黄橙色 内面：浅黄橙色～明褐灰色	
Po251	269	169	204	3区	7a-9C-2b	掘立柱建物 12 26 柱穴	1層	ミニチュア 土器	△ 4.0	※ 4.2	※ 3.6	内外面ともナデ・指オサエ	密 良好	外面：にぶい橙色 内面：黒色	
Po252	269	169	278	3区	7a-9C-2c	掘立柱建物 12 28 柱穴	1層	ミニチュア 土器	△ 3.9	—	※ 3.8	外面：ナデ・指オサエ、底部圧痕あり 内面：指オサエ	密 良好	外面：にぶい橙色・褐灰色 内面：橙色	
Po253	269	169	181	3区	7a-9C-2b	掘立柱建物 12 26 柱穴	1層	ミニチュア 土器	△ 3.2	—	—	外面：ナデ・指オサエ一部丸棒状の工具痕 内面：粗いナデ	密 良好	内外面ともにぶい褐色	
Po254	269	169	138	3区	7a-9C-2b	掘立柱建物 12 27 柱穴	2層	須恵器 甕	△ 4.2	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po255	269	169	139	3区	7a-9C-2b	掘立柱建物 12 27 柱穴	2層	須恵器 甕	△ 6.9	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：黄灰色	

第 76 表　土器観察表（8）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po256	271	172	97	3区	7a-9C-2b	32 柱穴	1層	須恵器 蓋	△ 1.1	—	—	内外面ともナデ	密 やや不良	外面：褐灰色・灰白色 内面：灰白色	掘立 12 周辺遺構 つまみ部径 2.6
Po257	273	170	287	3区	7a-9C-3c	掘立柱建物 13 129 柱穴	埋土	土師器 甕	△ 6.1	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	密 良好	外面：黒色 内面：にぶい橙色	
Po258	275	170	403	3区	7a-9C-3c	掘立柱建物 14 148 柱穴	1層	土師器 Ⅲ	2.3	8.7	5.2	外面：口縁部回転ナデ、下半回転ナデ後ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色～明赤褐色・褐灰色	
Po259	275	170	426	3区	7a-9C-3c	掘立柱建物 14 148 柱穴	埋土	土師器 甕	△ 2.3	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	密 良好	外面：にぶい黄橙色～明黄褐色 内面：明黄褐色	
Po260	281	170	746	3区	7a-9B-3j	52 道路	路床	土師器 坏	△ 2.0	※ 8.8	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：橙色 内面：明黄褐色	
Po261	281	170	168	3区	7a-9B-3j	52 道路	埋土	土師器 坏	△ 1.2	—	3.8	外面：横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ、底部横ナデ	密 良好	外面：明赤褐色～赤褐色 内面：橙色	
Po262	287	171	584	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	土師器 Ⅲ	2.3	※ 7.8	※ 5.0	外面：上半回転ナデ、下半回転ナデ後横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	やや密 良好	外面：明赤褐色 内面：にぶい赤褐色	
Po263	287	171	412-2	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	土師器 Ⅲ	2.0	※ 7.8	※ 5.4	内外面とも横ナデ	普通 良好	内外面ともにぶい黄褐色	
Po264	287	171	375-1	3区	7a-9C-3c	50 土坑	1層	土師器 Ⅲ	△ 1.6	※ 8.6	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ一部指オサエ	普通 良好	外面：褐灰色 内面：橙色	
Po265	287	171	615 530	3区	7a-9C-3c	50 土坑 50 土坑	埋土下層 埋土	土師器 坏	△ 4.7	※ 17.4	※ 11.1	内外面とも回転ナデ	やや密 良好	内外面とも黒褐色	内面煤付着
Po266	287	171	577 49	3区	7a-9C-3c 7a-9C-3b	50 土坑	埋土上層 Ⅱb層	土師器 鍋	△ 6.8	※ 25.6	—	外面：口縁部ナデ一部指オサエ、頸部ハケ、体部ハケ一部ハケ後横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ハケ一部指オサエ	密 良好	内外面とも灰黄褐色	
Po267	287	171	582	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土下層	土師器 鍋	△ 6.2	※ 27.4	—	外面：口縁部ハケ後ナデ、頸部から体部ハケ 内面：ハケ	やや密 良好	外面：褐灰色 内面：灰黄褐色	
Po268	287	171	563 他 447 49 36	3区	7a-9C-3c 7a-9C-3c 7a-9C-3b 7a-9C-3c	50 土坑 50 土坑	埋土上層 埋土下層 Ⅱb層 撹乱	土師器 鍋	△ 8.8	※ 30.8	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部ハケ後粗くナデ消し一部指オサエ 内面：ハケ	やや密 良好	内外面とも黄橙色にぶい	外面炭化物付着
Po269	287	171	445	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土下層	土師器 鍋	△ 3.3	—	—	外面：横方向のナデ 内面：口縁部横方向のナデ一部ハケ、体部ヘラケズリ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po270	287	171	575	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	土師器 鍋	△ 1.9	—	—	外面：横方向のナデ 内面：ハケ	密 良好	内外面ともにぶい褐色	
Po271	287	171	447	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土下層	土師器 鍋	△ 2.8	—	—	外面：口縁端部ナデ、口縁部横方向のナデ頸部ハケ後ナデ 内面：口縁部横方向のナデ、体部ハケ	密 良好	内外面とも灰黄褐色	
Po272	287	171	665 190	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	土師器 鍋	△ 5.2	—	—	外面：口縁端部横方向のナデ、口縁部ナデ、頸部ハケ 内面：ハケ	やや密 やや良好	内外面とも黒褐色	
Po273	287	171	589	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	土師器 鍋	△ 2.6	—	—	外面：口縁端部ナデ、口縁上部横方向のハケ、口縁下部ハケ後ナデ 内面：ハケ	やや密 やや良好	外面：黒色 内面：灰色	
Po274	287	171	596	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	土師器 鍋	△ 1.9	—	—	内外面とも横方向のナデ	密 やや良好	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色	外面煤付着
Po275	287	171	566	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	土師器 鍋	△ 6.1	—	—	外面：口縁部ナデ、頸部から体部ハケ後粗い横方向のナデ 内面：ハケ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po276	287	171	556 36	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層 撹乱	土師器 鍋	△ 5.5	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、頸部ナデ一部指オサエ、体部ハケ後ナデ 内面：口縁端部横方向のナデ、口縁から体部ハケ	やや密 良好	外面：灰黄褐色 内面：にぶい褐色	
Po277	287	171	412-1	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	土師器 鉢	△ 2.0	—	—	外面：口縁部ナデ、体部回転ナデ 内面：横方向のナデ	やや密 良好	外面：灰黄褐色 内面：にぶい橙色	
Po278	287	171	189	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	土師器 鉢	△ 3.8	—	—	外面：口縁端部ナデ、横ナデ、 内面：横ナデ	やや密 良好	内外面とも灰黄褐色	
Po279	287	171	375-2	3区	7a-9C-3c	50 土坑	1層	土師器 鉢	△ 4.4	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po280	287	172	600	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土下層	陶器 壺	△ 4.6	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：にぶい褐色～褐灰色 内面：灰黄褐色	
Po281	287	172	593	3区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	白磁 碗	△ 4.7	—	—	外面：施釉一部露胎 内面：施釉	密 良好	内外面とも灰白色	
Po282	289	172	455	3区	7a-9B-4j	174 土坑	埋土	陶器 甕	△ 7.7	—	—	外面：上半工具による横方向の粗いナデ、下半幅の狭い斜め方向の丁寧なナデ 内面：ナデ後指オサエ	密 良好	外面：褐灰色 内面：灰褐色	
Po283	293	173	457	3区	7a-9C-3c	178 ピット	1層	弥生土器 甕	△ 2.1	—	※ 4.6	外面：ヘラミガキ、ナデ 内面：ヘラケズリ	密 良好	外面：にぶい褐色～褐灰色 内面：褐灰色	
Po284	293	173	197	3区	7a-9C-3b	93 ピット	1層	土師器 甕	△ 1.7	—	—	外面：口縁端部ナデ、口縁部ハケ、摩滅の為調整不明瞭 内面：ナデ	密 良好	外面：浅黄橙色～赤色 内面：浅黄橙色～褐灰色	内外面赤彩
Po285	293	173	429-1	3区	7a-9C-1b	150 ピット	埋土	ミニチュア 土器	△ 1.8	—	—	内外面とも口縁端部ナデ、体部ナデ後指オサエ	密 良好	外面：灰黄褐色～にぶい橙色 内面：橙色	
Po286	293	173	424	3区	7a-9C-3c	146 ピット	埋土	土師器 Ⅲ	1.9	※ 8.4	※ 6.0	外面：上半回転ナデ、底部粗いナデ 内面：ナデ後指オサエ	密 良好	内外面ともにぶい褐色	
Po287	293	173	622	3区	7a-9C-3c	192 ピット	埋土	土師器 Ⅲ	2.2	※ 9.4	※ 7.2	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	密 良好	外面：褐灰色 内面：灰褐色	
Po288	293	173	218	3区	7a-9C-3c	60 ピット	埋土	土師器 甕	△ 5.8	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：にぶい褐色～黒色～浅黄橙色 内面：橙色	
Po289	293	173	625	3区	7a-9C-3c	192 ピット	埋土	土師器 鉢	△ 2.7	—	—	外面：上半横方向のナデ、下半ナデ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：橙色～浅黄橙色 内面：浅黄橙色	
Po290	293	173	356	3区	7a-9C-3b	138 ピット	埋土	須恵器 甕	△ 4.3	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：褐灰色～灰白色 内面：灰白色	
Po291	293	173	555	3区	7a-9C-2c	194 ピット	埋土	須恵器 甕	△ 4.2	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po292	293	173	429-2	3区	7a-9C-1b	150 ピット	埋土	須恵器 甕	△ 7.5	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	

第 77 表　土器観察表（９）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po293	293	172	244	3区	7a-9C-3c	110 柱穴	埋土	須恵器 甕	△ 5.3	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	
Po294	300	174	938 他 949 他 56 684	3区	7a-9C-3a	255 ピット 255 ピット	1 層 埋土 Ⅱ b 層 Ⅱ c 層	弥生土器 壺	△ 23.4	—	—	外面：口縁部ハケ後横ナデ、体部ハケ後ミガキ 内面：口縁部横ナデ、体部ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色・にぶい赤褐色・黒色 内面：にぶい橙色	外面体部黒斑あり
Po295	300	174	722 441	3区	7a-9C-3a	238 ピット	埋土 Ⅱ b 層	弥生土器 甕	△ 4.6	—	—	外面：7 条以上の擬凹線文、頸部横ハケ一部ミガキ 内面：横方向のミガキ	密 良好	外面：にぶい褐色・にぶい橙色 内面：暗灰色・にぶい黄橙色	
Po296	300	172	956	3区	7a-9C-3c	319 柱穴	1 層	弥生土器 甕	△ 6.5	※ 8.6	—	外面：口縁部横ナデ、体部タタキ 内面：口縁部横ナデ、体部ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色～橙色～浅黄橙色 内面：褐灰色～にぶい黄褐色～にぶい橙色	
Po297	300	174	509 他 397 796 他	3区	7a-9C-3c	172 ピット 142 ピット	1 層 埋土 Ⅱ c 層	弥生土器 甕	△ 23.3	—	※ 4.7	外面：頸部ミガキ、肩部ハケ、体部ミガキ、底部ナデ 内面：頸部ハケ、体部上半ハケ後ミガキ一部指オサエ、体部下半ケズリ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po298	300	173	677	3区	7a-9B-4j	216 ピット	埋土	土師器 甕	△ 4.4	※ 15.6	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部横ナデ一部指オサエ	密 良好	外面：浅黄橙色～褐灰色 内面：にぶい橙色	
Po299	300	173	706	3区	7a-9B-4j	216 ピット	埋土	土師器 甕	△ 3.5	—	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ、頸部ナデ	密 良好	外面：浅黄橙色～黒褐色 内面：黒色～浅黄橙色	
Po300	300	173	719	3区	7a-9B-4j	217 ピット	1 層	土師器 高坏	△ 5.4	—	—	外面：ナデ 内面：横ナデ後指オサエ	密 良好	外面：灰白色～にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色～黒色	
Po301	302	174	768 他 730 他	3区	7a-9C-3b	244 土器集中部	埋土 Ⅱ c 層	弥生土器 甕	△ 9.0	※ 16.1	—	外面：口縁端部刻み、口縁から頸部横ナデ、体部横方向のハケ 内面：口縁から頸部横ナデ、体部ハケ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po302	302	174	773 他 670 他 795 他	3区	7a-9C-3b	244 土器集中部	埋土 Ⅱ b 層 Ⅱ c 層	弥生土器 甕	△ 12.4	—	※ 10.2	外面：ミガキ、底部ナデ 内面：ケズリ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・にぶい橙色・褐灰色 内面：浅黄橙色・にぶい黄橙色	
Po303	303	174	747 他 982	3区	7a-9C-3c 7a-9B-3j	458 土器集中部	Ⅱ c 層 Ⅱ c 層	弥生土器 甕	△ 20.8	※ 17.0	—	外面：口縁から頸部横ナデ、肩部ナデ、体部ハケ 内面：口縁から頸部横ナデ、体部上半指オサエ、体部下半ハケ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色・にぶい黄褐色・褐灰色	
Po304	306	174	53-1	3区	7a-9C-2b		Ⅰ層	突帯文土器 深鉢	△ 5.3	—	—	外面：ナデ、刻み目突帯 内面：ナデ	密 良好	外面：灰黄褐色～にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色～にぶい黄褐色	
Po305	306	174	53-3	3区	7a-9C-2b		Ⅰ層	弥生土器 甕	△ 4.6	※ 13.2	—	外面：口縁部 5 条の擬凹線文、頸部横ナデ 内面：口縁から頸部横ナデ後ヘラミガキ、体部ケズリ	密 良好	外面：にぶい橙色～灰褐色～褐灰色 内面：にぶい橙色	
Po306	306	174	53-6 40	3区	7a-9C-2b 7a-9B-5j		Ⅰ層 層位不明	土師器 高坏	△ 4.5	※ 23.6	—	外面：口縁端部ナデ、口縁部ヘラミガキ、体部横ナデ 内面：口縁部ヘラミガキ、体部横ナデ	やや密 やや良好	内外面ともにぶい赤褐色	内外面赤彩
Po307	307	177	56-1	3区	7a-9C-3a		Ⅱ b 層	弥生土器 甕	△ 5.8	※ 18.2	—	外面：口縁部擬凹線文・円形浮文、頸部横ナデ、体部ハケ 内面：口縁部横ナデ、体部ハケ後弱いナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色	
Po308	307	177	670 54 642	3区	7a-9C-3b 7a-9C-3b 7a-9C-3c		Ⅱ b 層	弥生土器 壺	△ 4.0	※ 15.3	—	外面：口縁部 11 条の擬凹線文、頸部横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部ヘラケズリ	やや密 良好	外面：褐灰色 内面：灰白色	
Po309	307	177	291-5	3区	7a-9C-2b		Ⅱ b 層	弥生土器 壺	△ 5.4	※ 13.6	—	外面：口縁部擬凹線文、頸部横ナデ、体部貝殻腹縁の刺突文 内面：口縁から頸部横ナデ、体部ヘラケズリ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po310	307	175	49-3	3区	7a-9C-3b		Ⅱ b 層	土師器 Ⅲ	△ 1.9	—	※ 9.4	外面：体部ミガキ状の工具による丁寧なナデ、底部工具による粗いナデ 内面：ナデ、暗文	密 良好	内外面とも明赤褐色	内外面赤彩
Po311	307	175	639	3区	7a-9C-2a		Ⅱ b 層	土師器 Ⅲ	△ 1.3	—	—	外面：体部工具によるミガキ状のナデ、底部ナデ 内面：ナデ後暗文	密 良好	外面：明赤褐色～橙色 内面：橙色	内外面赤彩
Po312	307	175	55-7	3区	7a-9C-2c		Ⅱ b 層	土師器 Ⅲ	△ 1.4	—	—	外面：ナデ一部ミガキ 内面：ミガキ後暗文	密 良好	内外面とも明赤褐色	内外面赤彩
Po313	307	175	55-1	3区	7a-9C-2c		Ⅱ b 層	土師器 坏	△ 2.1	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、墨書あり	密 良好	内外面とも明赤褐色	内外面赤彩
Po314	307	175	92-3 94	3区	7a-9B-2j —		Ⅱ b 層	土師器 坏	△ 2.2	—	※ 6.2	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも橙色	内外面赤彩
Po315	307	178	69 52	3区	7a-9C-2a		Ⅱ b 層	ミニチュア 土器	4.6	6.2	2.2	内外面ともナデ・指オサエ	やや粗 良好	外面：にぶい褐色～黒褐色 内面：にぶい褐色～灰褐色	
Po316	307	178	291-8	3区	7a-9C-2b		Ⅱ b 層	ミニチュア 土器	△ 3.2	—	—	外面：粗いナデ一部指オサエ 内面：ナデ一部指オサエ	密 良好	内外面とも橙色	外面に植物圧痕あり
Po317	307	176	49-2	3区	7a-9C-3b		Ⅱ b 層	土師器 Ⅲ	△ 1.8	※ 7.8	※ 6.0	外面：回転ナデ後下半横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ後一部横ナデ	やや密 良好	外面：明赤褐色 内面：にぶい赤褐色	
Po318	307	176	68 249	3区	7a-9C-2a		Ⅱ b 層	土師器 坏	3.4	※ 9.8	4.3	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po319	307	175	92-1 94 78	3区	7a-9B-2j		Ⅱ b 層	土師器 坏	3.2	9.9	5.8	外面：上半回転ナデ、下半ナデ、底部切り離し後ハケ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po320	307	176	78-3	3区	7a-9B-2j		Ⅱ b 層	土師器 坏	2.8	※ 9.8	※ 6.4	外面：回転ナデ、底部静止糸切り 内面：回転ナデ後一部粗いナデ	密 良好	外面：橙色 内面：にぶい橙色	
Po321	307	175	102-1	3区	7a-9B-3j		Ⅱ b 層	土師器 坏	△ 2.2	※ 9.4	—	外面：上半回転ナデ、下半ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰褐色	
Po322	307	175	78-4	3区	7a-9B-2j		Ⅱ b 層	土師器 坏	△ 2.3	※ 9.6	—	外面：口縁端部横ナデ、体部回転ナデ 内面：口縁端部横ナデ、体部ナデ	密 良好	外面：橙色 内面：にぶい橙色	内面に油脂状物質が薄く付着
Po323	307	175	77	3区	7a-9B-3j		Ⅱ b 層	土師器 坏	△ 2.4	※ 10.8	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po324	307	175	78-1	3区	7a-9B-2j		Ⅱ b 層	土師器 坏	△ 4.4	※ 10.7	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後一部横ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色	

第 78 表　土器観察表（10）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po325	307	175	49-1	3区	7a-9C-3b		Ⅱb層	土師器 坏	3.6	※ 13.8	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、底部付近ナデ	やや密 良好	内外面とも黒褐色	
Po326	307	175	290-1	3区	7a-9C-2a		Ⅱb層	土師器 坏	△ 3.6	—	—	内外面とも回転ナデ	やや密 良好	内外面とも橙色	
Po327	307	175	102-2	3区	7a-9B-3j		Ⅱb層	土師器 坏	△ 4.0	—	—	内外面とも回転ナデ	普通 普通	外面：黒褐色 内面：にぶい褐色	
Po328	307	175	249	3区	7a-9C-2a		Ⅱb層	土師器 高台付坏	△ 1.4	—	※ 6.0	外面：横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：にぶい褐色 内面：褐灰色	
Po329	307	175	84	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 高台付坏	△ 2.8	—	※ 5.4	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po330	307	175	78-8	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 高台付坏	△ 2.4	—	※ 7.6	外面：横ナデ、底部横方向のナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：橙色 内面：灰黄褐色	
Po331	307	175	78-9 42	3区	7a-9B-2j 7a-9C-2a		Ⅱb層	土師器 高台付坏	△ 2.2	—	—	外面：横ナデ、回転糸切り後ナデ 内面：ナデ	やや密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po332	307	176	52-2	3区	7a-9C-2a		Ⅱb層	土師器 Ⅲ	△ 1.4	—	4.2	外面：体部横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：オリーブ黒色 内面：暗灰黄色	
Po333	307	176	48-1	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 Ⅲ	△ 1.7	—	※ 4.2	外面：体部横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ、底部ナデ	やや密 やや良好	内外面とも橙色	
Po334	307	176	78-6	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 Ⅲ	△ 1.0	—	※ 4.8	外面：横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：明赤褐色 内面：にぶい黄橙色	
Po335	307	176	92-5	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 Ⅲ	△ 1.2	—	4.2	外面：回転ナデ、腰部横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも黄灰色	
Po336	307	176	78-5	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 Ⅲ	△ 1.3	—	※ 4.8	外面：横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 やや不良	内外面ともにぶい黄橙色	
Po337	307	176	93-2	3区	7a-9B-3j		Ⅱb層	土師器 坏	△ 2.1	—	※ 4.1	外面：回転ナデ、腰部横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po338	307	176	290-2	3区	7a-9C-2a		Ⅱb層	土師器 坏	△ 2.2	—	※ 4.9	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：灰白色	
Po339	307	176	78-2	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 坏	△ 1.8	—	※ 4.8	外面：回転ナデ、腰部横ナデ、底部静止糸切り 内面：回転ナデ	密 やや不良	内外面とも浅黄橙色	
Po340	307	176	78-7	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 坏	△ 1.3	—	※ 5.0	外面：横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	やや密 やや不良	内外面ともにぶい橙色	
Po341	307	176	92-4	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 坏	△ 2.1	—	※ 5.3	外面：横ナデ、底部回転糸切り 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 やや良好	にぶい橙色	
Po342	307	176	92-2	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 坏	△ 2.7	—	4.8	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：調整不明	密 普通	内外面とも浅黄橙色	
Po343	307	176	52-1	3区	7a-9C-2a		Ⅱb層	土師器 坏	△ 2.3	—	※ 5.2	外面：回転ナデ、腰部横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ、上部横ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po344	307	176	290-3 92	3区	7a-9C-2a 7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 甕	△ 2.6	※ 19.5	—	外面：粗い横ナデ・指オサエ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 やや良	外面：褐灰色～黒色 内面：にぶい橙色～黒色	
Po345	307	177	67 78 92	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	土師器 甕	△ 6.5	※ 32.4	—	外面：横ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	やや密 良好	外面：にぶい橙色 内面：褐灰色	
Po346	307	177	725	3区	7a-9C-3c		Ⅱb層	須恵器 坏身	△ 1.8	※ 10.9	—	外面：回転ナデ 内面：横ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po347	307	177	49-5	3区	7a-9C-3b		Ⅱb層	須恵器 蓋	△ 1.7	—	—	外面：つまみ部横ナデ、体部回転ヘラケズリ後一部横ナデ 内面：ナデ	密 良好	外面：灰白色 内面：灰白色～灰黄褐色	つまみ部径※ 3.6
Po348	307	177	93-4	3区	7a-9B-3j		Ⅱb層	須恵器 蓋	△ 2.0	基部径 ※ 14.6	—	外面：横ナデ、回転ナデ、回転ヘラケズリ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po349	307	177	54	3区	7a-9C-3b		Ⅱb層	須恵器 蓋	△ 1.8	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色～灰色	
Po350	307	177	51	3区	7a-9B-3j		Ⅱb層	須恵器 蓋	△ 1.5	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：灰白色～灰色 内面：灰色	
Po351	307	177	61-2	3区	—		Ⅱb層	須恵器 蓋	△ 1.5	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po352	307	177	47-3 92	3区	7a-9C-2b 7a-9B-2j		Ⅱb層	須恵器 塊	△ 2.4	※ 14.4	—	外面：上半回転ナデ、下半ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	外面口縁部重ね焼きの痕跡
Po353	307	177	93-3	3区	7a-9B-3j		Ⅱb層	須恵器 塊	△ 3.0	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po354	307	177	49-6	3区	7a-9C-3b		Ⅱb層	須恵器 高台付坏	△ 1.7	—	※ 5.2	外面：体部回転ナデ、高台部横ナデ 内面：ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po355	307	178	92-6	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	須恵器 高台付坏	△ 1.8	—	※ 7.8	外面：体部回転ナデ、高台付近横ナデ・ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 良好	外面：灰色 内面：褐灰色	
Po356	307	178	643	3区	7a-9C-4a		Ⅱb層	須恵器 高台付坏	△ 2.5	—	※ 8.6	外面：回転ナデ、腰から高台部横ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 良好	外面：灰白色～灰色 内面：灰色	
Po357	307	178	47-2 55	3区	7a-9C-2b 7a-9C-2c		Ⅱb層	須恵器 高台付坏	△ 2.4	—	※ 8.1	外面：横ナデ 内面：体部回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po358	307	178	70	3区	7a-9C-2a		Ⅱb層	須恵器 高台付坏	△ 2.6	—	※ 9.5	外面：横ナデ、高台裏底部静止糸切り 内面：ナデ、線刻あり	密 良好	外面：灰色 内面：黄灰色	
Po359	307	177	49-7 44	3区	7a-9C-3b 7a-9C-2b		Ⅱb層 Ⅰ層	須恵器 壺	△ 3.6	※ 12.6	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：灰色 内面：黄灰色	
Po360	307	177	48-2	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	須恵器 甕	△ 5.7	※ 15.8	—	外面：口縁端部横ナデ、口縁から体部ナデ 内面：口縁部横ナデ、胴部ケズリ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po361	307	177	55-6	3区	7a-9C-2c		Ⅱb層	須恵器 甕	△ 2.8	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：黄灰色 内面：灰白色	
Po362	307	177	291-9	3区	7a-9C-2b		Ⅱb層	須恵器 甕	△ 4.0	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色～灰色	
Po363	307	177	61-1	3区	7a-		Ⅱb層	須恵器 甕	△ 2.8	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：灰白色 内面：黄灰色～灰白色	内面焼成時の灰付着
Po364	307	176	56	3区	7a-9C-3a		Ⅱb層	緑釉陶器 坏	△ 1.2	—	—	内外面とも施釉	密 良好	内外面ともオリーブ灰色	
Po365	309	179	996 78 249	3区	7a-9C-2a 7a-9B-2j 7a-9C-2a		Ⅱc層 Ⅱb層 Ⅱb層	土師器 壺	△ 5.6	—	—	外面：頸部横ナデ、体部ハケ・波状ハケ 内面：頸部工具によるナデ、体部ケズリ	やや粗 良好	外面：浅黄橙色・黒褐色 内面：にぶい橙色	

第 79 表　土器観察表（11）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po366	310	179	40-2	3 区	7a-9B-5j		層位不明	ミニチュア土器	△ 4.0	—	※ 4.8	外面：指オサエ、ナデ 内面：指ナデ	密 良好	外面：橙色 内面：褐灰色	
Po367	310	179	36	3 区	7a-9C-3c		撹乱	土師器 皿	2.0	※ 8.8	※ 6.6	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：口縁部回転ナデ、底部回転ナデ	密 良好	外面：褐色 内面：暗褐色・黒色	内面に黒色の付着物あり
Po368	326	302	1605 1622	4 区 南	7a-10C-5h	352 ピット	埋土	土師器 皿	△ 1.4	—	4.0	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po369	329	300	1903	4 区 南	7a-10C-4f	1 溝	埋土	土師器 甕	△ 3.7	※ 10.7	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po370	329	300	1893	4 区 南	7a-10C-6g	1 溝	埋土	土師器 高坏	△ 2.7	—	※ 9.2	外面：横ナデ 内面：ナデ、シボリ目・指オサエ、ハケ	密 良好	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色	
Po371	329	300	1846-4	4 区 南	7a-10C-6g	1 溝	埋土	土師器 甕	△ 5.1	—	—	外面：頸部横ナデ 内面：頸部横ナデ、体部ナデ・指オサエ	密 良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色・にぶい褐色	
Po372	329	300	1881 1625 他 1941	4 区 南	7a-10C-7h 7a-10C-6g 7a-10C-6g	1 溝	埋土 Ⅱｂ層 Ⅱｂ′層	土師器 甕	△ 6.9	※ 22.2	—	外面：口縁から頸部横ナデ、体部ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：にぶい褐色 内面：にぶい橙色	
Po373	329	300	1846-1	4 区 南	7a-10C-6g	1 溝	埋土	土師器 坏	△ 2.1	※ 9.6	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面とも明赤褐色	内外面赤彩
Po374	329	300	293-2	4 区 北	7a-9C-10d	1 溝	埋土	土師器 坏	3.0	※ 10.8	※ 4.6	外面：回転ナデ、体部下半ナデ、底部ヘラ切り後板目 内面：回転ナデ後一部にナデ	密 良好	内外面とも明赤褐色	内外面赤彩
Po375	329	300	1846-2	4 区 南	7a-10C-6g	1 溝	埋土	土師器 坏	△ 3.6	※ 11.4	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい褐色・にぶい黄橙色	内外面赤彩
Po376	329	300	1846-3	4 区 南	7a-10C-6g	1 溝	埋土	土師器 坏	△ 2.9	※ 11.2	※ 6.0	外面：回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面とも明赤褐色	内外面赤彩
Po377	329	300	1840	4 区 南	7a-10C-3f	1 溝	埋土	土師器 坏	△ 2.8	※ 12.2	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、底部付近ナデ	密 良好	内外面とも明褐色	内外面赤彩
Po378	329	300	307-1	4 区 北	7a-9C-9c	1 溝	埋土	土師器 坏	△ 3.5	※ 15.8	※ 901	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面とも明赤褐色	内外面赤彩
Po379	329	300	1842	4 区 南	7a-10C-4f	1 溝	埋土	土師器 坏	△ 2.0	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも明赤褐色	内外面赤彩
Po380	329	300	293-1	4 区 北	7a-9C-10d	1 溝	埋土	土師器 坏	△ 3.5	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも明赤褐色	内外面赤彩
Po381	329	300	310	4 区 北	7a-9C-10d	1 溝	埋土	土師器 坏	△ 2.4	—	※ 8.1	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：明赤褐色 内面：橙色～明褐色	内外面赤彩
Po382	329	300	307-2	4 区 北	7a-9C-9c	1 溝	埋土	土師器 坏	△ 2.6	—	※ 7.4	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：回転ナデ、底部横ナデ	密 良好	外面：橙色～褐色 内面：にぶい橙色・橙色	内外面赤彩
Po383	329	300	293-3	4 区 北	7a-9C-10d	1 溝	埋土	土師器 高台付坏	△ 2.1	—	※ 8.2	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：橙色・にぶい黄橙色 内面：明褐色	内外面赤彩
Po384	329	300	307-3	4 区 北	7a-9C-9c	1 溝	埋土	土師器 高台付坏	△ 3.2	—	—	外面：回転ナデ、体部下横ナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ、底部横ナデ	密 良好	明褐色～褐色	内外面赤彩
Po385	329	300	2002-3	4 区 南	7a-10C-6g	1 溝	埋土	土師器 皿	△ 2.1	※ 12.4	※ 10.2	外面：体部横ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：横ナデ後、ミガキ後螺旋状の暗文	密 良好	外面：橙色 内面：明褐色	内外面赤彩
Po386	329	300	85	4 区 北	7a-9C-7b	1 溝	底面	土師器 坏	3.1	9.5	7.1	外面：口縁部回転ナデ、指オサエ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：口縁部回転ナデ、体部から底部指オサエ後ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・明褐色 内面：にぶい橙色～橙色	外面一部に煤付着
Po387	329	300	1890	4 区 南	7a-10C-5f	1 溝	埋土	土師器 坏	2.7	※ 11.9	※ 6.8	外面：回転ナデ一部指オサエ、底部ヘラ切り 内面：口縁端部ナデ、体部回転ナデ	密 良好	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄橙色	
Po388	329	300	178	4 区 北	7a-9C-8b	1 溝	埋土	土師器 甕	△ 4.4	※ 20.6	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部不明	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po389	329	300	293-4	4 区 北	7a-9C-10d	1 溝	埋土	土師器 甕	△ 6.4	—	—	外面：口縁部横ナデ、体部ハケ 内面：口縁部ハケ、体部ケズリ	密 良好	内外面とも明赤褐色	外面煤付着
Po390	330	300	307-5	4 区 北	7a-9C-9c	1 溝	埋土	須恵器 蓋	2.6	※ 14.4	—	外面：つまみ部ナデ、体部回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面：回転ナデ、ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	つまみ部径※ 3.3
Po391	330	300	56	4 区 北	7a-9C-6a	1 溝	埋土	須恵器 蓋	△ 1.5	—	—	外面：回転ナデ後一部ナデ 内面：不整方向のナデ	密 良好	外面：黄灰色 内面：灰白色	
Po392	330	300	307-4	4 区 北	7a-9C-9c	1 溝	埋土	須恵器 蓋	△ 1.4	※ 15.8	—	外面：口縁端部ナデ、体部回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po393	330	300	2002-1	4 区 南	7a-10C-6g	1 溝	埋土	須恵器 高坏	△ 3.2	※ 12.9	—	外面：回転ナデ、体部下半回転ナデ後不整方向のナデ 内面：口縁部ナデ、体部ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po394	330	300	1881	4 区 南	7a-10C-7h	1 溝	埋土	須恵器 鉢	△ 5.1	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：灰白色・褐灰色 内面：灰白色	重ね焼きの痕跡あり
Po395	330	300	1893	4 区 南	7a-10C-6g	1 溝	埋土	須恵器 高台付皿	△ 2.8	—	※ 10.7	外面：回転ナデ、体部下半横ナデ、高台部横ナデ、底部ヘラケズリ後ナデ 内面：体部回転ナデ、底部不整方向のハケ	密 不良	外面：灰色 内面：暗灰黄色、灰白色	
Po396	330	301	2002-2	4 区 南	7a-10C-6g	1 溝	埋土	須恵器 壺	△ 3.7	※ 14.8	—	外面：口縁部横ナデ、体部平行タタキ 内面：口縁部横ナデ、体部同心円状当て具痕	密 良好	内外面とも灰黄色	
Po397	330	301	293-5	4 区 北	7a-9C-10d	1 溝	埋土	須恵器 壺	△ 10.3	—	—	外面：回転ナデ、2 条の沈線、斜め方向の工具痕 内面：回転ナデ	密 良好	外面：灰白色・灰色 内面：黄灰色	
Po398	330	300	76-1	4 区 北	7a-9C-7b	1 溝	埋土	須恵器 壺	△ 3.2	—	※ 16.0	外面：回転ナデ、高台端部ナデ 内面：ナデ	密 良好	外面：褐灰色 内面：灰白色	
Po399	330	301	158	4 区 北	7a-9C-8b	1 溝	埋土	須恵器 平瓶	△ 8.3	—	—	外面：口縁部回転ナデ、下半横ナデ、体部ナデ 把手部：ヘラケズリ後一部ナデ 内面：口縁部回転ナデ、頸部ナデ、閉塞部ナデ	密 良好	外面：灰白色・褐色 内面：褐灰色	外面全体に自然釉
Po400	330	301	76-2	4 区 北	7a-9C-7b	1 溝	埋土	須恵器 平瓶	△ 2.3	—	—	外面：ナデ、篦書文字「大」？ 内面：ナデ、閉塞痕あり	密 良好	外面：黄灰色 内面：灰白色	篦書文字
Po401	330	—	209	4 区 北	7a-9C-10d	1 溝	埋土	陶器 壺	△ 5.7	—	※ 8.0	外面：回転ナデ、体部に波状文 内面：回転ナデ	密 やや良好	外面：褐灰色・黒褐色 内面：にぶい赤褐色・黒褐色	
Po402	330	301	1872	4 区 南	7a-10C-3f	1 溝	埋土	瓦質土器 火鉢	△ 6.6	—	—	外面：口縁端部ケズリ後ナデ、体部ナデ 内面：縦方向のナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色・にぶい橙色	

第 80 表　土器観察表（12）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po403	334	301	1774	4 区南	7a-10C-8d	389 溝	埋土	土師器 羽釜	△ 3.9	—	—	外面：横方向のナデ 内面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	
Po404	347	304	1038 1074	4 区北	7a-9C-6c	耕作溝群 5-4	1 層	須恵器 蓋	2.4	※ 19.2	—	外面：ヘラケズリ後ナデ、回転ナデ、つまみ部ナデ 内面：回転ナデ後一部ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po405	347	304	612	4 区北	7a-9C-4d	耕作溝群 4-1	埋土	須恵器 高坏	△ 3.1	—	—	外面：坏部回転ナデ、回転ヘラケズリ、脚部横ナデ 内面：坏部回転ナデ、脚部横ナデ	密 良好	内外面とも灰色	透かしあり
Po406	347	304	583	4 区北	7a-9C-6c	耕作溝群 2-1	埋土	須恵器 甕	△ 2.4	—	—	外面：不明 内面：回転ナデ	密 良好	外面：浅黄橙色～灰黄褐色 内面：浅黄橙色～明褐灰色	
Po407	347	304	450	4 区北	7a-9C-4c	耕作溝群 1-10	埋土	須恵器 甕	△ 3.7	—	—	外面：平行タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	
Po408	347	304	451	4 区北	7a-9C-4c	耕作溝群 1-19	埋土	須恵器 甕	△ 2.0	—	—	外面：平行タタキ後一部ハケ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰白色 内面：灰色	
Po409	347	304	577	4 区北	7a-9C-5c	耕作溝群 2-9	埋土	須恵器 甕	△ 2.7	—	—	外面：平行タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：オリーブ灰色～灰白色 内面：灰白色	
Po410	347	304	1320	4 区北	7a-9C-5c	耕作溝群 6-4	埋土	須恵器 甕	△ 4.1	—	—	外面：平行タタキ後一部ハケ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも灰白色	
Po411	347	304	1393	4 区北	7a-9C-8c	耕作溝群 7-7	埋土	須恵器 甕	△ 2.9	—	—	外面：平行タタキ後一部ハケ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	
Po412	347	304	1429	4 区北	7a-9C-10c	298 耕作溝	埋土	土師器 皿	1.5	※ 8.3	—	内外面ともナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po413	351	303	1706	4 区南	7a-10C-3b	367 田	埋土	土師器 盤？	△ 3.1	—	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ、一部指オサエ	密 良好	内外面とも橙色	内外面赤彩
Po414	351	303	1973 1688	4 区南	7a-10C-2b 7a-10C-3b	362 田	埋土	土師器 甕	△ 5.9	—	—	外面：口縁部横ナデ、頸部ナデ後一部ハケ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	密 良好	外面：浅黄橙色・橙色 内面：浅黄橙色	口縁部内面赤彩
Po415	351	303	1676	4 区南	7a-10C-3b	362 田	埋土	土師器 坏	△ 1.8	—	※ 7.9	外面：回転ナデ、底面回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：灰褐色 内面：褐色～明褐色	
Po416	351	303	1688	4 区南	7a-10C-3b	362 田	埋土	土師器 皿	1.3	—	—	内外面とも口縁端部ナデ、体部横方向のナデ、底部ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色～灰黄褐色 内面：褐灰色	
Po417	351	303	1645	4 区南	7a-10C-3b	362 田	埋土	土師器 皿	△ 2.0	—	—	外面：ナデ、体部下半ナデ・指オサエ 内面：口縁端部ナデ、口縁部横方向のナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po418	351	303	1668	4 区南	7a-10C-2b	362 田	埋土	土師器 皿	△ 2.0	—	—	外面：ナデ、体部下半ナデ・指オサエ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：暗オリーブ褐色 内面：にぶい黄橙色	
Po419	351	303	1753	4 区南	7a-10C-6b	369 田	埋土	土師器 皿	2.0	—	—	外面：ナデ 内面：横方向のナデ	密 良好	内外面とも明黄褐色	
Po420	351	303	1710	4 区南	7a-10C-4b	364 田	埋土	瓦質土器 羽釜	△ 4.4	※ 25.6	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ 内面：口縁端部ナデ、口縁部横方向のナデ	密 良好	内外面とも暗灰色	
Po421	351	303	1741	4 区南	7a-10C-7c	371 田	埋土	瓦質土器 羽釜	△ 3.1	—	—	内外面ともナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po422	351	303	1673	4 区南	7a-10C-3b	362 田	埋土	瓦質土器 羽釜	△ 2.8	—	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	内外面ともにぶい浅黄橙色・明黄褐色	
Po423	351	303	1771	4 区南東	7a-10C-7b	370 田	埋土	瓦質土器 羽釜	△ 3.0	—	—	外面：横方向のナデ 内面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ、一部指圧痕	密 良好	外面：黒褐色 内面：にぶい黄橙色	口縁端部・体部煤付着
Po424	351	303	1858	4 区南	7a-10C-3b	364 田	埋土	白磁 碗	△ 1.8	—	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部：灰白色	
Po425	351	303	1666	4 区南	7a-10C-2b	367 田	埋土	白磁 碗	△ 2.5	—	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部：灰白色	漆補修痕あり
Po426	351	303	1636	4 区南	7a-10C-3a	361 田	埋土	白磁 碗	△ 2.3	—	※ 5.8	外面：露胎、高台部回転ナデ 内面：施釉	密 良好	露胎部：灰白色・淡黄色 施釉部：灰白色	
Po427	351	303	1742	4 区南	7a-10C-7c	370 田	埋土	青磁 碗	△ 4.5	—	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部外面：灰オリーブ色 施釉部内面：オリーブ灰色	
Po428	351	303	239	4 区南	7a-10C-4b	368 田	埋土	青磁 壺	△ 3.5	—	—	外面：分割線あり、施釉 内面：施釉	密 良好	施釉部：オリーブ灰色	
Po429	363	297	722 584	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	ミニチュア 土器	△ 3.0	※ 4.6	—	内外面ともナデ・指オサエ	密 良好	内外面ともにぶい橙色～褐色	
Po430	363	297	588 720	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	ミニチュア 土器	△ 2.4	※ 3.0	—	外面：粗いナデ・指オサエ 内面：ナデ・指オサエ	密 良好	内外面ともにぶい褐色	
Po431	363	297	638	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	ミニチュア 土器	△ 2.8	—	—	内外面ともナデ・指オサエ	密 良好	内外面とも褐色	
Po432	363	297	720-1	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	ミニチュア 土器	△ 3.0	—	—	内外面ともナデ一部指オサエ	密 良好	外面：にぶい褐色 内面：にぶい橙色	
Po433	363	297	894 他 721	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層 埋土	ミニチュア 土器	△ 4.2	—	—	内外面ともナデ・指オサエ	密 良好	外面：橙色 内面：明褐色	
Po434	363	297	969-1	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	ミニチュア 土器	△ 4.0	—	—	外面：ナデ・指オサエ 内面：指オサエ	密 良好	内外面ともにぶい褐色	
Po435	363	297	969-2	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	ミニチュア 土器	△ 2.2	—	—	内外面ともナデ・指オサエ	密 良好	外面：明褐色～灰褐色 内面：にぶい褐色	
Po436	363	297	1002	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	ミニチュア 土器	△ 5.2	—	—	外面：体部工具による粗いナデ・指オサエ、底部ナデ・指オサエ 内面：ナデ、指オサエ	密 良好	内外面とも明褐色～暗褐色	
Po437	363	297	956 895	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	土師器 甕	△ 4.8	※ 17.4	—	外面：口縁部横ナデ、頸部横ナデ後ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：橙色～にぶい橙色 内面：橙色～にぶい褐色	
Po438	363	297	538 385 527	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層 Ⅱｂ層 Ⅱｂ層	土師器 甕	△ 6.5	※ 17.9	—	外面：口縁から頸部横ナデ、体部ハケ一部ナデ消し 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：にぶい橙色・にぶい褐色 内面：橙色・にぶい橙色・褐灰色	
Po439	363	297	530 993	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	土師器 甕	△ 7.2	※ 27.1	—	外面：口縁から頸部横ナデ、体部ハケ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：橙色・にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色・にぶい黄橙色	内外面煤付着
Po440	363	297	748 893 527	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5 竪穴建物 5	1 層 1 層 Ⅱｂ層	土師器 甕	△ 5.8	—	—	外面：口縁上部横ナデ、口縁下部ナデ 内面：口縁上部横ナデ、下部ハケ後横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：褐灰色～黒色 内面：灰褐色～にぶい橙色	

第 81 表　土器観察表（13）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po441	363	297	955 585 719 527	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5 竪穴建物 5 竪穴建物 5	1 層 1 層 1 層 Ⅱ b 層	土師器 甕	△ 8.1	—	—	外面：口縁部横ナデ、頸部から体部ナデ・ハケ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：にぶい赤褐色～橙色 内面：明赤褐色～にぶい橙色	
Po442	363	297	540	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	須恵器 坏蓋	△ 2.4	—	—	外面：回転ナデ、回転ナデ後ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：灰色・黄灰色 内面：灰白色・灰色	
Po443	363	297	529 527	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層 Ⅱ b 層	須恵器 高台付皿	4.3	※ 21.2	※ 15.8	外面：口縁部回転ナデ、腰から高台裏にかけて回転ヘラケズリ後横ナデ、底部回転ヘラケズリ 内面：口縁部回転ナデ、底部回転ナデ後ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po444	363	297	531 561	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層 Ⅱ b 層	須恵器 高坏	12.6	※ 17.5	脚径 ※ 11.8	外面：坏部回転ナデ、坏部底面から脚にかけて回転ヘラ切り後横ナデ、脚上部ナデ、下部回転ナデ 内面：坏体部回転ナデ、底部ナデ、脚部回転ナデ	密 良好	外面：黄灰色・灰白色 内面：灰白色・黄灰色	三方透かし 墨痕あり
Po445	363	297	960	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	須恵器 高坏	△ 3.6	—	—	外面：口縁部回転ナデ、腰部ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：褐灰色 内面：灰色	
Po446	363	297	610	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	須恵器 高坏	△ 1.8	—	脚径 ※ 9.4	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po447	363	297	968	4 区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	須恵器 甕	△ 6.0	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po448	364	299	1485 1486 1414	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 6	1 層	土師器 甕	24.1	※ 32.2	—	外面：口縁部横ナデ、頸部ハケ後粗い横ナデ、頸部から底部ハケ、指オサエ 内面：口縁部横ナデ・ハケ、体部ケズリ	密 良好	外面：橙色・にぶい黄橙色 内面：橙色	外面・内面底部煤付着
Po449	364	299	1386	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 6	1 層	須恵器 壺	△ 4.2	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po450	368	299	1428	4 区北	7a-9C-8e	掘立柱建物 19 300 柱穴	1 層	土師器 甕	△ 3.8	—	—	外面：口縁部横ナデ、頸部から体部ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po451	369	299	1431	4 区北	7a-9C-8e	掘立柱建物 19 314 柱穴	検出面	須恵器 鉢	△ 4.1	※ 18.6	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：灰白色 内面：明褐灰色	
Po452	371	299	1384	4 区北	7a-9C-8e	掘立柱建物 20 287 柱穴	1 層	須恵器 甕	△ 4.3	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 やや良好	外面：褐灰色 内面：黄灰色	
Po453	372	299	1369	4 区北	7a-9C-6d	掘立柱建物 21 186 柱穴	埋土	土師器 甕	△ 2.9	※ 18.2	—	外面：口縁部横ナデ、頸部ハケ 内面：口縁部横ナデ、頸部ケズリ	密 良好	外面：灰褐色 内面：にぶい橙色～にぶい黄褐色	
Po454	372	299	1346	4 区北	7a-9C-6d	掘立柱建物 21 186 柱穴	1 層	土師器 甕	△ 3.8	※ 30.6	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ、一部ケズリ	やや密 やや不良	外面：にぶい黄橙色～灰黄褐色 内面：褐灰色～浅黄橙色	
Po455	374	299	1374	4 区北	7a-9C-8e	掘立柱建物 22 173 柱穴	2 層	須恵器 坏蓋	△ 3.8	基部径 ※ 11.8	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po456	381	299	2173	4 区北	7a-9C-9d	278 道路	埋土	須恵器 坏蓋	△ 1.8	—	—	外面：回転ヘラケズリ 内面：不整方向のナデ、回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po457	381	299	2165	4 区北	7a-9C-9d	278 道路	礫敷直上	須恵器 壺	△ 2.2	—	—	外面：頸部ナデ、肩部カキメ 内面：頸部ナデ、体部当て具痕	密 良好	外面：褐灰色 内面：黄灰色	
Po458	381	299	2166	4 区北	7a-9C-9d	278 道路	礫敷直上	須恵器 甕	△ 4.5	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：黄灰色	
Po459	401	299	2040	4 区南	7a-10C-2c	365 道路	3 層	土師器 高台付坏	△ 3.0	—	5.9	外面：体部回転ナデ、底部糸切り後一部ナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po460	401	299	1675	4 区南	7a-10C-2b	365 道路	埋土	黒色土器 高台付坏	△ 2.4	—	※ 7.2	外面：体部回転ナデ、高台部ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ後ミガキ	密 良好	外面：灰白色 内面：暗灰色	黒色土器
Po461	401	299	2117 2062 2146 2109 2082 2158 2071 2084 2085 2073 2106 他	4 区南	7a-9C-10a 7a-10C-1a・1b・2b・2c~4c・3d~6d・5e~8e・7f・8f	365 道路 -14-a 365 道路 365 道路 -6 365 道路 -7 365 道路 -9 365 道路 -10 365 道路 -12 365 道路 -14-a 365 道路 -15 365 道路 -22 365 道路 -37 他	埋土	土師器 甕	△ 16.8	※ 11.2	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部ハケ後一部ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	密 良好	内外面とも灰白色～浅黄橙色～にぶい橙色	
Po462	401	299	2039	4 区北	7a-9C-10a	365 道路	埋土	須恵器 坏蓋	△ 2.0	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po463	401	299	2041	4 区北	7a-10C-2b	365 道路	3 層	須恵器 高台付坏	△ 1.6	—	—	外面：横ナデ 内面：ナデ、平滑部あり	密 良好	内外面とも灰色	転用硯？
Po464	401	299	1975	4 区南	7a-10C-2b	365 道路	埋土	須恵器 甕	△ 6.3	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po465	402	299	1661	4 区南	7a-10C-7h	358 道路	埋土	土師器 坏	△ 3.2	※ 11.8	—	内外面とも回転ナデ	密 やや不良	内外面とも灰白色	
Po466	402	299	2087	4 区南	7a-10C-7h	358 道路	埋土	土師器 坏	△ 1.8	—	※ 7.0	外面：回転ナデ、底部回転糸切り後板押圧 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po467	402	299	1633	4 区南	7a-10C-7i	358 道路	埋土	土師器 皿	2.2	※ 15.6	※ 7.2	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 やや不良	内外面とも灰白色	
Po468	404	302	988	4 区北	7a-9C-5d	80 土坑	埋土	須恵器 甕	△ 3.3	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	
Po469	405	302	1339	4 区北	7a-9C-8e	175 土坑	埋土	須恵器 壺	10.1	—	8.6	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	ほぼ完存
Po470	405	302	1411 1412 1413	4 区北	7a-9C-7c	265 土坑	2 層	土師器 甕	△ 7.0	※ 22.6	—	外面：口縁部横ナデ、頸部ナデ、体部ハケ 内面：口縁部横ナデ一部ハケ、体部ケズリ	密 良好	内外面とも橙色	
Po471	406	301	986	4 区北	7a-9C-5c	77 溝	埋土	土師器 坏	△ 3.9	※ 14.4	—	外面：口縁部横ナデ、体部工具によるナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ナデ・指オサエ	密 良好	内外面とも橙色	
Po472	411	303	570 491 449 他 67 他 594 579 他	4 区北	7a-9C-5b 7a-9C-5b 7a-9C-5b 7a-9C-6b 7a-9C-5b 7a-9C-6b	26 ピット 21 ピット	埋土 埋土 Ⅱ b 層 Ⅱ b 層 Ⅱ c 層 Ⅱ c 層	弥生土器 甕	△ 14.5	※ 14.0	—	外面：口縁から体部上部横ナデ、胴部ナデ後ミガキ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：黒褐色～灰黄褐色～浅黄橙色 内面：褐灰色～にぶい黄橙色	
Po473	411	302	1034	4 区北	7a-9C-6d	52 柱穴	埋土	ミニチュア土器	3.6	3.4	2.7	外面：ナデ、指オサエ、底面ナデ 内面：ナデ、指オサエ	密 良好	内外面とも褐灰色・橙色	
Po474	411	302	1140	4 区北	7a-9C-6d	92 ピット	1 層	ミニチュア土器	△ 2.9	—	—	内外面とも調整不明	密 良好	内外面ともにぶい橙色	

第 82 表　土器観察表（14）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po475	411	302	1446	4区北	7a-9C-8e	319 柱穴	1 層	土師器 甕	△ 1.5	※ 14.5	—	外面：横ナデ、ナデ、指オサエ 内面：横ナデ	密 良好	外面：橙色 内面：にぶい橙色・橙色	
Po476	411	302	1144	4区北	7a-9C-5c	110 柱穴	1 層	土師器 甕	△ 2.8	※ 20.8	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面とも灰褐色	外面と内面一部煤付着
Po477	411	302	433 他 67 107	4区北	7a-9C-6b 7a-9C-6b 7a-9C-5b	7 ピット	1 層 Ⅱ b 層 暗渠	土師器 甕	△ 5.4	※ 31.0	—	外面：口縁部横ナデ一部指オサエ、頸部ナデ 内面：口縁部横ナデ一部指オサエ、頸部ヘラケズリ	密 良好	外面：灰褐色・にぶい褐色 内面：橙色・灰褐色	
Po478	411	302	694	4区北	7a-9C-6d	61 柱穴	1 層	土師器 甕	△ 5.5	※ 33.2	—	外面：横ナデ、口縁部一部指オサエ、体部一部ハケ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：暗黒色、にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色	
Po479	411	302	1044 1046	4区北	7a-9C-6d 7a-9C-6c	44 柱穴	埋土	土師器 甕	△ 5.3	—	—	外面：口縁部横ナデ、頸部ナデ 内面：口縁端部横ナデ、口縁部横ナデ後ナデ、体部ケズリ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po480	411	302	1106	4区北	7a-9C-6d	92 ピット	1 層	土師器 甕	△ 6.0	—	—	外面：口縁部横ナデ、頸部横ナデ・ハケ、体部ハケ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	内外面とも橙色	外面煤付着
Po481	411	302	1107	4区北	7a-9C-6d	92 ピット	1 層	須恵器 坏蓋	△ 3.2	基部径 ※ 12.3	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ後一部ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po482	411	302	1108	4区北	7a-9C-6d	93 ピット	2 層	須恵器 坏身	△ 2.8	—	—	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	外面：灰色・灰白色 内面：灰色	
Po483	411	303	600	4区北	7a-9C-5b	26 ピット	埋土	須恵器 坏身	△ 1.9	—	—	外面：口縁部横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部回転ナデ	密 良好	外面：黄灰色 内面：灰色	
Po484	411	302	743-1	4区北	7a-9C-6d	52 柱穴	埋土	須恵器 鉢	△ 3.9	—	—	外面：回転ナデ 内面：口縁部回転ナデ、体部ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po485	411	302	743-2	4区北	7a-9C-6d	52 柱穴	埋土	須恵器 甕	△ 7.4	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po486	411	302	434	4区北	7a-9C-6b	7 ピット	1 層	須恵器 甕	△ 2.7	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰白色 内面：灰色	
Po487	411	302	1143	4区北	7a-9C-6d	94 ピット	埋土	須恵器 甕	△ 4.1	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円状当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po488	417	319	2168	4区南	7a-10C-2e	2 流路	埋土	土師器 甕	△ 5.0	※ 15.3	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ、体部ヘラケズリ	普通 やや不良	内外面とも浅黄橙色	
Po489	417	319	2155	4区南	7a-10C-2e	2 流路	砂礫層	土師器 甕	△ 13.2	※ 14.7	—	外面：口縁部横ナデ・一条の沈線、体部ハケ 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po490	417	319	1882	4区南	7a-10C-3f	2 流路	埋土	土師器 甕	△ 6.7	※ 21.4	—	外面：口縁端部ナデ、口縁部横ナデ、体部ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	やや密 良好	外面：灰黄褐色 内面：にぶい褐色	口縁外面に炭化物付着
Po491	417	319	1541	4区北	7a-9B-5j	2 流路	埋土	土師器 甕	△ 4.8	※ 23.4	—	外面：口縁部横ナデ、頸部ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	やや粗 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po492	417	319	1609 89	4区北	7a-9C-8b 7a-9C-6d	2 流路	埋土 造成土	土師器 甕	△ 4.8	※ 29.4	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	普通 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色	外面煤付着
Po493	417	319	2099-1	4区南	7a-10C-2e	2 流路	砂礫層	土師器 甕	△ 3.7	※ 12.7	—	外面：横ナデ、 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	密 やや良好	外面：にぶい橙色 内面：浅黄橙色	
Po494	417	319	2098	4区南	7a-10C-2e	2 流路	砂礫層	土師器 甕	△ 8.8	※ 14.7	—	外面：口縁部横ナデ、体部ハケ 内面：口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ・指オサエ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色・黒褐色	
Po495	417	319	196 293	4区北	7a-9C-9c 7a-9C-10d	2 流路 1 溝	埋土 埋土	土師器 高坏	△ 6.9	—	—	外面：ナデ 内面：坏底部ナデ、脚部回転ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・黒褐色 内面：にぶい橙色・黒褐色	坏部内面煤付着
Po496	417	319	2161-1	4区南	7a-10C-2e	2 流路	砂礫層	土師器 坏	2.4	※ 11.6	※ 8.4	外面：回転ナデ、腰部横ナデ、底部ナデ 内面：口縁端部ナデ、体部回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	内外面赤彩
Po497	417	319	1829 1890 1846	4区南	7a-10C-5f 7a-10C-5f 7a-10C-6g	2 流路 1 溝 1 溝	埋土 埋土 埋土	土師器 坏	3.2	※ 13.8	※ 10.8	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	内外面赤彩
Po498	417	319	1528-2	4区北	7a-9B-5j	2 流路	埋土	土師器 坏	△ 3.1	※ 12.4	—	外面：回転ナデ、底部にかけてヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・橙色 内面：にぶい黄橙色・明赤褐色	内外面赤彩
Po499	417	319	1528-1	4区北	7a-9B-5j	2 流路	埋土	土師器 坏	△ 3.8	※ 13.5	—	外面：口縁端部ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	内外面赤彩
Po500	417	319	1902	4区北	7a-10C-3f	2 流路	埋土	土師器 坏	△ 2.5	—	※ 6.8	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	やや密 やや良好	内外面ともにぶい黄橙色	内外面赤彩
Po501	417	319	2161-2	4区南	7a-10C-2e	2 流路	砂礫層	土師器 坏	△ 2.6	—	—	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	内外面赤彩
Po502	417	320	2102	4区南	7a-10C-2e	2 流路	砂礫層	土師器 高台付坏	△ 4.2	—	※ 7.6	外面：回転ナデ、高台部ナデ、底部ナデ 内面：体部回転ナデ、底部付近ナデ	密 良好	外面：橙色・明赤褐色 内面：橙色	内外面赤彩
Po503	417	320	2161-3	4区南	7a-10C-2e	2 流路	砂礫層	土師器 高台付坏	△ 3.4	—	※ 8.0	外面：回転ナデ、高台部横ナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ、底面ナデ後ナデ	密 良好	内外面とも明赤褐色、にぶい橙色	内外面赤彩
Po504	417	320	1576-2	4区北	7a-9C-8b	2 流路	埋土	土師器 高台付坏	△ 2.1	—	※ 7.6	外面：ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：ナデ	密 良好	内外面とも赤褐色・明褐色	内外面赤彩
Po505	417	320	1559-2	4区北	7a-9C-6a	2 流路	砂礫層	土師器 高台付坏	△ 2.0	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色、褐色 内面：にぶい黄橙色、明褐色	内外面赤彩
Po506	417	319	1560-2	4区北	7a-9C-6b	2 流路	砂礫層	土師器 皿	△ 1.6	—	—	外面：回転ナデ 内面：ヘラミガキ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	内外面赤彩
Po507	417	319	1528-3	4区北	7a-9B-5j	2 流路	埋土	土師器 坏	△ 2.1	※ 9.8	—	外面：口縁端部ナデ、体部回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	内面と外面一部に黒色のタール状物質付着、灯明皿
Po508	417	320	1830	4区南	7a-10C-5f	2 流路	埋土	土師器 高台付坏	△ 2.4	—	5.8	外面：体部回転ナデ、高台部横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po509	417	320	1560-1	4区北	7a-9C-6b	2 流路	砂礫層	土師器 高台付坏	△ 1.8	—	※ 7.2	外面：高台部ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：灰白色・橙色 内面：橙色	

第 83 表　土器観察表（15）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po510	417	320	1576-1	4 区北	7a-9C-8b	２流路	埋土	土師器 高台付坏	△ 1.8	—	※ 8.6	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色・明褐色	
Po511	417	319	33	4 区北	7a-9B-6j	２流路	検出面	土師器 Ⅲ	1.9	※ 7.8	—	内外面ともナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po512	417	319	37	4 区北	7a-9B-8j	２流路	検出面	土師器 Ⅲ	1.6	※ 7.8	—	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り後粗いナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい褐色	
Po513	417	320	2099-2	4 区南	7a-10C-2e	２流路	砂礫層	須恵器 坏蓋	△ 3.4	※ 10.6	—	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラ切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：褐灰色、 内面：褐灰色・褐色	
Po514	417	320	1543	4 区北	7a-9C-6a	２流路	砂礫層	須恵器 蓋	△ 1.4	—	—	外面：回転ヘラケズリ、回転糸切り後ナデ 内面：横ナデ	密 良好	外面：褐灰色・橙色 内面：褐灰色	
Po515	417	320	1715	4 区北	7a-10C-1c	２流路	埋土	須恵器 坏	4.4	※ 13.2	—	外面：回転ナデ、底部ヘラ切り後粗いナデ 内面：口縁部回転ナデ	密 良好	外面：褐灰色 内面：灰白色	
Po516	417	320	1542-1	4 区北	7a-9C-6a	２流路	埋土	須恵器 坏	△ 4.2	※ 12.6	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po517	417	320	1671	4 区北	7a-9C-10c	２流路	埋土	須恵器 坏	△ 2.7	—	※ 6.6	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po518	417	319	1559-1	4 区北	7a-9C-6a	２流路	砂礫層	須恵器 Ⅲ	△ 1.8	—	※ 5.6	外面：ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ、回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい赤褐色	
Po519	417	321	294	4 区北	7a-10C-1d	２流路	埋土	須恵器 高坏	△ 3.3	※ 18.8	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po520	417	321	1493	4 区北	7a-10C-1d	２流路	埋土	須恵器 高坏	△ 8.9	—	—	外面：坏部回転ナデ、脚部ナデ 内面：坏部回転ナデ、脚部回転ナデ、透かしあり	密 良好	内外面とも灰黄褐色～褐灰色	
Po521	417	320	1611	4 区北	7a-9C-10d	２流路	埋土	須恵器 長頸壺	△ 6.3	※ 6.4	—	内外面とも回転ナデ	密 やや良好	外面：灰黄褐色・明赤褐色 内面：褐灰色	
Po522	417	320	2097	4 区南	7a-10C-2e	２流路	砂礫層	須恵器 壺	△ 7.4	※ 11.2	—	外面：口縁部回転ナデ、体部回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po523	417	321	1542-2	4 区北	7a-9C-6a	２流路	埋土	須恵器 壺	△ 4.7	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po524	417	321	200 293	4 区北	7a-9C-10d	２流路 1 溝	砂礫層 埋土	須恵器 壺	△ 12.1	—	—	外面：回転ナデ後ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po525	417	320	1574-2 1610	4 区北	7a-9C-7b 7a-9C-9b	２流路	埋土	須恵器 甕	△ 9.2	※ 10.6	—	外面：口縁部回転ナデ、体部タタキ 内面：口縁部回転ナデ、体部当て具痕	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po526	417	321	1832	4 区南	7a-10C-5f	２流路	埋土	須恵器 高台付壺	△ 7.2	—	※ 12.6	外面：タタキ、カキメ、横ナデ、高台部ナデ 内面：当て具痕	密 やや良好	外面：褐灰色・黒褐色・明褐色 内面：明褐色	
Po527	417	321	1559-3	4 区北	7a-9C-6a	２流路	砂礫層	須恵器 高坏	△ 2.7	—	脚径 ※ 14.0	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po528	418	320	1574-1	4 区北	7a-9C-7b	２流路	埋土	須恵器 甕	△ 10.7	※ 16.9	—	外面：口縁から頸部回転ナデ、体部平行タタキ 内面：口縁から頸部回転ナデ、体部同心円状当て具痕	密 良好	外面：灰白色 内面：灰色	
Po529	418	320	1611 1541 307 388 他 398	4 区北	7a-9C-10d 7a-9B-5j 7a-9C-9c 7a-9C-6c 7a-9C-6d	２流路 ２流路 1 溝	Ⅱｂ層 Ⅱｂ層	須恵器 甕	△ 16.2	※ 55.6	—	外面：口縁部回転ナデ、波状文、3 条の沈線、2 条の沈線、1 条の沈線 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po530	418	321	1828 1893 他	4 区南	7a-10C-6g	２流路 1 溝	埋土	須恵器 甕	△ 9.2	—	—	外面：平行タタキ 内面：当て具痕	密 やや良好	外面：灰白色・黒褐色 内面：灰白色・褐色	
Po531	418	321	2067	4 区北	7a-9B-6j	２流路	埋土	須恵器 甕	△ 6.3	—	—	外面：平行タタキ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po532	418	321	2074	4 区北	7a-9C-9e	２流路	埋土	須恵器 甕	△ 9.4	—	—	外面：平行タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰白色 内面：褐灰色	
Po533	426	313	804	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	２層	土師器 壺	△ 4.1	※ 21.8	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：橙色・灰黄褐色 内面：にぶい橙色・灰黄褐色	
Po534	426	313	863 663	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	２層	土師器 壺	△ 5.0	※ 20.6	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：灰黄褐色・浅黄橙色 内面：にぶい橙色・灰白色	
Po535	426	313	842-1	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	３層	土師器 甕	△ 7.0	※ 11.7	—	外面：口縁部横ナデ、肩部ハケ後一部ナデ 内面：口縁から頸部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・暗灰色 内面：にぶい黄橙色	外面に黒斑あり
Po536	426	313	502	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	埋土上層	土師器 甕	△ 4.8	※ 13.0	—	外面：口縁端部ナデ、口縁部横ナデ、頸部ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：浅黄橙色～明褐灰色 内面：浅黄橙色	
Po537	426	314	665	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3 58 ピット	埋土	土師器 甕	△ 6.5	※ 13.4	—	外面：口縁部～肩部横ナデ、体部ハケ 内面：口縁部横ナデ、頸部ナデ・指オサエ、体部ケズリ	密 良好	外面：黒色～浅黄橙色 内面：にぶい橙色	
Po538	426	313	738 624	4 区北	7a-9C-6b 7a-9C-5b	竪穴建物 3	２層 埋土下層	土師器 甕	△ 3.6	※ 14.1	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面とも浅黄橙色・にぶい黄橙色	
Po539	426	313	812	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	２層	土師器 甕	△ 3.8	※ 13.2	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：にぶい褐色 内面：にぶい黄橙色	外面煤付着
Po540	426	313	830 808 889	4 区北	7a-9C-5b 7a-9C-5b 7a-9C-6b	竪穴建物 3	３層 ２層 ２層	土師器 甕	△ 3.8	※ 14.5	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色・灰褐色 内面：橙色・にぶい橙色・褐灰色	
Po541	426	313	843	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	３層	土師器 甕	△ 3.7	※ 14.5	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色	
Po542	426	313	840	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	３層	土師器 甕	△ 4.6	※ 14.7	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：灰白色・浅黄橙色 内面：褐灰色・にぶい褐色	内外面煤付着
Po543	426	313	806	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	２層	土師器 甕	△ 5.3	※ 13.7	—	外面：口縁部横ナデ 内面：口縁から頸部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：橙色・浅黄橙色 内面：浅黄橙色	
Po544	426	313	835 他 738	4 区北	7a-9C-5b 7a-9C-6b	竪穴建物 3	３層 ２層	土師器 甕	△ 9.2	※ 15.0	—	外面：口縁部横ナデ、肩部ハケ後一部ナデ 内面：口縁から頸部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	内外面ともにぶい橙色・褐灰色	

第 84 表　土器観察表（16）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po545	426	313	820	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	2 層	土師器 甕	△ 7.5	※ 14.3	—	外面：口縁部横ナデ、肩部に刺突文 内面：口縁から頸部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	
Po546	426	313	822 690	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	3 層 1 層	土師器 甕？	△ 4.5	※ 17.4	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：橙色・浅黄橙色・灰色 内面：淡赤橙色・橙色・にぶい黄橙色	
Po547	426	313	817	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	2 層	土師器 甕	△ 3.0	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：浅黄橙色 内面：灰白色	外面煤付着
Po548	426	313	848	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	2 層	土師器 甕	△ 2.9	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：暗灰色・にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色・にぶい黄橙色	外面煤付着
Po549	426	313	887-1	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	1 層	土師器 甕	△ 3.3	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色・にぶい褐色	内面煤付着
Po550	426	313	571	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	埋土下層	土師器 甕	△ 3.4	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po551	426	313	644	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	2 層	土師器 甕	△ 3.2	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色・にぶい褐色 内面：にぶい褐色	内面煤付着
Po552	426	313	552-1	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	埋土下層	土師器 甕	△ 3.3	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：にぶい褐色 内面：にぶい橙色	
Po553	426	313	849	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	2 層	土師器 甕	△ 4.0	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po554	426	313	660	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	3 層	土師器 甕	△ 4.2	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：灰白色 内面：にぶい黄橙色・灰黄褐色	
Po555	426	313	497	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	埋土上層	土師器 甕	△ 3.8	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：黒色 内面：橙色	
Po556	426	313	842-2	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	3 層	土師器 甕	△ 4.1	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po557	426	313	887-2	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	1 層	土師器 甕	△ 4.2	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：にぶい褐色 内面：浅黄橙色・灰褐色	外面煤付着
Po558	426	313	711	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	1 層	土師器 甕	△ 4.3	—	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ、頸部ケズリ	密 良好	外面：浅黄橙色・灰色 内面：にぶい橙色	
Po559	426	313	458	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	埋土	土師器 甕	△ 3.9	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部ナデ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	
Po560	426	313	479 518	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	埋土上層	土師器 甕	△ 5.7	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：浅黄橙色～灰黄褐色 内面：にぶい橙色	
Po561	427	314	666 459	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	3 層 撹乱	土師器 高坏	△ 3.9	※ 16.0	—	外面：口縁端部ナデ、体部ハケ後横ナデ 内面：口縁端部ナデ、体部ミガキ	密 良好	外面：にぶい橙色～橙色 内面：橙色～褐灰色	
Po562	427	314	731 555 732 108	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	2 層 埋土下層 埋土 暗渠	土師器 高坏	△ 3.9	—	—	外面：横ナデ・ミガキ、体部下半ハケ後ナデ 内面：ナデ・ミガキ、底部ナデ	密 良好	外面：浅黄橙色～橙色 内面：にぶい橙色	
Po563	427	314	519	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	埋土上層	土師器 高坏	△ 3.0	—	—	外面：口縁端部ナデ 内面：ナデ	密 やや不良	外面：浅黄橙色～橙色 内面：にぶい橙色	
Po564	427	314	809	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	2 層	土師器 高坏	△ 3.2	—	—	外面：口縁端部横ナデ、体部ハケ後横ナデ 内面：横ナデ	密 良好	外面：橙色 内面：にぶい橙色	
Po565	427	314	661	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	2 層	土師器 高坏	△ 3.2	—	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ・ミガキ	密 良好	外面：褐灰色～にぶい橙色 内面：にぶい褐色～にぶい橙色	
Po566	427	314	506	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	埋土上層	土師器 低脚坏	△ 3.2	※ 15.6	—	外面：ハケ後ナデ 内面：ハケ・横ナデ	密 良好	外面：褐灰色～浅黄橙色 内面：浅黄橙色	
Po567	427	314	669	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	1 層	土師器 低脚坏	△ 1.7	—	※ 4.5	外面：横ナデ 内面：不明	密 やや不良	外面：浅黄橙色～黒褐色 内面：浅黄橙色	
Po568	427	314	503 500	4 区北	7a-9C-5b 7a-9C-4d	竪穴建物 3 竪穴建物 4	埋土上層 埋土上層	土師器 坏	△ 2.1	※ 22.2	—	内外面ともナデ	密 良好	外面：浅黄橙色 内面：浅黄橙色～灰褐色	
Po569	427	314	624	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	埋土	土師器 器台	△ 2.3	—	※ 17.6	外面：横ナデ 内面：ケズリ、横ナデ	密 良好	外面：黒褐色～黒色 内面：にぶい黄橙色～褐灰色	
Po570	427	314	656 462	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	3 層 撹乱	土師器 器台	△ 5.1	—	—	外面：端部ナデ、体部ハケ・横ナデ・縦ナデ、ナデ 内面：ナデ、指オサエ	密 良好	内外面とも橙色	
Po571	427	314	847 他 553 他	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	2 層 埋土下層	土師器 小型丸底壺	8.9	※ 8.6	—	外面：口縁から頸部横ナデ、体部ハケ 内面：口縁から頸部横ナデ、体部ケズリ、底部指オサエ	密 良好	内外面とも浅黄橙色～橙色	
Po572	427	314	733	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	2 層	土師器 小型丸底壺	△ 3.2	—	—	外面：横ナデ 内面：頸部ナデ・ケズリ、体部ナデ	密 良好	外面：灰褐色～にぶい橙色 内面：にぶい橙色～明褐灰色	
Po573	427	314	1052	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3 102 柱穴	2 層	土師器 小型丸底壺	△ 3.0	—	—	外面：ナデ 内面：ケズリ	密 良好	外面：にぶい黄橙色～黒色 内面：にぶい橙色	
Po574	427	314	552-2	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	埋土下層	ミニチュア 土器	△ 2.9	※ 8.8	—	外面：粗いナデ、指オサエ 内面：ケズリ後指オサエ	密 良好	外面：黒褐色～灰黄褐色 内面：黒褐色～褐灰色	
Po575	427	314	738	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	2 層	ミニチュア 土器	△ 3.7	—	—	外面：口縁端部ナデ、体部粗いナデ・指オサエ 内面：口縁端部ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：褐灰色～黒褐色 内面：黒褐色～褐灰色	
Po576	437	—	1256	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	弥生土器 甕	△ 7.6	—	—	外面：口縁部凹線文、頸部横ナデ、胴部ハケ後ナデ 内面：頸部横ナデ、体部ヘラケズリ	やや粗 やや不良	内外面ともにぶい黄橙色	外面煤付着
Po577	437	—	613	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	埋土上層	弥生土器 甕	△ 3.2	※ 12.8	—	外面：口縁部擬凹線文、頸部横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部横ナデ・ヘラケズリ	やや密 良好	外面：褐色 内面：にぶい黄褐色	
Po578	437	316	780 566 759	4 区北	7a-9C-4c 7a-9C-4c 7a-9C-4d	竪穴建物 4 竪穴建物 4 竪穴建物 6	1 層 埋土上層 埋土	弥生土器 甕	△ 8.7	※ 13.0	—	外面：タタキ、1 条の沈線 内面：横ナデ一部指オサエ、粘土つなぎの痕跡	密 良好	外面：にぶい褐色～褐灰色 内面：にぶい橙色～灰褐色	

第 85 表　土器観察表（17）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po579	437	318	1265	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4 160 柱穴	検出面	弥生土器 甕	△ 4.0	—	—	外面：口縁部ナデ、頭部タタキ後ナデ、体部ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部横方向のハケ	密 良好	外面：黒褐色 内面：にぶい黄褐色	
Po580	437	317	904	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	1 層	弥生土器 高坏？	△ 4.1	—	※ 13.6	外面：横ナデ、脚部端面に擬凹線文 内面：横ナデ	普通 やや良好	内外面ともにぶい橙色	
Po581	437	317	546 763	4 区北	7a-9C-4c 7a-9C-4d	竪穴建物 4 竪穴建物 6	埋土上層 埋土	土師器 壺	△ 8.9	※ 19.0	—	外面：口縁端部ナデ、口縁部横ナデ、下半ハケ後横ナデ 内面：口縁部横ナデ、下半横ナデ一部指オサエ	やや密 良好	外面：浅黄色 内面：にぶい黄橙色	
Po582	437	315	869 778 901 他 929 1185 他 409	4 区北	7a-9C-4c 7a-9C-4c 7a-9C-4d 7a-9C-4d 7a-9C-4c 7a-9C-5d	竪穴建物 4	埋土上層 1 層 1 層 2 層 3 層 Ⅱ b 層	土師器 壺	△ 19.5	※ 29.4	—	外面：口縁部横ナデ頸部ハケ、肩～体部横ナデ・刺突文・ハケ後刺突文、擬凹線、ハケ 内面：口縁から頸部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：灰白色・にぶい黄橙色 内面：灰白色・黒褐色	口縁外面黒斑あり
Po583	437	316	1267 他 695	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層 埋土上層	土師器 壺	△ 7.2	—	—	外面：横ナデ、一部ハケ 内面：横ナデ、ヘラケズリ	密 不良	外面：にぶい黄橙色～暗褐色 内面：にぶい黄橙色	
Po584	437	316	1233	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 壺	△ 6.3	—	—	外面：横ナデ 内面：ヘラケズリ	やや粗 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po585	437	316	1191 973 617	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層 3 層 埋土上層	土師器 壺	△ 7.1	—	—	外面：口縁から頸部横ナデ、肩部縦方向のハケ後弱い横ナデ 内面：頸部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：灰白色～にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色	
Po586	437	316	770	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	1 層	土師器 壺	△ 9.3	—	—	外面：頸部２条の沈線、縦方向の工具痕、体部横ナデ 内面：頸部ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：浅黄橙色～にぶい黄橙色 内面：黒色	外面煤付着
Po587	437	315	1196 1209 1016 972	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 7.9	※ 11.8	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ。体部ヘラケズリ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・灰黄褐色 内面：灰白色・にぶい黄褐色	
Po588	437	315	1017 702	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層 埋土上層	土師器 甕	△ 3.5	※ 12.8	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：黒色～にぶい黄褐色 内面：にぶい黄橙色～褐灰色	
Po589	437	315	1187	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 3.8	※ 12.8	—	内外面とも横ナデ	密 やや不良	内外面ともにぶい黄橙色	
Po590	437	316	1240 616	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土 埋土上層	土師器 甕	△ 3.6	※ 13.6	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色～浅黄橙色 内面：浅黄橙色	
Po591	437	315	927	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	1 層	土師器 甕	△ 4.1	※ 15.0	—	内外面とも調整不明	密 良好	内外面とも橙色・灰褐色	
Po592	437	315	1234	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 4.4	※ 14.4	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：黒褐色～灰白色 内面：灰白色	
Po593	437	316	1219	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 3.9	※ 14.8	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：灰黄褐色～浅黄橙色 内面：浅黄橙色～灰褐色	
Po594	437	315	1173 他 533 他	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	3 層 埋土下層	土師器 甕	△ 5.6	※ 13.8	—	外面：横方向のナデ一部ハケ 内面：横方向のナデ一部ハケ、肩部ヘラケズリ	密 良好	内外面とも明褐色～極暗褐色	外面煤付着
Po595	437	315	768	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	1 層	土師器 甕	△ 4.8	※ 14.5	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：橙色・黒褐色 内面：橙色	
Po596	437	315	794	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	1 層	土師器 甕	△ 3.5	※ 14.2	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：灰黄褐色・黒色 内面：にぶい黄褐色・灰黄褐色	外面煤付着
Po597	437	315	773	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	1 層	土師器 甕	△ 3.9	※ 14.6	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色	
Po598	437	316	698 511 566	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土上層	土師器 甕	△ 4.0	※ 15.2	—	外面：口縁端部横ナデ、口縁上半部ハケ後横ナデ、口縁下半部横ナデ 内面：横ナデ	密 良好	外面：橙色～にぶい橙色 内面：にぶい橙色～灰褐色	
Po599	437	315	1217 1218 1221 942	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	3 層 3 層 3 層 1 層	土師器 甕	△ 15.2	※ 13.5	—	外面：口縁部から頸部横ナデ、体部縦方向のハケ後ナデ、横方向のハケ、不整方向のハケ、下半ハケ後ナデ、肩部に刺突文 内面：口縁部横ナデ、頸部ナデ、体部ヘラケズリ	密 良好	外面：橙色～黒色 内面：にぶい黄橙色～暗褐色	外面煤付着
Po600	437	317	1335 1261 他	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4 160 柱穴 竪穴建物 4	埋土 3 層	土師器 甕	△ 7.4	※ 14.4	—	外面：横ナデ 内面：口縁から頸部横ナデ、肩部ヘラケズリ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・黒色 内面：灰白色・にぶい黄褐色	
Po601	437	315	1170 他 1121 545	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層 埋土 埋土下層	土師器 甕	△ 9.4	※ 15.0	—	外面：口縁から肩部横ナデ、体部縦方向のハケ 内面：口縁から肩部横ナデ、体部ヘラケズリ・指オサエ	密 良好	外面：浅黄橙色・黒色・にぶい褐色 内面：橙色・浅黄橙色	
Po602	438	315	1257 1259	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 7.5	※ 15.8	—	外面：横方向のナデ 内面：横方向のナデ、下半ヘラケズリ、指オサエ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po603	438	315	766	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	1 層	土師器 甕	△ 4.4	※ 17.0	—	内外面とも横ナデ	密 やや不良	内外面とも灰白色	
Po604	438	—	1178	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 3.2	—	—	外面：横ナデ 内面：頸部横ナデ、体部ヘラケズリ	やや密 良好	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色	
Po605	438	316	696	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土上層	土師器 甕	△ 3.0	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	
Po606	438	315	1016	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 3.2	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：灰白色 内面：にぶい黄橙色・灰黄褐色	
Po607	438	315	1288	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 3.4	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：灰黄褐色 内面：浅黄橙色	
Po608	438	316	592	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土上層	土師器 甕	△ 3.5	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：浅黄橙色～灰白色 内面：浅黄橙色	
Po609	438	316	618	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土上層	土師器 甕	△ 3.8	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：灰白色～黒褐色 内面：灰白色	
Po610	438	315	1180	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 4.7	—	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：にぶい橙色～淡橙色 内面：にぶい橙色	
Po611	438	316	617 565	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土上層	土師器 甕	△ 4.0	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：灰黄褐色～灰白色 内面：灰色～明黄褐色	
Po612	438	315	1168	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 4.0	—	—	内外面とも横ナデ	密 やや良好	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色	

第 86 表　土器観察表（18）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po613	438	315	1201	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 4.2	—	—	外面：横ナデ、頭部ナデ 内面：横ナデ	密 良好	外面：灰白色 内面：浅黄橙色	
Po614	438	316	702	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土上層	土師器 甕	△ 3.5	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	
Po615	438	315	1146	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 3.9	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：黒褐色・灰黄褐色 内面：黒褐色・にぶい黄褐色	
Po616	438	315	1230	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 3.9	—	—	外面：口縁端部横ナデ、口縁部ナデ内面：横ナデ	やや粗 やや不良	内外面とも浅黄橙色	
Po617	438	315	1250 871	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層 2 層	土師器 甕	△ 4.0	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色 内面：灰褐色	
Po618	438	315	1117	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	1 層	土師器 甕	△ 3.7	—	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ一部工具によるナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色	
Po619	438	315	1226	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 5.2	—	—	外面：横ナデ 内面：横ナデ、体部ケズリ	やや粗 やや不良	内外面とも灰白色	
Po620	438	315	1232	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 甕	△ 5.6	—	—	内外面とも横ナデ	やや粗 やや不良	内外面とも灰白色	
Po621	438	317	869	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土上層	土師器 甕	△ 3.2	—	—	外面：横ナデ 内面：ナデ、頭部丁寧なナデ	密 良好	外面：灰黄褐色 内面：褐灰色	
Po622	438	—	776	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	1 層	土師器 甕	△ 6.4	—	—	外面：横ハケ、2 列の刺突文、縦ハケ 内面：ヘラケズリ	普通 やや不良	外面：浅黄橙色 内面：灰白色	
Po623	438	317	701	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土上層	土師器 高坏	△ 3.5	※ 15.3	—	外面：口縁端部ナデ、体部横ナデ 内面：ナデ、幅広のヘラミガキ	やや粗 普通	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色	
Po624	438	317	1225 972 915 872	4 区北	7a-9C-4d 7a-9C-4c 7a-9C-4d 7a-9C-4d	竪穴建物 4	3 層 3 層 1 層 埋土上層	土師器 高坏	△ 6.1	※ 19.6	—	外面：一部ハケ 内面：不明	密 良好	外面：灰白色～浅黄橙色 内面：灰白色～褐灰色	
Po625	438	317	699 619	4 区北	7a-9C-4c 7a-9C-4d	竪穴建物 4	埋土上層	土師器 高坏	△ 5.9	—	—	外面：口縁端部ナデ、口縁部ハケ後ナデ、体部ヘラミガキ、体部下半ハケ・工具によるナデ 内面：ナデ・ヘラミガキ、底部付近丁寧なナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po626	438	—	949	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	1 層	土師器 高坏	△ 2.8	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po627	438	317	1235	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 高坏	△ 3.6	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ナデ・ヘラミガキ	やや密 良好	外面：にぶい赤褐色 内面：にぶい黄橙色	
Po628	438	317	726	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土上層	土師器 高坏	△ 3.9	—	—	外面：口縁端部横ナデ、体部ナデ・ヘラミガキ 内面：横ナデ	普通 普通	外面：浅黄橙色 内面：にぶい黄橙色	
Po629	438	317	1214	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 高坏	△ 2.6	—	—	外面：ナデ、ハケ、一部ヘラミガキ 内面：ミガキ	密 良好	内外面とも橙色	
Po630	438	318	1340 1198 他 1175 他	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4 164 中央ピット 竪穴建物 4 竪穴建物 4	1 層 3 層 2 層	土師器 高坏	△ 1.9	—	—	外面：横ナデ、ハケ 内面：ヘラミガキ	密 良好	外面：浅黄橙色 内面：にぶい橙色	
Po631	438	317	1018 619 他	4 区北	7a-9C-4c 7a-9C-4d	竪穴建物 4	3 層 埋土上層	土師器 高坏	△ 5.5	—	—	外面：ハケ 内面：ケズリ	やや密 やや良好	内外面とも灰白色	
Po632	438	317	1220	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	3 層	土師器 高坏	△ 2.4	—	脚径 ※ 13.6	外面：ハケ、ナデ、端部ナデ 内面：ハケ、ナデ	密 やや良好	内外面ともにぶい橙色	
Po633	438	317	1244	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 高坏	△ 2.0	—	脚径 ※ 16.0	外面：端部ナデ 内面：不明	普通 やや不良	内外面とも灰白色	
Po634	438	317	787	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	2 層	土師器 低脚坏	△ 3.8	※ 12.8	—	外面：横ナデ、体部下半ハケ後粗いナデ 内面：横ナデ、体部下半ヘラミガキ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po635	438	318	1161	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	古段階壁溝	土師器 低脚坏	△ 5.1	—	脚径 ※ 18.6	外面：ハケ一部指オサエ・横ナデ、端部ナデ 内面：ヘラケズリ、ハケ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po636	438	317	1215	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 低脚坏	△ 5.1	—	—	外面：ハケ、一部に工具によるナデ 内面：ヘラケズリ、ナデ後ハケ	やや密 やや良好	内外面とも灰白色	
Po637	438	317	1247 1248 975	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 低脚坏	△ 1.8	—	脚径 ※ 17.0	外面：ヘラミガキまたは工具によるナデ、端部ナデ 内面：ハケ、横ナデ	密 良好	外面：にぶい褐色 内面：にぶい黄橙色	
Po638	438	316	1242	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	土師器 器台	△ 3.8	※ 21.6	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po639	438	318	913	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	1 層	土師器 器台	△ 3.2	—	—	外面：横ナデ、端部ナデ 内面：横ナデ	やや密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po640	438	317	781 1147	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	1 層 3 層	土師器 小型丸底壺	△ 6.8	—	—	外面：頭部横ナデ、体部ハケ後ヘラミガキ、ハケメ 内面：頭部から体部ヘラミガキ、ナデ	密 良好	内外面とも褐色	
Po641	438	317	505	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土下層	土師器 小型丸底壺	△ 5.8	—	—	外面：上半部横ナデ、下半部ハケ 内面：頭部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：浅黄橙色～灰白色 内面：浅黄橙色	
Po642	445	303	1304	4 区北	7a-9C-5c	148 柱穴	埋土	弥生土器 高坏	△ 5.0	—	—	外面：ヘラミガキ、4 条の沈線文 内面：ヘラケズリ後一部に工具によるナデ	密 良好	内外面とも褐色	外面赤彩
Po643	449	304	349	4 区南	7a-10C-7e		Ⅰa 層	土師器 Ⅲ	△ 1.7	※ 6.9	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	外面：にぶい橙色～橙色 内面：橙色～にぶい橙色	
Po644	449	304	298	4 区南	7a-10C-3d		Ⅰa 層	土師器 Ⅲ	△ 2.1	※ 12.4	—	外面：上半部ナデ、下半部粗いナデ 内面：ナデ	密 やや不良	内外面とも灰白色～にぶい黄橙色	
Po645	449	304	323	4 区南	7a-10C-3e		Ⅰa 層	土師器 坏	△ 1.8	—	6.4	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色	
Po646	449	305	337	4 区南	7a-10C-6e		Ⅰa 層	土師器 鍋	△ 3.3	—	—	外面：ナデ一部ハケ、口縁部に線状の工具痕 内面：ナデ、頭部ハケ、体部ハケ後ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・黒褐色 内面：黒褐色	
Po647	449	305	350	4 区南	7a-10C-8f		Ⅰa 層	瓦質土器 鍋	△ 7.1	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部粗いナデ、指オサエ 内面：口縁部横方向のナデ、体部工具による横方向のナデ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	
Po648	449	305	295	4 区南	7a-10C-2c		Ⅰa 層	瓦質土器 鍋	△ 2.4	—	—	外面：口縁端部ナデ、口縁部横方向のナデ、体部粗いナデ、指オサエ 内面：口縁端部ナデ、口縁部横方向のナデ	密 良好	外面：暗灰色～灰色 内面：灰色	

第 87 表　土器観察表（19）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po649	449	306	291	4区南	7a-10C-3a		Ⅰa層	瓦質土器鉢	△7.1	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ 内面：方向の横ナデ	密 良好	外面：灰色 内面：灰色～灰白色	
Po650	449	304	2044	4区南	7a-10C-4c		Ⅰb層	土師器坏	△2.1	※9.6	—	外面：回転ナデ 内面：口縁端部回転ナデ、体部ナデ	密 良好	外面：明赤褐色 内面：明赤褐色～にぶい橙色	内外面赤彩
Po651	449	304	2079	4区南	7a-10C-6e		Ⅰb層	土師器坏	△2.8	—	—	外面：回転ナデ、腰部ナデ、底部ヘラ切り後指による押圧 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 やや良好	内外面とも明赤褐色	内外面赤彩
Po652	449	304	494	4区南	7a-10C-5f		Ⅰb層	土師器坏	△3.2	※16.4	—	外面：ナデ 内面：回転ナデ	密 やや良	内外面ともにぶい橙色	内面赤彩
Po653	449	304	1957	4区南	7a-10C-5c		Ⅰb層	土師器Ⅲ	△1.4	※8.8	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色～灰白色 内面：にぶい黄橙色	
Po654	449	304	2024-2	4区南	7a-10C-3c		Ⅰb層	土師器Ⅲ	△1.7	※9.0	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	内外面とも灰白色～橙色	
Po655	449	304	1856	4区南	7a-10C-7e		Ⅰb層	土師器Ⅲ	△2.7	※10.4	—	外面：口縁部横方向のナデ、下半ナデ 内面：横方向のナデ、底部にかけて工具によるナデ	密 良好	外面：浅黄橙色 内面：にぶい橙色	
Po656	449	304	2024-1	4区南	7a-10C-3c		Ⅰb層	土師器Ⅲ	△1.8	※12.3	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	外面：灰白色～にぶい橙色 内面：浅黄橙色～橙色	
Po657	449	304	1788-1	4区南	7a-10C-8e		Ⅰb層	土師器Ⅲ	△2.9	※17.6	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色～灰黄褐色 内面：灰黄褐色～にぶい黄橙色	
Po658	449	304	1745	4区南	7a-10C-5d		Ⅰb層	土師器Ⅲ	1.6	※7.8	※5.6	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：橙色～にぶい褐色 内面：浅黄橙色～にぶい橙色	
Po659	449	304	1993	4区南	7a-10C-5d		Ⅰb層	土師器Ⅲ	1.6	※8.0	※7.0	外面：風化の為調整不明、指オサエ？ 内面：風化の為調整不明	密 やや不良	内外面とも灰白色	
Po660	449	304	1883	4区南	7a-10C-8d		Ⅰb層	土師器Ⅲ	△1.2	—	※5.2	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	やや粗 やや不良	外面：にぶい橙色 内面：橙色	
Po661	449	304	247	4区南	7a-10C-2b		Ⅰb層	土師器高台付坏	△1.7	—	※6.0	外面：高台部貼り付けに伴う横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	
Po662	449	306	2049	4区南	7a-10C-6d		Ⅰb層	土師器柱状高台	△3.7	—	—	外面：回転ナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：褐灰色～灰黄褐色 内面：浅黄橙色～灰黄褐色	
Po663	449	306	2047	4区南	7a-10C-5c		Ⅰb層	土師器鍋	△4.6	—	—	外面：ナデ一部ハケ、指オサエ 内面：横方向のハケ一部指オサエ	密 良好	外面：黒～褐色 内面：褐色	外面煤付着
Po664	449	306	1855	4区南	7a-10C-7e		Ⅰb層	土師器鍋	△4.5	—	—	外面：口縁部ナデ、体部ハケ、頸部指オサエ 内面：口縁端部ナデ、口縁から体部ハケ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色	
Po665	449	305	1965	4区南	7a-10C-7d		Ⅰb層	瓦質土器鍋	△3.1	※20.6	—	外面：口縁部方向のナデ、頸部ナデ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：灰白色・黒褐色 内面：黒褐色	
Po666	449	305	2032	4区南	7a-10C-4c		Ⅰb層	瓦質土器鍋	△3.3	—	—	外面：横方向のナデ一部指オサエ 内面：口縁部横ナデ一部指オサエ、体部ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色～黒褐色 内面：灰白色	
Po667	449	305	2027	4区南	7a-10C-3c		Ⅰb層	瓦質土器鍋	△3.2	—	—	外面：横方向のナデ、頸部ナデ後指オサエ、工具痕あり 内面：横方向のナデ一部指オサエ	密 良好	外面：黒褐色 内面：浅黄橙色～暗褐色	
Po668	449	305	484	4区南	7a-10C-5e		Ⅰb層	瓦質土器鍋	△4.8	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、口縁から体部粗いナデ一部指オサエ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：黒～灰白色 内面：灰黄褐色	
Po669	449	306	1770	4区南	7a-10C-5d		Ⅰb層	土師器鉢	△4.1	—	—	外面：横方向のナデ 内面：口縁部横方向のナデ	密 やや良好	外面：灰白色～浅黄橙色 内面：灰白色～褐灰色	
Po670	449	306	271	4区南	7a-10C-7d		Ⅰb層	瓦質土器擂鉢	△3.9	—	—	外面：口縁端部ナデ 内面：ナデ、卸目	密 良好	外面：黒褐色 内面：黄灰色	
Po671	449	306	1884	4区南	7a-10C-8d		Ⅰb層	瓦質土器擂鉢	△2.8	—	—	外面：粗いナデ 内面：ナデ、卸目	密 良好	外面：灰白色 内面：暗灰色	
Po672	449	309	1788-2	4区南	7a-10C-8e		Ⅰb層	須恵器坏	△2.7	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po673	449	308	2046	4区南	7a-10C-6d		Ⅰb層	須恵器坏	△1.8	—	※5.8	外面：回転ナデ、横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ後一部ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po674	449	309	1772	4区南	7a-10C-7d		Ⅰb層	須恵器壺	△6.2	—	—	外面：横方向のナデ 内面：横方向のナデ後一部不定方向のナデ	密 良好	外面：褐灰色・黒色 内面：褐灰色	
Po675	449	310	2029	4区南	7a-10C-3c		Ⅰb層	白磁Ⅲ	△1.5	—	※3.5	外面：施釉、底部露胎 内面：施釉	密 良好	施釉部・露胎部とも灰白色	
Po676	450	305	113-3	4区北	7a-9C-7a		2流路直上土	土師器Ⅲ	△1.6	※7.3	—	内外面とも横方向のナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色～褐灰色 内面：にぶい黄橙色	
Po677	450	305	113-4	4区北	7a-9C-7a		2流路直上土	土師器Ⅲ	1.6	※7.8	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部から底部ナデ・指頭圧痕 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：褐灰色～灰白色 内面：にぶい橙色～褐灰色	
Po678	450	305	1979	4区南	7a-10C-3d		2流路直上土	土師器Ⅲ	1.3	※7.8	—	内外面ともナデ	密 良好	外面：褐灰色 内面：にぶい黄橙色～灰黄褐色	
Po679	450	305	1711	4区南	7a-10C-3d		2流路直上土	土師器Ⅲ	1.85	8.5	—	外面：口縁部横方向のナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：横方向のナデ、一部にナデ・指オサエ	密 良好	外面：浅黄橙色・明黄褐色 内面：淡黄色	
Po680	450	305	1949	4区南	7a-10C-5d		2流路直上土	土師器Ⅲ	△1.7	※9.7	—	外面：口縁部横方向のナデ、底部付近ナデ・指オサエ 内面：横方向のナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po681	450	305	1959	4区南	7a-10C-5e		2流路直上土	土師器Ⅲ	△2.3	※10.4	—	外面：口縁部ナデ、底部横方向のナデ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：灰黄褐色 内面：浅黄橙色	
Po682	450	305	1933	4区南	7a-10C-3d		2流路直上土	土師器Ⅲ	△2.0	※11.2	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：灰黄褐色～灰白色 内面：灰黄褐色～にぶい黄橙色	
Po683	450	305	58	4区北	7a-9C-7a		2流路直上土	土師器Ⅲ	△2.7	※12.2	—	外面：横方向のナデ、腰部ナデ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：灰黄褐色～浅黄褐色 内面：灰黄褐色	

第 88 表　土器観察表（20）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po684	450	305	1406	4区北	7a-9C-10b		2流路直上土	土師器 皿	△ 2.9	※ 12.5	—	外面：口縁部横方向のナデ、底部付近粗いナデ・指オサエ 内面：口縁部横方向のナデ、底部付近ナデ・ハケ	密 良好	内外面とも橙色	
Po685	450	305	113-1	4区北	7a-9C-7a		2流路直上土	土師器 皿	△ 2.7	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、底部付近粗いナデ・指オサエ 内面：口縁部横方向のナデ、底部付近ナデ・指オサエ	密 良好	外面：にぶい橙色・褐灰色 内面：灰褐色	
Po686	450	305	113-2	4区北	7a-9C-7a		2流路直上土	土師器 皿	△ 2.1	※ 6.3	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：灰白色 内面：浅黄橙色	
Po687	450	305	1950	4区南	7a-10C-5d		2流路直上土	土師器 皿	1.6	※ 6.7	※ 3.9	外面：回転ナデ、底面回転糸切り、板目痕 内面：口縁部回転ナデ、底部ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・灰白色 内面：にぶい黄橙色・灰黄褐色	
Po688	450	305	1805	4区南	7a-10C-5e		2流路直上土	土師器 皿	2.5	※ 9.8	※ 6.0	外面：口縁部回転ナデ、底部付近ナデ、底面回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色・灰褐色 内面：にぶい橙色	
Po689	450	305	1816	4区南	7a-10C-5e		2流路直上土	土師器 坏	△ 1.5	—	※ 6.7	外面：回転ナデ、底面回転糸切り 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	外面：橙色・褐灰色 内面：灰褐色	
Po690	450	305	1843	4区南	7a-10C-5e		2流路直上土	土師器 坏	△ 1.8	—	※ 5.9	外面：回転ナデ、底面回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色・褐灰色 内面：にぶい橙色	
Po691	450	305	1664	4区南	7a-10C-3d		2流路直上土	土師器 坏	△ 1.7	—	※ 6.8	外面：回転ナデ、底面回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい赤褐色	
Po692	450	308	414	4区南	7a-10C-3f		2流路直上土	土師器 高台付坏	△ 4.0	—	※ 8.2	外面：回転ナデ、高台部横ナデ、底部ナデ 内面：回転ナデ、ナデ	密 良好	外面：明褐色 内面：褐色～明褐色	
Po693	450	308	54	4区北	7a-9C-6a		2流路直上土	土師器 柱状高台	△ 2.0	—	4.5	外面：ナデ、底部切り離し後板目痕 内面：ナデ	密 良好	内外面とも浅黄橙色～にぶい橙色	
Po694	450	310	45	4区北	7a-9C-6a		2流路直上土	ミニチュア土器	△ 3.9	—	—	外面：ナデ 内面：ナデ・指オサエ	密 良好	外面：灰黄褐色・暗灰色 内面：灰黄褐色	
Po695	450	307	1791 1801	4区南	7a-10C-5e 7a-10C-5f		2流路直上土	土師器 鍋	△ 6.8	※ 31.6	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部ハケ・指オサエ 内面：口縁部横方向のナデ・ハケ、体部ハケ	密 良好	内外面とも灰黄褐色	内外面煤付着
Po696	450	307	1670	4区南	7a-10C-2d		2流路直上土	土師器 鍋	△ 4.9	—	—	外面：口縁端部ナデ、口縁から体部ハケ・指オサエ 内面：口縁部ハケ一部指オサエ、体部ハケ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色	外面煤付着
Po697	450	307	1826	4区南	7a-10C-7g		2流路直上土	土師器 鍋	△ 4.8	—	—	外面：口縁端部ナデ、口縁から体部調整不明瞭 内面：ハケ	密 良好	外面：煤付着の為不明 内面：にぶい黄橙色・灰黄褐色	外面煤付着
Po698	450	307	1803	4区南	7a-10C-6e		2流路直上土	土師器 鍋	△ 5.0	—	—	外面：口縁端部ナデ、口縁から体部ハケ・指オサエ 内面：ハケ	密 良好	外面：煤付着の為不明 内面：にぶい黄橙色	外面煤付着
Po699	450	307	1758	4区南	7a-10C-6e		2流路直上土	土師器 鍋	△ 2.8	—	—	外面：口縁端部横ナデ、口縁から頭部ハケ・指オサエ 内面：口縁端部横ナデ、口縁から体部ハケ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	外面煤付着
Po700	450	307	1845	4区南	7a-10C-6e		2流路直上土	土師器 鍋	△ 2.5	—	—	外面：口縁部ナデ、体部ハケ・指オサエ・ナデ 内面：ハケ	密 良好	外面：煤付着の為不明 内面：にぶい褐色・灰褐色	外面煤付着
Po701	450	307	1951	4区南	7a-10C-5e		2流路直上土	土師器 鍋	△ 2.1	—	—	外面：口縁端部横ナデ、口縁部ハケ後ナデ・指オサエ 内面：口縁端部横ナデ、口縁部ハケ	密 良好	外面：浅黄色 内面：浅黄橙色・にぶい橙色	外面煤付着
Po702	450	307	2045	4区南	7a-10C-5e		2流路直上土	土師器 鍋	△ 2.3	—	—	外面：口縁端部ナデ、口縁部ハケ・指オサエ 内面：口縁部ハケ、体部ナデ	密 良好	内外面とも灰黄褐色	外面煤付着
Po703	450	307	1441	4区北	7a-9C-10c		2流路直上土	土師器 鍋	△ 5.8	—	—	外面：頭部ハケ・指オサエ、体部ハケ 内面：ハケ	密 良好	外面：にぶい橙色 内面：浅黄橙色	外面煤付着
Po704	450	307	1364	4区北	7a-9C-9b		2流路直上土	土師器 鍋	△ 4.3	—	—	外面：ハケ・ナデ 内面：ハケ	密 良好	外面：煤付着の為不明 内面：鈍い褐色・灰褐色	外面煤付着
Po705	450	307	1804	4区南	7a-10C-6e		2流路直上土	瓦質土器 鍋	△ 2.5	—	—	外面：口縁部横ナデ、頭部ナデ・指オサエ 内面：口縁部横ナデ、体部ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色・淡黄色 内面：にぶい橙色	
Po706	450	307	1730	4区南	7a-10C-4d		2流路直上土	瓦質土器 鍋	△ 2.5	—	—	外面：口縁部横ナデ、頭部ナデ・指オサエ 内面：横ナデ	密 良好	外面：暗灰色 内面：灰白色・暗灰色	
Po707	450	309	1952	4区南	7a-10C-6e		2流路直上土	須恵器 壺	△ 7.1	—	—	外面：回転ナデ 内面：頭部横ナデ、体部回転ナデ	密 良好	外面：褐灰色・灰白色 内面：灰白色	
Po708	450	309	1958	4区南	7a-10C-5d		2流路直上土	須恵器 甕	△ 8.1	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕・ナデ	密 良好	外面：褐灰色・灰白色 内面：灰白色	
Po709	450	310	1947	4区南	7a-10C-4d		2流路直上土	白磁 輪花碗	△ 4.5	※ 17.3	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部：灰白色	
Po710	450	310	1678	4区南	7a-10C-3e		2流路直上土	白磁 碗	△ 2.2	—	—	外面：施釉 内面：施釉、口縁部に付着物あり	密 良好	施釉部：灰白色	
Po711	450	310	284	4区南	7a-10C-5d		2流路直上土	白磁 碗	△ 1.5	—	※ 6.1	外面：露胎 内面：沈線、見込み一部露胎	密 良好	露胎部：灰白色	
Po712	450	306	14	4区北	7a-9C-5c		Ⅱb層	弥生土器 甕	△ 3.3	※ 14.7	—	外面：口縁部擬凹線、頸部横ナデ、縦方向のハケ 内面：口縁部横ナデ、頸部ミガキ、ケズリ	密 良好	内外面とも橙色	
Po713	450	306	1597 1616	4区南	7a-10C-5g		Ⅱb層	土師器 壺	△ 7.3	※ 13.8	—	外面：口縁から頸部横ナデ、体部ハケ 内面：口縁端部ナデ、口縁から頸部横ナデ、体部横ナデ後指オサエ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色～黒褐色	
Po714	450	306	2104	4区南	7a-10C-8h		Ⅱb層	土師器 甕	△ 3.7	※ 16.8	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	
Po715	450	306	593	4区北	7a-9C-5d		Ⅱb層	土師器 甕	△ 5.3	※ 20.0	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色～黒色 内面：にぶい橙色	
Po716	450	306	26	4区北	7a-9C-8c		Ⅱb層	土師器 甕	△ 3.5	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、頸部ヘラケズリ	密 良好	外面：黒褐色～にぶい黄橙色 内面：にぶい橙色～褐灰色	
Po717	450	306	886	4区北	7a-9C-6b		Ⅱb層	土師器 甕	△ 4.7	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	外面：黒褐色～にぶい黄褐色 内面：にぶい橙色～褐灰色	

第 89 表　土器観察表（21）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po718	450	307	404 78	4 区北	7a-9C-5c		Ⅱｂ層	土師器 甕	△ 8.2	※ 13.0	—	外面：口縁部横ナデ、頸部ハケ後横ナデ、体部ハケ 内面：口縁端部ナデ、口縁部横ナデ、体部ヘラケズリ	密 良好	外面：浅黄橙色～にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色	
Po719	450	307	1011	4 区北	7a-9C-5d		Ⅱｂ層	土師器 低脚坏	△ 2.0	—	※ 4.2	内外面とも調整不明	密 やや不良	外面：浅黄橙色～橙色 内面：橙色	
Po720	450	310	395	4 区北	7a-9C-5d		Ⅱｂ層	土師器 小型丸底壺	△ 3.2	—	—	外面：横ナデ、指オサエ、ハケ 内面：頸部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい橙色・橙色	
Po721	450	310	394-2	4 区北	7a-9C-5c		Ⅱｂ層	ミニチュア 土器	△ 2.2	—	—	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ケズリ	密 良好	内外面とも灰褐色	
Po722	450	310	411-3	4 区北	7a-9C-5c		Ⅱｂ層	ミニチュア 土器	△ 1.6	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ 内面：口縁部横方向のナデ、体部ケズリ	密 良好	内外面とも灰褐色・にぶい橙色	
Po723	450	310	527	4 区北	7a-9C-6d		Ⅱｂ層	ミニチュア 土器	△ 1.7	—	—	内外面ともナデ・指オサエ	密 良好	外面：褐灰色・灰黄褐色 内面：灰黄褐色・にぶい橙色	
Po724	450	310	394-1	4 区北	7a-9C-5c		Ⅱｂ層	ミニチュア 土器	△ 3.2	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ後指オサエ	密 良好	内外面ともにぶい褐色	
Po725	450	310	382	4 区北	7a-9C-6d		Ⅱｂ層	ミニチュア 土器	△ 1.8	—	—	外面：ナデ・指オサエ 内面：指オサエ	密 良好	外面：灰色・にぶい橙色 内面：灰褐色	
Po726	451	308	367	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱｂ層	須恵器 蓋	△ 2.1	—	—	外面：つまみ部ナデ、回転ナデ・体部回転ヘラケズリ 内面：ナデ	密 良好	外面：灰オリーブ色 内面：褐灰色	
Po727	451	308	1540	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱｂ層	須恵器 蓋	△ 1.6	—	—	外面：つまみ部横ナデ、体部回転ナデ 内面：回転ナデ後一部ナデ、篦記号	密 良好	内外面とも灰色	
Po728	451	308	1510	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱｂ層	須恵器 蓋	△ 2.5	基部径 ※ 10.7	—	外面：体部回転ナデ、ヘラ切り未調整 内面：ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po729	451	308	409	4 区北	7a-9C-5c		Ⅱｂ層	須恵器 蓋	△ 2.8	基部径 ※ 13.2	—	外面：回転ナデ 内面：ナデ、横ナデ、	密 良好	外面：黄灰色 内面：灰色	
Po730	451	308	102	4 区北	7a-9C-6b		Ⅱｂ層	須恵器 蓋	△ 1.8	基部径 ※ 15.6	—	内外面とも回転ナデ、横ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po731	451	308	411-1	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱｂ層	須恵器 蓋	△ 1.8	—	—	外面：回転ナデ 内面：横ナデ	密 良好	内外面ともオリーブ灰色	
Po732	451	308	397	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱｂ層	須恵器 蓋	△ 2.9	—	—	外面：回転ナデ、口縁部横ナデ 内面：ナデ、回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po733	451	309	598	4 区北	7a-9C-5d		Ⅱｂ層	須恵器 蓋	△ 2.6	—	—	外面：回転ヘラ切り、回転ナデ 内面：回転ナデ	やや粗 やや不良	内外面ともにぶい黄橙色	
Po734	451	309	1476 1425	4 区北	7a-9C-10d		Ⅱｂ層	須恵器 蓋	△ 2.2	—	—	外面：ヘラ切り未調整、ナデ 内面：ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po735	451	308	339 344	4 区北	7a-9C-10d		Ⅱｂ層	須恵器 高台付坏	△ 4.5	※ 12.7	※ 7.1	外面：高台部回転ナデ 内面：回転ナデ、底部ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po736	451	309	411-2	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱｂ層	須恵器 坏	△ 3.5	※ 11.6	—	内外面とも回転ナデ	やや密 やや不良	内外面とも灰黄色	
Po737	451	309	1600 1601	4 区南	7a-10C-6h		Ⅱｂ層	須恵器 坏	△ 2.7	※ 14.0	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po738	451	308	386	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱｂ層	須恵器 高台付坏	△ 1.8	—	※ 7.5	外面：回転ナデ、高台部横ナデ、底部回転糸切り後ナデ 内面：ナデ	普通 やや不良	外面：黄灰色 内面：にぶい黄橙色	
Po739	451	308	401 133	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱｂ層 撹乱	須恵器 高台付坏	△ 2.1	—	※ 9.2	外面：体部回転ナデ、高台部横ナデ、底部回転ナデ 内面：ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po740	451	308	392 409	4 区北	7a-9C-5c		Ⅱｂ層	須恵器 高台付坏	△ 2.8	—	—	外面：体部回転ナデ、高台部横ナデ、底部ヘラ切り後ナデ 内面：体部回転ナデ、底部横ナデ	やや密 やや良好	外面：灰色 内面：黄灰色	
Po741	451	309	1458	4 区北	7a-9C-8e		Ⅱｂ層	須恵器 高坏	△ 2.9	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po742	451	309	409 134	4 区北	7a-9C-5c 7a-9C-6b		Ⅱｂ層 撹乱	須恵器 高坏	△ 2.4	—	脚径 ※ 12.6	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po743	451	—	405	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱｂ層	須恵器 高坏	△ 4.4	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po744	451	309	403	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱｂ層	須恵器 壺	△ 4.0	※ 9.5	—	内外面とも回転ナデ	やや粗 普通	内外面ともにぶい灰色	
Po745	451	309	1381	4 区北	7a-9C-5d		Ⅱｂ層	須恵器 壺	△ 4.2	—	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po746	451	309	341	4 区北	7a-9C-8d		Ⅱｂ層	須恵器 甕	△ 5.0	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po747	451	309	1547	4 区北	7a-9C-7c		Ⅱｂ層	須恵器 甕	△ 5.2	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po748	451	309	1334	4 区北	7a-9C-9e		Ⅱｂ層	須恵器 甕	△ 5.9	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po749	451	309	223	4 区北	7a-9C-9e		Ⅱｂ層	須恵器 甕	△ 5.9	—	—	外面：タタキ、カキメ 内面：当て具痕	密 良好	外面：褐灰色 内面：褐灰色・黄褐色	
Po750	451	309	202	4 区北	7a-9C-7c		Ⅱｂ層	須恵器 甕	△ 7.3	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po751	451	309	355	4 区北	7a-9C-8c		Ⅱｂ層	須恵器 甕	△ 6.1	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po752	451	309	331	4 区北	7a-9C-9e		Ⅱｂ層	須恵器 甕	△ 6.7	—	—	外面：タタキ・カキメ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰黄褐色 内面：褐灰色	
Po753	451	309	382	4 区北	7a-9C-6d		Ⅱｂ層	須恵器 甕	△ 5.8	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po754	451	304	330-1	4 区北	7a-9C-9d		Ⅱｂ層	土師器 坏	△ 2.8	※ 11.4	—	外面：回転ナデ、腰部ナデ・指頭圧痕 内面：回転ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色～灰黄橙色 内面：にぶい橙色～橙色	内面一部赤彩
Po755	451	304	410	4 区北	7a-9C-5d		Ⅱｂ層	土師器 坏	△ 2.8	※ 14.0	—	内外面ともナデ	密 良好	外面：橙色～赤色～褐灰色 内面：にぶい橙色～灰褐色	内外面赤彩部分あり
Po756	451	304	1904	4 区南	7a-10C-4g		Ⅱｂ層	土師器 坏	△ 3.4	—	—	外面：回転ナデ 内面：口縁端部回転ナデ、工具によるナデ	密 良好	内外面とも赤色	内外面赤彩
Po757	451	304	1631	4 区南	7a-10C-6h		Ⅱｂ層	土師器 坏	△ 1.8	—	※ 4.7	外面：体部回転ナデ、回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：橙色～明赤褐色 内面：橙色	
Po758	451	304	1626	4 区南	7a-10C-6h		Ⅱｂ層	土師器 坏	△ 3.7	※ 14.6	—	内外面とも回転ナデ	やや密 やや不良	内外面とも橙色	

第 90 表　土器観察表（22）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po759	451	304	1618	4 区南	7a-10C-5g-5h-6h		Ⅱ b 層	土師器 坏	△ 2.6	※ 13.8	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po760	451	304	248	4 区北	7a-9C-8c		Ⅱ b 層	土師器 坏	△ 2.2	※ 14.0	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：浅黄橙色～橙色 内面：にぶい橙色～橙色	
Po761	451	304	1632	4 区南	7a-10C-6h		Ⅱ b 層	土師器 坏	△ 1.2	—	4.2	外面：体部ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po762	451	308	1598	4 区南	7a-10C-5g		Ⅱ b 層	土師器 高台付坏	△ 1.9	—	—	外面：ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po763	451	308	1571	4 区南	7a-10C-7h		Ⅱ b 層	土師器 高台付坏	△ 1.5	—	—	内外面とも風化の為調整不明	密 良好	外面：橙色～浅黄橙色 内面：橙色	
Po764	451	308	328	4 区北	7a-9C-8e		Ⅱ b 層	土師器 高台付坏	△ 1.8	—	—	外面：横ナデ、底部ナデ 内面：ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：黒褐色	
Po765	451	308	1604	4 区南	7a-10C-6h		Ⅱ b 層	土師器 柱状高台	△ 2.2	—	4.2	外面：回転ナデ、ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色～にぶい褐色	
Po766	451	308	1599	4 区南	7a-10C-6g		Ⅱ b 層	土師器 柱状高台	△ 2.2	—	※ 4.2	外面：横ナデ、底部回転糸切り後ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも橙色～にぶい橙色	
Po767	451	308	1570	4 区南	7a-10C-6h		Ⅱ b 層	土師器 柱状高台	△ 2.2	—	4.5	外面：横ナデ、底部回転糸切り後一部ヘラ切り調整 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po768	451	304	330-3	4 区北	7a-9C-9d		Ⅱ b 層	土師器 皿	△ 2.2	※ 11.1	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ 内面：横方向のナデ	密 やや不良	外面：にぶい橙色～橙色 内面：にぶい橙色	
Po769	451	304	276	4 区北	7a-9C-10e		Ⅱ b 層	土師器 皿	△ 2.3	※ 11.8	—	内外面ともナデ	密 良好	外面：明褐灰色～浅黄橙色 内面：浅黄橙色	
Po770	451	304	330-2	4 区北	7a-9C-9d		Ⅱ b 層	土師器 皿	△ 1.9	※ 11.8	—	内外面ともナデ	密 良好	外面：浅黄橙色 内面：灰白色	
Po771	451	306	78	4 区北	7a-9C-5c		Ⅱ b 層	土師器 甕	△ 3.0	※ 11.4	—	外面：調整不明 内面：口縁部ナデ、体部ケズリ	密 やや良好	外面：黒褐色～にぶい褐色 内面：灰褐色～にぶい橙色～黒褐色	
Po772	451	306	141 89 150	4 区北	7a-9C-5d 7a-9C-6d 7a-9C-5d		Ⅱ b 層 造成土 撹乱	土師器 甕	△ 3.6	※ 20.0	—	外面：口縁端部ナデ、口縁から頸部横ナデ 内面：口縁部ハケ、体部ケズリ	密 良好	外面：黒色～褐灰色 内面：にぶい橙色～褐灰色	
Po773	451	306	394-2	4 区北	7a-9C-5c		Ⅱ b 層	土師器 甕	△ 4.5	※ 24.6	—	外面：口縁部横ナデ、頸部ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：にぶい橙色 内面：浅黄橙色	
Po774	451	306	1607	4 区南	7a-10C-6h		Ⅱ b 層	土師器 甕	△ 6.0	※ 29.8	—	外面：口縁部横ナデ、頸部から体部ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：黒褐色～橙色 内面：にぶい橙色～灰黄褐色	
Po775	451	306	394-1	4 区北	7a-9C-5c		Ⅱ b 層	土師器 甕	△ 4.9	—	—	外面：ナデ 内面：口縁部ナデ、体部ヘラケズリ	密 やや良	外面：灰黄褐色 内面：橙色～にぶい橙色	
Po776	452	307	327	4 区北	7a-9C-8d		Ⅱ b 層	土師器 鍋	△ 7.4	—	—	外面：ハケ・指オサエ 内面：調整不明	密 良好	外面：灰黄褐色 内面：浅黄橙色	外面煤付着 内外面剥離著しい
Po777	452	307	330	4 区北	7a-9C-9d		Ⅱ b 層	瓦質土器 鍋	△ 2.5	—	—	外面：口縁部横ナデ、頸部ナデ・指オサエ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：灰色 内面：灰色・灰白色	
Po778	452	307	1451	4 区北	7a-9C-10e		Ⅱ b 層	瓦質土器 羽釜	△ 3.6	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ・指オサエ 内面：上半部横方向のナデ、下半部ナデ	密 良好	内外面灰色	
Po779	452	307	171	4 区北	7a-9C-5c		Ⅱ b 層	瓦質土器 羽釜	△ 4.5	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、体部ナデ・指オサエ 内面：口縁端部横方向のナデ、体部ナデ	密 良好	外面：灰色・浅黄橙色 内面：灰色・灰黄色	
Po780	452	310	421	4 区北	7a-9C-5a		Ⅱ b 層	白磁 皿	△ 1.7	※ 11.8	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部：灰白色	
Po781	452	306	1556	4 区南	7a-10-2f		Ⅱ b' 層	弥生土器 甕 or 壺	△ 2.7	—	※ 8.0	内外面とも調整不明	密 良好	外面：浅黄橙色～にぶい橙色 内面：にぶい橙色	
Po782	452	304	1634	4 区南	7a-10C-7h		Ⅱ b' 層	土師器 坏	△ 1.3	—	※ 7.4	外面：回転ナデ、底部回転糸切り後板目痕 内面：回転ナデ	密 良好	外面：灰黄褐色～にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	
Po783	452	304	1660	4 区南	7a-10C-7h		Ⅱ b' 層	土師器 坏	△ 2.1	※ 10.6	—	外面：回転ナデ後ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po784	452	304	1941	4 区南	7a-10C-6g		Ⅱ b' 層	土師器 皿	△ 1.6	—	4.8	外面：体部ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：黒色～にぶい黄橙色 内面：褐灰色～橙色	
Po785	452	309	1557	4 区南	7a-10C-3f		Ⅱ b' 層	須恵器 甕	△ 6.3	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰白色 内面：褐灰色	
Po786	452	306	1546	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱ c 層	土師器 甕	△ 3.0	—	—	内外面とも横ナデ	密 やや不良	外面：灰白色 内面：浅黄橙色	
Po787	452	306	579	4 区北	7a-9C-6b		Ⅱ c 層	土師器 甕	△ 4.8	—	—	外面：口縁部横ナデ、一部工具によるナデ 内面：横ナデ、体部ケズリ	密 良好	外面：浅黄橙色～灰白色 内面：浅黄橙色	
Po788	452	306	1315	4 区北	7a-9C-7c		Ⅱ c 層	土師器 小型器台	△ 2.4	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po789	453	308	7	4 区北	7a-9C-5c		造成土	弥生土器 壺	△ 5.5	※ 15.8	—	外面：口縁部刻み目、頸部ナデ・ハケ 内面：口縁部丁寧なナデ、頸部ナデ・指オサエ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：にぶい黄橙色～黒褐色	
Po790	453	308	108-1	4 区北	7a-9C-5b		暗渠	土師器 甕	△ 3.4	—	—	外面：口縁端部ナデ、頸部横ナデ 内面：横ナデ	密 良好	外面：灰白色～灰黄褐色 内面：褐灰色	
Po791	453	308	108-2	4 区北	7a-9C-5b		暗渠	土師器 甕	△ 3.1	—	—	内外面とも横ナデ一部ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po792	453	308	108-3	4 区北	7a-9C-5b		暗渠	土師器 甕	△ 3.9	—	—	内外面とも横ナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po793	453	309	190	4 区北	7a-9C-6d		撹乱	須恵器 坏身	△ 3.1	※ 10.7	—	外面：口縁部ナデ、体部回転ナデ・回転ヘラケズリ 内面：ナデ	密 良好	外面：灰白色～黄灰色 内面：黄灰色	
Po794	453	309	146	4 区北	7a-9C-4d		撹乱	須恵器 坏身	△ 4.2	—	—	外面：回転ナデ、回転ヘラケズリ後ナデ 内面：回転ナデ、ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po795	453	309	104 29	4 区北	7a-9C-5a		造成土	須恵器 蓋	△ 1.8	—	—	外面：つまみ部ナデ、体部回転ヘラケズリ、回転ナデ 内面：ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po796	453	309	124	4 区北	7a-9C-4c		撹乱	須恵器 蓋	△ 0.9	—	—	外面：回転ヘラケズリ、篦記号 内面：ナデ	密 良好	内外面とも灰白色	

第 91 表　土器観察表（23）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po797	453	309	2213	4区北	—		排土	須恵器 坏	△ 3.4	※ 9.2	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：灰色～褐灰色 内面：灰色	
Po798	453	309	2	4区北	7a-9B-8j		造成土	須恵器 高台付坏？	△ 2.7	—	—	外面：ナデ、底部回転ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	外面：灰色～オリーブ黒色 内面：灰色	
Po799	453	309	89	4区北	7a-9C-6d		造成土	須恵器 高台付坏？	△ 2.1	—	※ 9.2	外面：高台部～底部回転ナデ 内面：ナデ	密 良好	外面：灰色～灰白色 内面：灰色	
Po800	453	309	1535	4区南	7a-10C-3g		西壁	須恵器 高台付坏？	△ 1.8	—	—	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：ナデ	密 良好	内外面とも褐灰色	
Po801	453	309	134	4区北	7a-9C-6b		撹乱	須恵器 高坏？	△ 3.1	—	—	外面：回転ナデ一部ナデ 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも黄灰色	
Po802	453	309	2219	4区北	—		排土	須恵器 壺	△ 5.5	※ 24.0	—	内外面とも回転ナデ	密 良好	外面：褐灰色～灰白色 内面：黒褐色～褐灰色	
Po803	453	309	79	4区北	7a-9C-6c		造成土	須恵器 甕	△ 4.4	—	—	外面：タタキ後カキ目 内面：当て具痕	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：灰白色	
Po804	453	309	1453	4区北	7a-10C-1a		撹乱	須恵器 甕	△ 6.4	—	—	外面：タタキ 内面：ナデ	密 良好	外面：灰色 内面：褐灰色	
Po805	453	309	169	4区北	7a-9C-6d		撹乱	須恵器 甕	△ 6.5	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	
Po806	453	309	161	4区北	7a-9C-7c		暗渠	須恵器 甕	△ 8.9	—	—	外面：タタキ後粗いカキ目 内面：当て具痕	密 良好	外面：灰色 内面：灰白色	
Po807	453	309	299	4区南	7a-10C-4b		東壁	須恵器 甕	△ 8.5	—	—	外面：タタキ 内面：ナデ後指オサエ	密 良好	内外面とも灰白色	
Po808	453	309	167	4区北	7a-9C-5d		撹乱	須恵器 甕	△ 7.8	—	—	外面：タタキ 内面：当て具痕	密 良好	外面：褐灰色 内面：灰色	
Po809	453	305	236	4区南東	7a-10C-7a		東トレンチ	土師器 皿	△ 1.1	※ 7.8	—	外面：横方向のナデ・指オサエ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：橙色・浅黄橙色 内面：橙色	
Po810	453	305	118-1	4区北	7a-9C-8e		造成土	土師器 皿	△ 2.8	※ 12.3	—	内外面とも口縁部横方向のナデ、底部付近ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色・灰黄褐色 内面：灰黄褐色・浅黄橙色	
Po811	453	305	118-2	4区北	7a-9C-8e		造成土	土師器 皿	△ 1.9	※ 12.4	—	外面：口縁部横方向のナデ、底部付近ナデ・指オサエ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：灰褐色・にぶい橙色 内面：灰褐色	
Po812	453	305	281	4区南	7a-10C-2c		北トレンチ	土師器 皿	△ 2.4	※ 12.8	※ 7.4	外面：横方向のナデ、底部下半粗いナデ 内面：ナデ	密 良好	外面：にぶい黄橙色～灰黄褐色 内面：灰黄褐色	
Po813	453	305	34	4区北	7a-9B-7j		造成土	土師器 皿	△ 2.8	※ 15.8	—	外面：口縁部～体部横方向のナデ、粗いナデ、指オサエ 内面：ナデ	密 良好	内外面とも明黄褐色	
Po814	453	305	41	4区北	7a-9B-5j		撹乱	土師器 皿	△ 2.3	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、底部付近ナデ・指オサエ 内面：口縁部横方向のナデ、体部から底部付近ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po815	453	305	230	4区南東	7a-10C-3a		西壁	土師器 皿	△ 2.6	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、底部付近ナデ・指オサエ 内面：横方向のナデ、底部付近の一部に指オサエ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	
Po816	453	305	43-1	4区北	7a-9B-6j		撹乱	土師器 皿	△ 3.0	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、底部付近ナデ・指オサエ 内面：口縁部横方向のナデ、底部付近ナデ	密 良好	外面：灰白色 内面：灰白色・橙色	
Po817	453	305	43-2	4区北	7a-9B-6j		撹乱	土師器 皿	△ 1.8	※ 7.3	※ 4.6	外面：回転ナデ、底部回転糸切り、底部に板目残る 内面：口縁端部ナデ、回転ナデ、底部ナデ	密 良好	外面：灰白色 内面：浅黄橙色	
Po818	453	305	40	4区北	7a-9C-8a		造成土	土師器 皿	△ 1.8	※ 8.4	※ 6.5	外面：回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：褐色 内面：にぶい褐色	
Po819	453	305	211	4区南東	7a-10C-4a		東壁	土師器 皿	△ 1.6	※ 9.4	※ 6.0	外面：口縁部回転ナデ、体部下半横ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも橙色	
Po820	453	305	124	4区北	7a-9C-4c		撹乱	土師器 坏	3.8	※ 12.4	※ 5.3	外面：口縁部回転ナデ、底部回転糸切り 内面：回転ナデ	密 良好	外面：にぶい橙色～灰白色 内面：にぶい褐色～にぶい黄橙色	
Po821	453	—	2225	4区南	—		排土	瓦質土器 鍋	△ 3.0	—	—	外面：口縁部横方向のナデ、頸部粗いナデ後指オサエ 内面：横方向のナデ	密 良好	外面：褐灰色～灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色・灰色	
Po822	453	310	1403	4区北	7a-9C-9b		撹乱	天目 碗	△ 4.3	—	—	外面：施釉、腰部露胎 内面：施釉	密 良好	施釉部：黒色・鈍い褐色	
Po823	453	310	1768	4区南	7a-10C-9c		検出面	青磁 盤？	△ 3.2	—	—	内外面とも施釉	密 良好	施釉部：灰オリーブ色	
Po824	453	310	140	4区北	7a-9C-5d		撹乱	朝鮮陶器 碗	△ 1.3	—	—	内外面とも施釉、内底面に胎土目痕あり	密 良好	施釉部：灰オリーブ色	
Po825	453	310	1532	4区南	7a-10C-2f		撹乱	備前焼 擂鉢	△ 4.8	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、卸目	密 良好	外面：にぶい赤褐色・褐灰色 内面：褐灰色	
Po826	453	310	1373	4区北	7a-9C-8b		撹乱	備前焼 擂鉢	△ 5.2	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、卸目	密 良好	外面：にぶい赤褐色・褐灰色 内面：褐灰色	
Po827	453	309	2218	4区北	—		排土	備前焼 壺	△ 5.2	※ 11.5	—	外面：回転ナデ、肩部に波状文 内面：回転ナデ	密 良好	外面：明赤褐色～黒褐色 内面：褐灰色～橙色	
Po828	—	145	8-2	1区	7a-10C-8a-1C-		Ⅰa層	白磁 碗	—	—	—	内外面とも施釉	密 良好	内外面とも灰白色	体部
Po829	—	145	12	1区	7a-10C-9i		Ⅰa層	白磁 碗	—	—	—	内外面とも施釉	密 良好	内外面とも灰白色	体部
Po830	—	145	75-3	1区	7a-10C-10d		Ⅰa層	白磁 碗	—	—	—	外面：高台部露胎 内面：施釉、見込みに圏線状の段	密 良好	内外面とも灰白色	玉縁碗高台部
Po831	—	145	92-3	1区	7a-10C-9e		Ⅰa層	白磁 碗	—	—	—	外面：施釉 内面：施釉、内面に圏線	密 良好	内外面ともに灰白色	体部
Po832	—	145	8-4	1区	7a-10C-8a-1C-		Ⅰa層	白磁 小坏	—	—	—	外面：施釉、複数の圏線 内面：施釉	密 良好	内外面とも灰白色	体部
Po833	—	145	88-1	1区	7a-10C-10e		Ⅰa層	白磁 皿	—	—	—	外面：施釉、下部は露胎 内面：施釉	密 良好	内外面とも浅黄色	体部
Po834	—	145	75-2	1区	7a-10C-10d		Ⅰa層	白磁 皿	—	—	—	内外面とも施釉	密 良好	内外面とも灰白色	体部
Po835	—	145	160	1区	7a-10C-9f		Ⅰa層	白磁 皿	—	—	—	内外面とも施釉	密 良好	内外面とも淡黄色	体部
Po836	—	145	88-2	1区	7a-10C-10e		Ⅰa層	青白磁 皿	—	—	—	外面：施釉 内面：押型による施文	密 良好	内外面とも灰白色	底部付近

第 92 表　土器観察表（24）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po837	—	145	8-3	1区	7a-10C- 8a-1C-		Ⅰａ層	青磁 碗	—	—	—	外面：施釉 内面：施釉、複数の圏線	密 良好	内外面ともオリーブ灰色	底部付近
Po838	—	145	72	1区	7a-10C-9c		Ⅰａ層	青磁 碗	—	—	—	外面：施釉 内面：施釉、押型による施文か	密 良好	内外面ともオリーブ灰色	体部
Po839	—	145	94	1区	8a-1C-1e		Ⅰａ層	青磁 碗	—	—	—	外面：施釉、畳付から高台内露胎 内面：施釉	密 良好	内外面ともオリーブ灰色	無文碗高台部
Po840	—	145	324	1区	7a-10C-10f		Ⅰａ層	青磁 碗	—	—	—	外面：施釉、複数の横線あり 内面：施釉	密 良好	内外面ともオリーブ灰色	口縁部
Po841	—	145	87-4	1区	7a-10C-9e		Ⅰａ層	青磁 壺	—	—	—	外面：施釉、横方向の凹凸 内面：施釉、	密 良好	内外面ともに明オリーブ灰色	肩部か
Po842	—	154	219-2 110	2区	7a-8B-10i 7a-9C-1a	2流路	埋土 Ⅱｂ・Ⅱｃ層	須恵器 甕	—	—	—	外面：平行タタキ 内面：同心円当て具痕	密 良好	内外面ともに灰白色	
Po843	—	154	12	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	白磁 Ⅲ	—	—	—	外面：施釉 内面：施釉、ハケ状工具による施文	密 良好	内外面ともに灰白色	体部
Po844	—	149	91	2区	7a-8C-10a	53 道路	埋土	弥生土器 甕	—	—	—	外面：体部横ナデ、底面ナデ 内面：体部ケズリ、底面ナデ	やや粗 良好	外面：浅黄橙色 内面：淡黄色	
Po845	—	159	68	2区	7a-8B-9j		Ⅱｂ・Ⅱｃ層	土師器 甕	—	—	—	外面：ナデ 内面：ハケ後ナデ、ケズリ	密 良好	内外面とも灰黄橙色	外面煤付着
Po846	—	159	15-2	2区	7a-8C-8a		Ⅲ層上面	白磁 碗	—	—	—	外面：施釉、飛びカンナ状ケズリ 内面：施釉、見込みに圏線状の段	密 良好	内外面とも浅黄色	底部付近
Po847	—	159	15-1	2区	7a-8C-8a		Ⅲ層上面	青磁 碗	—	—	—	外面：施釉 内面：施釉、見込みに圏線	密 良好	内外面ともオリーブ灰色	無文碗底部付近
Po848	—	158	168	2区	7a-8C-8a		撹乱	土師器 甕	—	—	—	外面：口縁部横ナデ、体部ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	内外面にぶい黄褐色	
Po849	—	158	81	2区	7a-8B-9h		東壁 (層位不明)	須恵器 壺	—	—	—	外面：回転ナデ、頸部連続する工具痕 内面：回転ナデ	密 良好	内外面とも灰色	
Po850	—	158	24	2区	7a-9B-2i		表土	須恵器 甕	—	—	—	外面：回転ナデ 内面：回転ナデ、頸部カキメ	密 良好	内外面ともに黄灰色	
Po851	—	174	53-4	3区	7a-9C-2b		Ⅰ層	弥生土器 甕	—	—	—	外面：底面中央に穿孔、体部縦ミガキ 内面：ケズリ、ナデ	粗 良好	外面：にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色	
Po852	—	174	53-7	3区	7a-9C-2b		Ⅰ層	須恵器 蓋	—	—	—	外面：回転ナデ、つまみ部貼り付け 内面：回転ナデ	密 不良	内外面とも褐灰色	
Po853	—	179	670	3区	7a-9C-3c		Ⅱｂ層	弥生土器 壺	—	—	—	外面：縦方向のミガキ 内面：縦方向のケズリ	密 良好	外面：灰黄褐色 内面：にぶい黄橙色	外面煤付着
Po854	—	177	56-2 73	3区	7a-9C-3a		Ⅱｂ層	弥生土器 甕	—	—	—	外面：口縁端部刻み目、頸部以下ハケ 内面：口縁部横ナデ、体部ハケ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	外面煤付着
Po855	—	177	56-3 16	3区	7a-9C-3a		Ⅱｂ層 Ⅱｂ層	弥生土器 甕	—	—	—	外面：口縁部横ナデ、体部ハケ、ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ハケ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	外面煤付着
Po856	—	177	467-1	3区	7a-9C-2b		Ⅱｂ層	弥生土器 高坏	—	—	—	外面：口縁端部外側にキザミ、口縁部に３条の凹線文 内面：ミガキ、ナデ	密 良好	外面：褐灰色 内面：にぶい黄橙色	
Po857	—	177	467-2	3区	7a-9C-2b		Ⅱｂ層	弥生土器 高坏	—	—	—	内外面ともミガキ、指オサエ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	内外面とも黒斑有
Po858	—	177	78-10	3区	7a-9B-2j		Ⅱｂ層	土師器 甕	—	—	—	外面：横ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 不良	外面：にぶい黄橙色 内面：浅黄橙色	
Po859	—	179	40-1	3区	7a-9B-5j		上段北トレンチ (層位不明)	弥生土器 甕	—	—	—	外面：横ナデ、口縁端部４条の凹線文 内面：口縁部横ナデ、体部ケズリ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	
Po860	—	179	21	3区	7a-9C-3a		撹乱	弥生土器 甕	—	—	—	外面：口縁端部に２条の凹線文 内面：口縁部横ナデ、体部ナデ	密 良好	内外面ともにぶい黄橙色	
Po861	—	179	11	3区	7a-9B-3i・4i		東壁(層位不明)	青磁 碗	—	—	—	外面：施釉、線描き 内面：施釉	密 良好	内外面ともオリーブ黄色	細蓮弁紋碗体部か
Po862	—	314	1091 他	4区 北	7a-9C-5b	竪穴建物３ 101 中央ピット	埋土	土師器 甕	—	—	—	外面：体部ハケ 内面：体部ヘラケズリ	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：灰黄褐色	外面煤付着
Po863	—	318	973	4区 北	7a-9C-4c	竪穴建物４	３層	弥生土器 甕	—	—	—	外面：口縁部ナデ、頸部タタキ後ナデ、体部ナデ 内面：口縁部横ナデ、体部横方向のハケ後ナデ	密 良好	内外面ともにぶい橙色	
Po864	—	297	682 他	4区 北	7a-9C-6d	竪穴建物５	１層	土師器 甕	—	—	—	外面：体部ハケ、一部ナデ 内面：体部ヘラケズリ、指オサエ	密 良好	外面：褐灰色～灰黄褐色 内面：褐灰色～にぶい黄橙色	外面煤付着
Po865	—	303	1726	4区 南	7a-10C-4b	363 田	埋土	白磁 碗	—	—	—	外面：剥離 内面：施釉	やや粗 良好	内面：灰白色	体部
Po866	—	303	1677	4区 南	7a-10C-3b	364 田	埋土	白磁 壺	—	—	—	内外面とも施釉	密 良好	内外面とも灰白色	体部
Po867	—	303	1728	4区 南	7a-10C-4b	368 田	埋土	青磁 碗	—	—	—	内外面とも施釉	密 良好	内外面ともオリーブ灰色	蓮弁文碗体部
Po868	—	303	1780	4区 南東	7a-10C-7b	370 田	埋土	白磁 壺	—	—	—	外面：施釉、耳の貼り付け痕 内面：施釉	密 良好	内外面とも浅黄色	壺肩部
Po869	—	321	306 他 1611 209 293 他	4区 北	7a-9C-10d	2流路 2流路 1溝 1溝	砂礫層 埋土 砂礫層 埋土	須恵器 甕	—	—	—	外面：平行タタキ、体部に坏身が軸着する 内面：同心円文状当て具痕	密 良好	内外面とも灰色	
Po870	—	322	61	4区 北	7a-10C-8e	2流路	検出面	青磁 碗	—	—	—	内外面とも施釉	密 良好	内外面ともオリーブ灰色	碗口縁部付近
Po871	—	310	1665	4区 南	7a-10C-3d		2流路直上土	白磁 碗	—	—	—	内外面とも施釉	密 良好	内外面とも灰白色	体部
Po872	—	310	1773	4区 南	7a-10C-8e		Ⅰｂ層	白磁 碗	—	—	—	外面：高台部際工具痕、高台部露胎 内面：見込みの釉カキ取り	密 良好	内外面とも灰白色	碗高台部付近
Po873	—	310	1928	4区 南	7a-10C-2b		Ⅰｂ層	白磁 Ⅲ	—	—	—	内外面とも施釉、外面一部露胎、内面見込みに圏線	密 良好	内外面とも灰白色	底部付近
Po874	—	310	1786-1	4区 南	7a-10C-8d		検出面	白磁 Ⅲ	—	—	—	内外面とも施釉、口縁部外反	密 良好	内外面とも灰白色	口縁部
Po875	—	310	464	4区 南	7a-10C-6f		Ⅰｂ層	青磁 碗	—	—	—	内外面とも施釉	密 良好	内外面とも明緑灰色	蓮弁文碗底部付近
Po876	—	310	1786-2	4区 南	7a-10C-8d		検出面	青磁 碗	—	—	—	内外面とも施釉	やや粗 良好	内外面ともオリーブ灰色	細蓮弁紋碗体部
Po877	—	310	325	4区 北	7a-9C-9d		Ⅱｂ層	古瀬戸焼 壺	—	—	—	外面：施釉 内面：露胎	密 良好	外面：浅黄色 内面：灰白色	壺体部
Po878	—	310	338	4区 北	7a-9C-8d		Ⅱｂ層	古瀬戸焼 壺	—	—	—	外面：施釉 内面：露胎	密 良好	外面：浅黄色 内面：灰白色	壺体部
Po879	—	310	333	4区 北	7a-9C-10e		Ⅱｂ層	瀬戸美濃焼 碗	—	—	—	内外面とも施釉	やや粗 良好	内外面とも灰白色	碗体部

第 93 表　土器観察表（25）

△：残存値　※：復元値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm) 器高	口径	底径	特徴（調整等）	胎土 焼成	色調	備考
Po880	—	310	368	4区北	7a-9C-6c		Ⅱｂ層	白磁碗	—	—	—	内外面ともに施釉、口縁部内湾	密良好	内外面とも灰白色	口縁部
Po881	—	310	106	4区北	7a-9C-5b		撹乱	白磁碗	—	—	—	外面：施釉 内面：ハケ状工具による施文	密良好	内外面とも灰白色	碗体部
Po882	—	310	2221	4区南	—		排土	白磁碗	—	—	—	内外面とも施釉、口縁部玉縁状	密良好	内外面とも灰白色	口縁部
Po883	—	310	259	4区南東	7a-10C-5a		西壁	白磁Ⅲ	—	—	—	内外面とも施釉、口縁部外反	密良好	内外面とも灰白色	口縁部
Po884	—	310	6	4区北	7a-9C-4d		造成土	青磁Ⅲ	—	—	—	内外面とも施釉、口縁部外反	やや粗良好	内外面とも緑灰色	口縁部

第 94 表　土製品観察表（1）

△：残存値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	種別	法量 (cm・g)	特徴 (調整等)	胎土 焼成	色調	備考
CP 1	159	155	371	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	軒丸瓦	最大長：△ 17.2 最大幅：△ 10.7 最大厚：2.2 重　量：273.5	丸瓦部凸面：粗いナデ、粘土剥離痕あり 丸瓦部凹面：布目	密良好	丸瓦部凸面：灰白色 丸瓦部凹面：暗灰色・灰白色	
CP 2	159	155	8	2区	7a-8B-8h	2流路	埋土	丸瓦	最大長：△ 11.3 最大幅：△ 7.3 最大厚：2.6 重　量：343.5	端面：切断面 凸面：工具によるナデ、横方向の平行沈線状となる 凹面：布目、側縁面取り 側面：切断面	密良好	にぶい黄橙色	
CP 3	159	155	186	2区	7a-8B-9h・9i	2流路	埋土	丸瓦	最大長：△ 13.7 最大幅：△ 8.5 最大厚：2.1 重　量：352.5	端面：切断面 凸面：ナデ 凹面：布目、端縁・側縁面取り (ヘラ切り？) 側面：切断面	密良好	凸面：暗灰色 凹面：暗灰色・にぶい黄橙色	
CP 4	159	155	22	2区	7a-9B-1i	2流路	中層	平瓦	最大長：△ 11.9 最大幅：△ 10.3 最大厚：2.5 重　量：331.0	凸面：縄目叩き (太) 後粗いナデ消し 凹面：布目、合わせ縫い痕、布末端痕、端縁面取り (ヘラ切り)	密良好	凸面：灰白色 凹面：にぶい黄橙色	
CP 5	159	155	372	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	平瓦	最大長：△ 9.6 最大幅：△ 9.9 最大厚：2.85 重　量：320.5	端面：切断面 凸面：正方形格子叩き (大)、長方形格子叩き (中) 凹面：布目、糸切痕	密良好	凸面：にぶい橙色 凹面：橙色	
CP 6	159	155	215	2区	7a-8B-9i	2流路	埋土	平瓦	最大長：△ 14.5 最大幅：△ 13.5 最大厚：1.9 重　量：558.0	凸面：工具によるナデ、側縁指ナデ 凹面：布目、合わせ縫い痕？、側縁面取り (ヘラ切り？) 側面：切断面	密良好	灰白色・褐灰色	
CP 7	176	157	209 186	2区	7a-8B-9i 7a-8B-9h･9i	171 木製祭祀具集中部 2流路	堆積土 埋土	軒丸瓦Ⅰ類	最大長：18.5 最大幅：19.9 最大厚：△ 19.5 重　量：2923.0	瓦当部：瓦当面と丸瓦部を粘土で圧着させるための指ナデ、工具によるナデ、横方向のナデ、指ナデ後に植物の圧着痕 (乾燥中に倒れたか) 瓦当面：笵型施文 (蓮弁文)、指紋付着 瓦当裏面：指ナデ 丸瓦部凸面：指ナデ、指頭圧痕 丸瓦部凹面：布目	密良好	瓦当面：灰色 瓦当裏面：黄灰色 丸瓦部凸面：灰色 丸瓦部凹面：黄灰色	
CP 8	183	149	39	2区	7a-8C-8a	3溝	埋土	軒丸瓦Ⅱ類	最大長：△ 3.4 最大幅：△ 5.5 最大厚：△ 2.0 重　量：39.0	瓦当面：笵型施文 (珠文、蓮弁文)	密良好	にぶい橙色	
CP 9	183	149	47	2区	7a-8B-8j	3溝	埋土	平瓦	最大長：△ 10.7 最大幅：△ 10.5 最大厚：2.6 重　量：340.0	端面：切断面 凸面：正方形格子叩き (大)、端縁面取り 凹面：布目（風化の為調整不明瞭）	密良好	にぶい橙色	
CP10	183	150	46	2区	7a-8C-10a	4溝	埋土	平瓦	最大長：△ 7.7 最大幅：△ 7.5 最大厚：2.3 重　量：148.0	凸面：方形格子叩き (中) 凹面：布目、布末端痕	密良好	橙色	
CP11	217	147	1246	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	丸瓦	最大長：△ 11.5 最大幅：△ 5.2 最大厚：2.2 重　量：245.0	凸面：工具によるナデ、側縁面取り (ヘラ切り) 凹面：糸切痕、わずかに布目らしき痕跡、側縁面取り (ヘラ切り) 側面：切断面	密良好	黄灰色	
CP12	217	147	1235	2区	7a-8C-8a	51 道路	埋土	丸瓦	最大長：△ 4.3 最大幅：△ 4.6 最大厚：1.7 重　量：51.5	端面：切断面（ヘラ切り） 凸面：ナデ、指頭圧痕 凹面：布目、端縁・側縁面取り 側面：切断面	密良好	灰黄褐色～にぶい黄褐色	
CP13	217	147	1393	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	平瓦	最大長：△ 7.7 最大幅：△ 4.8 最大厚：3.0 重　量：162.0	端面：切断面 凸面：正方形格子叩き (大)、端縁面取り (ヘラ切り) 凹面：風化の為調整不明、わずかに布目らしき痕跡、端縁面取り 側面：切断面	密良好	にぶい黄橙色	
CP14	217	147	148	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	平瓦	最大長：△ 8.5 最大幅：△ 10.8 最大厚：2.6 重　量：351.5	凸面：正方形格子叩き (大) 凹面：布目、ケズリ、模骨痕、側縁面取り 側面：切断面	密良好	灰色	
CP15	217	147	127-1	2区	7a-8C-8a	51 道路	埋土	平瓦	最大長：△ 8.2 最大幅：△ 6.1 最大厚：2.7 重　量：191.5	凸面：工具によるナデ、側縁面取り (ヘラ切り) 凹面:布目、側縁面取り (ヘラ切り) 側面：切断面	密良好	凸面：にぶい橙色 凹面：にぶい黄橙色	
CP16	217	147	1394	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	平瓦	最大長：△ 8.5 最大幅：△ 8.8 最大厚：1.8 重　量：180.0	凸面：縄目叩き (細)、指頭圧痕、側縁面取り 凹面：布目、模骨痕、布かがり末端痕、側縁面取り 側面：切断面	密良好	黄灰色	
CP17	217	147	965	2区	7a-8C-8a	51 道路	埋土	平瓦	最大長：△ 18.4 最大幅：△ 13.0 最大厚：2.9 重　量：951.5	凸面：縄目叩き (太？) 風化の為不明瞭 凹面：風化の為調整不明 側面：切断面	密良好	灰白色	
CP18	217	147	1130	2区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	平瓦	最大長：△ 9.1 最大幅：△ 7.4 最大厚：2.1 重　量：165.0	凸面：ナデ？風化の為調整不明瞭 凹面：布目、側縁面取り 側面：切断面	密良好	凸面：灰黄色 凹面：灰色	

第 95 表　土製品観察表（2）

△：残存値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	種別	法量 (cm・g)	特徴 (調整等)	胎土 焼成	色調	備考
CP19	217	147	127-2	2 区	7a-8C-8a	51 道路	埋土	熨斗瓦	最大長：△ 11.5 最大幅：△ 8.6 最大厚：2.1 重　量：322.5	端面：切断面 凸面：縄目叩き (細)、側縁面取り 凹面：布目、端縁・側縁面取り (ヘラ切り) 側面：切断面	密 良好	にぶい黄橙色	
CP20	218	148	1250	2 区	7a-8B-9j	51-17 土坑	埋土	軒平瓦Ⅱ類？	最大長：△ 7.9 最大幅：△ 10.0 最大厚：2.7 重　量：313.5	瓦当面：重弧文 凸面：縄目叩き (細) 凹面：布目、模骨痕	密 良好	凸面：灰色 凹面：暗灰色	
CP21	218	148	1097	2 区	7a-8C-8a	51- 2 土坑	埋土	平瓦	最大長：△ 15.5 最大幅：△ 9.0 最大厚：2.5 重　量：422.0	端面：切断面 凸面：縄目叩き (細)、側縁面取り 凹面：布目（風化の為調整不明部分あり）、端縁面取り (ヘラ切り)、側縁面取り 側面：切断面	密 良好	凸面：灰白色 凹面：灰黄色	
CP22	218	148	1198	2 区	7a-8B-9j	51-19 土坑	埋土	平瓦	最大長：△ 10.6 最大幅：△ 13.8 最大厚：2.7 重　量：465.0	端面：切断面 凸面：縄目叩き (太) 凹面:布目、模骨痕、側縁面取り (ヘラ切り) 側面：切断面	密 良好	灰白色	
CP23	218	148	1185	2 区	7a-8B-9j	51-31 土坑	埋土	平瓦	最大長：△ 7.4 最大幅：△ 4.9 最大厚：2.2 重　量：117.0	端面：切断面 凸面:正方形格子叩き (大)、端縁・側縁わずかに面取り 凹面：布目、模骨痕、側縁面取り 側面：切断面	密 良好	凸面：灰黄色 凹面：浅黄色	
CP24	218	148	1184	2 区	7a-8B-9j	51-16 土坑	埋土	平瓦	最大長：△ 7.0 最大幅：△ 5.8 最大厚：2.5 重　量：144.5	凸面：正方形格子叩き (中) 凹面：風化の為調整不明 側面：切断面	密 良好	にぶい黄橙色	
CP25	218	148	1475	2 区	7a-8B-9j	51-27 土坑	埋土	平瓦	最大長：△ 15.5 最大幅：△ 11.5 最大厚：3.5 重　量：722.5	端面：切断面 凸面：正方形格子叩き (大)、側縁面取り 凹面：風化の為調整不明、側縁面取り？ (不明瞭) 側面：切断面	密 良好	凸面：にぶい橙色 凹面：にぶい黄橙色	
CP26	218	148	1258	2 区	7a-8B-9j	51-21 土坑	埋土	平瓦	最大長：△ 5.9 最大幅：△ 7.7 最大厚：2.3 重　量：120.5	端面：切断面 凸面:ナデ、端縁面取り (ヘラ切り) 凹面：布目、布しわ痕	密 良好	灰白色・黄灰色	
CP27	218	148	1193	2 区	7a-8B-9j	51- 7 土坑	埋土	平瓦	最大長：△ 9.9 最大幅：△ 8.8 最大厚：1.8 重　量：163.5	凸面：工具によるナデ 凹面：布目、模骨痕	密 良好	凸面：灰色 凹面：黄灰色	
CP28	218	148	1124	2 区	7a-8B-9j	51-34 土坑	埋土	平瓦	最大長：△ 11.7 最大幅：△ 6.2 最大厚：1.8 重　量：202.5	端面：切断面 凸面：風化の為調整不明 凹面：布目、模骨痕、側縁面取り 側面：切断面	密 良好	凸面：灰白色 凹面：黄灰色	
CP29	221	149	547	2 区	7a-8B-10j	53 道路	埋土	土馬脚	最大長：△ 3.0 最大幅：2.0 最大厚：1.7	ナデ・指オサエ	密 良好	橙色	
CP30	221	149	162	2 区	7a-8C-10a	53 道路	埋土	平瓦	最大長：△ 5.7 最大幅：△ 5.4 最大厚：2.0 重　量：104.0	端面：切断面 凸面：工具によるナデ 凹面：布目、端縁・側縁面取り 側面：切断面	密 良好	灰黄褐色～にぶい黄褐色	
CP31	221	149	1227	2 区	7a-8B-10j	53 道路	埋土	平瓦	最大長：△ 6.2 最大幅：△ 7.0 最大厚：2.5 重　量：120.5	凸面：ナデ 凹面：布目、側縁面取り 側面：切断面	密 良好	黄灰色	
CP32	226	159	56-2	2 区	7a-8C-9a		Ⅱｂ層	用途不明	最大長：△ 4.4 最大幅：2.2 最大厚：1.7	工具による面取り状のナデ	密 良好	黄灰色	
CP33	229	158	17	2 区	7a-8C-10a		Ⅲ層上面	軒丸瓦Ⅰ類？	最大長：△ 6.2 最大幅：△ 9.1 最大厚：2.9 重　量：169.0	瓦当面：笵型施文欠損のため文様不明 丸瓦部凸面：風化の為調整不明 丸瓦部凹面：ナデか？	密 良好	凸面：灰白色～にぶい黄橙色 凹面：橙色・浅黄橙色	
CP34	229	159	96	2 区	7a-8B-9j		Ⅱｂ層	軒平瓦Ⅰ類	最大長：△ 15.8 最大幅：△ 15.1 最大厚：3.3 重　量：987.0	瓦当面：笵型施文 (唐草文) 凸面：工具によるナデ、わずかに布目、端縁わずかに面取り 凹面：布目、糸切痕、端縁・側縁面取り 側面：切断面	密 良好	凸面：暗灰黄色・にぶい黄橙色～にぶい黄褐色 凹面：にぶい黄色	
CP35	229	158	248	2 区	7a-9B-2i		南壁 (層位不明)	軒平瓦？	最大長：△ 15.2 最大幅：△ 12.9 最大厚：3.1 重　量：882.5	瓦当面：笵型施文か？、一部に指頭圧痕 凸面：横方向のハケ、側縁面取り 凹面：布目、模骨痕 側面：切断面、一部に指頭圧痕	密 良好	凸面：明褐色～褐色 凹面：にぶい橙色～にぶい褐色	
CP36	229	158	384	2 区	7a-9B-2i		層位不明	平瓦	最大長：△ 12.1 最大幅：△ 13.3 最大厚：3.8 重　量：879.5	凸面：風化・摩滅の為調整不明 凹面：風化・摩滅の為調整不明、工具による調整でついたと思われる段差 側面：切断面	密 良好	浅黄色・灰白色	
CP37	239	168	460	3 区	7a-9C-3c	竪穴建物 1	埋土上層	移動式竈 or 土製支脚 把手？	器高：△ 5.9 幅：△ 7.7	ナデ、指頭圧痕	普通 普通	黒褐色	
CP38	275	170	401	3 区	7a-9C-3c	掘立柱建物 14 148 柱穴	埋土	移動式竈 掛口	最大長：△ 6.4 最大幅：△ 7.0 最大厚：△ 1.6	外面：端部横ナデ、ハケ 内面：上半横ナデ、下半ヘラケズリ	密 良好	外面：にぶい橙色～にぶい褐色 内面：にぶい橙色	
CP39	276	170	345	3 区	7a-9C-3c	柵列 3 86 柱穴	1 層	分銅形土製品	最大長：△ 4.0 最大幅：△ 5.9 最大厚：△ 1.2	表面：ナデ、2 条の C 字状刺突文 裏側：板目状痕	密 良好	表面：橙色 裏面：にぶい橙色	
CP40	281	170	784	3 区	7a-9B-3j	52 道路	路床	平瓦	最大長：△ 11.5 最大幅：△ 11.3 最大厚：3.2 重　量：395.0	端面：切断面、左端の粘土盛り上がりが唐草文の右端の可能性あり 凸面：工具によるナデ 凹面：布目、布末端痕、一部調整不明、側縁面取り	密 やや不良	灰白色	
CP41	281	170	497	3 区	7a-9B-3j	52 道路	路面上層	平瓦	最大長：△ 10.0 最大幅：△ 8.2 最大厚：2.3 重　量：271.0	端面：切断面 凸面：縄目叩き (大) 風化の為調整不明瞭 凹面：風化の為調整不明瞭 (一部わずかに布目)、端縁面取り？	密 やや不良	凸面：灰白色 凹面：灰黄色	
CP42	300	174	723	3 区	7a-9C-3a	238 ピット	埋土	紡錘車	最大長：4.6 最大幅：5.0 最大厚：0.8	表面に擦痕、穿孔部から裏面にかけてケズリ、両面穿孔	密 良好	外面：灰褐色・橙色 内面：橙色	土器片転用
CP43	308	178	83	3 区	7a-9B-3j		Ⅱｂ層	移動式竈 把手？	最大長：△ 7.3 最大幅：△ 10.1 最大厚：	外面：ナデ・指頭圧痕 内面：ヘラケズリ	密 良好	外面：にぶい橙色～浅黄橙色～灰褐色 内面：橙色	
CP44	308	178	291	3 区	7a-9C-2b		Ⅱｂ層	移動式竈 焚口庇？	最大長：△ 5.5 最大幅：△ 8.9 最大厚：△ 3.7	ナデ	密 良好	にぶい黄橙色	

第 96 表　土製品観察表（3）

△：残存値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	種別	法量 (cm・g)	特徴 (調整等)	胎土 焼成	色調	備考
CP45	308	178	276	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	軒丸瓦Ⅰ類	最大長：△ 8.2 最大幅：△ 9.5 最大厚：1.7 重　量：145.5	瓦当面：笵型施文 (蓮弁文) 瓦当裏面：ナデ、爪跡多数存在	密 良好	灰色	
CP46	308	179	92	3区	7a-9B-2j		Ⅱb層	軒平瓦Ⅳ類	最大長：△ 4.2 最大幅：△ 4.5 最大厚：△ 1.8 重　量：37.5	瓦当面：笵型施文 (唐草文の中心飾り) 瓦当部：布目	密 良好	にぶい黄橙色	
CP47	308	178	79	3区	7a-9B-3j		Ⅱb層	丸瓦	最大長：△ 8.6 最大幅：△ 7.9 最大厚：2.2 重　量：161.5	端面：切断面 凸面：ハケ目 (縦・横)、端縁横方向のナデ 凹面：布目	密 良好	凸面：灰白色 凹面：灰黄褐色	
CP48	310	179	34	3区	7a-9C-2b		撹乱	分銅形土製品	最大長：△ 3.1 最大幅：△ 5.1 最大厚：△ 1.1	表面：ナデ、1 条の C 字状刺突文 裏側：ナデ	密 良好	にぶい橙色	
CP49	310	179	5	3区	7a-9C-4b		表土	移動式竈 焚口庇？	最大長：△ 5.2 最大幅：△ 8.1 最大厚：△ 2.6	ナデ、ハケ目	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色	
CP50	310	179	2	3区	7a-9C-2b		表土	軒丸瓦Ⅱ類	最大長：△ 4.7 最大幅：△ 5.7 最大厚：2.1 重　量：50.5	瓦当面：笵型施文 (蓮弁文) 風化の為調整不明瞭 瓦当裏面：欠損のため調整不明	密 良好	にぶい黄橙色	
CP51	330	301	69	4区北	7a-9C-7b	1 溝	埋土	平瓦	最大長：△ 8.3 最大幅：△ 7.4 最大厚：2.5 重　量：172.0	凸面：工具によるナデ？ 凹面：布目、側縁面取り 側面：切断面	密 良好	凸面：黄灰色～浅黄色 凹面：黄灰色	
CP52	330	301	293	4区北	7a-9C-10d	1 溝	埋土	平瓦	最大長：△ 4.4 最大幅：△ 7.2 最大厚：1.8 重　量：82.5	端面：切断面 凸面：ナデ 凹面：磨面、端縁面取り	密 良好	端面：黒色・灰黄色 凸面：黒色 凹面：黄灰色	転用硯？
CP53	351	303	1674	4区南	7a-10C-3b	362 田	埋土	平瓦	最大長：△ 7.7 最大幅：△ 6.6 最大厚：2.5 重　量：175.0	端面：切断面 凸面：摩滅のため調整不明、端縁面取り 凹面：摩滅のため調整不明、段あり (模骨痕？)	密 やや不良	凸面：浅黄橙色 凹面：灰白色	
CP54	363	298	528	4区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	埋土	土製支脚	器高：17.5 口径：7.9 脚径：11.7	内外面ともナデ、ハケ目、指頭圧痕	密 良好	外面：にぶい赤褐色・にぶい黄橙色 内面：橙色・にぶい黄橙色	
CP55	363	298	996	4区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	移動式竈 掛口	最大長：△ 5.4 掛口径：25.8	外面：横ナデ、ハケ目後横ナデ 内面：横ナデ、ケズリ	密 良好	外面：褐灰色・にぶい黄橙色 内面：暗灰色・にぶい橙色	
CP56	363	298	683	4区北	7a-9C-6d	竪穴建物 5	1 層	移動式竈 焚口庇	最大長：△ 3.2 最大幅：7.7	内外面ともナデ、ハケ目	密 良好	外面：にぶい黄橙色 内面：橙色・にぶい黄橙色	
CP57	365	299	1366	4区北	7a-9C-7c	掘立柱建物 17 209 柱穴	1 層	平瓦	最大長：△ 5.6 最大幅：△ 11.6 最大厚：2.1 重　量：186.5	凸面：ナデ 凹面：布目、側縁面取り (ヘラケズリ後ナデ) 側面：切断面	密 良好	凸面：灰白色・黄灰色 凹面：灰白色 側面：黄灰色	
CP58	366	299	1338	4区北	7a-9C-7c	掘立柱建物 17 214 柱穴	埋土	平瓦	最大長：△ 12.9 最大幅：△ 10.5 最大厚：2.3 重　量：319.0	凸面：ナデ 凹面：布目、布かがり痕	密 良好	にぶい黄橙色～にぶい黄褐色	
CP59	418	322	57	4区北	7a-9C-6a	2 流路	検出面	丸瓦	最大長：△ 11.6 最大幅：△ 10.4 最大厚：1.7 重　量：198.5	凸面：平行叩き、側縁面取り 凹面：布目、側縁面取り 側面：切断面	密 良好	凸面：橙色 凹面：にぶい橙色	
CP60	418	322	2103	4区南	7a-10C-2e	2 流路	砂礫層	平瓦	最大長：△ 11.5 最大幅：△ 6.0 最大厚：1.8 重　量：173.0	凸面：ナデ 凹面：糸切後布目 側面：切断面？	密 良好	凸面：灰白色・にぶい黄橙色 凹面：黄灰色・黒色	
CP61	449	312	316	4区南	7a-10c-6b		Ⅰa層	平瓦	最大長：△ 6.6 最大幅：△ 6.0 最大厚：2.1 重　量：89.5	端面：切断面 凸面:ナデ後工具による文様？（風化の為不明瞭） 凹面：布目	密 やや不良	橙色	
CP62	452	310	366	4区北	7a-9C-7d		Ⅱb層	把手	器高：△ 4.8 幅：3.7 最大厚：2.1	ナデ・指頭圧痕	密 良好	灰色	
CP63	452	310	81	4区北	7a-9C-6c		Ⅱb層	移動式竈 焚口庇	最大長：△ 3.7 最大幅：△ 5.5	外面：ナデ、ハケ目 内面：ナデ	密 良好	外面：橙色・淡黄橙色 内面：にぶい橙色	
CP64	452	310	142	4区北	7a-9C-5d		Ⅱb層	移動式竈	最大長：△ 6.8 最大幅：△ 5.2	ナデ・指頭圧痕	密 良好	外面：褐灰色・にぶい橙色 内面：にぶい黄橙色・橙色 底面：褐灰色	
CP65	452	310	597	4区北	7a-9C-5d		Ⅱb層	移動式竈	最大長：△ 7.3 最大幅：△ 8.4	ナデ、ケズリ、切断面ナデ	密 良好	外面：橙色・にぶい橙色 内面：にぶい橙色	
CP66	452	312	5	4区北	7a-9C-4c		Ⅱb層	軒丸瓦	最大長：△ 6.5 最大幅：△ 6.8 最大厚：2.5 重　量：105.5	瓦当面：剥離 丸瓦部凸面：ヘラケズリ後ナデ？、粘土剥離痕 丸瓦部凹面：ナデ、ヘラケズリ	密 良好	橙色	
CP67	452	312	50	4区北	7a-9C-7c		Ⅱb層	平瓦	最大長：△ 9.5 最大幅：△ 13.5 最大厚：2.2 重　量：355.0	端面：切断面、線状の工具痕 3 本 凸面：ナデ 凹面：布目、模骨痕、端縁・側縁面取り (ヘラ切り後ナデ？) 側面：切断面	密 良好	凸面：黒褐色 凹面：にぶい黄橙色～黒褐色	
CP68	452	311	1914	4区北	7a-9C-6b		Ⅱc層	土馬	最大長：△ 4.0 最大幅：△ 7.1	ナデ・指頭圧痕	密 良好	橙色・浅黄橙色	わずかに赤彩残る
CP69	454	310	88-2	4区北	7a-9C-5d		造成土	移動式竈	最大長：△ 3.3 最大幅：△ 8.0 最大厚：△ 6.7	粗いナデ	密 良好	にぶい橙色	
CP70	454	310	118	4区北	7a-9C-8e		造成土	移動式竈	最大長：△ 9.3 最大幅△ 2.6 最大厚：△ 4.8	ナデ	密 良好	褐灰色・灰褐色・にぶい橙色	
CP71	454	311	88-1	4区北	7a-9C-5d		造成土	土馬 脚部	最大長：△ 5.0 最大幅：△ 2.0 最大厚：△ 1.7	ナデ	密 良好	橙色・淡黄橙色	
CP72	454	311	101	4区北	7a-9C-5a		撹乱	土馬 脚部	最大長：△ 6.5 最大幅：△ 2.1 最大厚：△ 1.8	ナデ・指頭圧痕	密 良好	にぶい橙色・にぶい黄橙色	
CP73	454	311	127	4区北	7a-9C-5a		撹乱	軒丸瓦Ⅰ類	最大長：△ 5.4 最大幅：△ 9.2 最大厚：2.2 重　量：127.0	瓦当部：横方向のナデ 瓦当面：笵型施文 (蓮弁文) 瓦当裏面：ナデ？風化の為調整不明瞭	密 良好	瓦当面：にぶい黄橙色 瓦当裏面：浅黄橙色～にぶい橙色	

第 97 表　土製品観察表（4）

△：残存値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	種別	法量 (cm・g)	特徴 (調整等)	胎土 焼成	色調	備考
CP74	454	311	89	4 区北	7a-9C-6d		造成土	軒丸瓦	最大長：△ 8.5 最大幅：△ 8.3 最大厚：2.6 重　量：210.5	瓦当面：剥離 丸瓦部凸面：正方形格子叩き (大)、粘土剥離痕 丸瓦部凹面：布目、模骨痕、側縁面取り	密 良好	凸面：にぶい黄橙色・黒褐色 凹面：黒褐色～にぶい黄色 側面：黒褐色	
CP75	454	311	2	4 区北	7a-9B-8j		造成土	軒丸瓦	最大長：△ 10.7 最大幅：△ 9.3 最大厚：4.1 重　量：319.0	瓦当面：剥離 丸瓦部凸面：粗いナデ？風化の為調整不明瞭、粘土剥離痕 丸瓦部凹面：布目、補充粘土	密 良好	凸面：灰黄色 凹面：暗灰黄色	
CP76	454	312	2219	4 区北	—		排土	平瓦	最大長：△ 16.5 最大幅：△ 13.9 最大厚：2.8 重　量：737.0	端面：切断面 凸面：工具によるナデ、一部にハケ目、側縁面取り 凹面：布目、模骨痕、布末端痕、端縁・側縁面取り 側面：切断面	密 良好	凸面：灰黄色～黄灰色 凹面：黄灰色	
CP80	—	159	16-2	2 区	7a-8C-9a		Ⅲ層上面	土製支脚	—	外面：ナデ、ハケ、指オサエ 内面：ナデ、指オサエ	密 良好	内外面とも浅黄橙色	

第 98 表　石器・石製品観察表

△：残存値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	地区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	種別	法量 (cm・g)				石材	備考
									最大長	最大幅	最大厚	重量		
S 1	120	142	130	1 区	7a-10C-9i	1 溝	埋土	五輪塔 空風輪	23.5	19.6	19.7	11000.0	細粒花崗岩	
S 2	128	143	264	1 区	7a-10C-10e	302 道路	埋土	管玉	0.8	0.4	0.4	0.1	碧玉	
S 3	137	146	135	1 区	7a-10C-9i	301 流路	埋土	碇石	16.6	24.0	17.4	6800.0	角閃石安山岩	
S 4	142	146	90	1 区	8a-1C-1e		Ⅰ a 層	尖頭器	△ 4.8	△ 1.6	0.6	5.0	無斑晶安山岩	
S 5	142	146	20	1 区	7a-10C-10b		東 Tr （層位不明）	碁石	2.0	1.8	0.8	4.1	頁岩	
S 6	142	146	87	1 区	7a-10C-9e		Ⅰ a 層	敲石	△ 7.6	△ 8.5	6.8	485.5	角閃石安山岩	
S 7	142	146	252	1 区	7a-10C-9f		Ⅲ層直上	砥石	17.8	14.3	16.4	4500.0	安山岩	
S 8	195	150	535	2 区	7a-8B-9j	64 土坑	埋土	台石	△ 29.8	△ 13.7	8.6	5400.0	デイサイト	
S 9	216	148	1379	2 区	7a-8B-9j	51 道路	埋土	管玉製作剥片	2.6	1.3	1.1	5.0	碧玉	
S10	226	158	61	2 区	7a-8C-10a		Ⅱ b・Ⅱ c 層	剥片	4.9	4.1	0.8	13.8	流紋岩	
S11	247	169	827	3 区	7a-9C-2a	竪穴建物 2	埋土下層	砥石	△ 13.5	11.0	8.1	1419.0	アプライト	
S12	288	172	613	3 区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土下層	砥石	△ 11.3	8.3	7.2	830.0	流紋岩	
S13	288	172	604	3 区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	砥石	17.3	22.4	5.1	2523.5	デイサイト	
S14	288	172	611	3 区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	砥石	△ 16.3	△ 17.5	9.5	4200.0	デイサイト	
S15	288	172	607	3 区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	敲石	8.4	△ 7.1	4.2	258.0	デイサイト	
S16	295	172	977	3 区	7a-9B-4i	257 土坑	1 層	凹石	7.6	9.4	4.3	324.0	デイサイト	
S17	296	172	957	3 区	7a-9C-2a	305 土坑	1 層	角錐状石器	13.0	3.6	2.2	114.0	安山岩	
S18	308	179	291	3 区	7a-9C-2b		Ⅱ b 層	砥石	△ 3.4	3.5	1.0	17.4	珪質頁岩	
S19	309	179	726	3 区	7a-9C-2a		Ⅱ c 層	剥片	4.3	4.5	1.6	16.8	頁岩	
S20	330	301	311	4 区北	7a-9C-10c	1 溝	埋土	石鏃	△ 15.2	11.8	2.3	478.5	板状安山岩	
S21	332	301	1606	4 区南	7a-10C-5h	345 溝	底面	凹基無茎式石鏃	2.0	1.5	0.4	0.8	無斑晶安山岩	
S22	351	303	1669	4 区南	7a-10C-2b	367 田	埋土	碁石	1.6	1.6	0.6	2.3	黒色頁岩	
S23	416	322	2179	4 区北	7a-9C-8c	2 流路	埋土	凹基無茎式石鏃	△ 2.6	2.7	0.4	1.7	無斑晶安山岩	
S24	416	322	1897	4 区南	7a-10C-3f	2 流路	埋土	平基無茎式石鏃	2.2	1.4	0.4	0.9	黒曜石	
S25	427	314	851	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	1 層	磨石	11.0	7.8	4.9	552.5	デイサイト	
S26	427	314	852	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	壁溝 埋土直上	砥石	△ 9.4	△ 12.0	6.8	617.0	流紋岩	
S27	427	314	859	4 区北	7a-9C-6b	竪穴建物 3	2 層	敲石・磨石	6.4	4.6	3.9	138.0	デイサイト	
S28	427	314	482	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	埋土上層	磨石	5.2	4.5	4.2	103	デイサイト	
S29	427	314	853	4 区北	7a-9C-5b	竪穴建物 3	床面直上	台石	△ 19.3	23.2	6.6	4460.0	デイサイト	
S30	439	318	504	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土下層	平基無茎式石鏃	2.4	1.5	0.4	1.1	無斑晶安山岩	
S31	439	318	1163	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	3 層	砥石	△ 8.5	3.1	1.1	35.6	流紋岩	
S32	439	318	1272	4 区北	7a-9C-4d	竪穴建物 4	2 層	磨石	12.5	7.5	4.1	482.5	デイサイト	
S33	439	318	785	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	1 層	磨石	△ 7.3	5.6	5.0	259.5	デイサイト	
S34	439	318	933	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	1 層	敲石・磨石	11.8	6.2	5.6	498.5	デイサイト	
S35	439	318	750	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	1 層	敲石	13.6	6.9	5.8	731.5	デイサイト	
S36	439	318	1273 935	4 区北	7a-9C-4c 7a-9C-4d	竪穴建物 4	3 層 2 層	台石	17.1	23.4	7.0	5014.5	デイサイト	
S37	439	318	751	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	1 層	台石	15.7	15.2	7.3	1796.5	デイサイト	
S38	449	—	290	4 区南	7a-10C-2c		Ⅰ a 層	剥片	2.6	3.3	1.2	8.5	黒曜石	
S39	449	312	1790	4 区南	7a-10C-8d		Ⅰ b 層	碁石	1.9	2.1	0.6	3.7	安山岩	
S40	449	312	1831	4 区南	7a-10C-9d		Ⅰ b 層	碁石	1.9	2.2	0.8	4.7	石英	
S41	450	312	1953	4 区南	7a-10C-7f		2 流路直上土	平基無茎式石鏃	2.5	1.6	0.4	1.4	無斑晶安山岩	
S42	452	312	369	4 区北	7a-9C-6c		Ⅱ b 層	石庖丁	△ 3.9	△ 4.4	0.6	16.0	結晶片岩	
S43	452	312	119	4 区北	7a-9C-5c		Ⅱ b 層	凹基無茎式石鏃	△ 2.6	2.0	0.4	1.3	黒曜石	
S44	452	312	246	4 区南東	7a-10C-6b		Ⅲ -1 層	凹基無茎式石鏃	1.9	1.6	0.3	0.5	無斑晶安山岩	
S45	454	312	1911	4 区南	7a-10C-1j		表採	凹基無茎式石鏃	△ 1.7	△ 1.3	0.4	0.7	黒曜石	
S46	—	172	612	3 区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	被熱礫	△ 15.7	△ 10.4	△ 14.3	2320.0	安山岩	
S47	—	318	1279	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	被熱礫	18.7	14.7	13.1	4460.0	流紋岩	

第 99 表　金属関連遺物観察表

△：残存値

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	器種	法量 (cm・g) 最大長	最大幅	最大厚	重量	備考
Br 1	142	146	86	1 区	7a-10C-10e		Ⅰ a 層	環	2.2	2.6	0.5	8.0	
F 1	142	146	91	1 区	8a-1C-1f		Ⅰ a 層	鉄器 たがね？	20.0	3.0	1.7	307.0	
F 2	226	158	44	2 区	7a-9C-1b		Ⅷ層	袋状鉄斧	5.6	4.9	4.6	86.0	
F 3	227	158	16	2 区	7a-8C-9a		Ⅸ層上面	切鉄	4.6	3.3	2.1	91.0	
F 4	240	168	635	3 区	7a-9C-3c	竪穴建物 1	埋土上層	不明鉄器	△ 4.4	1.7	0.7	3.0	
F 5	240	168	633	3 区	7a-9C-3c	竪穴建物 1	埋土上層	不明鉄器	△ 5.0	1.2	0.2	3.0	
F 6	240	168	668	3 区	7a-9C-3c	竪穴建物 1	貼床	板状鉄製品 (折り曲げ)	7.2	1.2	0.3	9.0	
F 7	246	168	546	3 区	7a-9C-2a	竪穴建物 2	埋土	不明鉄器	△ 2.2	2.0	0.2	2.0	
F 8	287	172	402	3 区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土	鉄釘？	△ 4.0	0.8	0.4	8.0	
F 9	287	172	442	3 区	7a-9C-3c	50 土坑	埋土上層	鉄釘？	△ 4.6	1.0	0.7	11.0	
F10	308	179	49	3 区	7a-9C-3b		Ⅱ b 層	切鉄	4.3	5.7	—	124.0	
F11	326	302	1834	4 区南	7a-10C-8d	398 ピット	1 層	鉄釘	2.6	0.6	△ 0.3	1.0	
F12	326	302	1852	4 区南	7a-10C-8d	398 ピット	埋土	鉄釘	△ 3.3	△ 0.5	△ 0.4	3.0	
F13	326	302	1836	4 区南	7a-10C-8d	398 ピット	1 層	鉄釘	△ 3.7	△ 0.8	△ 0.3	3.0	
Br 2	331	301	1354	4 区北	7a-9C-8b	3 溝	埋土下層	銭貨	2.1	2.1	0.2	2.0	洪武通貨　裏は治？
F14	351	303	1708 1709	4 区南	7a-10C-4b	368 田	埋土	不明鉄器	△ 12.8	1.5	1.0	37.0	
F15	351	303	1707	4 区南	7a-10C-4b	368 田	埋土	鉄器破片	△ 5.0	△ 5.5	△ 0.5	25.0	
F16	351	303	1753	4 区南	7a-10C-6b	369 田	埋土	不明鉄器	2.6	2.4	0.4	4.0	
F17	383	299	2169	4 区北	7a-9C-9d	278 道路	埋土	鉄釘？	7.4	0.5	0.3	13.0	
F18	408	302	1160	4 区北	7a-9C-7d	118 柱穴	1 層	不明鉄器	12.5	2.2	1.6	210.0	
F19	409	302	563	4 区北	7a-9C-4c	42 ピット	埋土	鉄釘	2.1	0.5	0.5	2.0	
F20	439	318	1254	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	3 層	不明鉄器	4.9	1.8	0.6	6.0	
F21	439	318	696	4 区北	7a-9C-4c	竪穴建物 4	埋土上層	不明鉄器	△ 3.3	1.6	0.9	4.0	
F22	452	312	327	4 区北	7a-9C-8d		Ⅱ b 層	鉄釘？	△ 4.9	△ 0.7	△ 0.2	6.0	
F23	452	312	74	4 区北	7a-9C-6b		Ⅱ b 層	不明鉄器	3.6	2.5	0.3	13.0	
F24	452	312	378	4 区北	7a-9C-6d		Ⅱ b 層	不明鉄器	7.1	0.9	0.3	26.0	

第 100 表　木器観察表（1）

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	種別	法量 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	器高	樹種	木取り	備考
W 1	138	143	284-1	1 区	7a-10C-9j	442 流路	埋土	曲物底板	16.1	5.4	0.8	—	ヒノキ科ヒノキ属	追柾目材	墨痕跡？
W 2	138	143	284-2	1 区	7a-10C-9j	442 流路	埋土	曲物底板	23.2	5.7	0.7	—	ヒノキ科ヒノキ属	追柾目材	墨痕跡？
W 3	160	160	253-1b	2 区	7a-8B-9i	2 流路	埋土	斎串	上 14.7 下 6.5	上 1.8 下 1.5	上 0.3 下 0.2	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W 4	160	160	207-1 213-1	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	斎串	28.0	2.5	0.7	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W 5	160	160	247-1	2 区	7a-8B-9i	2 流路	埋土	斎串	10.0	1.6	0.3	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W 6	160	160	207-2	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	板材	18.2	2.6	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W 7	160	160	176-1	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	斎串	29.6	2.3	0.8	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W 8	160	160	253-2	2 区	7a-8B-9i	2 流路	埋土	斎串	22.6	1.4	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W 9	160	160	251-3	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	斎串	23.6	2.1	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W10	160	160	211	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	斎串	13.8	1.7	0.5	—	ヒノキ科ヒノキ属	板目材	
W11	160	160	253-3	2 区	7a-8B-9i	2 流路	埋土	斎串	7.6	1.3	0.4	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W12	160	160	251-1b	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	斎串	6.4	1.2	0.2	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W13	160	160	178-1	2 区	7a-8B-10i	2 流路	埋土	斎串	46.9	1.2	0.2	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W14	160	160	251-4	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	斎串	22.8	0.8	0.7	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W15	160	160	269	2 区	7a-8B-10i	2 流路	埋土	斎串	14.1	0.8	0.4	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W16	160	160	187	2 区	7a-8B-9h・9i	2 流路	埋土	刀形	24.9	1.6	0.7	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W17	160	160	253-4	2 区	7a-8B-9i	2 流路	埋土	斎串	29.8	1.9	0.3	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W18	160	160	253-1	2 区	7a-8B-9i	2 流路	埋土	丸杭	19.0	1.3	1.4	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W19	160	160	213-2	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	板材？	11.0	3.1	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W20	160	160	176-2	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	角棒材	19.2	2.8	1.4	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W21	160	160	207-3	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	付け木	35.4	2.6	2.1	—	ヒノキ科ヒノキ属	芯去り材	炭化部分あり
W22	160	160	212	2 区	7a-8B-9i	2 流路	埋土	付け木	26.2	1.3	0.6	—	マキ科マキ属イヌマキ	芯去り材	炭化部分あり
W23	160	160	176-1	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	付け木	18.5	1.6	1.5	—	ヒノキ科アスナロ属	芯去り材	炭化部分あり
W24	160	160	176-4	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	付け木	26.3	3.1	1.0	—	ヒノキ科アスナロ属	芯去り材	
W25	161	161	251-1	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	馬形	23.3	2.4	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W26	161	161	251-2	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	馬形	19.9	2.3	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	腹孔棒痕跡
W27	161	161	253-2b	2 区	7a-8B-9i	2 流路	埋土	馬形？	7.4	2.9	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W28	161	161	175	2 区	7a-8B-10i	2 流路	埋土	えぶり状製品	55.7	11.2	1.2	—	スギ科スギ属スギ	柾目材	
W29	161	161	251-2b	2 区	7a-8B-9h	2 流路	埋土	不明品	5.7	5.2	4.9	—	スギ科スギ属スギ	横木取り	
W30	161	161	173	2 区	7a-8B-10i	2 流路	埋土	梯子	172.7	16.8	7.9	—	スギ科スギ属スギ	板目材	炭化部分あり
W31	162	161	174	2 区	7a-8B-10i	2 流路	埋土	矢板	69.0	18.0	2.7	—	スギ科スギ属スギ	追柾目材	
W32	162	161	196-2	2 区	7a-8B-9i	2 流路	埋土	矢板？	43.3	11.2	2.0	—	スギ科スギ属スギ	柾目材	
W33	162	161	196-1	2 区	7a-8B-9i	2 流路	埋土	矢板？	56.1	13.9	3.9	—	スギ科スギ属スギ	柾目材	
W34	169	162	1357	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	斎串	41.7	2.8	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W35	169	162	823-1	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	斎串	37.7	2.6	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W36	169	162	743-1	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	斎串	7.7	2.7	0.3	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W37	169	162	1202	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	斎串	37.0	1.1	0.8	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W38	169	162	1005-2 824 762	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	斎串？	上 20.6 下 14.8	0.7	0.6	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W39	169	162	741-1	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	刀形	34.0	2.0	0.4	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W40	169	162	733	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	刀形	43.2	2.1	0.3	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W41	169	162	1012	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	刀形？	33.1	1.8	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W42	169	162	737	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	刀子形？	22.0	2.2	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W43	169	162	911-1	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	馬形	18.5	3.8	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	腹孔棒痕跡
W44	169	162	244	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	曲物側板	11.3	4.0	0.5	—	スギ科スギ属スギ	柾目材	
W45	169	162	938	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	曲物底板	17.3	9.6	0.6	—	ヒノキ科ヒノキ属	柾目材	
W46	169	162	664	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	横槌	27.0	7.0	6.6	—	ブナ科コナラ属アカガシ亜属	芯去り材	
W47	169	163	1298	2 区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	付け木	12.6	1.4	1.2	—	ヒノキ科アスナロ属	芯去り材	全体に炭化

第 101 表　木器観察表（2）

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	種別	法量 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	器高	樹種	木取り	備考
W48	169	163	881	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	付け木	17.6	1.7	2.1	—	ヒノキ科アスナロ属	芯去り材	炭化部分あり，刃物痕あり
W49	169	163	1006	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	付け木	14.4	2.5	1.6	—	ヒノキ科アスナロ属	芯去り材	炭化部分あり，刃物痕あり
W50	170	163	940	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	建築部材？	小 55.6 大 83.3	小 5.0 大 8.0	小 2.0 大 3.0	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W51	170	162	1467	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	矢板	44.1	37.7	4.5	—	スギ科スギ属スギ	追柾目材	
W52	170	163	568	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	建築部材？	296.8	20.7	3.7	—	スギ科スギ属スギ	柾目材	
W53	170	163	1417	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	角棒材	56.4	2.4	1.3	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W54	170	163	932	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	角棒材	38.4	3.1	1.6	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W55	170	163	679-1	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	丸杭	38.6	4.1	3.2	—	クマツヅラ科ムラサキシキブ属	芯持ち材	
W56	170	163	761	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	角棒材	33.3	3.0	2.0	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W57	170	163	1001	2区	7a-8B-10i	76 木製構造物	盛土	杭	32.1	1.7	1.6	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W58	177	164	613	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	77.5	2.6	0.5	—	スギ科スギ属スギ	追柾目材	①群
W59	177	164	651	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	56.8	2.4	0.8	—	ヒノキ科アスナロ属	板目材	①群
W60	177	164	614	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	54.2	2.7	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	①群
W61	177	164	615	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	55.4	2.2	0.4	—	スギ科スギ属スギ	板目材	①群
W62	177	164	638	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	44.6	2.1	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	①群
W63	177	164	473	2区	7a-8B-10i	171 木製祭祀具集中部	盛土	斎串	44.6	2.4	0.7	—	スギ科スギ属スギ	板目材	⑦群
W64	177	164	576	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	28.6	2.7	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	④群
W65	177	164	575	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	29.8	2.3	0.4	—	スギ科スギ属スギ	板目材	②群
W66	177	164	639-1	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	27.7	2.5	0.4	—	スギ科スギ属スギ	柾目材	①群
W67	177	164	491	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	21.5	2.3	0.3	—	スギ科スギ属スギ	板目材	①群
W68	177	164	241	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	21.3	1.8	0.4	—	スギ科スギ属スギ	板目材	③群
W69	177	164	412	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	斎串	17.2	2.3	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	⑥群
W70	177	164	893-1	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	15.4	2.2	4.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	①群
W71	177	164	582-3	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	13.7	2.0	0.3	—	スギ科スギ属スギ	板目材	②群
W72	177	164	231-1	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	斎串	8.1	2.5	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	⑥群
W73	178	165	181	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	57.9	1.8	0.7	—	スギ科スギ属スギ	板目材	③群
W74	178	165	617	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	55.0	2.6	0.6	—	ヒノキ科アスナロ属	板目材	①群
W75	178	165	242	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	50.1	1.8	0.4	—	スギ科スギ属スギ	板目材	③群
W76	178	165	222	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	斎串	38.7	2.5	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	⑥群
W77	178	165	851	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	33.3	1.1	0.4	—	スギ科スギ属スギ	柾目材	①群
W78	178	165	474	2区	7a-8B-10i	171 木製祭祀具集中部	盛土	斎串	26.0	1.8	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	⑦群
W79	178	165	656	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	26.4	2.2	0.3	—	スギ科スギ属スギ	板目材	②群
W80	178	165	688	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	武器形	23.5	1.2	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	②群
W81	178	165	180-4	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	20.8	1.7	0.4	—	スギ科スギ属スギ	板目材	③群
W82	178	165	180-2	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	木簡？	20.2	1.6	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	③群
W83	178	165	336	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	斎串	20.0	1.3	0.4	—	スギ科スギ属スギ	板目材	⑦群
W84	178	165	184	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	19.3	1.7	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	③群
W85	178	165	879	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	上 5.9 下 12.5	上 1.4 下 1.2	上 0.4 下 0.3	—	スギ科スギ属スギ	板目材	⑤群
W86	178	165	182	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	17.5	1.5	0.4	—	スギ科スギ属スギ	板目材	③群
W87	178	165	180-1	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	16.0	1.6	0.4	—	スギ科スギ属スギ	板目材	③群
W88	178	165	183-1	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	形代？	14.9	3.7	0.5	—	スギ科スギ属スギ	板目材	③群
W89	178	165	611	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串？	13.0	1.7	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	①群
W90	178	165	860	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	48.4	0.9	0.7	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	①群
W91	178	165	597	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	斎串	42.0	0.7	0.5	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	⑥群
W92	178	165	180-3	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	31.6	1.1	0.6	—	スギ科スギ属スギ	柾目材	③群
W93	178	165	574	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	斎串	23.5	0.9	0.8	—	ヒノキ科ヒノキ属	芯去り材	⑨群
W94	178	165	478	2区	7a-8B-10i	171 木製祭祀具集中部	盛土	斎串	18.7	1.0	0.7	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	⑦群
W95	178	165	583	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	斎串	19.0	0.8	0.6	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	②群
W96	178	165	484	2区	7a-8B-10i	171 木製祭祀具集中部	盛土	斎串？	16.4	1.0	0.5	—	ヒノキ科ヒノキ属	柾目材	⑦群
W97	178	165	582	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	棒状品	5.9	0.8	0.6	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	②群
W98	179	166	582-1	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	人形	32.8	4.4	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	②群

第 102 表　木器観察表（3）

遺物番号	挿図番号	図版番号	取上番号	調査区	グリッド T52-	集合遺構 個別遺構	層位	種別	法量 (cm) 最大長	最大幅	最大厚	器高	樹種	木取り	備考
W99	179	166	345	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	馬形	25.1	5.7	0.7	—	スギ科スギ属スギ	板目材	③群
W100	179	166	246	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	馬形	22.7	5.7	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	腹孔棒痕跡 ③群
W101	179	166	582-2	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	馬形	22.4	2.8	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	腹孔棒痕跡 ②群
W102	179	166	896-1	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	馬形	13.4	2.0	0.5	—	ヒノキ科ヒノキ属	板目材	①群
W103	179	166	356	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	折敷底板？	17.2	4.0	0.6	—	ヒノキ科アスナロ属	追柾目材	⑥群
W104	179	166	245	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	曲物底板	12.3	9.5	0.6	—	ヒノキ科アスナロ属	柾目材	⑨群
W105	179	166	208	2区	7a-8B-10i	171 木製祭祀具集中部	盛土	折敷底板？	17.0	2.9	1.1	—	針葉樹の樹皮	板目材	⑦群
W106	179	167	340	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	折敷？	47.3	6.0	1.4	—	スギ科スギ属スギ	柾目材	⑤群
W107	179	166	577	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	ささら子状木製品	31.5	1.7	1.4	—	ヒノキ科アスナロ属	芯去り材	③群
W108	179	166	476	2区	7a-8B-10i	171 木製祭祀具集中部	盛土	付け木	16.4	1.3	0.6	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	炭化部分あり ⑦群
W109	179	166	352	2区	7a-8B-9h	171 木製祭祀具集中部	盛土	付け木	17.0	1.9	1.4	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	⑥群
W110	179	166	442	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	付け木	35.8	2.3	1.4	—	マキ科マキ属イヌマキ	芯去り材	炭化部分あり ⑥群
W111	179	166	578	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	付け木（斎串？）	33.1	1.0	0.6	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	炭化部分あり ④群
W112	179	166	334	2区	7a-8B-10i	171 木製祭祀具集中部	盛土	付け木	26.7	2.0	0.5	—	ヒノキ科ヒノキ属	板目材	炭化部分あり ⑦群
W113	179	166	353	2区	7a-8B-9h	171 木製祭祀具集中部	盛土	付け木	27.5	1.0	1.1	—	マキ科マキ属イヌマキ	芯去り材	炭化部分あり ⑥群
W114	180	167	409	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	梯子	129.4	12.4	7.7	—	マキ科マキ属イヌマキ	芯持ち材	⑧群
W115	180	167	573	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	不明木製品	89.7	8.3	2.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	⑤群
W116	180	167	596	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	三角杭	38.1	2.4	2.1	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	⑨群
W117	180	167	346	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	埋土	板（部材）	92.9	8.3	2.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	⑧群
W118	180	167	210	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	矢板	39.7	17.4	2.8	—	スギ科スギ属スギ	板目材	⑧群
W119	180	167	418	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	板	51.9	5.7	2.0	—	スギ科スギ属スギ	柾目材	⑧群
W120	180	167	514	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	杭	22.5	4.5	3.5	—	ツバキ科ツバキ属	芯持ち材	④群
W121	180	167	343	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	角杭？	40.9	2.5	1.4	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	④群
W122	180	167	331	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	角棒材	38.5	2.5	1.0	—	スギ科スギ属スギ	板目材	⑤群
W123	180	167	639-2	2区	7a-8B-9i	171 木製祭祀具集中部	堆積土	板	28.9	2.0	0.5	—	スギ科スギ属スギ	柾目材	⑤群
W124	181	167	470	2区	7a-8B-9h	171 木製祭祀具集中部	盛土	建築部材	186.9	20.8	6.2	—	スギ科スギ属スギ	追柾目材	⑦群
W125	181	167	472	2区	7a-8B-9h・9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	建築部材	219.1	8.4	8.3	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	⑦群
W126	181	167	471	2区	7a-8B-9h・9i	171 木製祭祀具集中部	盛土	建築部材	224.0	9.0	9.5	—	ヒノキ科アスナロ属	柾目材	⑦群
W127	228	158	217①	2区	7a-9B-2i	—	南壁（層位不明）	付け木	19.5	1.5	1.2	—	ヒノキ科ヒノキ属	芯去り材	炭化部分あり
W128	414	323	1699	4区北	7a-9C-10c	2流路	埋土	建築部材？	71.6	13.2	8.6	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W129	418	323	1541-3	4区北	7a-9B-5j	2流路	埋土	斎串？	24.4	1.6	0.4	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W130	418	323	1747	4区北	7a-10C-1c	2流路	埋土	板材	22.1	2.0	0.6	—	スギ科スギ属スギ	板目材	
W131	418	323	1716	4区北	7a-10C-1c	2流路	埋土	杭	22.0	2.5	2.4	—	スギ科スギ属スギ	芯去り材	
W132	418	323	1558-1	4区北	7a-9C-6a	2流路	砂礫層 埋土	曲物側板？	4.3	3.9	0.3	—	ヒノキ科ヒノキ属	板目材	
W133	418	323	1558-2	4区北	7a-9C-6a	2流路	砂礫層 埋土	曲物側板？	3.5	1.9	0.4	—	ヒノキ科ヒノキ属	板目材	
W134	418	323	1558-3	4区北	7a-9C-6a	2流路	砂礫層 埋土	曲物側板？	1.6	1.7	0.3	—	ヒノキ科ヒノキ属	板目材	
W135	418	323	1558-4	4区北	7a-9C-6a	2流路	砂礫層 埋土	曲物側板？	3.2	1.1	0.4	—	ヒノキ科ヒノキ属	板目材	
W136	418	323	1527	4区北	7a-9B-5j	2流路	砂礫層 埋土	加工品（未成品？）	11.6	15.1	2.3	—	ブナ科クリ属クリ	板目材	
W137	454	323	1700	4区北	—	—	排土	高台付漆器椀？	—	—	—	△ 1.3	ブナ科クリ属クリ	横木取り	赤・黒漆付着

第５章　自然科学分析

第１節　石塚廃寺東遺跡の自然科学分析

株式会社古環境研究所

第１項　石塚廃寺東遺跡Ｐ４～７区の放射性炭素年代測定

１．はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（14 C）の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌さらには土器付着炭化物などが測定対象となり、約５万年前までの年代測定が可能である（中村,2003)。

ここでは、石塚廃寺東遺跡において検出された溝・流路、掘立柱建物の年代を明らかにする目的で、放射性炭素年代測定を行う。

２．試料と方法

測定試料は、Ｐ４区で検出された１流路㉒層より出土した木材（試料23)、Ｐ５区で検出された２溝埋土より出土した炭化材（試料24)、Ｐ６区で検出された２溝⑧層より出土した炭化材（試料25)、Ｐ６区11流路の⑳層より出土した木材（試料26)、Ｐ７区で検出された掘立柱建物１の３柱穴より出土した炭化材（試料27）の計５点である。第103表に、測定試料の詳細と前処理・調整法及び測定法を示す。測定は、試料の前処理・調整後、加速器質量分析計（コンパクト AMS：NEC 製 1.5SDH）を用いて行った。埋土中出土の試料24を除く試料採取箇所を第52･65･66･76図に示す。

３．結果

加速器質量分析法（AMS：Accelerator Mass Spectrometry）によって得られた14 C濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素（14 C）年代および暦年代（較正年代）を算出した。第104表にこれらの結果を示す。

１）δ(デルタ)13 C測定値

試料の測定14 C /12 C比を補正するための炭素安定同位体比（13 C /12 C)。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。試料のδ 13 C値を -25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正している。

２）放射性炭素（14 C）年代測定値

試料の14 C /12 C比から、現在（AD1950年基点）から何年前かを計算した値。14 Cの半減期

第 103 表　測定試料及び処理

試料番号	試料の詳細	種類	前処理・調整	測定法
23	P4 区 1 流路 ㉒層	木材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン）， 酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	AMS
24	P5 区 2 溝 埋土	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン）， 酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	AMS
25	P6 区 2 溝 ⑧層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン）， 酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	AMS
26	P6 区 11 流路 ⑳層	木材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン）， 酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	AMS
27	P7 区 掘立柱建物 1 3 柱穴 1 層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン）， 酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	AMS

第 104 表　測定結果

試料番号	測定№ (PLD-)	δ 13 C (‰)	暦年較正用年代 (年 BP ± 1 σ)	14 C年代 (年 BP ± 1 σ)	暦年代（西暦） 1 σ（68.27%確率）	 2 σ（95.45%確率）
23	43898	-29.75 ± 0.21	1299 ± 18	1300 ± 20	671-687 cal AD (20.62%)	664-706 cal AD (43.79%)
					698-701 cal AD (3.66%)	726-773 cal AD (51.66%)
					742-772 cal AD (43.99%)	
24	43899	-25.28 ± 0.13	353 ± 17	355 ± 15	1481-1520 cal AD (36.12%)	1472-1526 cal AD (42.53%)
					1588-1621 cal AD (32.15%)	1554-1633 cal AD (52.92%)
25	43900	-28.57 ± 0.18	706 ± 18	705 ± 20	1278-1292 cal AD (68.27%)	1274-1300 cal AD (90.73%)
						1371-1377 cal AD (4.72%)
26	43901	-28.03 ± 0.22	877 ± 18	875 ± 20	1165-1181 cal AD (25.94%)	1053-1061 cal AD (2.21%)
					1187-1212 cal AD (42.33%)	1067-1075 cal AD (1.46%)
						1156-1221 cal AD (91.79%)
27	43902	-26.73 ± 0.23	508 ± 18	510 ± 20	1413-1430 cal AD (68.27%)	1407-1438 cal AD (95.45%)

BP：Before Physics（Present），AD：紀元

は 5730 年であるが、国際的慣例により Libby の 5568 年を用いている。統計誤差（±）は 1 σ (シグマ) (68.27%確率）である。14 C年代値は下 1 桁を丸めて表記するのが慣例であるが、暦年較正曲線が更新された場合のために下 1 桁を丸めない暦年較正用年代値も併記した。

3）暦年代（Calendar Years）

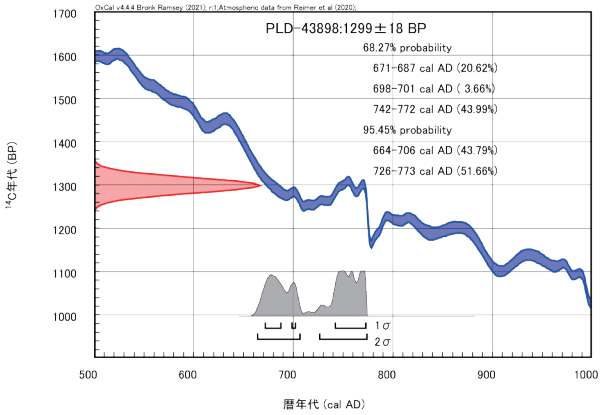
過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 14 C濃度の変動および 14 C の半減期の違いを較正することで、放射性炭素（14 C）年代をより実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な 14 C測定値およびサンゴの U/Th（ウラン / トリウム）年代と 14 C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。較正曲線のデータは IntCal 20、較正プログラムは OxCal 4.4 である。

暦年代（較正年代）は、14 C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCal の確率法により 1 σ（68.27%確率）と 2 σ（95.45%確率）で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の 1 σ・2 σ値が表記される場合もある。() 内の％表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は 14 C年代の確率分布、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

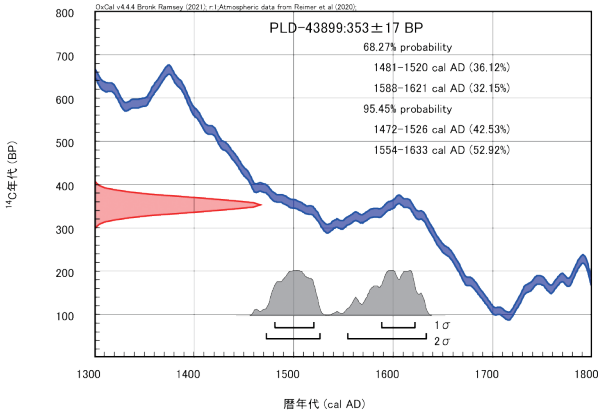
4．結果

石塚廃寺東遺跡で検出された溝・流路と掘立柱建物の年代を明らかにする目的で、加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定を行った。その結果、P 4 区の 1 流路の㉒層で出土した木材（試料 23）は、補正 14C 年代が 1300 ± 20 年 BP、2 σ の暦年較正値は 664-706 cal AD(43.79%)、

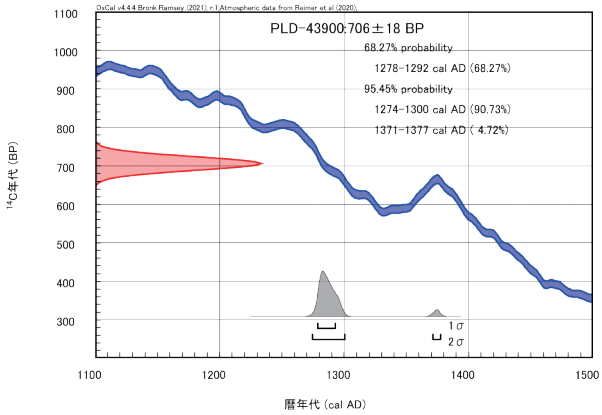
試料23



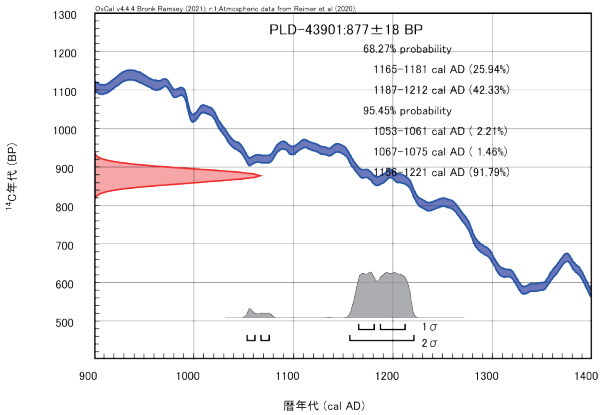
試料24



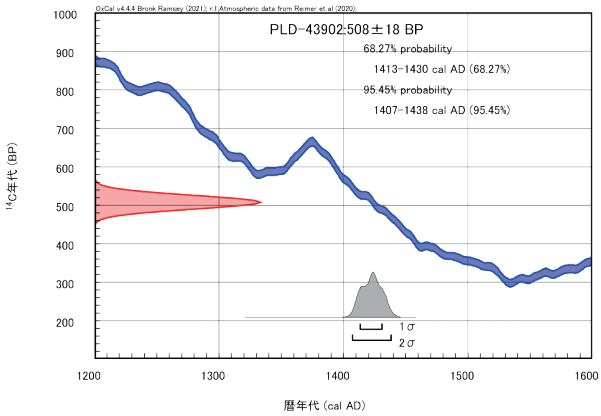
試料25



試料26



試料27



第 457 図　暦年較正結果

726-773 cal AD(51.66%)、Ｐ５区の２溝の埋土で出土した炭化物（試料 24）は、補正 14C 年代が 355 ± 15 年 BP、２σの暦年較正値は 1472-1526 cal AD(42.53%)、1554-1633 cal AD(52.92%)、Ｐ６区の２溝の⑧層で出土した炭化物（試料 25）は、補正 14C 年代が 705 ± 20 年 BP、２σの暦年較正値は 1274-1300 cal AD(90.73%)、1371-1377 cal AD(4.72%)、Ｐ６区の 11 流路の⑳層で出土した木材（試料 26）は、補正 14C 年代が 875 ± 20 年 BP、２σの暦年較正値は 1053-1061 cal AD(2.21%)、1067-1075 cal AD(1.46%)、1156-1221 cal AD(91.79%)、Ｐ７区の掘立柱建物１の３柱穴の１層で出土した炭化物（試料 27）は、補正 14C 年代が 510 ± 20 年 BP、２σの暦年較正値は 1407-1438 cal AD(95.45%)であった（第 457 図）。

【参考文献】

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫（2003）放射性炭素年代測定法と暦年代較正．環境考古学マニュアル．同成社，p.301-322.

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton,T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M.,Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo,A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

第２項　石塚廃寺東遺跡Ｐ１～７区の植物珪酸体分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体（プラント・オパール）分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

ここでは、石塚廃寺東遺跡における稲作の可能性ならびに周辺植生と環境を検討する目的で、植物珪酸体分析を行う。

２．試料

分析対象は、Ｐ１区のⅥｂ層（試料１）、Ⅶｅ層（試料２）、１流路の⑥層（試料３）、Ｐ２区のⅢ層（試料４）、Ⅳｂ層（試料５）、１流路の㊲層（試料６）、Ｐ３区のⅢｂ層（試料７）とⅢｃ層（試料８）、Ｐ４区の１流路の③層（試料９）、Ｐ５区の６溝の⑩層（試料10）、８流路の⑱層（試料11）、２溝の⑮層（試料12）、Ｐ６区の２溝の⑬層（試料13）、Ｐ７区のⅣ層（試料14）の計14点である。試料採取箇所を第15・19・29・52・57・65・73図に示す。

３．方法

植物珪酸体分析は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

１）土壌サンプルの表面約５mm を除去後、新鮮な部分の土壌約 $10cm^3$ を採量する。

２）採量した試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）する。

３）試料約１ｇに直径約 40 μｍのガラスビーズを約 0.02g 添加する。

４）電気炉灰化法（550℃・６時間）により脱有機物処理を行う。
５）超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）により分散する。
６）沈底法により 20 μ m 以下の微粒子を除去する。
７）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラートを作製する。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来する植物珪酸体を同定の対象とし、400 倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が 500 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。検鏡結果は、計数値を試料１ｇ中の植物珪酸体個数（試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（ここでは 1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重，単位：10-5g）を乗じて、単位面積で層厚１cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的に把握できる（杉山，2000）。

４．結果

（１）分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらについて定量を行い、その結果を第 105・106 表、第 458 図に示した。また、主要な分類群については顕微鏡写真を図版 326 に示す。

〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ヨシ属、シバ属型、ススキ属型、ウシクサ族型

〔イネ科ータケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、メダケ節型（メダケ属メダケ節・ヤダケ属など）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、その他タケ亜科

〔イネ科ーその他〕

未分類等

（２）植物珪酸体の検出状況

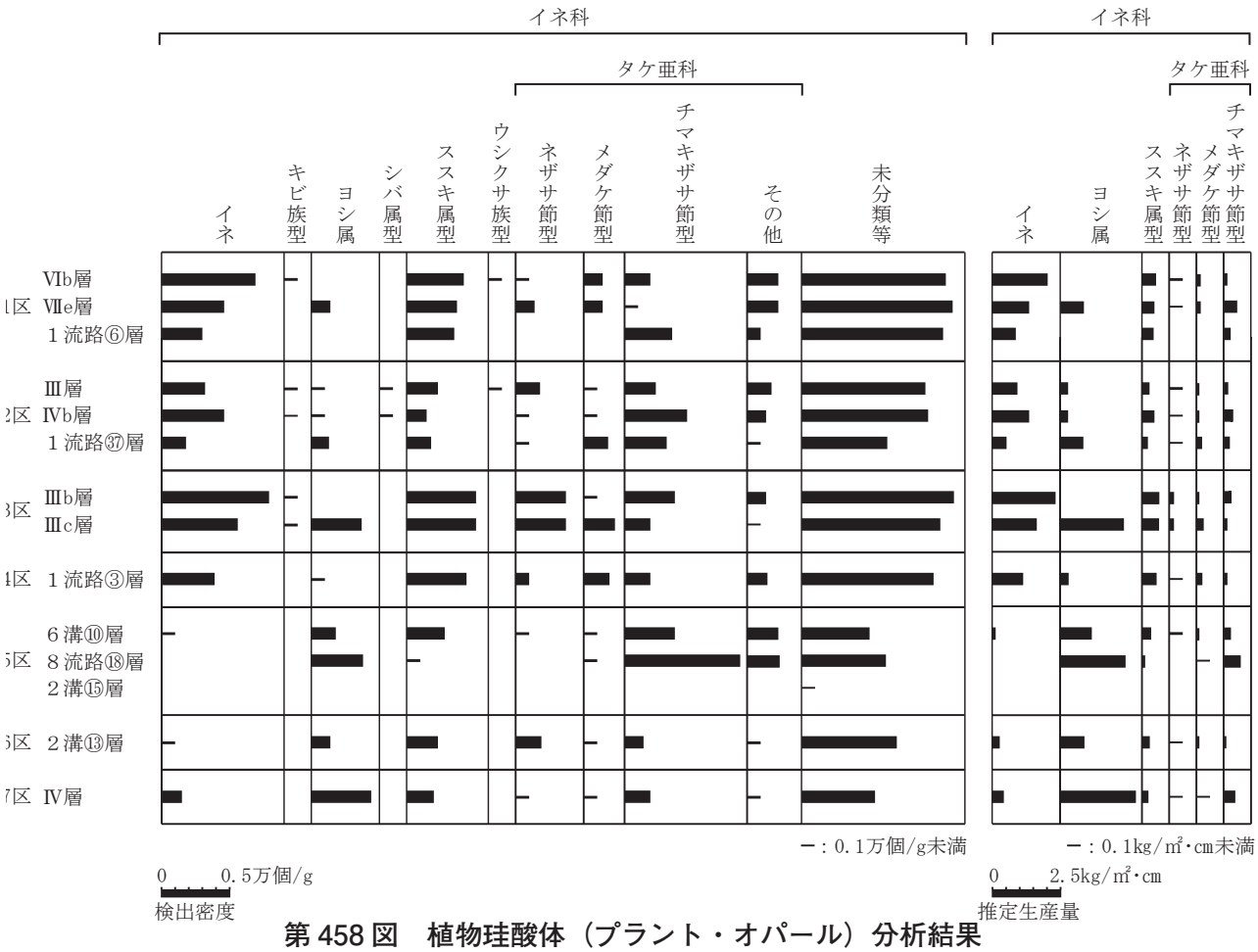
以下に、植物珪酸体の検出状況を記す。なお、植物珪酸体の生産量は植物種によって相違することから、検出密度の評価は分類群によって異なる。

１）Ｐ１区（Ⅵｂ層（試料１）、Ⅶｅ層（試料２）、１流路⑥層（試料３））

各層に共通する特徴として、イネとススキ属型が多いことがあげられる。他の分類群では、Ⅵｂ層でキビ族型、ウシクサ族型、ネザサ節型、メダケ節型、チマキザサ節型が、Ⅶｅ層でキビ族型、ヨシ属、ススキ属型、ネザサ節型、メダケ節型、チマキザサ節型が、１流路⑥層でチマキザサ節型が認められた。いずれもやや低いか低い密度である。

２）Ｐ２区（Ⅲ層（試料４）、Ⅳｂ層（試料５）、１流路㊲層（試料６））

Ⅲ層とⅣｂ層は概ね同様の植物珪酸体組成である。イネが多く検出され、ススキ属型とチマキザサ節型が比較的多い。他にキビ族型、ヨシ属、シバ属型、ネザサ節型、メダケ節型が認められ、Ⅲ層ではウシクサ族型も認められたが、いずれも少量である。１流路㊲層ではイネ、ヨシ属、ススキ属型、



第 458 図　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果

ネザサ節型、メダケ節型、チマキザサ節型が認められたが、いずれもやや低い密度か低い密度である。

３）Ｐ３区（Ⅲｂ層 (試料７)、Ⅲｃ層 (試料８))

Ⅲｂ層ではイネとススキ属型が多く検出され、ネザサ節型とチマキザサ節型も比較的多い。他にキビ族型とメダケ節が少量認められた。Ⅲｃ層も概ね同様の組成であるが、Ⅲｂ層では検出されなかったヨシ属が多く認められた。

４）Ｐ４区（１流路③層 (試料９))

イネとススキ属型が多く検出され、ヨシ属、ネザサ節型、メダケ節型、チマキザサ節型が少量認められた。

５）Ｐ５区（６溝⑩層 (試料 10)、８流路⑱層 (試料 11)、２溝⑮層 (試料 12))

６溝⑩層では、イネ、ヨシ属、ススキ属型、ネザサ節型、メダケ節型、チマキザサ節型が検出された。ススキ属型とチマキザサ節型がやや多い以外は少量である。８流路⑱層では、チマキザサ節型が多く検出され、ヨシ属も多い。他にススキ属型、メダケ節型が少量認められた。２溝⑮層では、植物珪酸体はほとんど認められなかった。

６）Ｐ６区（２溝⑬層 (試料 13))

イネ、ヨシ属、ススキ属型、ネザサ節型、メダケ節型、チマキザサ節型が検出されたが、いずれもやや低いか低い密度である。

７）Ｐ７区（Ⅳ層 (試料 14))

ヨシ属とチマキザサ節型が多く検出され、イネ、ススキ属型、ネザサ節型、メダケ節型なども少量

第 105 表　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果（１）

検出密度（単位：× 100 個 /g）

分類群（和名・学名）			P1 区			P2 区		
			Ⅵb 層	Ⅶe 層	１流路⑥層	Ⅲ層	Ⅳb 層	１流路㊲層
イネ科	Gramineae (Grasses)							
イ　ネ		Oryza sativa	69	46	30	32	46	18
キビ族型		Paniceae type	5	5		5	5	
ヨシ属		Phragmites		14		5	5	13
シバ属型		Zoysia type				5	5	
ススキ属型		Miscanthus type	42	37	35	23	37	18
ウシクサ族型		Andropogoneae type	5			5		
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)							
ネザサ節型		Pleioblastus sect. Nezasa	9	14		18	9	4
メダケ節型		Pleioblastus sect. Nipponocalamus	14	14		9	9	18
チマキザサ節型		Sasa sect. Crassinodi	19	9	35	23	46	31
その他		Others	23	23	10	18	14	4
未分類等	Unknown		106	111	104	91	93	63
植物珪酸体総数			292	273	214	234	269	169

おもな分類群の推定生産量（単位：kg /㎡・cm）

イ　ネ		Oryza sativa	2.04	1.36	0.87	0.93	1.36	0.53
ヨシ属		Phragmites		0.87		0.29	0.29	0.85
ススキ属型		Miscanthus type	0.52	0.46	0.43	0.28	0.46	0.22
ネザサ節型		Pleioblastus sect. Nezasa	0.04	0.07		0.09	0.04	0.02
メダケ節型		Pleioblastus sect. Nipponocalamus	0.16	0.16		0.11	0.11	0.21
チマキザサ節型		Sasa sect. Crassinodi	0.14	0.07	0.26	0.17	0.34	0.23

第 106 表　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果（２）

検出密度（単位：× 100 個 /g）

分類群（和名・学名）		P3 区		P4 区	P5 区			P6 区	P7 区
		Ⅲb 層	Ⅲc 層	１流路③層	６溝⑩層	８流路⑱層	２溝⑮層	２溝⑬層	Ⅳ層
イネ科	Gramineae (Grasses)								
イ　ネ		79	56	39	5			9	15
キビ族型		5	5						
ヨシ属			37	5	18	38		14	44
シバ属型									
ススキ属型		51	51	44	28	9		23	20
ウシクサ族型									
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)								
ネザサ節型		37	37	10	9			19	5
メダケ節型		9	23	19	9	5		9	5
チマキザサ節型		37	19	19	37	85		14	59
その他		14	9	15	23	24		5	5
未分類等	Unknown	112	102	97	50	62	4	70	54
植物珪酸体総数		344	339	248	179	223	4	163	207

おもな分類群の推定生産量（単位：kg /㎡・cm）

イ　ネ		2.33	1.64	1.14	0.13			0.28	0.43
ヨシ属			2.34	0.31	1.16	2.40		0.89	2.78
ススキ属型		0.64	0.63	0.54	0.34	0.12		0.29	0.24
ネザサ節型		0.18	0.18	0.05	0.04			0.09	0.02
メダケ節型		0.11	0.27	0.22	0.11	0.06		0.11	0.06
チマキザサ節型		0.28	0.14	0.14	0.27	0.63		0.10	0.43

認められた。

５．考察

植物珪酸体分析において稲作跡の探査や検証を行うにあたっては、通常、イネの植物珪酸体が試料１ｇあたり 5,000 個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断

している（杉山，2000）。なお、近年の調査では密度が3,000個/g程度あるいはそれ未満であっても水田遺構が検出された事例が報告されていることから、ここでは3,000個/gを基準値とする。一方、ヨシ属やマコモ属は湿地や湿ったところに生育し、ススキ属の多くやタケ亜科は比較的乾いたところに生育する。そこで、これらの植物の産出状況を検討することで、堆積当時の植生や環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。

以上のことを参考にして、稲作の可能性と堆積時の植生と環境を検討する。

１）Ｐ１区（Ⅵｂ層(試料１)、Ⅶｅ層(試料２)、１流路⑥層(試料３)

すべての層でイネが検出されている。Ⅵｂ層では6,900個/gと高い密度であり、Ⅶｅ層でも4,600個/gと比較的高い密度である。いずれも稲作跡の判断基準を満たしていることから、Ⅵｂ層とⅦｅ層では調査地において稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。一方、１流路⑥層でも密度が3,000個/gと比較的高い値である。調査地は流路であり耕作地とは考えにくいことから、⑥層堆積時は１流路の近辺で稲作が営まれていたと考えられる。

イネ以外の分類群では、Ⅵｂ層と１流路⑥層でススキ属型が優勢であり、湿地の環境の指標となるヨシ属やマコモ属は認められない。こうしたことから、Ⅵｂ層や１流路⑥層の時期の調査地は比較的乾いた環境であり、調査地や周辺にはススキやタケ・ササ類が生育していたとみられる。Ⅶｅ層ではヨシ属がやや多くみられることから、調査地周辺は湿った環境であったと推定される。

２）Ｐ２区（Ⅲ層(試料４)、Ⅳｂ層(試料５)、１流路㊲層(試料６)）

すべての層でイネが検出されている。Ⅲ層では3,200個/g、Ⅳｂ層では4,600個/gと比較的高い密度であり、それぞれ稲作跡の判断基準を満たしている。このことから、Ⅲ層とⅣｂ層では調査地において稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。１流路㊲層でも密度が1,800個/gである。Ｐ１区同様に㊲層堆積時は、１流路の近辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

イネ以外の分類群では、各層ともススキ属型がやや優勢であり、ヨシ属も少量認められる。こうしたことから、Ⅲ層、Ⅳｂ層、１流路㊲層の時期の調査地は比較的乾いた環境であり、調査地や周辺にはススキやタケ・ササ類が生育していたとみられる。

３）Ｐ３区（Ⅲｂ層(試料７)、Ⅲｃ層(試料８)）

Ⅲｂ層とⅢｃ層の両層でイネが検出されている。密度はそれぞれ7,900個/g、5,600個/gといずれも高い値であり、稲作跡の判断基準値を超過している。こうしたことから、Ⅲｂ層とⅢｃ層については調査地において稲作が行われていた可能性が高いと判断される。

イネ以外の分類群では、Ⅲｂ層ではススキ属型が多く、次いでネザサ節型やチマキザサ節型が比較的多い。一方、Ⅲｃ層ではススキ属型とヨシ属が多く、ネザサ節型が比較的多い。こうしたことから、Ⅲｂ層の時期の調査地は比較的乾いた環境であり、調査地や周辺にはススキやタケ・ササ類が生育していたとみられる。Ⅲｃ層の時期は湿った環境であり、周辺の乾いたところにはススキやタケ・ササ類が生育していたとみられる。

４）Ｐ４区（１流路③層(試料９)）

１流路③層では、イネが3,900個/gと比較的高い密度であり、稲作跡の判断基準を満たしている。したがって、Ｐ１区、Ｐ２区と同様に１流路③層堆積時は１流路の近辺で稲作が営まれていたと判断される。

イネ以外では、ススキ属型が優勢であり、ヨシ属、ネザサ節型、メダケ節型、チマキザサ節型が少

量である。以上のことから、１流路③層の時期の調査地は比較的乾いた環境であり、調査地や周辺にはススキやタケ・ササ類が生育していたとみられる。

５）Ｐ５区（６溝⑩層 (試料 10)、８流路⑱層 (試料 11)、２溝⑮層 (試料 12))

Ｐ５区では、６溝⑩層のみでイネが検出されているが、密度は 500 個 /g と少量である。このことから、積極的に肯定することはできないものの、６溝⑩層堆積時には６溝周辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。なお、８流路⑱層と２溝⑮層の時期については、周辺で稲作が行われていた痕跡は認められない。

イネ以外では、６溝⑩層ではヨシ属が優勢であり、ススキ属型とチマキザサ節型が比較的多く認められる。８流路⑱層ではチマキザサ節型が優勢であり、ヨシ属も比較的多い。これらのことから、調査地は６溝⑩層の時期は湿った環境であり、８流路⑱層の時期は湿地の環境であったと推定される。なお、周辺の乾いたところにはススキやタケ・ササ類が生育していたとみられる。

６）Ｐ６区（２溝⑬層 (試料 13))

２溝⑬層では、イネが 900 個 /g と少量ではあるが検出されている。Ｐ５区６溝⑩層同様、積極的ではないが２溝⑬層堆積時は２溝周辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

イネ以外では、ヨシ属やススキ属型がやや多いことから、２溝⑬層の時期の調査地は湿った環境であり、周辺の乾いたところにはススキやタケ・ササ類が生育していたとみられる。

７）Ｐ７区（Ⅳ層 (試料 14))

Ⅳ層では、イネが 1,500 個 /g とやや低い密度で検出されている。稲作跡の判断基準値には達していないことから、調査地において稲作が行われていた可能性を積極的には肯定できない。仮にここで稲作が行われていたとするならば、植物珪酸体密度が低いことの要因としては、１）稲作が行われた期間が短かった、２）稲の生産性が低かった、３）試料採取箇所が畦畔など耕作面でなかった、４）土層の堆積速度が速かった、などが考えられる。

イネ以外では、ヨシ属が高い密度であり、ススキ属型も認められる。こうしたことから、Ⅳ層の時期の調査地は湿地の環境であり、周辺の乾いたところにはススキやタケ・ササ類が生育していたとみられる。

６．まとめ

石塚廃寺東遺跡における稲作の可能性と周辺環境を検討する目的で植物珪酸体分析を行った。その結果、Ｐ１区のⅥｂ層とⅦｅ層、Ｐ２区のⅢ層とⅣｂ層、Ｐ３区のⅢｂ層とⅢｃ層では、調査地において稲作が営まれていた可能性が高いと判断された。また、Ｐ１区の１流路⑥層、Ｐ２区の１流路㊲層、Ｐ４区の１流路③層では、堆積時に流路近辺で稲作が行われていた可能性が認められた。さらに、Ｐ５区の６溝⑩層、Ｐ６区の２溝⑬層でも、堆積時に流路周辺で稲作が行われていた可能性が考えられた。各層の時期の調査地は概ね乾いた環境であったが、Ｐ３区のⅢｃ層、Ｐ５区の８流路⑱層、Ｐ７区のⅣ層の時期は湿地の環境であり、Ｐ１区のⅦｅ層、Ｐ２区の１流路㊲層、Ｐ５区の６溝⑩層、Ｐ６区の２溝⑬層の時期は湿った環境であったと推定された。

【参考文献】

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.
杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－．考古学と自然科学，19，p.69-84.
藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) －数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.
藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) －プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

第３項　石塚廃寺東遺跡Ｐ４～７区の花粉分析

１．はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

ここでは、石塚廃寺東遺跡における植生や堆積環境を検討する目的で花粉分析を行う。

２．試料

分析試料は、流路を主に採取された試料で、Ｐ４区１流路③層（試料９）、Ｐ５区６溝⑩層（試料10）、Ｐ５区８流路⑱層（試料11）、Ｐ５区２溝⑮層（試料12）、Ｐ６区２溝⑬層（試料13）、Ｐ７区Ⅳ層（試料14）の計６点である。試料採取箇所を第52・57・65・73図に示す。

３．方法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）試料から１cm^3を採量
２）0.5％リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎
３）水洗処理の後、0.25mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去
４）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置
５）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を実施
６）再び氷酢酸を加えて水洗処理
７）沈渣にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製
８）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡（Nikon ECLIPSE Ci）によって300～1000倍で行った。花粉の分類は同

定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。同定分類は､所有の現生花粉標本､島倉（1973)､中村（1980）を参照して行った。イネ属については、チール石炭酸フクシンで染色を施すことにより特徴がより鮮明になるため、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定している。なお、花粉分類では樹木花粉（AP）および非樹木花粉（NAP）となるが非樹木花粉（NAP）は草本花粉として示した。

４．結果

（1）分類群

産出した分類群は、樹木花粉 28、樹木花粉と草本花粉を含むもの５、草本花粉 22、シダ植物胞子２形態の計 57 分類群である。これらの学名と和名および粒数を第 107 ・ 108 表に示し、花粉数が 100 個以上計数できた試料については、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第 459 図に示す。主要な分類群は顕微鏡写真（図版 327）に示した。同時に、寄生虫卵についても検鏡した結果、２分類群が検出された。以下に産出した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、マツ属単維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤナギ属、サワグルミ、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、アカメガシワ、ウルシ属、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、ノブドウ、ツツジ科、トネリコ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、ユキノシタ科、バラ科、マメ科、ニワトコ属－ガマズミ属

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属、オモダカ属、イネ科、イネ属、カヤツリグサ科、ホシクサ属、ツユクサ、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科－ヒユ科、キンポウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、キカシグサ属、アリノトウグサ属－フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

〔寄生虫卵〕

鞭虫、日本海裂頭条虫

以下にこれらの特徴を示す。

・鞭虫　Trichuris　trichiura

卵の大きさは、50 × 30μmでレモン形あるいは岐阜ちょうちん形で、卵殻は厚く褐色で両端に無色の栓がある。糞便とともに外界に出た虫卵は、３～６週間で感染幼虫包蔵卵になり経口感染する。鞭虫は、世界に広く分布し、現在ではとくに熱帯・亜熱帯の高温多湿な地域に多くみられる。

・日本海裂頭条虫　Diphyllobothrium　nihonkaiense

第 107 表　花粉分析結果（1）

Taxa(分類群)			P4 区	P5 区			P6 区	P7 区
			１流路	６溝	８流路	２溝	２溝	
	Scientific name(学名)	Japanese name(和名)	③層	⑩層	⑱層	⑮層	⑬層	Ⅳ層
Arboreal pollen	樹木花粉							
	Abies	モミ属	1	1			2	
	Tsuga	ツガ属	1	2				
	Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属	8	5	1		13	
	Pinus subgen. Haploxylon	マツ属単維管束亜属					1	
	Cryptomeria japonica	スギ	44	50	23		22	
	Sciadopitys verticillata	コウヤマキ	1					
	Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae	イチイ科 - イヌガヤ科 - ヒノキ科	23	6	5		7	
	Salix	ヤナギ属	1		1		1	
	Pterocarya rhoifolia	サワグルミ		2			1	
	Platycarya strobilacea	ノグルミ	1					
	Alnus	ハンノキ属	1		3		2	
	Betula	カバノキ属	4	1	1		7	
	Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属 - アサダ	2	9	1		5	
	Castanea crenata	クリ	11	13	109		32	1
	Castanopsis	シイ属	8	12	8		7	
	Fagus	ブナ属	5				7	
	Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	25	26	12		15	1
	Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	13	28	5		10	
	Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属 - ケヤキ	4	10	3		2	
	Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属 - ムクノキ	3	2				
	Mallotus japonicus	アカメガシワ					1	
	Rhus	ウルシ属					1	
	Acer	カエデ属		1	1		1	
	Aesculus turbinata	トチノキ	5	25	54		3	
	Vitis	ブドウ属	1				1	
	Ampelopsis brevipedunculata	ノブドウ			1			
	Ericaceae	ツツジ科					1	
	Fraxinus	トネリコ属	1					
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉							
	Moraceae-Urticaceae	クワ科 - イラクサ科	16	7	5		8	
	Saxifragaceae	ユキノシタ科	1					
	Rosaceae	バラ科					1	
	Leguminosae	マメ科	2				3	
	Sambucus-Viburnum	ニワトコ属 - ガマズミ属	2	1			1	
Nonarboreal pollen	草本花粉							
	Typha-Sparganium	ガマ属 - ミクリ属					1	
	Sagittaria	オモダカ属	3				1	
	Gramineae	イネ科	76	31	11		89	
	Oryza	イネ属	41	4			48	
	Cyperaceae	カヤツリグサ科	45	20	4		25	
	Eriocaulon	ホシクサ属	2					
	Commelina commuris	ツユクサ	1					
	Monochoria	ミズアオイ属	1				1	
	Polygonum sect. Persicaria	タデ属サナエタデ節	2	1				
	Rumex	ギシギシ属	4				1	
	Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科 - ヒユ科		1				
	Ranunculus	キンポウゲ属	1				2	
	Thalictrum	カラマツソウ属	1					
	Cruciferae	アブラナ科	3	1			2	
	Impatiens	ツリフネソウ属		15	1		1	
	Rotala	キカシグサ属					4	
	Haloragis-Myriophyllum	アリノトウグサ属 - フサモ属					4	
	Hydrocotyloideae	チドメグサ亜科	1					
	Apioideae	セリ亜科	1	1	1			
	Lactucoideae	タンポポ亜科	2	1	1		6	
	Asteroideae	キク亜科	2	2	1		8	
	Artemisia	ヨモギ属	28	41	70		32	2
	Arboreal pollen	樹木花粉	163	193	228	0	142	2
	Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	21	8	5	0	13	0
	Nonarboreal pollen	草本花粉	214	118	89	0	225	2

卵の大きさは、66 ～ 75 × 45 ～ 53μm で楕円形、卵殻はやや厚く一端に小蓋がある。ケンミジンコ類などの第１中間宿主を経て、第２中間宿主のマスやサケの生食によって感染する。特に日本においては淡水河川から出て海洋を廻遊し最後に生まれた河川に戻る Oncorhynchus 属（サクラマス）の

第 108 表　花粉分析結果（２）

Taxa(分類群)			P4 区	P5 区			P6 区	P7 区
			１流路	６溝	８流路	２溝	２溝	
Scientific name(学名)		Japanese name(和名)	③層	⑩層	⑱層	⑮層	⑬層	Ⅳ層
Total pollen	花粉総数		398	319	322	0	380	4
Pollen frequencies of 1cm^3	試料 1cm^3 中の花粉密度		4.6 × 10 4	1.1 × 10 4	7.3 × 10 3	- -	2.1 × 10 4	0.4 × 10 2
Unknown pollen		未同定花粉	8	11	14	0	9	0
Fern spore	シダ植物胞子							
Monolate type spore		単条溝胞子	18	20	67	0	21	0
Trilate type spore		三条溝胞子	10	8	35	0	11	0
Total Fern spore	シダ植物胞子総数		28	28	102	0	32	0
Parasite eggs	寄生虫卵							
Trichuris(trichiura)		鞭虫卵					1	
Diphyllobothrium nihonkaiense		日本海裂頭条虫卵	1					
Total		計	1	0	0	0	1	0
Parasite eggs frequencies of 1cm^3	試料 1cm^3 中の寄生虫卵密度		1.5 × 10	- -	- -	- -	1.9 × 10	- -
Stone cell	石細胞		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimains	明らかな消化残渣		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal・woods fragments	微細炭化物・微細木片		(+)	(+)	(++)	(<+)	(+)	(<+)
微細植物遺体 (Charcoal・woods fragments)		（× 105）						
未分解遺体片			0.8	1.4	1.4		2.0	
分解質遺体片			24.3	31.9	50.2		19.8	1.4
炭化遺体片（微粒炭）							1.0	

ような魚類が第２中間宿主となり、プレロセルコイドが筋肉内だけに分布する特徴を持つ。日本海裂頭条虫は、北海道や本州の北半分に多いが、その他の地方にも散在する。ここでは小蓋は欠落している。

（２）花粉群集の特徴

１）Ｐ４区１流路③層（試料９）

草本花粉が 50%、樹木花粉が 38%、樹木・草本花粉が５％、シダ植物胞子が７％を占める。草本花粉では、イネ科、イネ属、カヤツリグサ科、ヨモギ属が多く、オモダカ属、ホシクサ属、ミズアオイ属が産出する。樹木花粉では、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属がやや多い。樹木・草本花粉では、クワ科－イラクサ科が出現する。日本海裂頭条虫卵がわずかに検出される。

２）Ｐ５区６溝⑩層（試料 10）

樹木花粉が 56%、草本花粉が 34%、樹木・草本花粉が２％、シダ植物胞子が８％を占める。樹木花粉では、スギを主にコナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属が比較的多く、クリ、シイ属、クマシデ属－アサダ、ニレ属－ケヤキなどが伴われる。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科、カヤツリグサ科、ツリフネソウ属が産出する。

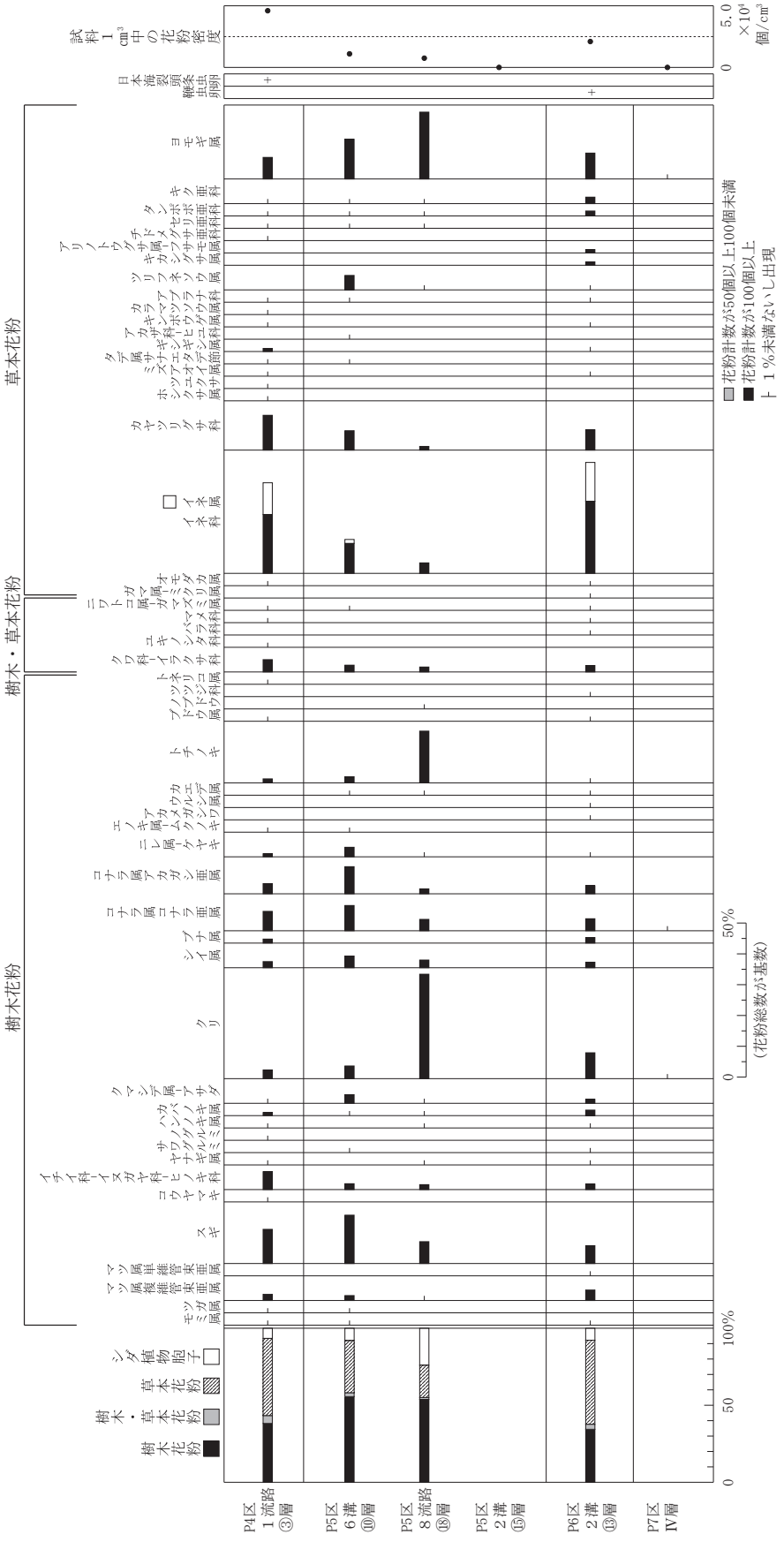
３）Ｐ５区８流路⑱層（試料 11）

樹木花粉が 54%、草本花粉が 21%、樹木・草本花粉が１％、シダ植物胞子が 24%を占める。樹木花粉では、クリが高率であり、次にトチノキが多く、スギ、コナラ属コナラ亜属、シイ属が産出する。草本花粉では、ヨモギ属の出現率が高く、イネ科が低率で産出する。

４）Ｐ５区２溝⑮層（試料 12）

花粉、シダ植物胞子ともに検出されなかった。

５）Ｐ６区２溝⑬層（試料 13）



第 459 図　花粉ダイアグラム

草本花粉が 55%、樹木花粉が 34%、樹木・草本花粉が３％、シダ植物胞子が８％を占める。草本花粉では、イネ科、イネ属が多く、ヨモギ属、カヤツリグサ科が伴われ、オモダカ属、ミズアオイ属

が産出する。樹木花粉では、クリ、スギ、マツ属複維管束亜属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属などが低率に産出する。また、鞭虫卵がわずかに検出される。

６）Ｐ７区Ⅳ層（試料 14）

花粉密度が極めて低く、ヨモギ属、クリ、コナラ属コナラ亜属がわずかに産出する。

５．花粉分析から推定される植生と環境

１）Ｐ４区１流路③層（試料９）

イネ属が水田雑草のカヤツリグサ科、オモダカ属、ホシクサ属、ミズアオイ属を伴って産出することから、周辺に水田が分布していたと判断される。したがって、当該流路は農耕用に利用されたものと考えられる。流路の周囲にはイネ科やカヤツリグサ科も分布するが、カラムシやカナムグラなどのクワ科－イラクサ科、ヨモギ属のやや乾燥を好む耕地雑草も生育していた。堆積地周辺の丘陵地ないし台地には、ナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹とコナラ属アカガシ亜属などの照葉樹が生育し、地域的な森林要素としては、山地にはスギ林とイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が分布していた。わずかに検出される日本海裂頭条虫卵は、サケ科を摂食することで感染する寄生虫症で、生活汚水などとともに流路へ流れ込んだとみなされる。

２）Ｐ５区６溝⑩層（試料 10）

花粉組成と構成は、Ｐ４区１流路③層と類似した傾向を示すが、イネ属が少なくツリフネソウ属がやや多い。ツリフネソウ属はやや清水を好み、山地や林縁に近い流路沿いに生育する草本で、山地から清水性の水が流れていたと推定される。周辺の森林植生は、Ｐ４区１流路③層と類似し、時期が同じと考えられる。

３）Ｐ５区８流路⑱層（試料 11）

クリの産出率が高く、トチノキと草本のヨモギ属が比較的多い。クリは温帯に広く分布し、冷温帯と暖温帯の中間域で純林を形成するが､二次林種でもある。比較的乾燥した水はけのよい環境を好み、果実は優良な食物として利用される。近接する丘陵地から台地の裾部にかけて、ヨモギ属の草本とクリ二次林が分布し、いずれも植生が壊された二次植生で水はけのよい環境であった。一方、低地部は湿潤化しトチノキの湿地林が分布していた。

４）Ｐ５区２溝⑮層（試料 12）

花粉が検出されないことから、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す環境であったか、堆積速度が速く花粉が集積できなかったと推定される。当該溝は、季節的に引水される農耕用であった可能性がある。

５）Ｐ６区２溝⑬層（試料 13）

イネ属が水田雑草のカヤツリグサ科、オモダカ属、ミズアオイ属を伴って産出することから、周囲に水田の分布が示唆される。したがって、当該溝は農耕用に利用されたと推定される。溝の周辺にはイネ科、カヤツリグサ科をはじめ、ヨモギ属とカラムシ、カナムグラなどのクワ科－イラクサ科の乾燥を好む草本も生育していた。近隣の丘陵地から台地には、クリ、コナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹、コナラ属アカガシ亜属などの照葉樹、山地には、スギ、マツ属複維管束亜属の針葉樹が分布していた。わずかに検出される鞭虫卵は、生活汚染程度の密度で、近接して生活域の分布が示唆される。

鞭虫症は、中間宿主を介さず感染する種で、汚染された生水、生野菜、調理器具から感染し、蔓延する。

６）Ｐ７区Ⅳ層（試料 14）

花粉密度が極めて低く、花粉などの有機質遺体が分解される乾燥ないし乾湿を繰り返す環境であったか、堆積速度が速く花粉が集積できなかったと推定される。遺構は掘立柱建物であり、乾燥した環境であったと考えられる。わずかに産出するヨモギ属、クリ、コナラ属コナラ亜属は、雑草として、あるいは孤立木として掘立柱建物の周囲に生育していたとみられる。

６．まとめ

Ｐ４区の１流路③層 、Ｐ５区の６溝⑩層、Ｐ６区の２溝⑬層は、樹木花粉の組成が類似しており、ほぼ同時期と考えられた。周辺の丘陵地ないし台地には、コナラ属コナラ亜属などの落葉広葉樹とコナラ属アカガシ亜属などの照葉樹が生育し、山地にはスギ林とイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が分布していた。Ｐ４区の１流路③層、Ｐ６区の２溝⑬層では、イネ属と水田雑草が共伴することから、周囲には水田が分布しており、ヨモギ属などの乾燥を好む草本も分布していた。こうしたことから、流路は農耕用と推定された。Ｐ５区の６溝⑩層では、清水を好むツリフネソウ属が生育し、生活用などに清水が引かれていた可能性が認められた。

Ｐ５区の８流路⑱層では、近接する丘陵地から台地の裾部にかけて、ヨモギ属の草本とクリ二次林が分布し、いずれも植生が壊された二次植生で水はけの良い環境であり、低地部は湿潤化しトチノキの湿地林が分布していた。Ｐ５区の２溝⑮層では、有機質遺体の分解が考えられ、季節的に引水される農耕用の溝であった可能性がある。Ｐ７区Ⅳ層は乾燥した環境で、周囲にはヨモギ属、クリ、コナラ属コナラ亜属が分布していた。

【参考文献】

土質工学会編（1979）土質試験法，p.2-5-1 ～ 2-5-23，4-2-1 ～ 4-3-11.

金原正明・金原正子（1993）石棺内の花粉分析および消化管内残渣の分析．斑鳩藤ノ木古墳第二・三次調査報告書，奈良県立橿原考古学研究所，p.18-26.

金原正明（1999）寄生虫．西田豊弘・松井　章編「考古学と動物学」，同成社，p.151-158.

金原正明･金原正子（1992）花粉分析および寄生虫．藤原京跡の便所遺構－藤原京７条１坊－，奈良国立文化財研究所，p.14-15.

金原正明・金原正子（2013）植生と農耕における土壌層分析の実証的研究，日本文化財科学会第 30 回大会研究発表会要旨集，日本文化財科学会，p.112-113.

金原正明･金原正子（2015）堆積物と植物遺体の総合的研究．日本文化財科学会第 32 回大会研究発表要旨集，日本文化財科学会，p.146-147.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集，大阪市立自然史博物館，60p.

中村純（1967）花粉分析．古今書院，232p.

中村純 (1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13，日本第四紀学会，p.187-193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，no.10，日本文化財科学会，p.21-30.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第 13 集，大阪市立自然史博物館，91p.

金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第 10 巻, 古代資料研究の方法, 木下正史編．角川書店, p.248-262.
金子清俊・谷口博一（1987）線形動物・扁形動物．医動物学 付 実験用動物学 新版臨床検査講座，8，医歯薬出版，p.9-134.
Warnock, P. J. and Reinhard, K. J.（1992）Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils.
Jounal of Archaeological Science, 19, p.231-245.

第２節　石塚廃寺東遺跡Ｐ２・３・５・６区出土漆製品の塗膜構造調査

株式会社吉田生物研究所

１．はじめに

鳥取県に所在する、石塚廃寺東遺跡から出土した漆製品５点について、その製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

２．調査資料

調査した資料は、第 109 表に示す中～近世の漆器椀５点である。

３．調査方法

第 109 表の資料本体の塗膜付着部分から数 mm 四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

次に、作製した塗膜断面プレパラートの導電性を上げて観察精度を上げる為に金 (Au) 蒸着を行い、日本電子株式会社製走査型電子顕微鏡 JSM-6010LA を用いて、塗膜混和物の元素同定を行った。

４．調査結果

（1）断面観察

塗膜断面の観察結果を、第 110 表と以下の文章に示す。

塗膜構造：下層から、木胎、下地、漆層が観察された。

下地：5 点とも濃褐色の柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地であった。

漆層：W12、W18、W21、W27 の 4 点は、黒色の地色は透明漆 1 層で、赤色の地色（W21 内面）は赤色漆 1 層であった。一方 W17 の内面は、透明漆 1 層の上に赤色漆 1 層が重なり、W17 の外面は

第 109 表　調査資料

遺物番号	品名	取上番号	図版番号	樹　種	概　　要
W12	漆器椀	P2 区 - №. 5	28	モクレン属	内外面ともに黒色の漆器の破片。
W17	漆器椀	P3 区 - №. 6	34	ケヤキ	内面赤色で外面は黒色地に赤色で文様が描かれた椀片。
W18	漆器椀	P3 区 - №. 3	39	クリ	内外両面ともに黒色の椀。高台内に赤色で「舎」
W21	漆器椀	P5 区 - №. 6	44	ブナ属	内面赤色で外面は黒色地に赤色で文様が描かれた椀片。
W27	漆器椀	P6 区 - №. 53	45	モクレン属	内外両面ともに黒色地に赤色で文様が描かれた椀。

透明漆 2 層が重なっていた。

顔料：W17 内面、W17 外面、W21 内面、W21 外面、W27 内面、W27 外面に赤色漆が見られた。これらのうち、W17 内面と W17 外面文様部の赤色漆には明確な粒子形状を呈して透明度の高い朱が見られた。W21 内面、W21 外面の赤色漆には、透明度の低いベンガラが見られた。W27 内面と W27 外面の赤色漆層の顔料は観察からは判断できなかった。

（2）EPMA 成分分析結果

データ（第 460 ～ 469 図：電子顕微鏡画像とスペクトル図）を添えて第 111 表に結果を示す。

以上の通り、赤色漆層に含まれた赤色顔料は、W17 内面と W17 外面は水銀（Hg）が検出されたので朱と判断される。W21 内面と W21 外面は鉄（Fe）が検出されたのでベンガラと判断される。これらの結果は、断面観察の結果と矛盾しない。断面観察で赤色顔料が特定できなかった W27 内面と W27 外面は水銀（Hg）が検出されたので朱と判断される。

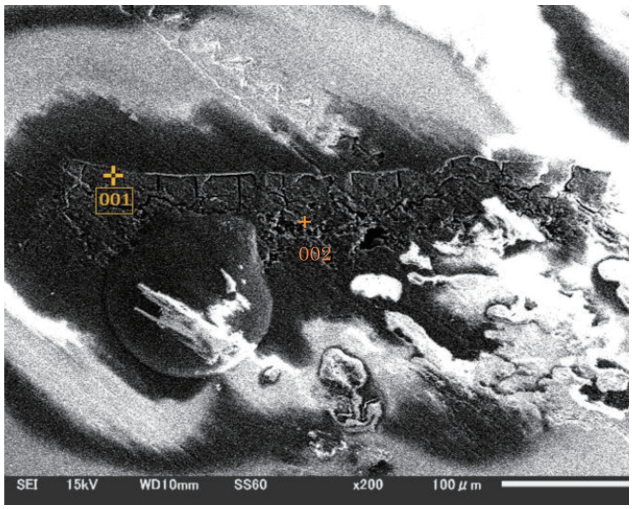
第 110 表　調査結果

遺物番号	器種	部位	挿図番号	塗膜構造（下層から）			
				下地		漆層構造	顔料
				膠着剤	混和材		
W12	椀	内面	460	柿渋	木炭粉	?	?
		外面	461	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層	—
W17	椀	内面	462	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層／赤色漆 1 層	朱
		外面	463	柿渋	木炭粉	透明漆 2 層／赤色漆 1 層	朱
W18	椀	内面	464	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層	—
		外面	465	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層	—
W21	椀	内面	466	柿渋	木炭粉	赤色漆 1 層	ベンガラ
		外面	467	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層／赤色漆 1 層	ベンガラ
W27	椀	内面	468	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層／赤色漆 1 層	?
		外面	469	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層／赤色漆 1 層	?

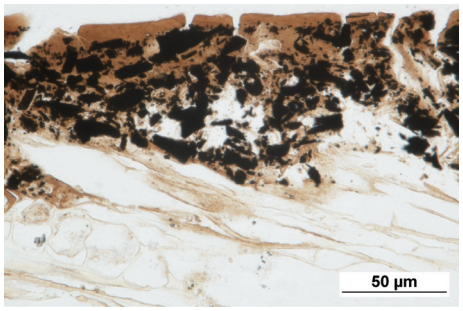
第 111 表　分析結果

元素	W12 内面		W12 外面		W17 内面		W17 外面		W18 内面	
	透明漆層	下地層	透明漆層	下地層	赤色漆層	下地層	赤色漆層	下地層	透明漆層	下地層
	No.1(wt%)	No.2(wt%)	No.1(wt%)	No.2(wt%)	No.1(wt%)	No.2(wt%)	No.1(wt%)	No.2(wt%)	No.1(wt%)	No.2(wt%)
C	54.13	76.49	78.94	51.48	31.95	81.22	23.68	67.48	75.74	58.73
N	—	—	—	21.79	—	—	—	—	—	18.85
O	34.47	18.85	21.06	20.89	4.48	16.63	2.88	27.24	24.26	21.86
Mg	—	0.71	—	—	—	—	—	0.82	—	—
Al	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Si	1.08	—	—	—	—	—	—	—	—	—
S	0.61	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ca	4.94	3.96	—	5.84	—	2.15	—	4.47	—	0.56
Fe	4.77	—	—	—	—	3.42	—	—	—	8.54
Hg	—	—	—	—	63.57	—	73.44	—	—	—

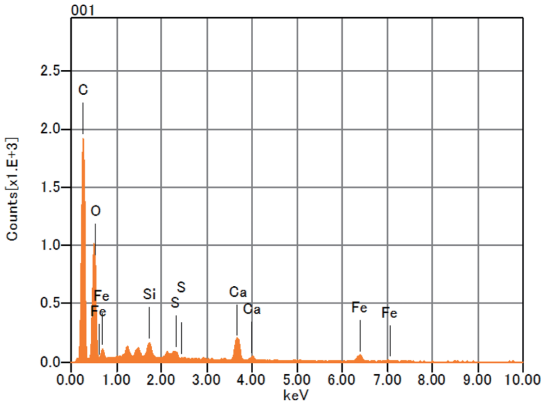
元素	W18 外面		W21 内面		W21 外面		W27 内面		W27 外面	
	透明漆層	下地層	赤色漆層	下地層	赤色漆層	下地層	赤色漆層	下地層	赤色漆層	下地層
	No.1(wt%)	No.2(wt%)	No.1(wt%)	No.2(wt%)	No.1(wt%)	No.2(wt%)	No.1(wt%)	No.2(wt%)	No.1(wt%)	No.2(wt%)
C	78.57	77.56	71.68	86.97	61	77.5	59.76	77.3	47.22	78.78
N	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
O	21.43	22.44	23.24	8.87	24.67	15.54	12.69	20.84	10.6	18.23
Mg	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Al	—	—	—	—	0.81	—	—	—	—	0.8
Si	—	—	1.27	—	1.19	—	—	—	—	—
S	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ca	—	—	—	4.16	—	—	—	1.86		2.2
Fe	—	—	3.81	—	12.33	6.96	—	—	—	—
Hg	—	—	—	—	—	—	27.55	—	42.18	—



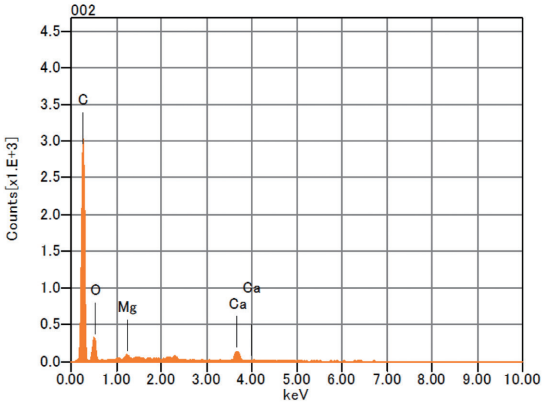
W12 内面



W12 内面の断面

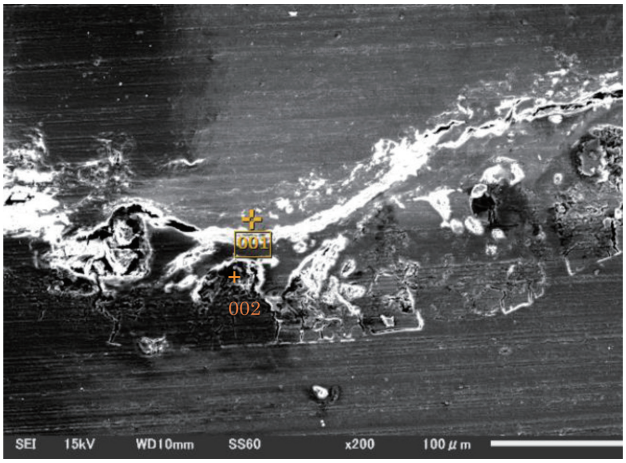


W12 内面　透明漆層

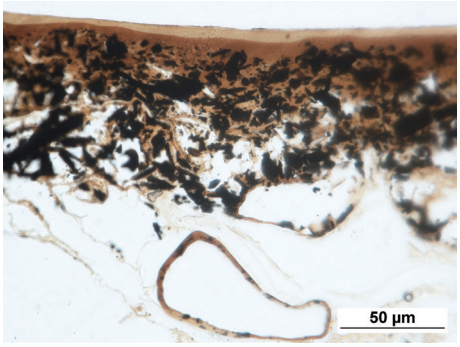


W12 内面　下地層

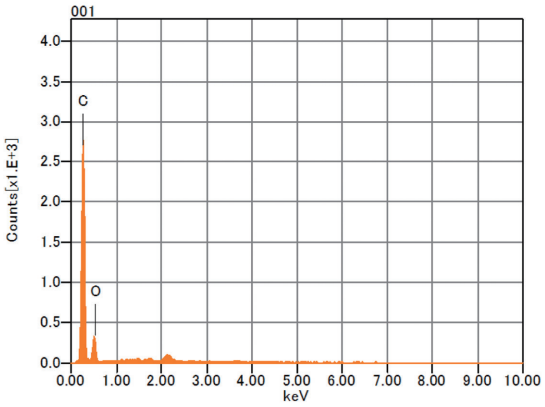
第 460 図　Ｐ２区出土 漆器椀 (W12) 内面



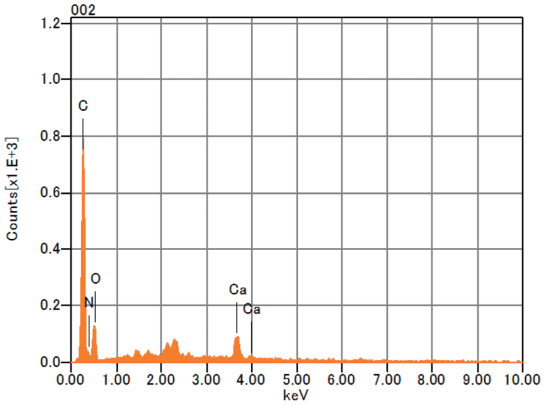
W12 外面



W12 外面の断面

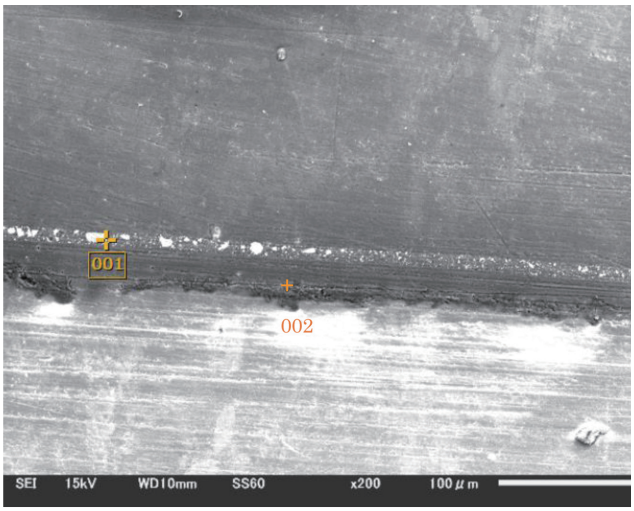


W12 外面　透明漆層

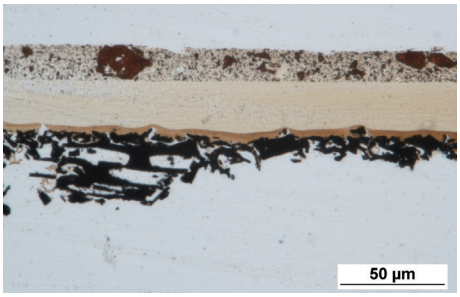


W12 外面　下地層

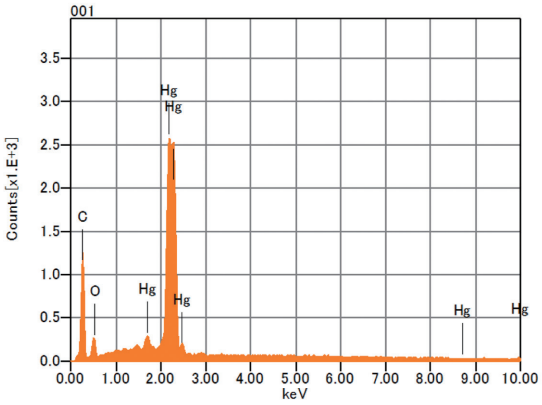
第 461 図　Ｐ２区出土 漆器椀 (W12) 外面文様部



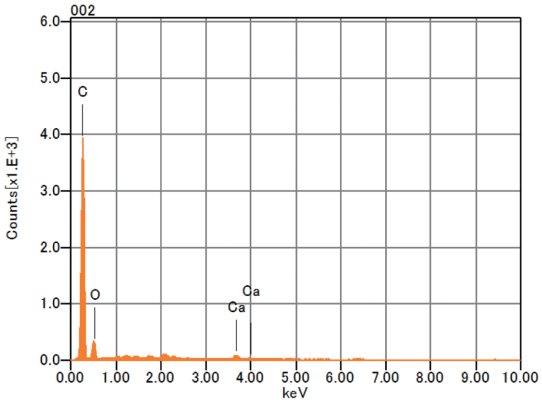
W17 内面



W17 内面の断面

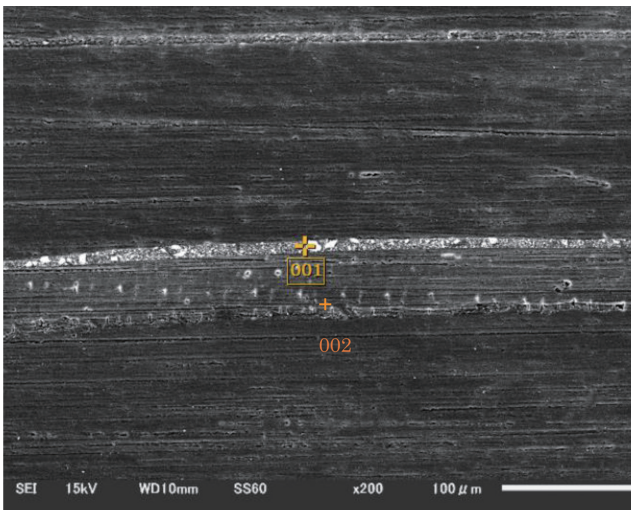


W17 内面　赤色漆層

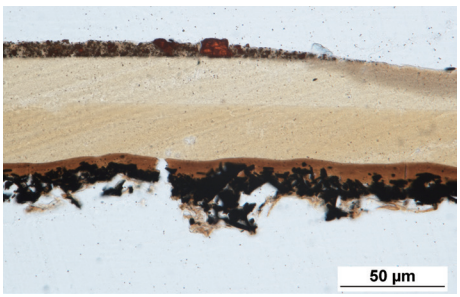


W17 内面　下地層

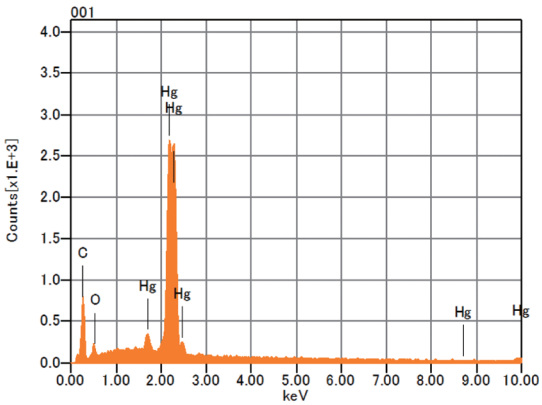
第 462 図　P３区出土 漆器椀 (W17) 内面



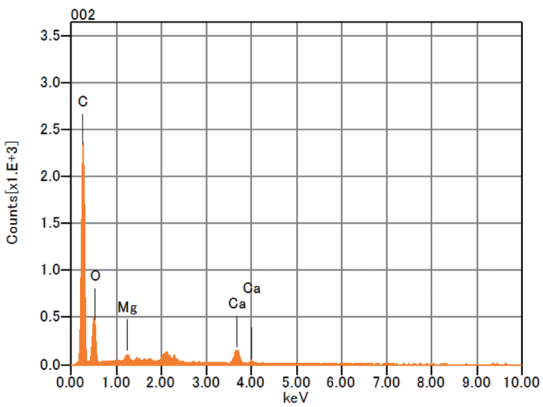
W17 外面文様部



W17 外面の断面

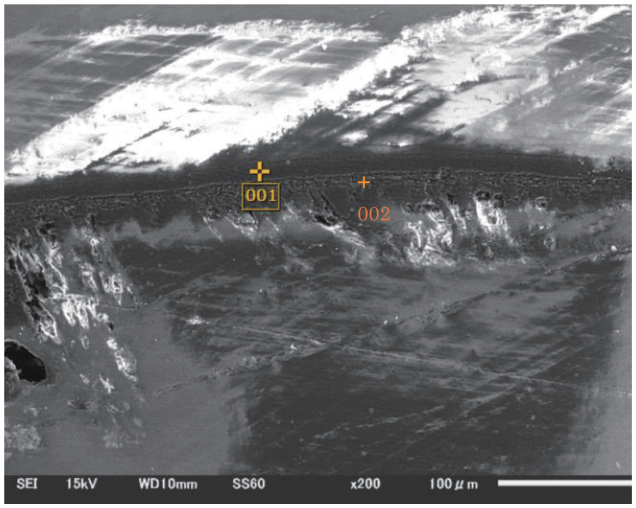


W17 外面　赤色漆層

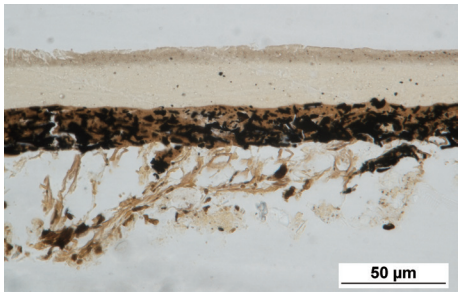


W17 外面　下地層

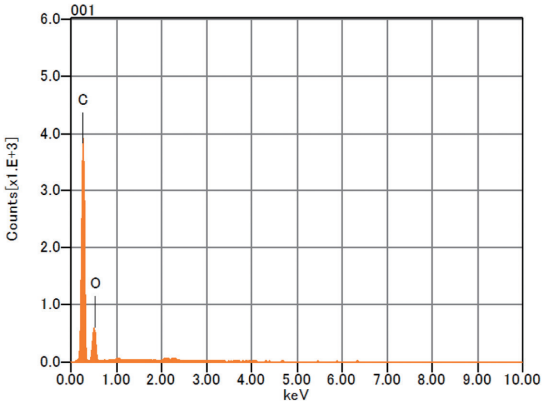
第 463 図　P３区出土 漆器椀 (W17) 外面文様部



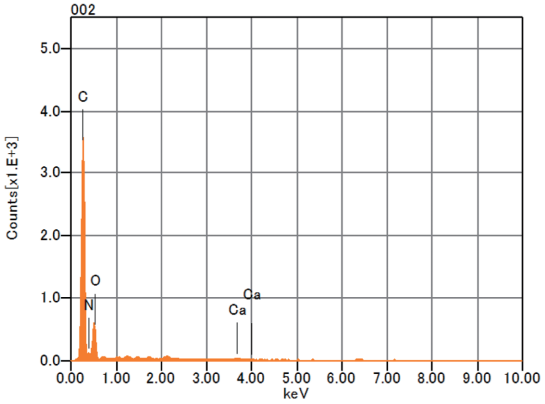
W18 内面



W18 内面の断面

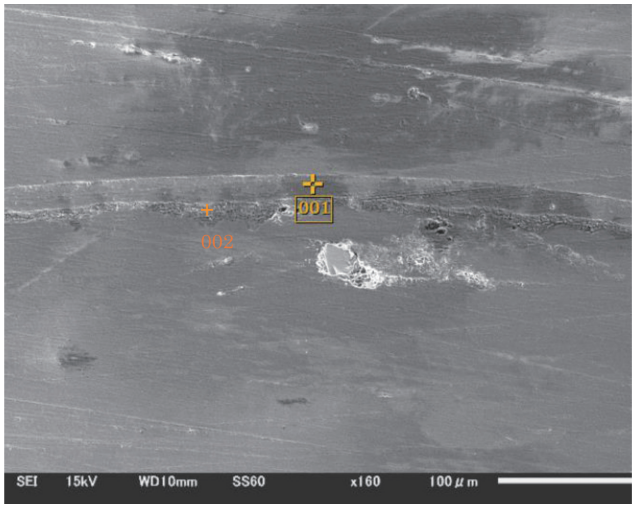


W18 内面　透明漆層

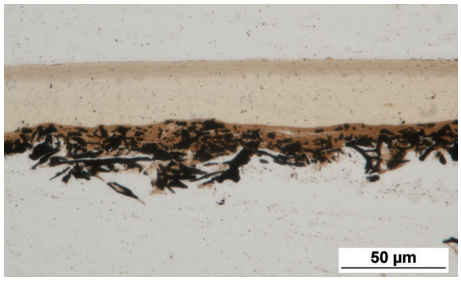


W18 内面　下地層

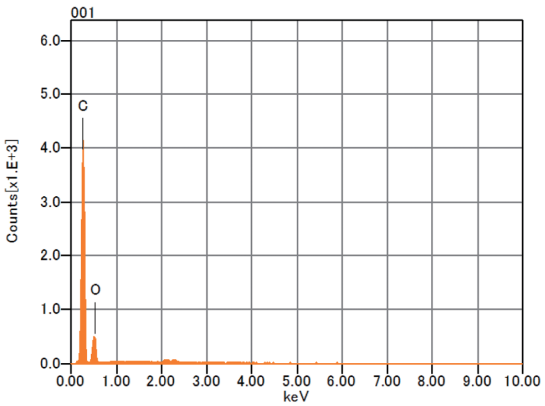
第 464 図　Ｐ３区出土 漆器椀 (W18) 内面



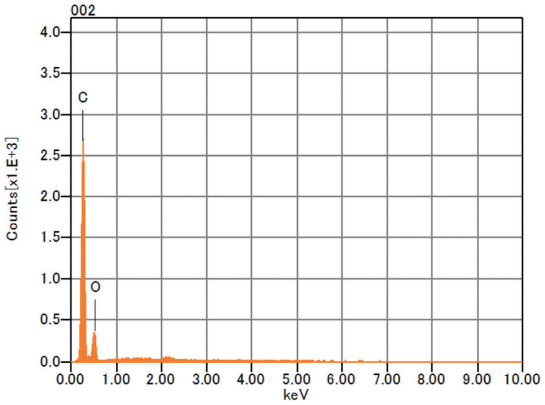
W18 外面（赤文未採取）



W18 外面の断面

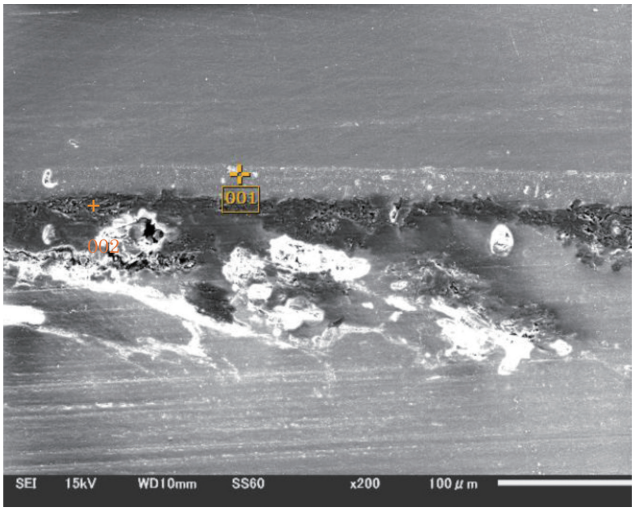


W18 外面　透明漆層

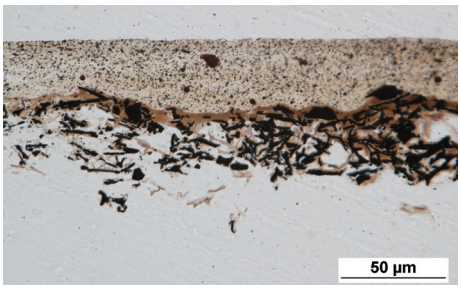


W18 外面　下地層

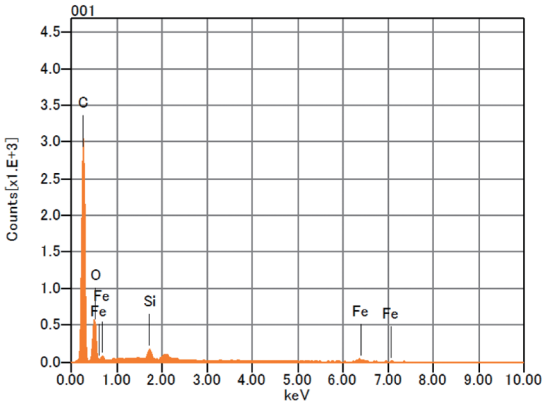
第 465 図　Ｐ３区出土 漆器椀 (W18) 外面（赤文未採取）



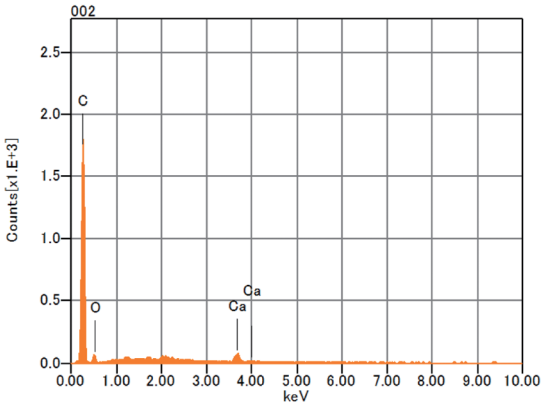
W21 内面



W21 内面の断面

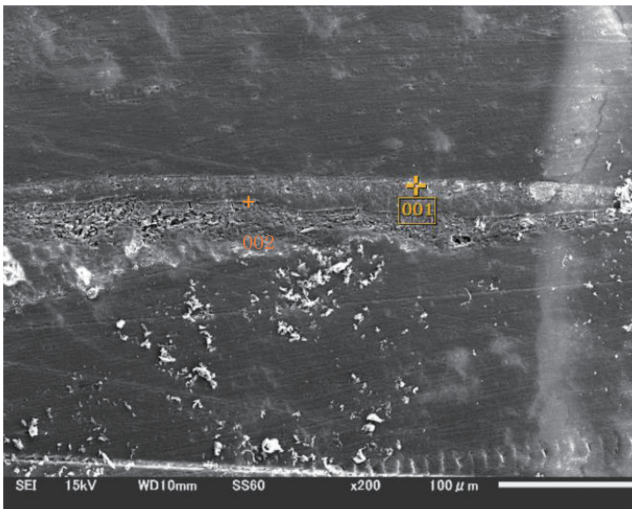


W21 内面　赤色漆層

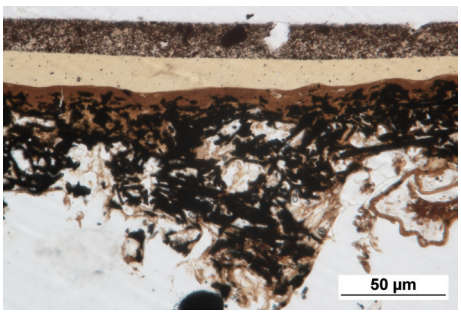


W21 内面　下地層

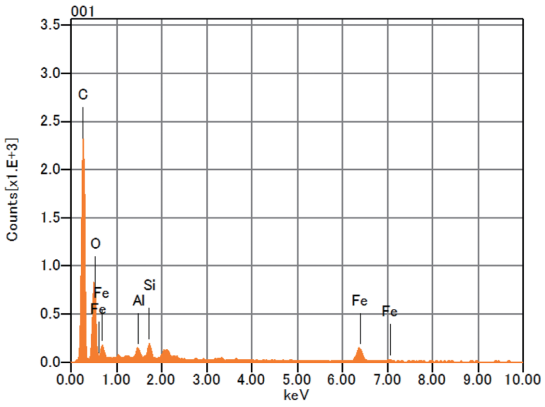
第 466 図　P５区出土 漆器椀 (W21) 内面



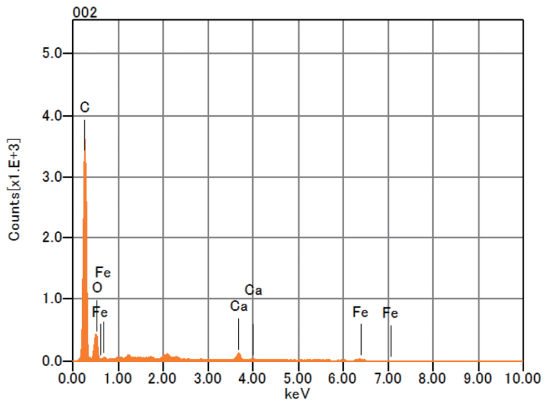
W21 外面文様部



W21 外面の断面

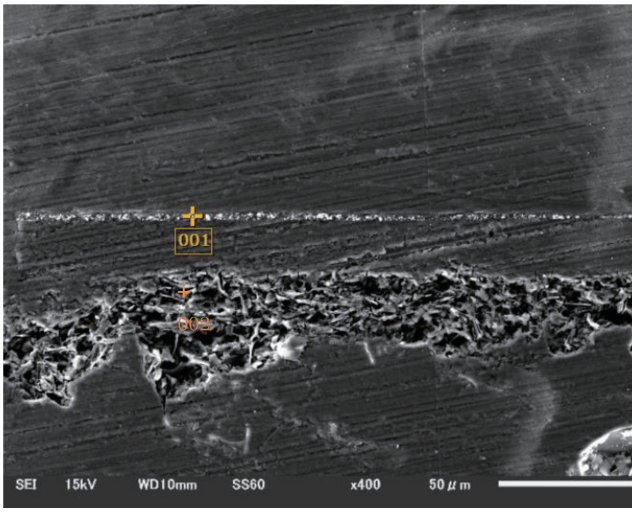


W21 外面　赤色漆層

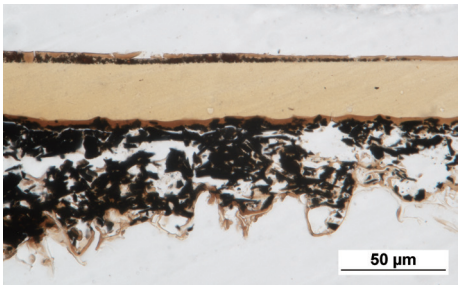


W21 外面　下地層

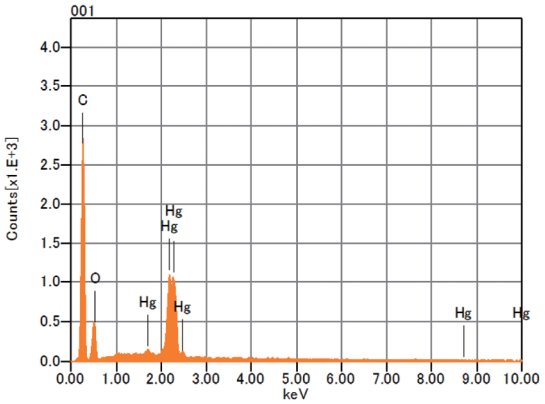
第 467 図　P５区出土 漆器椀 (W21) 外面文様部



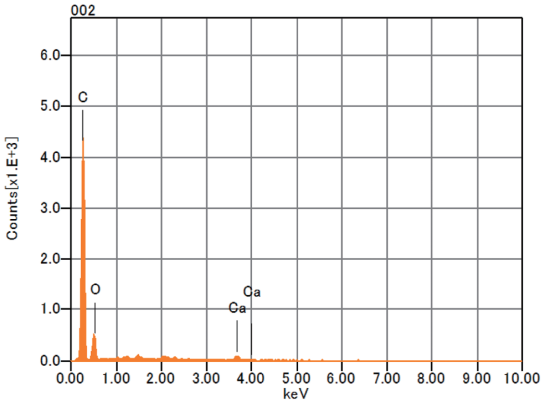
W27 内面



W27 内面の断面

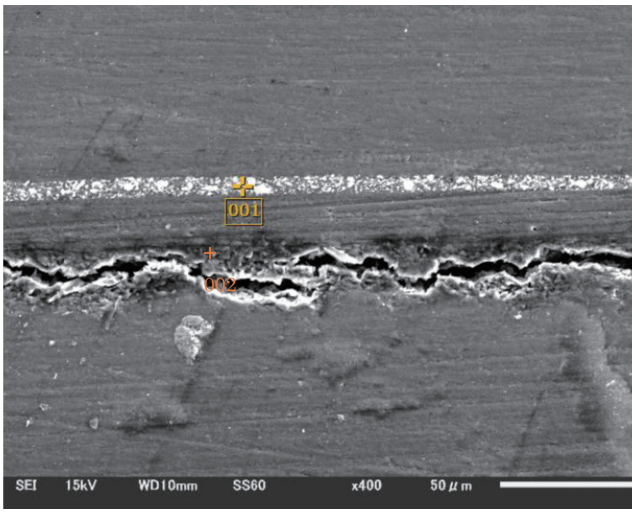


W27 内面　赤色漆層

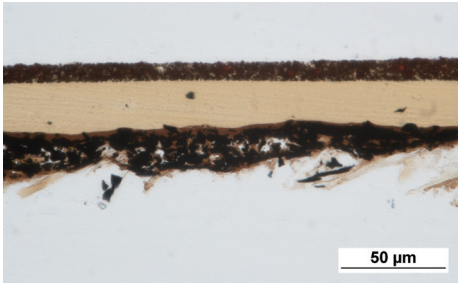


W27 内面　下地層

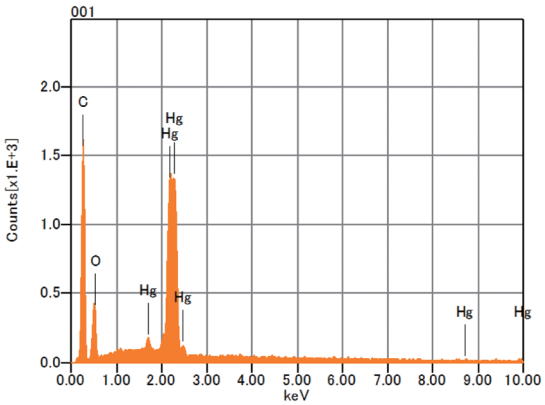
第 468 図　Ｐ６区出土 漆器椀 (W27) 内面文様部



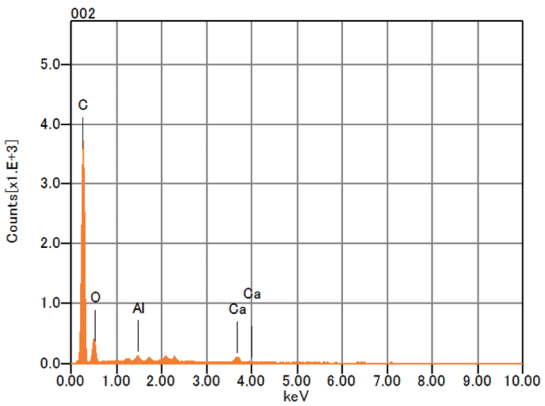
W27 外面文様部



W27 外面の断面



W27 外面　赤色漆層



W27 外面　下地層

第 469 図　Ｐ６区出土 漆器椀 (W27) 外面文様部

５．摘要

鳥取県に所在する、石塚廃寺東遺跡から出土した漆製品５点について、塗膜構造調査を行った。

今回調査した漆器の樹種は、モクレン属２点、クリ１点、ブナ属１点、ケヤキ１点であった。それらの木胎の上に、下地は全点ともに炭粉渋下地が施されていた。その上に、モクレン属、クリ、ブナ属の木胎には、地色の漆が１層塗布されて文様があるものにはベンガラ漆で文様が描かれた。ケヤキの木胎には、下地の上にまず全面に透明漆が１層塗布されて、さらに内面には朱漆が１層重ねられ、外面には透明漆が１層重ねられて朱漆で文様が描かれた。

よって、ケヤキの木胎の１点（W17）は漆層が塗り重ねられている点、赤色漆に朱漆が使用されている点が他の４点とは異なり、上質の作りとなっている。

第３節　大鴨遺跡１～３区の自然科学分析

株式会社古環境研究所

第１項　大鴨遺跡１～３区の放射性炭素年代測定

１．はじめに

大鴨遺跡で検出された遺構の年代を明らかにする目的で、放射性炭素年代測定を行う。

２．試料と方法

測定試料は、１区で出土した掘立柱建物２の161柱穴の１層より検出された炭化材（試料28)、８火葬墓の１層で検出された炭化材（試料29)、15火葬墓の埋土より検出された炭化材（試料30)、303道路の１・２層より検出された炭化材（試料31)、302道路の３～６層より検出された炭化材（試料32)、２区で出土した171木製祭祀具集中部の埋土より検出された粗朶（試料33)、76木製構造物の埋土より検出された粗朶（試料34)、３区で出土した23柱穴の１層より検出された炭化材（試料35)、44柱穴の１層より検出された炭化材（試料36)、竪穴建物１の３層（貼床）より検出された炭化材（試料37）の計10点である。第112表に、測定試料の詳細と前処理・調整法及び測定法を示す。測定は、試料の前処理・調整後、加速器質量分析計（コンパクト AMS：NEC製 1.5SDH）を用いて行った。試料33・34を除く試料採取箇所を第104・119・130・236・259・260図に示す。

３．結果

加速器質量分析法（AMS：Accelerator Mass Spectrometry）によって得られた14Ｃ濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素（14Ｃ）年代および暦年代（較正年代）を算出した。第113表にこれらの結果を示す。

１）δ(デルタ)13Ｃ測定値

第 112 表　測定試料及び処理

試料番号	試料の詳細	種類	前処理・調整	測定法
28	１区 掘立柱建物２　161 柱穴 １層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン），酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	ＡＭＳ
29	１区 ８火葬墓 １層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン），酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	ＡＭＳ
30	１区 15 火葬墓 埋土	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン），酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	ＡＭＳ
31	１区 303 道路 １・２層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン），酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	ＡＭＳ
32	１区 302 道路 ３～６層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン），酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	ＡＭＳ
33	２区 171 木製祭祀具集中部 埋土	粗朶（生木）	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン），酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	ＡＭＳ
34	２区 76 木製構造物 埋土	粗朶（生木）	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン），酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	ＡＭＳ
35	３区 23 柱穴 １層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン），酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	ＡＭＳ
36	３区 44 柱穴 １層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン），酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	ＡＭＳ
37	３区 竪穴建物１　３層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン），酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸，水酸化ナトリウム）	ＡＭＳ

試料の測定 14 Ｃ /12 Ｃ比を補正するための炭素安定同位体比（13 Ｃ /12 Ｃ）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。試料の δ 13 Ｃ値を -25(‰) に標準化することで同位体分別効果を補正している。

２）放射性炭素（14 Ｃ）年代測定値

試料の 14 Ｃ /12 Ｃ比から、現在（AD1950 年基点）から何年前かを計算した値。14 Ｃの半減期は 5730 年であるが、国際的慣例により Libby の 5568 年を用いている。統計誤差（±）は１σ (シグマ) (68.27%確率）である。14 Ｃ年代値は下１桁を丸めて表記するのが慣例であるが、暦年較正曲線が更新された場合のために下１桁を丸めない暦年較正用年代値も併記した。

３）暦年代（Calendar Years）

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中 14 Ｃ濃度の変動および 14 Ｃの半減期の違いを較正することで、放射性炭素（14 Ｃ）年代をより実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な 14 Ｃ測定値およびサンゴの U/Th（ウラン / トリウム）年代と 14 Ｃ年代の比較により作成された較正曲線を使用した。較正曲線のデータは IntCal 20、較正プログラムは OxCal 4.4 である。

暦年代（較正年代）は、14 Ｃ年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCal の確率法により１σ（68.27%確率）と２σ（95.45%確率）で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の１σ・２σ値が表記される場合もある。() 内の％表示は、その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は 14 Ｃ年代の確率分布、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

４．所見

大鴨遺跡で出土した遺構の年代を明らかにする目的で、加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定を行った。その結果、１区の掘立柱建物２の 161 柱穴１層で出土した炭化材（試料 28）は、補正 14C 年代が 595 ± 20 年 BP、２σ の暦年較正値は 1307-1363 cal AD(75.53%)、

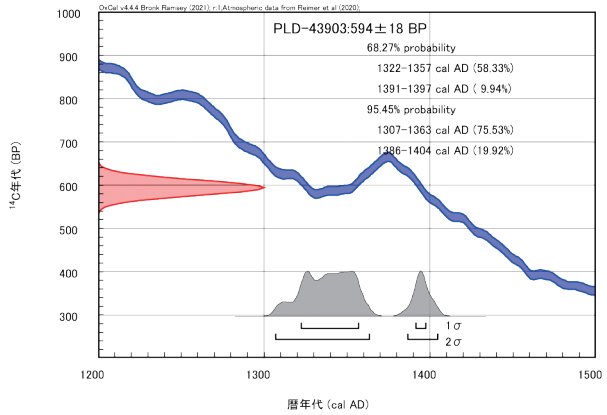
第 113 表　測定結果

試料番号	測定№ (PLD-)	δ 13 C (‰)	暦年較正用年代 (年 BP ± 1 σ)	14 C年代 (年 BP ± 1 σ)	暦年代（西暦） 1 σ（68.27%確率）	2 σ（95.45%確率）
28	43903	-28.03 ± 0.20	594 ± 18	595 ± 20	1322-1357 cal AD (58.33%)	1307-1363 cal AD (75.53%)
					1391-1397 cal AD (9.94%)	1386-1404 cal AD (19.92%)
29	43904	-26.53 ± 0.22	380 ± 18	380 ± 20	1458-1496 cal AD (53.94%)	1452-1520 cal AD (69.55%)
					1601-1614 cal AD (14.33%)	1587-1622 cal AD (25.90%)
30	43905	-25.88 ± 0.29	433 ± 18	435 ± 20	1442-1457 cal AD (68.27%)	1435-1473 cal AD (95.45%)
31	43906	-23.66 ± 0.25	2400 ± 20	2400 ± 20	511-505 cal BC (3.89%)	659-657 cal BC (0.45%)
					481-406 cal BC (64.38%)	540-402 cal BC (95.00%)
32	43907	-19.22 ± 0.24	4394 ± 23	4395 ± 25	3078-3063 cal BC (9.42%)	3092-3050 cal BC (20.13%)
					3027-3006 cal BC (15.62%)	3045-2919 cal BC (75.32%)
					2989-2929 cal BC (43.99%)	
33	43908	-29.94 ± 0.21	1313 ± 19	1315 ± 20	664-683 cal AD (30.79%)	659-705 cal AD (49.01%)
					744-760 cal AD (27.80%)	739-773 cal AD (46.44%)
					766-772 cal AD (9.68%)	
34	43909	-27.85 ± 0.21	1308 ± 19	1310 ± 20	666-685 cal AD (27.38%)	660-706 cal AD (46.99%)
					743-761 cal AD (29.45%)	727-729 cal AD (0.48%)
					765-772 cal AD (11.44%)	737-773 cal AD (47.98%)
35	43910	-26.82 ± 0.23	1302 ± 20	1300 ± 20	669-687 cal AD (22.97%)	662-706 cal AD (44.62%)
					699-701 cal AD (2.28%)	726-773 cal AD (50.83%)
					742-772 cal AD (43.02%)	
36	43911	-24.62 ± 0.22	1615 ± 21	1615 ± 20	418-437 cal AD (22.22%)	414-482 cal AD (54.89%)
					463-476 cal AD (13.74%)	488-538 cal AD (40.56%)
					498-532 cal AD (32.31%)	
37	43912	-26.23 ± 0.15	1326 ± 18	1325 ± 20	660-679 cal AD (45.32%)	655-689 cal AD (56.06%)
					749-758 cal AD (18.24%)	697-702 cal AD (1.91%)
					768-771 cal AD (4.71%)	742-773 cal AD (37.48%)

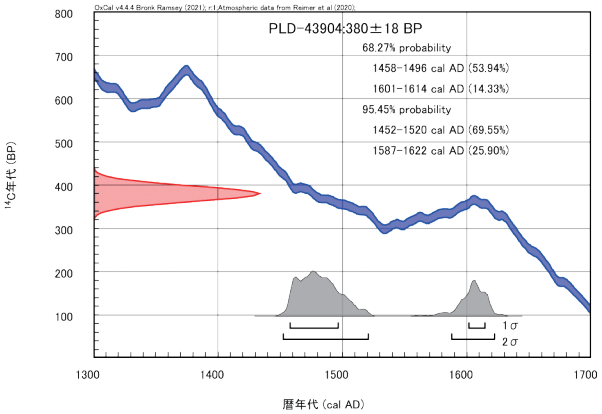
BP：Before Physics（Present），BC：紀元前，AD：紀元

1386-1404 cal AD(19.92%)、８火葬墓１層で出土した炭化材（試料 29）は、補正 14C 年代が 380 ± 20 年 BP、2 σの暦年較正値は 1452-1520 cal AD(69.55%)、1587-1622 cal AD(25.90%)、15 火葬墓埋土で出土した炭化材（試料 30）は、補正 14C 年代が 435 ± 20 年 BP、2 σの暦年較正値は 1435-1473 cal AD(95.45%)、303 道路１・２層で出土した炭化材（試料 31）は、補正 14C 年代が 2400 ± 20 年 BP、2 σの暦年較正値は 659-657 cal BC(0.45%)、540-402 cal BC(95.00%)、302 道路３～６層で出土した炭化材（試料 32）は、補正 14C 年代が 4395 ± 25 年 BP、2 σの暦年較正値は 3092-3050 cal BC(20.13%)、3045-2919 cal BC(75.32%)、２区の 171 木製祭祀具集中部埋土で出土した粗朶（生木）（試料 33）は、補正 14C 年代が 1315 ± 20 年 BP、2 σの暦年較正値は 659-705 cal AD(49.01%)、739-773 cal AD(46.44%)、76 木製構造物埋土で出土した粗朶（生木）（試料 34）は、補正 14C 年代が 1310 ± 20 年 BP、2 σの暦年較正値は 660-706 cal AD(46.99%)、727-729 cal AD(0.48%)、737-773 cal AD(47.98%)、３区の 23 柱穴１層で出土した炭化材（試料 35）は、補正 14C 年代が 1300 ± 20 年 BP、2 σの暦年較正値は 662-706 cal AD(44.62%)、726-773 cal AD(50.83%)、44 柱穴１層で出土した炭化材（試料 36）は、補正 14C 年代が 1615 ± 20 年 BP、2 σの暦年較正値は 414-482 cal AD(54.89%)、488-538 cal AD(40.56%)、竪穴建物１の３層（貼床）で出土した炭化材（試料 37）は、補正 14C 年代が 1325 ± 20 年 BP、2 σの暦年較正値は 655-689 cal AD(56.06%)、697-702 cal AD(1.91%)、742-773 cal AD(37.48%)であった（第

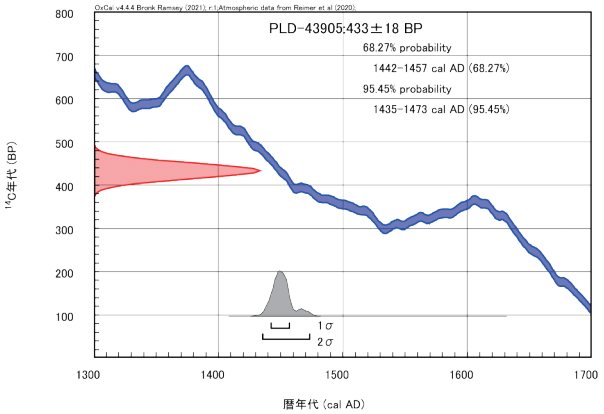
試料28



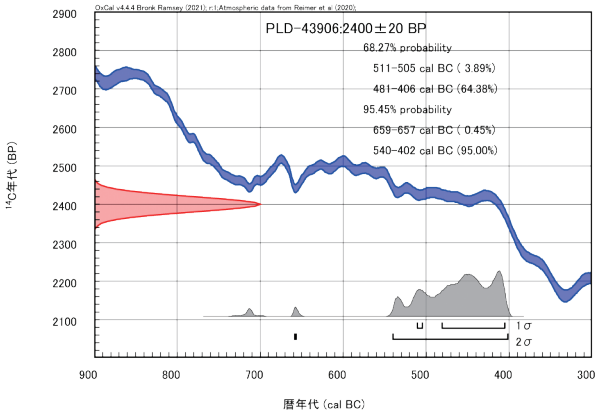
試料29



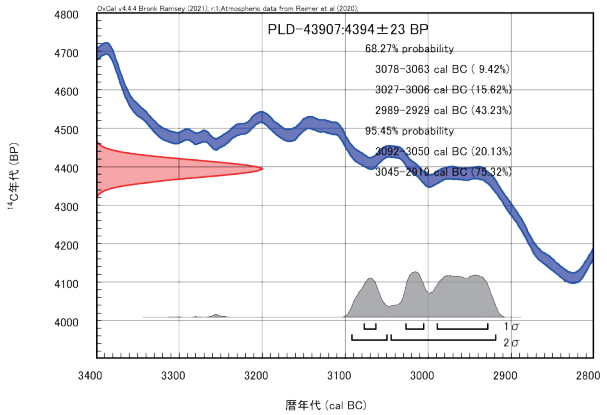
試料30



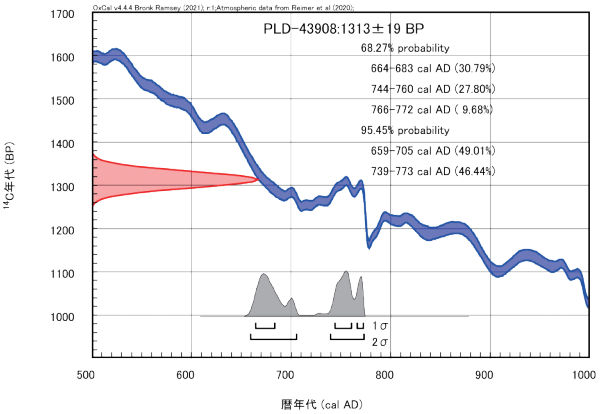
試料31



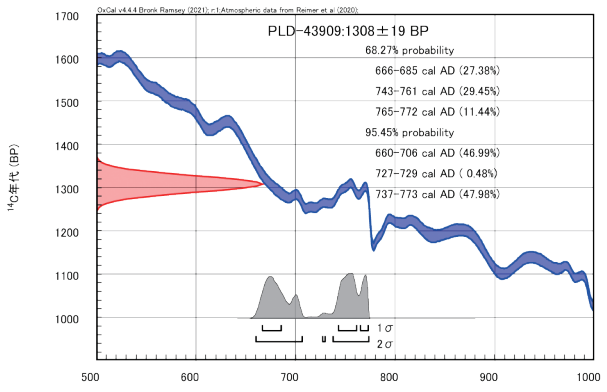
試料32



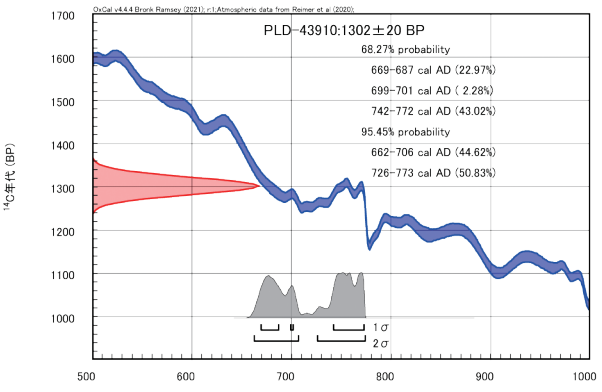
試料33



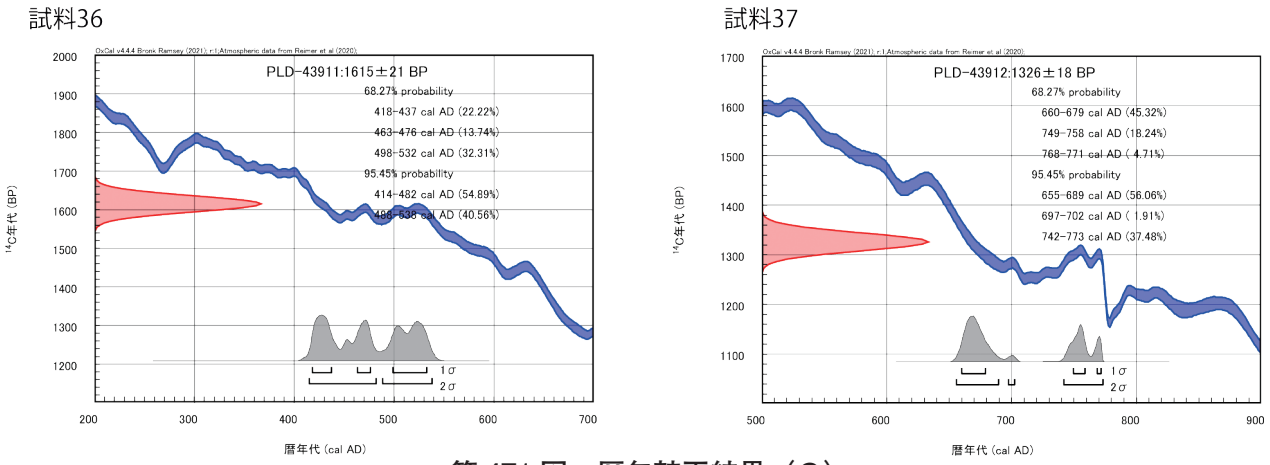
試料34



試料35



第 470 図　暦年較正結果（１）



第 471 図　暦年較正結果（２）

470・471 図）。

【参考文献】

Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫（2003）放射性炭素年代測定法と暦年代較正．環境考古学マニュアル．同成社，p.301-322.

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton,T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R., Turney, C.S.M.,Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo,A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

第２項　大鴨遺跡２・３区の植物珪酸体分析

１．はじめに

大鴨遺跡における稲作の可能性と周辺植生・環境を検討する目的で、植物珪酸体分析を行う。

２．試料

分析試料は、２区東壁の 11 層（試料 15）、18 層（試料 16）、Ⅰb-1 層（試料 17）で採取された３点、３区西壁のⅡb層（試料 20）、Ⅱc層（試料 21）、Ⅲ層（試料 22）で採取された３点の計６点である。試料採取箇所を第 144・232 図に示す。

３．方法

植物珪酸体分析は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

１）土壌サンプルの表面約５mm を除去後、新鮮な部分の土壌約 10cm^3 を採量する。
２）採量した試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）する。
３）試料約１g に直径約 40 μ m のガラスビーズを約 0.02g 添加する。
４）電気炉灰化法（550℃・６時間）により脱有機物処理を行う。
５）超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）により分散する。
６）沈底法により 20 μ m 以下の微粒子を除去する。
７）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラートを作製する。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来する植物珪酸体を同定の対象とし、400 倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が 500 以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。検鏡結果は、計数値を試料１ｇ中の植物珪酸体個数（試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（ここでは 1.0 と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重，単位：10-5g）を乗じて、単位面積で層厚 1cm あたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山，2000）。

４．結果

（１）分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらについて定量を行い、その結果を第 114 表、第 472 図に示した。また、主要な分類群については顕微鏡写真を図版 328 に示す。

〔イネ科〕

イネ、キビ族型、ヨシ属、シバ属型、ススキ属型、ウシクサ族型

〔イネ科－タケ亜科〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、メダケ節型（メダケ属メダケ節・ヤダケ属など）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、その他タケ亜科

〔イネ科－その他〕

未分類等

〔その他〕

海綿骨針

（２）植物珪酸体の検出状況

以下に、植物珪酸体の検出状況を記す。なお、植物珪酸体の生産量は植物種によって相違することから、検出密度の評価は分類群によって異なる。

１）２区（11 層（試料 15）、18 層（試料 16）、Ⅰ b-1 層（試料 17））

11 層 (試料 15）では、イネとススキ属型がやや多く検出された。他にはキビ族型、ヨシ属、ウシクサ族型、ネザサ節型、メダケ節型、チマキザサ節型が認められたが、いずれも少量である。18 層 (試料 16）では、イネが多く検出され、次いでススキ属型、ヨシ属、ネザサ節型、チマキザサ節型が比

較的多い。他にキビ族型、シバ属型、ウシクサ族型が少量認められた。Ⅰb-1層（試料17）では、ヨシ層、ネザサ節型、チマキザサ節型が比較的多く、他にイネ、キビ族型、ススキ属型、メダケ節型が少量認められた。

２）３区（Ⅱｂ層(試料20)、Ⅱｃ層(試料21)、Ⅲ層(試料22)）

Ⅱｂ層では、ススキ属型が多く検出され、チマキザサ節型も比較的多い。他にはイネ、ヨシ属、ネザサ節型、メダケ節型が少量認められた。Ⅱｃ層では、チマキザサ節型、ススキ属型、ネザサ節型、メダケ節型が多く検出され、キビ族型とヨシ属が少量認められた。Ⅲ層では、チマキザサ節型とススキ属型が多く、他にヨシ属、ネザサ節型、メダケ節型が認められた。

５．考察

植物珪酸体分析において稲作跡の探査や検証を行うにあたっては、通常、イネの植物珪酸体が試料１ｇあたり5,000個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000）。なお、近年の調査では密度が3,000個/ｇ程度あるいはそれ未満であっても水田遺構が検出された事例が報告されていることから、ここでは3,000個/ｇを基準値とする。一方、ヨシ属やマコモ属は湿地や湿ったところに生育し、ススキ属の多くやタケ亜科は比較的乾いたところに生育する。そこで、これらの植物の産出状況を検討することで、堆積当時の植生や環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。

以上のことを参考にして、稲作の可能性と堆積時の植生と環境を検討する。

１）２区（11層（試料15）、18層（試料16）、Ⅰb-1層（試料17））

本地点では、11層、18層、Ⅰb-1層の各層でイネが検出されている。このうち、18層では5,200個/ｇと高い密度であり、稲作跡の判断基準を満たしている。したがって、18層では調査地において稲作が行われていた可能性が高いと判断される。Ⅰb-1層では1,400個/ｇと低い密度である。直上の18層が高密度であり耕作土と考えられることから、ここで検出されたイネは上層から混入したものと考えられる。11層では2,200個/ｇとやや低い密度であり、稲作跡の判断基準値には達していない。このことから、耕作地は周辺であり、調査地において稲作が行われていた可能性を積極的に肯定することはできない。仮にここで稲作が行われていたとするならば、植物珪酸体密度が低いことの要因としては、１）稲作が行われた期間が短かった、２）稲の生産性が低かった、３）試料採取箇所が畦畔など耕作面でなかった、４）土層の堆積速度が速かった、などが考えられる。

イネ以外の分類群では、18層とⅠb-1層でヨシ属が優勢である。他にススキ属型やネザサ節型、チマキザサ節型なども認められる。このことから、18層とⅠb-1層の堆積時の調査地周辺は湿った環境であり、周辺の比較的乾いたところにはススキやタケ・ササ類が生育していたと推定される。11層ではヨシ属は減少し、ススキ属型とチマキザサ節型がやや多い。こうしたことから、11層の時期の調査地は比較的乾いた環境であり、調査地や周辺にはススキやタケ・ササ類が生育していたとみられる。

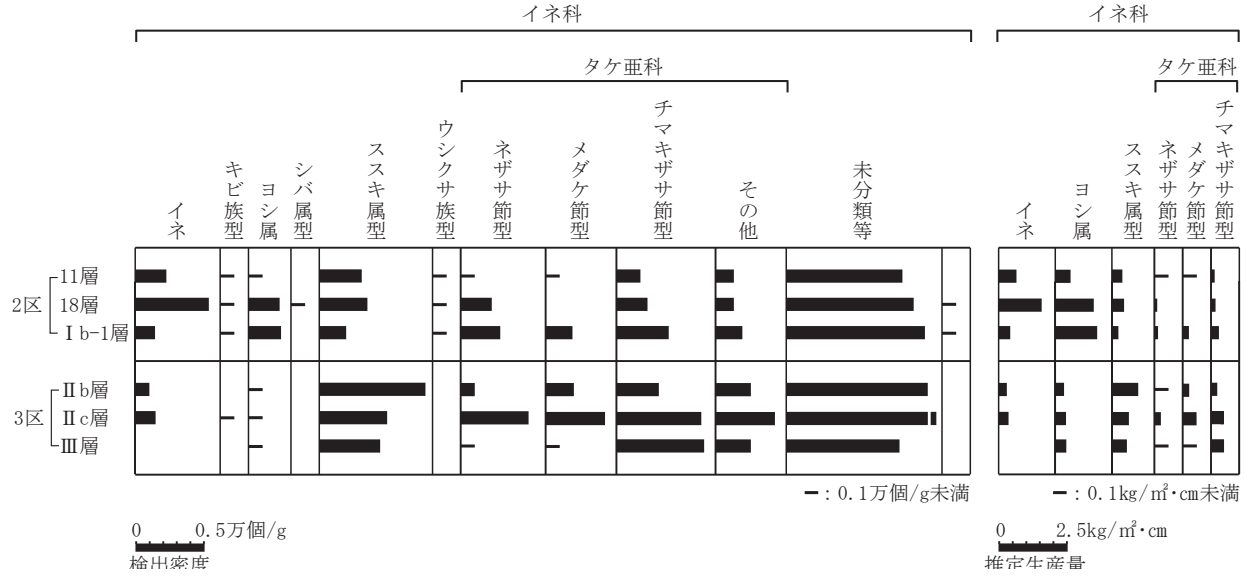
２）３区（Ⅱｂ層(試料20)、Ⅱｃ層(試料21)、Ⅲ層(試料22)）

本地点では、Ⅱｂ層とⅡｃ層でイネが検出されている。密度はそれぞれ1,000個/ｇ、1,200個/ｇと低い値であることから、両層では調査地において稲作が行われていた可能性を積極的に肯定するこ

第 114 表　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果

検出密度（単位：× 100 個 /g）

分類群（和名・学名）			2区			3区		
			11層	18層	Ⅰb-1層	Ⅱb層	Ⅱc層	Ⅲ層
イネ科	Gramineae (Grasses)							
イネ		Oryza sativa	22	52	14	10	12	
キビ族型		Paniceae type	4	4	5		6	
ヨシ属		Phragmites	9	22	23	5	6	6
シバ属型		Zoysia type		5				
ススキ属型		Miscanthus type	30	34	19	75	48	43
ウシクサ族型		Andropogoneae type	4	4	5			
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)							
ネザサ節型		Pleioblastus sect. Nezasa	4	22	28	10	48	6
メダケ節型		Pleioblastus sect. Nipponocalamus	4		19	20	42	6
チマキザサ節型		Sasa sect. Crassinodi	17	22	37	30	60	62
その他		Others	13	13	19	25	42	25
未分類等	Unknown		86	90	98	120	181	80
（海綿骨針）				4	5			
植物珪酸体総数			193	268	267	295	445	228
おもな分類群の推定生産量（単位：kg /㎡・cm）								
イネ		Oryza sativa	0.63	1.52	0.41	0.29	0.35	
ヨシ属		Phragmites	0.54	1.36	1.48	0.31	0.38	0.39
ススキ属型		Miscanthus type	0.37	0.43	0.23	0.93	0.60	0.53
ネザサ節型		Pleioblastus sect. Nezasa	0.02	0.10	0.13	0.05	0.23	0.03
メダケ節型		Pleioblastus sect. Nipponocalamus	0.05		0.22	0.23	0.49	0.07
チマキザサ節型		Sasa sect. Crassinodi	0.13	0.16	0.28	0.22	0.45	0.46



第 472 図　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果

とはできない。これらの層では周辺で稲作が行われていた可能性が考えられる。

イネ以外の分類群では、各層ともススキ属型やチマキザサ節型が優勢であり、ヨシ属は低い密度である。こうしたことから、これらの層の時期の調査地は比較的乾いた環境で推移し、ススキやタケ・ササ類が生育していたと推定される。特にⅡb層ではススキ属型が多産することから、調査地近辺にはススキが繁茂していたと判断される。

6．まとめ

大鴨遺跡における稲作の可能性と周辺環境を検討することを目的として、植物珪酸体分析を行った。

その結果、２区の 18 層では調査地において稲作が行われていた可能性が高いと判断された。また、２区の11層、３区のⅡｂ層とⅡｃ層では調査地周辺で稲作が行われていた可能性が認められた。また、２区の 18 層とⅠ b-1 層の時期は、調査地周辺はヨシなどが生育する湿った環境であり、11 層の時期には比較的乾いた環境になったと推定された。３区のⅡｂ層、Ⅱｃ層、Ⅲ層の時期は、調査地は比較的乾いた環境であり、ススキやタケ・ササ類が生育していたと推定された。また、Ⅱｂ層ではススキが繁茂していたと判断された。

【参考文献】

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－．考古学と自然科学，19，p.69-84.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究 (1) －数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究 (5) －プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

第３項　大鴨遺跡３区の花粉分析

１．はじめに

大鴨遺跡３区における植生や堆積環境を検討する目的で花粉分析を行う。

２．試料

分析試料は、３区西壁のⅡｂ層（試料 20）、Ⅱｃ層（試料 21）、Ⅲ層（試料 22）で採取された３点である。試料採取箇所を第 232 図に示す。

３．方法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）試料から１cm^3 を採量

２）0.5％リン酸三ナトリウム（12 水）溶液を加え 15 分間湯煎

３）水洗処理の後、0.25mm の篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去

４）25％フッ化水素酸溶液を加えて 30 分放置

５）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を実施

６）再び氷酢酸を加えて水洗処理

７）沈渣にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート

作製

８）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡（Nikon ECLIPSE Ci）によって 300 ～ 1000 倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉（1973）、中村（1980）を参照して行った。イネ属については、チール石炭酸フクシンで染色を施すことにより特徴がより鮮明になるため、中村（1974, 1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定している。なお、花粉分類では樹木花粉（AP）および非樹木花粉（NAP）となるが非樹木花粉（NAP）は草本花粉として示した。

４．結果

（１）分類群

産出した分類群は、樹木花粉６、草本花粉 12、シダ植物胞子２形態の計 20 分類群である。これらの学名と和名および粒数を第 115 表に示し、花粉数が 100 個以上計数できた試料については、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第 473 図に示す。なお、100 個未満であっても 50 個以上計数できた試料については傾向をみるため参考に図示し、主要な分類群は顕微鏡写真（図版 329）に示した。同時に寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に産出した分類群を記載する。

〔**樹木花粉**〕

マツ属複維管束亜属、スギ、クリ、シイ属、コナラ属コナラ亜属、トチノキ

〔**草本花粉**〕

イネ科、カヤツリグサ科、アカザ科－ヒユ科、キンポウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ツリフネソウ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔**シダ植物胞子**〕

単条溝胞子、三条溝胞子

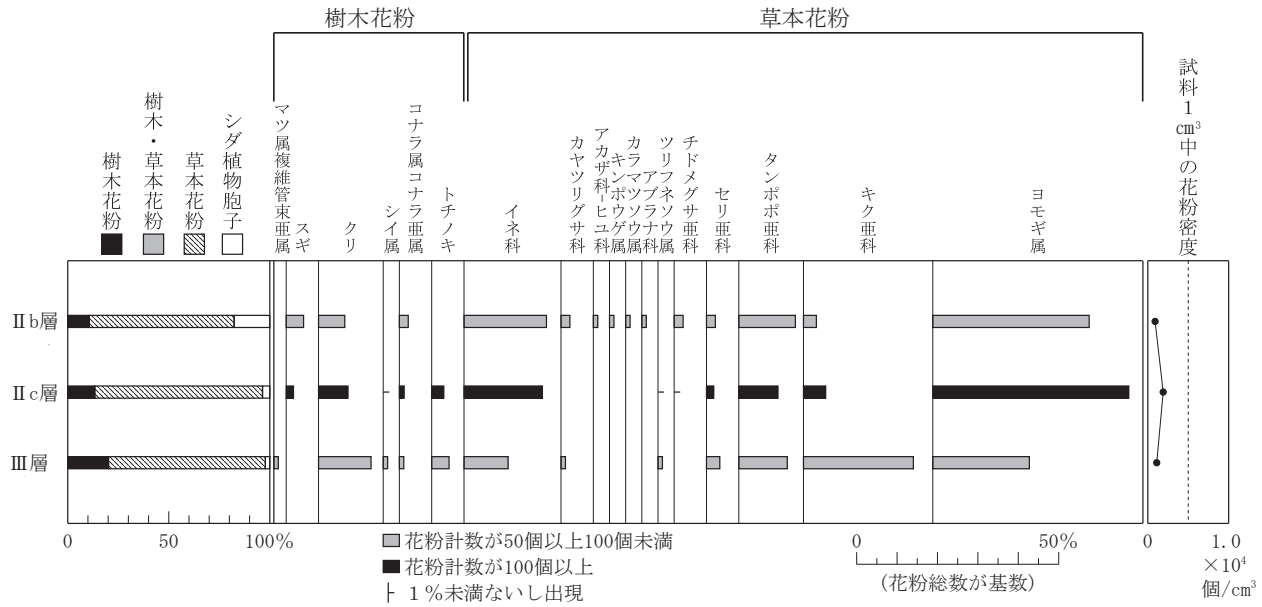
（２）花粉群集の特徴

いずれの試料も花粉密度が低い。下位より花粉構成と花粉組成の変化を記載する。

Ⅲ層では、草本花粉が 78%、樹木花粉が 20%、シダ植物胞子が２％を占める。草本花粉では、キク亜科、ヨモギ属が多く、次いでタンポポ亜科、イネ科が比較的多い。樹木花粉では、クリを主にトチノキが比較的多い。Ⅱｃ層では、草本花粉が 83%、樹木花粉が 13%、シダ植物胞子が４％を占める。Ⅲ層に比べヨモギ属、イネ科が倍増し、キク亜科が顕著に減少する。樹木花粉では、クリが減少し、スギが出現する。Ⅱｂ層では、草本花粉が 72%、樹木花粉が 10%、シダ植物胞子が 18% を占める。草本花粉では、ヨモギ属、イネ科、タンポポ亜科が多い。樹木花粉では、クリ、スギ、コナラ属コナラ亜属が産出し、トチノキは消失する。

第 115 表　花粉分析結果

Taxa(分類群)				3 区		
	Scientific name(学名)		Japanese name(和名)	Ⅱ b 層	Ⅱ c 層	Ⅲ層
Arboreal pollen		樹木花粉				
	Pinus subgen. Diploxylon		マツ属複維管束亜属			1
	Cryptomeria japonica		スギ	4	3	
	Castanea crenata		クリ	6	12	12
	Castanopsis		シイ属		1	1
	Quercus subgen. Lepidobalanus		コナラ属コナラ亜属	2	2	1
	Aesculus turbinata		トチノキ		5	4
Nonarboreal pollen		草本花粉				
	Gramineae		イネ科	19	32	10
	Cyperaceae		カヤツリグサ科	2		1
	Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科 - ヒユ科	1		
	Ranunculus		キンポウゲ属	1		
	Thalictrum		カラマツソウ属	1		
	Cruciferae		アブラナ科	1		
	Impatiens		ツリフネソウ属		1	1
	Hydrocotyloideae		チドメグサ亜科	2	1	
	Apioideae		セリ亜科	2	3	3
	Lactucoideae		タンポポ亜科	13	16	11
	Asteroideae		キク亜科	3	9	25
	Artemisia		ヨモギ属	36	80	22
	Arboreal pollen		樹木花粉	12	23	19
	Nonarboreal pollen		草本花粉	81	142	73
Total pollen		花粉総数		93	165	92
Pollen frequencies of 1cm^3		試料 1cm^3 中の花粉密度		0.9 × 10 3	1.9 × 10 3	1.1 × 10 3
	Unknown pollen		未同定花粉	7	4	5
Fern spore		シダ植物胞子				
	Monolate type spore		単条溝胞子	11	5	
	Trilate type spore		三条溝胞子	9	1	2
Total Fern spore		シダ植物胞子総数		20	6	2
Parasite eggs		寄生虫卵		(-)	(-)	(-)
Stone cell		石細胞		(-)	(-)	(-)
Digestion rimains		明らかな消化残渣		(-)	(-)	(-)
Charcoal・woods fragments		微細炭化物・微細木片		(+)	(++)	(++)
微細植物遺体 (Charcoal・woods fragments)			(× 105)			
未分解遺体片						
分解質遺体片				19.7	57.4	41.3
炭化遺体片（微粒炭）				0.5		



第 473 図　花粉ダイアグラム

５．花粉分析から推定される植生と環境

３区西壁のⅡｂ層、Ⅱｃ層、Ⅲ層では、いずれも花粉密度は低く、産出する分類群も少ない。下位のⅢ層では、優占する草本は、キク亜科、ヨモギ属、タンポポ亜科、イネ科で、日当たりのよい比較的乾燥した環境を好む種ばかりである。堆積地は乾燥し開けた環境であったとみなされる。周辺にはクリ林が分布する。クリは温帯に広く分布し、冷温帯と暖温帯の中間域で純林を形成し、二次林種でもある。比較的乾燥した水はけのよい環境を好み、果実は優良な食物として利用される。Ⅱｃ層、Ⅱｂ層では、下位のⅢ層と花粉組成、構成ともに大きな変化はないが、スギが出現し、近隣にスギ林が分布する。クリは減少し、堆積地はヨモギ属、イネ科、タンポポ亜科の草本が優勢となる。クリは二次林とみなされ、Ⅲ層より下部で植生の破壊が行われ、その結果、草本が増加しクリ二次林が成立したと推定される。これは人為的な開発と考えられる。

６．まとめ

３区西壁のⅡｂ層、Ⅱｃ層、Ⅲ層において花粉分析を行った。各層とも概ね類似した花粉組成であり、いずれの層ともにクリの二次林およびイネ科、ヨモギ属、タンポポ亜科、キク亜科などの草本が分布していた。これらの層の下部の時期において人為的な開発等によって植生の破壊が行われ、草本が増加しクリ二次林が成立したと推定された。

【参考文献】

土質工学会編（1979）土質試験法，p.2-5-1 ～ 2-5-23，4-2-1 ～ 4-3-11.

金原正明・金原正子（1993）石棺内の花粉分析および消化管内残渣の分析．斑鳩藤ノ木古墳第二・三次調査報告書，奈良県立橿原考古学研究所，p.18-26.

金原正明（1999）寄生虫．西田豊弘・松井　章編「考古学と動物学」，同成社，p.151-158.

金原正明･金原正子（1992）花粉分析および寄生虫．藤原京跡の便所遺構－藤原京７条１坊－，奈良国立文化財研究所，p.14-15.

金原正明・金原正子（2013）植生と農耕における土壌層分析の実証的研究，日本文化財科学会第 30 回大会研究発表会要旨集，日本文化財科学会，p.112-113.

金原正明･金原正子（2015）堆積物と植物遺体の総合的研究．日本文化財科学会第 32 回大会研究発表要旨集，日本文化財科学会，p.146-147.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集，大阪市立自然史博物館，60p.

中村純（1967）花粉分析．古今書院，232p.

中村純 (1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究，13，日本第四紀学会，p.187-193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，no.10，日本文化財科学会，p.21-30.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第 13 集，大阪市立自然史博物館，91p.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第 10 巻，古代資料研究の方法，木下正史編．角川書店，p.248-262.

金子清俊・谷口博一（1987）線形動物・扁形動物．医動物学 付 実験用動物学 新版臨床検査講座，8，医歯薬出版，p.9-134.

Warnock, P. J. and Reinhard, K. J.（1992）Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils.

Jounal of Archaeological Science, 19, p.231-245.

第４項　大鴨遺跡２区の珪藻分析

１．はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

ここでは､大鴨遺跡２区で検出された２流路埋没時期の堆積環境を検討する目的で珪藻分析を行う。

２．試料

分析試料は､２区東壁で確認された２流路の覆土の⑮層（試料 18）と㉓層（試料 19）の２点である。試料採取箇所を第 144 図に示す。

３．方法

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

１）試料から 1cm^3 を採量
２）10％過酸化水素水を加え、加温反応させながら１晩放置
３）上澄みを捨て、細粒のコロイドを水洗（４～５回）
４）残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥
５）マウントメディアによって封入し、プレパラート作製
６）検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡（Nikon ECLIPSE Ci）によって 600 ～ 1500 倍で行った。計数は珪藻被殻が 200 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

４．結果

（１）分類群

産出した珪藻は、貧塩性種（淡水生種）76 分類群である。破片の計数は基本的に中心域を有するものと、中心域がない種については両端２個につき１個と数えた。分析結果を第 116･117 表に示し、珪藻総数を基数とする百分率を算定した珪藻ダイアグラムを第 474 図に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性は Lowe（1974)の記載により、陸生珪藻は小杉（1986）により、環境指標種群は海水生種から汽水生種は小杉（1988）により、淡水生種は安藤（1990）による。現生珪藻の CMB 仮説と呼ばれる分類体系も用いられるが、科や属によってすべてを再分類できているわけでは

第 116 表　珪藻分析結果（１）

分類群	２区 ２流路	
	⑮層	㉓層
貧塩性種（淡水生種）		
Achnanthes exigua		1
Achnanthes lanceolata	6	33
Achnanthes minutissima		23
Amphora copulata	1	2
Amphora fontinalis		1
Amphora spp.		1
Aulacoseira alpigena-distans		1
Aulacoseira ambigua		3
Caloneis bacillum		2
Caloneis molaris	1	1
Caloneis silicula	1	1
Cocconeis placentula	12	12
Cymbella gracilis	2	1
Cymbella minuta	2	2
Cymbella naviculiformis		1
Cymbella reichardtii	1	6
Cymbella silesiaca	10	28
Cymbella sinuata		3
Cymbella tumida	1	2
Cymbella turgidula	2	28
Cymbella spp.	2	2
Diploneis elliptica		1
Diploneis ovalis		2
Diploneis pseudovalis	3	2
Diploneis subovalis	1	
Eunotia arcus		1
Eunotia minor	1	7
Eunotia paludosa-rhomboidea	1	3
Eunotia praerupta		1
Fragilaria brevistriata		2
Fragilaria capucina	2	15
Fragilaria construens		1
Fragilaria construens v. venter		14
Fragilaria exigua		3
Fragilaria parasitica		1
Fragilaria pinnata		1
Fragilaria vaucheriae		1
Frustulia rhomboides	1	
Frustulia vulgaris	2	4
Gomphonema angustatum		1
Gomphonema gracile	2	1

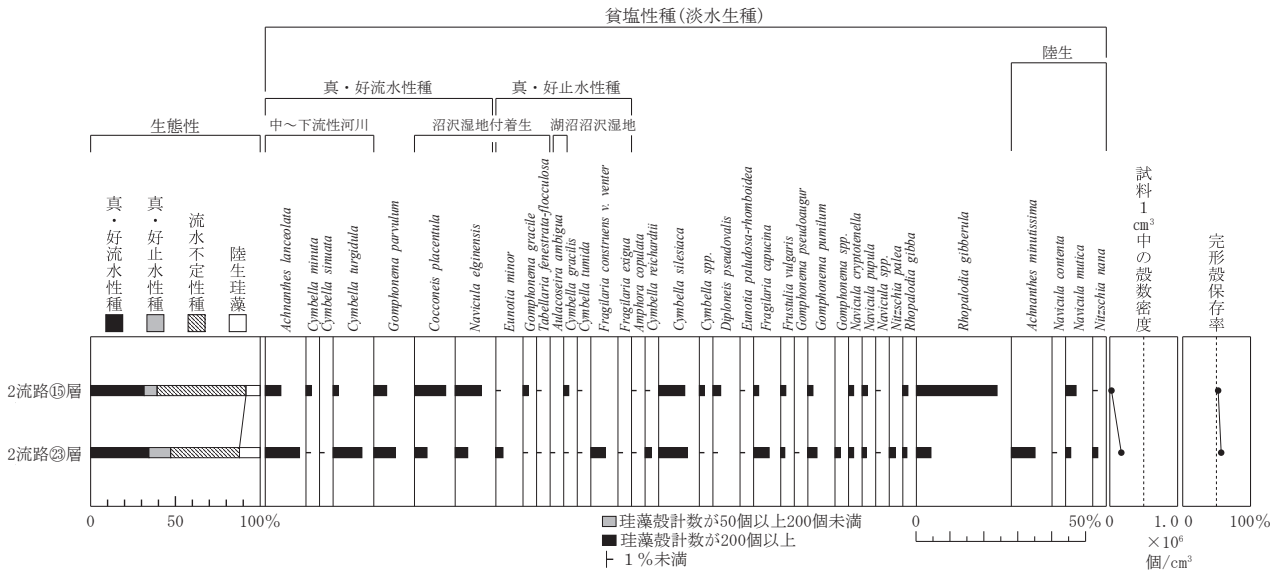
第 117 表　珪藻分析結果（２）

分類群	２区 ２流路	
	⑮層	㉓層
貧塩性種（淡水生種）		
Gomphonema minutum		2
Gomphonema parvulum	5	21
Gomphonema pseudoaugur		3
Gomphonema pumilum	2	9
Gomphonema spp.		5
Gyrosigma spp.		1
Hantzschia amphioxys	2	
Meridion circulare v. constrictum	2	
Navicula capitata		1
Navicula clementis		2
Navicula contenta		3
Navicula cryptotenella	2	5
Navicula elginensis	10	12
Navicula mutica	4	5
Navicula pupula	2	4
Navicula spp.	1	2
Neidium alpinum		1
Neidium ampliatum		1
Neidium bisulcatum	2	
Nitzschia amphibia		1
Nitzschia nana	1	5
Nitzschia palea		6
Pinnularia acrosphaeria		1
Pinnularia aestuarii	1	
Pinnularia braunii	2	
Pinnularia divergens		1
Pinnularia gibba		1
Pinnularia interrupta	1	
Pinnularia obscura		1
Pinnularia schoenfelderi	2	
Pinnularia spp.	1	
Rhoicosphenia abbreviata	2	
Rhopalodia gibba	2	4
Rhopalodia gibberula	31	14
Tabellaria fenestrata-flocculosa	1	2
合　計	130	328
未同定	3	12
破片	121	257
試料 1 cm^3 中の殻数密度	2.7 × 10 4	1.7 × 10 5
完形殻保存率（%）	52.362	56.951

なく、混乱を避けるため従来の分類を用いた。また、主要な分類群は顕微鏡写真（図版 330）に示した。以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記載する。

〔貧塩性種〕

Achnanthes lanceolata、Achnanthes minutissima、Amphora copulata、Aulacoseira ambigua、Cocconeis placentula、Cymbella gracilis、Cymbella minuta、Cymbella reichardtii、Cymbella silesiaca、Cymbella sinuata、Cymbella tumida、Cymbella turgidula、Cymbella spp.、Diploneis pseudovalis、Eunotia minor、Eunotia paludosa-rhomboidea、Fragilaria capucina、Fragilaria construens v.venter、Fragilaria exigua、Frustulia vulgaris、Gomphonema gracile、Gomphonema parvulum、Gomphonema pseudoaugur、Gomphonema pumilum、Gomphonema spp.、Navicula contenta、Navicula cryptotenella、Navicula elginensis、Navicula mutica、Navicula pupula、Navicula spp.、Nitzschia nana、Nitzschia palea、Rhopalodia gibba、



第 474 図　２区 ２流路における主要珪藻ダイアグラム

Rhopalodia gibberula、Tabellaria fenestrata-flocculosa

（２）珪藻群集の特徴

いずれの試料も珪藻密度は低い。下位の㉓層では、真・好流水性種が 34%、真・好止水性種が 13%、流水不定性種が 41%、陸生珪藻が 12%を占める。特に優占する種はないが、真・好流水性種で、中～下流性河川指標種の Achnanthes lanceolata、Cymbella turgidula、好流水性種の Gomphonema parvulum、沼沢湿地付着性種の Cocconeis placentula、Navicula elginensis の比率が比較的高く、他に流水不定性種の Cymbella silesiaca、Fragilaria capucina、Gomphonema pumilum、Rhopalodia gibberula、好止水性種の Fragilaria construens v. venter、陸生珪藻の Achnanthes minutissima など多様に産出する。⑮層では、真・好流水性種が 32%、真・好止水性種が 8%、流水不定性種が 52%、陸生珪藻が 8%を占める。流水不定性種の Rhopalodia gibberula が顕著に増加し優占する。中～下流性河川指標種の Achnanthes lanceolata、Cymbella turgidula は減少し、沼沢湿地付着性種の Cocconeis placentula、Navicula elginensis が増加する。好止水性種の Fragilaria construens v. venter は見られなくなる。

５．珪藻分析から推定される堆積環境

２区東壁の２流路覆土において、優占する珪藻の特徴から下位より堆積環境の復原を行う。

下位の㉓層の時期は、好流水性種で中～下流性河川指標種と沼沢湿地付着性種の占有率が高く、河川からの流水の影響を受ける堆積環境であった。流水不定性種、陸生珪藻が伴われることから、流水の影響を受け、淀んで浅く滞水したところもあったと推定される。⑮層の時期になると、中～下流性河川指標種は減少し、沼沢湿地付着性種、流水不定性種が増加することから、河川の縁辺で、水生植物が生育する沼沢地の環境が推定される。なお、高率に産出する流水不定性種の Rhopalodia gibberula は好塩性種であるため、生活排水などの影響を受け、塩分濃度が高くなった可能性が示唆される。

６．まとめ

２流路の㉓層の時期は、流水の影響を受け、淀んで浅く滞水したところもあった。⑮層の時期になると、水生植物が生育する沼沢地の環境へと変遷し、塩分濃度の高い生活排水などが流入した可能性が示唆された。

【参考文献】

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用．東北地理，42，p.73-88.

Asai,K.&,Watanabe,T.(1995)Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,p.35-47.

Hustedt,F.(1937 − 1938)Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch.Hydrobiol,Suppl.15,p.131 − 506.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌 , 6 ,p.23-45.

小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－．植生史研究，第１号，植生史研究会，p.29-44.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，p. 1 -20.

K. Krammer・H.Lange-Bertalot(1986-1991) Bacillariophyceae,vol.2,no.1-no.4

Lowe,R.L.(1974)Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh − water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.

鈴木秀和・南雲保（2013）珪藻類の分類体系（総説）～現生珪藻の属ランクのチェックリスト．日本プランクトン学会報 60(2). p.60-79.

Theriot, E. C.,J. J. Cannone, R. R. Gutell & A. J. Alverson 2009. The limits of nuclear-encoded SSU rDNA for resolving the diatom ohylogeny. Eur. J. Phycol. 44, p.277-290.

渡辺仁治（2005）淡水珪藻生態図鑑　群集解析に基づく汚濁指数 DAIpo, pH 耐性能．内田老鶴圃，666p.

第４節　大鴨遺跡４区出土漆製品の塗膜構造調査

株式会社吉田生物研究所

１．はじめに

鳥取県に所在する、大鴨遺跡４区から出土した漆製品１点について、その製作技法を明らかにする目的で塗膜構造調査を行ったので、以下にその結果を報告する。

２．調査資料

調査した資料は、第 118 表に示す什器１点である。

3．調査方法

第 118 表の資料本体の塗膜付着部分から数 mm 四方の破片を採取してエポキシ樹脂に包埋し、塗膜断面の薄片プレパラートを作製した。これを落射光ならびに透過光の下で検鏡した。

次に、作製した塗膜断面プレパラートの導電性を上げて観察精度を上げる為に金 (Au) 蒸着を行い、日本電子株式会社製走査型電子顕微鏡 JSM-6010LA を用いて、塗膜混和物の元素同定を行った。

4．調査結果

（1）断面観察

塗膜断面の観察結果を、第 119 表と以下の文章に示す。

塗膜構造：下層から、木胎、下地、漆層が観察された。

下地：褐色を呈する柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地であった。

漆層：内面は、下地の上に淡黄褐色を呈する透明漆が 1 層重なり、その上に赤色漆が 1 層重なっていた。外面は、下地の上に透明漆が 1 層重なっていた。

顔料：内面の赤色漆層には、極めて細かな粒子ではあるが、透明度の高い朱が混和されていた。

（2）EPMA 成分分析結果

データ（第 475・476 図：電子顕微鏡画像とスペクトル図）を添えて第 120 表に結果を示す。

以上の通り、EPMA 分析により内面の赤色漆層からは Hg が検出され、赤色顔料として朱が混和されたと判断される。

5．摘要

鳥取県に所在する大鴨遺跡 4 区から出土した漆器椀の底部の塗膜構造調査を行った。

第 118 表　調査資料

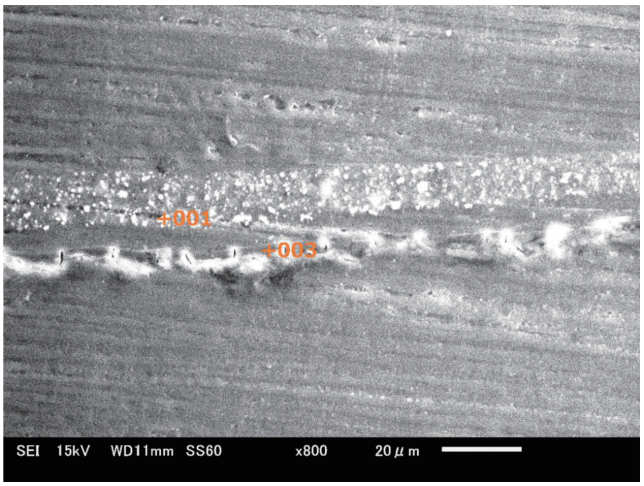
遺物番号	器　種	取上番号	図版番号	樹　種＊	概　　要
W137	漆器椀の高台部	4 区 - №1700	323	クリ	椀の高台部分である。見込みは赤色で高台内は黒色の塗膜が遺存している。

第 119 表　調査結果

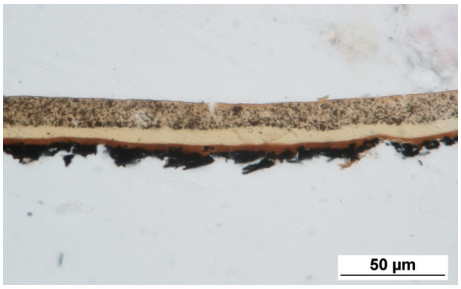
遺物番号	器種	部位	挿図番号	塗　膜　構　造（下層から）			
				下　地		漆　層　構　造	顔　料
				膠着剤	混和材		
W137	漆器椀の高台部	内面	475	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層／赤色漆 1 層	朱
		高台内	476	柿渋	木炭粉	透明漆 1 層	—

第 120 表　分析結果

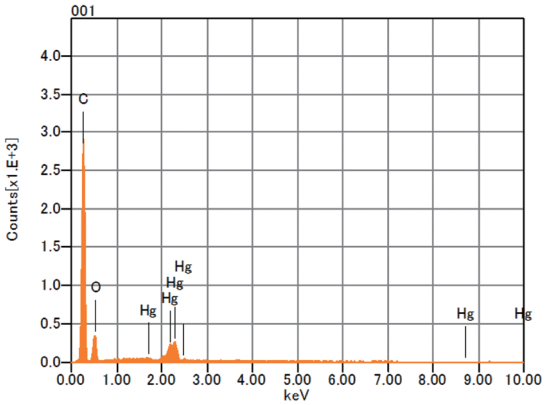
元素		C	O	S	Ca	Hg
内面	赤色漆層 (wt%)	74.57	16.1	—	—	9.33
	下地層 (wt%)	79.7	17.8	1.49	1.02	—
外面	透明漆層 (wt%)	76.73	20.57	2.1	0.6	—
	下地層 (wt%)	79.48	20.52	—	—	—



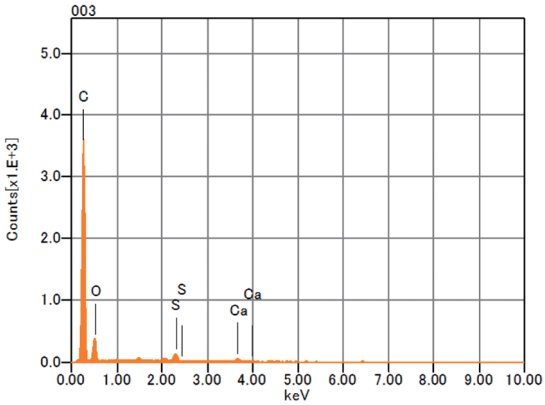
W137 内面



W137 内面の断面

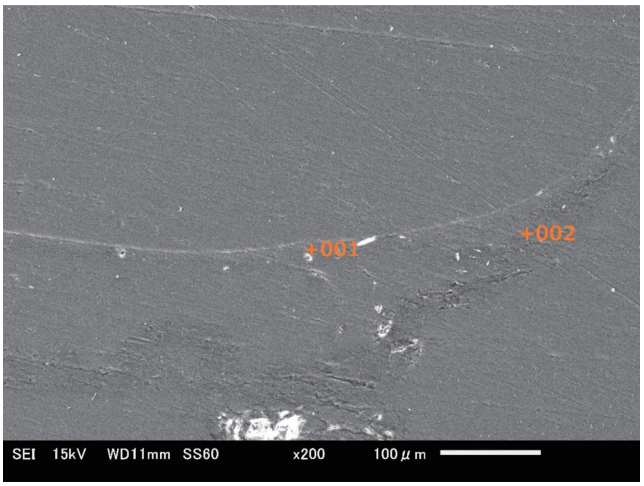


W137 内面　赤色漆層

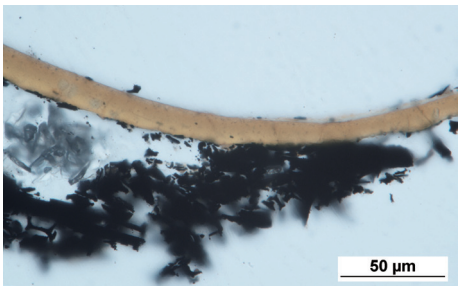


W137 内面　下地層

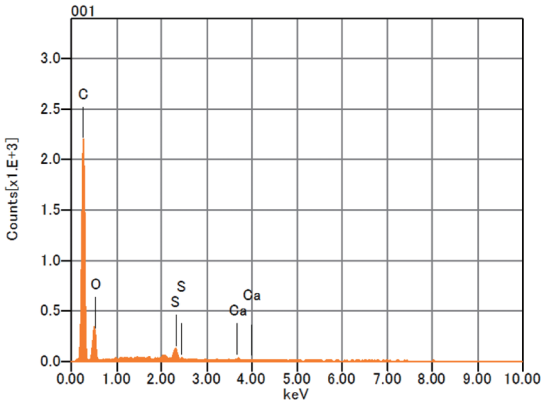
第 475 図　４区出土 漆器椀 (W137) 内面



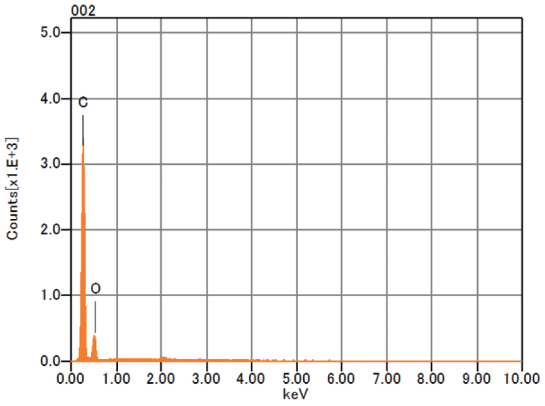
W137 外面



W137 外面の断面



W137 外面　透明漆層



W137 外面　下地層

第 476 図　４区出土 漆器椀 (W137) 外面

クリの木胎の上に柿渋に木炭粉を混和した炭粉渋下地を施し、内外面とも透明漆を塗布して、内面にはさらに全面に朱を混和した赤色漆を重ねた。

第５節　大鴨遺跡３・４区の自然科学分析

株式会社古環境研究所

第１項　大鴨遺跡３・４区の放射性炭素年代測定

１．はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素（14 C）の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壌さらには土器付着炭化物などが測定対象となり、約５万年前までの年代測定が可能である（中村,2003)。

ここでは、大鴨遺跡で検出された遺構の年代を検討する目的で、放射性炭素年代測定を行う。

２．試料と方法

測定試料は、３区で出土した32柱穴１層より検出された炭化材（試料39)、４区で出土した121柱穴の埋土より検出された炭化材（試料18)、4区で出土した359柱穴２層より検出された炭化材（試料22)、３区で出土した23柱穴１層より検出された炭化材（試料38)、４区で出土した４足跡群の埋土より検出された炭化材２点（試料15、16）の計６点である。第121表に、測定試料の詳細と前処理・調整法及び測定法を示す。試料採取箇所を第260・270・326・353・407図に示す。

３．結果

加速器質量分析法（AMS：Accelerator Mass Spectrometry）によって得られた14 C濃度について同位体分別効果の補正を行い、放射性炭素（14 C）年代および暦年代（較正年代）を算出した。第122表にこれらの結果を示す。

第121表　測定試料及び処理

試料番号	試料の詳細	種類	前処理・調整	測定法
39	3区 32 柱穴 1 層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン）， 酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸,水酸化ナトリウム）	AMS
18	4区 121 柱穴 埋土	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン）， 酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸,水酸化ナトリウム）	AMS
22	4区 359 柱穴 2 層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン）， 酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸,水酸化ナトリウム）	AMS
38	3区 23 柱穴 1 層	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン）， 酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸,水酸化ナトリウム）	AMS
15	4区 4 足跡群 -2 埋土	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン）， 酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸,水酸化ナトリウム）	AMS
16	4区 4 足跡群 -1 埋土	炭化材	超音波洗浄，有機溶剤処理（アセトン）， 酸－アルカリ－酸洗浄（塩酸,水酸化ナトリウム）	AMS

１）δ(デルタ)13Ｃ測定値

試料の測定14Ｃ/12Ｃ比を補正するための炭素安定同位体比（13Ｃ/12Ｃ）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。試料のδ13Ｃ値を-25(‰)に標準化することで同位体分別効果を補正している。

２）放射性炭素（14Ｃ）年代測定値

試料の14Ｃ/12Ｃ比から、現在（AD1950年基点）から何年前かを計算した値。14Ｃの半減期は5730年であるが、国際的慣例によりLibbyの5568年を用いている。統計誤差（±）は1σ(シグマ)（68.27%確率）である。14Ｃ年代値は下1桁を丸めて表記するのが慣例であるが、暦年較正曲線が更新された場合のために下1桁を丸めない暦年較正用年代値も併記した。

３）暦年代（Calendar Years）

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中14Ｃ濃度の変動および14Ｃの半減期の違いを較正することで、放射性炭素（14Ｃ）年代をより実際の年代値に近づけることができる。暦年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な14Ｃ測定値およびサンゴのU/Th（ウラン/トリウム）年代と14Ｃ年代の比較により作成された較正曲線を使用した。較正曲線のデータはIntCal 20、較正プログラムはOxCal 4.4である。

暦年代（較正年代）は、14Ｃ年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅で表し、OxCalの確率法により1σ（68.3%確率）と2σ（95.4%確率）で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の1σ･2σ値が表記される場合もある。()内の%表示は､その範囲内に暦年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は14Ｃ年代の確率分布、二重曲線は暦年較正曲線を示す。

４．所見

大鴨遺跡で出土した遺構の年代を検討する目的で、加速器質量分析法（AMS）による放射性炭素年代測定を行った。その結果、３区の32柱穴の１層で出土した炭化材（試料39）は、補正14C年代が1260 ± 20年BP、2σの暦年較正値は672-778 cal AD(82.3%)、788-826 cal AD(13.1%)、４区の121柱穴の埋土より出土した炭化材（試料18）は、補正14C年代が1110 ± 20年BP、2σの暦年較正値は891-993 cal AD(95.4%)、４区の359柱穴の２層より出土した炭化材（試料22）は、補正14C年代が880 ± 20年BP、2σの暦年較正値は1053-1076 cal AD(8.1%)、1156-1221 cal AD(87.4%)、３区の23柱穴の１層より出土した炭化材（試料38）は、補正14C年代が1330 ± 20年BP、2σの暦年較正値は651-703 cal AD(63.9%)、741-774 cal AD(31.5%)、４区の４足跡群-2の埋土より出土した炭化材（試料15）は、補正14C年代が350 ± 20年BP、2σの暦年較正値は1472-1529 cal AD(37.3%)、1540-1635 cal AD(58.1%)、同じく４区の４足跡群-1の埋土より出土した炭化材（試料16）は、補正14C年代が1140 ± 20年BP、2σの暦年較正値は774-786 cal AD(4.2%)、831-851 cal AD(4.3%)、875-989 cal AD(86.9%)であった（第477図）。

【参考文献】

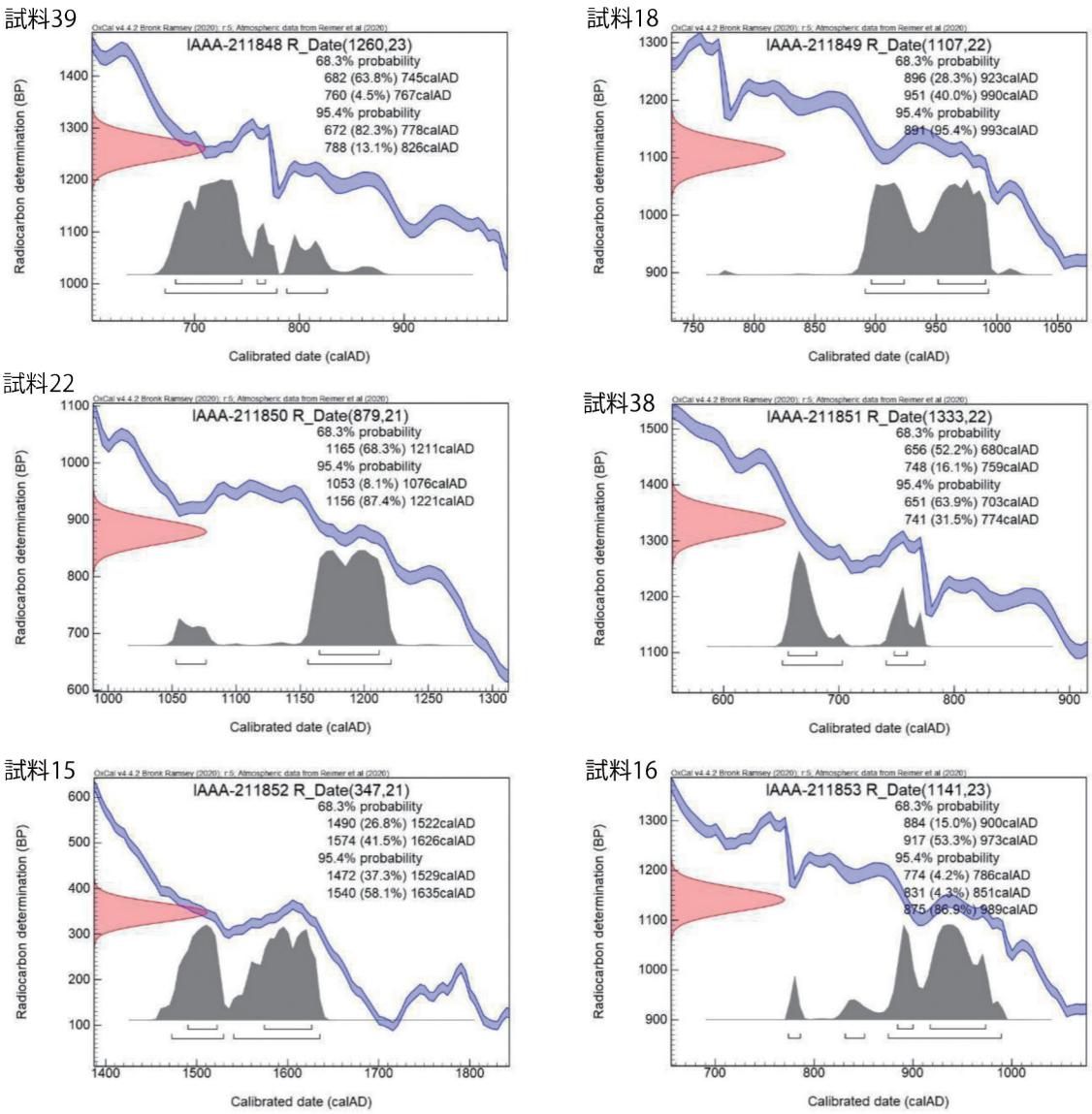
Bronk Ramsey, C. (2009) Bayesian Analysis of Radiocarbon dates. Radiocarbon, 51(1), 337-360.

中村俊夫（2003）放射性炭素年代測定法と暦年代較正．環境考古学マニュアル．同成社，p.301-322.

第 122 表　測定結果

試料番号	測定№ (IAAA-)	δ 13 C (‰)	暦年較正用年代 (年 BP ± 1 σ)	14 C年代 (年BP ± 1 σ)	暦年代（西暦） 1 σ （68.3%確率）	2 σ （95.4%確率）
39	211848	-27.56 ± 0.18	1260 ± 23	1260 ± 20	682-745 cal AD (63.8%) 760-767 cal AD (4.5%)	672-778 cal AD (82.3%) 788-826 cal AD (13.1%)
18	211849	-27.02 ± 0.20	1107 ± 22	1110 ± 20	896-923 cal AD (28.3%) 951-990 cal AD (40.0%)	891-993 cal AD (95.4%)
22	211850	-23.76 ± 0.19	879 ± 21	880 ± 20	1165-1211 cal AD (68.3%)	1053-1076 cal AD (8.1%) 1156-1221 cal AD (87.4%)
38	211851	-27.74 ± 0.19	1333 ± 22	1330 ± 20	656-680 cal AD (52.2%) 748-759 cal AD (16.1%)	651-703 cal AD (63.9%) 741-774 cal AD (31.5%)
15	211852	-25.98 ± 0.18	347 ± 21	350 ± 20	1490-1522 cal AD (26.8%) 1574-1626 cal AD (41.5%)	1472-1529 cal AD (37.3%) 1540-1635 cal AD (58.1%)
16	211853	-29.77 ± 0.19	1141 ± 23	1140 ± 20	884-900 cal AD (15.0%) 917-973 cal AD (53.3%)	774-786 cal AD (4.2%) 831-851 cal AD (4.3%) 875-989 cal AD (86.9%)

BP：Before Physics（Present），AD：紀元



第 477 図　暦年較正結果

Reimer, P.J., Austin, W.E.N., Bard, E., Bayliss, A., Blackwell, P.G., Bronk Ramsey, C., Butzin, M., Cheng, H., Edwards, R.L., Friedrich, M., Grootes, P.M., Guilderson, T.P., Hajdas, I., Heaton,T.J., Hogg, A.G., Hughen, K.A., Kromer, B., Manning, S.W., Muscheler, R., Palmer, J.G., Pearson, C., van der Plicht, J., Reimer, R.W., Richards, D.A., Scott, E.M., Southon, J.R.,

Turney, C.S.M.,Wacker, L., Adolphi, F., Büntgen, U., Capano, M., Fahrni, S.M., Fogtmann-Schulz, A., Friedrich, R., Köhler, P., Kudsk, S., Miyake, F., Olsen, J., Reinig, F., Sakamoto, M., Sookdeo,A. and Talamo, S. (2020) The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55 cal kBP). Radiocarbon, 62(4), 725-757, doi:10.1017/RDC.2020.41. https://doi.org/10.1017/RDC.2020.41 (cited 12 August 2020)

第２項　大鴨遺跡４区の植物珪酸体分析

１．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体（プラント・オパール）分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山, 2000）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山, 1984）。

ここでは、大鴨遺跡における稲作の可能性と周辺植生・環境を検討する目的で、植物珪酸体分析を行う。

２．試料

分析試料は、４区（北区南壁）の耕作土２（試料１）、耕作土３（試料2-1）、耕作土４（試料2-2）、Ⅰａ層（試料3-1）、Ⅰｂ層上（試料3-2）、Ⅰｂ層中（試料4）、Ⅰｂ層下（試料5-1）、２流路①層上（試料5-2）、２流路①層下（試料６）、２流路②層（試料7-1）、２流路③層（試料7-2）、２流路⑤層（試料８）、２流路⑥層（試料９）で採取された13点、４区（南東区東壁）の耕作土１（試料10）、耕作土２（試料11-1）、９層（試料11-2）、耕作土４（試料11-3）、361田（試料12-1）、Ⅲ-2層（試料12-2）、Ⅳ-1層（試料12-3）、造成土（試料13-1）、耕作土１（試料13-2）、耕作土２（試料14-1）、耕作土３（試料14-2）、Ⅲ-2層（試料14-3）で採取された12点の計25点である。試料採取箇所を第313・413図に示す。

３．方法

植物珪酸体分析は、ガラスビーズ法（藤原，1976）を用いて、次の手順で行った。

１）土壌サンプルの表面約５mm を除去後、新鮮な部分の土壌約 10cm^3 を採量する。
２）採量した試料を 105℃で 24 時間乾燥（絶乾）する。
３）試料約１g に直径約 40 μ m のガラスビーズを約 0.02g 添加する。
４）電気炉灰化法（550℃・６時間）により脱有機物処理を行う。
５）超音波水中照射（300W・42KHz・10 分間）により分散する。
６）沈底法により 20 μ m 以下の微粒子を除去する。

７）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラートを作製する。

検鏡は、おもにイネ科植物の機動細胞（葉身にのみ形成される）に由来する植物珪酸体を同定の対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が500以上になるまで行った。これはほぼプレパラート１枚分の精査に相当する。検鏡結果は、計数値を試料１ｇ中の植物珪酸体個数（試料１ｇあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズの個数の比率を乗じて求める）に換算して示した。また、おもな分類群については、この値に試料の仮比重（ここでは1.0と仮定）と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体１個あたりの植物体乾重，単位：10-5g）を乗じて、単位面積で層厚１cmあたりの植物体生産量を算出した。これにより、各植物の繁茂状況や植物間の占有割合などを具体的にとらえることができる（杉山，2000）。

４．結果

（１）分類群

検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらについて定量を行い、その結果を第123・124表、第478・479図に示した。また、主要な分類群については顕微鏡写真を図版331に示す。

〔**イネ科**〕

イネ、キビ族型、ヨシ属、シバ属型、ススキ属型、ウシクサ族型

〔**イネ科－タケ亜科**〕

ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、メダケ節型（メダケ属メダケ節・ヤダケ属など）、チマキザサ節型（ササ属チマキザサ節・チシマザサ節など）、その他タケ亜科

〔**イネ科－その他**〕

未分類等

（２）植物珪酸体の検出状況

以下に、植物珪酸体の検出状況を記す。なお、植物珪酸体の生産量は植物種によって相違することから、検出密度の評価は分類群によって異なる。そこで、植物珪酸体群集の占有状況を比較するうえでは、植物体生産量（推定）を検討する必要がある。

１）４区（北区南壁）

耕作土２（試料１）からＩｂ層下部（試料5-1）にかけてはほぼ同様の植物珪酸体構成であり、イネ、キビ族型、ヨシ属、シバ属型、ススキ属型、ウシクサ族型、タケ亜科のネザサ節型、メダケ節型、チマキザサ節型、その他のタケ亜科が検出されている。植物体生産量をみると、いずれもイネが優勢である。耕作土２（試料１）ではススキ属型とメダケ節型が、耕作土４（試料2-2）ではヨシ属、ススキ属型、メダケ節型、チマキザサ節型が、Ｉａ層（試料3-1）ではススキ属型が、Ｉｂ層上部（試料3-2）ではススキ属型、チマキザサ節型が、Ｉｂ層下部（試料5-1）ではヨシ属、ススキ属型、チマキザサ節型が比較的多い。

２流路覆土では、①層（試料5-2、試料６）、②層（試料7-1）、③層（試料7-2）、⑤層（試料８）、⑥層（試料９）でイネが検出されている。植物体生産量をみると、①層（試料5-2、試料６）、②層（試

第 123 表　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果（１）

検出密度（単位：× 100 個 /g）

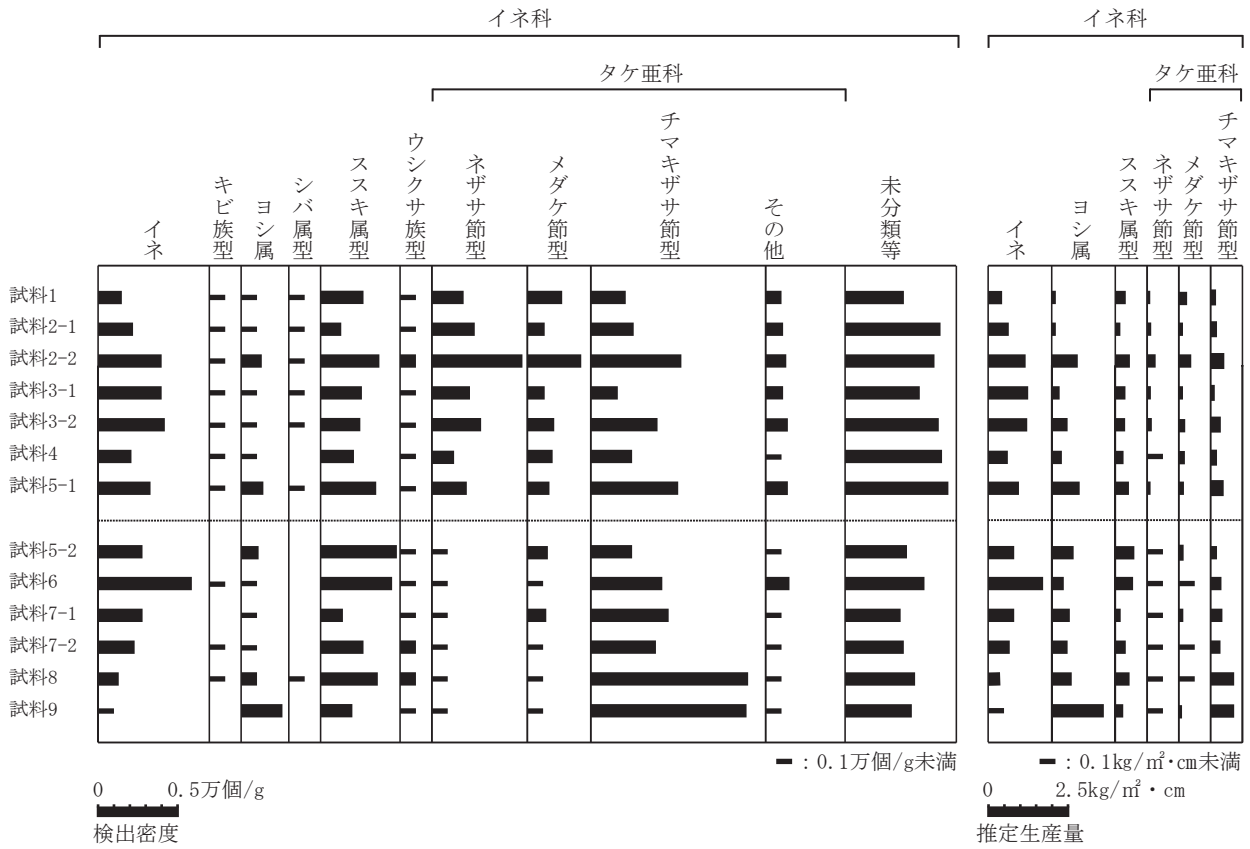
分類群（和名・学名）			４区（北区南壁）												
			耕作土 2	耕作土 3	耕作土 4	Ⅰa 層	Ⅰb 層上	Ⅰb 層中	Ⅰb 層下	2 流路 ①層上	①層下	②層	③層	⑤層	⑥層
			1	2-1	2-2	3-1	3-2	4	5-1	5-2	6	7-1	7-2	8	9
イネ科	Gramineae (Grasses)														
イネ		Oryza sativa	15	22	40	43	42	21	33	28	59	28	23	13	2
キビ族型		Paniceae type	2	2	3	4	3	2	3		3		2	3	
ヨシ属		Phragmites	2	2	13	4	8	5	14	11	6	9	8	10	26
シバ属型		Zoysia type	2	2	3	6	3		3					3	
ススキ属型		Miscanthus type	27	13	37	26	25	21	35	48	45	14	27	36	20
ウシクサ族型		Andropogoneae type	2	4	10	9	8	9	8	4	9	7	10	10	2
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)														
ネザサ節型		Pleioblastus sect. Nezasa	20	27	57	24	31	14	22	9	9	5	6	5	7
メダケ節型		Pleioblastus sect. Nipponocalamus	22	11	34	11	17	16	14	13	6	12	6	8	9
チマキザサ節型		Sasa sect. Crassinodi	22	27	57	17	42	26	55	26	45	49	41	99	98
その他		Others	10	11	13	11	14	9	14	9	15	9	4	5	2
未分類等	Unknown		37	60	74	47	59	61	65	39	50	35	37	44	42
植物珪酸体総数			161	181	341	202	252	184	266	187	247	168	164	236	208
おもな分類群の推定生産量（単位：kg /㎡・cm）															
イネ		Oryza sativa	0.44	0.65	1.18	1.26	1.23	0.62	0.97	0.82	1.73	0.82	0.68	0.38	0.06
ヨシ属		Phragmites	0.13	0.13	0.82	0.25	0.50	0.32	0.88	0.69	0.38	0.57	0.50	0.63	1.64
ススキ属型		Miscanthus type	0.33	0.16	0.46	0.32	0.31	0.26	0.43	0.60	0.56	0.17	0.33	0.45	0.25
ネザサ節型		Pleioblastus sect. Nezasa	0.10	0.13	0.27	0.12	0.15	0.07	0.11	0.04	0.04	0.02	0.03	0.02	0.03
メダケ節型		Pleioblastus sect. Nipponocalamus	0.26	0.13	0.39	0.13	0.20	0.19	0.16	0.15	0.07	0.14	0.07	0.09	0.10
チマキザサ節型		Sasa sect. Crassinodi	0.17	0.20	0.43	0.13	0.32	0.20	0.41	0.20	0.34	0.37	0.31	0.74	0.74

第 124 表　植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果（２）

検出密度（単位：× 100 個 /g）

分類群（和名・学名）			４区（南東区東壁）											
			耕作土 1	耕作土 2	9 層	耕作土 4	361 田	Ⅲ-2 層	Ⅳ-1 層	造成土	耕作土 1	耕作土 2	耕作土 3	Ⅲ-2 層
			10	11-1	11-2	11-3	12-1	12-2	12-3	13-1	13-2	14-1	14-2	14-3
イネ科 Gramineae (Grasses)														
イネ		Oryza sativa	28	39	27	41				29	47	36	45	4
キビ族型		Paniceae type	3	3	2	2				2	2	2	2	
ヨシ属		Phragmites	3	3	7	5		3	10	8	12	10	7	
シバ属型		Zoysia type	3	5	7	5				2	9	2	2	
ススキ属型		Miscanthus type	17	39	7	23	14	10	13	27	28	22	45	13
ウシクサ族型		Andropogoneae type	6	8	2	5	8	3	3	4	2	5	5	2
タケ亜科	Bambusoideae (Bamboo)													
ネザサ節型		Pleioblastus sect. Nezasa	6	21	20	32	16	8	5	38	21	36	2	6
メダケ節型		Pleioblastus sect. Nipponocalamus	6	8	17	18	16	10	10	27	21	17	2	4
チマキザサ節型		Sasa sect. Crassinodi	25	16	35	41	46	18	23	25	35	39	16	36
その他		Others	14	16	5	7	5	8	3	6	14	7	5	4
未分類等	Unknown		45	37	30	32	32	31	25	48	45	48	43	27
植物珪酸体総数			156	195	159	211	137	91	92	216	236	224	174	96
おもな分類群の推定生産量（単位：kg /㎡・cm）														
イネ		Oryza sativa	0.82	1.15	0.79	1.21				0.85	1.38	1.06	1.32	0.12
ヨシ属		Phragmites	0.19	0.19	0.44	0.32		0.19	0.63	0.50	0.76	0.63	0.44	
ススキ属型		Miscanthus type	0.21	0.48	0.09	0.29	0.17	0.12	0.16	0.33	0.35	0.27	0.56	0.16
ネザサ節型		Pleioblastus sect. Nezasa	0.03	0.10	0.10	0.15	0.08	0.04	0.02	0.18	0.10	0.17	0.01	0.03
メダケ節型		Pleioblastus sect. Nipponocalamus	0.07	0.09	0.20	0.21	0.19	0.12	0.12	0.31	0.24	0.20	0.02	0.05
チマキザサ節型		Sasa sect. Crassinodi	0.19	0.12	0.26	0.31	0.35	0.14	0.17	0.19	0.26	0.29	0.12	0.27

料 7-1）、③層（試料 7-2）でイネが優勢となっている。他の分類群では、①層上部（試料 5-2）でヨシ属とススキ属型が、①層下部（試料６）ではススキ属型とチマキザサ節型が、②層（試料 7-1）ではチマキザサ節型が、⑤層（試料８）ではススキ属型とチマキザサ節型が比較的多く検出されている。



第 478 図　４区（北区南壁）における植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果

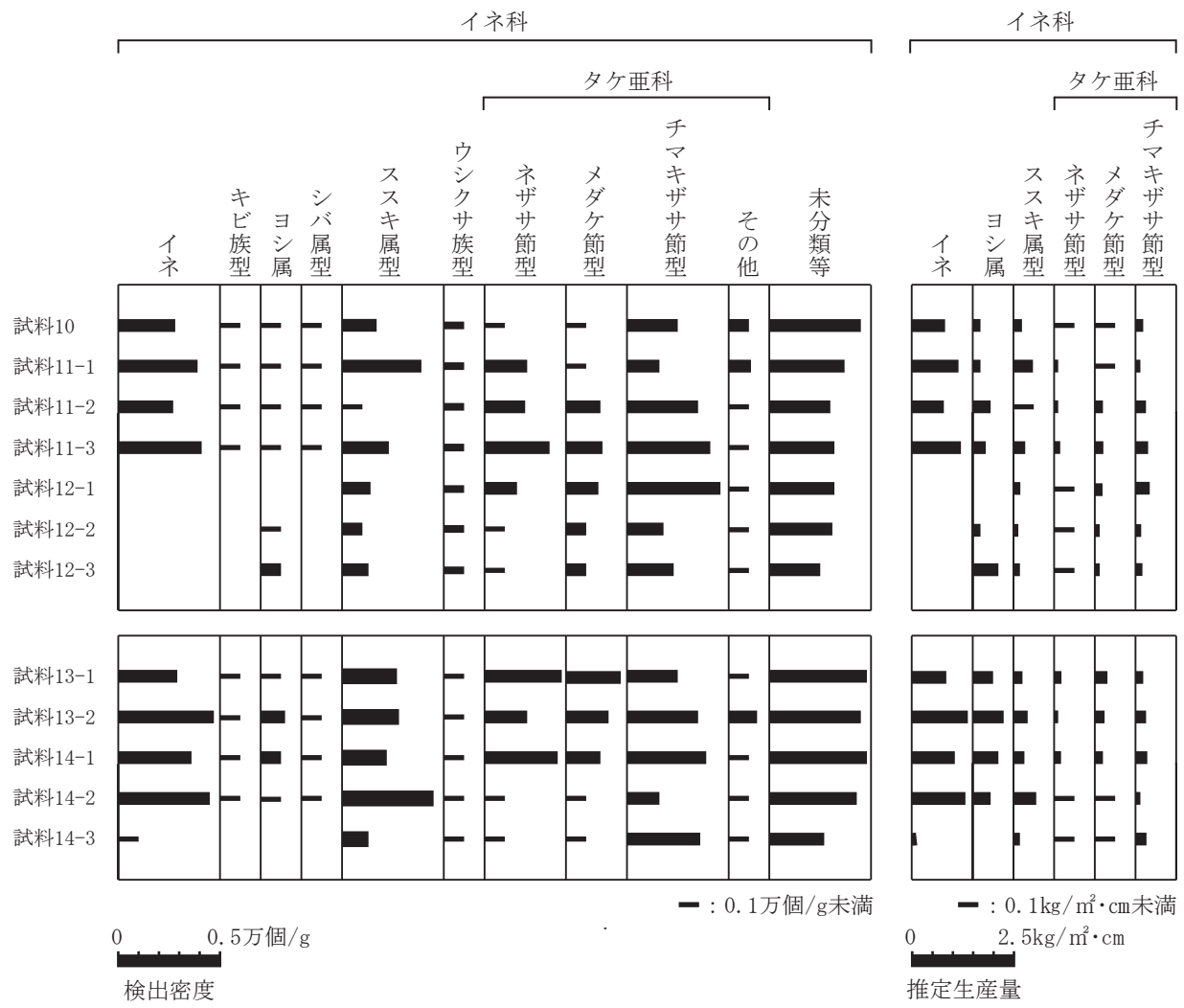
⑥層（試料９）ではヨシ属が優勢で、チマキザサ節型が比較的多い。

２）４区（南東区東壁）

上位より造成土（試料 13-1)、耕作土１（試料 10、試料 13-2)、耕作土２（試料 11-1、試料 14-1)、９層（試料 11-2)、耕作土３（試料 14-2)、耕作土４（試料 11-3)、Ⅲ -2 層（試料 14-3）でイネが検出されている。植物体生産量をみると、造成土（試料 13-1)、耕作土１（試料 10、試料 13-2)、耕作土２（試料 11-1、試料 14-1)、９層（試料 11-2)、耕作土３（試料 14-2)、耕作土４（試料 11-3）でイネが優勢となっている。他の分類群では、耕作土２（試料 11-1）と耕作土３（試料 14-2）でススキ属型が、耕作土１（試料 13-2)、耕作土２（試料 14-1)、Ⅳ -1 層（試料 12-3）でヨシ属が比較的多い。

５．考察

植物珪酸体分析において稲作跡の探査や検証を行うにあたっては、通常、イネの植物珪酸体が試料１ｇあたり 5,000 個以上の密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している（杉山，2000)。なお、近年の調査では密度が 3,000 個 /g 程度あるいはそれ未満であっても水田遺構が検出された事例が報告されていることから、ここでは 3,000 個 /g を基準値とする。一方、ヨシ属やマコモ属は湿地や湿ったところに生育し、ススキ属の多くやタケ亜科は比較的乾いたところに生育する。そこで、これらの植物の産出状況を検討することで、堆積当時の植生や環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。以上のことを参考にして、稲作の可能性と堆積時の植生と環境を検討する。



第 479 図　４区（南東区東壁）における植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果

１）４区（北区南壁）

下位より２流路の⑥層（試料９）～①層上部（試料 5-2)、Ⅰｂ層下部（試料 5-1）～耕作土２（試料１）でイネが検出されている。このうち、Ⅰｂ層下部（試料 5-1)、Ⅰｂ層上部（試料 3-2)、Ⅰａ層（試料 3-1)、耕作土４（試料 2-2）では 3,000 個 /g 以上と比較的高い密度であり、稲作跡の判断基準を満たしている。したがって、これらの層では調査地において稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。また、２流路①層下部（試料６）では 5,900 個 /gと高い密度であり、①層上部（試料 5-2）でも 3,000 個 /g 弱と比較的高い密度である。こうしたことから、①層においても稲作が行われていた可能性が高いと判断される。なお、耕作土３（試料 2-1)、耕作土２（試料１）では密度が 1,500 個 /g ～ 2,200 個 /gとやや低い値である。両層で植物珪酸体密度が低いことの要因としては、１）稲作が行われた期間が短かった、２）稲の生産性が低かった、３）試料採取箇所が畦畔など耕作面でなかった、４）土層の堆積速度が速かった、などが考えられる。また、２流路の⑤層（試料８)、③層（試料 7-2)、②層（試料 7-1）では、密度が 1,300 個 /g ～ 2,800 個 /gとやや低い値であり、稲作跡の判断基準値には達していない。これらについては、近傍の耕作地からイネの植物珪酸体が混入した可能性が高い。ただし、イネの密度は耕作土３（試料 2-1）や耕作土２（試料１）と同等かそれ以上であることから、稲作が行われていた可能性を完全に否定することはできない。これらの層で稲作が行われていたならば、植物珪酸体密度が低いことに関しては、耕作土３や耕作土２と同様の要

因が考えられる。

イネ以外の分類群では、⑥層（試料９）でヨシ属が比較的高い密度であり優勢となっている。このことから、⑥層堆積時の調査地は湿地あるいは湿った環境であったと推定される。Ⅰｂ層の下部（試料5-1)、耕作土４（試料2-2）でもヨシ属がやや多く、ススキ属型も比較的多い。したがって、両層の時期の調査地周辺は湿った環境であり、周辺の比較的乾いたところにはススキなどが生育していたと推定される。

２）４区（南東区東壁）

本地点では、下位よりⅢ-２層（試料14-3)、耕作土４（試料11-3)、耕作土３（試料14-2)、９層（試料11-2)、耕作土２（試料11-1、試料14-1)、耕作土１（試料10、試料13-2)、造成土（試料13-1）でイネが検出されている。密度はそれぞれ2,700個/g～4,700個/gと比較的高いか高い値であることから、これらの層では調査地において稲作が行われていた可能性が高いと判断される。Ⅲ-２層（試料14-3）では400個/gと低密度であることから、ここで検出されたイネの植物珪酸体は上層等から混入したものと思われる。

イネ以外の分類群では、ススキ属型が耕作土３（試料14-2）で多く、耕作土１（試料13-2)、耕作土２（試料11-1、試料14-1)、造成土（試料13-1）でも比較的多い。このことから、これらの層では周辺の比較的乾いたところにはススキなどが生育していたと推定される。

６．まとめ

大鴨遺跡における稲作の可能性と周辺環境を検討することを目的として､植物珪酸体分析を行った。その結果、耕作土４、耕作土３、耕作土２、耕作土１でイネの植物珪酸体が検出されたことから、これらの層で稲作が行われていたことが植物珪酸体分析からも確認された。また、２流路の①層、２流路上部のⅠｂ層、Ⅰａ層でも稲作が行われていた可能性が高いと判断された。その他にも、２流路の⑤層、③層、②層においても稲作が行われていた可能性が認められた。２流路の⑥層の時期は、調査地周辺はヨシなどが生育する湿地あるいは湿った環境であり、２流路の上部のⅠｂ層下部や耕作土４の時期は、調査地周辺は湿った環境であったと推定された。なお、２流路の上部のⅠｂ層下部、耕作土４、耕作土３、耕作土２の時期は、周辺の比較的乾いたところにススキなどが生育していたと推定された。

【参考文献】

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

杉山真二・藤原宏志（1986）機動細胞珪酸体の形態によるタケ亜科植物の同定－古環境推定の基礎資料として－．考古学と自然科学，19，p.69-84.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1) －数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5) －プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

第３項　大鴨遺跡４区の花粉分析

１．はじめに

花粉分析は、一般に低湿地の堆積物を対象とした比較的広域な植生・環境の復原に応用されており、遺跡調査においては遺構内の堆積物などを対象とした局地的な植生の推定も試みられている。花粉などの植物遺体は、水成堆積物では保存状況が良好であるが、乾燥的な環境下の堆積物では分解されて残存していない場合もある。

ここでは、大鴨遺跡４区における植生や堆積環境を検討する目的で花粉分析を行う。

２．試料

分析試料は、４区（北区南壁）の耕作土２（試料１）、耕作土３（試料2-1)、耕作土４（試料2-2)、Ⅰａ層（試料3-1)、Ⅰｂ層上（試料3-2)、Ⅰｂ層中（試料４)、Ⅰｂ層下（試料5-1)、２流路①層上（試料5-2）の計８点である。試料採取箇所を第413図に示す。

３．方法

花粉の分離抽出は、中村（1967）の方法をもとに、以下の手順で行った。

１）試料から１cm^3を採量

２）0.5％リン酸三ナトリウム（12水）溶液を加え15分間湯煎

３）水洗処理の後、0.25mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法で砂粒を除去

４）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置

５）水洗処理の後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸９：濃硫酸１のエルドマン氏液を加え１分間湯煎）を実施

６）再び氷酢酸を加えて水洗処理

７）沈渣にチール石炭酸フクシン染色液を加えて染色し、グリセリンゼリーで封入してプレパラート作製

８）検鏡・計数

検鏡は、生物顕微鏡（Nikon ECLIPSE Ci）によって300～1000倍で行った。花粉の分類は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類し、複数の分類群にまたがるものはハイフン（－）で結んで示した。同定分類には所有の現生花粉標本、島倉（1973)、中村（1980）を参照して行った。イネ属については、チール石炭酸フクシンで染色を施すことにより特徴がより鮮明になるため、中村（1974，1977）を参考にして、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して同定している。なお、花粉分類では樹木花粉（AP）および非樹木花粉（NAP）となるが非樹木花粉（NAP）は草本花粉として示した。

４．結果

（１）分類群

産出した分類群は、樹木花粉31、樹木花粉と草本花粉を含むもの５、草本花粉27、シダ植物胞子２形態の計65分類群である。これらの学名と和名および粒数を第125・126表に示し、花粉数が50個以上計数できた試料については、周辺の植生を復原するために花粉総数を基数とする花粉ダイアグラムを第480図に示す。主要な分類群は顕微鏡写真（図版332）に示した。同時に寄生虫卵についても観察したが検出されなかった。以下に産出した分類群を記載する。

〔樹木花粉〕

モミ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、ヤナギ属、クルミ属、サワグルミ、ノグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、ハシバミ属、クマシデ属－アサダ、クリ、シイ属、ブナ属、イヌブナ、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、サンショウ属、ウルシ属、モチノキ属、カエデ属、トチノキ、ブドウ属、ツバキ属、トネリコ属、タニウツギ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、バラ科、マメ科、ウコギ科、ニワトコ属－ガマズミ属

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属、カヤツリグサ科、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、ソバ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、カラマツソウ属、アブラナ科、ノアズキ属、ササゲ属、エノキグサ属、ツリフネソウ属、キカシグサ属、アリノトウグサ属－フサモ属、チドメグサ亜科、セリ亜科、オミナエシ科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

（２）花粉群集の特徴

下位より花粉構成と花粉組成の変化の特徴を記載する。下位の２流路①層（試料5-2）では、樹木花粉が48%、草本花粉が47%、樹木・草本花粉が１％、シダ植物胞子が４％を占める。草本花粉では、イネ科を主にイネ属、ヨモギ属、カヤツリグサ科の比率が高く、オモダカ属、ミズアオイ属が出現する。樹木花粉では、スギ、シイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、クリが出現する。Ⅰｂ層下（試料5-1）では、草本花粉が58%を占めるようになり、イネ科、イネ属、ヨモギ属、カヤツリグサ科が増加する。樹木花粉では、シイ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、クリの要素は変わらず、スギ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科は減少する。Ⅰｂ層中（試料４）では、樹木花粉が37%、草本花粉が56%、樹木・草本花粉が２%、シダ植物胞子が５％を占める。草本花粉では、イネ科を主にイネ属、カヤツリグサ科、ヨモギ属、キク亜科の比率が高く、オモダカ属が出現する。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属、シイ属、クリ、コナラ属アカガシ亜属、スギが出現する。Ⅰｂ層上（試料3-2）からⅠａ層（試料3-1）では、花粉組成、構成ともに極めて類似した出現傾向を示す。樹木花粉が21%～16%、草本花粉が73%～

第 125 表　４区（北区南壁）における花粉分析結果（１）

Taxa(分類群)			耕作土	耕作土	耕作土	Ⅰａ層	Ⅰｂ層	Ⅰｂ層	Ⅰｂ層	２流路
			2	3	4		上	中	下	①層
Scientific name(学名)		Japanese name(和名)	1	2-1	2-2	3-1	3-2	4	5-1	5-2
Arboreal pollen	樹木花粉									
Abies		モミ属			1				1	
Tsuga		ツガ属	1		3		1	1	1	1
Pinus subgen. Diploxylon		マツ属複維管束亜属	4		12	10	8	3	2	8
Cryptomeria japonica		スギ	1	1	1	4	4	21	12	57
Sciadopitys verticillata		コウヤマキ							1	1
Taxaceae-Cephalotaxaxeae-Cupressaceae		イチイ科 - イヌガヤ科 - ヒノキ科	1		1	2	1	6	8	20
Salix		ヤナギ属			3	1	1		4	
Juglans		クルミ属			1	1	2	1		
Pterocarya rhoifolia		サワグルミ				1		1		
Platycarya strobilacea		ノグルミ						1	1	
Alnus		ハンノキ属	4		4	2	1	1	4	4
Betula		カバノキ属	1	1	1	3	1	1	1	6
Corylus		ハシバミ属								1
Carpinus-Ostrya japonica		クマシデ属 - アサダ	1		5	5	5	5	6	5
Castanea crenata		クリ	12		16	11	21	31	22	12
Castanopsis		シイ属	5	1	17	26	36	45	68	41
Fagus		ブナ属	2	1	3	1	3	4	5	12
Fagus japonica		イヌブナ			1		1	4	3	3
Quercus subgen. Lepidobalanus		コナラ属コナラ亜属	29	10	39	45	41	59	40	33
Quercus subgen. Cyclobalanopsis		コナラ属アカガシ亜属	1		6	2		25	28	21
Ulmus-Zelkova serrata		ニレ属 - ケヤキ				1	1		2	3
Celtis-Aphananthe aspera		エノキ属 - ムクノキ					5	2	3	1
Zanthoxylum		サンショウ属								1
Rhus		ウルシ属					2			
Ilex		モチノキ属						2		
Acer		カエデ属	1		1	1				
Aesculus turbinata		トチノキ	4		1	5	4	6	8	3
Vitis		ブドウ属						1		1
Camellia		ツバキ属								1
Fraxinus		トネリコ属						1	1	
Weigela		タニウツギ属				1				
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉									
Moraceae-Urticaceae		クワ科 - イラクサ科	1	1	2	5	2	5	14	5
Rosaceae		バラ科					1	4		
Leguminosae		マメ科			2		2		1	
Araliaceae		ウコギ科							1	
Sambucus-Viburnum		ニワトコ属 - ガマズミ属					1			
Nonarboreal pollen	草本花粉									
Typha-Sparganium		ガマ属 - ミクリ属			1	1				
Alisma		サジオモダカ属			1	1			2	
Sagittaria		オモダカ属					1	1	5	3
Gramineae		イネ科	97	28	240	274	210	119	163	99
Oryza		イネ属	38	20	109	99	100	70	45	31
Cyperaceae		カヤツリグサ科	12	9	175	86	60	68	74	30
Monochoria		ミズアオイ属								1
Polygonum sect. Persicaria		タデ属サナエタデ節						1		
Rumex		ギシギシ属	1			1				
Fagopyrum		ソバ属	1		2	5	4			
Chenopodiaceae-Amaranthaceae		アカザ科 - ヒユ科	3	1	2	2	4	2	4	1
Caryophyllaceae		ナデシコ科		1	5	1	3	1		
Ranunculus		キンポウゲ属							1	1
Thalictrum		カラマツソウ属				1		1	1	1
Cruciferae		アブラナ科	2	3	20	11	6	5	2	
Dunbaria		ノアズキ属								1
Vigna		ササゲ属			1					
Acalypha		エノキグサ属								1
Impatiens		ツリフネソウ属	2			1			2	
Rotala		キカシグサ属		1	4	2	1	2		
Haloragis-Myriophyllum		アリノトウグサ属 - フサモ属	8	2	3	5	7			
Hydrocotyloideae		チドメグサ亜科	4		3	4	1	5	3	1
Apioideae		セリ亜科		1	1	2			2	2
Valerianaceae		オミナエシ科				1				

第 126 表　４区（北区南壁）における花粉分析結果（２）

Taxa(分類群)		耕作土 2	耕作土 3	耕作土 4	Ⅰａ層	Ⅰｂ層上	Ⅰｂ層中	Ⅰｂ層下	２流路①層
Scientific name(学名)	Japanese name(和名)	1	2-1	2-2	3-1	3-2	4	5-1	5-2
Lactucoideae	タンポポ亜科	11	8	71	46	27	8	9	8
Asteroideae	キク亜科	4	4	19	23	12	15	11	10
Artemisia	ヨモギ属	37	11	61	35	43	34	65	38
Arboreal pollen	樹木花粉	67	14	116	122	138	221	221	235
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	1	1	4	5	6	9	16	5
Nonarboreal pollen	草本花粉	220	89	718	601	479	332	389	228
Total pollen	花粉総数	288	104	838	728	623	562	626	468
Pollen frequencies of 1cm^3	試料 1cm^3 中の花粉密度	2.1 × 10 3	0.8 × 10 3	7.4 × 10 3	1.3 × 10 4	1.8 × 10 4	5.5 × 10 3	1.2 × 10 4	1.0 × 10 4
Unknown pollen	未同定花粉	5	2	14	4	10	5	6	0
Fern spore	シダ植物胞子								6
Monolate type spore	単条溝胞子	15	13	34	20	20	22	34	13
Trilate type spore	三条溝胞子	2	5	22	17	13	6	8	8
Total Fern spore	シダ植物胞子総数	17	18	56	37	33	28	42	21
Parasite eggs	寄生虫卵	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Stone cell	石細胞	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Digestion rimains	明らかな消化残渣	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
Charcoal・woods fragments	微細炭化物・微細木片	(<+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)	(+)
微細植物遺体 (Charcoal・woods fragments)	（× 105）								
未分解遺体片				0.4					
分解質遺体片		1.8	5.0	6.7	6.3	13.4		13.6	2.9
炭化遺体片（微粒炭）									

79%、樹木・草本花粉が１％、シダ植物胞子が５％を占める。イネ科の出現率が高く、イネ属、カヤツリグサ科、タンポポ亜科、ヨモギ属、キク亜科が出現し、オモダカ属、ソバ属が検出される。樹木花粉では、シイ属、コナラ属コナラ亜属、クリ、低率にマツ属複維管束亜属が出現する。耕作土４（試料 2-2）では、樹木花粉が 13%、草本花粉が 80%、樹木・草本花粉が１％、シダ植物胞子が６％を占める。草本花粉では、イネ科、イネ属を主にカヤツリグサ科、ヨモギ属、タンポポ亜科の比率が高く、ソバ属、ササゲ属が出現する。樹木花粉は低率で、コナラ属コナラ亜属、シイ属、クリ、マツ属複維管束亜属が出現する。耕作土３（試料 2-1）では、樹木花粉が 12%、草本花粉が 72%、樹木・草本花粉が１％、シダ植物胞子が 15%を占める。イネ科、イネ属が高率で、ヨモギ属、キク亜科、カヤツリグサ科、タンポポ亜科、アリノトウグサ属－フサモ属が伴わる。樹木花粉では、コナラ属コナラ亜属の出現率がやや高い。耕作土２（試料１）では、樹木花粉が 22%、草本花粉が 72%、樹木・草本花粉が１％、シダ植物胞子が５％を占める。草本花粉では、イネ科、イネ属が優占し、ヨモギ属、カヤツリグサ科、タンポポ亜科、アリノトウグサ属－フサモ属が比較的多く、ソバ属が出現する。樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属、クリの出現率がやや高い。

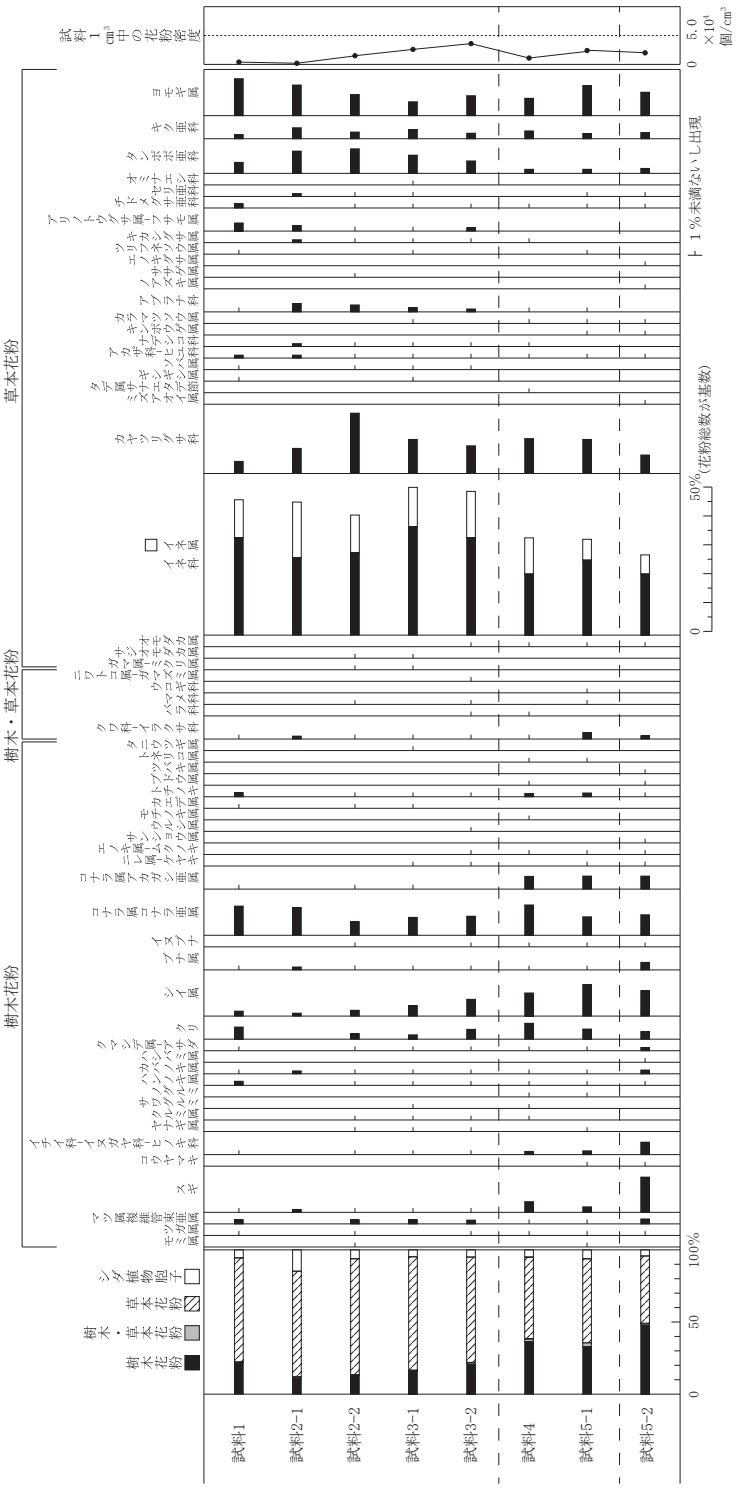
５．花粉分析から推定される植生と環境

下位より、２流路①層（試料 5-2）の時期は、イネ属のほかにイネ科、カヤツリグサ科およびオモダカ属、ミズアオイ属の水田を示唆する水生植物が検出されることから、近傍に水田の分布が推定される。周辺には、シイ属とコナラ属アカガシ亜属を主要素とする照葉樹林、コナラ属コナラ亜属を主要素とする落葉広葉樹林、スギ林およびヨモギ属の分布する草地が分布していた。Ⅰｂ層下（試料 5-1）およびⅠｂ層中（試料４）の時期は、スギ林を主にイチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科が減少し、草本およびクリとコナラ属コナラ亜属が増加する。低地のスギ林が減少し、水田などの人為干渉地やクリとコナラ属コナラ亜属の二次林が増加する。Ⅰｂ層上（試料 3-2）より上部の時期は、コナラ属

アカガシ亜属やシイ属の照葉樹林も減少し、水田ないし畑地が大きく拡大したとみなされる。畑作物としてはソバ属、アブラナ科植物、ササゲ属が検出される。この時期には堆積地周辺も耕作地化したと推定される。コナラ属アカガシ亜属は激減するが、シイ属は減少傾向を示し、マツ属複維管束亜属の微増から、アカマツ二次林が成立する。

６．まとめ

下位の２流路①層の時期から上位層にかけては、調査地あるいは周辺に水田の分布が示唆された。上位に向かいⅠｂ層下部ではスギ林が減少し、Ⅰｂ層上部の時期にはコナラ属アカガシ亜属が減少し、耕作地の拡大が示唆された。Ⅰｂ層上部より上位では、畑作物のソバ属、アブラナ科、ササゲ属が検出され、畑作の拡大も認められた。



第 480 図　４区（北区南壁）における花粉ダイアグラム

【参考文献】

土質工学会編（1979）土質試験法，p.2-5-1 ～ 2-5-23，4-2-1 ～ 4-3-11.

金原正明・金原正子（1993）石棺内の花粉分析および消化管内残渣の分析．斑鳩藤ノ木古墳第二・三次調査報告書，奈良県　立橿原考古学研究所，p.18-26.

金原正明（1999）寄生虫．西田豊弘・松井　章編「考古学と動物学」，同成社，p.151-158.

金原正明･金原正子（1992）花粉分析および寄生虫．藤原京跡の便所遺構－藤原京７条１坊－，奈良国立文化財研究所，p.14-15.

金原正明・金原正子（2013）植生と農耕における土壌層分析の実証的研究，日本文化財科学会第 30 回大会研究発表会要旨集，日本文化財科学会，p.112-113.

金原正明・金原正子（2015）堆積物と植物遺体の総合的研究．日本文化財科学会第 32 回大会研究発表要旨集，日本文化財科学会，p.146-147.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第５集，大阪市立自然史博物館，60p.

中村純（1967）花粉分析．古今書院，232p.
中村純 (1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として . 第四紀研究 , 13, 日本第四紀学会，p.187-193.
中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学，no.10，日本文化財科学会，p.21-30.
中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第 13 集，大阪市立自然史博物館，91p.
金原正明(1993)花粉分析法による古環境復原. 新版古代の日本第10巻, 古代資料研究の方法, 木下正史編. 角川書店，　p.248-262.
金子清俊・谷口博一（1987）線形動物・扁形動物．医動物学 付 実験用動物学 新版臨床検査講座，8，医歯薬出版，p.9-134.
Warnock, P. J. and Reinhard, K. J.（1992）Methods for Extraxting Pollen and Parasite Eggs from Latrine Soils. Jounal of Archaeological Science, 19, p.231-245.

第４項　大鴨遺跡４区の珪藻分析

１．はじめに

珪藻は、珪酸質の被殻を有する単細胞植物であり、海水域や淡水域などの水域をはじめ、湿った土壌、岩石、コケの表面にまで生息している。珪藻の各分類群は、塩分濃度、酸性度、流水性などの環境要因に応じて、それぞれ特定の生息場所を持っている。珪藻化石群集の組成は、当時の堆積環境を反映しており、水域を主とする古環境復原の指標として利用されている。

ここでは､大鴨遺跡４区で検出された２流路埋没時期の堆積環境を検討する目的で珪藻分析を行う。

２．試料

分析試料は、４区で確認された２流路の直上層と覆土で、Ｉｂ層下（試料 5-1)、２流路①層上（試料 5-2)、２流路①層下（試料６)、２流路②層（試料 7-1)、２流路③層（試料 7-2)、２流路⑤層（試料８)、２流路⑥層（試料９）の計７点である。試料採取箇所を第 413 図に示す。

３．方法

以下の手順で、珪藻の抽出と同定を行った。

１）試料から１cm^3 を採量
２）10％過酸化水素水を加え、加温反応させながら１晩放置
３）上澄みを捨て、細粒のコロイドを水洗（４～５回）
４）残渣をマイクロピペットでカバーグラスに滴下して乾燥
５）マウントメディアによって封入し、プレパラート作製
６）検鏡、計数

検鏡は、生物顕微鏡（Nikon ECLIPSE Ci）によって 600 ～ 1500 倍で行った。計数は珪藻被殻が 200 個体以上になるまで行い、少ない試料についてはプレパラート全面について精査を行った。

４．結果

（１）分類群

産出した珪藻は、中－貧塩性種（汽－淡水生種）１分類群、貧塩性種（淡水生種）121 分類群である。破片の計数は基本的に中心域を有するものと、中心域がない種については両端２個につき１個と数えた。分析結果を第 127・128 表に示し、珪藻総数を基数とする百分率を算定した珪藻ダイアグラムを第 481 図に示す。珪藻ダイアグラムにおける珪藻の生態性は Lowe（1974）の記載により、陸生珪藻は小杉（1986）により、環境指標種群は海水生種から汽水生種は小杉（1988）により、淡水生種は安藤（1990）による。現生珪藻の CMB 仮説と呼ばれる分類体系も用いられるが、科や属によってすべてを再分類できているわけではなく、混乱を避けるため従来の分類を用いた。また、主要な分類群は顕微鏡写真（図版 333）に示した。以下にダイアグラムで表記した主要な分類群を記載する。

〔貧塩性種〕

Achnanthes lanceolata、Amphora copulata、Aulacoseira ambigua、Caloneis molaris、Cocconeis placentula、Cymbella gracilis、Cymbella naviculiformis、Cymbella silesiaca、Cymbella sinuata、Cymbella tumida、Cymbella turgidula、Diploneis elliptica、Diploneis pseudovalis、Eunotia minor、Eunotia praerupta、Fragilaria brevistriata、Fragilaria capucina、Fragilaria construens、Fragilaria construens v. venter、Fragilaria exigua、Gomphonema parvulum、Gomphonema spp.、Meridion circulare v. constrictum、Navicula cryptotenella、Navicula elginensis、Navicula mutica、Pinnularia acrosphaeria、Pinnularia viridis、Rhopalodia gibberula、Stauroneis phoenicenteron、Tabellaria fenestrata-flocculosa

（２）珪藻群集の特徴

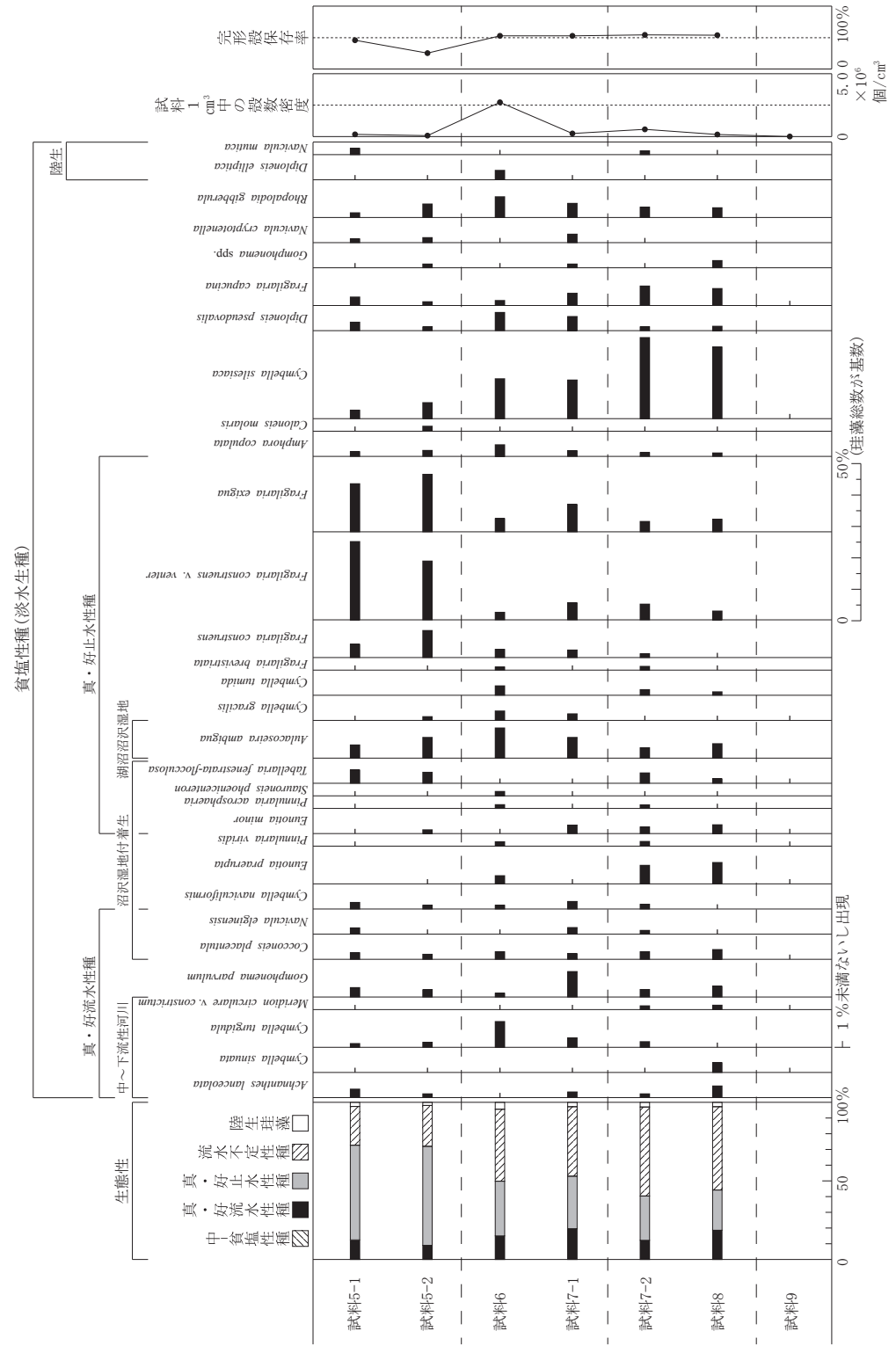
２流路下位の⑥層（試料９）では、密度が極めて低く珪藻はほとんど検出されないが、好流水性種で沼沢湿地付着生種の Cocconeis placentula、流水不定性種で沼沢湿地付着生種の Eunotia praeruptaなどがわずかに産出する。⑤層（試料８）では、真・好流水性種が 18%、真・好止水性種が 26%、流水不定性種が 53%、陸生珪藻が３％を占める。流水不定性種の Cymbella silesiacaの比率が高く、Fragilaria capucina、Rhopalodia gibberula、Gomphonema spp.が伴われる。他に流水不定性種で沼沢湿地付着生種の Eunotia praerupta、好止水性種で湖沼沼沢湿地生種の Aulacoseira ambigua、好止水性種の Fragilaria construens v. venter、Fragilaria exigua、好流水性種の Gomphonema parvulum、中～下流性河川種の Achnanthes lanceolata、Cymbella sinuata、沼沢湿地付着生種の Cocconeis placentulaが産出する。③層（試料 7-2）では、真･好流水性種が 12%、真･好止水性種が 28%、流水不定性種が 57%、陸生珪藻が３％を占める。流水不定性種の Cymbella silesiacaの比率が高く、Fragilaria capucina、Rhopalodia gibberulaが伴われる。他に流水不定性種で沼沢湿地付着生種の Eunotia praerupta、好止水性種で湖沼沼沢湿地生種の Aulacoseira ambigua、沼沢湿地付着生種の Tabellaria fenestrata-flocculosa、好止水性種の Fragilaria construens v. venter、Fragilaria exigua、好流水性種の Gomphonema parvulum、沼沢湿地付着生種の Cocconeis placentulaが産出する。この出現傾向は、下位の⑤層（試料８）と類似する。②層（試料 7-1）では、

第 127 表
４区（北区南壁）２流路の珪藻分析結果（１）

分類群	Ⅰb層下	①層上	①層下	②層	③層	⑤層	⑥層
	5-1	5-2	6	7-1	7-2	8	9
貧塩性種（淡水生種）							
Achnanthes exigua	1			1			
Achnanthes hungarica				1			
Achnanthes inflata						1	
Achnanthes lanceolata	9	3	3	6	4	13	
Achnanthes minutissima	1			2			
Amphora copulata	5	5	21	6	4	4	
Amphora veneta	1		1				
Aulacoseira ambigua	14	17	55	22	11	16	
Aulacoseira canadensis	2		1				
Aulacoseira valida						1	
Aulacoseira spp.		2				1	
Caloneis branderii			2		5	5	
Caloneis lauta		1	1		1		
Caloneis molaris	2	4	2	3	1	2	
Caloneis silicula	4		6		2	1	
Cocconeis disculus		1			1		
Cocconeis placentula	7	4	14	6	8	11	6
Cymbella affinis							1
Cymbella amphioxys		1	3				
Cymbella cistula			3				
Cymbella cuspidata			1		1		
Cymbella gracilis	2	3	17	7	2	1	1
Cymbella minuta			1	1	1	2	
Cymbella naviculiformis	7	3	7	8	5	3	
Cymbella silesiaca	9	13	73	41	87	80	3
Cymbella sinuata	1	1	4	2	3	11	3
Cymbella subaequalis			2		4	2	
Cymbella tumida			17		6	4	
Cymbella turgidula	4	4	47	10	6	3	
Cymbella spp.	1	3		3	1		
Diatoma mesodon			1				
Diploneis elliptica	1	1	17	1	3	2	
Diploneis finnica					1		
Diploneis ovalis			4	1	1		
Diploneis pseudovalis	9	3	33	15	4	5	
Diploneis subovalis						1	
Diploneis yatukaensis							1
Diploneis spp.	1		2			1	
Eunotia bilunaris				1			
Eunotia minor	1	3	3	9	7	10	1
Eunotia paludosa-rhomboidea	3	1	1		1	1	
Eunotia pectinalis			1		1	1	
Eunotia praerupta		2	15	2	20	24	4
Fragilaria brevistriata	3	1	6	2	4	2	
Fragilaria capucina	9	3	9	13	21	19	1
Fragilaria constricta	1						
Fragilaria construens	14	22	15	8	4	1	
Fragilaria construens v. binodis	1	1					
Fragilaria construens v. venter	83	48	14	18	17	10	
Fragilaria exigua	51	47	24	29	11	14	
Fragilaria pinnata	2	1	3	1	1	2	
Fragilaria vaucheriae		1	1	2	1		
Fragilaria virescens	5	1		1		1	
Fragilaria spp.	2	3			1		
Frustulia vulgaris			2	3			
Gomphonema acuminatum						2	
Gomphonema angustatum			1			1	
Gomphonema augur			1	2			
Gomphonema clevei						2	
Gomphonema gracile	1	1	1	3	2	4	
Gomphonema grovei			2			5	
Gomphonema minutum	2	1	2		1	3	
Gomphonema parvulum	10	6	7	27	8	12	
Gomphonema pseudoaugur	2			2	1		

第 128 表
４区（北区南壁）２流路の珪藻分析結果（２）

分類群	Ⅰb層下	①層上	①層下	②層	③層	⑤層	⑥層
	5-1	5-2	6	7-1	7-2	8	9
貧塩性種（淡水生種）							
Gomphonema pseudsphaerophorum		1					
Gomphonema pumilum				4			
Gomphonema truncatum			1				
Gomphonema spp.	1	3	4	4	2	8	
Gyrosigma spp.		1	3	1	1	1	
Hantzschia amphioxys					1	1	
Meridion circulare v. constrictum	3		3	2	4	5	1
Navicula bacillum			1	1			
Navicula clementioides			1		1		
Navicula confervacea		1		1		1	
Navicula cryptotenella	4	4	1	9	1		
Navicula cuspidata		1	2	1	1	3	1
Navicula elginensis	7	2	3	7	4	2	
Navicula gallica				1			
Navicula goeppertiana	1				1		
Navicula ignota				1			
Navicula kotschyi		2			1	1	
Navicula laevissima	1		3	2	2	2	
Navicula mutica	5		2		4	3	
Navicula placenta v. obtusa	1	1	1		1		
Navicula pseudoacceptata	1						
Navicula pupula	1		1	1			
Navicula radiosa			2	1	3	4	
Navicula trivialis	1		1	2	1		
Navicula viridula				1			
Navicula spp.	2						
Neidium ampliatum		1	3	1	1	1	
Neidium bisulcatum	1		2	1		1	
Nitzschia amphibia		1	1	1			
Nitzschia nana						1	
Nitzschia palea	1						
Nitzschia parvuloides	2					1	
Nitzschia spp.				1			
Pinnularia acrosphaeria	1		7	2	5	1	
Pinnularia aestuarii			3		1		
Pinnularia appendiculata				1			
Pinnularia borealis		1			1		
Pinnularia braunii					1		
Pinnularia divergens	1		4		1	3	
Pinnularia gibba	1		1		1		
Pinnularia hemiptera	2		3	1			
Pinnularia interrupta				1		1	
Pinnularia microstauron	1	2	5	1	1		
Pinnularia nodosa			2	1		1	
Pinnularia schoenfelderi			1	1		1	
Pinnularia schroederii			1				
Pinnularia stomatophora	1		1	1	1		
Pinnularia viridis	2		8		5		2
Pinnularia spp.		1	1			1	
Rhoicosphenia abbreviata			1			2	
Rhopalodia gibba			5	1		2	
Rhopalodia gibberula	5	11	38	15	11	11	
Stauroneis phoenicenteron	1	2	8	2	2	3	
Stauroneis smithii		2		1	1		
Surirella angusta			1		1	1	
Synedra ulna	1				2		4
Tabellaria fenestrata-flocculosa	14	9	2	2	11	5	1
中－貧塩性種（汽－淡水生種）							
Navicula peregrina	1						
合　計	334	257	573	332	337	351	30
未同定	8	4	5	8	5	3	0
破片	401	760	511	303	283	303	55
試料 1 cm^3 中の殻数密度	1.5 × 10 5	5.2 × 10 4	2.7 × 10 6	2.2 × 10 5	5.5 × 10 5	1.4 × 10 5	0.6 × 10 4
完形殻保存率（%）	46.0	25.6	53.1	52.9	54.7	53.9	-



第 481 図　４区（北区南壁）２流路における主要珪藻ダイアグラム

真・好流水性種が 20%、真・好止水性種が 33%、流水不定性種が 44%、陸生珪藻が３％を占める。好止水性種で湖沼沼沢湿地生種の Aulacoseira　ambigua、好止水性種の Fragilaria　construens　v. venter、Fragilaria　exigua、好流水性種の Gomphonema　parvulum が微増する。③層（試料 7-2）で産出率の高かった流水不定性種の Cymbella　silesiaca が半減し、流水不定性種で沼沢湿地付着生種の Eunotia　praeruptaが減少する。①層下（試料６）では、真・好流水性種が 15%、真・好止水性種が 35%、流水不定性種が 46%、陸生珪藻が４％を占める。特に優占する種は認められず、流水不定性

種の Cymbella　silesiaca、Rhopalodia　gibberula、Diploneis　pseudovalis、好止水性種で湖沼沼沢湿地生種の Aulacoseira　ambigua、中～下流性河川種の Cymbella　turgidulaの比率がやや高い。①層上（試料 5-2)、Ｉｂ層下（試料 5-1）では、優占する珪藻の組成、構成ともに極めて類似した傾向を示す。真・好流水性種が９～ 12%、真・好止水性種が 63 ～ 60%、流水不定性種が 26 ～ 25%、陸生珪藻が２～３％を占める。好止水性種の Fragilaria　construens　v.　venter、Fragilaria　exiguaの出現率が高く、Fragilaria　construens、湖沼沼沢湿地生種の Aulacoseira　ambigua、沼沢湿地付着生種の Tabellaria　fenestrata-flocculosaが伴われる。他に流水不定性種の Cymbella　silesiaca、Rhopalodia gibberula、好流水性種の Gomphonema　parvulum、中～下流性河川種の Achnanthes　lanceolata、沼沢湿地付着生種の Cocconeis　placentulaが低率に産出する。

５．珪藻分析から推定される堆積環境

２流路の下位より、⑥層（試料９）では、珪藻密度が低く堆積速度が速かったとみられる。好流水性種で沼沢湿地付着生種の Cocconeis　placentula、流水不定性種で沼沢湿地付着生種の Eunotia praeruptaなどがわずかに産出する。これらのことから、流水の影響のある水草の繁茂する浅い水域が推定される。⑤層（試料８）および③層（試料 7-2）では、流水不定性種の Cymbella　silesiacaが優占するが、Eunotia　praeruptaなど流水不定性種で沼沢湿地付着生種もやや多く、多様な珪藻が産出する。こうしたことから、水草が生育するやや不安定な流水と止水の入り混じる環境が示唆される。②層（試料 7-1）および①層（試料６）では、流水不定性種の Cymbella　silesiac、湖沼沼沢湿地生種の Aulacoseira　ambiguaがやや多いものの、多様な種が産出する。こうしたことから、不安定な流水と止水の入り混じるやや水深のある環境が示唆される。①層（試料 5-2)、２流路直上のＩｂ層（試料 5-1）の時期は、好止水性種の Fragilaria　construens　v.　venter、Fragilaria　exiguaが多く、湖沼沼沢湿地生種の Aulacoseira　ambigua、沼沢湿地付着生種の Tabellaria　fenestrata-flocculosaが伴われる。これらのことから、池状の深い止水域を主に水草の生育する浅い水域を伴う環境が推定される。なお、各層における水環境はいずれも低湿な水田の環境の範囲でもあることから、２流路の周辺やＩｂ層は水田であった可能性もある。

６．まとめ

大鴨遺跡４区で確認された２流路において珪藻分析を行った。その結果、２流路覆土の①層、②層、③層、⑤層、⑥層および２流路直上Ｉｂ層の７層準では、中下部は不安定な水域、上部は安定した池状の水域が示唆され、上位ほど深い水域になる傾向が推定された。なお、いずれも水田の水環境の範囲であり、各層準とも低湿な水田であった可能性も示唆された。

【参考文献】

安藤一男（1990）淡水産珪藻による環境指標種群の設定と古環境復原への応用．東北地理，42，p.73-88.

Asai,K.&,Watanabe,T.(1995)Statistic Classification of Epilithic Diatom Species into Three Ecological Groups relaiting to Organic Water Pollution(2) Saprophilous and saproxenous taxa.Diatom,10,p.35-47.

Hustedt,F.(1937 − 1938)Systematische und ologishe Untersuchungen uber die DiatomeenFlora von Java,Bali und Sumatra nach dem Material der Deutschen Limnologischen Sunda-Expedition. Arch.Hydrobiol,Suppl.15,p.131 − 506.

伊藤良永・堀内誠示（1991）陸生珪藻の現在に於ける分布と古環境解析への応用．珪藻学会誌 , 6 ,p.23-45.

小杉正人（1986）陸生珪藻による古環境解析とその意義－わが国への導入とその展望－．植生史研究，第１号，植生史研究会，p.29-44.

小杉正人（1988）珪藻の環境指標種群の設定と古環境復原への応用．第四紀研究，27，p. 1 -20.

K. Krammer・H.Lange-Bertalot(1986-1991) Bacillariophyceae,vol.2,no.1-no.4

Lowe,R.L.(1974)Environmental Requirements and pollution tolerance of fresh − water diatoms. 333p., National Environmental Reserch.Center.

鈴木秀和・南雲保（2013）珪藻類の分類体系（総説）～現生珪藻の属ランクのチェックリスト．日本プランクトン学会報 60(2). p.60-79.

Theriot, E. C.,J. J. Cannone, R. R. Gutell & A. J. Alverson 2009. The limits of nuclear-encoded SSU rDNA for resolving the diatom ohylogeny. Eur. J. Phycol. 44, p.277-290.

渡辺仁治（2005）淡水珪藻生態図鑑　群集解析に基づく汚濁指数 DAIpo, pH 耐性能．内田老鶴圃，666p.

第６節　石塚廃寺東遺跡Ｐ２～４区の放射性炭素年代測定

株式会社加速器分析研究所

１．測定対象試料

石塚廃寺東遺跡は鳥取県倉吉市石塚・福山地内に所在する。測定対象試料は、溶解炉や羽口先溶解物から採取された木炭６点である。分析試料は依頼者によって採取された木炭片の提供を受けた。試料の状態と採取に関するデータを第 129 表に示した。

２．化学処理工程

１）メス・ピンセットを使い、付着物を取り除いた後、超音波洗浄を行う。

２）酸 - アルカリ - 酸（AAA：Acid Alkali Acid）処理により不純物を化学的に取り除く。その後、超純水で中性になるまで希釈し、乾燥させる。AAA 処理における酸処理では、通常 1mol/ℓ（1M）の塩酸（HCl）を用いる。アルカリ処理では水酸化ナトリウム（NaOH）水溶液を用い、0.001M から 1M まで徐々に濃度を上げながら処理を行う。アルカリ濃度が 1M に達した時には「AAA」、1M 未満の場合は「AaA」と第 130 表に記載する。

３）試料を燃焼させ、二酸化炭素（CO_2）を発生させる。

４）真空ラインで二酸化炭素を精製する。

５）精製した二酸化炭素を、鉄を触媒として水素で還元し、グラファイト（C）を生成させる。

６）グラファイトを内径１mm のカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイールにはめ込み、測定装置に装着する。

３．測定方法

加速器をベースとした14C-AMS専用装置（NEC社製）を使用し、14Cの計数、13C濃度（13C/12C）、14C濃度（14C/12C）の測定を行う。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx Ⅱ）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

４．算出方法

１）δ 13Cは、試料炭素の13C濃度（13C/12C）を測定し、基準試料からのずれを千分偏差（‰）で表した値である（第130表）。AMS装置による測定値を用い、表中に「AMS」と注記する。

２）14C年代（Libby Age：yrBP）は、過去の大気中14C濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年（0yrBP）として遡る年代である。年代値の算出には、Libbyの半減期（5568年）を使用する（Stuiver and Polach 1977）。14C年代はδ 13Cによって同位体効果を補正する必要がある。補正した値を第130表に、補正していない値を参考値として第131表に示した。14C年代と誤差は、下１桁を丸めて10年単位で表示される。また、14C年代の誤差（± １ σ）は、試料の14C年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。

３）pMC (percent Modern Carbon) は、標準現代炭素に対する試料炭素の14C濃度の割合である。pMCが小さい（14Cが少ない）ほど古い年代を示し、pMCが100以上（14Cの量が標準現代炭素と同等以上）の場合Modernとする。この値もδ 13Cによって補正する必要があるため、補正した値を第130表に、補正していない値を参考値として第131表に示した。

４）暦年較正年代とは、年代が既知の試料の14C濃度をもとに描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の14C濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、14C年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、１標準偏差（1 σ = 68.3%）あるいは２標準偏差（2 σ = 95.4%）で表示される。グラフの縦軸が14C年代、横軸が暦年較正年代を表す。暦年較正プログラムに入力される値は、δ 13C補正を行い、下１桁を丸めない14C年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によって

第129表　測定試料及び処理

測定番号	試料名	試料種別	大きさ・数量・採取位置・辺材と心材の別など	色	乾湿	付着物	残試料	備考
IAAA-220283	試料１	木炭	2.5 × 2.0 × 1.2cmの木炭（樹皮なし、12年輪ほど、芯材 / 辺材の別不明）で、最外１年輪を一部採取。	黒色	乾	土	あり	
IAAA-220284	試料２	木炭	0.5 × 0.3 × 0.1cm以下の木炭片多数（樹皮なし、芯材 / 辺材の別不明）のうち、比較的大きい８片を採取。	黒色	乾	なし	あり	
IAAA-220285	試料３	木炭	1.7 × 0.6 × 0.4cmの木炭（樹皮なし、８年輪ほど、芯材 / 辺材の別不明）と細片多数のうち、最大片の外側４～５年輪を採取。	黒色	乾	土	あり	
IAAA-220286	試料４	木炭	1.0 × 0.8 × 0.8cm以下の木炭片多数（樹皮なし、芯材 / 辺材の別不明）のうち、最大片の外側３～６年輪を採取。	黒色	乾	なし	あり	
IAAA-220287	試料５	木炭	1.7 × 1.0 × 0.6cmの木炭（樹皮なし、５年輪ほど、芯材 / 辺材の別不明）で、外側３年輪ほどを一部採取。	黒色	乾	土、金属？	あり	
IAAA-220288	試料６	木炭	2.1 × 0.6 × 0.4cmの木炭（樹皮なし、３年輪ほど、芯材 / 辺材の別不明）と細片微量のうち、最大片より金属の沈着を避け、内側の可能性のある１年輪を採取。	黒色	乾	土、金属？	あり	

依頼者によって木炭から採取され、提供された木炭片の観察所見を記載している。

も結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal20 較正曲線（Reimer et al. 2020）を用い、OxCalv4.4 較正プログラム（Bronk Ramsey 2009）を使用した。暦年較正年代については、特定の較正曲線、プログラムに依存する点を考慮し、プログラムに入力する値とともに参考値として第 131 表に示した。暦年較正年代は、14C 年代に基づいて較正（calibrate）された年代値であることを明示するために「cal BC/AD」または「cal BP」という単位で表される。

５．測定結果

測定結果を第 130・131 表、第 482 図に示す。

試料６点の 14C 年代は、1140 ± 20yrBP（試料１）から 210 ± 20yrBP（試料５）の間にある。暦年較正年代（1 σ）は、最も古い試料１が 884 ～ 974cal ADの間に２つの範囲、最も新しい試料５が 1654 ～ 1799cal ADの間に３つの範囲で示される。全体としてはかなりの年代幅を持つが、15 ～ 17 世紀頃の年代値を示すものが多い。なお、試料５の較正年代については、記載された値よりも新しい可能性がある点に注意を要する（第 131 表下の警告参照）。

なお、今回測定された試料はすべて木炭で、提供された木炭片を観察した範囲では樹皮を確認できなかった。このため、以下に記す古木効果を考慮する必要がある。

樹木は外側に年輪を形成しながら成長するため、その木が伐採等で死んだ年代を示す試料は最外年輪から得られ、内側の試料は年輪数の分だけ古い年代値を示す（古木効果）。今回測定された試料は樹皮が残存せず、本来の最外年輪を確認できないことから、測定された年代値は、その木が死んだ年代よりも古い可能性がある。

試料の炭素含有率はすべて 80%を超える十分な値で、化学処理、測定上の問題は認められない。

【文献】

Bronk Ramsey, C. 2009 Bayesian analysis of radiocarbon dates, Radiocarbon 51(1), 337-360

Reimer, P.J. et al. 2020 The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon age calibration curve (0-55　cal kBP), Radiocarbon 62(4), 725-757

Stuiver, M. and Polach, H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, Radiocarbon 19(3), 355-363

第 130 表　放射性炭素年代測定結果（δ 13C 補正値）

測定番号	試料名	採取場所	試料種別	処理方法	δ 13C (‰) (AMS)	δ 13C 補正あり Libby Age(yrBP)	pMC(%)
IAAA-220283	試料１	P4 区　１流路　溶解炉（下段～炉床）　取上 No.8	木炭	AAA	-26.43　± 0.37	1,140　± 20	86.76　± 0.27
IAAA-220284	試料２	P2・3 区　溶解炉（下段）　取上 No.5	木炭	AAA	-25.08　± 0.46	410　± 20	95.02　± 0.28
IAAA-220285	試料３	P3 区　２流路　溶解炉（下段）　取上 No.90	木炭	AAA	-25.50　± 0.32	330　± 20	95.93　± 0.28
IAAA-220286	試料４	P3 区　１溝　溶解炉（下段）　取上 No.124	木炭	AAA	-24.98　± 0.45	320　± 20	96.08　± 0.28
IAAA-220287	試料５	P3 区　２流路　羽口先溶解物　取上 No.91	木炭	AAA	-25.02　± 0.44	210　± 20	97.40　± 0.29
IAAA-220288	試料６	P3 区　２流路　羽口先溶解物　取上 No.76	木炭	AAA	-27.48　± 0.28	390　± 20	95.21　± 0.28

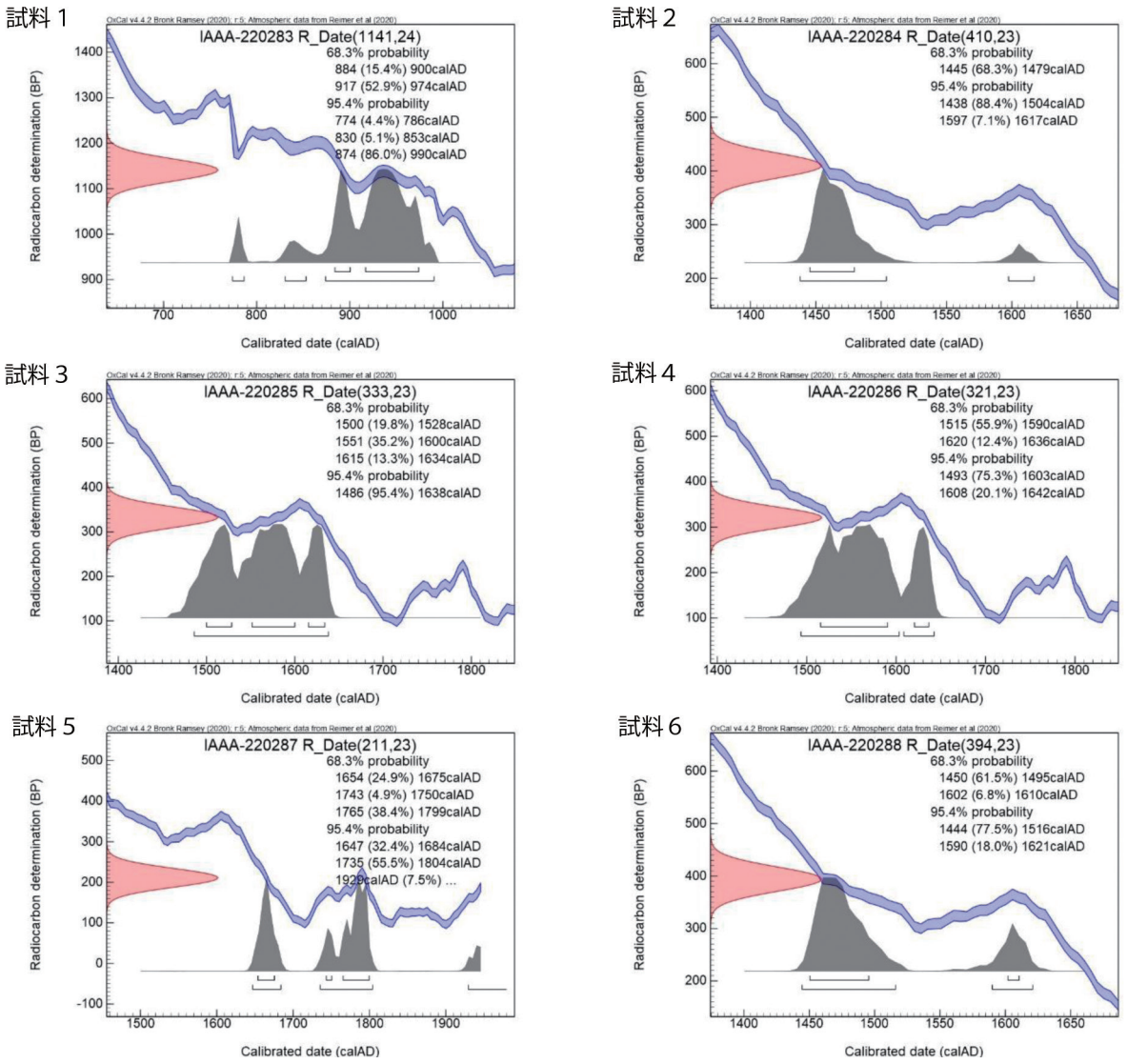
[IAA 登録番号：#B391]

第 131 表　暦年較正年代グラフ（参考）

測定番号	δ 13C 補正なし		暦年較正用	1 σ暦年代範囲	2 σ暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC （%）	(yrBP)		
IAAA-220283	1,160 ± 20	86.50 ± 0.26	1,141 ± 24	884calAD - 900calAD (15.4%) 917calAD - 974calAD (52.9%)	774calAD - 786calAD (4.4%) 830calAD - 853calAD (5.1%) 874calAD - 990calAD (86.0%)
IAAA-220284	410 ± 20	95.00 ± 0.27	410 ± 23	1445calAD - 1479calAD (68.3%)	1438calAD - 1504calAD (88.4%) 1597calAD - 1617calAD (7.1%)
IAAA-220285	340 ± 20	95.83 ± 0.27	333 ± 23	1500calAD - 1528calAD (19.8%) 1551calAD - 1600calAD (35.2%) 1615calAD - 1634calAD (13.3%)	1486calAD - 1638calAD (95.4%)
IAAA-220286	320 ± 20	96.09 ± 0.27	321 ± 23	1515calAD - 1590calAD (55.9%) 1620calAD - 1636calAD (12.4%)	1493calAD - 1603calAD (75.3%) 1608calAD - 1642calAD (20.1%)
IAAA-220287	210 ± 20	97.39 ± 0.27	211 ± 23	1654calAD - 1675calAD (24.9%)* 1743calAD - 1750calAD (4.9%)* 1765calAD - 1799calAD (38.4%)*	1647calAD - 1684calAD (32.4%)* 1735calAD - 1804calAD (55.5%)* 1929calAD - ... (7.5%)*
IAAA-220288	440 ± 20	94.72 ± 0.27	394 ± 23	1450calAD - 1495calAD (61.5%) 1602calAD - 1610calAD (6.8%)	1444calAD - 1516calAD (77.5%) 1590calAD - 1621calAD (18.0%)

[参考値]

* Warning! Date may extend out of range
（この警告は較正プログラム OxCal が発するもので、試料の 14C 年代に対応する較正年代が、当該暦年較正曲線で較正可能な範囲を超える新しい年代となる可能性があることを表す。）



第 482 図　暦年較正年代グラフ

第６章　総括

第１節　大鴨遺跡出土の土製支脚について

はじめに

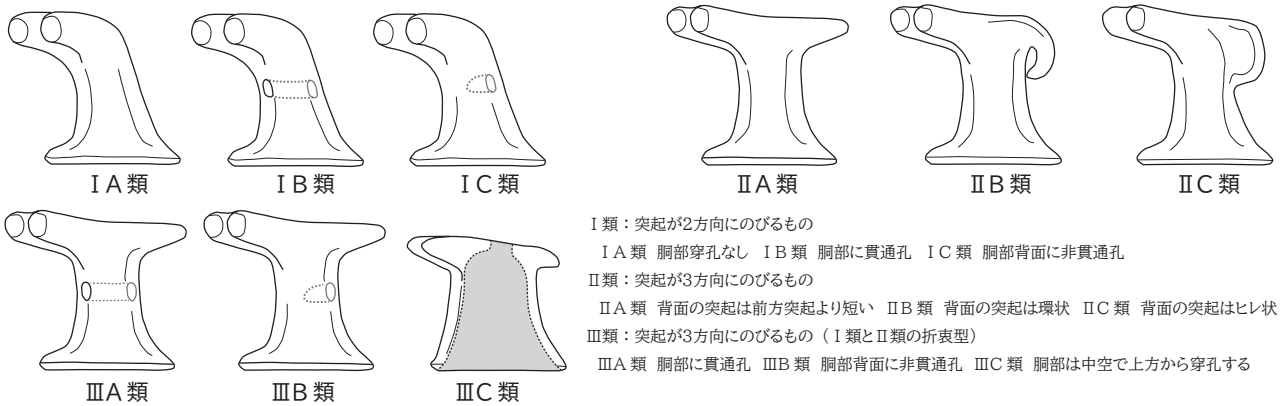
大鴨遺跡４区の竪穴建物５から土製支脚が１点出土した。この種の土製支脚は古墳時代後期～古代（８～９世紀代）にかけて山陰に広く分布することが知られており[1)]、近年は型式分類を踏まえた集成に基づく細かな地域性が議論される段階に至っている（岩橋 2003・2007・2010・2019）。これらの研究から、土製支脚は当該期の炊飯様式を中心とした生活文化の地域性や地域間交流を探るうえで有効な資料と認識されつつある。そこで本節では、大鴨遺跡出土土製支脚の型式学的な情報を整理し、山陰における地域性のなかでの位置づけや、支脚の分布が示す意味について論点を整理しながら確認する。

１　大鴨遺跡出土土製支脚の形態的特徴と類例

ここで検討対象とする土製支脚（CP54、第 485 図１、以下“大鴨例”）は、中空で円筒形の体部から２本の突起（うち１本は欠損）が伸び、突起の反対側に扁円形の環状把手を縦位に貼付する。岩橋孝典の分類（岩橋 2003、第 483 図）によれば、大鴨例は環状把手を持つ点はⅡＢ類、体部が中空である点はⅢＣ類に相当するものの、「環状把手」「中空体部」の二つの属性を一個体で共有する大鴨例のようなタイプは岩橋分類では設定されておらず、大鴨例がかなり希少な例であることが予想される。結論を先に述べるならば、大鴨例と同様に「環状把手」「中空体部」の属性を併せ持つ類例は、大正年間に大森久平が発見し、梅原末治（梅原 1922）、倉光清六（倉光 1932）、小林行雄（小林 1941）が紹介した倉吉市不入岡出土例（第 485 図２）が管見に及んだ唯一の例である。

大鴨例がこのように希少な類型である点を確認したところで、鳥取県内出土の土製支脚の集成（第 132・133 表）を基に、大鴨例・不入岡例を特徴づける「環状把手」「中空体部」の各属性の分布を確認し、このタイプが成立した背景について考えてみよう。

まず、岩橋分類ⅢＣ類に相当する「中空体部」の属性については、伯耆東部（鳥取県中部）に明瞭な分布域を形成している（第 484 図）[2)]。一方、岩橋分類ⅡＢ類に相当する「環状把手」の属性については出土例が非常に少なく、鳥取県内では伯耆東部のクズマ遺跡、伯耆西部の陰田宮の谷遺跡（第



第 483 図　土製支脚の分類模式図

485 図５）で出土しているに過ぎない。

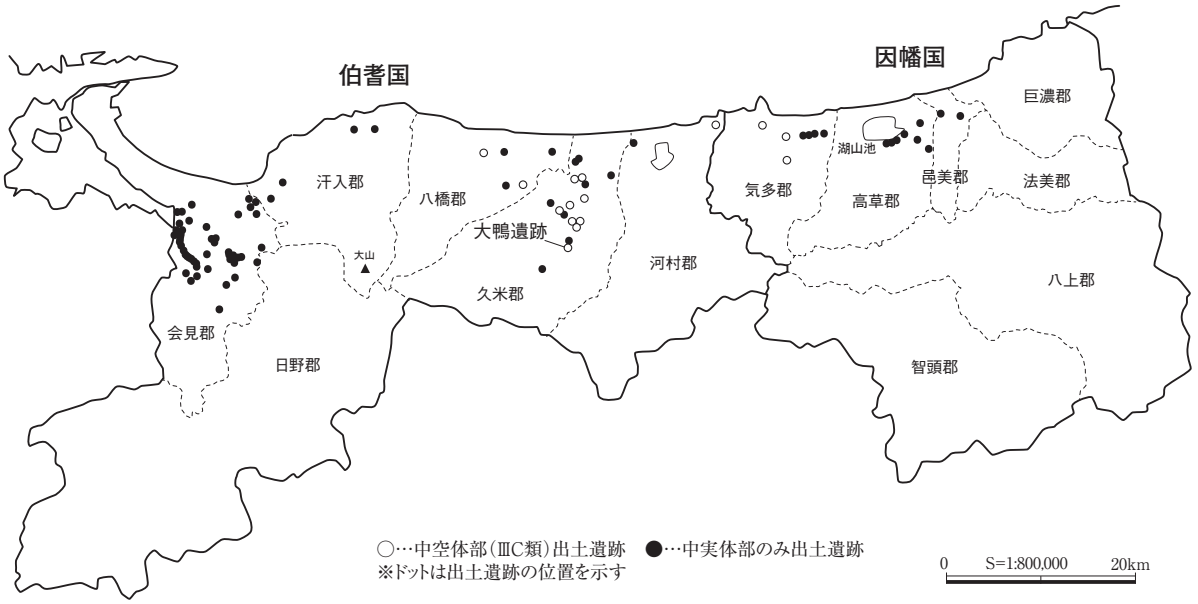
島根県の状況については、岩橋の集成を参照する限りⅢＣ類は確認できない。ⅡＢ類についても鳥取県同様に出土例は少なく、出雲国意宇郡の渋山池遺跡でややまとまった点数（７点）が出土している他は各遺跡１～２点の出土である。岩橋によれば、「ⅡＢ・ⅡＣ類は意宇郡の中でも東出雲町や中海対岸の嶋根郡朝酌郷などのごく限られた領域に集中する類型である」という（岩橋 2007、９頁）。

以上の状況から、「中空体部」（ⅢＣ類）は伯耆東部、「環状把手」（ⅡＢ類）は出雲東部に分布がほぼ限られる属性であることを確認できる。大鴨例・不入岡例の希少性は、中空体部（ⅢＣ類）分布域の支脚に、分布集中域が地理的に大きく隔たり、かつ出土点数自体が少ない環状把手（ⅡＢ類）が取り入れられたことによって発現したと評価することができよう。

２　土製支脚の分布にみる地域性とその意味

大鴨例・不入岡例が、伯耆東部の地域性を示しつつ、環状把手と結びついたことによって希少な類型となったことを確認した。山陰における土製支脚の地域性については、岩橋孝典の一連の成果を基に、鳥取県内での近年の資料の増加を踏まえて再論すべき時期に来ている[3]。以下、今回の集成に基づき現状での型式別分布状況を概観する（第 132・133 表、第 484 図）。

伯耆西部は岩橋の検討後、博労町遺跡（米子市）や境矢石遺跡（南部町）等の資料が増加したが[4]、基本的にⅡ類の分布域である点は変わっておらず、伯耆の西端に近い米子市陰田周辺や南部町周辺では散発的にＩＡ類が出土している。伯耆東部は出土例が少なく恒常的に支脚を使用した地域とは考えにくいとされていたが（岩橋 2003）、小鴨道祖神遺跡（倉吉市）のように土製支脚が多量に出土する遺跡も知られるようになった。Ⅱ類・ⅢＣ類の分布域であることは従前の指摘のとおりであり、Ⅰ類はほとんど見られない。資料数が大幅に増えた因幡ではやや複雑な分布状況が明らかとなってきた。便宜的に分布域を東から①鳥取平野②湖山池沿岸③旧気多郡域（旧気高・鹿野・青谷町域）に分けるならば、①では型式の判明する出土例に恵まれないが秋里遺跡、大桝遺跡でⅠ類が出土している。②ではⅠ類・Ⅱ類ともに見られるがより①に近い桂見遺跡、高住宮ノ谷遺跡ではⅡ類がややまとまって出土している。③の西半には伯耆東部同様にⅢＣ類が分布している。



第 484 図　鳥取県における土製支脚出土遺跡分布図

さて、このような支脚の地域性にはどのような歴史的背景があるのだろうか。そもそもⅠ類とⅡ類の違いは背面の突起（棒状・ひれ状・環状）の有無の違いであり、使用時に位置や向きの微調整を行う際に、突起を掴んで行うか（Ⅱ類）、孔に棒を差し込む等して行うか（ＩＢ・ＩＣ類）という使用法の違いに換言できる。ただし岩橋は、使用時の微調整のための造作を持たないという点で機能的に最も劣るＩＡ類と他の類型との出現時期に差がないことから、土製支脚は「機能的な部分を追求して型式変化することは顕著でなく、それぞれの地域に発生した型式を墨守する傾向」があり（岩橋2003、78頁）、したがって分布の斉一性は「地縁的社会の約束事の強弱を反映している」と説明する（岩橋2007、13頁）。

島根県においては、Ⅰ類は出雲西部の神門郡、Ⅱ類は出雲東部の意宇郡に分布の中心があり、当初Ⅰ類･Ⅱ類が混在していた安来市周辺や伯耆西部ではやがてⅡ類が卓越していく様相が復元された（岩橋2003）。そして出雲西部にⅠ類、東部にⅡ類が厚く分布する地域性は横穴式石室・横穴墓・装飾大刀・須恵器子持壺の分布に見られる東西出雲の地域性と重複しており、古墳に伴う要素の地域性が見られなくなる７世紀以降においても、日常雑器である支脚の分布からは東西出雲の地域性の残存が窺えると解釈した（岩橋2003）。また、出雲東部と伯耆西部は土製支脚の分布の他、横穴式石室の構造等にも親縁性が認められることから、出雲・伯耆国境は政治的な作為によって設定された可能性を指摘した（岩橋2010）。

土製支脚の地域性が、古墳等の政治性を帯びた遺構・遺物の分布と重複する傾向は鳥取県側でも明らかとなってきている。古墳時代後期の埴輪を検討した東方仁史は、鳥取県における当該期の円筒埴輪と土製支脚の分布が重なっていることを示し、伯耆東部においては、支脚の中空の体部内面と円筒埴輪の内面をともにケズリ調整する技法が共通することを指摘した。また、因幡の旧気多郡域（上記③）は、支脚ⅢＣ類の分布に加えて横穴式石室の構造も伯耆東部との共通性を示し、因伯国境を越えて政治・生活圏の地域性の広がりが認められる点を指摘している（東方2021）[5]。

このように、中央政府によって地方が国・郡という政治的な領域に再編成される７世紀以降においても、弥生・古墳時代以降形成されてきた生活文化の地域圏がなお残存していたことが土製支脚の地域性から明らかとなってきた。その一方で、出雲及び伯耆西部の「郷」単位での地域性が検討されるに及んで、多くの郷ではⅠ類とⅡ類とが混在し、その構成比にも差があることが把握されつつあり、岩橋はその要因を租税の運搬や労役といった目的による人の移動に求めている（岩橋2007・2010）。

以上のような研究動向を踏まえたうえで、改めて大鴨例の持つ属性について考えてみよう。ⅡＢ類の特徴である環状把手は、先述のとおり使用時の微調整のための把手と考えられるが、ⅡＢ類以外に見られる突起や貫通・非貫通孔と比べると製作技法的に最も手間のかかる造作であり、そのため出土点数が少ないという想定は成り立つだろう。ただし、先述のとおり出雲東部の一部地域にのみ局所的に分布する意味については、岩橋の言うとおり「機能的な部分」の追求とは異なる次元で「それぞれの地域に発生した型式を墨守する傾向」とする以外に説明が難しい。また、鳥取県内のⅡＢ類は大鴨遺跡を含め極めて少なくかつ散漫な分布であるが、これを人の移動と関連付けて説明するためには、出雲東部との交流を支脚以外から跡付けることが必要であり今後の課題である[6]。

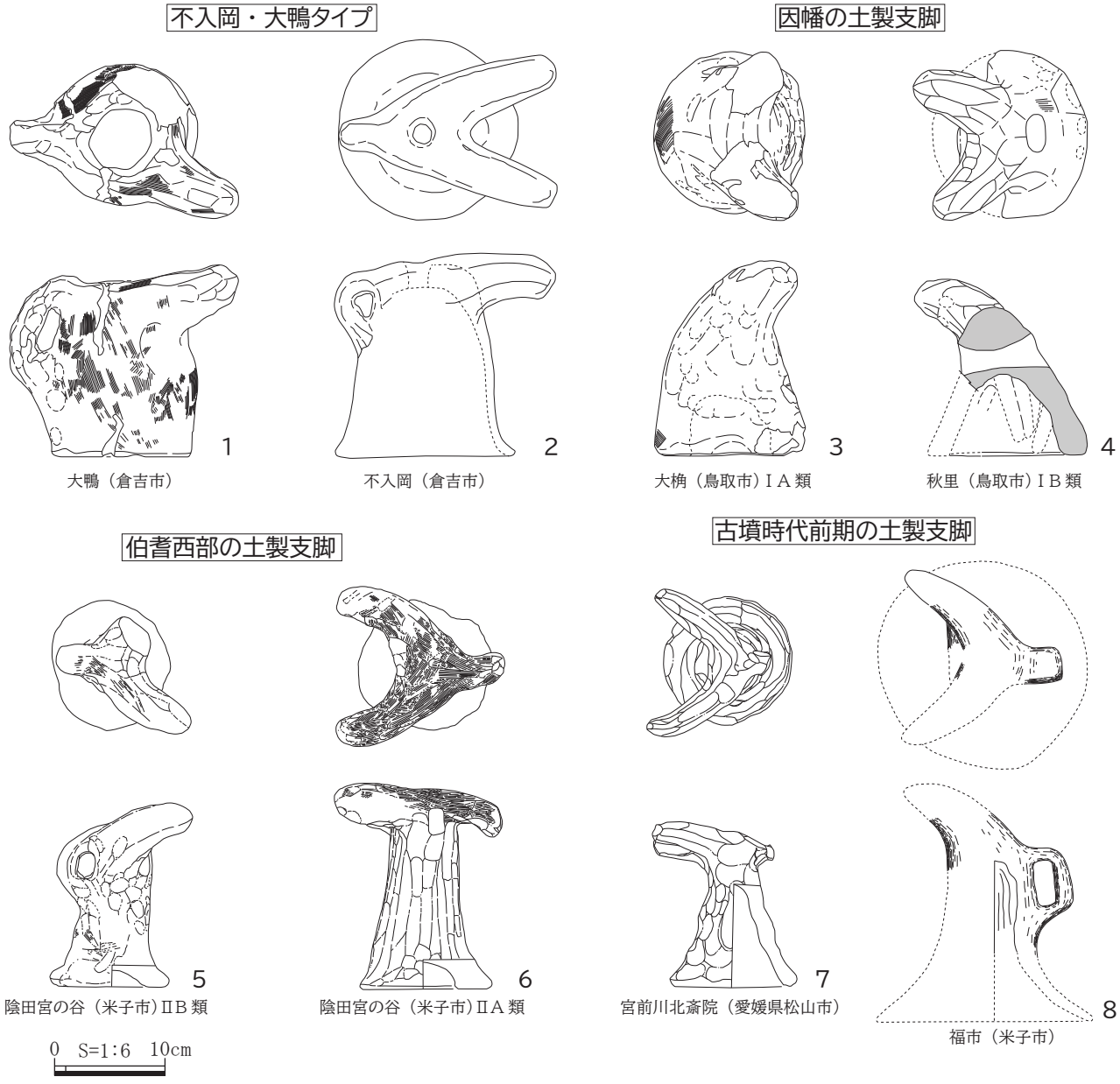
ⅢＣ類の特徴である中空体部は、使用法に関係する突起の数や孔の有無とは異なり、製作技法に関係する属性である。この類型の分布が伯耆東部に限られるのはどのような理由なのであろうか。そもそも、支脚の地域性が機能面とは異なる要因で形成されたものならば、各「型式」は「それぞれの

地域」にどのような経緯・背景を持って「発生」したのだろうか。この論点について整理するためには、山陰の支脚の系譜についての議論を振り返る必要があると考える。

３　山陰地方の土製支脚の系譜

岩橋は、全国的にみて古墳時代中期後半に土製支脚が使われていたのは北部九州の有明海沿岸地域に限られることから、古墳時代後期の山陰で土製支脚が盛行したことの背景に北部九州との交流を想定している（岩橋 2016）。ただし、北部九州の支脚は突起を持たず頂部が屈曲する「角形支脚」（美浦 2014）であり、山陰で主体を占める突起を持つタイプとは異なることから、「九州から山陰への伝播の過程でなにがしかの変容が介在したのであろう」（岩橋 2018、43 頁）と述べている。

ただし、弥生時代終末期～古墳時代前期の西部瀬戸内にも、山陰の例と酷似する２本の突起を持つ支脚（第 485 図７）が広く分布している（大橋 1978、福岡市教育委員会 1989、山内 2001）。鳥取県内では、米子市福市遺跡から、古墳時代前期に遡る土製支脚[7]が出土している（第 485 図８）。



第 485 図　土製支脚の類例

体部は下半が欠けているものの中空であり、２本の突起の反対側には環状把手が付く等、一見して大鴨・不入岡例との形態的類似が注意される。この資料について、岩橋は「西部瀬戸内系土製支脚の模倣」であり「山陰系土器が多量に出土している松山平野の集団との交流のなかでもたらされた可能性」を指摘している（岩橋 2003）。

古墳時代後期の支脚の系譜が福市例につながるのならば、「中空体部」「環状把手」等の属性が古墳時代前期の伯耆西部に存在しており、何らかの理由でそれらがやがて特定の分布域を形成するに至ったと考えることができる。しかしながら、山陰では古墳時代前期後半～中期にかけては土製支脚の空白期であり、福市例以降、古墳時代後期にほぼ同形態の支脚が盛行するまでの系譜や型式変化をたどることができない。岩橋はこの点を重視し、「直接これ（筆者註：西部瀬戸内の支脚）に系譜を求めることは困難」（岩橋 2003、77 頁）として、先述のとおり北部九州の支脚に系譜を求めている。

ところで、西部瀬戸内の土製支脚の製作技法について山内英樹が興味深い見解を示している（山内 2001）。山内は四国の弥生時代終末期～古墳時代前期の土製支脚を集成し、２本突起の支脚（山内分類Ｂ３類）が松山平野を中心として香川県、高知県にまで分布することを示した。また、四国の土製支脚は筒形の土製品を土台として、様々な手法で突起を作出することで山内Ｂ３類を含む形態のバラエティーが生じる工程を復元している。さらに「筒部の空洞は、塞ぐ個体と塞がない個体が存在するようである」（山内 2001、５頁）と述べて、体部が中空のものと中実のものとが併存する状況を説明している。山内の集成を参照すると、四国の２本突起の土製支脚は中空体部のものが量的に主流のようであり、福市遺跡にもたらされた支脚が中空体部であることの意味も無理なく理解することができる。円筒形を土台とする製作技法は円筒埴輪との親和性が高い点も、東方仁史が指摘する円筒埴輪と支脚の分布及び製作技法の一致を想起させ示唆的である。

ただし、古墳時代前期後半～中期の資料の空白が埋まらない限りは、大鴨例と福市例を結び付けようとする試みは根拠のない空論のままである。現状での次善の策としては、突起の数や有無、体部の中空・中実の別というレベルでの分類を一歩進め、さらに細かな形態差や製作技法に着目した分類及びそれに基づく地域性を検討する方向性が考えられるのではないだろうか。その点、東方が因幡の土製支脚（第 485 図３・４）について、中空・中実の違いはあるものの体部（胴部）が太いというプロポーションが伯耆東部の支脚に類似することを指摘していることは興味深い（東方 2021）[8)]。また、土製支脚は包含層中や遺構外からの出土も多く、所属時期を確実に決められない資料が存外に多い。型式変化に基づく編年を構築してそれらの資料をも時間軸に位置づけ、細かな地域性の変遷をたどることにより、土製支脚が山陰に波及・定着・展開した過程を跡付けられるのではないか。その議論の先に、大鴨例と福市例を同一の系譜で結び付け得るのか、あるいは「他人の空似」に過ぎないのかを検討する手掛かりが見えてくるかもしれない。こうした検討により、支脚の分布の背景についても新たな視点から考察を深められることが期待されよう。

１点の土製支脚から出発しながら、先学の引用に終始した観念的な議論へと飛躍してしまったが、本節で整理した課題を念頭に、今後資料に基づいた検討を深めていこうと考える。

【註】

1）２本の突起を特徴とするこの種の土製品を支脚と考えたのは小林行雄である（小林 1941）。小林は山陰で「犬埴輪」と呼ばれていた土製品について、突起側に被熱痕跡のあるものが多いことからこれを支脚と考え、北部九州や関東に分布する

形態の異なる土製品にも同様の用途を推測した。従ってこの種の土製品は、研究の当初から山陰の地域性を示す支脚として認識されていたことになる。

２）このことは小林行雄も倉光清六からの教示として述べているとおり（小林 1941）研究の当初から認識されてきた分布的特徴であり、岩橋孝典の一連の考察でも追認されている。

３）土製支脚の専論ではないが、（高尾 2019）、（東方 2021）において資料の増加を踏まえた言及がなされている。

４）かつて土製支脚の出土が知られず「空白域的な状況」（岩橋 2010）とされていた伯耆西部の旧汗入郡では倉谷西中田遺跡、殿河内ウルミ谷遺跡（大山町）で新たに出土が確認された。

５）弥生土器の文様の分析からは、伯耆～旧気多郡域に広がる地域圏が弥生時代後期後半から形成されていた可能性が指摘されている（馬路 2022）。

６）出雲西部（出雲郡）の鹿蔵山遺跡、青木遺跡からⅡＢ類が出土しているが、岩橋によれば「東部出雲地域との交流の結果もたらされた可能性も考えられる」という（岩橋 2007）。人の移動という観点からは、因幡においてⅠ類・Ⅱ類が混在している状況についても、出土点数自体が少ない点を踏まえたうえで、その背景について考える必要がある。

７）福市遺跡（吉塚地区）の集落は、古墳時代前期以降後期前葉まで継続している。同地区では図示した他にも複数の住居跡から土製支脚が出土したとされるが、これらのなかには古墳時代後期のものが含まれている可能性も考えられる。

８）岩橋も、出雲西部のⅡＡ類は背面の突起が体部中位に付く点が出雲東部のⅡＡ類とは異なり、突起の数では同一型式に分類される資料にも地域差が存在する点を指摘している（岩橋 2003）。

【引用・参考文献】

岩橋孝典 2003「山陰地域の古墳時代後期～奈良時代の炊飯具について－土製支脚・移動式竈を中心として－」『古代文化研究』第 11 号、島根県古代文化センター
岩橋孝典 2007「一煮炊き具からみた古代出雲平野の地域性－出雲西部土製支脚考－」『出雲国風土記の研究Ⅲ　神門水海北辺の研究（論考編）』島根県古代文化センター
岩橋孝典 2010「土製支脚の分布状況と古代行政境界－６世紀～８世紀の出雲国東部・伯耆国西部の状況から－」『出雲国の形成と国府成立の研究－古代山陰地域の土器様相と領域性－』島根県古代文化センター
岩橋孝典 2016「山陰地域の土製支脚はどこから来たのか－６世紀における北部九州と山陰地域の地域間交流の一幕－」『古代文化研究』第 24 号、島根県古代文化センター
岩橋孝典 2018「筑紫君磐井の乱は出雲に何をもたらしたのか」『古墳は語る　古代出雲誕生』島根県立古代出雲歴史博物館
岩橋孝典 2019「古墳時代後期の炊爨文化からみた地域相－出雲西部地域と石見東部地域を事例として－」『国家形成期の首長権と地域社会構造』島根県古代文化センター
梅原末治 1922『因伯二国における古墳の調査』鳥取県
大橋信弥 1978「支脚形土製品の系譜」『古代研究』17、元興寺文化財研究所考古学研究室
倉光清六 1932「古墳発見の伯耆弥生式土器（上）」『考古学』第３巻第４号、東京考古学会
小林行雄 1941「土製支脚」『考古学雑誌』第 31 巻５号、日本考古学会
高尾浩司 2019「生活と生産の様相」『新鳥取県史　考古２　古墳時代』鳥取県
東方仁史 2021「因幡・伯耆における古墳時代後期の埴輪」『古墳時代後期における山陰の埴輪－地域社会像を探る－』第 48 回山陰考古学研究集会事務局
福岡市教育委員会編 1989『吉塚１』福岡市埋蔵文化財調査報告書第 202 集
馬路晃祥 2022「弥生土器の文様からみた地域的特徴」『調査研究紀要』14、鳥取県埋蔵文化財センター
美浦雄二 2014「北部九州の土製支脚について」『先史学・考古学論究Ⅵ』龍田考古会
山内英樹 2001「四国の支脚形土器」『庄内式土器研究』ＸＸＶ、庄内式土器研究会

【挿図の出典】

第 481 図：（岩橋 2010）を基に筆者作図　第 482 図：筆者作図
第 483 図：１（本書）　２（小林 1941）　３　一覧表文献⑤　４　同②　５・６　同⑯
７　（財）愛媛県埋蔵文化財調査センター 1998『斎院・古照』　８　一覧表文献⑬
（いずれも一部改変・再トレースのうえ引用）

第 132 表　鳥取県における土製支脚出土遺跡（１）

※○：出土有、◎：報告書掲載点数が３点以上、
★：Ⅲ C 類の特殊例（不入岡・大鴨…環状把手、福市…古墳時代前期）

No.	地域		遺跡名	所在地	支脚の分類										文献
					ⅠA	ⅠB	ⅠC	ⅡA	ⅡB	ⅡC	ⅢA	ⅢB	ⅢC	不明	
1	因幡	①鳥取平野	円護寺坂ノ下遺跡	鳥取市円護寺										○	①
2			秋里遺跡	鳥取市秋里		○								○	②
3			山ヶ鼻遺跡	鳥取市古海・菖蒲										○	③
4			岩吉遺跡	鳥取市岩吉										○	④
5			大桝遺跡	鳥取市大桝	○										⑤
6		②湖山池沿岸	桂見遺跡	鳥取市桂見				○							⑥
7			高住牛輪谷遺跡	鳥取市高住										◎	⑦
8			高住宮ノ谷遺跡	鳥取市高住				◎						◎	⑧
9			良田平田遺跡	鳥取市良田	○		○							◎	⑨
10		③旧気多郡域	常松大谷遺跡	鳥取市気高町常松										○	⑩
11			下坂本清合遺跡	鳥取市気高町下坂本			○								⑪
12			日光長谷遺跡	鳥取市気高町日光長谷										○	⑫
13			乙亥正大角遺跡	鳥取市鹿野町乙亥正	○									○	⑬
14			会下郡家遺跡	鳥取市気高町会下・郡家									◎		⑭
15			山宮阿弥陀森遺跡	鳥取市気高町山宮									○		⑮
16			青谷横木遺跡	鳥取市青谷町青谷									◎	○	⑯⑰
17	伯耆東部		寺戸第１遺跡	湯梨浜町石脇				◎					○		⑱
18			長瀬高浜遺跡	湯梨浜町はわい長瀬										○	⑲
19			下古川上通リ遺跡	倉吉市下古川										○	⑳
20			上神宮ノ前遺跡	倉吉市上神				◎					○		㉑
21			クズマ遺跡	倉吉市上神				○	○				○		㉒㉓
22			西前遺跡	倉吉市寺谷				○							㉔
23			不入岡	倉吉市不入岡									★		㉕㉖㉗
24			向野遺跡	倉吉市大谷									○		㉘
25			№37 遺跡	倉吉市横田										○	㉙
26			福田寺遺跡	倉吉市横田									○		㉚
27			№32 遺跡	倉吉市国府										○	㉙
28			ドウ々平遺跡	倉吉市北野									○		㉛
29			小鴨道祖神遺跡	倉吉市小鴨・北野									◎	◎	⑳㉜
30			黒見	倉吉市黒見									○		㉕
31			平ノ前遺跡	倉吉市上古川										○	㉝
32			大鴨遺跡	倉吉市福山									★		㉞
33			ウナ谷遺跡	倉吉市関金町大鳥居										○	㉟
34			曲岡遺跡	北栄町曲				◎						○	㊱
35			曲宮ノ前遺跡	北栄町曲				○							㊲
36			干目野遺跡	北栄町六尾									○	○	㊳
37			上種第５遺跡	北栄町上種									○	○	㊴
38			森藤第３遺跡	琴浦町森藤										○	㊵
39			下斎尾１号遺跡	琴浦町槻下									○		㊶
40			井図地頭遺跡	琴浦町田越									○		㊷
41	伯耆西部		殿河内ウルミ谷遺跡	大山町殿河内										○	㊸
42			倉谷西中田遺跡	大山町倉谷										○	㊹
43			上淀廃寺跡	米子市淀江町福岡										○	㊺㊻
44			井手挟遺跡	米子市淀江町中西尾										○	㊼
45			大下畑遺跡	米子市淀江町平岡				○						○	㊽㊾
46			小波泉原遺跡	米子市淀江町小波										○	㊿
47			百塚第１遺跡	米子市淀江町小波										○	(51)
48			百塚第４遺跡	米子市淀江町小波				○						○	(52)
49			百塚第５遺跡	米子市淀江町小波				○						○	(53) (54)
50			百塚第７遺跡	米子市淀江町小波				○						○	(55) (56)
51			百塚 42 号墳周溝	米子市淀江町小波										○	(57)
52			泉角屋敷遺跡	米子市泉										○	(58)
53			今在家下井ノ上遺跡	米子市今在家				○						○	(59)
54			石州府第４遺跡	米子市石州府				○						◎	(60)
55			博労町遺跡	米子市博労町				◎						◎	(61)
56			東宗像遺跡	米子市東宗像				○							(62)
57			福市遺跡	米子市福市									★		(63)
58			青木稲場遺跡	米子市青木				○							(64)
59			青木遺跡	米子市青木	○			○						◎	(65) (66)
60			諏訪南山崎遺跡	米子市諏訪				○						◎	(67)
61			諏訪西土取場遺跡	米子市諏訪										○	(68)
62			諏訪東土取場遺跡	米子市諏訪										○	(69)
63			大袋丸山遺跡	米子市大袋	○										(70)
64			目久美遺跡	米子市目久美町										○	(71)
65			米子城跡 21 遺跡	米子市西町・加茂町	○										(72)
66			久米第１遺跡	米子市久米町										○	(73)
67			陰田サキノタニ遺跡（深浦遺跡）	米子市陰田	○										㉗

第 133 表　鳥取県における土製支脚出土遺跡（２）

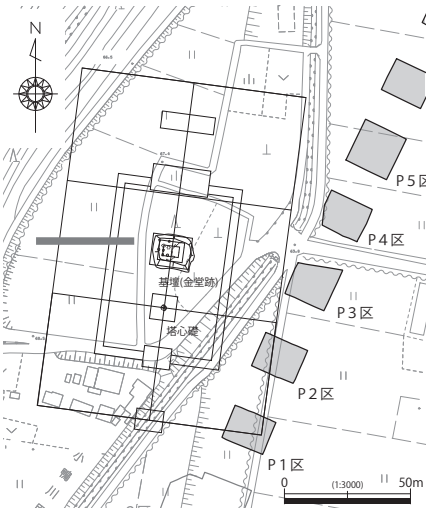
No.	地域	遺跡名	所在地	支脚の分類										文献
				ⅠA	ⅠB	ⅠC	ⅡA	ⅡB	ⅡC	ⅢA	ⅢB	ⅢC	不明	
68	伯耆西部	陰田第６遺跡	米子市陰田		○	◎	◎				○		◎	㉞～㊲
69		陰田屋敷ノ谷遺跡	米子市陰田	○										㊳
70		陰田ヒチリザコ遺跡	米子市陰田										◎	㉞
71		陰田小犬田遺跡	米子市陰田				○							㉞
72		陰田荒神谷遺跡	米子市陰田				○							㉞
73		陰田宮の谷遺跡	米子市陰田	○			◎	○					○	㊶ ㊾
74		陰田マノカンヤマ遺跡	米子市陰田										○	㊵
75		陰田広畑遺跡	米子市陰田	○		○	◎						○	㊶
76		陰田隠れが谷遺跡	米子市陰田				◎						○	㊶
77		陰田夜坂谷第２遺跡	米子市陰田										○	㊶
78		新山研石山遺跡	米子市新山		○		○						○	㊷
79		古市カハラケ田遺跡	米子市古市										○	㊸
80		古市宮ノ谷山遺跡	米子市古市				○						○	㊹
81		吉谷屋奈ヶ埒遺跡	米子市吉谷				◎						○	㊺
82		吉谷銭神遺跡	米子市吉谷										○	㊻
83		大殿狐谷遺跡	伯耆町大殿										○	㊼
84		大殿墓ノ谷遺跡	伯耆町大殿										○	㊽
85		坂長下屋敷遺跡	伯耆町坂長										○	㊾
86		坂長村上・坂長道端中遺跡	伯耆町坂長				○						○	㊿
87		坂長第７遺跡	伯耆町坂長				○							(51)
88		久古第３遺跡	伯耆町口別所										○	(52)
89		境北井埒遺跡	南部町境	○			○						○	(53)
90		境矢石遺跡	南部町境	○			○						◎	(54)
91		境内海道西遺跡	南部町境										◎	(55)
92		福成早里遺跡	南部町福成	○			○						◎	(56)
93		宮尾遺跡	南部町天万										○	(57)
94		枇杷谷遺跡	南部町寺内				○							(58)
95		清水谷遺跡	南部町福成				○							(59)
96		清水川六反田遺跡	南部町清水川										○	(60)
97		荻名第５遺跡	南部町荻名										○	(61)
98		朝金第３遺跡	南部町朝金			○	○							(62)
99		御内谷ガシン畑遺跡	南部町御内谷										○	(63)

（出土地一覧表文献）
①（財）鳥取市教育福祉振興会 2000『円護寺坂ノ下遺跡』②鳥取市教育委員会･鳥取市遺跡調査会 1985『秋里遺跡Ⅳ』③（財）鳥取市教育福祉振興会 1996『山ヶ鼻遺跡Ⅱ』④（財）鳥取市教育福祉振興会 1997『岩吉遺跡Ⅳ』⑤鳥取県教育委員会 2017『大桝遺跡Ⅰ』⑥（財）鳥取県教育文化財団 1996『桂見遺跡 － 八ツ割地区・堤谷東地区・堤谷西地区 － 』⑦鳥取県教育委員会 2018『高住牛輪谷遺跡Ⅱ』⑧鳥取県教育委員会 2017『高住宮ノ谷遺跡』⑨鳥取県教育委員会 2014『良田平田遺跡』⑩鳥取県教育委員会 2015『常松大谷遺跡Ⅰ』⑪鳥取県埋蔵文化財センター 2018『下坂本清合遺跡（４～８区）』⑫（公財）鳥取市文化財団 2016『日光長谷遺跡』⑬鳥取県埋蔵文化財センター 2016『乙亥正大角遺跡』⑭鳥取県埋蔵文化財センター 2018『会下郡家遺跡』⑮気高町教育委員会 1987『逢坂地域遺跡群発掘調査報告書　山宮阿弥陀森遺跡、山宮茶山畑遺跡、山宮笹尾遺跡』⑯（公財）鳥取市文化財団 2015『青谷横木遺跡』⑰鳥取県埋蔵文化財センター 2018『青谷横木遺跡Ⅱ』⑱（財）鳥取県教育文化財団 1998『石脇第３遺跡－森末地区・操り地区－石脇８・９号墳　寺戸第１遺跡　寺戸第２遺跡　石脇第１遺跡』⑲（財）鳥取県教育文化財団 1981『長瀬高浜遺跡発掘調査報告書Ⅱ』⑳倉吉市教育委員会 2013『倉吉市内遺跡分布調査報告書 17』㉑倉吉市教育委員会 1999『上神宮ノ前遺跡発掘調査報告書』㉒倉吉市教育委員会 2000『クズマ遺跡第２次発掘調査報告書』㉓倉吉市教育委員会 2007『クズマ遺跡第４次発掘調査報告書』㉔倉吉市教育委員会 1988『西前遺跡発掘調査報告書』㉕梅原末治 1922『因伯二国における古墳の調査』鳥取県㉖倉光清六 1932「古墳発見の伯耆弥生式土器（上）」『考古学』第３巻第４号、東京考古学会㉗小林行雄 1941「土製支脚」『考古学雑誌』第 31 巻５号、日本考古学会㉘倉吉市教育委員会 2003『向野遺跡第２次発掘調査報告書』㉙倉吉市教育委員会他 1988『中国電力八橋線鉄塔建設予定地内発掘調査報告書』㉚倉吉市教育委員会 1998『福田寺遺跡発掘調査報告書２次調査』㉛倉吉市教育委員会 2016『ドウヤ平遺跡発掘調査報告書』㉜（公財）鳥取県教育文化財団 2020『小鴨道祖神遺跡』㉝倉吉市教育委員会 2017『倉吉市内遺跡分布調査報告書 19』㉞本書㉟関金町教育委員会 1995『ウナ谷遺跡Ｂ地区発掘調査報告書』㊱北条町教育委員会 1995『曲第１遺跡発掘調査報告書（曲岡遺跡）』㊲北条町教育委員会 1996『曲遺跡群発掘調査報告書 1』㊳大栄町教育委員会 1979『大栄地域遺跡群分布調査報告書Ⅲ』㊴大栄町教育委員会 1985『上種第５遺跡発掘調査報告』㊵東伯町教育委員会 1988『水溜り・駕籠据場遺跡 , 森藤第３遺跡発掘調査報告書』㊶東伯町教育委員会 1989『下斎尾１号遺跡・大高野遺跡発掘調査報告書』㊷（財）鳥取県教育文化財団 2003『井図地頭遺跡　井図地中ソネ遺跡』㊸鳥取県埋蔵文化財センター 2014『殿河内ウルミ谷遺跡』㊹鳥取県埋蔵文化財センター 2011『倉谷西中田遺跡』㊺淀江町教育委員会 2002『福岡柳谷遺跡』㊻淀江町教育委員会 2004『上淀廃寺Ⅴ』㊼淀江町教育委員会 1987『井手挟遺跡発掘調査報告書』㊽（財）鳥取県教育文化財団 1994『大下畑遺跡』㊾淀江町教育委員会 1991『大下畑遺跡・小波原畑遺跡発掘調査報告書』㊿（財）米子市教育文化事業団 2007『小波泉原遺跡』(51)淀江町教育委員会 1989『百塚第１遺跡』(52)淀江町教育委員会 1993『百塚遺跡群Ⅱ』(53)（財）鳥取県教育文化財団 1995『百塚第５遺跡・小波狭間谷遺跡・泉上経前遺跡』(54)淀江町教育委員会 1997『淀江町内遺跡Ⅵ』(55)淀江町教育委員会 1999『百塚遺跡群Ⅷ』(56)淀江町教育委員会 2002『百塚遺跡群Ⅸ』(57)淀江町教育委員会 1996『百塚遺跡群Ⅵ』(58)（財）米子市教育文化事業団 2004『泉角屋敷遺跡』(59)（財）米子市教育文化事業団 2002『今在家下井ノ上遺跡』(60)米子市教育委員会・石州府古墳群発掘調査団 1989『石州府古墳群発掘調査報告書』(61)（財）米子市教育文化事業団 2011『博労町遺跡』(62)（財）鳥取県教育文化財団 1985『東宗像遺跡』(63)米子市教育委員会･米子市福市遺跡調査団 1968『福市遺跡』(64)（財）米子市教育文化事業団 2000『青木稲場遺跡・福市遺跡（大成地区）』(65)鳥取県教育委員会 1976『青木遺跡Ⅰ』(66)鳥取県教育委員会 1978『青木遺跡Ⅲ』(67)（財）米子市教育文化事業団 2006『諏訪南山崎遺跡』(68)（財）米子市教育文化事業団 2008『諏訪東チンゴ原遺跡・諏訪西土取場遺跡第１次、２次調査・坂長米子道端ノ中遺跡』(69)（財）米子市教育文化事業団 2006『諏訪東土取場遺跡　大殿下ノ原遺跡』(70)米子市教育委員会 1991『大袋丸山遺跡』(71)（財）米子市教育文化事業団 1998『目久美遺跡Ⅴ・Ⅵ』(72)（財）鳥取県教育文化財団 1998『米子城跡 21 遺跡』(73)米子市教育委員会 1989『久米第一遺跡』(74)（財）鳥取県教育文化財団 1996『陰田遺跡群』(75)（財）米子市教育文化事業団 1997『陰田第６遺跡　陰田宮の谷遺跡３・４区』(76)（財）米子市教育文化事業団 1998『萱原 奥陰田Ⅱ』(77)（財）米子市教育文化事業団 2002『陰田第６遺跡２』(78)（財）米子市教育文化事業団 2003『陰田屋敷ノ谷遺跡』(79)（財）米子市教育文化事業団 2000『陰田宮の谷遺跡４区・５区』(80)（一財）米子市文化財団 2015『陰田宮の谷遺跡・陰田マノカン山遺跡』(81)米子市教育委員会 1997『米子市内遺跡発掘調査報告書』(82)（財）米子市教育文化事業団 1994『萱原・奥陰田Ⅰ』(83)（財）鳥取県教育文化財団 1999『古市遺跡群Ⅰ』(84)（財）鳥取県教育文化財団 2002『古市遺跡群Ⅲ』(85)（財）鳥取県教育文化財団 2003『吉谷遺跡群』(86)（財）米子市教育文化事業団 2001『吉谷銭神遺跡』(87)（財）鳥取県教育文化財団 2008『大殿狐谷遺跡　長者原 16・18 号墳』(88)伯耆町教育委員会 2007『大殿狐谷遺跡　長者原 16 号墳　大殿墓ノ谷遺跡　長者屋敷遺跡』(89)（財）鳥取県教育文化財団 2006『長者屋敷遺跡・坂長下屋敷遺跡』(90)（財）鳥取県教育文化財団 2007『大殿下ノ原遺跡・諏訪東土取場遺跡・坂長米子道端ノ上遺跡・坂長村上遺跡・坂長道端中遺跡』(91)（財）鳥取県教育文化財団 2009『坂長第７遺跡』(92)（財）鳥取県教育文化財団 1984『久古第３遺跡・貝田原遺跡・林ケ原遺跡発掘調査報告書』(93)（一財）米子市文化財団 2013『境北井埒遺跡』(94)（一財）米子市文化財団 2015『境矢石遺跡』(95)（一財）米子市文化財団 2014『境内海道西遺跡』(96)（財）鳥取県教育文化財団 1998『福成早里遺跡』(97)会見町教育委員会 1982『宮尾遺跡・天万遺跡発掘調査報告書』(98)会見町教育委員会 1987『枇杷谷遺跡』(99)西伯町教育委員会 1992『清水谷遺跡』(100)（一財）米子市文化財団 2013『清水川六反田遺跡』(101)会見町教委 1999『荻名第５遺跡発掘調査報告書』(102)会見町教育委員会 1996『朝金第３遺跡』(103)（財）鳥取県教育文化財団 1998『御内谷遺跡群』

第２節　石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡出土瓦について

はじめに

石塚廃寺東遺跡Ｐ１～３区を中心に、石塚廃寺に由来すると考えられる瓦が多量に出土した。その総数は破片数ではあるが5,300点余りを数え、そのうち軒丸瓦・軒平瓦と考えられるものがそれぞれ48点と34点である。しかし、その多くは近年まで使用されていた溝（用水路）や中世頃まで存在した自然流路などから出土したもので、どの建物でどのような瓦が使用されていたのかなどの瓦の使用状況を推定できるものではなかった。



第486図　石塚廃寺伽藍想定図

石塚廃寺については、平成25年度に倉吉市教育委員会による発掘調査が実施されているが、117㎡ほどの試掘調査のため、不明な点は多い。そのような状況ではあるが、倉吉市教育委員会が試掘調査の成果を加味して想定した伽藍想像図によれば、塔心礎南西側の寺域南東隅付近と想定される箇所が現状では道路や用水路になっており、大規模な削平を受けて大きく改変されていると考えられる。ちなみに、寺域の南東部については、石塚廃寺東遺跡Ｐ１区およびＰ２区が寺域内、Ｐ３～５区が寺域隣接地にあたると想定されるが、令和２年度の発掘調査の結果、石塚廃寺東遺跡Ｐ１・２区には石塚廃寺が存続していたと考えられる期間に自然流路が存在していたことが明らかとなり、その自然流路内から石塚廃寺のものと考えられる瓦が出土したことから、寺域の南東部については、自然流路が存在していたために、歪な形状であった可能性が考えられる。

出土した瓦は摩滅したものが多く、破片のため全体形が分からないものがほとんどで、丸瓦・平瓦の判断が付かないものも多いが、全点の凸面調整の確認を行い、格子叩き、ナデ、縄目叩き、カキメ状の４分類と、調整不明に分けたところ、最も多かったのは調整不明で全体の約41％であった。これは、瓦の多くが溝や自然流路内から出土したもので、摩滅しているものが多いためである。調整が判断できるものの内訳は、格子叩き17.6％、ナデ64.8％、縄目叩き13.3％、カキメ状4.3％であった。

軒丸瓦

軒丸瓦の可能性があるものは計48点出土した。軒丸瓦はⅠ類からⅢ類までの３種類の型式が知られており、Ⅰ類と考えられるもの21点、Ⅱ類と考えられるもの16点、不明11点で、Ⅲ類と考えられるものは１点も出土しなかった。Ⅰ類としたものには、内区の文様を欠損した外区部分と判断したもの、不明としたものには瓦当文様の判断が付かないもののほか、丸瓦の凹凸両面に粘土が貼り付けられた痕跡があり軒丸瓦の丸瓦部と判断したものを含めている。なお、倉吉市教育員会の報告書では、Ⅰ類をⅠａ類とⅠｂ類の２種に細分されているが、石塚廃寺東遺跡および大鴨遺跡出土の軒丸瓦は、小破片のものや摩滅等のため遺存状態が悪いものが多く細分は困難である。なお、本調査において倉吉市教育員会のⅠａ類として掲載されている遺物番号１（倉吉市教育委員2015、市教委№１と略称使用、以下同様）に明らかに相当するものは出土していない。

軒丸瓦Ⅰ類のうち、瓦当面がほぼ完存するのが大鴨遺跡出土のCP７（大鴨CP７と略称使用、以

下同様）である。焼成前の乾燥時に藁のような植物が近くにあったらしく圧痕が残されているとともに、瓦当面の外区に変形が生じている。瓦当面は径 19.5cm を測る。内区は単弁 16 弁の蓮華文を持ち、蓮弁間には間弁が存在するが中房には届かず、蓮弁の外周を巡る。径 8.7cm の中房はほぼ平坦で、径 1.3 ～ 1.6cm の周環を持つ蓮子を１＋８+16 に配置する。内区径は 16.0cm。外区は素文で幅 1.8cm 程度を測り直立縁である。外区は内区外縁の界線から約 1.3cm 立ち上がるが、外区内側は全周が指頭圧痕によって斜めに押し潰されて面取りしたような形状になっている。指頭圧痕は瓦当面が笵から外された後に行われており、外区内側に指頭圧痕を加えるのは、外区の形状を整えるため、あるいは外区外側からの圧力を受け止めるためなどの理由が考えられる。

外区内側を面取りしたような形状に整えようとした可能性は考えられるが、瓦当笵の外区部分が直立縁となるように彫り込まれていたことは市教委№１が存在することから間違いないと考えられるので、外区内側を面取りする必要性は考えにくい。外区外面を観察すると、外区の外周に沿って横方向のナデ等が施されているものが認められる。軒丸瓦における瓦当と丸瓦の接着方法にはいくつかの方法が想定されている（大阪府教育委員会 2001）が、瓦当裏面に丸瓦が接着され、丸瓦の凹凸両面に補強の粘土を加えている。粘土を十分に密着させるためには、隙間を残さないように粘土同士を馴染ませることが必要になる。丸瓦凹面側については、笵から瓦当を外す前であれば容易に粘土の密着を行えるが、丸瓦凸面側に加えられた補強粘土は、笵から瓦当を外す前には十分な密着が難しい。密着が不十分な場合には、強度的に弱くなり剥離しやすくなることが想定されるので、何らかの対策を行っていたことが考えられる。大鴨 CP ７を観察すると、丸瓦凸面部は補強粘土を密着させるための指頭圧痕や粗いナデの痕跡が明瞭に残されているが、瓦当外区外側は、薄く粘土を加えた後に瓦当外区の厚さに相当する幅約３cm を横方向にナデて全周させ、瓦当と丸瓦補強粘土の境界が分らないようにナデ潰している。

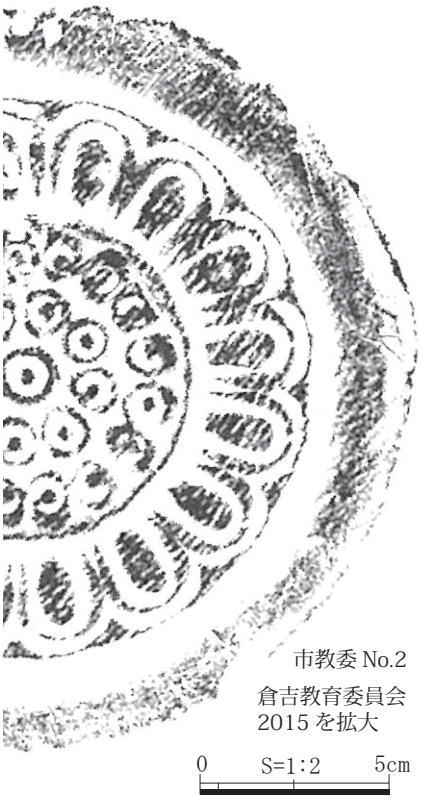
一方、外区上面には笵の外区外縁を区画する境界線と外区上方にはみ出した粘土が存在する（写真５）。はみ出した粘土は、外区外面をナデた際に生じたものであるが、この粘土の存在は、粘土がはみ出している外区外側の稜が鋭いことから、軒丸瓦が瓦当面を下に向けて台等に置いた状態で調整を行ったのではないことが推測される。なお、瓦当面の文様部分、外区の内側や上面に布目痕が残されている。外区内側が指頭圧痕により斜めに押しつぶされていることは幅１cm 程度の窪みが連続している形状から間違いないが、残されているのが指紋ではなく布目痕であることから、指頭圧痕は布の上から行われていることになる。では、なぜ瓦当面に布目痕が残されているのであろうか。布目痕が残る瓦当文様部分は、蓮弁や中房の蓮子が押し潰されたように低くなり、蓮子の周環には凹凸が無くなっているものもあり、文様の潰れが顕著である。

瓦当と丸瓦の接着をいつ行うのかは、資料の少ない現時点で断定することはできないが、生乾き状態の瓦当に丸瓦を設置し、周囲に補強用の粘土を充填して密着するように押圧を加えたとするならば、瓦当を笵から外した後と考えるよりも、瓦当を笵から外す前の方が、粘土接着の押圧を木製の笵が受け止めることができるので瓦当面の変形を防ぐことができるので合理的である。その場合は、瓦当面の文様は変形を受けることはなく、鮮明な状態で残されていることになる。一方、笵から瓦当を外した後に丸瓦を接着するために瓦当裏面から押圧を加えられた場合は、押圧を瓦当面側で十分には受け止めることができないために、瓦当面が変形することにもつながったことが想定される。そのため、瓦当面側で押圧を受け止めるための何らかの対応を行ったと考えられるが、その対応に関係すると考

えられるのが、布目痕の存在と文様の潰れである。瓦当面を保護するために布を置いて緩衝材とし、その上から手を当てることで文様の変形を極力避けようとしたと考えるのである。しかし、押圧を受け止めたことにより布の緩衝材があったとしても文様が潰れることは避けられず、文様の潰れに比較的潰れの強い箇所と弱い箇所が混在しているのも、布の上から手を当てた箇所は潰れが強く、そうでなければ潰れが弱いためと考えることができる。そうであれば、瓦当文様の鮮明さの違いは、笵の摩耗による時間的な変化のほかに、押圧に伴う物理的な変化が生じている可能性も考える必要があることになる。写真３の石塚廃寺東遺跡 CP19（石塚 CP19 と略称使用、以下同様）のように、同一個体の軒丸瓦であってもわずかな風化・摩滅の違いで表面の調整が明瞭なものとそうでないものが存在するため、資料観察においては慎重な検討が必要であることを物語る。

倉吉市教育委員会による報告では、軒丸瓦Ⅰｂ類の市教委№２には瓦当面全体に木目が浮き出ていると判断され、報告書に掲載されている写真・拓本でもそのように見える。しかし、実見による観察では、木目とされているものは線状に繋がっているのではなく、長さ５～８㎜程度の紡錘形を呈するものがややズレながら繰り返されていることで線状に見えていると判断できた（第 487 図）。また、大鴨 CP ７や石塚 CP19 に認められる内区と外区の間の界線に残る笵傷は、笵で彫り残されて突出していた文様の一部が欠損したために瓦当面では反対に盛り上がってしまったものだが、瓦当面が完存する市教委№２には存在していない。市教委№１は破片資料でありこの笵傷の有無が不明なため、市教委№１と他の軒丸瓦の前後関係は不明であるが、少なくとも市教委№２が古く、大鴨 CP ７や石塚 CP19 が新しいことは明らかであろう。

それでは、木目とされているものは何であるのかが問題となる。線状に見えるのが長さ５～８㎜程度の紡錘形を呈するものがややズレながら繰り返されているとの観察が正しければ、考えられるのは縄目痕である。大鴨 CP ７では瓦当面に布目痕が残されており、瓦当裏面からの押圧を受け止めるための緩衝材的役割があったのではないだろうか。使用されている素材は異なるが、同様の用途が推測される。



第 487 図　倉吉市教育委員会所蔵・軒丸瓦

軒丸瓦瓦当の問題

大鴨遺跡 CP ７や石塚 CP19 には、内区と外区の間に界線が存在するが､界線から直立して立ち上がって外区となる箇所と、界線からわずかに直立してから外区側に段状に広がり立ち上がる箇所が存在する。段状に広がり立ち上がる箇所の近くの間弁には段を持つものが目立つ（写真３・４）。間弁にも段を持つものと持たないものが存在し、段が付く間弁は、間弁の台の上に小型の間弁が載っているような形状を呈している。比較することが可能な軒丸瓦Ⅰ類を見比べると、段が付く間弁が存在する位置は同じではないため笵傷ではない。間弁の段は、蓮弁・間弁間の界線の外形とほぼ並行しており、可能性として考えられるのは、粘土から笵を抜くときに、粘土の剥がれが良くなるように小刻みに笵を横方向に揺すりながら持ち上げたため、揺

すりの方向にあたる部分では、外区が外側に押されて段状に広がると共に、間弁と蓮弁との間の周溝部分の笵が少し持ち上げられて間弁に触れることで、段をもつ間弁が形成されたと考えられる。

軒丸瓦Ⅰ類の外区外縁に粘土が側面から外区上方にはみ出している部分がある。はみ出している粘土は高さ１～２㎜程度とわずかであるが、平坦になっている外区上面とはみ出した粘土の境界はほぼ直角になっている。瓦当と丸瓦の接着において、焼成前の生乾き状態で強度が不十分な丸瓦の狭端が地面に接することになれば、変形や破損の可能性が高くなることが想定される。丸瓦の狭端面が地面に接しないように丸瓦を持ち上げながら瓦当と接着させ、補強粘土を加えて密着させることは、一人の工人で行うことは困難であり、効率的でもないため考えにくい。そのため、瓦当面を横向きに置くか、下向きにおいて作業が行われた可能性を考える必要がある。

瓦当面が横を向くように置く場合、丸瓦の凸面が下になるように置くのが瓦当裏面および瓦当と丸瓦の接着作業を行うのが容易で効率的である。しかし、丸瓦は瓦当外周より凸面補強粘土分を差し引いた内側に接着されるため、凸面補強粘土が無ければ丸瓦が安定せず、凹面の粘土充填・調整が行いにくいことになるため、まずは凸面に補強粘土を加えて丸瓦を安定させてから凹面の調整作業を行うという流れが想定される。この場合、瓦当が笵から外されていても作業は可能であろうが、破断面の観察では笵に詰められた粘土は厚さ１cm 程度と考えられ、瓦当は丸瓦接着時に丸瓦凹面に補強粘土が加えられた後でなければ変形の危険が高かった可能性がある。そのため、横向きに瓦当を置く場合であっても、丸瓦を接着し終わるまでは笵から外さないままであったであろう。丸瓦凸面は地面等に接触することになるが、瓦当近くは補強粘土が加えられてナデ等で調整されるため、接地痕は消されることになる。軒丸瓦の丸瓦部で完存するものが無いため推測ではあるが、丸瓦部凸面の接地痕を消すことは容易であったであろう。

では、瓦当面が下を向くように置かれた場合はどうであろうか。瓦当裏面に丸瓦が設置されるが、丸瓦の荷重が瓦当にかかるため、瓦当が笵から外されている場合には瓦当面が裏面からの荷重圧のために突出している外区が特に変形したはずである。しかし、別に触れたように、外区上面には笵の外区外縁を示す痕跡と外区外面の粘土をナデたことで外区上方にはみ出した粘土が残されており、外区上面が大幅に整形されているとは考えにくい。よって、変形は受けていないと考えるべきであり、瓦当は笵から外されていなかったと考えられる。瓦当裏面に設置された丸瓦は、凹凸両面に補強粘土が加えられ、密着させるための押圧が加えられる。丸瓦は広端側が瓦当裏面に設置されるので、安定していたはずである。丸瓦の接着ができてから笵を外したのであろう。

笵の外区部分は円周の溝で、外区内縁・外縁ともほぼ垂直に彫り込まれていたと考えられる。そのため、笵に粘土が隙間なく充填されていれば断面方形状の外区になったはずである。しかし、大鴨遺跡２区 CP ７や石塚廃寺東遺跡Ｐ３区 CP19 は外区内縁が斜めに押し潰されて面取りしたような形状になっており、断面方形状に整形しようとした痕跡は認めにくい。また、外区のみの小破片ではあるが石塚廃寺東遺跡Ｐ３区 CP70 の外区内側には指頭圧痕もなく粘土が不足した状態のままとなっている。外区外側を整形する意識は認められるが、内側についてはおざなりであるといわざるを得ない。この違いは何であろうか。外区外面はナデ調整されているものが多い。これは瓦当と丸瓦を接着させるうえで、丸瓦凸面に補強粘土を加えた後にその表面を平滑にナデ調整しているためであるが、大鴨遺跡２区 CP ７では補強粘土全体を粗くナデた後に外区外縁に沿うように横方向にナデており、笵の外区径に合わせようとしているようにみえる。軒先を飾る瓦という性格上、瓦当面の径を揃えること

は意識されていたであろうが、外区内縁が押し潰されていたり、内区文様が潰れて不鮮明であっても、あまり気にされていなかったのであろう。

瓦当と丸瓦の接着

瓦当と丸瓦の接着の工程を考えてみたい。丸瓦は一枚作りまたは桶巻き作りで別作りされ、ある程度乾燥させたものが使用されたはずである。一方、瓦当は、瓦当笵に粘土を詰めて型取りされるが、接着時には瓦当はどのような状態になっているのであろうか。

１つは、笵から外されている場合である。笵に粘土を詰めてから外すことで、連続的に効率よく瓦当を製作することができるが、粘土が柔らかくなければ詰めた粘土に隙間ができ、瓦当面に文様の欠損部が生じかねない。そのため、笵に詰められた粘土は水分量が多く可塑性が高い状態であったと考えられる。よって、笵から外した直後の比較的柔らかい状態の瓦当に丸瓦を接着することは、作業がやり難く変形の可能性が高いと考えられるので、瓦当はある程度乾燥させたと考えるべきである。瓦当と丸瓦の乾燥が進んでから接着を行うことになるが、その時、瓦当をどのように置くのかが問題となる。丸瓦の広端側に瓦当裏面を載せ、瓦当裏面に補強の粘土を加えて丸瓦と密着させているが、十分に密着させるためには瓦当裏面からしっかりと粘土を押し付けることが必要となるため、瓦当面で裏面からの押圧の力を受け止めることが必要になる。受け止めることができなければ密着は不十分となり、瓦当と丸瓦が剥離することにもなりかねない。その対策として考えられるのが、大鴨遺跡 CP７に残される瓦当面の布目痕である。瓦当面に布を当てて緩衝材として裏面からの押圧の力を受け止めながら裏面の粘土密着を行ったと考えることは可能であろう。そうであれば、瓦当面の中房の蓮子や蓮弁が潰れたような状態になっていることも納得ができる。市教委 No. ２の瓦当面に残されている木目とされているものは縄目痕ではないかと考えており、同様の用途と考えることができる。ただし、布などを裏面からの押圧に対する緩衝材として使用したという仮説の検証は容易ではない。瓦当面に布目痕が残っているものに大鴨遺跡 CP ７や石塚廃寺東遺跡Ｐ３区 CP19 があるが、残されている布目痕は非常に目の細かいもので、平瓦等の凹面に残されている布目痕とは別物である。そのため、わずかな風化で見えなくなる可能性が高く、検討する資料が限られてしまうためである。先に述べたように石塚廃寺東遺跡Ｐ３区出土の CP19 では接合する２片のうち、一方には布目痕が認められるが、多少風化しているもう一方では布目痕を確認することが困難になっている。今後の保存状態の良い資料の増加を待ちたい。

逆に、瓦当が笵から外されていなかった可能性はないのであろうか。笵に粘土を詰めたままの状態で丸瓦を接着する方法で考えられる最大の利点は、笵を地面に置いて笵のなかの粘土の上に丸瓦を設置し、補強の粘土を加えて瓦当と丸瓦を密着させるときに、押圧を加えることが容易なことである。笵から瓦当が外されていないために、裏面からの押圧を笵が受け止めることができ、粘土同士をしっかりと密着させることができる。

外区の断面を観察すると、内区から続く粘土は外区内縁で終わり、外縁側は丸瓦凸面側の補強粘土と繋がっているようにみえるものがある。石塚廃寺東遺跡Ｐ３区出土の CP91 などには粘土の密着が十分ではなく、粘土の境界が残っているものが存在する。しかし、内区に粘土の境界が残るものは管見の限り認められない。そのため、笵への粘土込めにあたっては厚さ１cm 程度に調整された粘土板を笵に載せて隙間が残らないように押圧を加え、粘土端は外区となる界線の中に押し込むが、粘土が

不足する場合には丸瓦凸面側の補強粘土の一部を使って外区の突出を形作っているようである。

軒丸瓦Ⅱ類に完存するものはないが、比較的遺存状態の良いものが石塚 CP5 で、復元瓦当径は 18.0cm を測る。単弁 12 弁の蓮華文を持ち、蓮弁間には間弁が存在する。径 6.5cm の中房はやや半球状に盛り上がり、径９～ 10㎜の凹線で表現された蓮子を１＋ ６ +12 に配置する。内区径は 12.5cm。外区には蓮弁と間弁に対応した 24 個の珠文が存在する。丸瓦との接合方法は、丸瓦の凹面側を斜めにカットし、対応する調整を施した瓦当部と接着させているものが存在する。

石塚 CP5 は焼成良好であるため、外区外周に瓦当面に対して直交する木目状の痕跡が残されていた（写真５）。木目状の痕跡は幅２㎜程度の間隔で並行するように存在しており、瓦当面から外側にはみ出した粘土の裏面にも幅２㎜ほどではあるがＬ字状に屈曲して続いている。瓦当面の粘土が外区外周からはみ出していることから、瓦当笵は外区が立ち上がる凹状の一体的な形状ではなく、瓦当笵とは別に瓦当裏面には瓦当面径に対応した輪状の型枠が用いられ、その中に粘土を詰めることで瓦当部の大まかな形状が形作られていた可能性を想定することができた。

工程としては、以下のようになろう

①　板状の瓦当笵に、瓦当笵の形状に合わせた薄い板状の粘土を押圧する。

②　瓦当笵の外区外縁に合わせて輪状の型枠を設置する。

③　型枠内に丸瓦を設置し、凹凸両面に補強粘土を加えて押圧する。

④　瓦当笵・輪状の型枠を外し、外区外周をナデ等で調整する。

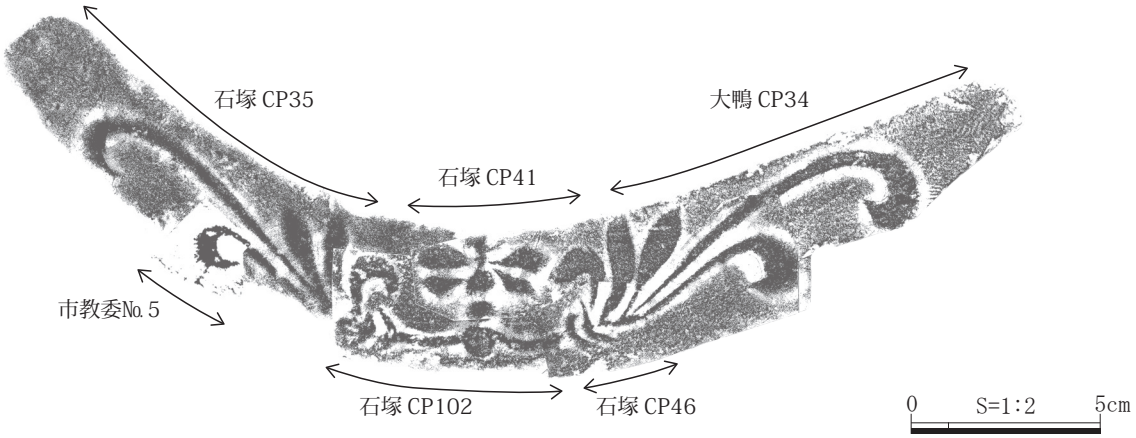
なお、石塚 CP5 では、瓦当裏面外縁部分の約半周を幅２～３cm 程度残して粘土を盛って台状に加工している。そのため、粘土を盛られなかった外縁の約半周が段落ちしてテラス状の面を形成し、そこに粘土を加えて外区外縁に向けて斜めに立ち上がる断面直角三角形状の壁を作っている。そのため、内側の台状の粘土と外縁の粘土の壁の間に「Ｖ」字状の溝を形成し、ここに丸瓦を設置し、周囲を補強粘土で接着している。

軒平瓦の瓦当文様

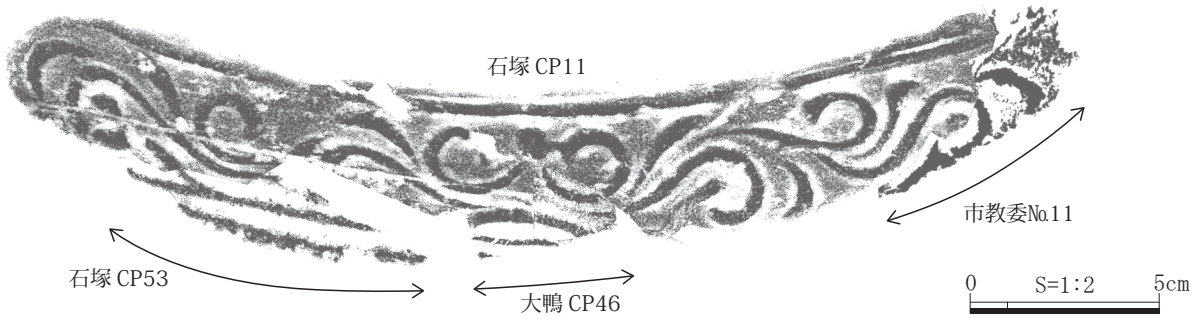
軒平瓦Ⅰ類に完存するものが無いため正確な全体形を把握することはできないが、比較的破片点数が出土しているため瓦当文様の復元を試みた。使用した資料は石塚 CP35・41・46・102、大鴨 CP34、市教委№５の６点である。

Ⅰ類は均整忍冬唐草文である。中心飾りはやや大きな球体の下にやや小ぶりの球体を３つ上下に重ね、大きめの球体とやや小ぶりの球体の間に、トンボの羽のように左右に２枚ずつ開く花弁状の文様が存在するものである。３つ上下に重ねられた小ぶりの球体の最下段から左右に唐草が伸びる。忍冬唐草文の全形は、茎・結節部・枝葉で構成され、左右に１単位ずつ対称に配置されている。顎は直線顎である。瓦当面右端の大鴨 CP34 は遺存状態が極めて良好で、笵の右上隅の輪郭が明瞭に残されている（写真７）。そのため、笵において瓦当文様がどのように配置されていたかを推測することが可能であり、文様の最右端から笵の右側面までの幅は 1.3cm、文様の右側最上端から笵の上面まで 1.8cm の間隔が空けられていたことになる。なお、界線は持たない。

軒平瓦Ⅳ類は均整唐草文で、石塚 CP11 は瓦当文様ががほぼ遺存しており、瓦当面の状態は良好とはいえないが、全体文様を把握することができる。しかし、詳細に観察すると瓦当面下方の凸面端部に欠損している箇所があるうえ、瓦当面の高さが笵の高さより低かったことにより瓦当文様の下側が



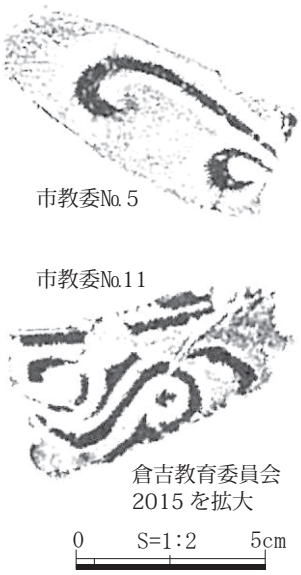
第 488 図　軒平瓦Ⅰ類瓦当復元図



第 489 図　軒平瓦Ⅳ類瓦当復元図

残っていない。そこで、調査によって出土した３点（石塚 CP11 と石塚 CP53、大鴨遺跡 CP46）と市教委№11 の４点を用いて瓦当文様の復元を試みた。

中心飾りは双葉形の中に珠文を１つ持つもので、中心から３回反転する均整唐草文の文様を持つ。文様は界線に囲まれている。上部界線は残されているが、脇区および下部の界線については明確ではない。ただし、Ⅳ類の左側下部部分にあたる石塚 CP53 に下部の界線と考えられる部分が残されている。なお、上部界線の右隅付近、下部界線の左側部分では界線が二重になっているようにも見えることから、界線は二重線であった可能性も考えられる（写真８）。顎は直線顎で、凸面には縄目叩き痕が残り、凹面には不明瞭ながら布目らしき痕跡が認められる。２次調整として左右両側面の凹面にヘラケズリが施されている。



第 490 図　倉吉市教育委員会所蔵軒平瓦

【引用・参考文献】

倉吉市教育委員会 2015「１ 石塚廃寺跡」『倉吉市内遺跡分布調査報告書 18』倉吉市文化財調査報告書第 144 集

岡平拓也 2018「54　石塚廃寺跡」『新鳥取県史　考古３－飛鳥・奈良時代以降－』鳥取県

大阪府教育委員会 2001『新堂廃寺』大阪府埋蔵文化財調査報告 2000-1

写真 11　大鴨 CP 7①

写真 12　大鴨 CP 7②

写真 13　石塚 CP19①

写真 14　石塚 CP19②

写真 15　石塚 CP 5

写真 16　石塚 CP70

写真 17　大鴨 CP34

写真 18　石塚 CP11

第３節　木製祭祀具と寺院による水辺の祭祀

はじめに

大鴨遺跡では木製祭祀具をはじめとする多数の加工木や自然木が出土した。出土したのは石塚廃寺東遺跡の東隣を北流する河川の底である。76 木製構造物と 171 木製祭祀具集中部があり、水辺の祭祀が想定される。また石塚廃寺との間には道路遺構が検出されていることから、祭祀の主体は古代寺院であると考えられる。この調査成果を基に、古代寺院と水辺の祭祀についての検討を行う。

１　木製祭祀具などの出土状況について

［76 木製構造物］

木製祭祀具は 39 点、遺構内全体の約７％である。斎串 31 点、刀形２点、刀子形１点、馬形１点、不明形代４点である。そのほか、付け木７点、はつり材９点が出土した。種子は 14 点出土した。内訳はイネ５点、トチノミ１点、不明８点である。構造物の盛土内や周辺の堆積層から出土した土器をみると、土師器の甕は少なく、須恵器の小型品と壺甕類の体部片が中心である。盛土の芯として配置された建築部材の板の下には、須恵器の Po121 瓶の体部が正位置で置かれていた。

［171 木製祭祀具集中部］

木製祭祀具は 66 点で、遺構内全体の 21％である。斎串 55 点、人形１点、武器形１点、馬形４点、形代の端片４点、楽器のささら子状木製品１点がある。そのほか木簡状木製品１点、折敷３点、付け木 10 点、はつり材３点がある。大型の不明木器 W115 は片側を連続する三角形状に切り込む。周囲には祭祀具が多く出土しているものの､用途不明品のため建築部材としている。種子は４点出土した。モモ１点、クルミ１点、トチノミ１点、不明１点である。モモの種子は最大径が３cmあり、通常の種子より一回り大きい、またクルミは殻から取り出されていた。構造物の盛土内、周辺の堆積層から土器が出土している。「く」の字状をもつ土師器の甕の口縁部片が複数出土しているほか、須恵器の小型壺や甕の体部片もある。また、寺との関係を示すものとして、石塚廃寺で使用されていた瓦当文をもつ軒丸瓦がある。位置は島状の基盤層と２流路の西の肩の間をつなぐ盛土中で、瓦当面を下に向けた状態で出土した。

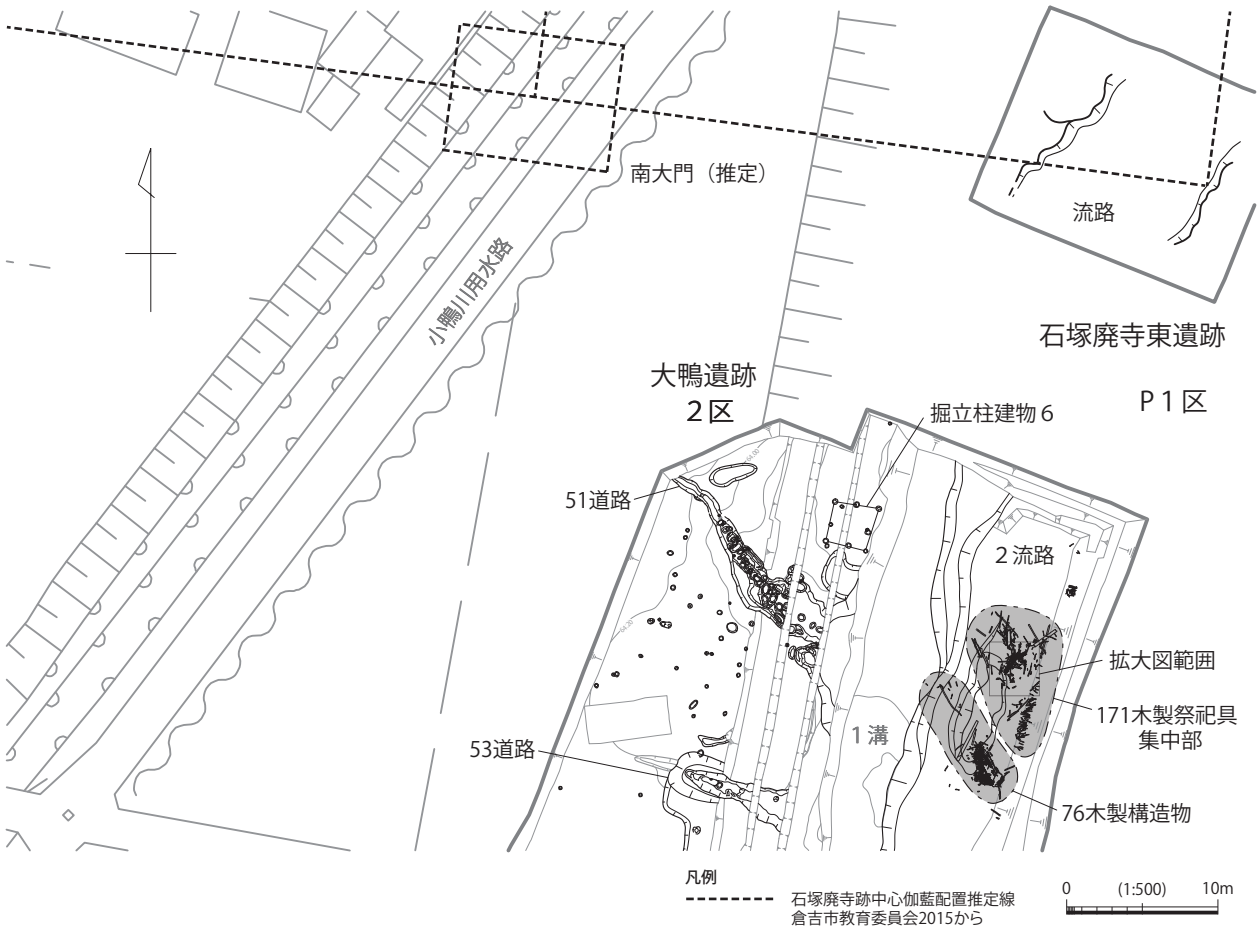
２　木製祭祀具について

（１）祭祀について

木製祭祀具がまとまって出土したのは２流路の川底上面にある 171 木製祭祀具集中部のほか、76 木製構造物や、171 木製祭祀具集中部の北側盛土内である。76 木製構造物の矢板付近からは、芯となる板材や自然木との間から完形にちかい刀形が出土しており、盛土を構築する際、何らかの祭祀行為が行われたとみられる。

（２）木製祭祀具の出土状況と井泉遺構

①群の斎串の多くは束ねられた状態で北東方向から南西方向を向いており、方位を意識している可能性がある。③群の木製祭祀具は、北西から南東方向に向く斎串と、斜めに倒れた斎串が重複している。①群の斎串の束の南西方向の延長上で、斎串の方向と直交する。直線状に並ぶことから、結界の南辺とみるか、もしくは意図的に南西側と直交させている可能性もあるだろう。①群と③群の間にあ



第 491 図　周辺の状況

る②群では、W98 人形と W101 馬形が同じ位置から出土している。楽器である W107 ささら子状木製品も出土している。

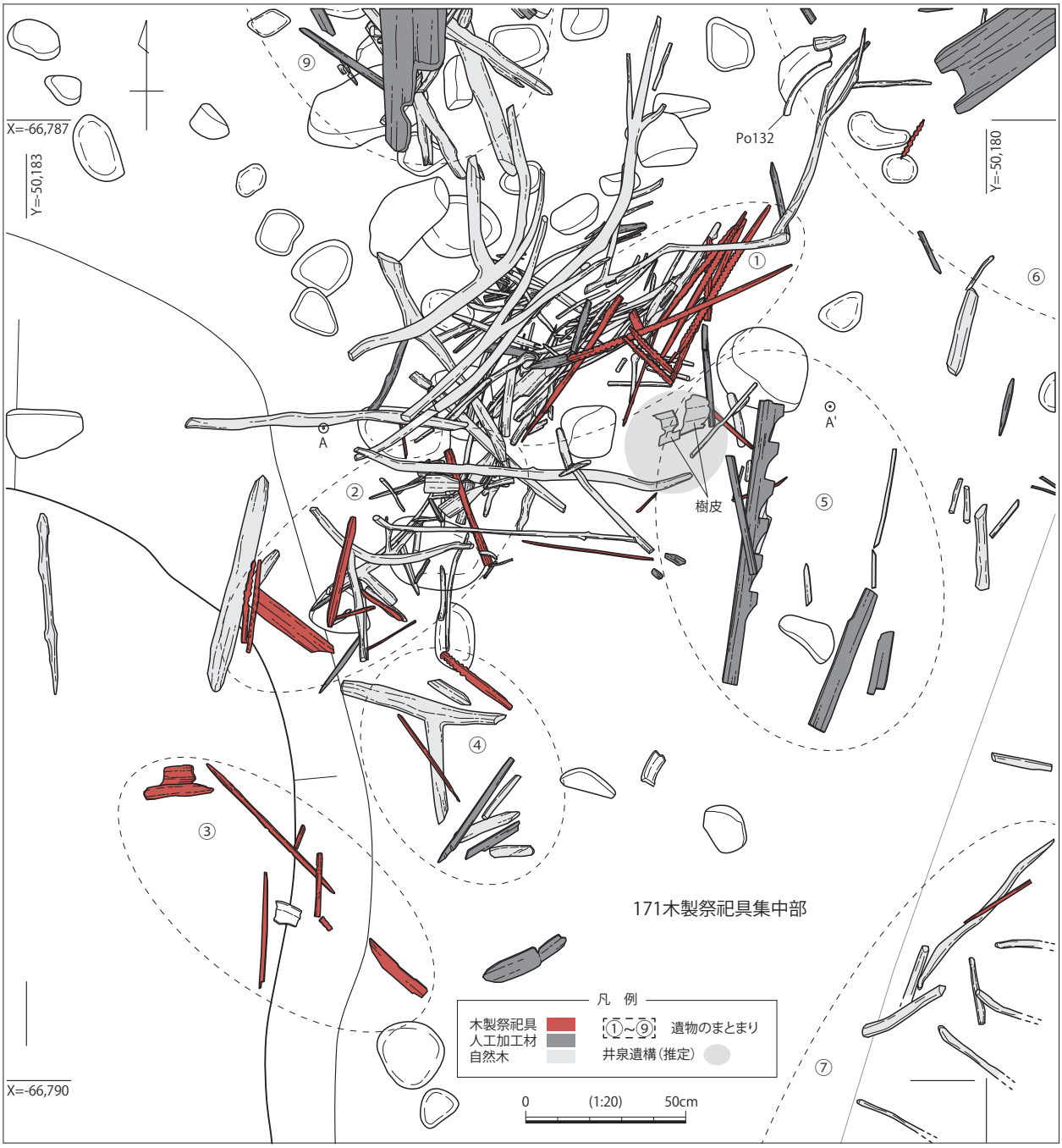
①群の斎串の束、②群、④群、⑤群は南西側を除く周囲を囲むように位置する。南西側には径 0.3 ～ 0.4m 程の円形の窪みがあり、窪みの北辺に沿うように長さ約 13cm、幅約 10cm の樹皮２点を中央に向け、内側を向け傾斜に沿わせた状態で出土した。窪みの中にはこれ以外の遺物はないものの、北東側１mから土師器の甕口縁部 Po132 が出土している。こうした状況からみて、盛土の砂の中央を窪めて周囲に樹皮を配置し、底部の無い甕を据えて周囲の水を自噴させる、井泉遺構が置かれていたと推測する。斎串の束が出土した位置は周囲の盛土より 0.2 m程高い土手状の範囲で、北西に向きを変えて⑨群の北側盛土に続く。樹皮の東西には径 0.2 ～ 0.3 mの礫があり、水流から甕の据えた場所を保護しているようにも見える。

（３）木製祭祀具の分類と時期

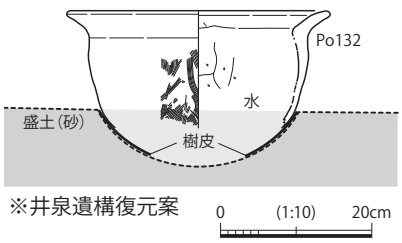
斎串は板状で側面に切り込みの無いＡ類、両側面に連続する切り込みをもつＢ類、棒状で上端面に切り込みをもつＣ類がある。馬形には鞍表現のないＡ類、鞍を表現するＢ類がある。

［構造物構築のための祭祀］

島状の基盤層を拡張する 76 木製構造物から、斎串のＡ類とＣ類、鞍表現のない馬形Ａ類と刀形が出土している。171 木製祭祀具集中部の北側盛土、島状の基盤層と２流路の西肩とをつなぐ盛土中からは芯となる建築部材や梯子が出土したものの人形はない。



第 492 図　171 木製祭祀具集中部の拡大図と復元図



76 木製構造物と 171 木製祭祀具集中部の北側盛土中の、樹皮の付いたままの枝（粗朶）の年代測定の結果は、76 木製構造物と 171 木製祭祀具集中部の北側盛土でほぼ同時期で 773 年を下限とし、８世紀中葉を下らない。このことから、76 木製構造物と 171 木製祭祀具集中部の盛土は、８世紀前半に構築したと考えられる。

［祭祀行為後の状況］

171 木製祭祀具集中部の斎串の束①群や、周囲から出土した②～⑤群の木製祭祀具である。出土状況からみた一括性は高い。斎串はＡ・Ｂ・Ｃ類がある。人形はなで肩をもち、腰のくびれをもつ。

第 134 表　木製祭祀具ほか一覧表

遺構名＼種別	木製祭祀具														加工木								種子					
	斎串A	斎串B	斎串C	斎串不明	刀形	刀子形	武器形	人形	馬形A	馬形B	馬形不明	不明形代	ささら子状	計	木簡状	曲物	折敷	不明部材	不明木器	付け木	はつり材	計	イネ	モモ	トチノミ	クルミ	不明	計
76 木製構造物	0	3	2	26	2	1	0	0	1	0	0	4	0	39	0	2	0	7	0	7	9	25	5	0	1	0	8	14
171 木製祭祀具集中部	15	14	7	19	0	0	1	1	2	2	0	4	1	66	1	2	3	4	1	10	3	24	1	1	1	1	1	5
計	15	17	9	45	2	1	1	1	3	2	0	8	1	105	1	4	3	11	1	17	12	49	6	1	2	1	9	19

鞍の表現をもつ馬形のＢ類は、人形と共伴して出土している。楽器であるささら子状木製品もある。

束ねられた斎串、③群にある結界の一部とみられる斎串、井泉遺構の一部とみられる樹皮などから、祭祀行為が行われたままのの状況ではないものの、井泉遺構や祭祀具の一部などの様相を留めていると考えている。結界の一部とみられる斎串 W73・82・84・86 は全て板状の斎串Ｂ類で、両側に連続する切り込みをもつ斎串Ａ類を含まない。

祭祀の行われた時期について検討する。木製祭祀具や出土した土器からは平安時代に下る要素は認めにくい。76 木製構造物構築から出土した木製祭祀具と比較すると、馬形はＡ類からＢ類で新しい要素をもつものの、斎串はＡ・Ｃ類が共伴する。祭祀の行われたのは 76 木製構造物をはじめとした構造物を構築した後ではあるが、時間的な隔たりは大きくないと捉えている。したがって埋没前に祭祀行為の行われたのは、８世紀中葉と考えられる。

（４）周辺の遺構

石塚廃寺の南門方向に向かい、８世紀に構築された 51 道路がある。路床には連続する土坑状の掘り込みがあり、掘り込みには多数の礫に混じり瓦片や土器片が出土していることから、この道路遺構は寺院が管理し、おおよそ８世紀に造られ、補修しながら 10 世紀まで使用されたと考えられる。これは石塚廃寺の機能した時期とほぼ併行する。東側を１溝で壊されているものの、52 道路は南門方向から東に向きを変え、２流路の肩を横断して 76 木製構造物や 171 木製祭祀具集中部のある島状の基盤層に向かう。この島状の基盤層と２流路の西肩の間は、建築部材など加工木のまとまり⑧群を芯とした盛土で土橋状に繋いで半島状に張り出させて、直接祭祀場に向かうと考えられる。

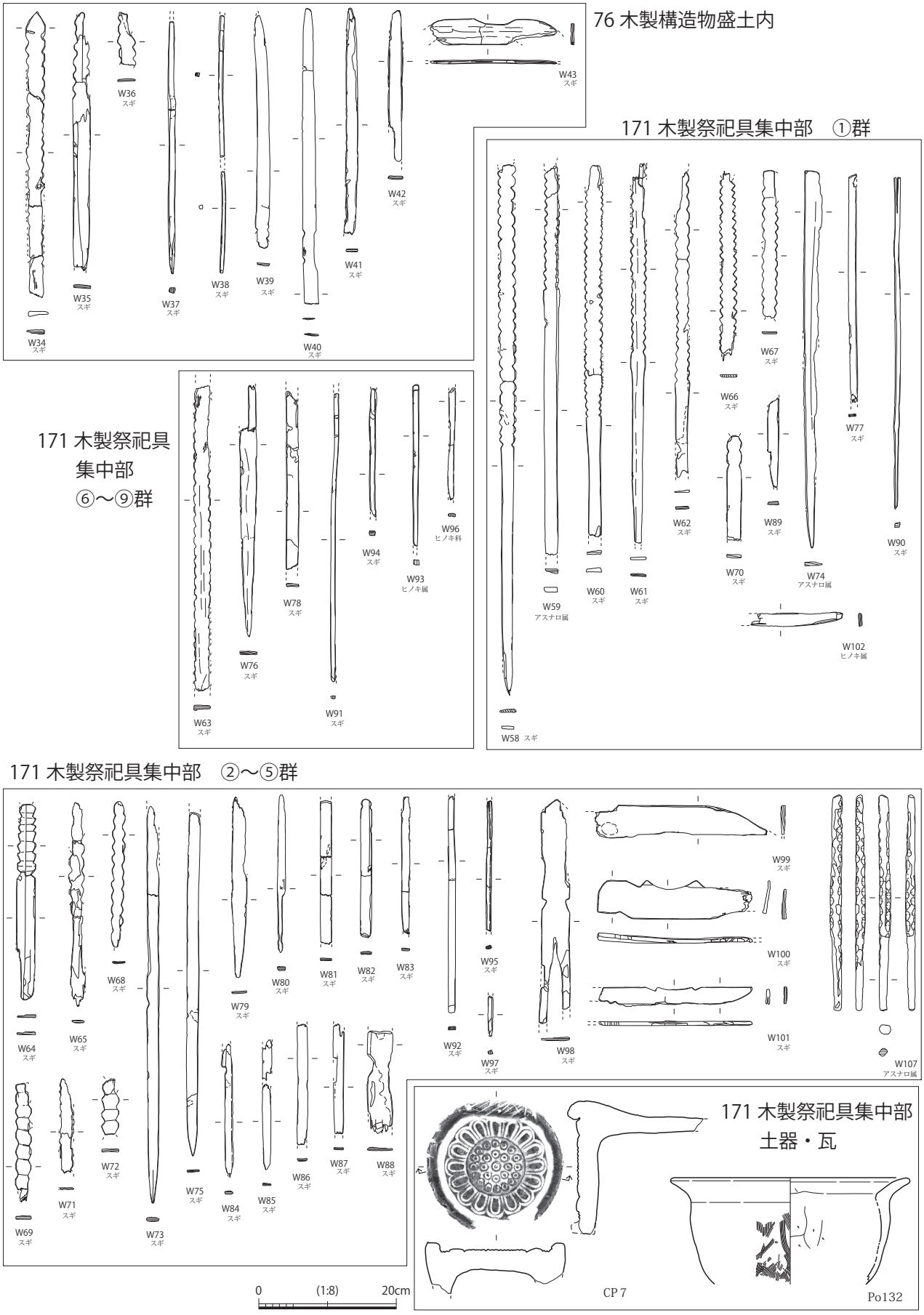
ほか道路遺構の途中、171 木製祭祀具集中部から 10 ｍ北西側に、２間×２間の方形の掘立柱建物６がある。時期の特定は難しいものの、簡易な構造であり、２流路や 171 木製祭祀具集中部を見下ろす位置にあることから、仮屋としての建物の可能性も指摘されている[1)]。

３　水辺の祭祀について

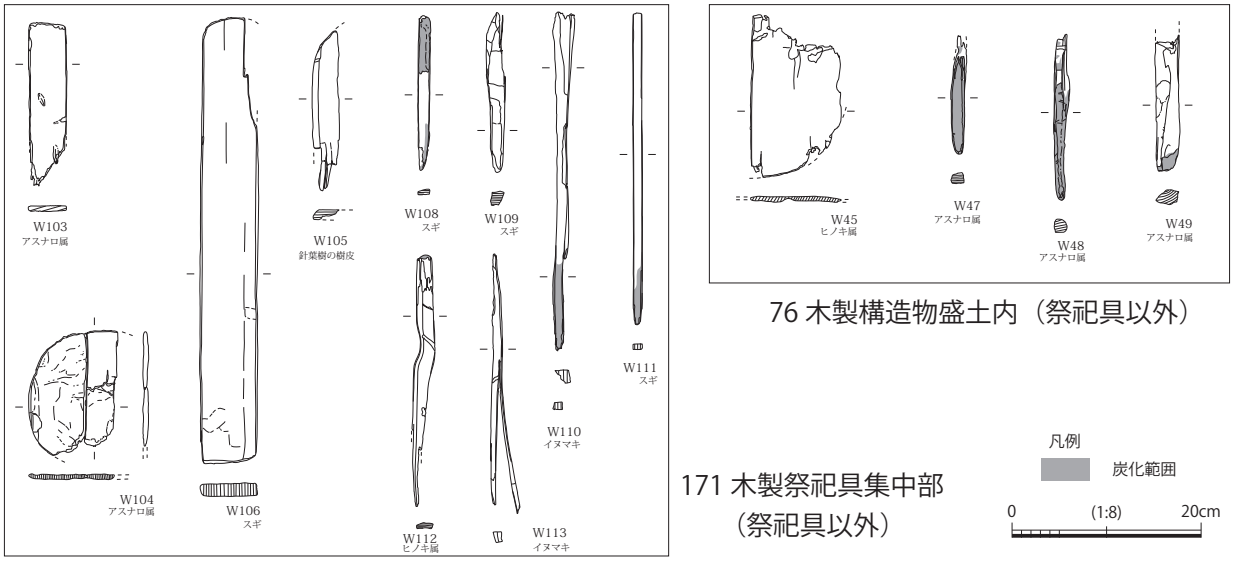
寺院と水辺の祭祀との関係が想定されるのは、著名なのは岐阜県関市の弥勒寺西遺跡であるが、県内にも倉吉市内の大御堂廃寺がある。他にも類例はあるとみられるが、管見の及ぶ範囲でいくつかの遺跡を取り上げる。

（１）大御堂廃寺（鳥取県倉吉市）

大御堂廃寺は大鴨遺跡から直線距離で約７km 北東側に位置する古代寺院である。東に塔、西に金堂をもつ伽藍配置で、地方寺院としては大規模な僧坊である。僧坊から 50 ｍ程西側に、寺院内に清浄な水を供給するための井戸ＳＥ 01 がある。井戸は地下からの水ではなく、西側に 70 ｍ以上もの木樋を延ばして導水する。井戸ＳＥ 01 の埋土中、上から３層目から斎串、人形、刀形、舟形、独楽、



第 493 図　木製祭祀具・土器・瓦（一部）



第 494 図　祭祀具以外の木製品（一部）

太鼓のバチとされる棒状の木製品などが出土している。

第 495 図 48 ～ 52 は斎串１類で、圭頭で両側に切り込みをもつ。53 ～ 57 は斎串２類で、切り込みは片側一箇所で反対側に２箇所の切り込みをもつ２a 類、切り込みの上側を弓状に切り込む２b 類がある。人形は両側に頸部の切り込みがあり、脚は体部両側の延長部に「コ」の字状にある。馬形の背部には鞍表現がなく弓状の切り込みで、尾は下向きである。大鴨遺跡と比較すると、斎串は小さく、人形の形状は異なるが馬形の尾は下向きで、背に鞍表現はなく、弓状の切り込みがあり、76 木製構造物出土の馬形に類似する。また斎串のうち、2b 類は大鴨遺跡 76 木製構造物の刀形に類似する。

井戸内には祭祀具とともに多数の土師器と須恵器が出土している。飛鳥から奈良時代の土器が主体であるが、時期の下るのは高台の付かない須恵器の坏 49・50 である。井戸は８世紀の第２四半期に造られたものの、短期間で廃絶したと報告している。（倉吉市教育委員会 2001）

（２）弥勒寺西遺跡（岐阜県関市）

方形の張り出し部と４か所の井泉遺構を検出している。井泉１は湧き水から下流に導水の溝をもつ。井泉２は土器を埋設して石囲いを行う。井泉３は集石をもつ。井泉４は曲物を埋設する。

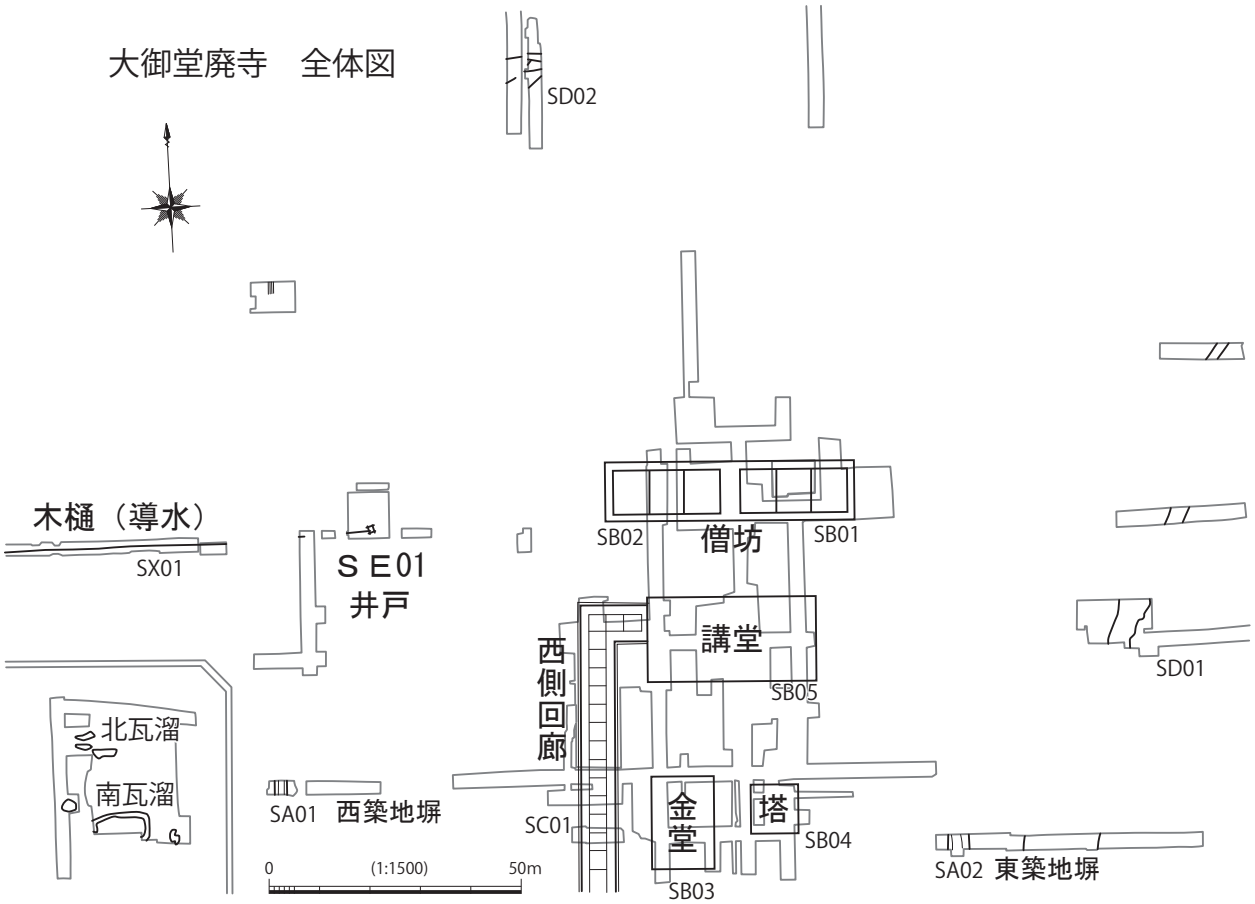
自然流路から出土した木製祭祀具とみられる加工材は、斎串５点、人形４点、舟形３点、刀形８点、ささらの可能性のある有孔方形板 24 点、燃えさし（付け木）530 点がある。ほか折敷、案の一部、箸、はつり材などが出土している（関市教育委員会 2007）。

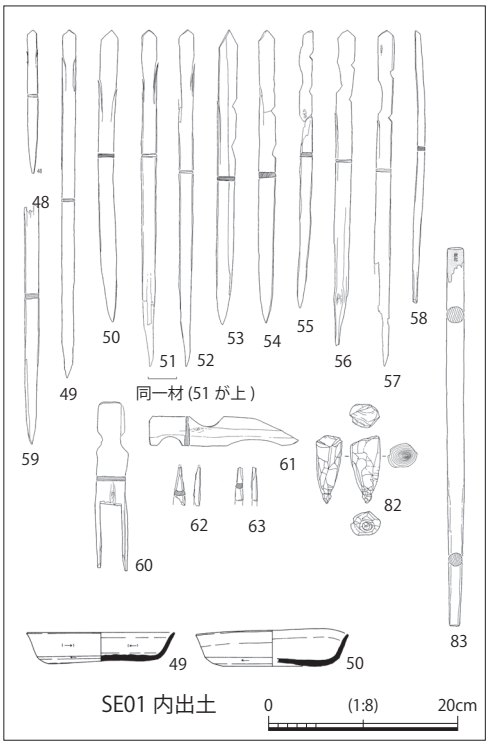
木製祭祀具の形状をみると、斎串の頭部は圭頭、両側面から切り込みをもつ。人形は両側に切り込みをもつ。舟形はいわゆる立体である。有孔方形板は大小あり、孔の位置は中央よりも片側にずれているものが多い。ほか不明の形代もある。

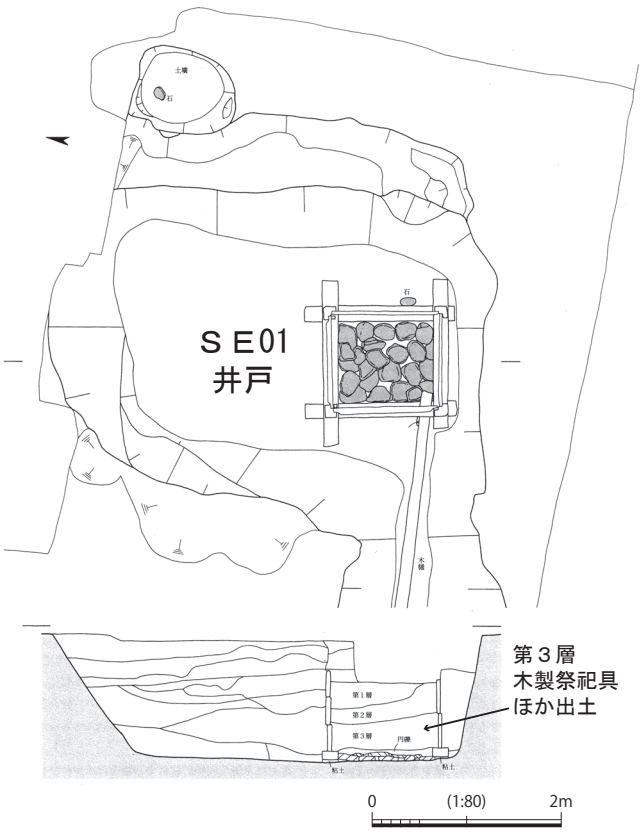
祭祀の要素として、①様々に演出された井泉遺構の点在、②土器に記された吉祥文字や呪句、③斎串による結界、④人形・舟形・刀形、⑤桃の種子による「辟邪」、⑥ささらの可能性のある板、⑦組み立て式の案、⑧灯明、⑨燃えさし、⑩掘立柱列（目隠しか）、⑪掘立柱列の外側の篝火、をあげている。時期は奈良時代と報告している（関市教育委員会 2007）。

（３）その他

上記の遺跡のほかにも湧水や井泉、井戸など、寺院に関する遺物と木製祭祀具の状況から、古代寺



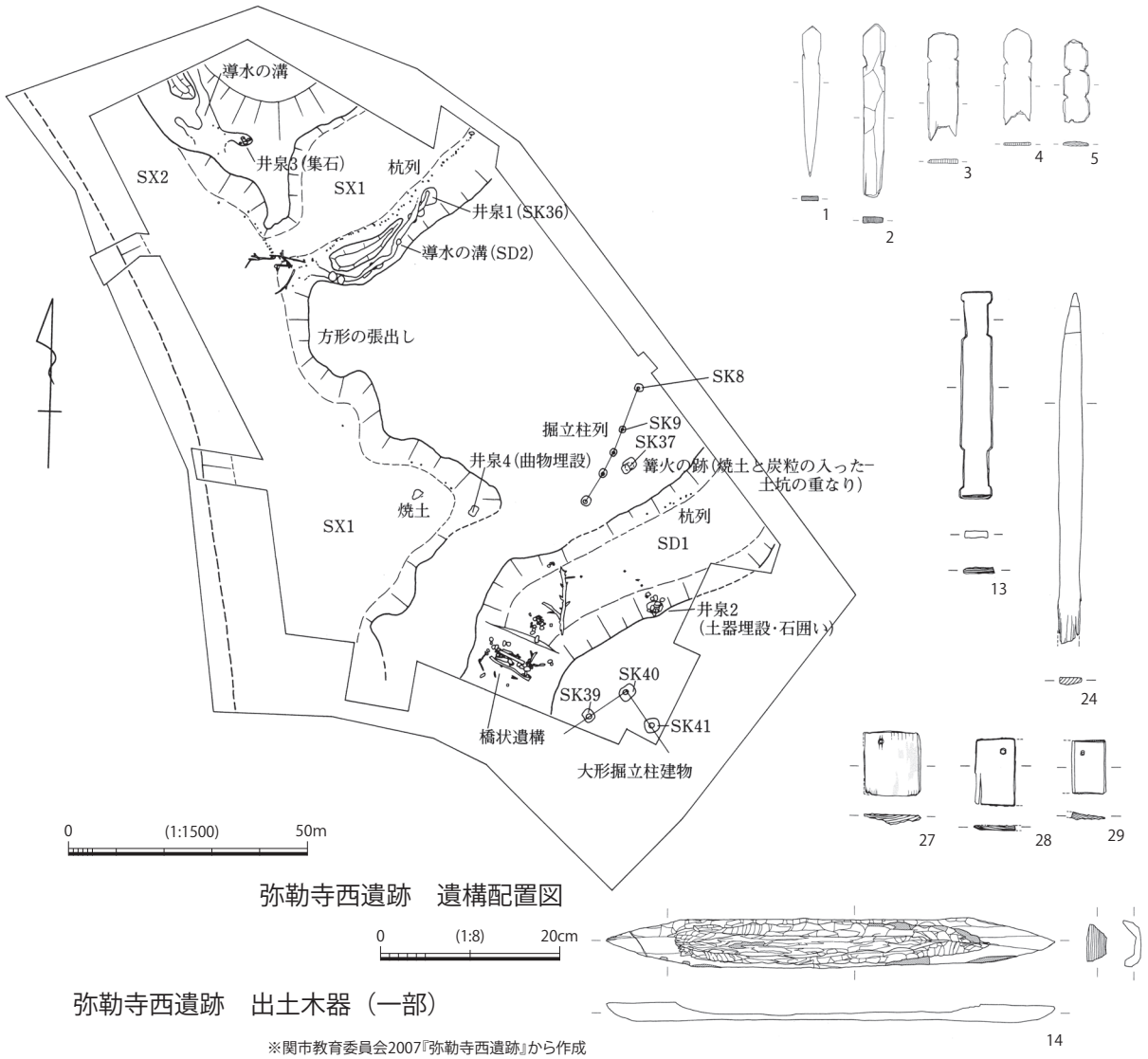




大御堂廃寺　ＳＥ01 遺構図・出土遺物（一部）

※倉吉市教育委員会2001『史跡大御堂廃寺跡発掘調査報告書』から作成

第 495 図　大御堂廃寺



※関市教育委員会2007『弥勒寺西遺跡』から作成

第 496 図　弥勒寺西遺跡

院を主体とした水辺の祭祀を推測できる遺跡がある。

［千代廃寺］（神奈川県小田原市）

千代南原遺跡第Ⅶ地点の発掘調査では、千代廃寺のある台地下の低湿地の水路または水溜り状の沼地から、寺院に関わるとみられる２点の木簡、瓦や瓦塔のほか、木製祭祀具の斎串、ささら棒、鏃形、丸木弓・刀子形、刀子柄形、琴柱が出土している。木簡の記載から、仏教行事の法要などに関する内容であり、行われたのは天平二十（748）年または天平宝字四（760）年と考えられている（小田原市千代南原遺跡第Ⅶ地点発掘調査団 2000・國平 2005）。

大鴨遺跡と比較すると、木製祭祀具は台地上や水路の上流から移動したというよりも、台地下にある水路または水辺周辺で行われた祭祀の痕跡という見方ができるかもしれない。

［釜ヶ谷遺跡］（京都府木津川市）

複数のトレンチ調査で、東西に蛇行しながら北流して木津川に向かう古代の自然流路を確認している。埋土から斎串や人形をはじめとする木製祭祀具のほか、布目瓦や素弁八弁蓮華文軒丸瓦が出土している。報告によると、斎串で結界した中にミニチュアカマド類や人形を並べ、土器などに人面をその場で描いて流したと想定している。上流では土馬が出土しており、水辺の祭祀は長期間に行われ、

第 135 表　遺跡一覧表

遺跡名	所在地	遺構	木製祭祀具	その他	寺院との関係
大鴨遺跡	鳥取県 倉吉市	井泉遺構か	斎串、人形、馬形、刀形、ささら	折敷、付け木、はつり材、モモほか種子	瓦、南門方向への道路
大御堂廃寺跡	鳥取県 倉吉市	井戸、木樋	斎串、人形、舟形？、刀形？、太鼓のバチ？、独楽	モモほか種子	寺域内
弥勒寺西遺跡	岐阜県 関市	井泉遺構４か所、方形の張り出し部、目隠しの塀ほか	斎串、人形、舟形、刀形、板ささら？	灯明、案、燃えさし、はつり材、モモほか種子	墨書土器、木簡、瓦
千代廃寺	神奈川県 小田原市	低湿地内か	斎串、馬形、鏃形、儀礼用丸木弓、刀子形、琴柱、ささら		瓦
釜ヶ谷遺跡	京都府 木津川市	流路内	斎串、人形	墨書人面土器、ミニチュアカマド	瓦
安芸国分寺	広島県 東広島市	湧水周辺か	斎串状、鳥形、剣形、ささら状	焼塩土器、モモほか種子、木削屑	墨書土器、木簡、箸、物差、角筆、瓦

その間に上流側の土製品を用いた祭祀から下流の木製祭祀具を用いた祭祀へと変遷したと示唆している（京都府埋蔵文化財調査研究センター 1996）。

流路下流の東隣には燈籠寺遺跡、北隣には燈籠寺廃寺跡が位置する。燈籠寺廃寺は白鳳期の創建であるが、調査で出土する瓦の多くは恭仁京期の山背国分寺系の瓦で、恭仁京大極殿跡が山背国分寺に施入された天平十八（746）年に新調された瓦の一群であるという（上原 1984 ・京都府埋蔵文化財調査研究センター 1995）。祭祀に使用された遺物の多くは流路内に遺されていること、燈籠寺廃寺跡の位置する谷の上流で行われていること、人形や斎串などの木製祭祀具を用いていること、時期も奈良時代中頃等、大鴨遺跡との共通点は多い。

［安芸国分寺］（広島県東広島市）

451 土坑から仏教祭祀の行われた後の遺物が出土している。天平勝宝二（750）年４月 29 日の紀年銘がある長大な木簡が出土している。斎串やささらの可能性のある木製品が出土している。遺構の堆積直後の８世紀後半には、450 号溝により掘削される。この溝は寺の築地塀に沿って南流し、突き当たる南面築地塀の基壇内に木樋が設置されていたと報告している（東広島市教育委員会 2022）。

弥勒寺西遺跡や大御堂廃寺などの調査成果から安芸国分寺 451 土坑出土資料をみると、祭祀の行われた場所の下流付近には、木樋が設置される前からの湧水地があることから、木樋を設置する前に水辺の祭祀が行われた可能性もあるだろう。

４　小括

古代寺院と水辺の祭祀が想定できる箇所は鳥取県、岐阜県のほか、神奈川県、京都府、広島県で確認した。祭祀の行われた場所は、弥勒寺西遺跡の井泉遺構、大御堂廃寺の井戸、湧水地周辺とみられる安芸国分寺、自然流路内の大鴨遺跡（井泉遺構を含む）や釜ヶ谷遺跡、低湿地とみられる千代廃寺がある。祭祀の行われた時期をみると、大鴨遺跡は８世紀中葉、大御堂廃寺では８世紀第２四半期から中葉、弥勒寺西遺跡は奈良時代、千代廃寺では 760 年頃、釜ヶ谷遺跡は奈良時代中頃、安芸国分寺では８世紀の半ばで、いずれも奈良時代、特に８世紀中葉に集中する。

他遺跡での調査例を参照すると、寺院の周辺では、流路内や湧水周辺、湿地などの水に近い場所で行う祭祀がある。祭祀場は斎串で結界し、形代、折敷や案、楽器、燃えさし、はつり材、桃の種子などを使用した祭祀が行われたようである。ここで使われた木製祭祀具は本来、仏教祭祀には用いないが、祭祀の行われた場所が寺院内の井戸であったり、祭祀場を結ぶ道路や切り通し、寺院に関係する遺物も多数出土していることから、寺院が水辺の祭祀に大きく関係している蓋然性は高い。祭祀に用

いられたとみられる遺物に着目すると、木製祭祀具では斎串と形代が共通する。楽器は摺りささら、板ささら、太鼓のバチ、琴柱がある。土器には墨書人面土器や焼塩土器が出土することもある。木製祭祀具以外では、折敷や案、燃えさし、はつり材、桃などの種子が共通する。また、祭祀具の種類と数では、大御堂廃寺では人形１点と馬形１点と複数の舟形、大鴨遺跡では人形１点と複数の馬形、弥勒寺西遺跡では複数の人形と複数の舟形、釜ヶ谷遺跡では人形１点と多数の墨書人面土器がある。

このように寺院を主体とする木製祭祀具を用いた水辺の祭祀は、多くはないものの確実に存在するといえる。今回取り上げた事例に共通する点は、①遺跡により形代の種類には違いがあり、とくに古墳時代から続く刀形や鳥形と律令的な木製祭祀具である人形、馬形、舟形とに分かれる、②人形の出土する遺跡では、井戸や井泉遺構の数と人形の数が大きく違わない、③ささらなどの楽器が伴う傾向が認められる。これは木製祭祀具の性格や使い方が時代とともに変化した可能性を示唆するのかもしれない。また、大鴨遺跡の斎串をＡ～Ｃ類に分類したが、結界の一部を構成していた斎串はＡ類で、Ｂ類は別の意味があるのかもしれない。資料の増加に期待し、今後の課題としておきたい。

最後に大鴨遺跡で行われた祭祀の要素をまとめると、①束ねられた斎串と方位、②斎串による結界とみられる痕跡、③人形・馬形・刀形などの木製祭祀具、④折敷の一部、⑤楽器であるささら子状木製品、⑥付け木、はつり材、⑦桃などの種子類、⑧井泉とみられる遺構（樹皮や土師器甕を含む）、⑨島状の基盤層と西側の流路の肩との間を土橋状に接続して半島状の張り出し部を設けること、⑩石塚廃寺の南門周辺に向かうとみられる道路遺構（道路内の土坑から多数の瓦片が出土）、⑪仮屋の可能性のある建物、がある。寺院との関わりを示す遺物として、木製祭祀具の集中する南東側から石塚廃寺に使われていたとみられる軒丸瓦が出土している。

このように大鴨遺跡の調査は奈良時代中頃の仏教と律令的な木製祭祀具を用いた水辺の祭祀との関係を考えるための、貴重な成果といえるのではないだろうか。

【註】

１）　大平茂氏（兵庫県立考古博物館名誉学芸員）から教示いただいた。

【引用・参考文献】

上原真人 1984『恭仁京跡発掘調査報告　瓦編』京都府教育委員会

小田原市千代南原遺跡第Ⅶ地点発掘調査団 2000『神奈川県小田原市千代南原遺跡第Ⅶ地点』

國平健三 2005「相模国分寺の研究（中）」『神奈川県立博物館研究報告－人文科学－』第 31 号、神奈川県立博物館

京都府埋蔵文化財調査研究センター 1995「燈籠寺遺跡・燈籠寺廃寺跡発掘調査概要」『京都府遺跡調査概報』第 64 冊 -6

京都府埋蔵文化財調査研究センター 1996「木津地区所在遺跡平成７年度発掘調査概要（釜ヶ谷遺跡第３次）」『京都府遺跡調査概報』第 75 集

倉吉市教育委員会 2001『大御堂廃寺跡発掘調査報告書』

倉吉市教育委員会 2015『倉吉市内遺跡分布調査報告書 18』

関市教育委員会 2007『弥勒寺遺跡群　弥勒寺西遺跡』

奈良文化財研究所 2019『木器集成図録－飛鳥藤原京篇Ⅰ－』

東広島市教育委員会 2022『重要考古資料　安芸国分寺跡土坑出土品－ 451 号土坑出土の法会関係資料集成－』

第４節　大鴨遺跡の道路遺構について

はじめに

大鴨遺跡では数多くの古代の道路遺構が検出され、特に祭祀場（76 木製構造物・171 木製祭祀具集中部）と石塚廃寺を結ぶ 51 道路や古代の流路沿いに敷設された 365・678 道路（１区 302・303 道路）は注目された。県内の古代の道路については、坂本嘉和氏がその構造と特徴を良くまとめている（坂本 2022）。本節では、坂本論考に依拠しつつ、大鴨遺跡で検出された道路遺構について整理を行い、その構造と性格について検討を行いたい。

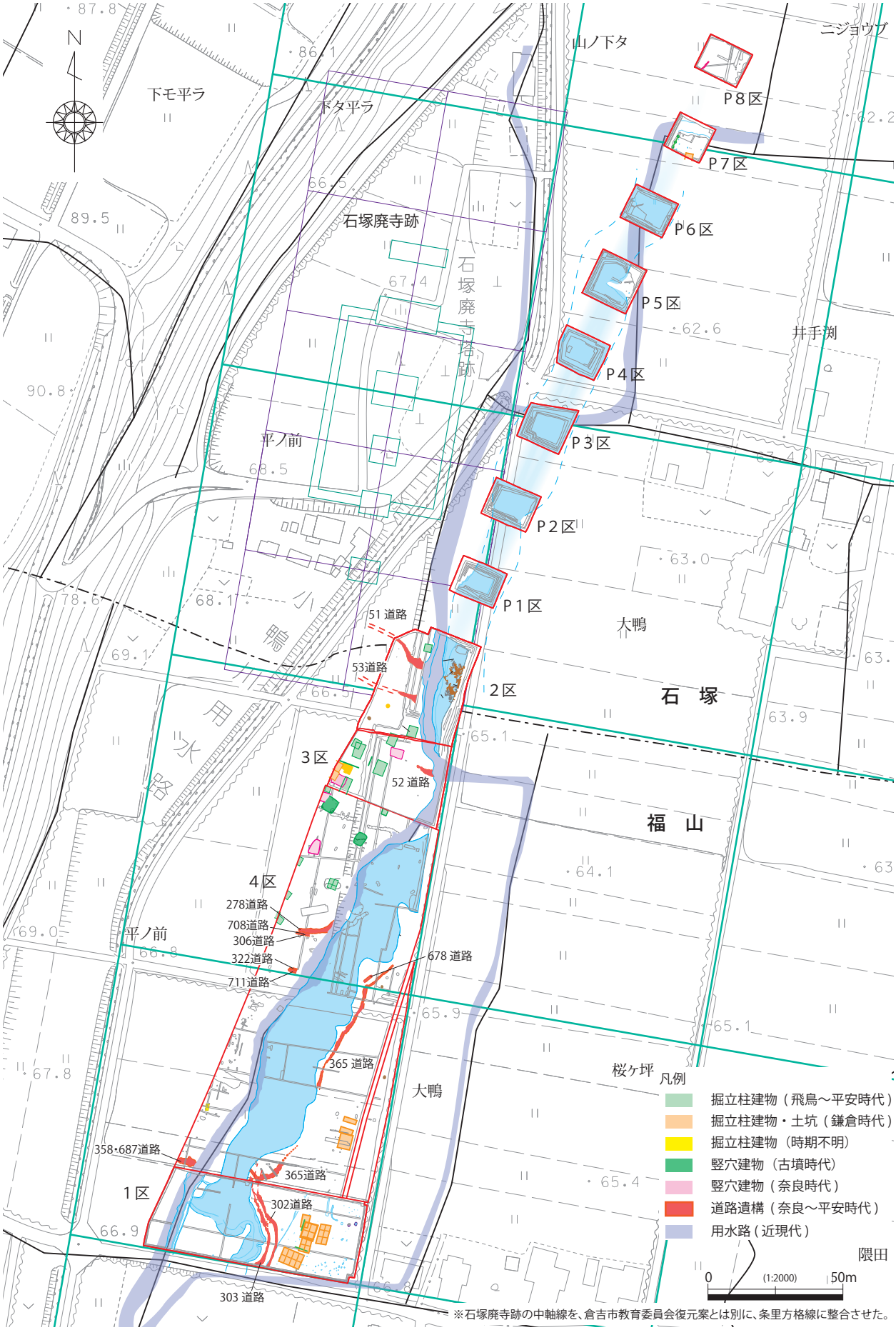
１　道路遺構の認定と位置

道路遺構の認定については、山村信榮氏により２つの必要条件と４つの十分条件が提示されている（山村 1993）。必要条件は①帯状に連続性がある特定空間を形成する、②基本的にその空間には空間が使用された同時期の遺構が存在しない。十分条件は①路面と認定できる状況､舗装や硬化面が伴う、②切通しや土塁（土橋）、橋梁、側溝などの関連施設を伴う、③轍など通行を示す痕跡が伴う、④一定の距離をおいて２点以上で存在が確認できる。今回の調査で道路と認定した遺構は、以上の必要条件を満たし、十分条件は１つ以上を満たすものである。

大鴨遺跡で検出した主な道路一覧を第 136 表にまとめている。道路の分布は調査区を南北に縦走する古代流路の西側（左岸）に位置するものと、東側（右岸）に位置するものがある。西側に位置するものは、流路岸に向かって敷設されており、緩斜面に立地する 51 道路、ほぼ平坦面に位置する 52・53・278・322・358・687・708・711 道路に分かれる。東側は古代流路に並走する 365（１区 302）・678（１区 303）道路と流路岸に向かう 685 道路がある。大きく捉えれば流路西側は東西方向、東側は南北方向に構築された道路が立地する。

第 136 表　大鴨遺跡における主な道路遺構

No.	遺構名	地区	時期	規模（m）			路面部				路床部		側溝	備考
				検出長	最大幅	深さ	石敷	整地土	硬化面	轍	波板状凹凸面			
1	51 道路	2 区	奈良・平安	14.6	3.3	0.77					○	礫・瓦・土器・鉄滓		改修１
2	52 道路	3 区	奈良・平安	6.3	1.7	0.3		○	○		○	礫・瓦・土器等		改修２
3	53 道路	2 区	奈良・平安	7.1	2.6	0.4					○	砂礫		
4	365(302) 道路	1・4 区	奈良・平安	132.8	1.24	0.27		○	○		○	礫・土器等		302 で改修２
5	678(303) 道路	1・4 区	奈良・平安	40.2	1.35	0.27					○	礫		303 で改修２
6	708 道路	4 区	奈良・平安	2.46	0.88	0.06					○	礫		
7	278 道路	4 区	奈良・平安	13.5	1.27	0.17	○							改修１
8	306 道路	4 区	奈良・平安	5.18	1.09	0.06	○							
9	322 道路	4 区	奈良・平安	2.68	0.6	0.1	○							
10	711 道路	4 区	奈良・平安	3.03	0.99	0.1	○	○						
11	358 道路	4 区	奈良・平安	6.64	2.06	0.15	○							改修１？
12	687 道路	4 区	奈良・平安	2.65	1.08	0.1	○							



※石塚廃寺跡の中軸線を、倉吉市教育委員会復元案とは別に、条里方格線に整合させた。

第 497 図　道路遺構配置図

２　道路遺構の種別と構造

坂本氏は、因幡･伯耆の道路遺構を集成するなかで、構築工法をＡ～Ｄ類の４つに分類する。Ａ類：切土工法、Ｂ類：盛土工法、Ｃ類：浅い溝状に掘り窪めるもの、Ｄ類：平坦に造成（整地）したもの、である（坂本 2022）。今回検出された道路遺構は、全てＣ類に該当する。そして、路面部にみられる属性として、石敷や整地土、波板状凹凸面、硬化面、轍等があり、路面の構築方法は石敷を施すものと土のみで整地するものを挙げている。今回検出された道路では、路面の構築方法は石敷と土のみだが、属性として波板状凹凸面や石敷、硬化面が確認されている。そこで、まずは属性として挙げられた波板状凹凸面を有する道路と石敷道路の事例をそれぞれ概観する。

（１）波板状凹凸面を有する道路

①**51 道路**　２区流路西側の緩斜地に等高線に直交するように配置される。石塚廃寺と 76 木製構造物を結ぶ。底面土坑の重複関係により１回の改修がなされている。検出長 14.6m、最大幅 3.3m、検出面からの深さは最大 0.77m を測る。断面逆台形を呈する溝底面に、不整円形の凹凸列が配置される。土坑内は砂混じりシルトが堆積し、大小礫や瓦、鉄滓などが充填される。路面は確認されていない。

②**52 道路**　３区流路西側に等高線に直交するように配置される。検出長 6.3m、最大幅 1.69m、検出面からの深さは最大 0.3m を測る。路面が残存し、少なくとも２回の改修がなされている。断面皿状を呈する溝底面に、不整円形の凹凸列（土坑）が一定の間隔で配置される。土坑内は砂混じりシルトが堆積し、大小礫や瓦などが充填される。溝埋土の直上に厚さ５cm 程度のしまりの強い粘質シルトが３層堆積し、路面と判断した。

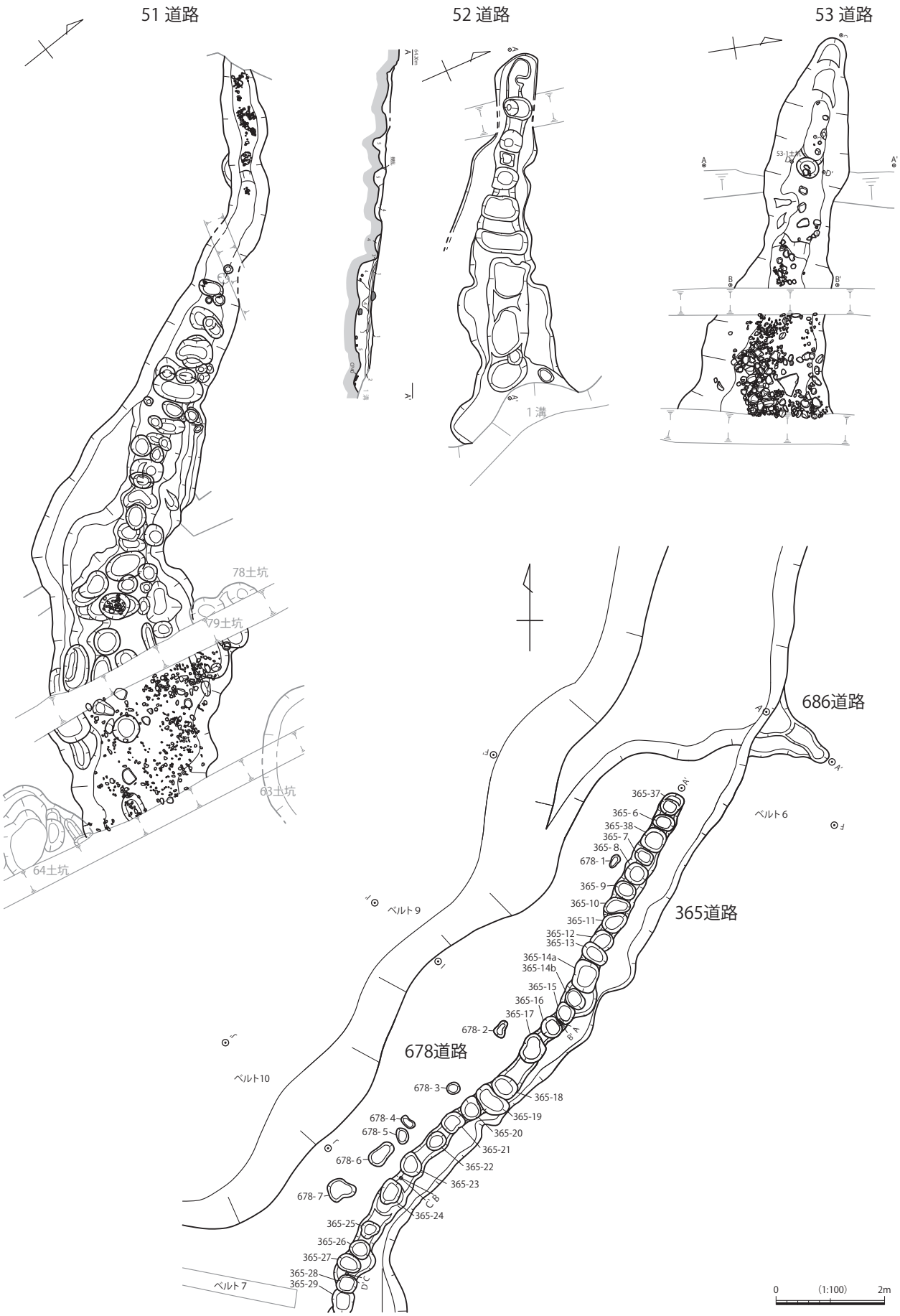
③**53 道路**　２区流路西側の緩斜地に等高線に直交するように配置される。検出長 7.1m、最大幅 2.6m、検出面からの深さは最大 0.4m を測る。断面逆台形を呈する溝底面に、不整円形の凹凸列（土坑）がわずかに配置される。底面近くに砂混じりシルトが堆積し、大小礫などが含まれる。路面は確認されていない。

④**365 道路（１区 302 道路）**　１・４区流路東岸に並行するように配置される。流路に近い 678 道路（１区 303 道路）より後出する。１区 302 道路も合わせ 365 道路は検出長 132.8m、最大幅 1.24m、検出面からの深さは最大 0.27m を測る。断面皿状を呈する溝底面に、不整円形の土坑が連続的に配置される。土坑内は砂混じりシルトが堆積し、大小礫などが充填される。溝埋土の直上にしまりの強い粘質シルトが堆積する部分が見られ、路面と判断した。

⑤**678 道路（１区 303 道路）**　１・４区流路東岸に並行するように配置される。隣接する 365 道路（１区 303 道路）より前出する。１区 303 道路も合わせ 678 道路は検出長 40.2m、最大幅 1.35m、検出面からの深さは最大 0.27m を測る。断面皿状を呈する溝底面に、不整円形の土坑が連続的に配置される。土坑内は砂混じりシルトが堆積し、大小礫などが充填される。

⑥**708 道路**　４区流路西側に等高線に直交するように配置される。278・306 道路と重複し、最も古い。溝の肩部分が破壊され、わずかに底面の波板状凹凸面の痕跡が残る。検出長 2.46m、最大幅 0.88m、検出面からの深さは最大 0.06m を測る。

⑦**52 道路周辺道路**　３区流路西側の 52 道路周辺に密集するものをまとめる。183・184・290～299・301・307・377・407～409・460 道路が該当する。多くが主軸を等高線に直交するように配置されるが、290・407 道路のような等高線にほぼ沿うようなものも見られ規則性が見ら



第 498 図　波板状凹凸面を有する道路

れない。平面形が不整形のものが多く、波板状凹凸面の痕跡が僅かに残ったものと想定される。埋土は粗粒砂が混じる砂混じりシルトが堆積している。遺構の基盤層であるⅤ層のソフトロームは水分を含むと非常に滑りやすいことから、集落から流路へ向かう際の滑り防止用の足掛かり的な役割を果たしていたものと考えられる。

（２）石敷道路

①**278 道路**　４区流路西側に等高線に直交し、弓形状に配置される。少なくとも１回の改修が確認されている。306 道路と重複し、後出する。検出長 13.45m、最大幅 1.27m、検出面からの深さは最大 0.17m を測る。断面皿状を呈する浅い溝底面に小礫を敷設し路面としている。

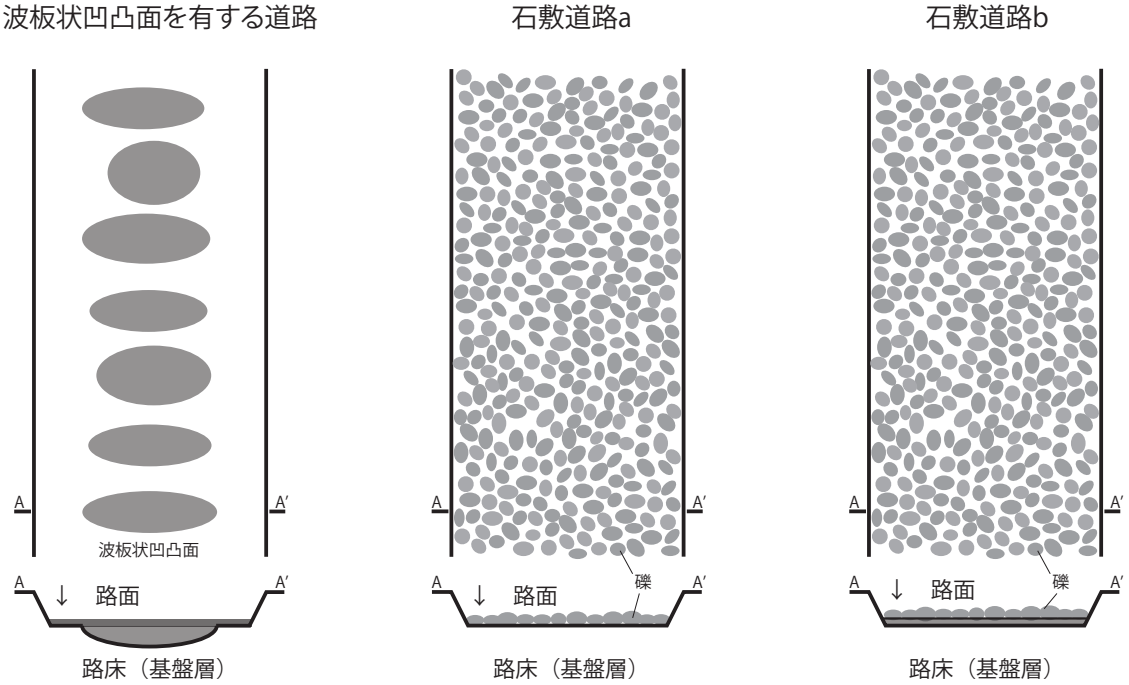
②**306 道路**　４区流路西側に配置され、278 道路と重複する。278 道路より前出し、遺存状況は不良である。検出長 5.18m、最大幅 1.09m、検出面からの深さは最大 0.06m を測る。断面皿状を呈する浅い溝底面に小礫を敷設し路面としている。

③**322 道路**　４区流路西側に等高線に直交するように配置される。711 道路と重複し、本遺構が 711 道路より後出する。検出長 2.68m、最大幅 0.6m、検出面からの深さは最大 0.1m を測る。断面皿状を呈する溝にはシルト混じり砂礫が堆積し、上面に礫を敷設する。

④**711 道路**　４区流路西側に等高線に直交するように配置される。322 道路と重複し、本遺構が 322 道路より前出する。検出長 3.03m、最大幅 0.99m、検出面からの深さは最大 0.1m を測る。断面皿状を呈する溝にはシルト混じり砂礫が堆積し、上面に礫を敷設する。

⑤**358 道路**　４区流路西側に等高線に直交するように配置される。検出長 6.64m、最大幅 2.06m、検出面からの深さは最大 0.15m を測る。断面皿状を呈する浅い溝底面に小礫を敷設し路面としている。687 道路と接続するが、本遺構が後出する可能性がある。

⑥**687 道路**　４区流路西側に等高線に直交するように配置される。検出長 2.65m、最大幅 1.08m、検出面からの深さは最大 0.1m を測る。断面皿状を呈する浅い溝底面に小礫を敷設し路面としている。358 道路と接続するが、本遺構が前出する可能性がある。



第 499 図　波板状凹凸面道路・石敷道路模式図

３　道路構造と構築方法

（１）波板状凹凸面を有する道路

①下部の様相　幅 0.9 ～ 3.3m の溝底面が波板状凹凸（底面土坑）となっている。掘り込み面は黒ボク及びローム層で確認され、底面は円形や楕円形、不整形の平面形態が基本単位となっている。51 道路、365（１区 302）・678（１区 303）道路のように、この単位が重複して改修された痕跡を示すものが認められる。凹面は連続的に穿たれる 51・52・365（１区 302）・678（１区 303）道路、やや間隔が空く 53 道路などがある。埋土は底面土坑に礫や土器片、瓦片、鉄滓などを充填し、その上部に礫やブロック土を含む砂混じりシルトが堆積する。このことから人為的な埋め戻しであることが分かる。52 道路のように埋土全体が硬化している状況が認められた。365 道路では、長軸方向の A-A'、B-B' 断面で浅い凹凸面が見られ、埋土は砂や礫混じりのシルトが堆積している。そして 365-6 ～ 19・37・38 では凹面に礫や土器片などを詰め込んでいる状況が確認できる（第 394 図）。以上の所見から、波板状凹凸面は人為的に掘削した後、砂や礫を含む土で埋め戻して路床を構築し、上部に路面を貼るという道路工法であると考えられる（第 499 図）。なお、波板状凹凸面の機能について坂本氏は、地盤改良による路床や路体の補強説を提示する（坂本 2022）。具体的には、①基盤面に凹凸を作り出して表面積を増すことで、路体のすべりに対する抵抗を増大させる、②通行によって路面に係る荷重を分散させた可能性、③排水のため、の３点である。少なくとも、本遺跡の道路遺構の路床部の埋土は共通して砂混じりシルトや砂質土であることから、③の可能性は指摘できそうである。

②上部の様相　底面は比較的良好に遺存しているが、上部は削平されたものが多い。その中で 52・365 道路は上部構造が比較的良好に残る事例である。52 道路は波板状凹凸面を含む溝の埋土上層に厚さ５cm 程度のシルトが３層堆積していた（第 279 図）。シルト層はしまりが強く、下層に比べ砂の混じりは少ない。このような状況から、本層を路面と認識し少なくとも２回改修されたものと判断した。365 道路でも 365-1 の B-B' 断面やベルト４・５で路面が確認されて１～２回路面が貼り直される状況であった（第 391・399 図）。

③道路の改修　道路機能を維持するため度重なる改修がなされるが、51・365（１区 302）・678（１区 303）道路のように路床から改修されるもの、52 道路で見られるように路床には手を付けず、路面のみの張り替えといった部分改修がなされるものが確認される。

（２）石敷道路

①底面形態と礫の敷設　黒ボク土もしくはローム層を幅 0.6 ～２m 程度、浅い溝状に掘り込み、５～ 10cm の礫を底面に直接貼り付ける 278・306・358・687 道路（第 499 図：石敷道路 a）と掘方に砂混じりシルトを充填し直上に礫を貼り付ける 711 道路（第 499 図:石敷道路 b）がある。278 道路では礫と礫の間隙には砂を充填し固定している。石敷きの機能は、①軟弱地盤部分や傾斜部における路面強化、②路面の装飾（化粧）、の２点が指摘されているが（坂本 2022）、本遺跡ではいずれも②の可能性が高い。なお、今回の調査では路床に波板状凹凸面を有し、路面に石敷きを施す道路は見られなかった。

②道路の改修　石敷道路では、路面にあたる礫のみを貼り換えている状況は確認できなかった。しかしながら、278・306 道路、358・678 道路では、それぞれ重複している状況が明らかとなっている。278・306 道路は、306 道路→ 278 道路へ付け替えがなされたことが土層の堆積状況

278道路
322 道路
711道路
322道路
226ピット
306道路
278道路
358道路
687道路
1 溝
711道路
322道路
322・711 道路
278・306・358・687 道路
0
(1:40)
1m
(1:80)
4m

第 500 図　石敷道路

から観察できた。また 278 道路も、少なくとも１回の改修がなされ、やや位置をずらしている。358・687 道路は主軸が異なり、直接的な切り合い関係は確認できなかったが、両者の礫の敷設状況から、687 道路→ 358 道路へ付け替えられたと推定される。

４　出土遺物と敷設年代

道路からの出土遺物は、①溝状の掘方埋土、②路床部の凹面（底面土坑）、③路面直上のものが確認される。51 道路では波板状凹凸面の土坑内から８～９世紀の土師器や須恵器の坏・甕、石塚廃寺で使用されたと考えられる瓦が多く出土している。このことは、寺院創建段階から一定の時間が経過して構築されたことを示す。その他鉄滓が一定量出土していることから、近くに鍛冶工房の存在を予想させる。278 道路では８～９世紀の須恵器甕、358 道路では 10 世紀の土師器坏・皿が、石敷の路面直上から出土している。流路沿いに敷設された 365・678 道路（１区 302・303 道路）では、波板状凹凸面の土坑内から８～９世紀の土師器甕や須恵器高台付坏・甕のほか、路面近くで 10 世紀の土師器が僅かながら出土する。以上の出土状況から、本遺跡での道路遺構の構築時期は８世紀代、廃絶時期は 10 世紀代と考えられる。

５　石塚廃寺と条里地割との関係

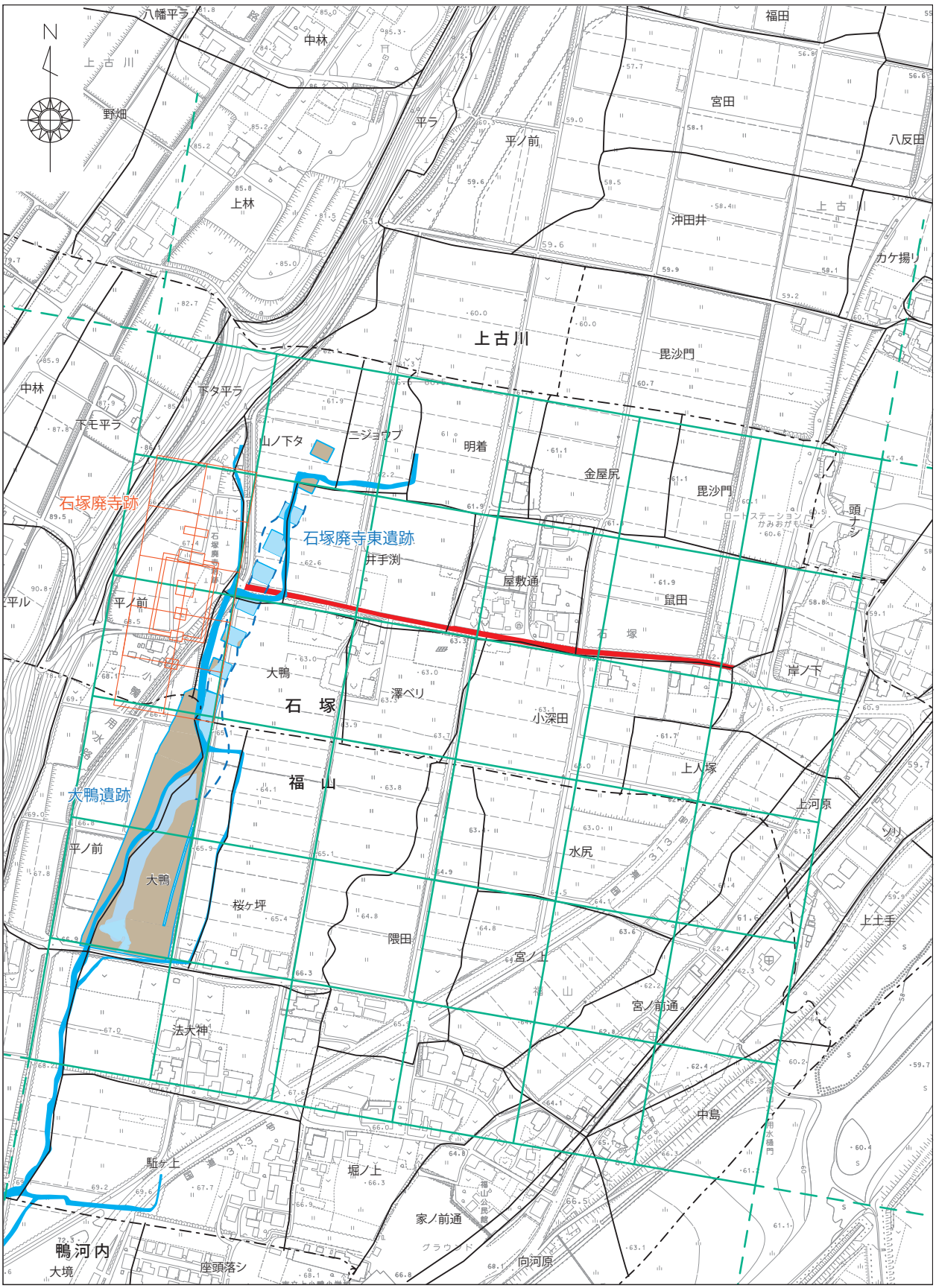
本遺跡で検出した道路遺構について石塚廃寺に伴う計画的な敷設なのか、あるいは条里地割と何らかの関係があるのか最後に検討してみたい。

（１）石塚廃寺と道路

石塚廃寺は塔・金堂・講堂と回廊状の整地土の位置関係、試掘調査の結果から、現在の四天王寺の約 70 パーセントに縮小した伽藍配置が倉吉市教育委員会により復元されている（倉吉市教育委員会 2015）。この中軸線上に南門が位置し、仮にその延長線上に道路が敷設されたとすれば３・４区で検出されるはずであるが、残念ながら本調査では確認されなかった。

ところで調査で検出された古代の建物群の主軸が、復元された石塚廃寺の中軸線よりも少し東北に振れるものが多いことがわかる（第 89 図）。これら建物群と同じ軸線に寺院の中軸線を修正したとしても、４区の南西側で道路が検出されなければならない（第 497 図）。ところが、４区では南北方向の道路は検出されず、かつ南西側には古代の流路が存在することから、軸線上に想定される道路は、いずれも流路に突き当たってしまう。このことから、①南門から南に派生する道路は、中軸線上ではなく地形に合わせて敷設された、②南門付近で東に折れ曲がり、流路を跨いで流路東で検出された 365･678 道路（１区 302･303 道路）に連結する、③南門から南に派生する道路は敷設されなかった、の３つの可能性が想定される。①であれば天神野台地寄りの西側に向きを変え道路が敷設されていた可能性がある。そして、そこから東西方向に延びる、51・52・278・306・358・687・708 道路などが連結していた可能性がある。②であれば、76 木製構造物は 365・678 道路（１区 302・303 道路）を結ぶ橋梁であった可能性が想定される。③の可能性は最も低いと考えるが、ここでは将来の課題として指摘するに留めよう。結論として、祭祀場と石塚廃寺を結ぶ 51 道路は、寺院との関連を示す道路として認定できるが、その他の道路については寺院のインフラ整備として計画的に敷設された可能性は低いと考える。

（２）条里地割と道路



推定坪区画方格線（岩永 1959 を基に作図）　旧大字界　旧小字界　流路　用水路(近現代)　条里小路　調査範囲

※旧小字界は杉本寿一 1983『幻の伯耆条里』P196,198,199 字限図を基に作図、土地改良以前の地割を復元
地形図は倉吉市都市計画図を使用
※石塚廃寺跡の中軸線を、倉吉市教育委員会復元案とは別に、条里方格線に整合させた。

0　(1:5000)　200m

第 501 図　条里地割復元図

第 501 図は石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡が位置する石塚・福山地内の条里地割を復元したものである。鳥取県内の条里地割と条里呼称法を復元している岩永實氏の復元案（岩永 1959・1976）をもとに作成したものである。岩永案の条里区画と杉本寿一氏の復元案である倉吉市域の小字界（杉本 1983）を照合すると、東西軸では条里小路の伝承のある石塚廃寺入口道や明現寺門前の通り、南北軸では「明着」「屋敷通」「澤ベリ」などが条里方格線にほぼ符合することがわかる。それを基点に復元を行ったところ、地割の方位は N-11° -E で、現況の農道も条里地割の痕跡を比較的良く残して敷設されているようである。この地割と今回検出された古代の道路を照合したところ、まず南北方向の 365・678 道路（１区 302・303 道路）は、条里地割とは無関係に流路に沿って構築されていることが分かる。次に東西方向の道路については、51・52 道路が「石塚」「福山」の旧大字界にほぼ重なるようである。興味深いのは、51 道路の延長上に祭祀場が存在することであり、その一角をなす 76 木製構造物が構築されていることである。76 木製構造物が祭祀のため水流を抑制する堤であった可能性もあるが、その堅牢な構造から橋梁であった可能性も指摘しておきたい。８世紀代に敷設された流路沿いの 365・678 道路（１区 302・303 道路）は、条里地割の影響を受けていない状況から、周辺の条里地割は９世紀以降に整備された可能性がある。

おわりに

最後に今回検出された道路の機能について推察したい。小鹿野亮氏は道路の機能について、３つの機能を提示する（小鹿野 2003）。①広域交通のための道、②条坊などの区画施設としての道、③導入路としての道である。流路沿いに南北方向に敷設される 365・678 道路（１区 302・303 道路）は、付け替えや改修の頻度の多さから重要度が高い道路であったことが窺え、伯耆国庁方面と関金方面を結ぶ主要な道路の１つであった可能性があり、①に該当しよう。一方、東西方向に延びる 278・306・358・687・708 道路は、685 道路と繋がる 358・687 道路を除き、流路の対岸（東側）ではその延長部分が確認されていない。したがって、祭祀場と寺院を結ぶ 51 道路以外は、主な目的は流路への向かうための道路、つまり③に該当するものと想定される。52・53 道路は大字界にほぼ重なる場所に位置することから、②の可能性を指摘しておきたい。

【参考文献】

岩永實 1959「鳥取県における条里地域の研究」『鳥取大学学芸紀要　人文科学編』10 巻２号

岩永實 1976「古代第１章第２節　７　条里とその遺構」『鳥取県史』第１巻原始古代編、鳥取県

近江俊秀 2006『古代国家と道路』青木書店

小鹿野亮 2003「古代道における路体施工の複合性－道路に残された痕跡の分別理解－」『九州考古学』第 78 号、九州考古学会

川部浩司 2012「波板状凹凸面からみた伯耆地域の道路遺構」『調査研究紀要』４、鳥取県埋蔵文化財センター

倉吉市教育委員会 2015「１ 石塚廃寺跡」『倉吉市内遺跡分布調査報告書 18』倉吉市文化財調査報告書第 144 集

坂本嘉和 2022「因幡・伯耆における古代道路の構造と特徴」『山陰における古代交通の研究』島根県古代文化センター研究論集第 27 集、島根県古代文化センター

杉本寿一 1983『幻の伯耆条里』

山村信榮 1993「大宰府周辺の古代官道」『九州考古学』第 68 号

第５節　中世集落と墓

はじめに

大鴨遺跡では鎌倉時代から室町時代までの掘立柱建物、耕作の痕跡、火葬墓などを調査した。これまで倉吉市内で行われてきた発掘調査でも、中世の建物や耕作地、墓についての調査成果は多い。そこで倉吉市内の古代から中世にかけての集落と墓について検討する。

１　古代から中世の集落

天神野台地は西倉吉から関金町にかけて小鴨川の西側に広がる台地である。これまでの発掘調査で台地上から東側の段丘上にかけて、古代から中世の多数の建物群を検出し、大鴨遺跡でも鎌倉時代の集落と室町時代以降の耕作地を調査した。そこで、北側約１kmの山ノ下遺跡、さらに北西約1.5kmの小鴨道祖神遺跡について、集落の変遷について検討する。

（１）大鴨遺跡

天神野台地の東側に位置する。調査地内の堆積は一部に礫を含むローム層を基盤とし、有機物を豊富に含む黒色シルト層がある。これより上は耕作で撹拌された灰褐色シルト層が重複する。調査区内のほぼ中央を自然流路が蛇行しながら北流する。流路は平安時代までは20m程の幅がある。鎌倉時代には上流で東側に向きを変えるとみられるものの、水路状の流れは維持する。鎌倉時代の掘立柱建物は、流路の東側で下層にローム層のある安定した場所に建てられている。

［**建物群Ａ**］：調査地内の南東端に位置する。掘立柱建物１～５、柵列１・２がある。総柱で塀または庇をもつ総柱建物２・３と側柱建物１・４・５が混在する。建物群の西側と北側に区画の一部とみられる溝や耕地段差がある。

掘立柱建物２は東西棟N-68°-Wの主軸をとる総柱建物である。北東側の一部に柵列があり、塀または庇とみられる。東端の柱穴からは、抜き取り痕から灯明痕のある高台付きの皿が出土した。北側に、南北棟N-13°～18°-Eの主軸をとる側柱建物１・４・５のまとまりがある。掘立柱建物３にも北西側に柵列がある。柱穴の大きさには大中小ある。掘立柱建物２は径0.34～0.49ｍと大型で、掘り方には石を込めたものもある。掘立柱建物３・４は径0.17～0.44ｍの中型、掘立柱建物１・５は径0.11～0.34ｍと小型である。建物の形状や規模、重複などから変遷をみると、①掘立柱建物１・４・５の側建物群から、①・②総柱で柵列をもつ掘立柱建物３、③総柱で柵列をもつ掘立柱建物２となり、出土遺物をみると、②は13世紀後半まで、③は13世紀末から14世紀である。

［**建物群Ｂ**］：大鴨遺跡１区から約30ｍ北側の建物群。掘立柱建物24～26がある。建物の主軸は南北棟の建物がN-13°-E、東西棟の建物がN-73°-Wである。いずれも側柱建物である。柱穴の大きさは、掘立柱建物24・25が径0.16～0.47ｍの中型、掘立柱建物26が径0.16～0.22ｍの小型である。建物の間隔は狭いものの主軸が揃うことから、ほぼ同時期に機能した建物群と考えられる。

［**その他の建物・耕作痕跡**］

古代流路の西側に掘立柱建物23、調査区の北西側に掘立柱建物13・14、50土坑がある。天神野台地の東際にも中世の集落があると考えられる。

掘立柱建物群が廃絶した後、室町時代以降には古代流路が堆積した後は耕地化する。調査区の南東側は田として使用され、Ⅲ層（黒ボク）の上面には鉄分が沈着し、素掘り小溝群や（擬似）畦畔を検

出した。畦畔には、削り出し畦畔、鉄分の沈着した擬似畦畔、鉄分を全く含まない帯状の範囲、耕地段差がある。調査区の北西側も黒ボクに由来するⅡｂ層上面に耕作溝群があり、田として使用されていた。また古代流路の堆積土上面で、人や偶蹄目の足跡を多数検出した。プラント・オパール分析（第５章第５節）では、流路の堆積直後は湿地の状態で、耕作の行われていた可能性は低いとの結果である。足跡の埋土から出土した炭化物の年代測定の結果（第５章第５節）では、16 世紀から 17 世紀にかけての年代が示された。これはⅠｂ層に含まれる中世前期の土師器や瓦質土器、貿易陶磁器の年代とも矛盾しない。２流路の上面が耕地化したのは中世後期以降と考えられる。

（２）小鴨道祖神遺跡

飛鳥時代から平安時代にかけての集落跡である。竪穴建物を含め､飛鳥時代の建物群を①グループ､奈良時代の建物群を②グループとしている。ここでは平安時代、９世紀と報告されている掘立柱建物のみで構成している③グループを検討する。

第 502 図　大鴨遺跡

規模の確認できる平安期の掘立柱建物は５棟である。南北棟の側柱建物である。最も大きな掘立柱建物 33 は複数回建て替えている。それ以外の建物の大きさはほぼ同程度である。

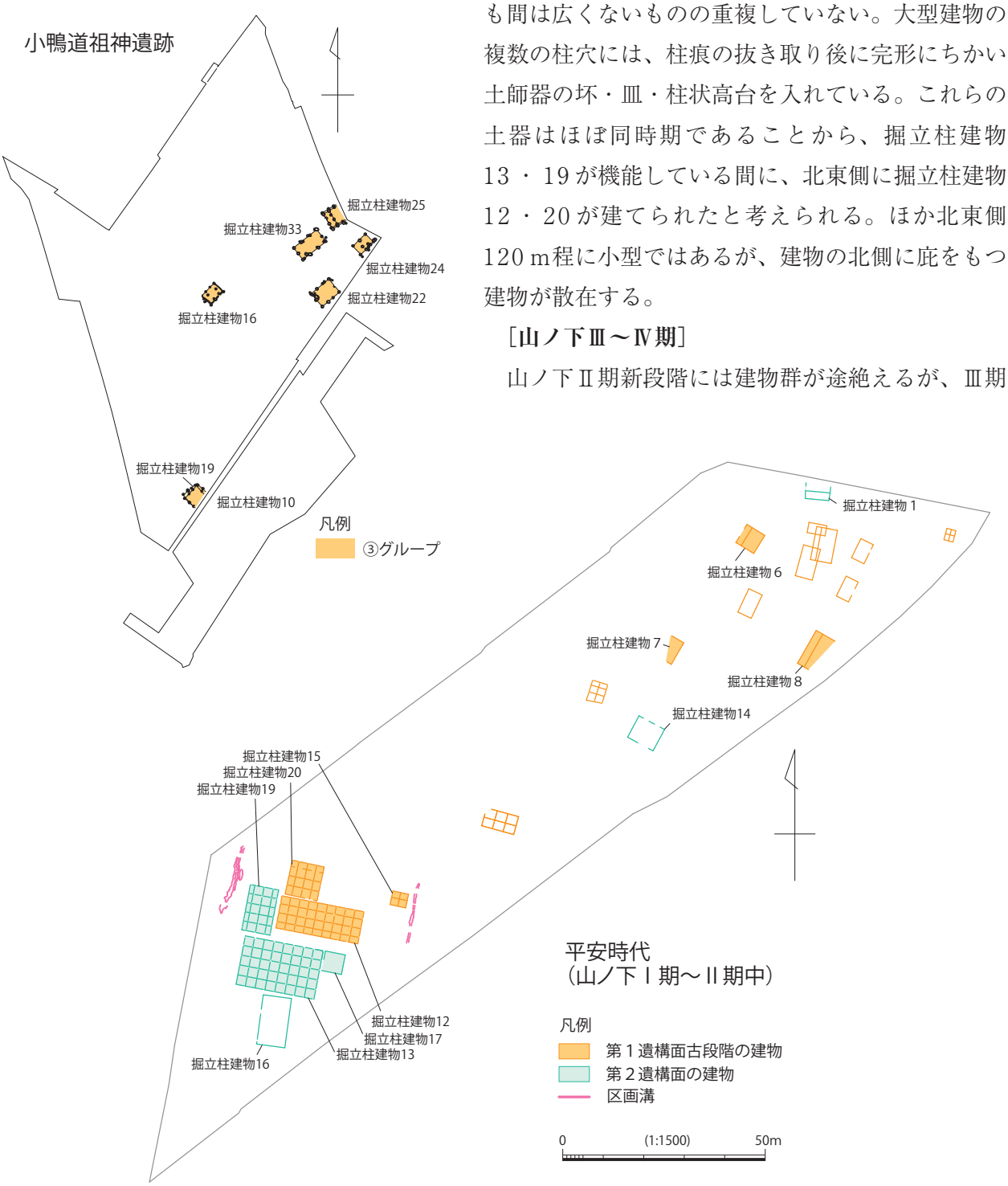
（３）山ノ下遺跡

［山ノ下Ⅰ期中～Ⅱ期中段階］

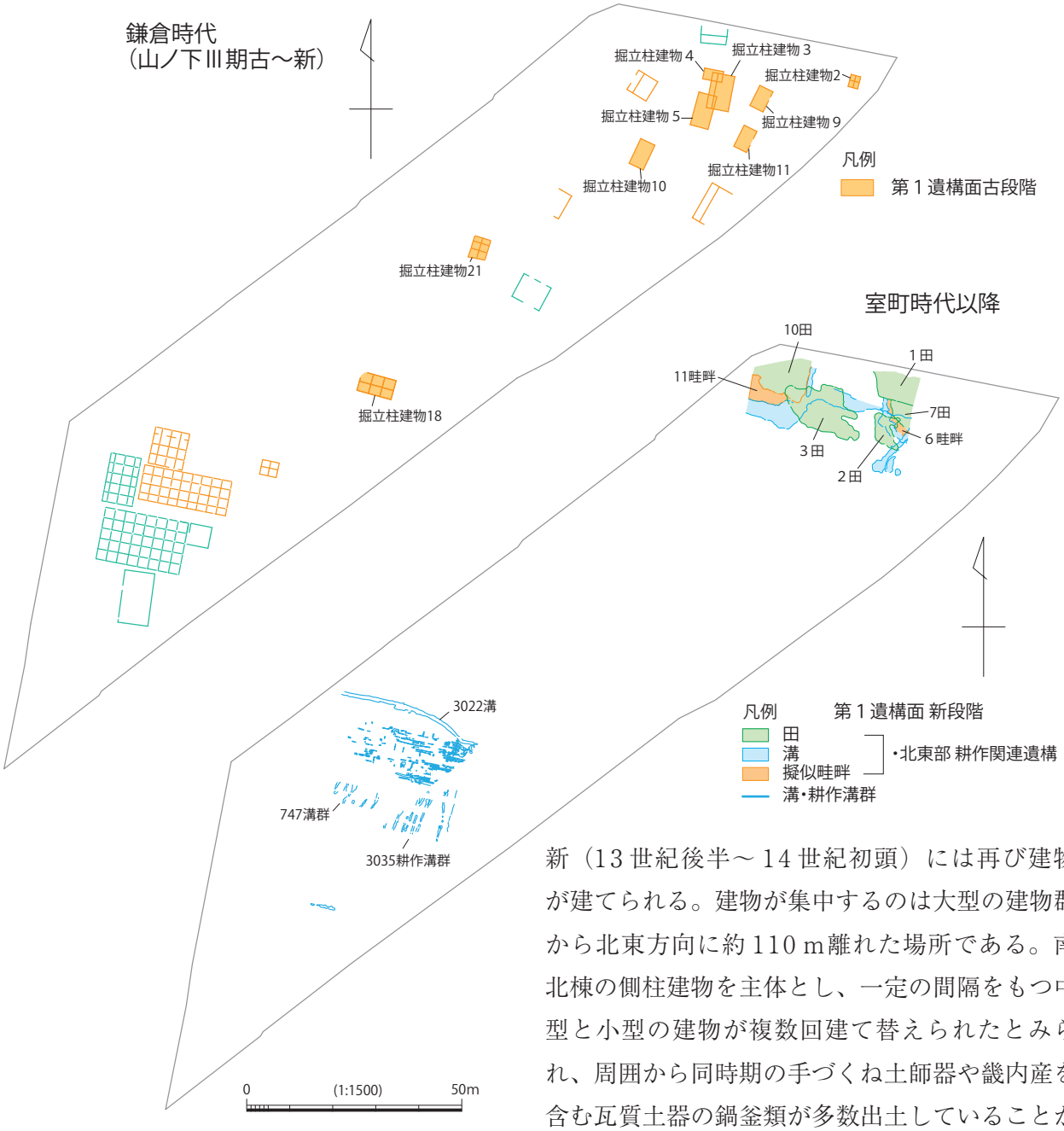
平安時代後期に半町程の区画の中に中心となる大型建物 13・19 と北東側に隣接する建物 12・20 が建てられ、Ⅱ期中段階（12 世紀中葉～後半）にかけて変遷する。いずれも総柱建物である。大型建物は東西棟で、南側に空間をもつ。いずれの建物も間は広くないものの重複していない。大型建物の複数の柱穴には、柱痕の抜き取り後に完形にちかい土師器の坏・皿・柱状高台を入れている。これらの土器はほぼ同時期であることから、掘立柱建物 13・19 が機能している間に、北東側に掘立柱建物 12・20 が建てられたと考えられる。ほか北東側 120 m程に小型ではあるが、建物の北側に庇をもつ建物が散在する。

［山ノ下Ⅲ～Ⅳ期］

山ノ下Ⅱ期新段階には建物群が途絶えるが、Ⅲ期



第 503 図　小鴨道祖神遺跡・山ノ下遺跡（１）



第 504 図　山ノ下遺跡（２）

新（13 世紀後半～ 14 世紀初頭）には再び建物が建てられる。建物が集中するのは大型の建物群から北東方向に約 110 m離れた場所である。南北棟の側柱建物を主体とし、一定の間隔をもつ中型と小型の建物が複数回建て替えられたとみられ、周囲から同時期の手づくね土師器や畿内産を含む瓦質土器の鍋釜類が多数出土していることから、建物群の本体は西側の台地際に展開すると推測できる。

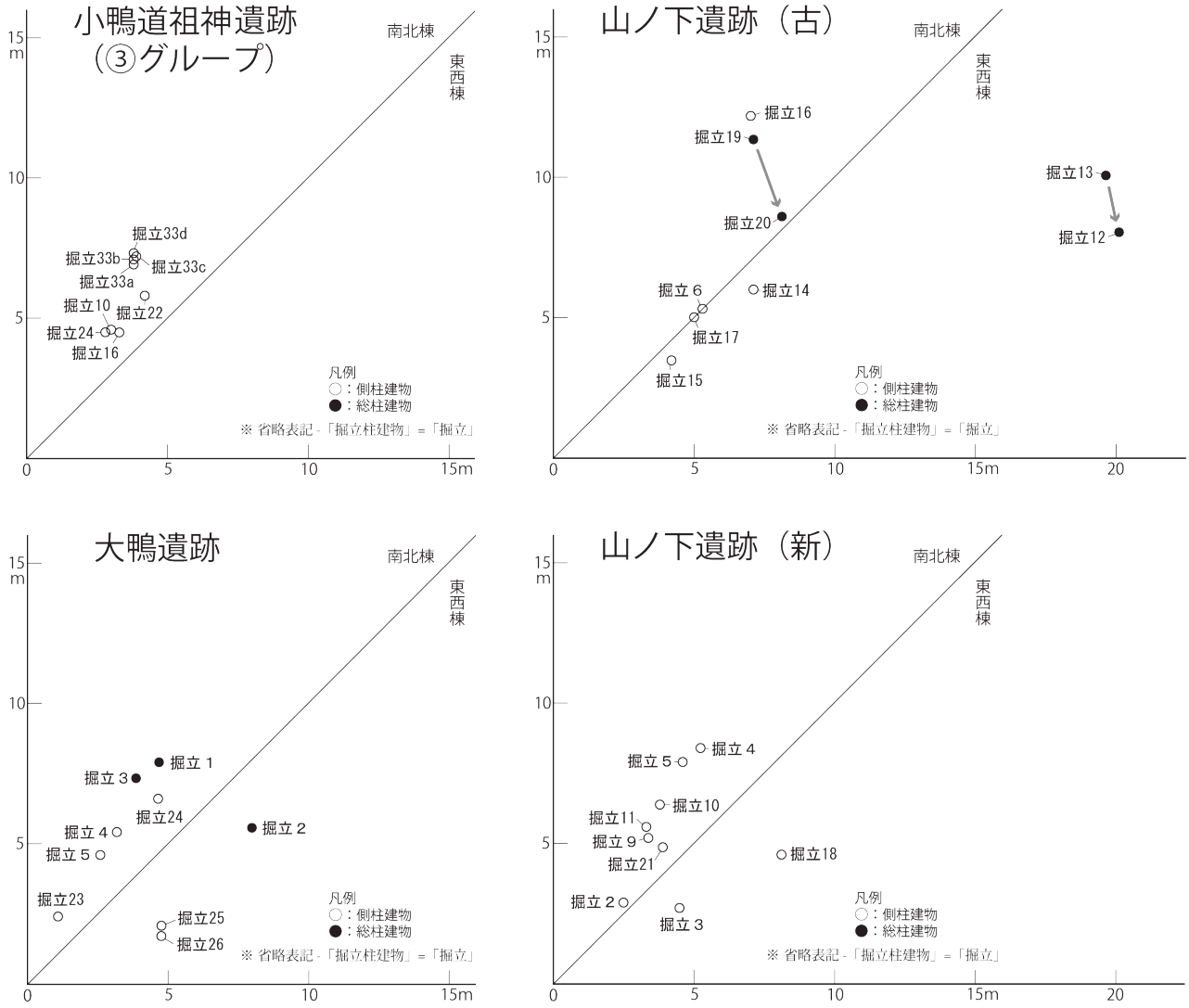
［室町時代以降］

大型建物の周辺は、北東側の建物群周辺では、田・溝・擬似畦畔・耕作溝などが検出されており、建物群の後、中世後期以降は耕地化する。

（４）小括

天神野台地の東側には、古代から中世の集落が散在する。古代には台地の東側傾斜地に位置するが、中世になり、台地の際を北流する流路の幅が縮小すると、流路の際の安定した地盤の上に集落が展開する。はじめは小型の側柱建物数棟が単位となるが、鎌倉時代にはやや大型の建物（主屋）と付属の建物数棟を単位とし、隣の建物群とは一定の距離を維持していたようである。

大鴨遺跡も山ノ下遺跡も室町時代以降の建物はなく、田の畦畔や小溝群、足跡などの耕作痕跡が検



第 505 図　掘立柱建物の規模

出されている。周辺を含めてこの時期の建物の調査例はなく、近世以降には集村化が進むことから、中世末頃には、現在の集落域へ移動したと考えられる。

２　中世の墓

大鴨遺跡では２基の火葬墓を調査した。これまでに倉吉市内では墳丘や区画溝をもつ墓や石造物が多数確認され、古代から中世、近世に至るまでの墓が調査されてきた。そこで倉吉市内における中世墓の変遷について、大鴨遺跡の調査成果を加えた検討を行う。

（１）土葬墓と火葬墓

［**土葬墓**］

中尾遺跡の第２次調査（倉吉市教育委員会 2017）で、土葬墓が確認されている。平面隅丸長方形、主軸は N-82° -E、長軸約 1.22 m、短軸約 0.67 m以上、検出面からの深さは最大で 0.41 mである。頭位付近とみられる墓壙の東側に土師器の小皿２点と刀１点が副葬されている。

不入岡遺跡群（倉吉市教育委員会 1996）のＳＸ 11 は土葬墓で、平面楕円形で主軸は南北方向、長軸 1.16 m、短軸 0.62 m、検出面からの深さは 0.1 m、頭位は北である。ほぼ中央から須恵器の壺が出土している。

福本家ノ上古墓（倉吉市教育委員会1993）で木棺墓が調査されている。南北方向に３基並んで検出され、中央の１号墓には基壇をもつ。北側の２号古墓は平面長方形、主軸は東西方向、長軸1.2ｍ、短軸0.6ｍである。礫が集中している。

小鴨道祖神遺跡（倉吉市教育委員会2017b）で土葬墓が調査されている。鉄釘の出土位置から木棺を復元している。平面隅丸方形で、西側の主軸はN-37.5°-E、長軸1.03ｍ、短軸0.81ｍ、検出面からの深さは0.28ｍである。土師器の皿、銭貨、数珠を副葬している。副葬品に数珠を含む例は、長瀬高浜遺跡SX'09がある（財団法人鳥取県教育文化財団1981）。

伯耆国府関連遺跡古神宮地区（倉吉市教育委員会2011）では近世の土葬墓が調査されている。平面が方形で西側の幅がやや広い。一辺0.9ｍ、検出面からの深さは0.87ｍである。６枚の寛永通宝を副葬する。

［**火葬墓**］

下西野遺跡（倉吉市教育委員会1997）で火葬墓が調査されている。平面長方形、主軸はほぼ東西方向、長軸1.37ｍ、短軸0.72ｍである。検出面からの深さは0.48ｍで、火葬墓としては掘方が深い。焼土面の上に礫、礫の西側から鉄刀が茎側を西にして出土した。

不入岡遺跡群（倉吉市教育委員会1996）で火葬墓が調査されている。ＳＸ08は平面長方形、主軸は南北方向、長軸0.86ｍ、短軸0.60ｍ、検出面からの深さは0.17ｍである。ＳＸ26は平面長方形、主軸は不明、長軸1.20ｍ、短軸0.84ｍ、検出面からの深さは0.18ｍである。ＳＸ122の平面形は不明、主軸は南北方向、長軸内法0.59ｍ、短軸内法0.36ｍ、検出面からの深さ0.15ｍである。いずれも出土遺物はない。

不入岡遺跡群では火葬墓を３種類に分類している。１類はＳＸ26のように土壙で荼毘に付したもの、２類はＳＸ08のような土壙の底部に自然石や五輪塔を敷きつめ、その上で荼毘に付したもの、３類はＳＸ122のように土壙の底面と側面を平石で囲って石棺状にして荼毘に付したものである。

湯梨浜町の長瀬高浜遺跡は倉吉市内を流れる天神川の下流、河口から１km程遡った位置にある砂丘遺跡である。ここは上流からの流れが東偏する突き当りにあり、遺体を葬るための中世墓が数多く調査されている。長瀬高浜遺跡Ⅱ（財団法人鳥取県教育文化財団1979）では、火葬墓を石材未使用のＡ：炭片・焼灰混入土壙とＢ：骨片・炭片・焼灰混入土壙、石材使用のＣ：平面的配石土壙とＤ：石櫃状配石土壙、その他のＥ：骨片のみ出土土壙に分類している。

大鴨遺跡の８火葬墓は僅かに掘り窪めた場所に頭位を北、顔を西に向けて屈葬し、そのまま火葬された人骨である。頭部付近に土師器の皿を副葬する。平面形は不整な楕円形、主軸はN-15°-E、規模は長軸1.14ｍ、短軸0.70ｍ、検出面からの深さは0.08ｍである。

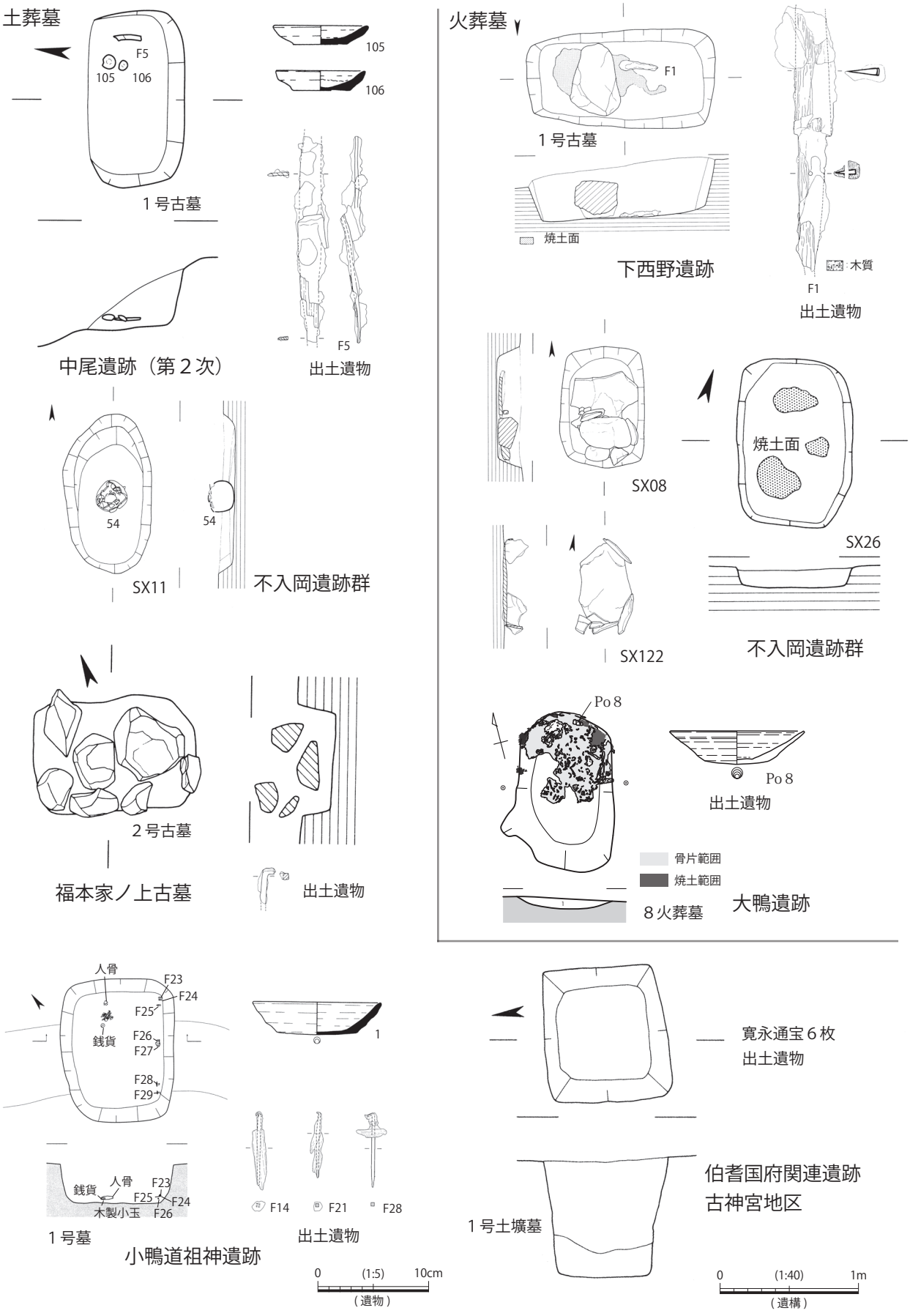
頭骨の東隣から、土師器の皿Po8が出土した。おおよそＣⅤ期、15世紀中葉～後半の所産である。火葬の際に燃料として使用された炭化木の放射性炭素年代測定（試料29）を行った。暦年代は15世紀の後半から16世紀第１四半期まで、隣接する15火葬墓も同時期である。

（２）盛土墓と区画墓

鳥取市の湖山池周辺には、埋葬後にマウンドを形成する盛土墓と周囲を溝で区画する区画墓がある。いずれも15～16世紀に多くみられる葬法（八峠2016・2017）である。

［**盛土墓**］

打塚遺跡（倉吉市教育委員会1984）で土壇状の盛土が調査されている。墳丘状の高まりを構築す



第 506 図　倉吉市内の土葬墓と火葬墓

る際に周囲を土手状に盛り上げて形成した中央の方形の窪みに灰を入れ、土器や鉄製品等を包含する黒色土で覆う。盛土を成形した後に北方向の傾斜部の一部に集石を行う。埋葬施設は検出していない。灰には人骨を含まないとする自然科学分析と考古学的な解釈は一致していない（倉吉市教育委員会1984）。

盛土は古墳を構築する際に土手状盛土を配し、その内側に土手状盛土と同じ高さまで盛土をする「西日本的工法」（青木2017）に類似する。この工法は青谷横木遺跡の古代山陰道の基礎部分を構築する際に行われた、道路両端に盛土し、その間に盛土を行う工法（鳥取県埋蔵文化財センター2018）と共通する。また、伯耆国庁の北側を古代山陰道が通る（下江2020）のであれば、墳丘の北方向に集石がある点も理解できる。

出土した土器は土師器坏と高い高台の坏、柱状高台で、いずれも破片である。10世紀後葉から11世紀中葉（ＣⅠ期）の所産である。土器の出土状況は、古代末から中世前期にみられる「使用した土師器を壊して廃棄する」行為と共通するようにもみえる。

不入岡遺跡（倉吉市教育委員会1995）の３号墳墓は周囲の溝と墳丘をもつ。土層断面をみると周囲の溝で掘り上げた土で周囲を土手状に囲み、中央の窪みに盛土している。上部中央の埋葬施設は盗掘を受け、頂部の五輪塔は周囲の溝に転落した状態で出土している。

福本家ノ上古墓（倉吉市教育委員会1993）の１号古墓で、石囲いをもつとみられる木棺墓が調査されている。石囲いの中央やや西側に五輪塔が崩れた状態で出土している。

［**区画墓**］

不入岡遺跡群（倉吉市教育委員会1996）で周囲に一辺3.8ｍで三方向を溝状に区画する。盛土の有無は不明瞭である。中央に蔵骨器をもつ墓が検出されている。

下西野遺跡では不規則な「鍵状」の区画をもつ中世墓が確認されている。不規則な区画としては、鳥取市の徳尾遺跡群（鳥取県教育委員会1985）には「呂」の字状の区画をもつ中世墓がある。南側の区画中央に木棺とみられる墓壙をもつ。

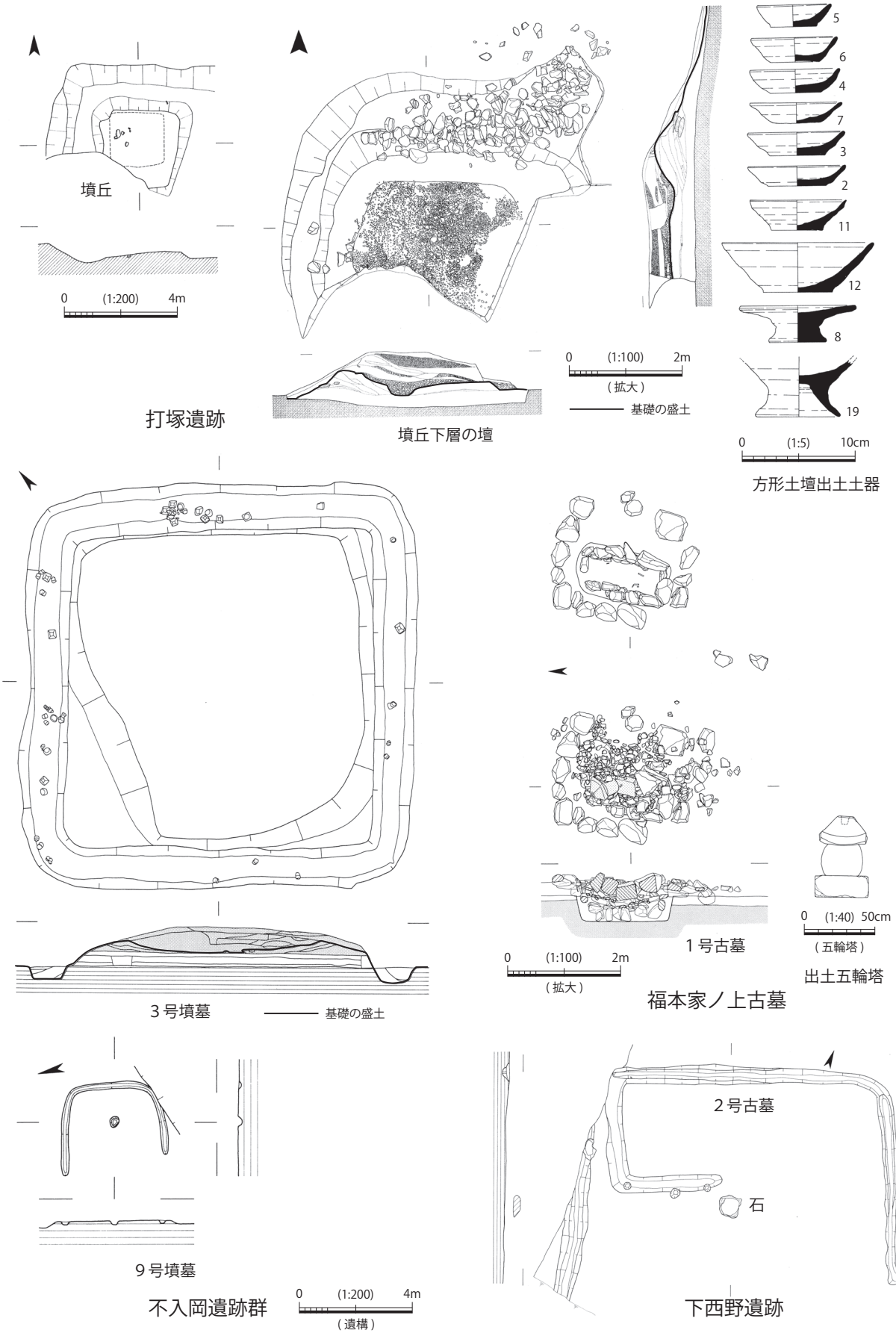
（３）変遷

［**土葬墓**］

平安時代末から近世まで、古い順に配置した（第506図）。中尾遺跡の土葬墓には土師器皿と刀が副葬される。土師器皿は口径が８～９cmで口縁部がやや内湾していることからＣⅡ期のうち、12世紀前半の所産である。不入岡遺跡群の土葬墓ＳＸ11は中世とみられる須恵器の甕を副葬する。時期はＣⅡ～Ⅲ期、12～13世紀とみられる。この時期の墓壙の平面形は長方形または楕円形である。福本家ノ上古墓の２号古墓からは礫と鉄釘のみ出土している。鉄釘の形状は頭部がＬ字状で、小鴨道祖神遺跡よりも古い。墓壙の平面形は長方形ではあるが、より正方形に近い。ＣⅣ期からＣⅤ期、14～15世紀とみられる。小鴨道祖神遺跡は土葬墓で、釘の形状は鳥取市の布勢墳墓群で出土しているものと類似する。墓壙の平面形が正方形にちかいこと、土師器の坏の形状や銭貨から、近世以前の16世紀後半と考えられる。伯耆国府関連遺跡古神宮地区の１号土壙墓は、副葬品に寛永通宝があることから近世墓である。平面形はほぼ正方形である。

［**火葬墓**］

確実な時期は不明瞭ではあるが、墓壙の形状などから古い順に配置した（第506図）。下西野遺跡



第 507 図　倉吉市内の盛土墓と区画墓

１号古墓は平面形が長方形で掘方が深いことから12～13世紀の火葬墓か。不入岡遺跡群のＳＸ08・26・122の平面形は福本家ノ上古墓の２号古墓と共通する。14～15世紀か。大鴨遺跡の８火葬墓は15世紀中葉～後半である。時期が下ると礫や板石を多用し、掘方も浅くなる傾向が認められる。

［盛土墓・区画墓］

盛土墓は平安時代から鎌倉・室町時代まで続く。打塚遺跡を除き盛土後に墓壙を掘削する。因幡地域の松原小奥遺跡に類例があるが、それ以外は墓壙を盛土で覆う（八峠2016・2017）。

区画墓は倉吉のほか、室町時代に因幡の守護所が所在した布勢天神山城周辺にあり、「呂」の字状の溝をもつ徳尾遺跡群の１号墳（中世墳墓）がある（鳥取県教育委員会1985）。倉吉でみられる区画墓のように埋葬施設をもつものがある。区画の中央に蔵骨器をもつ不入岡遺跡群９号墳墓や、下西野２号古墓のように墓壙が不明瞭な例もある。

（４）小括

平安時代末から鎌倉時代までの墓は、土葬墓も火葬墓も楕円形または長方形で、掘方は深い。盛土墓には火葬した骨を入れる特殊な葬法がある。土葬墓には土師器の皿や刀、中世須恵器の甕を副葬する。鎌倉時代の火葬墓は土壙の中で火葬する方法と石囲いを用いる方法がある。不入岡遺跡と長瀬高浜遺跡は同じ天神川水系であり、埋葬方法にも共通する点が多い。室町時代から近世にかけて土葬墓の掘方は方形にちかくなる。副葬品は土師器皿や銭貨がある。近世には土葬が主体となる。掘方は規格的な方形となり、銭貨が入れられる。区画墓や盛土墓など、上位の埋葬方法は、盛土に墓壙を掘削するほか、石組や石塔を建てるものもあるが、次第に盛土が省略されて区画を主体とする。こうした葬法は伯耆でも国庁周辺に多く、中世でも特別な地域であることがうかがえる。

【引用・参考文献】

青木敬2017『土木技術の古代史』歴史文化ライブラリー453、吉川弘文館

倉吉市教育委員会（発行年順）1984『打塚遺跡発掘調査報告』、1993『福本家ノ上古墓発掘調査報告書』、1995『不入岡遺跡群発掘調査概報』、1996『不入岡遺跡群発掘調査報告書』、1997『下西野遺跡発掘調査報告書』、2011『伯耆国府関連遺跡　古神宮地区　第３次発掘調査報告書』、2017a『中尾遺跡第２次発掘調査報告書』、2017b『小鴨道祖神遺跡発掘調査報告書』

公益財団法人鳥取県教育文化財団2020『小鴨道祖神遺跡』

公益財団法人鳥取県教育文化財団2018『山ノ下遺跡・平ノ前遺跡』

公益財団法人鳥取県教育文化財団2021『山ノ下遺跡Ⅱ・平ノ前遺跡Ⅱ』

財団法人鳥取県教育文化財団1979『長瀬高浜遺跡Ⅱ』

財団法人鳥取県教育文化財団1981『長瀬高浜遺跡Ⅲ』

下江健太2020「鳥取県内の古代山陰道に関わる諸問題」『調査研究紀要』11、鳥取県埋蔵文化財センター

鳥取県教育委員会1985『徳尾遺跡群発掘調査報告書』

鳥取県埋蔵文化財センター2018『青谷横木遺跡Ⅲ』

八峠興2016「鳥取・湖山池周辺の中世墓群について（上）－布勢地域－」『鳥取地域史研究』第18号、鳥取地域史研究会

八峠興2017「鳥取・湖山池周辺の中世墓群について（下）－桂見・西桂見・湖山地域ほか－」『鳥取地域史研究』第19号、鳥取地域史研究会

第６節　総括

令和２・３年度の２箇年にわたり実施した石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡の主な発掘調査の成果についてまとめる。

第１項　石塚廃寺東遺跡の調査成果

令和２年度にＰ１区からＰ８区の８箇所の調査を実施した。発掘調査面積は1,988㎡である。本調査により、古代寺院の石塚廃寺の東に流路が存在していることが初めて確認され、流路が寺域東を画することが明らかとなった。この流路は遺跡の北東約１kmの平ノ前遺跡でも確認されていることから、天神野台地崖下に沿って少なくとも12世紀代までは流下している。以下、主な遺構と遺物の概要を述べる。

（１）遺構

流路　Ｐ１区からＰ６区までは隣接する大鴨遺跡から続く古代の流路（１～３・７・８・11・14・17・18流路）が検出された。流路の規模は、いずれも調査区外に及ぶため全容は不明であるが、大鴨遺跡で検出された流路幅から推測すると20～30ｍ、深さ1.0～1.5ｍを測る。時期は少なくとも縄文時代に遡ると考えられ、流路筋を変えながら13世紀には埋没する。Ｐ７・８区では確認されず、Ｐ６区から天神野台地寄りの西側もしくは東側に逸れるようである。

溝　圃場整備以前の近現代の用水路がＰ１・３・５～７区で検出されている（１溝）。上限時期は不明であるが、周辺住民への聞き取りによると少なくとも戦前には存在し、昭和30～40年代の圃場整備の際に埋め戻されている。Ｐ３区では多量の古代瓦及び中世の鋳造関連遺物が出土しているが、圃場整備の際、石塚廃寺東側の新用水路（小鴨川用水路）開削に伴う掘削土が１溝に埋められ、混入したものと推測される。１溝はクランク状に屈折している地点が数箇所認められ、圃場整備前の条里地割が反映されたものと考えられる（第501図）。その他、自然科学分析の結果から、中世の農業用の用水路と想定される溝がＰ５区（２・６溝）、Ｐ６区（２溝）で確認されている。Ｐ８区でも埋土に砂礫が堆積する時期不明の２溝が検出されており、用水路の可能性がある。

掘立柱建物　Ｐ７区では古代と中世の掘立柱建物２棟（掘立柱建物１・２）が検出されている。いずれも調査区外にかかるため全容は不明であるが、古代から中世の集落が調査区外に散在していたと想定される。同様に、天神野台地崖下に立地する中世の集落として、平ノ前遺跡Ｐ４区、山ノ下遺跡が挙げられる。

（２）遺物

遺物は主に古代の流路や近現代の用水路である溝などから、縄文時代から中世後期に至る土器、石器、古代瓦、木器、鋳造関連遺物などが出土した。

土器　縄文時代の押型文土器（高山寺式）がＰ４区流路で摩滅した状態で出土している。その他、弥生土器甕・高坏、古墳時代の土師器甕、古代の土師器坏・皿・甕、須恵器坏・壺・甕・提瓶、ミニチュア土器、中世の土師器皿、瓦質土器鍋・鉢、貿易陶磁器（青磁・白磁碗、朝鮮陶器皿）、国産陶

器（瀬戸美濃焼皿）などがある。Ｐ８区では 13 世紀代の京都系土師器がやや目立つ。

石器　Ｐ２区で弥生時代の石庖丁、Ｐ３区で砥石、中世の五輪塔、Ｐ７区では石鏃や剥片が出土している。

古代瓦　石塚廃寺に由来すると考えられる古代の瓦がＰ３区を中心に 5,300 点余り出土した。軒丸・軒平瓦の内訳は前者 48 点、後者 34 点である。遺存状態は流路や近現代の用水路（１溝）から出土しているため、全体的に摩滅しており不良である。全点の凸面調整の観察を行ったところ、ナデ 64.8％、格子叩き 17.6％、縄目叩き 13.3％、カキメ状 4.3％、不明 41％である。倉吉市教育委員会による分類の対応関係では、軒丸瓦はⅠ類 21 点、Ⅱ類 16 点、Ⅲ類なし、不明 11 点である。軒平瓦はⅠ類 21 点、Ⅱ類４点、Ⅲ類４点、Ⅳ類４点、不明１点が確認されている。なお、Ｐ２区から比較的遺存状態が良い軒丸瓦Ⅱ類と軒平瓦Ⅳ類が出土している。

木器　建築部材や角棒材などが石塚廃寺に隣接するＰ２区を中心に出土している。木製祭祀具は総じて少なく、その可能性のあるものがＰ２・６区の流路で３点みられる。その他、Ｐ１区で曲物底板１点、Ｐ２・３・５・６区で漆器椀が５点出土している。このうち、Ｐ３区から出土した W17 は、漆層が塗り重ねられており、赤色漆に朱漆が使用されている点で上質の作りとなっている。

鋳造関連遺物　Ｐ３区の近現代の用水路である１溝を中心に鋳造関連遺物が 148 点（総重量 14.109kg）出土している。すべて溶解炉の炉壁であり、円筒形の甑炉を復元することができる。炉壁内面に噛み込んだ木炭６点の放射性炭素年代測定の結果では、１点を除き 15 ～ 17 世紀の年代を示し、石塚廃寺に付属する鋳造工房に伴う資料の可能性は低い。

第２項　大鴨遺跡の調査成果

令和２年度は１～３区、令和３年度は４区（北・南・南東区）の調査を実施した。発掘調査面積は、13,155.7㎡である。本調査により、弥生時代中期から中世後期に至る集落が断続的に変遷していることが明らかとなり、古代寺院である石塚廃寺と関連性を有する古代の道路と祭祀場が発見されたことは特に注目される。具体的には、奈良時代の木製祭祀具や建築部材が大量に投棄された祭祀場と石塚廃寺を繋ぐ道路が発見されたことにより、寺院による律令的祭祀が執り行われていたことが確認されたことである。また流路が埋没した鎌倉時代から、集落が新たに出現して室町時代以降に耕作地化する様相が水田・足跡群・耕作痕などから確認されたことも大きな調査成果の１つとなった。以下、主な遺構と遺物の概要を述べる。

（１）遺構

流路　１・２・４区で石塚廃寺東遺跡に繋がる古代の流路を検出した。３区では流路が東に蛇行するため確認できていない。流路は幅 20 ～ 30 ｍ、深さは１～ 1.5 ｍを測り、時代の変遷によって川筋が幾筋にも分かれている。この流路西壁にほぼ沿う形で近現代の用水路である１溝が開削されている。

竪穴建物　３・４区で古墳時代前期の竪穴建物２棟（竪穴建物３・４）、飛鳥時代から奈良時代の竪穴建物４棟（竪穴建物１・２・５・６）が検出されている。竪穴建物４では壁際に重量 46.9kgの粘土塊が、竪穴建物５では山陰地方２例目の発見となる「環状把手」「中空体部」の土製支脚が出土

した。

掘立柱建物　４区で古墳時代前期の掘立柱建物２棟（掘立柱建物 15・16）、２～４区で飛鳥時代から奈良時代の掘立柱建物 12 棟（掘立柱建物６～ 12・18 ～ 22）、平安時代の掘立柱建物１棟（掘立柱建物 17）、１・３・４区で鎌倉時代の掘立柱建物 11 棟（掘立柱建物１～５・13・14・23 ～ 26）が検出されている。４区北区で検出された建物群は、調査区外にかかるため全容は不明なものが多い。古代の建物群は流路西側、とくに３～４区北区にまとまり、中世の建物群は流路東側の１・４区南区に集中する。ただし、流路西側にも僅かながら散在する。

道路　道路の分布は古代の流路西側に位置するものと、東側に位置するものがある。西側に位置するものは、流路岸に向かって敷設されており、緩斜面に立地する 51 道路、ほぼ平坦面に位置する 52 ～ 53・278・322・358・687・708・711 道路に分かれる。東側は古代流路に並走する 365（１区 302）・678（１区 303）道路と流路岸に向かう 685 道路がある。大きく捉えれば流路西側は東西方向、東側は南北方向に構築された道路が立地する。その構造は波板状凹凸面を有する道路と石敷道路があり、石敷道路は流路西側にのみ存在する。波板状凹凸面を有する 51 道路は石塚廃寺と水辺の祭祀場を繋ぐ道路として重要である。

水辺の祭祀場　２区の流路岸において約３～４m の至近距離に 76 木製構造物と 171 木製祭祀具集中部が位置する。76 木製構造物は長さ４m、高さ 0.27m、幅 2.5m を測り、盛土とそれを補強する矢板・粗朶などからなる。盛土内は加工木や自然木のほかに、木製祭祀具 39 点（斎串 31、刀形２、刀子形１、馬形１、不明形代４）やイネ・トチノミなどの種子も出土している。171 木製祭祀具集中部は 3.0 ～ 3.5m の範囲に建築部材や主に木製祭祀具が多量に出土した。木製祭祀具は 66 点（斎串 55、人形１、武器形１、馬形４、不明形代４、ささら子状木製品１）で、モモ・クルミ・トチノミなどの種子も確認されている。斎串は束となって廃棄されており、その脇に径 0.3 ～ 0.4m の円形の窪みが存在し、内部で樹皮を内側に向けて斜めに立てた状態で検出されている。このことから、この窪みは祭祀に関わる井泉遺構の可能性が推測されるが、引き続き検討の余地を残す。川上側に 76 木製構造物が、川下側に 171 木製祭祀具集中部が位置することから、祭祀行為のため水流を制御する目的から 76 木製構造物が設置された可能性があるが、上記のように堅牢な造りであること、51 道路の延長上に位置することから橋梁の一部である可能性も仮説として提示しておきたい。なお、76 木製構造物と 171 木製祭祀具集中部の樹皮付き枝の年代測定を行ったところ、両者とも８世紀代の年代値が得られている。

土坑　３区では方形で張り出し部を有する鎌倉時代の土坑１基（50 土坑）が検出されている。柱穴などは検出されず、礫と共に土師器皿、甕、白磁などが廃棄されていた。柱穴やピットなどが見つかっていないため、本来の機能は不明であるが、最終的にはゴミ穴となっている。

水田・足跡群・耕作痕　４区南区の流路東側を中心に室町時代から近世初頭の 10 枚の水田を、４区北区を中心として流路堆積土上面より足跡群を 10 箇所検出した。人や偶蹄目の足跡で、足跡の埋土の放射性炭素年代測定の結果、16 ～ 17 世紀にかけての年代が示されている。４区北西の流路西側で耕作痕が多数検出されており、中世以降の畑作の痕跡の可能性がある。以上より、鎌倉時代の集落廃絶後、室町時代以降に耕地化が進んだことが明らかとなった。

火葬墓　１区で室町時代の火葬墓２基（８・15 火葬墓）が検出されている。８火葬墓は僅かに掘り窪めた場所に頭位を北、顔を西に向けて屈葬し、そのまま火葬した人骨が出土している。

（２）遺物

土器　縄文時代の突帯文土器が３区の包含層から出土している。その他、弥生土器甕・壺・高坏、古墳時代の土師器甕・高坏・小型丸底壺、古代の土師器坏・皿・甕、須恵器坏・壺・甕、中世の土師器皿・柱状高台は流路西側を中心に遺構や包含層から各地区で出土する。瓦質土器鍋・羽釜・火鉢、備前焼大甕・壺・擂鉢、越前焼甕、国産陶器では唐津焼埦・皿、古瀬戸焼壺、瀬戸美濃焼皿、緑釉陶器、天目碗などは流路東側の鎌倉時代の屋敷地や耕作地で出土する傾向が強い。貿易陶磁器は総数55点、内訳は白磁34点、青磁19点、青白磁１点、朝鮮陶器１点である。分布は、同じく鎌倉時代の屋敷地や室町時代の耕作地が広がる１・４区南の流路東側に集中する。２～４区にかけて35点のミニチュア土器が出土している。このうち３区の竪穴建物２で８点、掘立柱建物12で３点、４区の竪穴建物５で８点出土した。建物廃絶に伴う祭祀であろうか。奈良時代の竪穴建物での出土が目立つ。

石器　３区の305土坑より旧石器時代の角錐状石器が出土した。鎌倉時代の50土坑では、砥石が４点確認されている。４区の竪穴建物３・４では古墳時代前期の砥石、磨石・敲石、台石、包含層より石鏃が複数出土している。

古代瓦　２区51～53道路の波板状凹凸面の補強材として充填されている。そのほか、平安時代の掘立柱建物17の２基の柱穴からも、柱を支える裏込め材として用いられている。171木製祭祀具集中部で瓦当面を下にした状態で軒丸瓦Ⅰ類CP７が出土している。

土製品　４区の竪穴建物５より山陰地方では２例目となる「環状把手」「中空体部」の土製支脚が出土した。同じ竪穴建物５や包含層などより移動式竈の破片が出土している。土馬の脚部を中心に２・４区で４点出土している。いずれも遺存状況は不良である。

木器　１～４区からは出土総数1584点（自然木を含む）、このうち76木製構造物で513点、171木製祭祀具集中部で319点となり両者で５割を占める。このうち、形状が特定できた木器を分類した。76木製構造物では、木製祭祀具は39点（斎串31、刀形２、刀子形１、馬形１、不明形代４）で祭祀具総数141点のうち28%、加工木は116点（板材74、横槌１、曲物２、角棒材10、丸杭２、杭の一部１、矢板１、建築部材２、不明部材７、付け木７、はつり材９）で加工木総数345点のうち約34%である。171木製祭祀具集中部では、木製祭祀具は66点（斎串55、人形１、武器形１、馬形４、不明形代４、ささら子状木製品１）で祭祀具総数141点のうち47%、加工木は78点（木簡状木製品１、曲物２、折敷３、角杭２、角棒材７、丸杭４、杭の一部２、矢板１、建築部材３、梯子１、不明部材４、不明木器１、板材34、付け木10、はつり材３）で加工木総数345点のうち23%である。斎串は板状で切込みの無いＡ類、両側に連続する切込みをもつＢ類、棒状のＣ類があり、本遺跡ではＢ類が多いことが特色である。馬形は鞍のあるＡ類と鞍の無いＢ類があり、若干の時期差を反映している可能性がある。楽器はささら子状木製品が１点出土した。

鍛冶関連遺物　２・３区を中心に鍛冶関連遺物が788点（総重量19.018kg）出土している。最も出土が集中するのは２区の51道路であり、波板状凹凸面内に礫や土器などとともに下部構造の補強材として利用されている。調査区内では鍛冶工房は確認されなかったが、２・３区に隣接した地形が高い北西側に存在している可能性がある。操業時期は出土した遺構の年代から、７世紀後半から10世紀頃であり、石塚廃寺の南門周辺で鍛冶工房が営まれていたと推測される。

報告書抄録

ふりがな	いしづかはいじひがしいせき・おおがもいせき
書名	石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡
副書名	一般国道313号（倉吉関金道路）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅲ
シリーズ名	鳥取県教育文化財団調査報告書
シリーズ番号	123
編著者名	小口英一郎・西川徹・八峠興・君嶋俊行
編集機関	公益財団法人鳥取県教育文化財団調査室
所在地	〒682－0704　鳥取県東伯郡湯梨浜町南谷528-1　電話（0858）35－5335
発行年月日	2023（令和５）年３月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
いしづかはいじひがしいせき 石塚廃寺東遺跡	とっとりけんくらよしし 鳥取県倉吉市 いしづか 石塚	31203	4－346	35° 23’ 52”	133° 46’ 53”	20200601 ～ 20201204	1,988㎡	一般国道313号（倉吉関金道路）の道路改良工事
おおがもいせき 大鴨遺跡	とっとりけんくらよしし 鳥取県倉吉市 いしづか　ふくやま 石塚・福山	31203	4－345	35° 23’ 45”	133° 46’ 49”	20200601 ～ 20201204 20210601 ～ 20211203	13,155.7㎡	一般国道313号（倉吉関金道路）の道路改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物、特記事項
石塚廃寺東遺跡	集落	縄文～弥生時代	流路	縄文土器、弥生土器、石器
		古代	流路、掘立柱建物、土坑	土師器、須恵器、墨書土器、赤彩土師器、瓦、木器、木製祭祀具
		中世	耕地段差、田、溝、掘立柱建物、土坑、擬似畦畔	土師器、瓦質土器、国産陶器、貿易陶磁器、五輪塔、鉄製品、鋳造関連遺物、漆器
大鴨遺跡	集落	縄文時代	落とし穴	石器
		弥生時代	土器集中部、ピット	弥生土器、石器
		古墳時代	竪穴建物、掘立柱建物	土師器、須恵器、管玉、石器
		古代	竪穴建物、掘立柱建物、道路、木製構造物、木製祭祀具集中部、流路	土師器、須恵器、緑釉陶器、刻書土器、黒色土器、赤彩土師器、製塩土器、ミニチュア土器、移動式竈、土製支脚、瓦、碇石、銭貨、金属製品、鍛冶関連遺物、木製祭祀具、建築部材、木器
		中世	掘立柱建物、火葬墓、田、足跡、溝	土師器、瓦質土器、国産陶器、貿易陶磁器、五輪塔、漆器

要約

・石塚廃寺東遺跡は小鴨川左岸の河岸段丘上に立地する集落遺跡であり、西隣には県史跡石塚廃寺塔跡が位置する。本調査では、天神野台地崖下沿いに流れる古代の流路、古代から中世の掘立柱建物や擬似畦畔、中世の溝などが検出され、古代寺院である石塚廃寺の東側景観が明らかとなった。

・大鴨遺跡は小鴨川左岸の河岸段丘上に立地する集落遺跡であり、北西に県史跡石塚廃寺塔跡が位置する。縄文時代の落とし穴、弥生時代中期のピット、古墳時代前期の竪穴建物、飛鳥時代から平安時代の竪穴建物、掘立柱建物、道路、水辺の祭祀場（木製祭祀具集中部・木製構造物）、鎌倉時代から室町時代の掘立柱建物、土坑、火葬墓、田、足跡群、耕作溝などを検出し、古墳時代から中世に至る集落の変遷、中世の耕作地の様相などが明らかとなった。特に流路際に位置する奈良時代の祭祀場には、多量の木製祭祀具や建築部材などが投棄されており、石塚廃寺と祭祀場を繋ぐ道路の存在から古代寺院における律令的祭祀が執り行われている状況が確認され注目される。

鳥取県教育文化財団調査報告書123
一般国道313号（倉吉関金道路）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ

鳥取県倉吉市

石塚廃寺東遺跡（いしづかはいじひがしいせき）
大鴨遺跡（おおがもいせき）

第２分冊【本文編２】

発　行　　2023年3月15日
編　集　　公益財団法人鳥取県教育文化財団　調査室
〒682-0704　鳥取県東伯郡湯梨浜町南谷528-1
電話（0858）35-5335
発行者　　公益財団法人鳥取県教育文化財団
印　刷　　有限会社　米子プリント社